

市政に関する世論調査
結果報告書

— 第54回 令和3年度 —

宇都宮市

目次

I	調査の概要	- 1 -
1.	調査の目的	- 1 -
2.	調査の項目	- 1 -
3.	調査の設計	- 3 -
4.	回収結果	- 4 -
5.	標本誤差	- 5 -
6.	調査報告書の見方	- 5 -
II	調査回答者の属性	- 7 -
III	調査結果のあらまし	- 11 -
1.	宇都宮市に対する感じ方について	- 11 -
2.	広報媒体の活用状況について	- 11 -
3.	健康づくりについて	- 12 -
4.	中心市街地の活性化について	- 12 -
5.	宇都宮市を拠点とするプロスポーツチームについて	- 12 -
6.	生物多様性について	- 13 -
7.	宇都宮市の景観について	- 13 -
8.	うつのみや産の農産物について	- 13 -
9.	男女共同参画について	- 14 -
10.	空き家及び防犯・交通安全に関する意識について	- 14 -
11.	アーバンスポーツへの関心について	- 15 -
12.	まちづくり活動への意識について	- 15 -
13.	選挙の環境向上に向けた取組について	- 15 -
14.	路線バスの利用状況等について	- 16 -
15.	住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について	- 16 -
16.	「大谷石文化」の日本遺産認定について	- 17 -
17.	食品ロスの削減について	- 17 -
18.	治水・雨水対策について	- 17 -
19.	いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について	- 18 -
20.	水災害（洪水など）への備えについて	- 18 -
21.	結婚・出産・子育てに関する意識について	- 18 -
22.	宇都宮市のみどりについて	- 19 -
23.	SDGs（エス・ディー・ジーズ）について	- 19 -
24.	自転車のまちづくりについて	- 19 -
25.	「もったいない運動」について	- 20 -
26.	敬老事業について	- 20 -
27.	GAP（農業生産工程管理）の認知度等について	- 20 -
28.	雨水貯留・浸透施設の補助金制度について	- 21 -

IV 第 54 回市政に関する世論調査の結果.....	- 23 -
1. 宇都宮市に対する感じ方について.....	- 23 -
2. 広報媒体の活用状況について.....	- 32 -
3. 健康づくりについて.....	- 72 -
4. 中心市街地の活性化について.....	- 78 -
5. 宇都宮市を拠点とするプロスポーツチームについて.....	- 86 -
6. 生物多様性について.....	- 92 -
7. 宇都宮市の景観について.....	- 98 -
8. うつのみや産の農産物について.....	- 110 -
9. 男女共同参画について.....	- 114 -
10. 空き家及び防犯・交通安全に関する意識について.....	- 130 -
11. アーバンスポーツへの関心について.....	- 140 -
12. まちづくり活動への意識について.....	- 149 -
13. 選挙の環境向上に向けた取組について.....	- 156 -
14. 路線バスの利用状況等について.....	- 168 -
15. 住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について.....	- 184 -
16. 「大谷石文化」の日本遺産認定について.....	- 190 -
17. 食品ロスの削減について.....	- 194 -
18. 治水・雨水対策について.....	- 202 -
19. いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について.....	- 211 -
20. 水災害（洪水など）への備えについて.....	- 219 -
21. 結婚・出産・子育てに関する意識について.....	- 226 -
22. 宇都宮市のみどりについて.....	- 234 -
23. SDGs（エス・ディー・ジーズ）について.....	- 246 -
24. 自転車のまちづくりについて.....	- 254 -
25. 「もったいない運動」について.....	- 260 -
26. 敬老事業について.....	- 268 -
27. GAP（農業生産工程管理）の認知度等について.....	- 275 -
28. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について.....	- 285 -
V 調査結果の考察.....	- 297 -
VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果.....	- 313 -
1. あなたのことについて.....	- 313 -
2. 現在の宇都宮市について.....	- 319 -
3. 各施策についての重要度.....	- 325 -
4. 各施策についての満足度.....	- 336 -

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民が市政についてどのように考え、また何を望んでいるのかを統計的に把握するとともに、施策の評価や市政への関心・意識の程度を調査し、市政運営上の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

調査項目は以下のとおりである。

調査事項	調査項目
回答者属性	性別、年齢、職業、家族構成、居住年数、居住地域、居住地区
宇都宮市に対する感じ方	宇都宮市の好き・嫌い、好きな理由、嫌いな理由
広報媒体の活用状況	市政情報の各広報媒体の視聴状況、「広報うつのみや」の入手方法、入手していない理由、「広報うつのみや」で読んでいる記事、「広報うつのみや」に関する感想、取り上げてほしい話題・情報、市のホームページを見るための主な手段、ホームページで知りたい情報はどこから探すか、ホームページで知りたい情報は探しやすいか、ホームページに関する感想、充実してほしい機能や情報、市政情報をどんな手段で知りたいか
健康づくり	健康面からの生活習慣、相談できるかかりつけの歯科医院、主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数
中心市街地の活性化	中心市街地に出かける頻度、中心市街地へ出かける目的、より訪れたいくなるための機能や施設
宇都宮市を拠点とするプロスポーツチーム	本市を拠点に活動するプロスポーツチームの認知度、プロスポーツチームに期待することは何か、プロスポーツの活躍や活動に対してどう感じているか
生物多様性	自然環境について関心があるか、「生物多様性」の認知度、外来種が及ぼす影響の認知度
宇都宮市の景観	宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか、「宇都宮らしい景観」とは何か、良好な都市景観の形成に必要なこと、動画や静止画を表示する看板（デジタルサイネージ）の印象、看板（デジタルサイネージ）に感じる点
うつのみや産の農産物	「うつのみや産」の農産物の購入意欲、宇都宮の農業を大切にしたいと思うか
男女共同参画	家事・育児・介護それぞれに費やした時間、社会的な活動の実施状況、配偶者からの暴力を受けた経験、LGBT（エルジービーティ）の認知度
空き家及び防犯・交通安全に関する意識	管理が不十分な空き家が増えていると感じるか、近所の空き家の活用方法、「宇都宮空き家会議」の認知度、安心して暮らすことができていると思うか、自転車保険の加入状況
アーバンスポーツへの関心	どのようなアーバンスポーツイベントがあれば観戦したいか、アーバン（都市型）スポーツの種目の認知度、興味や関心または既にやっているアーバン（都市型）スポーツの種目、アーバン（都市型）スポーツに関心がない理由
まちづくり活動への意識	まちづくり活動の参加状況、参加中または興味があるまちづくり活動の種類、まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由

選挙の環境向上に向けた取組	どの時間帯で投票所へ行くことが多いか、期日前投票所に行って投票をしたことがあるか、投票所の終了時刻を早めること、終了時刻を早めることに賛成する理由、終了時刻を早めることに反対する理由、選挙の環境向上に役に立つと思う取組
路線バスの利用状況等	路線バスをどの程度利用するか、路線バスを利用する際の主な外出目的、どの程度の間隔で運行されていれば利用しやすいか、利用料金の1か月あたりの程度、路線バスを利用するために重要なこと
住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況	「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況、住宅用火災警報器等の「点検」の有無、設置している住宅用火災警報器の経過年数
「大谷石文化」の日本遺産認定	「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度、「大谷石文化」を誇りに感じるか
食品ロスの削減	未使用、未開封の食品を、焼却ごみとして捨てたことの有無、捨てた理由、「食品ロス」を減らすために効果があると思うこと
治水・雨水対策	総合治水・雨水対策の認知度、総合治水・雨水対策をどこから知ったり聞いたか、総合治水・雨水対策の効果的な啓発方法、今後取り組んでいきたいと思っているもの
いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会	栃木県で国体が開催されることの認知度、とちぎ国体へボランティアとしての参加意向、ボランティア情報の入手方法、国体を盛り上げるために重要だと思うこと
水災害（洪水など）への備え	「ハザードマップ」の存在の認知度、住んでいる建物（住宅）は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外か、水災害への備えに取り組んでいるか
結婚・出産・子育てに関する意識	結婚しているか、結婚するつもりがあるか、結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいか、結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか
宇都宮市のみどり	みどりの量についての満足度、10年後のみどりの量の在り方、みどりの保全・普及啓発に関する取組の満足度、みどりと憩いの拠点づくりの推進の満足度
SDGs (エス・ディー・ジーズ)	SDGsについての認知度、SDGsについて知った手段、SDGsのゴールの中で、興味・関心のある分野
自転車のまちづくり	自転車の利用頻度、宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思うか、自転車走行空間（自転車レーンなど）の整備状況
「もったいない運動」	「もったいない運動」の認知度、「もったいない運動」を知った経緯、日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」
敬老事業	「長寿」にふさわしい年齢は何歳から、市からの敬老祝として望むもの、敬老祝金の贈呈制度のかわりに福祉サービスを充実する考え
GAP（農業生産工程管理）の認知度等	農産物について、その生産過程のどのような取組が重要か、GAPについての認知度及び情報入手機会、GAPの取組みを行って生産された農産物の購買意欲
雨水貯留・浸透施設の補助金制度	「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度、雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度、雨水貯留・浸透施設の設置効果についての認知度、雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うか、設置希望・既設置の理由、設置したくない理由

3. 調査の設計

- 調査地域 宇都宮市全域
- 調査対象者 満 18 歳以上 80 歳未満の日本国籍を有する市民 4,800 人
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送法（回収にあたってはインターネットを併用）
- 調査期間 令和 3 年 8 月 4 日～9 月 9 日

4. 回収結果

調査対象数	有効回答数	有効回答率
4,800	2,319	48.3%

<性別・年齢別の回収状況>

年代	性別	調査対象数	郵送		インターネット		合計	
			回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
10歳代	男性	47	5	10.6%	10	21.3%	15	31.9%
	女性	32	8	25.0%	9	28.1%	17	53.1%
	計	79	13	16.5%	19	24.1%	32	40.5%
20歳代	男性	276	30	10.9%	40	14.5%	70	25.4%
	女性	215	39	18.1%	35	16.3%	74	34.4%
	計	491	69	14.1%	75	15.3%	144	29.3%
30歳代	男性	397	63	15.9%	67	16.9%	130	32.7%
	女性	345	101	29.3%	73	21.2%	174	50.4%
	計	742	164	22.1%	140	18.9%	304	41.0%
40歳代	男性	486	93	19.1%	74	15.2%	167	34.4%
	女性	438	150	34.2%	81	18.5%	231	52.7%
	計	924	243	26.3%	155	16.8%	398	43.1%
50歳代	男性	457	110	24.1%	71	15.5%	181	39.6%
	女性	392	183	46.7%	45	11.5%	228	58.2%
	計	849	293	34.5%	116	13.7%	409	48.2%
60歳代	男性	385	158	41.0%	50	13.0%	208	54.0%
	女性	390	222	56.9%	19	4.9%	241	61.8%
	計	775	380	49.0%	69	8.9%	449	57.9%
70歳以上	男性	426	219	51.4%	19	4.5%	238	55.9%
	女性	514	317	61.7%	4	0.8%	321	62.5%
	計	940	536	57.0%	23	2.4%	559	59.5%
年代不明	男性	—	—	—	0	—	0	—
	女性	—	3	—	0	—	3	—
	不明	—	16	—	0	—	16	—
	計	—	19	—	0	—	19	—
その他	その他	—	2	—	3	—	5	—
全体	男性	2,474	678	27.4%	331	13.4%	1,009	40.8%
	女性	2,326	1,023	44.0%	266	11.4%	1,289	55.4%
	その他	—	2	—	3	—	5	—
	不明	—	16	—	0	—	16	—
合計		4,800	1,719	35.8%	600	12.5%	2,319	48.3%

5. 標本誤差

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになる。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となる。その精度は以下の式で表わされる標本誤差を算出することで把握できる。

通常のアンケートでは、信頼度として95%がとられるケースが多い。信頼度95%とは、100回に5回がその標本誤差の範囲におさまらないという意味である。

次の表は、本調査における信頼度95%の場合の標本早見表である。

回答の比率 (P) 回答数 (n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
2,319	±1.22%	±1.62%	±1.86%	±1.99%	±2.03%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.00%	±2.14%	±2.19%
1,600	±1.47%	±1.96%	±2.24%	±2.40%	±2.44%
1,200	±1.69%	±2.26%	±2.59%	±2.77%	±2.82%
800	±2.08%	±2.77%	±3.17%	±3.39%	±3.46%
400	±2.94%	±3.92%	±4.49%	±4.80%	±4.90%

<標本誤差の算出方法>

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b : 標本誤差

N : 母集団数 (宇都宮市の18歳以上80歳未満人口)

n : 比率算出の基礎 (回答者数)

P : 回答の比率 (%)

1.96 : 信頼度95%の場合 (信頼度99%の場合は2.58を使用)

<表の見方>

この表の見方としては、例えば、回答者数が2,319で宇都宮市が「好き」との答えが47.9%であった場合、「その回答比率の範囲は最高でも47.9%±1.97%以内(45.93%~49.87%)である」とみることができる。

6. 調査報告書の見方

- 集計値は、小数点第2位を四捨五入とする。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- 基数となるべき実数はnとして表示した。その比率は、件数を100.0%として算出した。
- n値が少ない属性は、記述に含まれない場合がある。
- 世論調査の結果のクロス集計結果については、年齢や家族構成等の属性によって、回答者数にばらつきがあることから、参考として記載する。

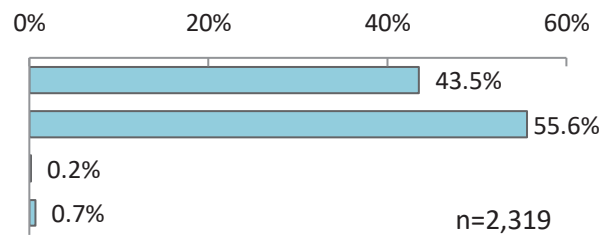
<MEMO>

II 調査回答者の属性

II 調査回答者の属性

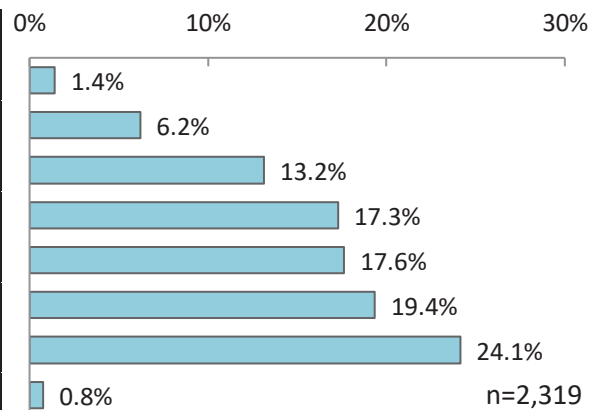
F 1 【性】 あなたの性別をお答えください。

	基 数	構 成 比
1 男	1,009	43.5%
2 女	1,289	55.6%
3 その他 (無回答)	5 16	0.2% 0.7%
合 計	2,319	100.0%



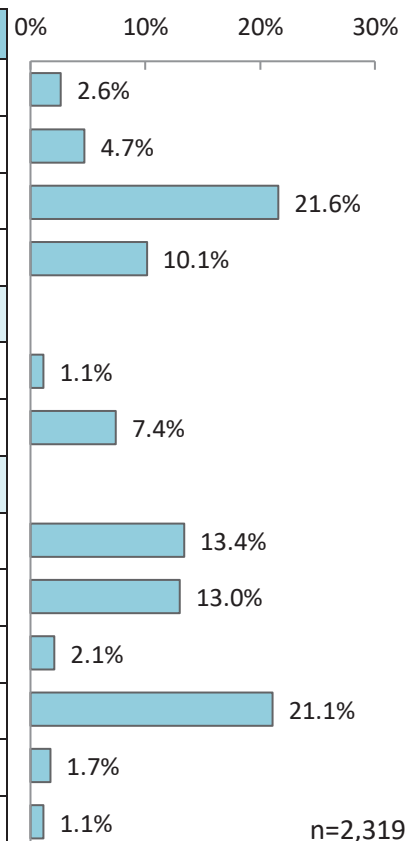
F 2 【年齢】 あなたの年齢はおいくつですか。

	基 数	構 成 比
1 10歳代	33	1.4%
2 20歳代	144	6.2%
3 30歳代	305	13.2%
4 40歳代	401	17.3%
5 50歳代	409	17.6%
6 60歳代	449	19.4%
7 70歳以上	560	24.1%
(無回答)	18	0.8%
合 計	2,319	100.0%

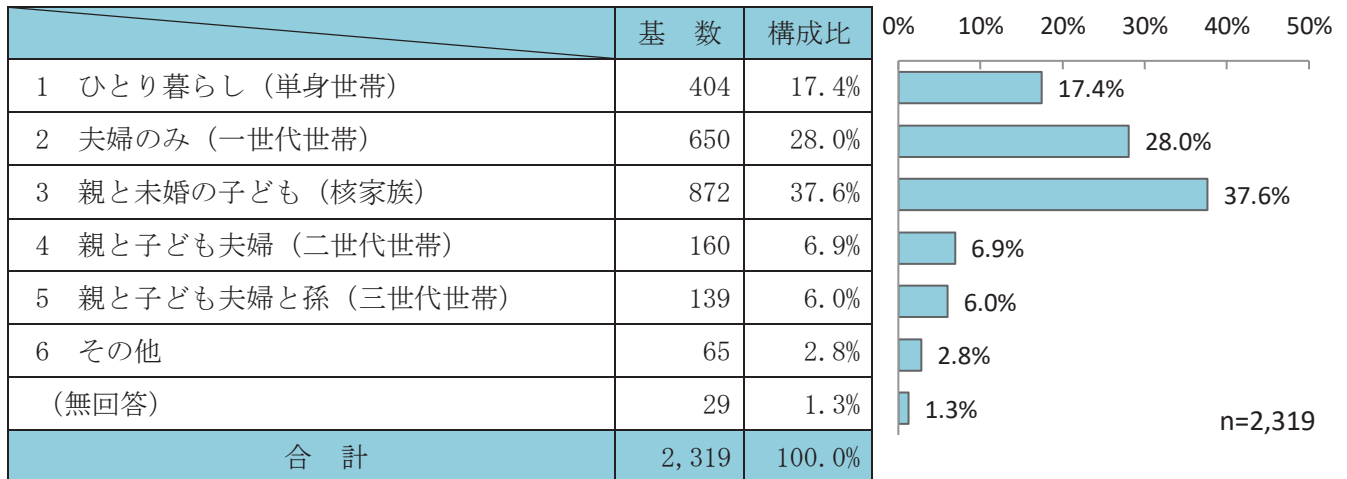


F 3 【職業】 あなたの職業は、次の分類ではどれになりますか。

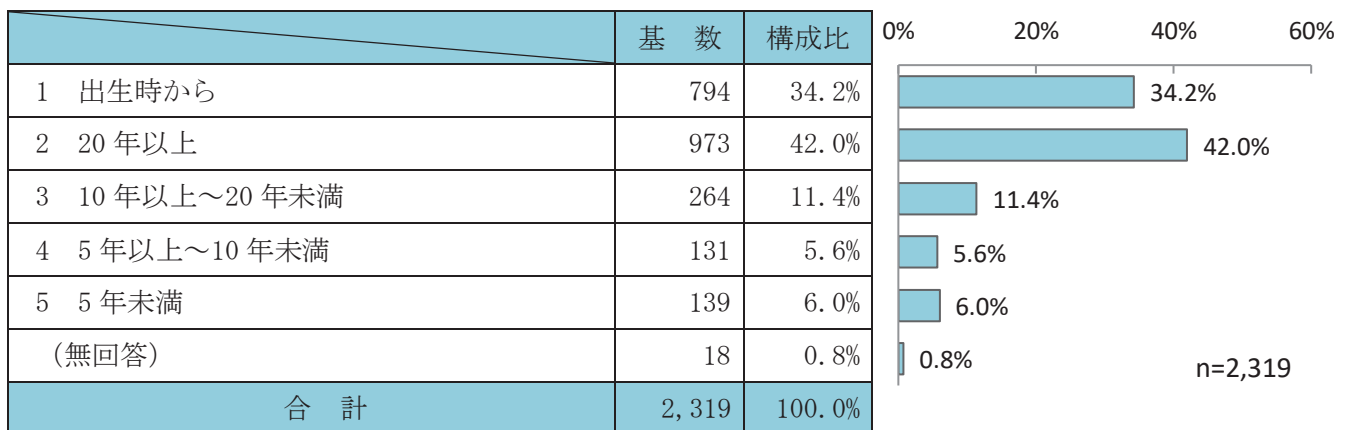
	基 数	構 成 比
1 専門職 (医師, 弁護士, 大学教授, 僧侶など)	61	2.6%
2 管理職 (官公庁や事業所の重役, 部課長など)	109	4.7%
3 事務・技術職 (一般事務員, 公務員, 技師, 保育士, 看護師など)	501	21.6%
4 販売・生産・労務職 (店員, 工員, 職人, 運転手, 作業員など)	235	10.1%
勤め人 (計)	906	39.1%
5 農林水産業従事者	26	1.1%
6 自営業・サービス業従事者	172	7.4%
自営業 (計)	198	8.5%
7 家事に専念している主婦, 主夫	310	13.4%
8 パート従事者	302	13.0%
9 学生	48	2.1%
10 無職	489	21.1%
11 その他	40	1.7%
(無回答)	26	1.1%
合 計	2,319	100.0%



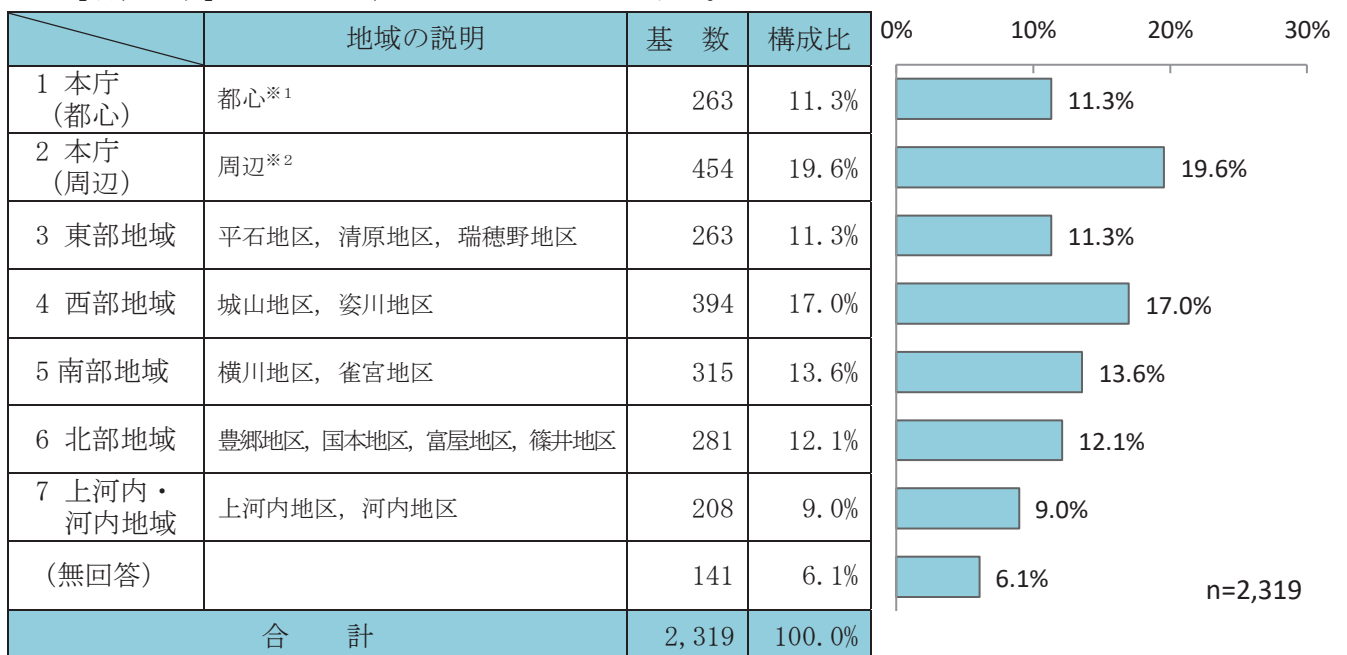
F 4 【家族構成】 あなたの家族構成はどれに該当しますか。



F 5 【居住年数】 あなたは、宇都宮市にお住まいになってどのくらいになりますか。



F 6 【居住地域】 あなたがお住まいの町はどちらですか。

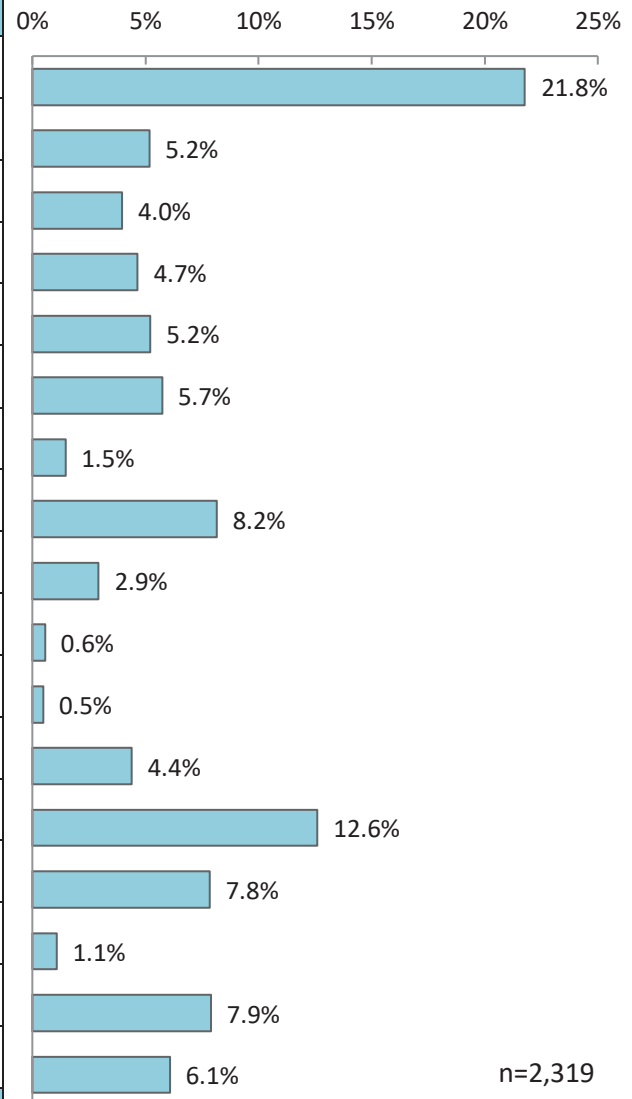


※1 本庁管内で、【東】国道4号バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りで囲まれた地域

※2 本庁管内で、【東】国道4号バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りより外側の地域

F 6 【居住地区】

	基 数	構 成 比
1 本庁	505	21.8%
2 宝木	120	5.2%
3 陽南	92	4.0%
4 平石	108	4.7%
5 清原	121	5.2%
6 横川	133	5.7%
7 瑞穂野	34	1.5%
8 豊郷	189	8.2%
9 国本	68	2.9%
10 富屋	13	0.6%
11 篠井	11	0.5%
12 城山	102	4.4%
13 姿川	292	12.6%
14 雀宮	182	7.8%
15 上河内	25	1.1%
16 河内	183	7.9%
(無回答)	141	6.1%
合 計	2,319	100.0%



<MEMO>

Ⅲ 調査結果のあらまし

III 調査結果のあらまし

第 54 回市政に関する世論調査の結果

1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は約 9 割であった。

(2) 好きな理由

宇都宮市の好きだと思うところについては、「自然災害の少なさ」が約 5 割で最も高く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」「自然環境の豊かさ」「慣れ親しんだところ」と続いている。

(3) 嫌いな理由

宇都宮市の嫌いだと思うところについては、「交通マナーの悪さ」が 4 割弱で最も高く、次いで「街に活気がないところ」「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」「交通渋滞の多さ」と続いている。

2. 広報媒体の活用状況について

(1) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

市政情報の各広報媒体の視聴状況については、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見る（聞く）ことがある（計）】は、「広報うつのみや」が約 8 割で最も高く、次いで「インターネット（宇都宮市ホームページ）」「暮らしの便利帳」と続いている。

(2) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が 6 割弱で最も高く、「手に入れていない」は 2 割半ばであった。

(3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

「広報うつのみや」を入手していない理由は、「特に必要でないため」が約 5 割であった。

(4) 「広報うつのみや」で読んでいる記事

「広報うつのみや」で主に読んでいる記事については、「市政情報」が 6 割半ばで最も高く、次いで「各施設の催し物」「特集」「情報カレンダー」「政策特集（広報うつのみやプラス）」「相談窓口」と続いている。

(5) 広報うつのみやに関する感想、取り上げてほしい話題・情報

生活、子育て、観光、災害対策等の話題に関する意見のほか、新型コロナウイルス感染症関連情報の充実を求める声が多かった。

(6) 市のホームページを見るための主な手段

市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」が約 4 割であった。

(7) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

ホームページで知りたい情報はどこから探すかは、「キーワード検索」が約 6 割であった。

(8) ホームページで知りたい情報は探しやすいか

ホームページで知りたい情報は探しやすいかについては、「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい(計)】が6割強であった。

(9) ホームページに関する感想、充実してほしい機能や情報

LRT、観光、スポーツ、医療、ハザードマップの充実や情報検索のしやすさを求める声が多かった。

(10) 市政情報をどんな手段で知りたいか

市政情報をどんな手段で知りたいかについては、「広報うつのみや」が5割半ばであった。

3. 健康づくりについて

(1) 健康面からの生活習慣

健康面からの生活習慣については、「良いと思う」と「まあ良いと思う」を合わせた【良いと思う(計)】が4割半ばであった。

(2) 相談できるかかりつけの歯科医院

相談できるかかりつけの歯科医院については、「ある」が7割半ばであった。

(3) 主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数

主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数については、「ほぼ毎日」が5割強であった。

4. 中心市街地の活性化について

(1) 中心市街地に出かける頻度

中心市街地に出かける頻度については、「年に数回程度」が3割半ばであった。

(2) 中心市街地へ出かける目的

中心市街地へ出かける目的については、「買い物」が6割半ばで最も高く、次いで「飲食」が2割半ばと続いている。

(3) より訪れたいようになるための機能や施設

より訪れたいようになるための機能や施設については、「商業(大規模商業施設、スーパー、ドラッグストアなど)」が5割弱で最も高く、次いで「文化・芸術(図書館、博物館、美術館、劇場、ホール、映画館など)」が4割半ばと続いている。

5. 宇都宮市を拠点とするプロスポーツチームについて

(1) 本市を拠点に活動するプロスポーツチームの認知度

本市を拠点に活動するプロスポーツチームの認知度については、「宇都宮ブレックス」が約9割であった。

(2) プロスポーツチームに期待することは何か

プロスポーツチームに期待することは何かについては、「チームの強化」が5割強で最も高く、次いで「スポーツ全般の普及」が3割半ばと続いている。

(3) プロスポーツの活躍や活動に対してどう感じているか

プロスポーツの活躍や活動に対してどう感じているかについては、「子どもたちに夢を与えてくれている」が約6割で最も高く、次いで「市民として誇りに感じる」が約4割と続いている。

6. 生物多様性について

(1) 自然環境について関心があるか

自然環境について関心があるかについては、「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた【関心がある（計）】が8割強であった。

(2) 「生物多様性」の認知度

「生物多様性」の認知度については、「言葉も意味も知っている」が約4割であった。

(3) 外来種が及ぼす影響の認知度

外来種が及ぼす影響の認知度については、「知っている」が8割半ばであった。

7. 宇都宮市の景観について

(1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについては、「非常に良くなった」と「どちらかということ良くなった」を合わせた【良くなった（計）】が約5割であった。一方、「変わらない」は4割弱であった。

(2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が4割強で最も高く、次いで「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」が3割弱と続いている。

(3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が約5割で最も高く、次いで「沿道や都心部の緑化の推進」が約3割、「周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制」が約2割と続いている。

(4) 動画や静止画を表示する看板（デジタルサイネージ）の印象

動画や静止画を表示する看板（デジタルサイネージ）の印象については、「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた【良い（計）】が約6割であった。

(5) 看板（デジタルサイネージ）に感じる点

看板（デジタルサイネージ）に感じる点については、「表示が切り替わることで情報量が多い」が3割弱で最も高く、次いで「次から次へと情報が流れてくる」、「夜間でも明るい」が2割強と続いている。

8. うつのみや産の農産物について

(1) 「うつのみや産」の農産物の購入意欲

「うつのみや産」の農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が8割半ばであった。

(2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

宇都宮の農業を大切にしたいと思うかについては、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が9割強であった。

9. 男女共同参画について

(1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

家事・育児・介護それぞれに費やした時間については、家事は、「7時間以上21時間未満」が約5割であった。育児は、「対象者なし」を除く「7時間以上21時間未満」が約1割であった。介護は、「対象者なし」を除く「0時間以上7時間未満」が1割弱に満たなかった。

(2) 社会的な活動の実施状況

社会的な活動の実施状況については、「特になし」が約6割で最も高く、次いで「自治会やまちづくりなどの地域活動」が2割弱、「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成」が約1割と続いている。

(3) 配偶者からの暴力を受けた経験

過去1年間に、配偶者から暴力を受けたことがあるかについて、「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」いずれも「まったくない」は8割弱であった。「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた【経験あり（計）】は、「心理的攻撃」が最も高かったが1割弱に満たなかった。

(4) LGBT（エルジービーティィー）の認知度

LGBT（エルジービーティィー）の認知度については、「言葉も内容も知っている」が7割弱で最も高く、次いで「言葉だけは聞いたことがある」が2割半ば、「まったく知らない」が1割弱に満たなかった。

10. 空き家及び防犯・交通安全に関する意識について

(1) 管理が不十分な空き家が増えていると感じるか

管理が不十分な空き家が増えていると感じるかについては、「変わらない」が約6割で、「増えている」が4割弱であった。

(2) 近所の空き家の活用方法

近所の空き家の活用方法については、「カフェなどの飲食店」が3割強、「住宅のままの利用」が約3割、「管理されていれば空き家のままで良い」、「子ども食堂などの子どもが集まる場所」が2割半ばであった。

(3) 「宇都宮空き家会議」の認知度

宇都宮空き家会議の認知度については、「知らない」が9割強であった。

(4) 安心して暮らすことができていると思うか

安心して暮らすことができていると思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約9割であった。

(5) 自転車保険の加入状況

自転車保険の加入状況については、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が約5割であった。

1 1. アーバンスポーツへの関心について

(1) どのようなアーバンスポーツイベントがあれば観戦したいか

アーバンスポーツへの関心については、「プロ選手などによる競技大会」が4割強であった。

(2) アーバン（都市型）スポーツの種目の認知度

アーバン（都市型）スポーツの種目の認知度については、「スケートボード（ストリート、パーク）」が約8割で最も高く、次いで「スポーツクライミング」が約7割で続いている。

(3) 興味や関心または既にやっているアーバン（都市型）スポーツの種目

興味や関心または既にやっているアーバン（都市型）スポーツの種目については、「あまり関心がない」が5割強で最も高く、次いで「スケートボード（ストリート、パーク）」が約2割で続いている。

(4) アーバン（都市型）スポーツに関心がない理由

アーバン（都市型）スポーツに関心がない理由については、「アーバンスポーツをよく知らない」が5割強で最も高く、次いで「身近で活動や観戦できる場所がない」が2割半ばと続いている。

1 2. まちづくり活動への意識について

(1) まちづくり活動の参加状況

「まちづくり活動」の参加状況については、「現在、参加している」が約3割、「今は参加していないが、今後ぜひ参加したい」と「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」を合わせた【参加したい（計）】が3割強であった。

(2) 参加中または興味があるまちづくり活動の種類

参加中または興味があるまちづくり活動については、「地域の環境や自然等を守るための活動」が3割弱で最も高く、次いで「地域の安全・安心を守るための活動」が2割半ばで続いている。

(3) まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由

まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由については、「参加するチャンス・きっかけがない」が2割半ばであった。

1 3. 選挙の環境向上に向けた取組について

(1) どの時間帯で投票所へ行くことが多いか

どの時間帯で投票所へ行くことが多いかについては、「午前7時から正午」が4割半ばで最も高く、次いで「正午から午後7時」が約3割と続いている。

(2) 期日前投票所に行って投票をしたことがあるか

期日前投票所に行って投票をしたことがあるかについては、「行ったことがある」が5割強であった。

(3) 投票所の終了時刻を早めること

投票所の終了時刻を早めることについては、「賛成（終了時刻を早めた方がよい）」が5割半ばであった。

(4) 終了時刻を早めることに賛成する理由

終了時刻を早めることに賛成する理由については、「期日前投票制度があるので、投票機会への影響は少ない」が5割半ばで最も高く、次いで「投票立会人などの拘束時間が軽減できる」が5割強と続いている。

(5) 終了時刻を早めることに反対する理由

終了時刻を早めることに反対する理由については、「現行のままで特に問題がない」、「投票の機会を制限することになる」が4割強、次いで「投票率の低下が懸念される」が3割強と続いている。

(6) 選挙の環境向上に役に立つと思う取組

選挙の環境向上に役に立つと思う取組については、「期日前投票の機会の拡充（期日前投票所の増設や期間・時間の延長など）」が5割半ばで最も高く、次いで「若年層への選挙啓発や教育等の取組の強化（小中学校での出前講座を定期的実施・学校での教育の充実など）」が4割弱と続いている。

14. 路線バスの利用状況等について

(1) 路線バスをどの程度利用するか

路線バスをどの程度利用するかについては、「月1日未満」が約2割であった。一方「まったく利用していない」が7割弱であった。

(2) 路線バスを利用する際の主な外出目的

路線バスを利用する際の主な外出目的については、「趣味・娯楽・交際」が3割強で最も高く、次いで「買い物」が約2割、「通勤・通学」が1割半ばと続いている。

(3) どの程度の間隔で運行されていれば利用しやすいか

どの程度の間隔で運行されていれば利用しやすいかについて、「15分間隔で運行」が3割強で最も高く、次いで「30分間隔で運行」が約3割、「わからない」が1割半ばと続いている。

(4) 利用料金の1か月あたりの程度

利用料金の1か月あたりの程度については、「わからない」が約4割で最も高く、次いで「1か月3,000円程度」が3割強、「1か月5,000円程度」が1割強であった。

(5) 路線バスを利用するために重要なこと

路線バスを利用するために重要なことについては、「外出したい時間（目的地に着きたい時間）に合うちょうど良いバスがあること」が4割弱で最も高く、次いで「バスの便数を増やすこと」が3割弱と続いている。

15. 住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について

(1) 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況

「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況については、「住宅用火災警報器を設置している」が6割半ばで最も高く、次いで「どちらも設置していない」が3割弱、「自動火災報知設備を設置している」が1割弱であった。

(2) 住宅用火災警報器等の「点検」の有無

住宅用火災警報器等の「点検」の有無については、「今まで点検を行ったことがない」が4割半ばで最も高く、次いで「点検方法を知らない」が2割半ば、「定期的（半年に一度程度）に点検を行っている」が約2割であった。

(3) 設置している住宅用火災警報器の経過年数

設置している住宅用火災警報器の経過年数については、「不明」が約3割で最も高く、次いで「10年経過した」が2割半ば、「10年経過していない（設置から未経過）」が2割強と続いている。

16. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

(1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度

「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度については、「知らない」が5割半ばであった。一方「知っている」が4割半ばであった。

(2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる（計）】が6割半ばであった。

17. 食品ロスの削減について

(1) 未使用、未開封の食品を、焼却ごみとして捨てたことの有無

未使用、未開封の食品を、焼却ごみとして捨てたことの有無については、「ほとんど捨てない」が4割弱で最も高く、次いで「6か月～1年に1回程度」が2割半ば、「月1回程度」が約2割と続いている。

(2) 捨てた理由

捨てた理由については、「消費期限が切れてしまった」が7割弱で最も高く、次いで「食品が傷んでしまった」、「賞味期限が切れてしまった」が4割強と続いている。

(3) 「食品ロス」を減らすために効果があると思うこと

「食品ロス」を減らすために効果があると思うことについては、「冷凍保存を活用する」が5割半ばで最も高く、次いで「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」が4割強と続いている。

18. 治水・雨水対策について

(1) 総合治水・雨水対策の認知度

総合治水・雨水対策の認知度については、「初めて聞いた」が5割強であった。

(2) 総合治水・雨水対策をどこから知ったり聞いたりしたか

総合治水・雨水対策をどこから知ったり聞いたりしたかについては、「市のホームページや広報紙」が約7割で最も高く、次いで「新聞」が2割弱、「テレビ」、「その他」が1割弱であった。

(3) 総合治水・雨水対策の効果的な啓発方法

総合治水・雨水対策の効果的な啓発方法について、「TV・ラジオ・新聞によるPR」が約3割で最も高く、次いで「市のホームページや広報紙によるPR」が2割強、「自治会や自主防災会等を通じたPR」が約2割と続いている。

(4) 今後取り組んでいきたいと思っているもの

今後取り組んでいきたいと思っているものについては、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」が5割半ばで最も高く、次いで「非常持ち出し品の準備」が約5割、「近所の側溝の清掃」が2割弱であった。

19. いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について

(1) 栃木県で国体が開催されることの認知度

栃木県で国体が開催されることの認知度については、「知っている」が8割強であった。

(2) とちぎ国体へボランティアとしての参加意向

とちぎ国体へボランティアとしての参加意向については、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う(計)】が2割強であった。

(3) ボランティア情報の入手方法

ボランティア情報の入手方法について、「広報紙」が3割半ばで最も高く、次いで「インターネット・SNS」が約3割、「新聞,広告」が約2割と続いている。

(4) 国体を盛り上げるために重要だと思うこと

国体を盛り上げるために重要だと思うことについては、「観光情報を発信する市の魅力紹介」が約5割で最も高く、次いで「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」が4割強、「会場周辺をきれいにする環境美化活動」が3割半ばであった。

20. 水災害（洪水など）への備えについて

(1) 「ハザードマップ」の存在の認知度

「ハザードマップ」の存在の認知度については、「知っているが、内容を確認したことはない」が約5割で最も高く、次いで「知っており、内容を確認している」が約4割、「ハザードマップの存在を知らない」が約1割であった。

(2) 住んでいる建物（住宅）は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外か

住んでいる建物（住宅）は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外かについては、「洪水浸水想定区域外に立地している」が5割半ばで最も高く、次いで「わからない」が4割弱、「洪水浸水想定区域内に立地している」が1割弱に満たなかった。

(3) 水災害への備えに取り組んでいるか

水災害への備えに取り組んでいるかについて、「災害時の避難場所の確認」が5割弱で最も高く、次いで「特に取り組んでいない」が4割強、「備蓄品・非常用持出品の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）」が4割弱と続いている。

21. 結婚・出産・子育てに関する意識について

(1) 結婚しているか

結婚しているかについては、「結婚している」が6割半ば、「結婚していない」が約2割、「結婚したことがあるが現在はしていない（離死別含む）」が1割半ばであった。

(2) 結婚するつもりがあるか

結婚するつもりがあるかについては、「いずれ結婚するつもり」が約3割であったのに対し、「結婚するつもりはない」が6割強であった。

(3) 結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいか

結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいかについては、「2人」が5割半ばであった。

(4) 結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか

結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいかについては、「2人」が約5割であった。

2.2. 宇都宮市のみどりについて

(1) みどりの量についての満足度

みどりの量についての満足度については、「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している（計）】が「市内全体」では、約6割であった。「自宅、職場、学校などの身近なみどり」では、7割弱であった。

(2) 10年後のみどりの量の在り方

10年後のみどりの量の在り方については、「市内全体」は、「現状より多いほうがよい」が5割強であった。「自宅、職場、学校などの身近なみどり」は、「現状維持でよい」が6割弱であった。

(3) みどりの保全・普及啓発に関する取組の満足度

みどりの保全・普及啓発に関する取組の満足度について、「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している（計）】が4割弱であった。

(4) みどりと憩いの拠点づくりの推進の満足度

みどりと憩いの拠点づくりの推進の満足度については、「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している（計）】が5割弱であった。

2.3. SDGs（エス・ディー・ジーズ）について

(1) SDGsについての認知度

SDGsについての認知度については、「SDGsについてまったく知らない(今回の調査で初めて認識)」が3割強で最も高く、次いで「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が2割半ば、「SDGsという言葉を見た(聞いた)ことがあるが、内容は知らない」が2割弱と続いている。

(2) SDGsについて知った手段

SDGsについて知った手段については、「テレビ」が約4割で最も高く、次いで「今回の調査で初めて知った」が3割弱と続いている。

(3) SDGsのゴールの中で、興味・関心のある分野

SDGsのゴールの中で、興味・関心のある分野について、「すべての人に健康と福祉を」が4割強で最も高く、次いで「住み続けられるまちづくりを」が約4割と続いている。

2.4. 自転車のまちづくりについて

(1) 自転車の利用頻度

自転車の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が約7割であった。

(2) 宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思うか

宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思うかについては、「あまりそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた【そう思わない（計）】が6割強であった。

(3) 自転車走行空間（自転車レーンなど）の整備状況

自転車走行空間（自転車レーンなど）の整備状況については、「あまりそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた【そう思わない（計）】が7割弱であった。

25. 「もったいない運動」について

(1) 「もったいない運動」の認知度

「もったいない運動」の認知度については、「知らない」が5割半ばであった。

(2) 「もったいない運動」を知った経緯

「もったいない運動」を知った経緯については、「今回の調査で初めて知った」が約5割で最も高く、次いで「広報紙」が約2割と続いている。

(3) 日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」

日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等）」が7割弱で最も高く、次いで「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す、冷暖房の温度設定、省エネ家電の使用等）」が6割弱と続いている。

26. 敬老事業について

(1) 「長寿」にふさわしい年齢は何歳から

「長寿」にふさわしい年齢は何歳からについては、「80歳以上」が3割半ばで最も高く、次いで「90歳以上」が2割半ばと続いている。

(2) 市からの敬老祝として望むもの

市からの敬老祝として望むものについては、「金券（商店で使用できる商品券など）」が3割半ばで最も高く、次いで「現金」が3割弱と続いている。

(3) 敬老祝金の贈呈制度のかわりに福祉サービスを充実する考え

敬老祝金の贈呈制度のかわりに福祉サービスを充実する考えについては、「賛同できる」と「どちらかといえば、賛同できる」を合わせた【賛同できる（計）】が7割半ばであった。

27. GAP（農業生産工程管理）の認知度等について

(1) 農産物について、その生産過程のどのような取組が重要か

農産物について、その生産過程のどのような取組が重要かについては、「残留農薬や異物混入等の食品安全の確保に関する取組」が約8割で最も高く、次いで「減農薬や適切な廃棄物処理等の環境保全に関する取組」が5割強と続いている。

(2) GAPについての認知度及び情報入手機会

GAPについての認知度については、「ウ GAPを知らない」が約6割で最も高く、次いで「イ 名前は知っているが、内容までは知らない」が約2割と続いている。

GAPについての情報入手機会については、「新聞やテレビ、インターネット等のマスメディア」が2割半ばで最も高く、次いで「店頭表示や農産物の包装」が1割弱と続いている。

(3) GAPの取組みを行って生産された農産物の購買意欲

GAPの取組みを行って生産された農産物の購買意欲については、「同程度の価格なら購入したい」が約7割半ばで最も高く、次いで「割高になっても購入したい」が1割半ばと続いている。

28. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

(1) 「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度

「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度については、「知っている」が約4割で最も高く、次いで「まったく知らない」、「名前は聞いたことがある」が約3割であった。

(2) 雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度

雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度については、「知らない」が6割半ばであった。

(3) 雨水貯留・浸透施設の設置効果についての認知度

雨水貯留・浸透施設の設置効果についての認知度については、「知らない」が約6割であった。

(4) 雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うか

雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うかについては、「わからない」が5割強で最も高く、次いで「設置したい」が2割強、「設置したくない」が2割弱であった。

(5) 設置希望・既設置の理由

設置希望・既設置の理由については、「水の節約になるため」が約6割で最も高く、次いで「雨水を庭木の水やりに利用するため」が5割強と続いている。

(6) 設置したくない理由

設置したくない理由については、「敷地に設置できる場所がないため」が5割半ばで最も高く、次いで「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」が約4割と続いている。

<MEMO>

IV 第 54 回市政に関する世論調査の結果

IV 第54回市政に関する世論調査の結果

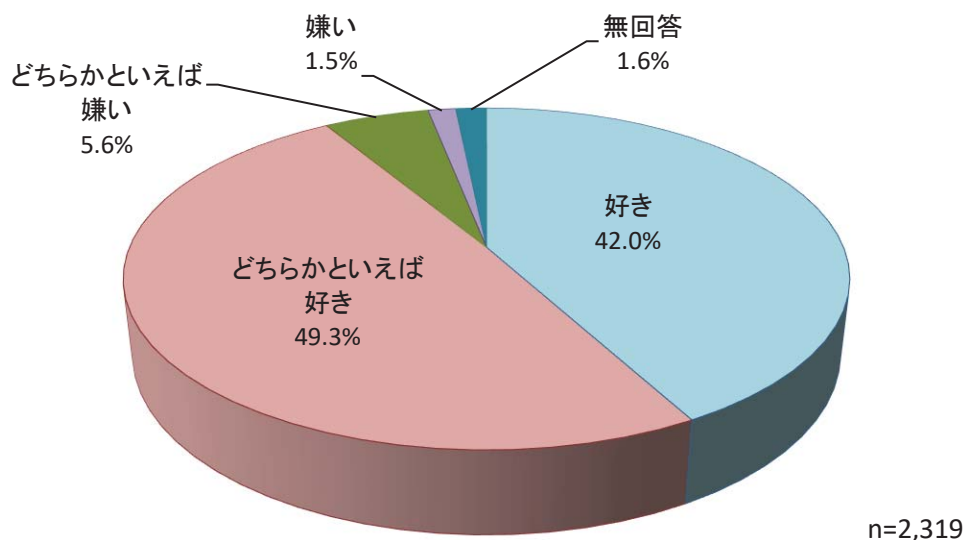
1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

◇「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】が約9割

問1	宇都宮市を好きですか、それとも嫌いですか。	(○は1つ)
		n=2,319
1	好き	42.0%
2	どちらかといえば好き	49.3%
3	どちらかといえば嫌い	5.6%
4	嫌い	1.5%
	(無回答)	1.6%

<図IV-1-1>全体



宇都宮市を好きか、嫌いか聞いたところ、「好き」が42.0%、「どちらかといえば好き」が49.3%で、これらを合わせた【好き（計）】が91.3%であった。一方、「どちらかといえば嫌い」5.6%、「嫌い」1.5%で、これらを合わせた【嫌い（計）】は7.1%と1割弱であった。(図IV-1-1)

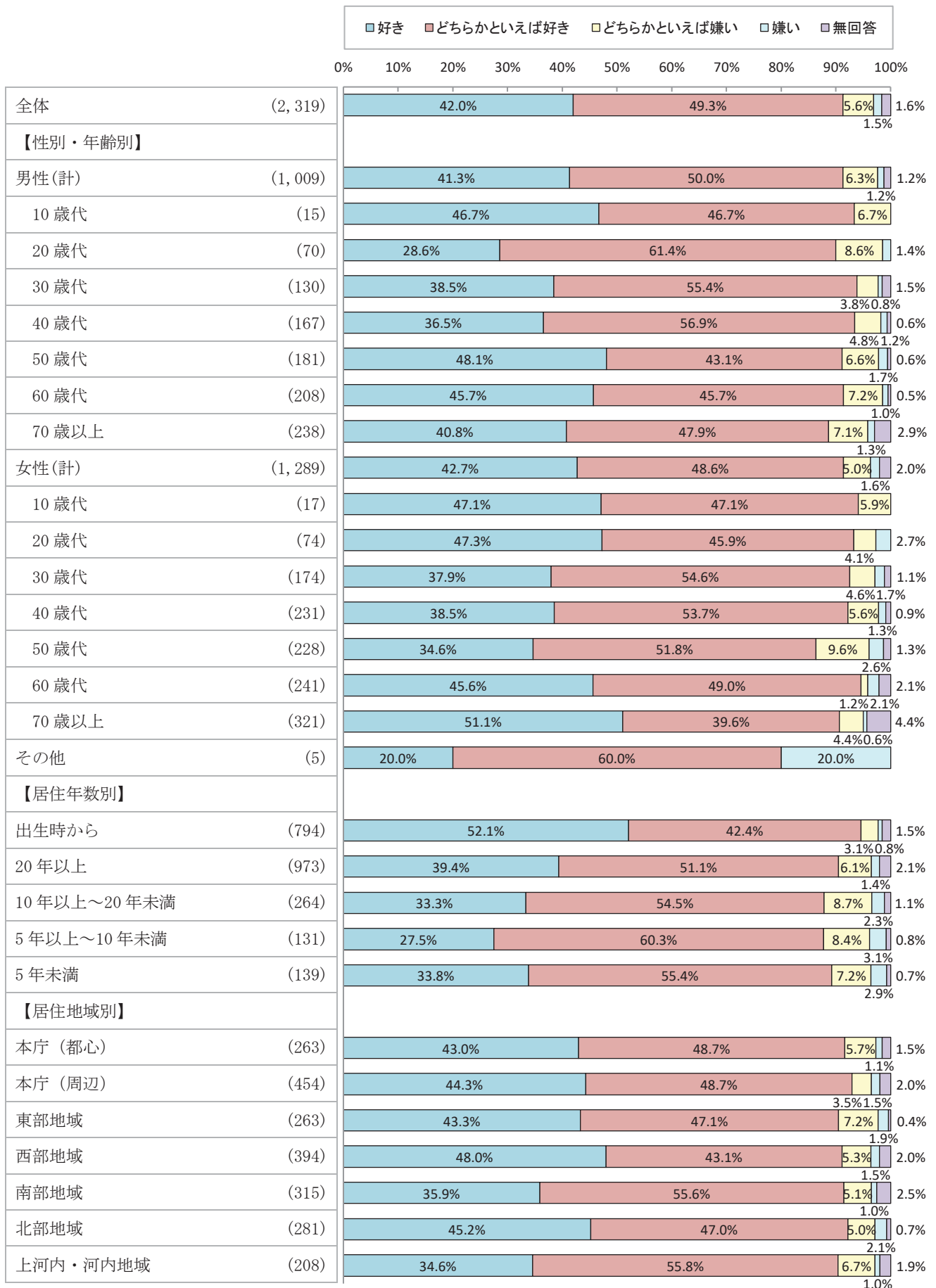
<参考>

性別・年齢別で見ると、【好き（計）】は<女性/60歳代>が94.6%で最も高く、次いで<女性/10歳代>が94.2%であった。【好き（計）】は、性別・年齢別に関係なく8割以上であった。一方、【嫌い（計）】は<その他>が20.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が12.2%であった。(図IV-1-2)

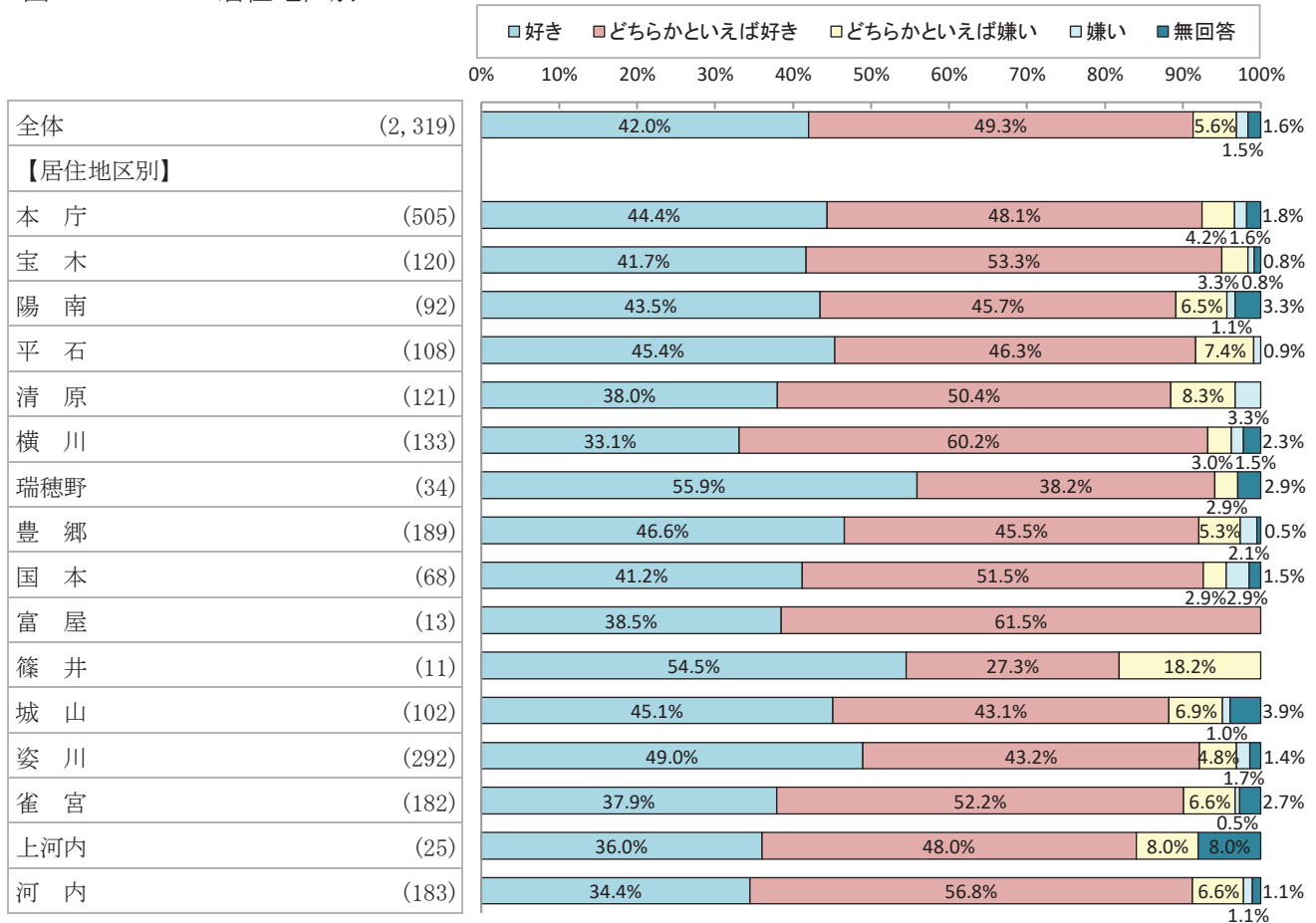
居住年数別で見ると、【好き（計）】は<出生時から>が94.5%で最も高く、次いで<20年以上>が90.5%であった。一方、【嫌い（計）】は<5年以上～10年未満>が11.5%で最も高く、次いで<10年以上～20年未満>が11.0%であった。(図IV-1-2)

居住地域別で見ると、【好き（計）】は<本庁(周辺)>が93.0%で最も高く、次いで<北部地域>が92.2%であった。一方、【嫌い（計）】は<東部地域>が9.1%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が7.7%であった。(図IV-1-2)

<図IV-1-2>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別



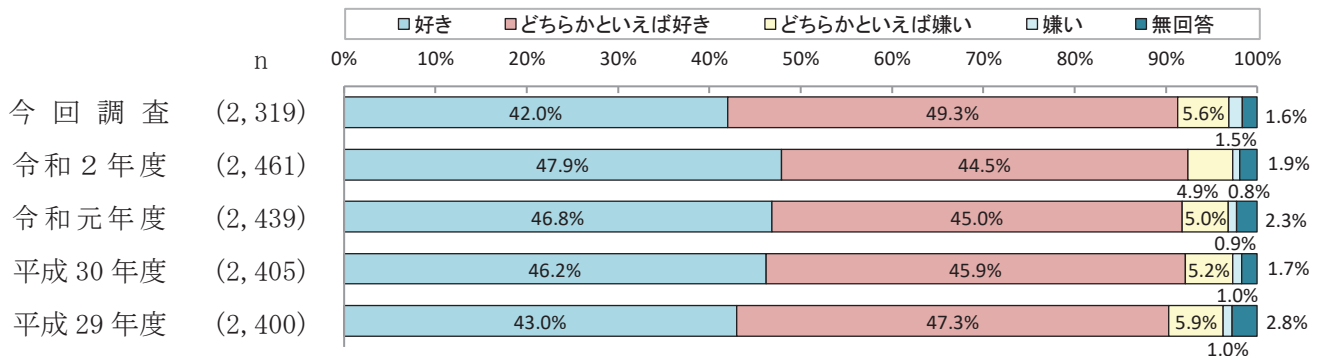
<図IV-1-3>居住地区別



【経年比較】

選択項目	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	無回答
令和3年度	42.0%	49.3%	5.6%	1.5%	1.6%
令和2年度	47.9%	44.5%	4.9%	0.8%	1.9%
令和元年度	46.8%	45.0%	5.0%	0.9%	2.3%
平成30年度	46.2%	45.9%	5.2%	1.0%	1.7%
平成29年度	43.0%	47.3%	5.9%	1.0%	2.8%

<図IV-1-4>経年比較



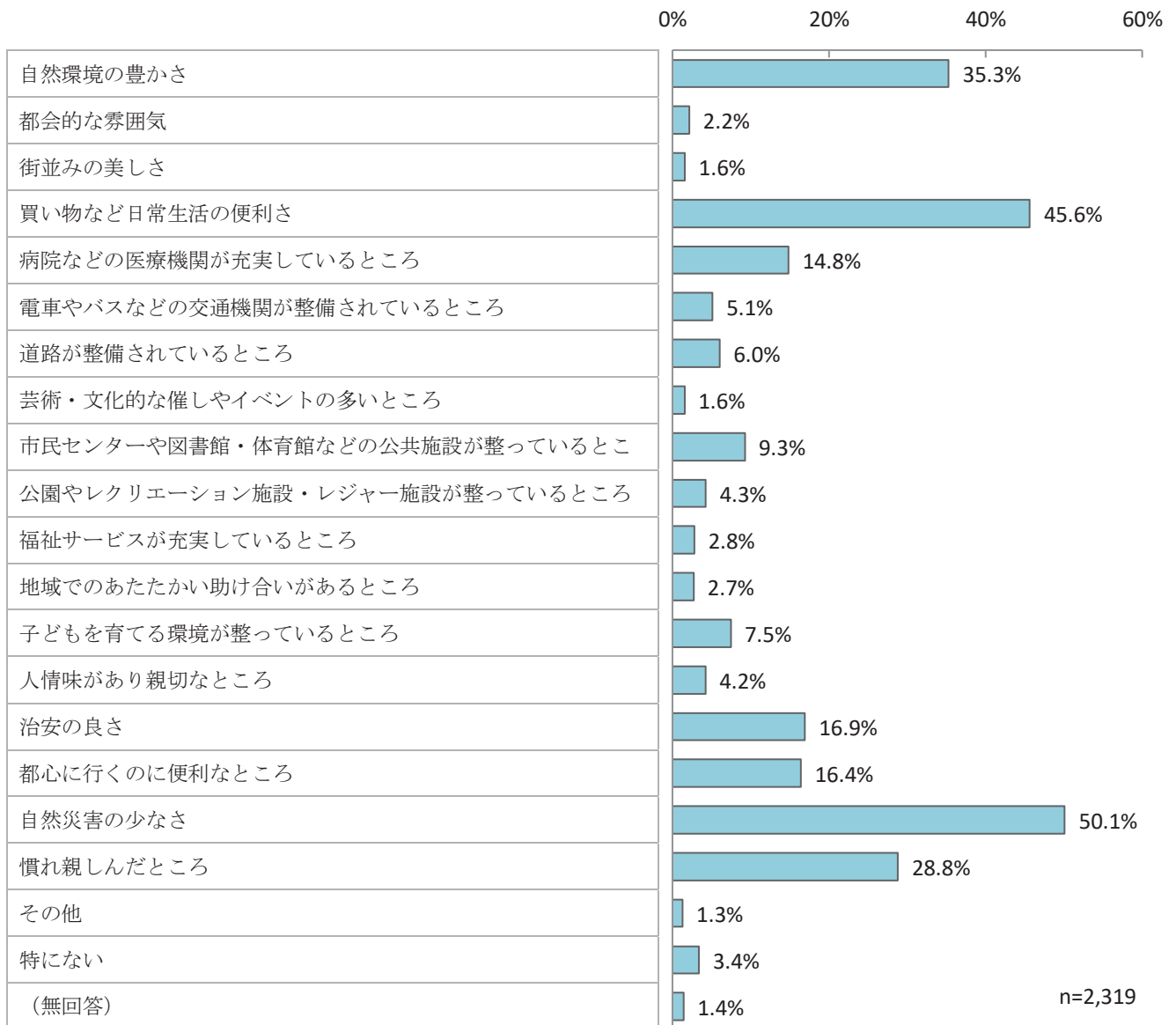
【好き(計)】及び【嫌い(計)】については、過去4年間と比較しても、特に大きな違いは見られない。

(2) 好きな理由

◇ 「自然災害の少なさ」が約5割

問2 宇都宮市の好きだと思うところをあげてください。		(〇は3つまで)
		n=2,319
1	自然環境の豊かさ	35.3%
2	都会的な雰囲気	2.2%
3	街並みの美しさ	1.6%
4	買い物など日常生活の便利さ	45.6%
5	病院などの医療機関が充実しているところ	14.8%
6	電車やバスなどの交通機関が整備されているところ	5.1%
7	道路が整備されているところ	6.0%
8	芸術・文化的な催しやイベントの多いところ	1.6%
9	市民センターや図書館・体育館などの公共施設が整っているところ	9.3%
10	公園やレクリエーション施設・レジャー施設が整っているところ	4.3%
11	福祉サービスが充実しているところ	2.8%
12	地域でのあたたかい助け合いがあるところ	2.7%
13	子どもを育てる環境が整っているところ	7.5%
14	人情味があり親切なところ	4.2%
15	治安の良さ	16.9%
16	都心に行くのに便利なところ	16.4%
17	自然災害の少なさ	50.1%
18	慣れ親しんだところ	28.8%
19	その他	1.3%
20	特になし	3.4%
	(無回答)	1.4%

<図Ⅳ－1－5>全体



宇都宮市で好きだと思うところについて、1位が「自然災害の少なさ」で50.1%、2位「買い物など日常生活の便利さ」で45.6%、3位「自然環境の豊かさ」で35.3%、4位「慣れ親しんだところ」で28.8%、5位「治安の良さ」で16.9%、6位「都心に行くのに便利なおところ」で16.4%という順であった。(図Ⅳ－1－5)

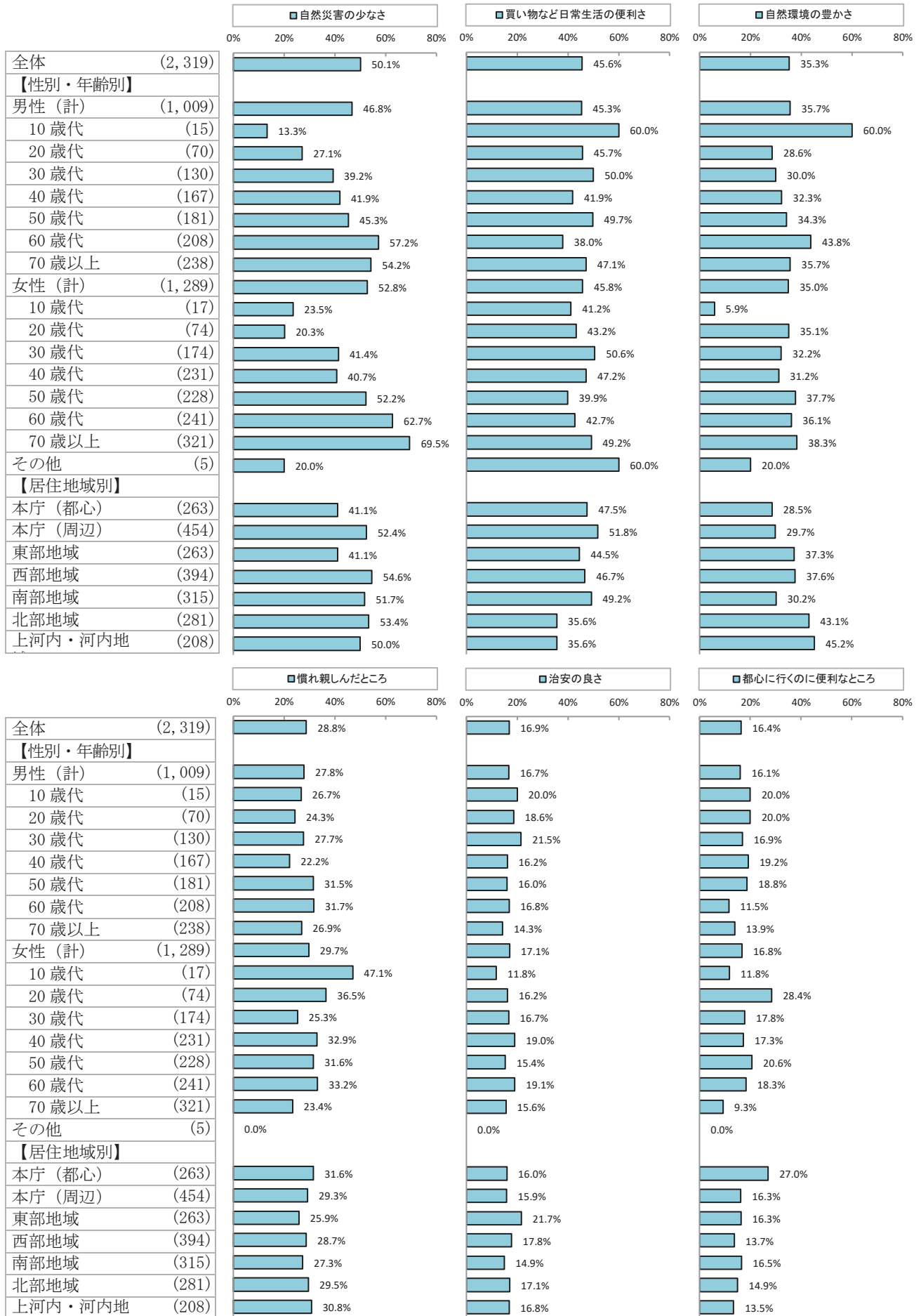
<参考>

上位6項目について性別・年齢別でみると、「自然災害の少なさ」は<女性/70歳以上>が69.5%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が62.7%であった。「買い物など日常生活の便利さ」は<男性/10歳代>、<その他>が60.0%でいずれも最も高かった。「自然環境の豊かさ」は<男性/10歳代>が60.0%で最も高く、「慣れ親しんだところ」は<女性/10歳代>が47.1%、「治安の良さ」は<男性/30歳代>が21.5%、「都心に行くのに便利なおところ」は<女性/20歳代>が28.4%で最も高かった。(図Ⅳ－1－6)

居住地域別でみると、「自然災害の少なさ」は、各地域で約4割から5割半ばとなっているが、<西部地域>が54.6%で最も高く、「買い物など日常生活の便利さ」は<本庁(周辺)>が51.8%、「自然環境の豊かさ」は<上河内・河内地域>が45.2%、「慣れ親しんだところ」は<本庁(都心)>が31.6%、「治安の良さ」は<東部地域>が21.7%、「都心に行くのに便利なおところ」は<本庁(都心)>が27.0%で最も高かった。(図Ⅳ－1－6)

その他の意見では、「地震に強い地盤」、「道路整備」、「LRTの整備」、「区画整理など、生活環境の面で目覚ましい発展が期待できる。」などがあつた。

<図IV-1-6>性別・年齢別／居住地域別（上位6項目）

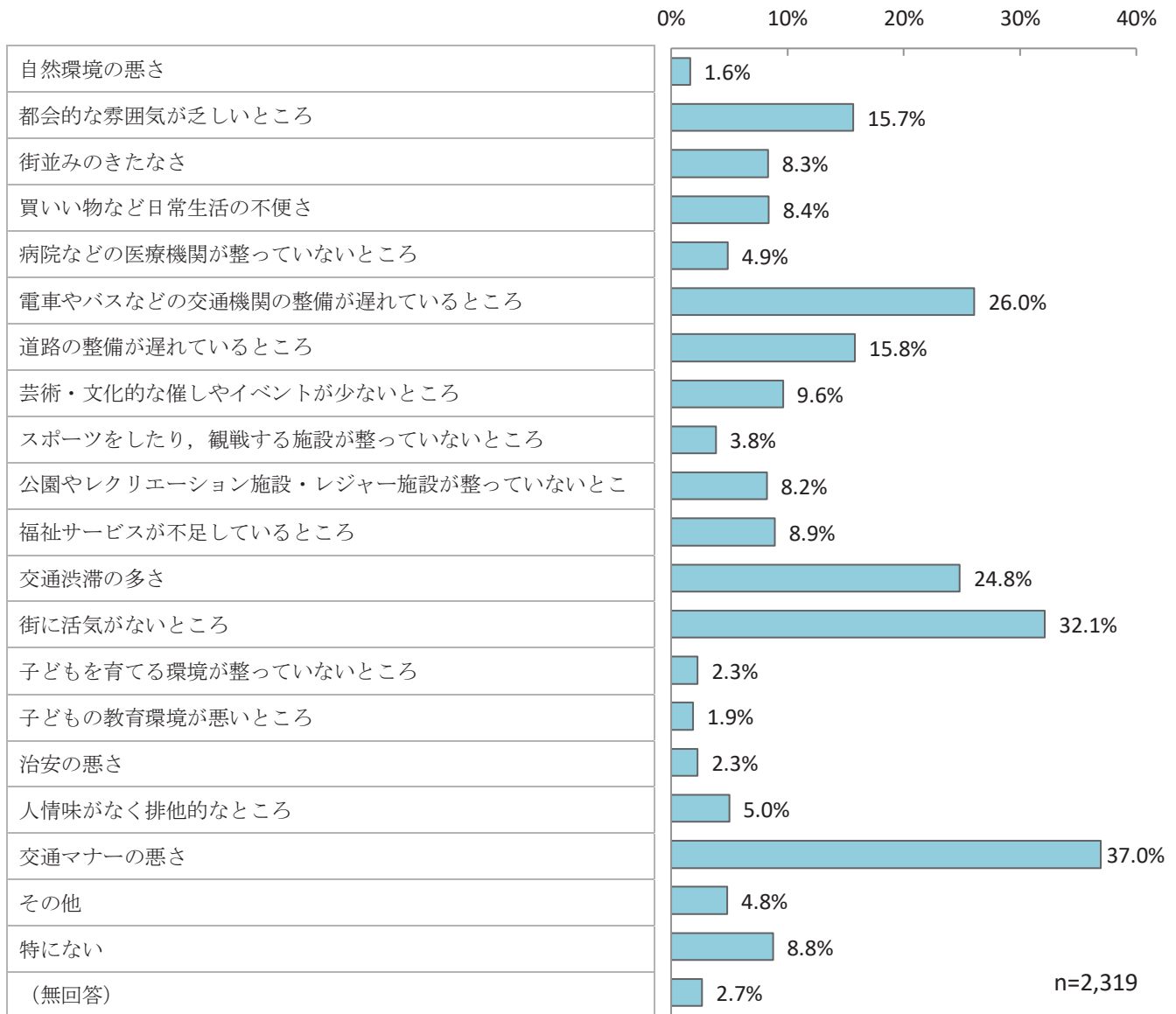


(3) 嫌いな理由

◇ 「交通マナーの悪さ」が4割弱

問3	宇都宮市の嫌いだと思うところをあげてください	(○は3つまで)
		n=2,319
1	自然環境の悪さ	1.6%
2	都会的な雰囲気が乏しいところ	15.7%
3	街並みのきたなさ	8.3%
4	買い物など日常生活の不便さ	8.4%
5	病院などの医療機関が整っていないところ	4.9%
6	電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ	26.0%
7	道路の整備が遅れているところ	15.8%
8	芸術的・文化的な催しやイベントが少ないところ	9.6%
9	スポーツをしたり、観戦する施設が整っていないところ	3.8%
10	公園やレクリエーション施設、レジャー施設が整っていないところ	8.2%
11	福祉サービスが不足しているところ	8.9%
12	交通渋滞の多さ	24.8%
13	街に活気がないところ	32.1%
14	子どもを育てる環境が整っていないところ	2.3%
15	子どもの教育環境が悪いところ	1.9%
16	治安の悪さ	2.3%
17	人情味がなく排他的なところ	5.0%
18	交通マナーの悪さ	37.0%
19	その他	4.8%
20	特にない	8.8%
	(無回答)	2.7%

<図IV-1-7>全体



宇都宮市の嫌いだと思うところについては、1位が「交通マナーの悪さ」で37.0%、2位「街に活気がないところ」で32.1%、3位「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」で26.0%、4位「交通渋滞の多さ」で24.8%、5位「道路の整備が遅れているところ」で15.8%、6位「都会的な雰囲気が乏しいところ」で15.7%という順であった。(図IV-1-7)

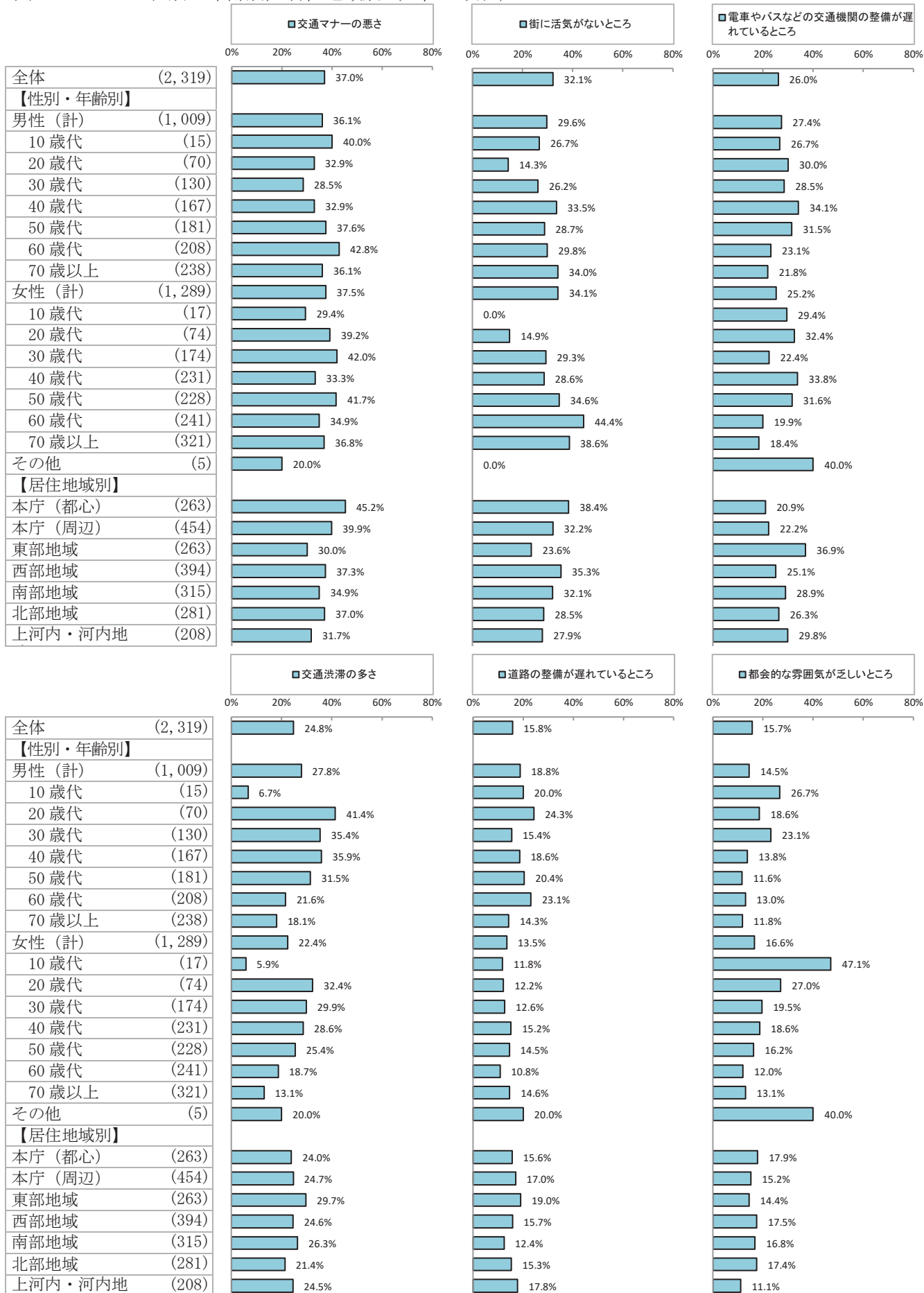
<参考>

上位6項目について性別・年齢別でみると、「交通マナーの悪さ」は<男性/60歳代>が42.8%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が42.0%であった。「街に活気がないところ」は<女性/60歳代>が44.4%で最も高く、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」は<その他>が40.0%で最も高かった。「交通渋滞の多さ」は<男性/20歳代>が41.4%、「道路の整備が遅れているところ」は<男性/20歳代>が24.3%、「都会的な雰囲気が乏しいところ」は<女性/10歳代>が47.1%で最も高かった。(図IV-1-8)

居住地域別でみると、「交通マナーの悪さ」は<本庁(都心)>が45.2%で最も高かった。「街に活気がないところ」は<本庁(都心)>が38.4%で最も高く、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」は<東部地域>が36.9%、「交通渋滞の多さ」は<東部地域>が29.7%、「道路の整備が遅れているところ」は<東部地域>が19.0%、「都会的な雰囲気が乏しいところ」は<本庁(都心)>が17.9%で最も高かった。(図IV-1-8)

その他の意見では、「公共交通(バス、LRTなど)に対する不満」「大規模施設の駐車場不足」「災害やコロナに対する対応への不満」「街並みに対する不満」などがあった。

<図IV-1-8>性別・年齢別／居住地域別（上位6項目）



2. 広報媒体の活用状況について

(1) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

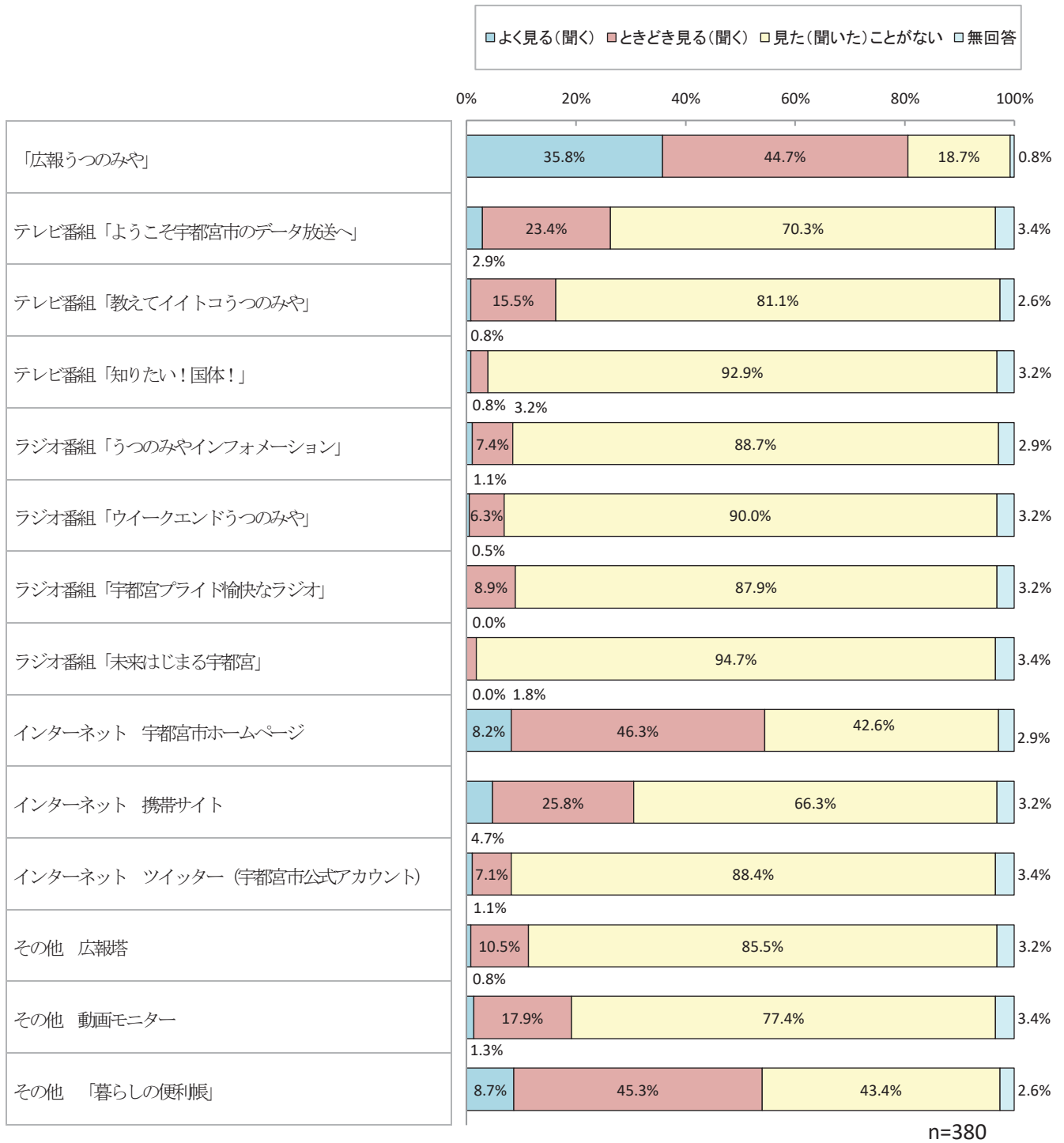
◇【見る（聞く）ことがある（計）】は「広報うつのみや」が約8割

問4 宇都宮市では、次のような手段を使って、市政情報を市民の皆様に提供しています。次の各広報媒体について、それぞれの視聴状況にあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

n=380

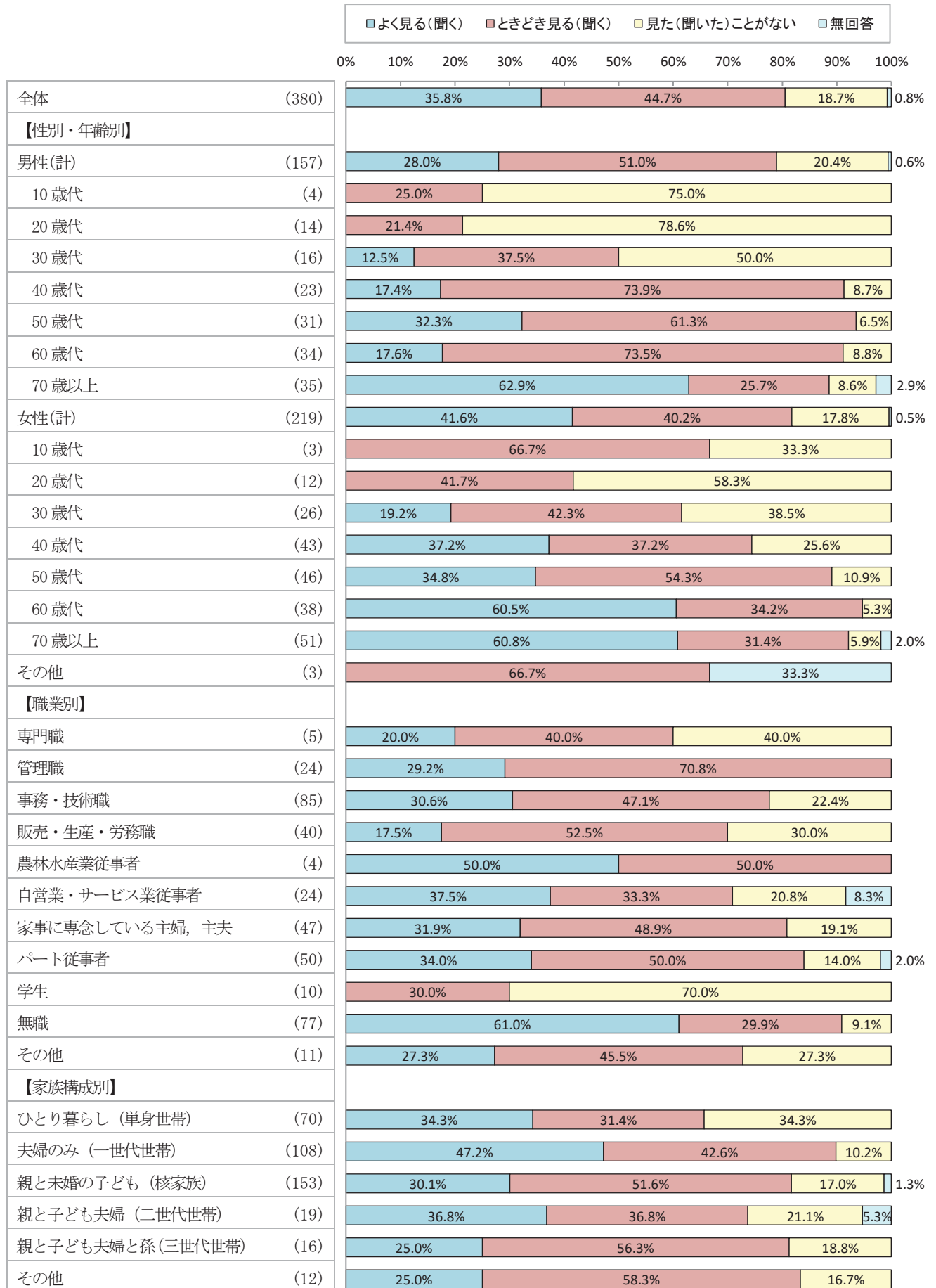
広報媒体		よく見る (聞く)	ときどき 見る (聞く)	見た (聞いた) ことがな い	(無回答)	合計
広報紙	1 「広報うつのみや」 毎月1回、新聞折込での配布や電子書籍等	35.8%	44.7%	18.7%	0.8%	100.0%
テレビ番組	2 「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ」 とちぎテレビ（データ放送）：テレビ放映中は常時提供	2.9%	23.4%	70.3%	3.4%	100.0%
	3 「教えてイトコうつのみや」 （とちぎテレビ：毎月第4金曜日午後7時15分～）	0.8%	15.5%	81.1%	2.6%	100.0%
	4 「知りたい！国体！」 （宇都宮ケーブルテレビ：毎月第4月曜日から7日間、1日7回）	0.8%	3.2%	92.9%	3.2%	100.0%
ラジオ番組	5 「うつのみやインフォメーション」 （栃木放送：毎週月曜日午前10時15分～）	1.1%	7.4%	88.7%	2.9%	100.0%
	6 「ウイークエンドうつのみや」 （栃木放送：毎週金曜日午後0時35分～）	0.5%	6.3%	90.0%	3.2%	100.0%
	7 「宇都宮プライド愉快なラジオ」 （エフエム栃木：毎週金曜日正午～）	0.0%	8.9%	87.9%	3.2%	100.0%
	8 「未来はじまる宇都宮」 （コミュニティFMミヤラジ：毎週水曜日午前11時～）	0.0%	1.8%	94.7%	3.4%	100.0%
インター ネット	9 宇都宮市ホームページ	8.2%	46.3%	42.6%	2.9%	100.0%
	10 携帯サイト	4.7%	25.8%	66.3%	3.2%	100.0%
	11 ツイッター（宇都宮市公式アカウント）	1.1%	7.1%	88.4%	3.4%	100.0%
その他	12 広報塔 JR宇都宮駅西口、鹿沼インター通り（鹿沼インター東）、 平成通り（中央卸売市場前）に設置	0.8%	10.5%	85.5%	3.2%	100.0%
	13 動画モニター 市民課や地区市民センターの窓口・大通りバス停などに 設置	1.3%	17.9%	77.4%	3.4%	100.0%
	14 「暮らしの便利帳」 2年に1度発行し、行政情報や地域情報などを掲載	8.7%	45.3%	43.4%	2.6%	100.0%

<図IV-2-1>全体

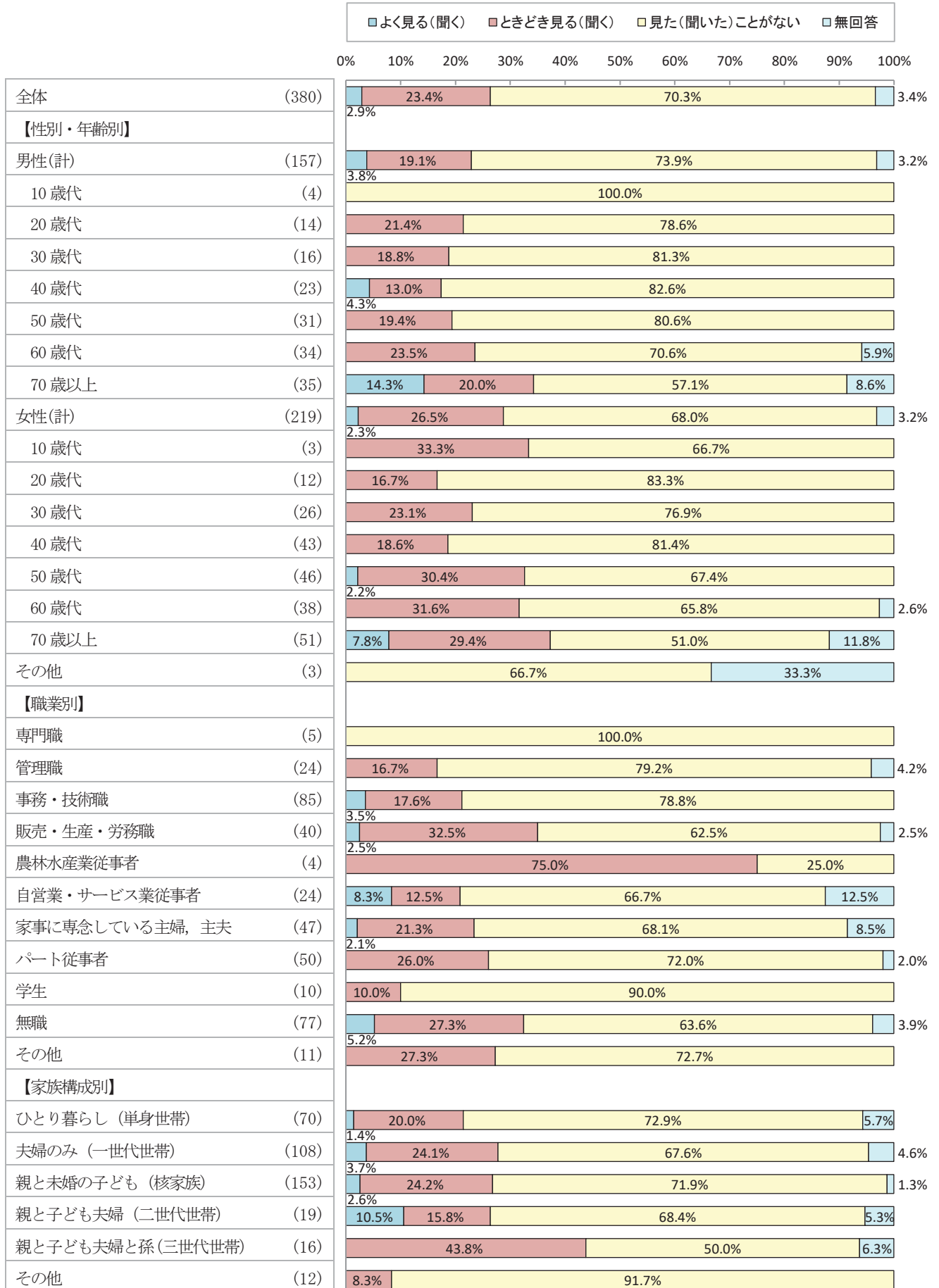


「広報うつつのみや」以外の13種類の広報媒体について、それぞれの視聴状況については、「よく見る(聞く)」と「ときどき見る(聞く)」の2つを合わせた【見る(聞く)ことがある(計)】は、「広報うつつのみや」が80.5%で最も高く、次いで「インターネット(宇都宮市ホームページ)」が54.5%、「暮らしの便利帳」が54.0%と続いている。(図IV-2-1)

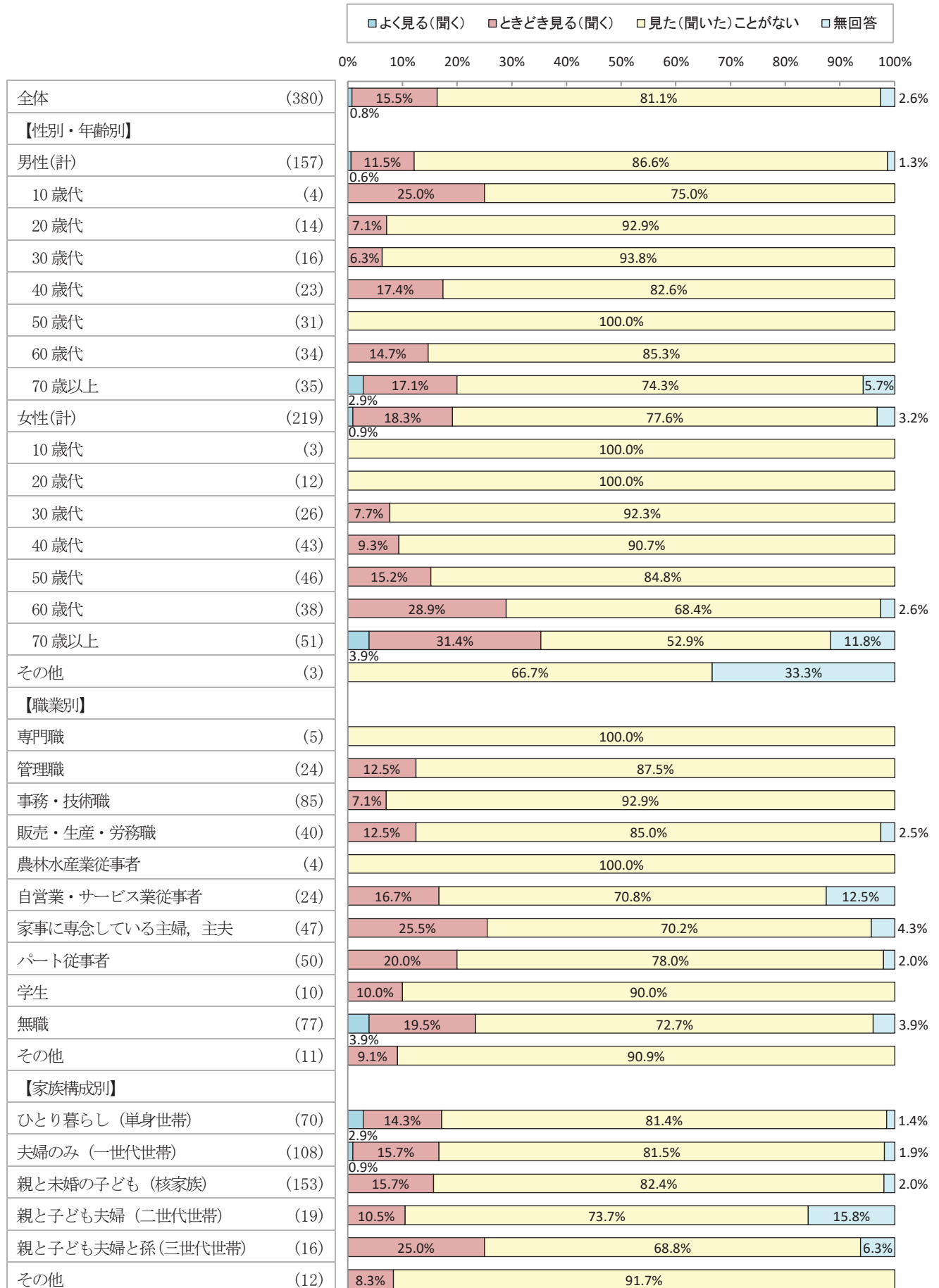
<図IV-2-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別「広報紙「広報うつのみや」



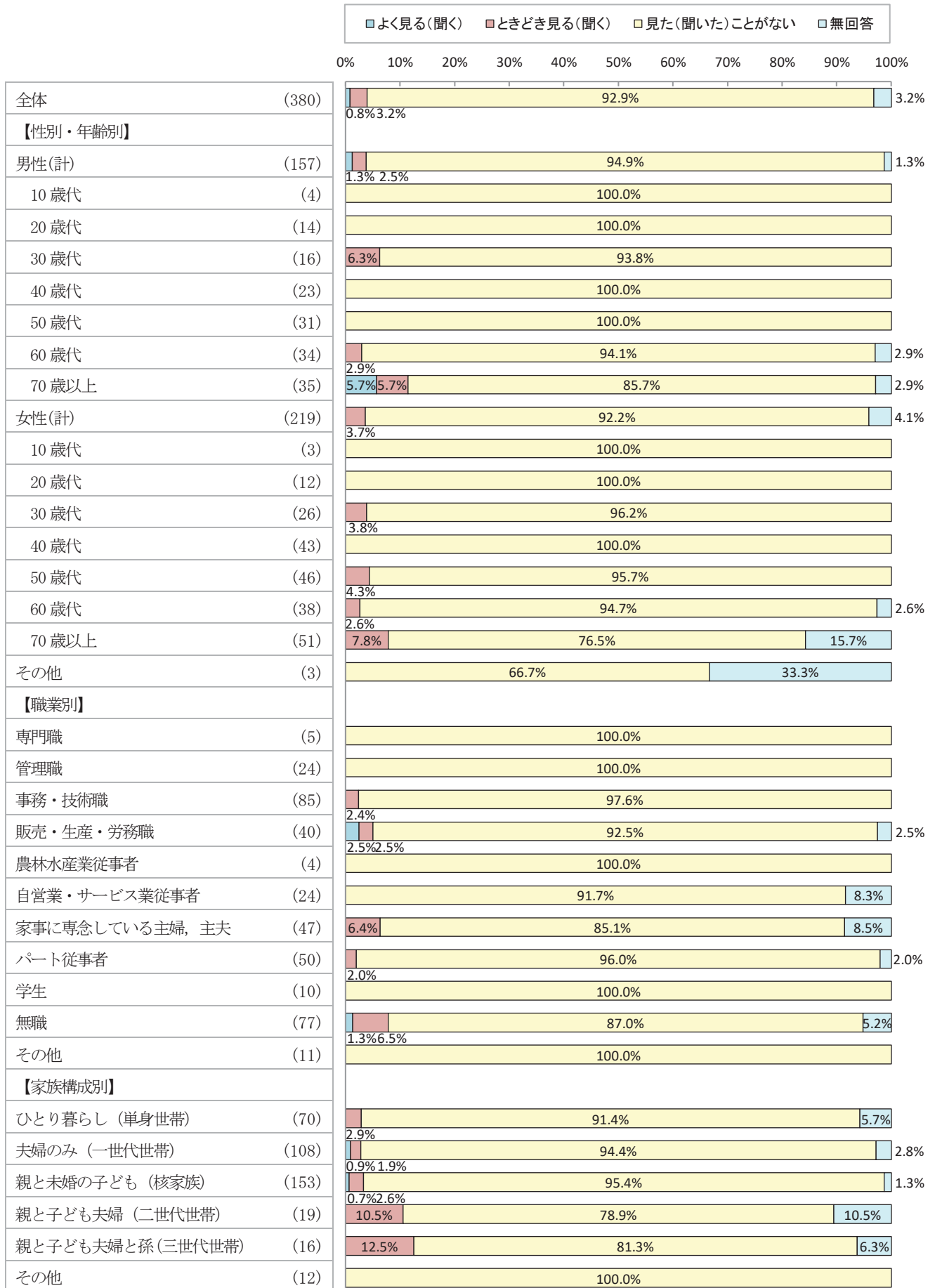
<図IV-2-3>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ」」



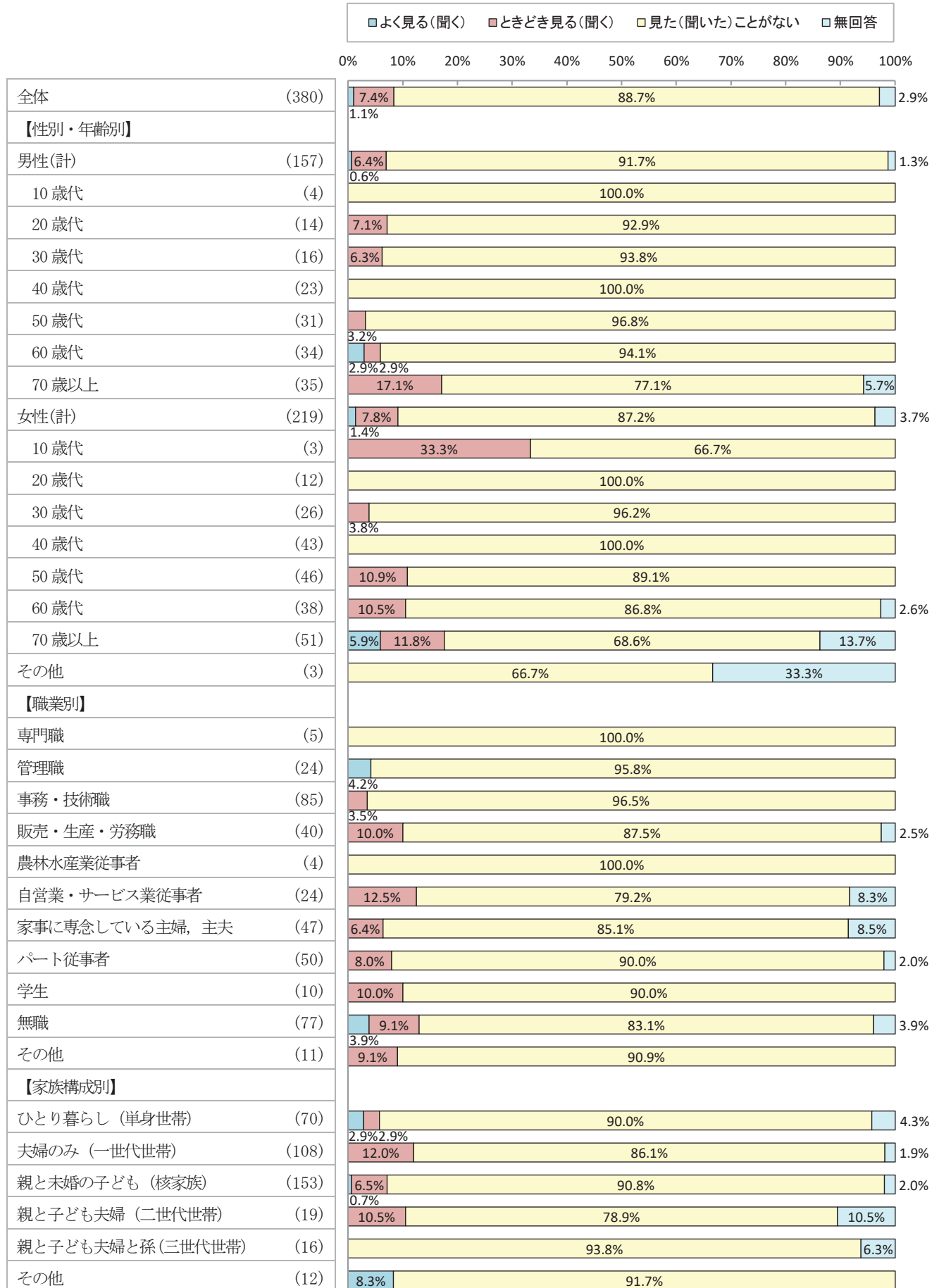
<図IV-2-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「教えてイイトコうつのみや」



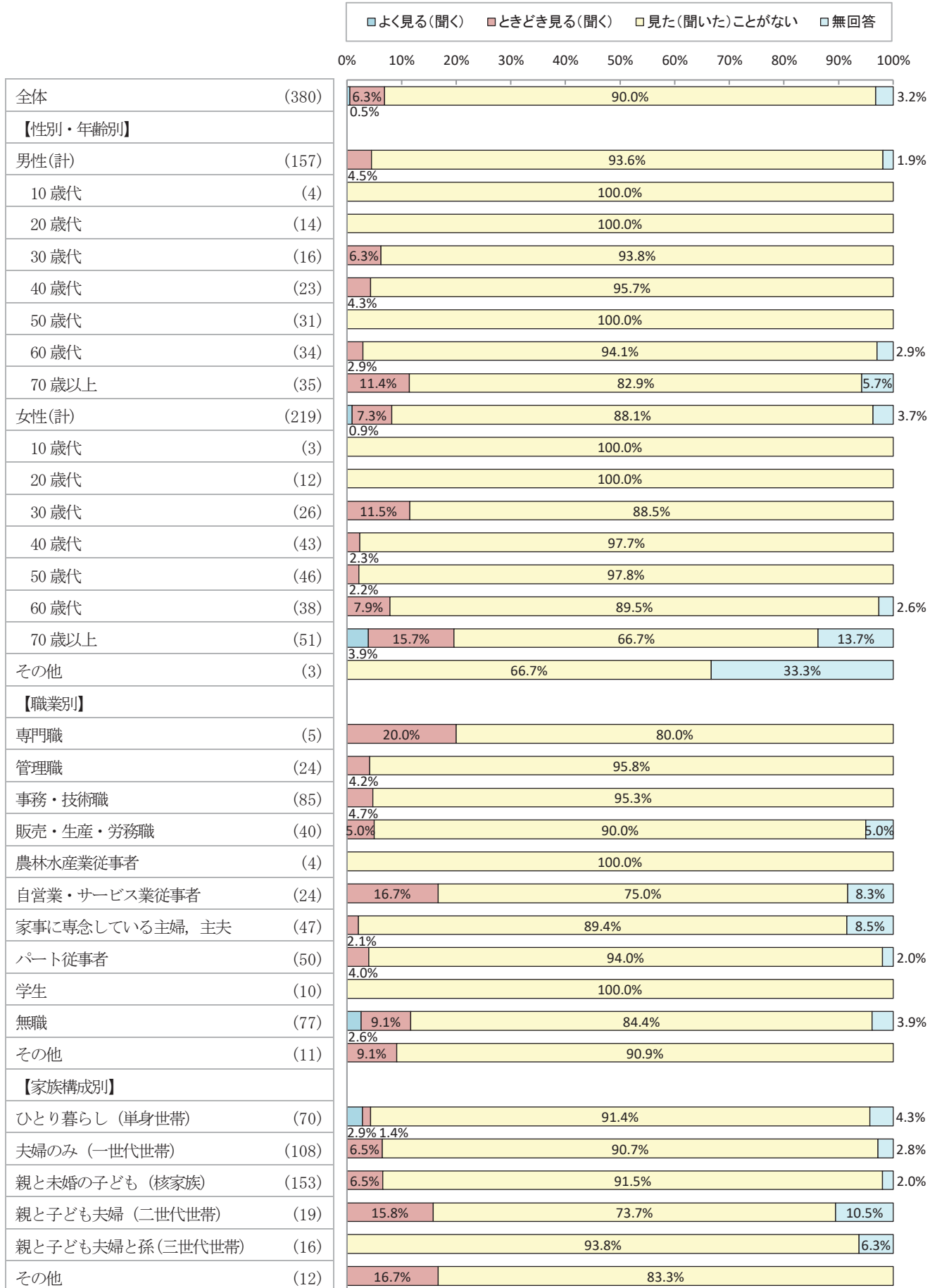
<図IV-2-5>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「知りたい！国体！」



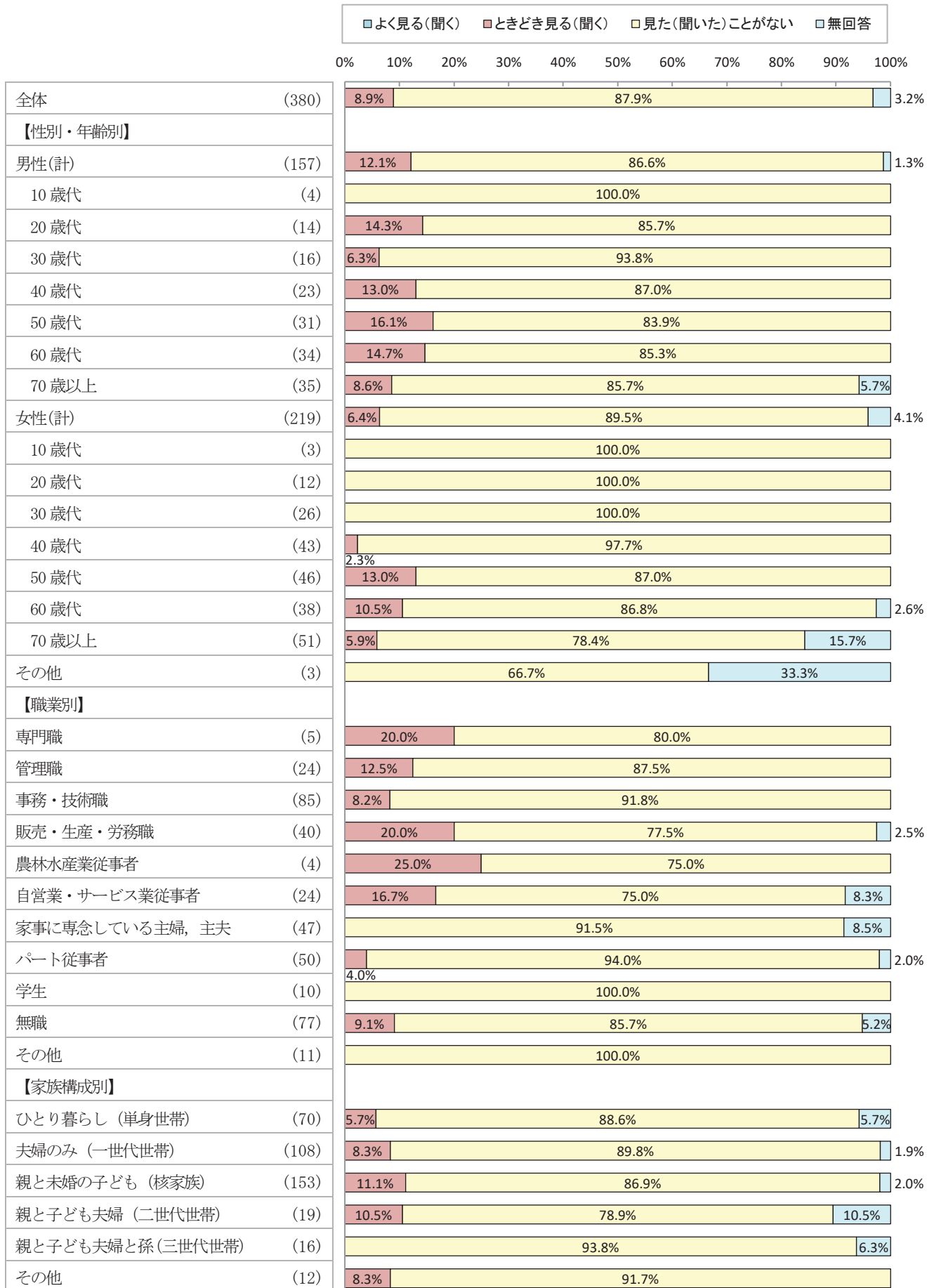
<図IV-2-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「うつのみやインフォメーション」」



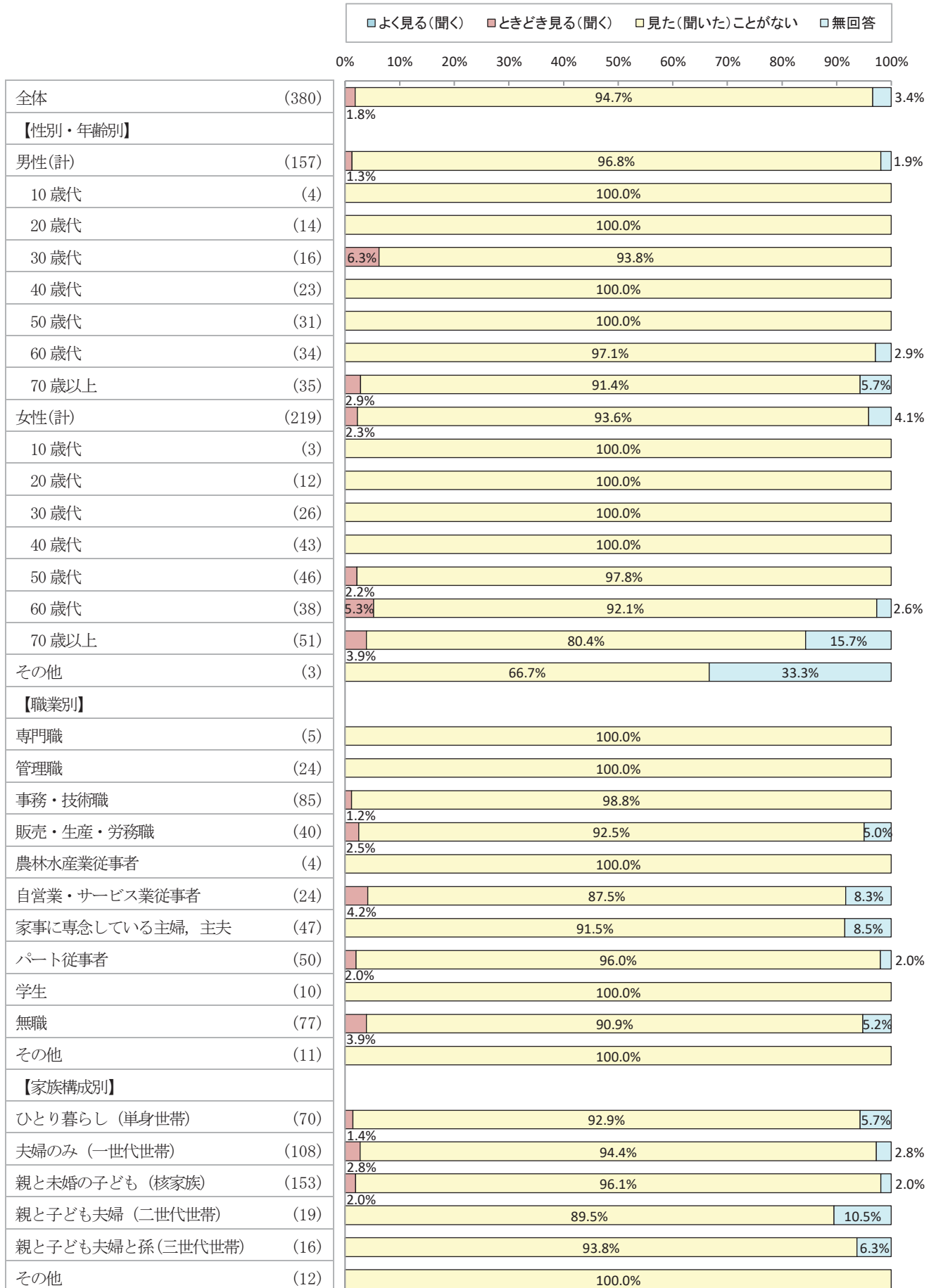
<図IV-2-7>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「ウイークエンドうつつのみや」



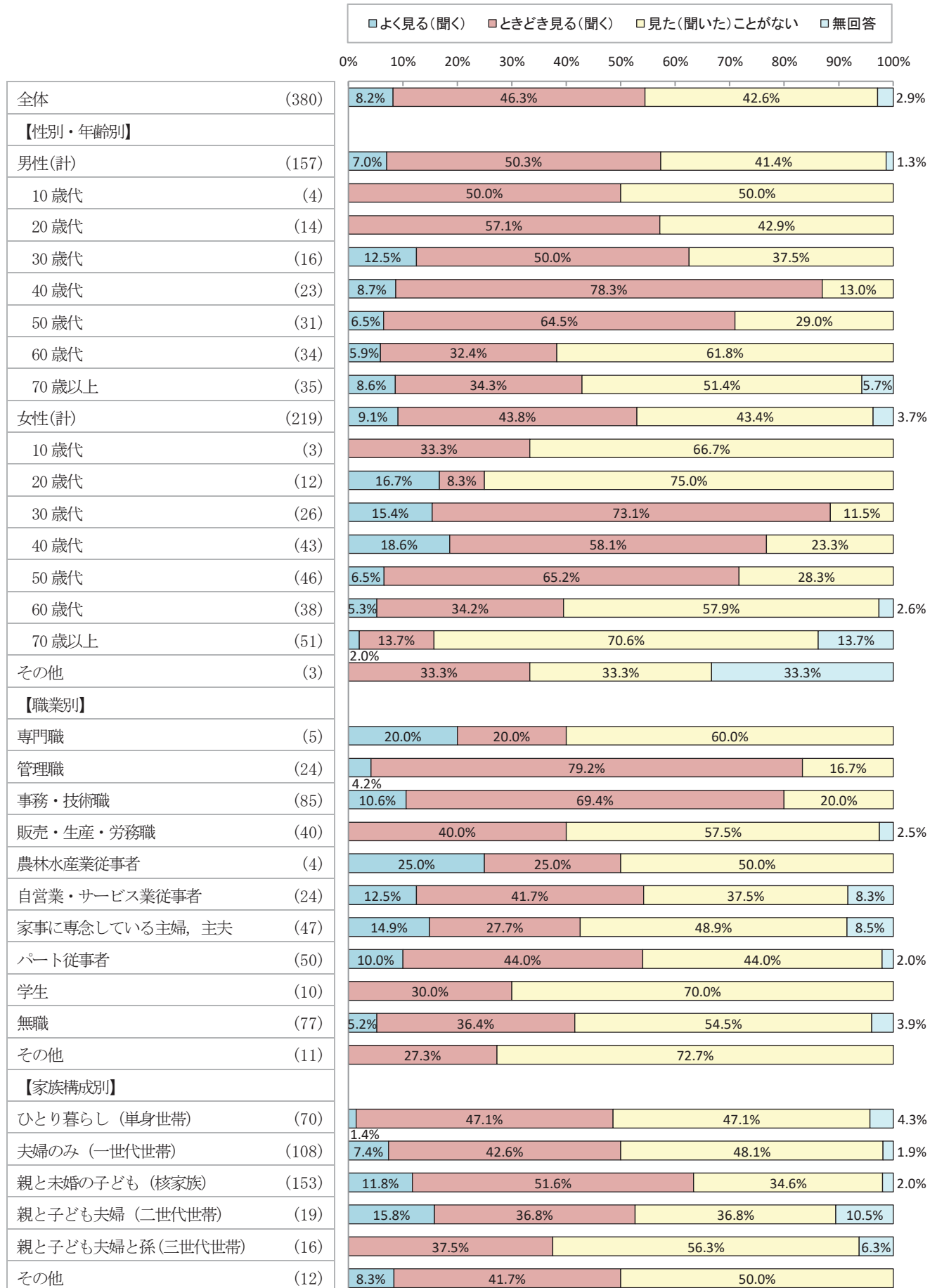
<図IV-2-8>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「宇都宮プライド愉快なラジオ」



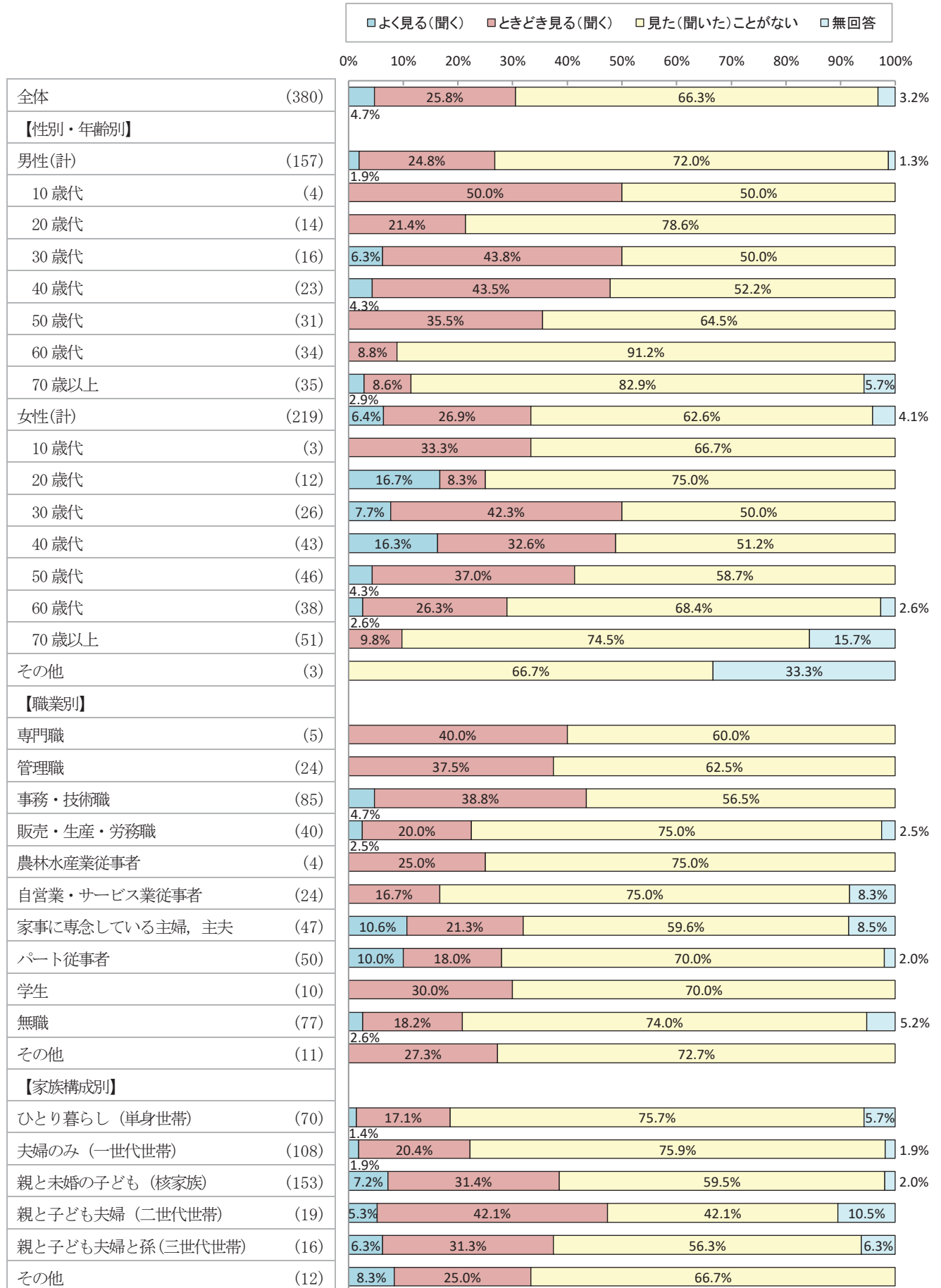
<図IV-2-9>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「未来はじまる宇都宮」



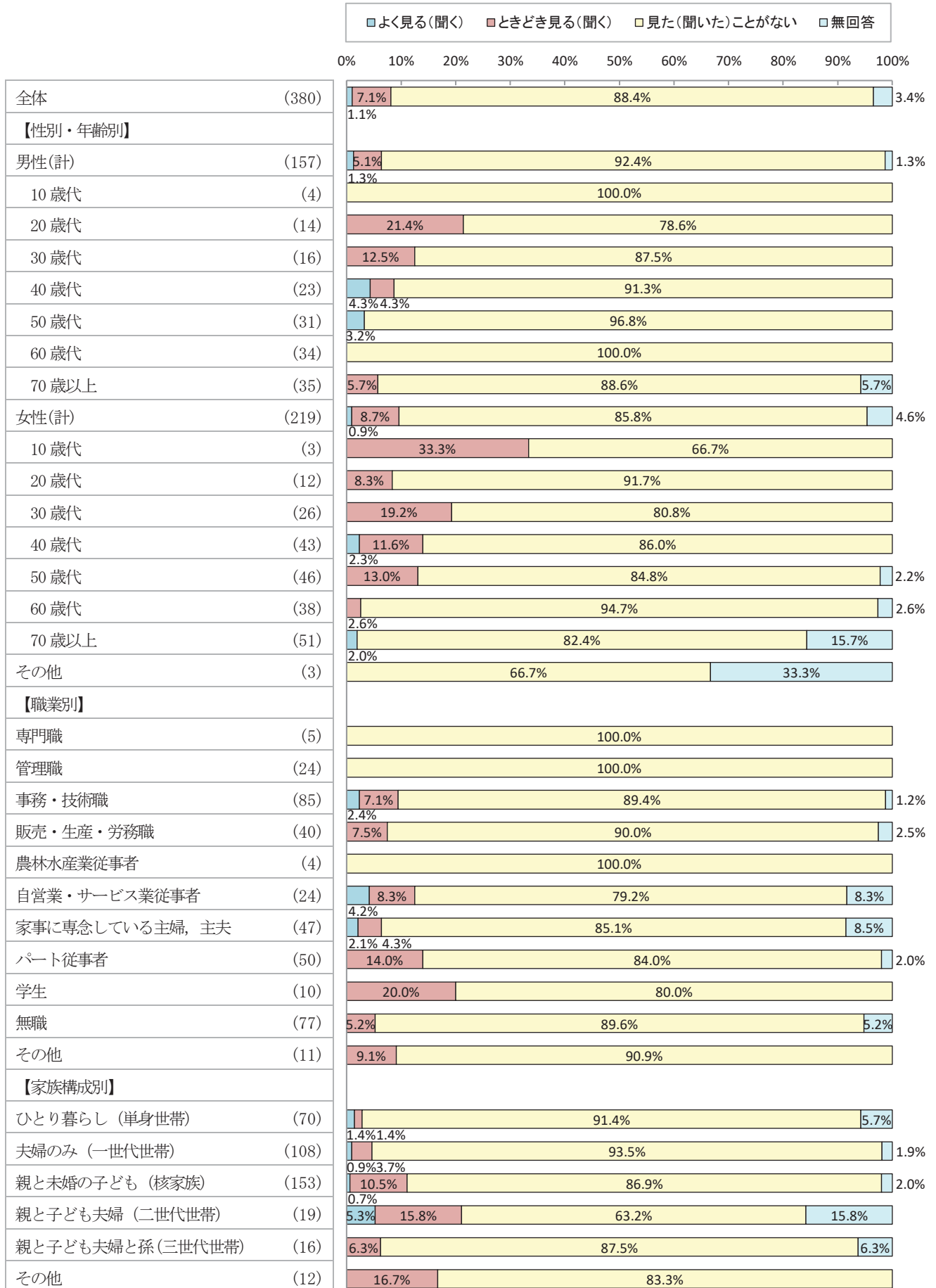
<図IV-2-10>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット「宇都宮市ホームページ」」



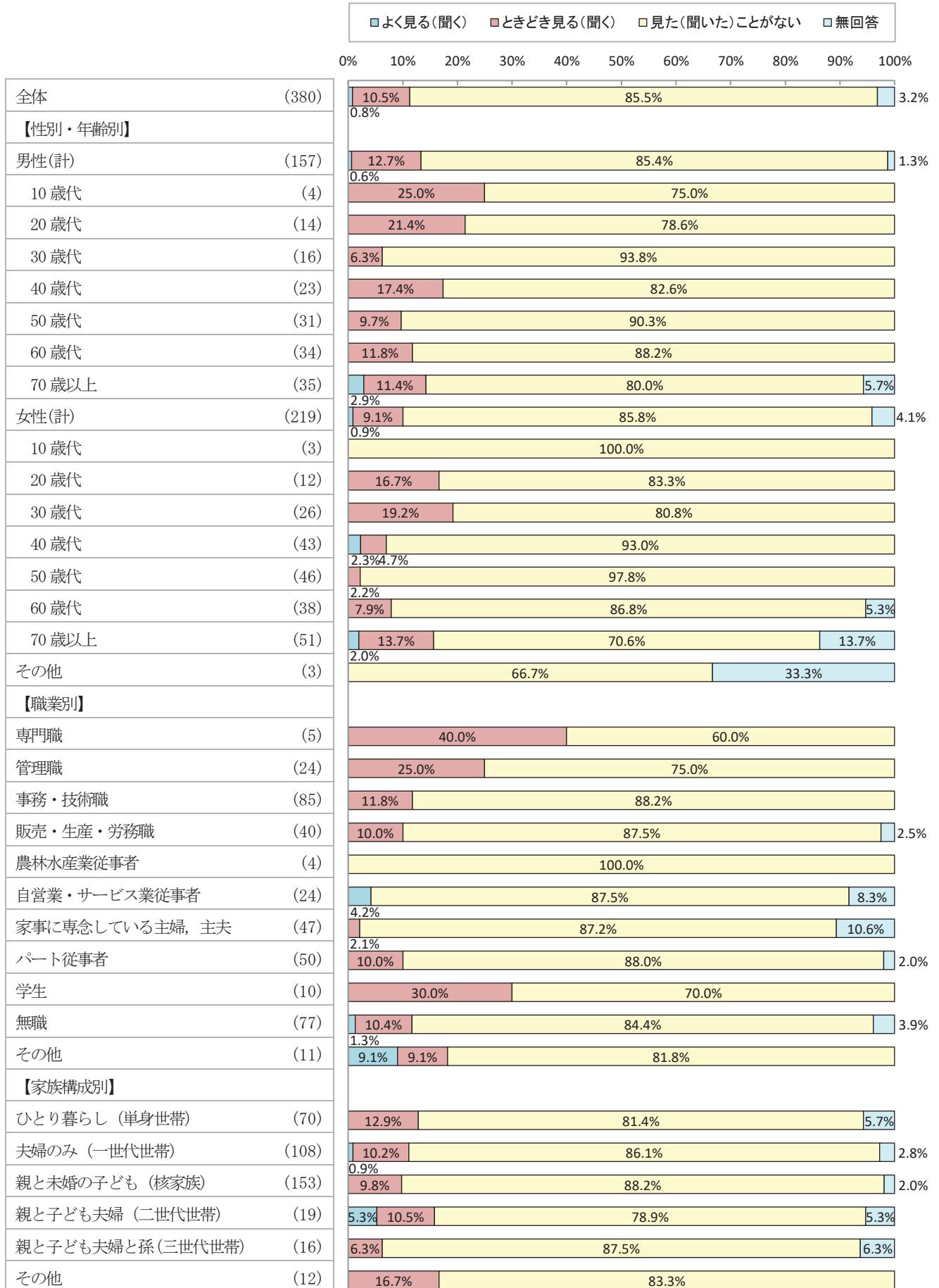
<図IV-2-11>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット「携帯サイト」」



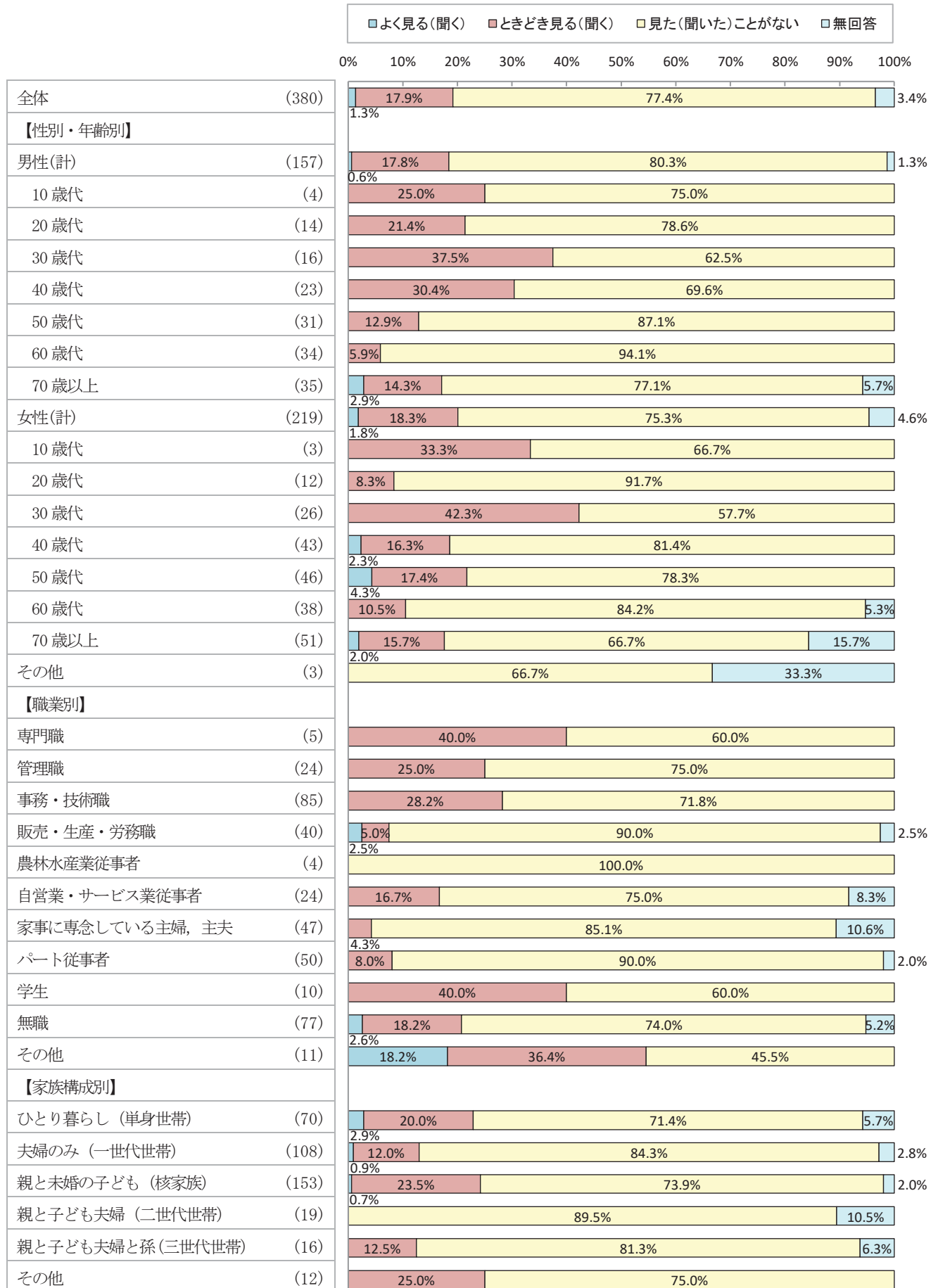
<図IV-2-12>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット「ツイッター(宇都宮市公式アカウント)」」



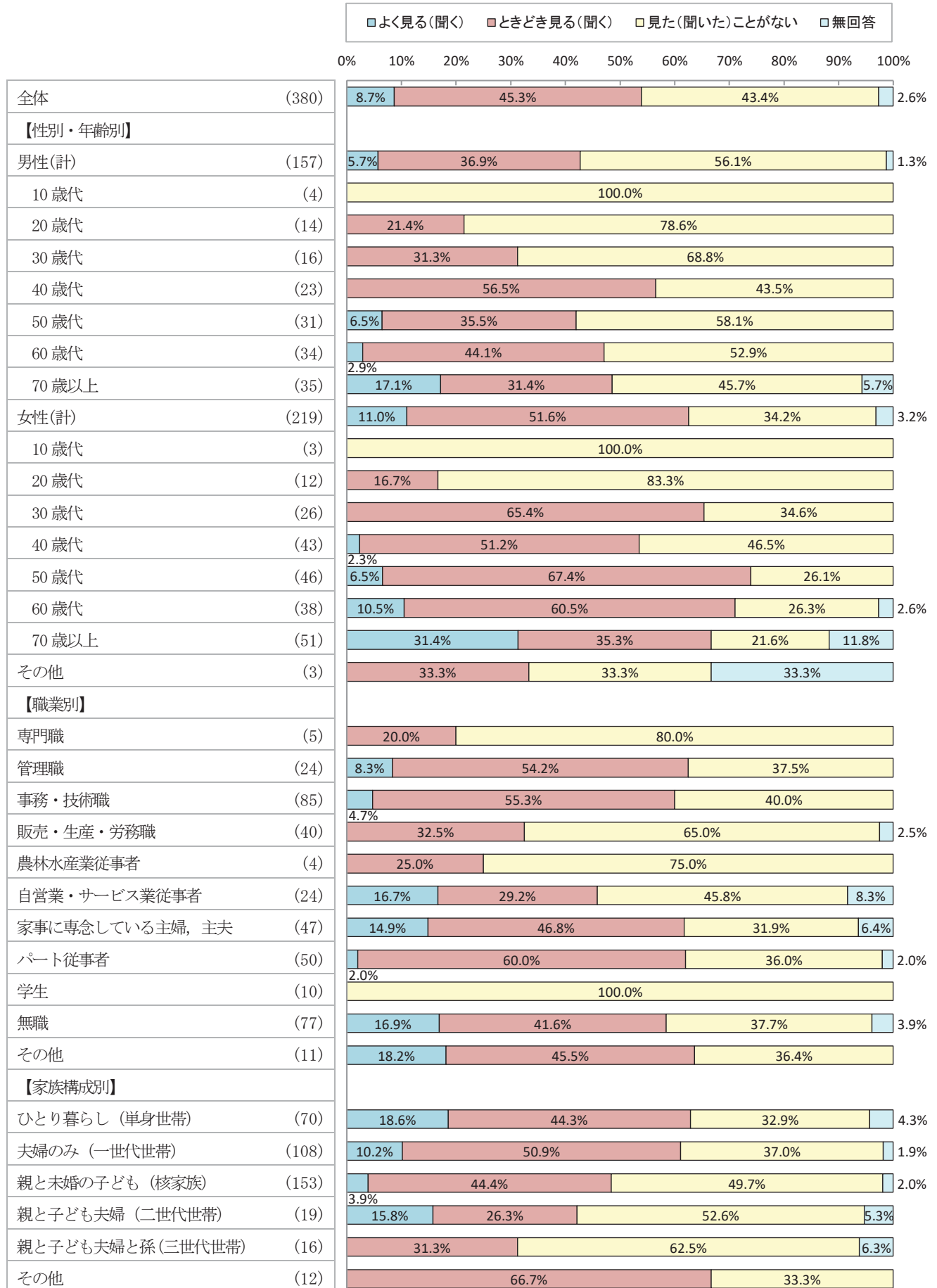
<図IV-2-13>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「広報塔」」



<図IV-2-14>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「動画モニター」」



<図IV-2-15>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「暮らしの便利帳」」

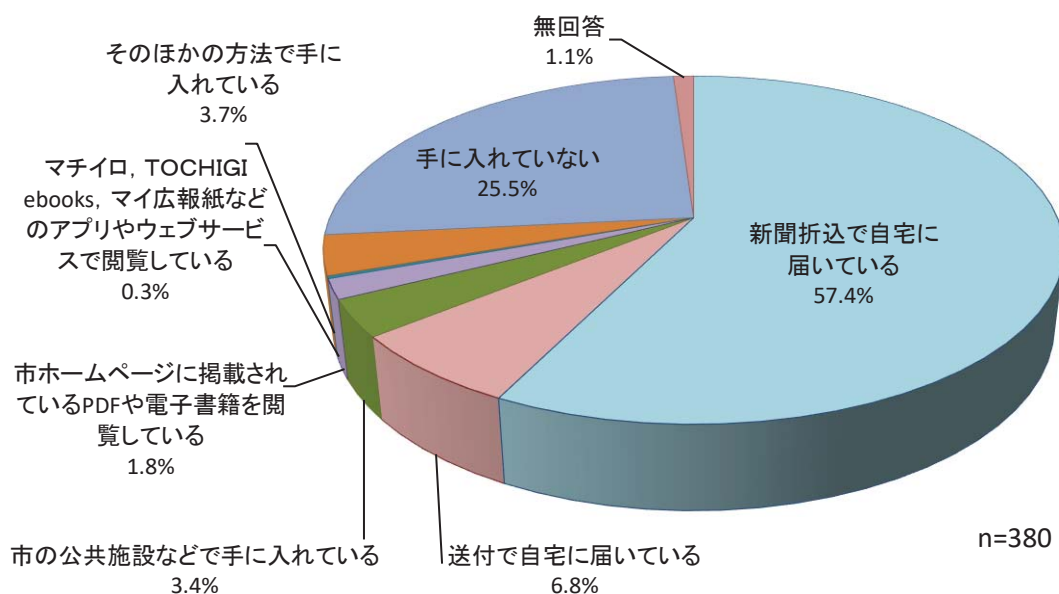


(2)「広報うつのみや」の入手方法

◇「新聞折込で自宅に届いている」が6割弱

問5	あなたはどのような方法で、「広報うつのみや」を手に入れていますか。	(○は1つ)
		n=380
1	新聞折込で自宅に届いている	57.4%
2	送付で自宅に届いている	6.8%
3	市の公共施設などで手に入れている	3.4%
4	市ホームページに掲載されているPDFや電子書籍を閲覧している	1.8%
5	マチイロ, TOCHIGI ebooks, マイ広報紙などのアプリやウェブサービスで閲覧している	0.3%
6	そのほかの方法で手に入れている	3.7%
7	手に入っていない	25.5%
	(無回答)	1.1%

<図IV-2-16>全体



「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が 57.4%で最も高かった。一方、「手に入っていない」は 25.5%であった。(図IV-2-16)

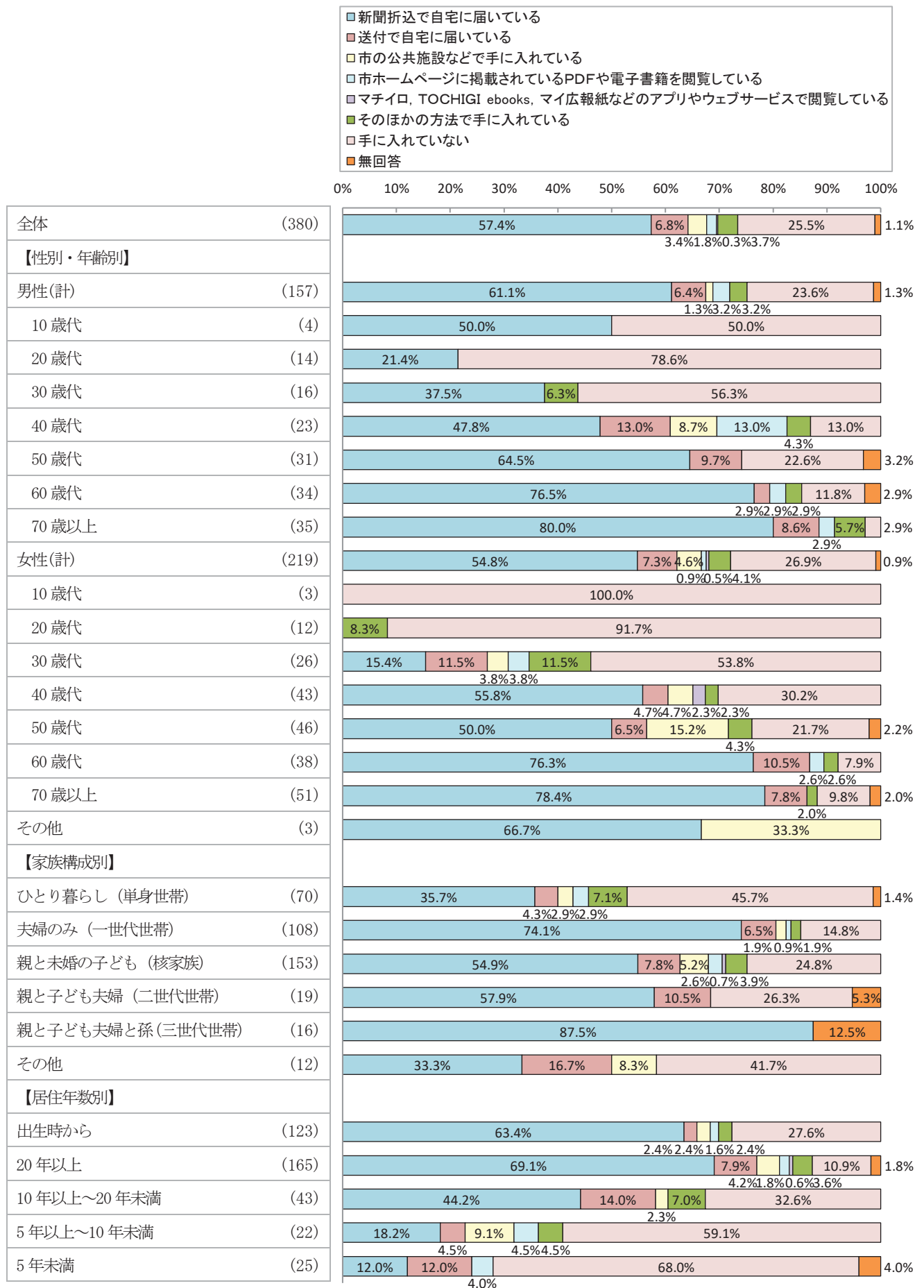
<参考>

性別・年齢別でみると、「新聞折込で自宅に届いている」は<男性/70歳以上>が 80.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が 78.4%と続いている。一方、「手に入っていない」は<女性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が 91.7%と続いている。(図IV-2-17)

家族構成別でみると、「新聞折込で自宅に届いている」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が 87.5%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が 74.1%であった。一方、「手に入っていない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が 45.7%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が 26.3%であった。(図IV-2-17)

居住年数別でみると、「新聞折込で自宅に届いている」は<20年以上>が 69.1%で最も高く、次いで<出生時から>が 63.4%であった。一方、「手に入っていない」は<5年未満>が 68.0%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が 59.1%であった。(図IV-2-17)

<図IV-2-17>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



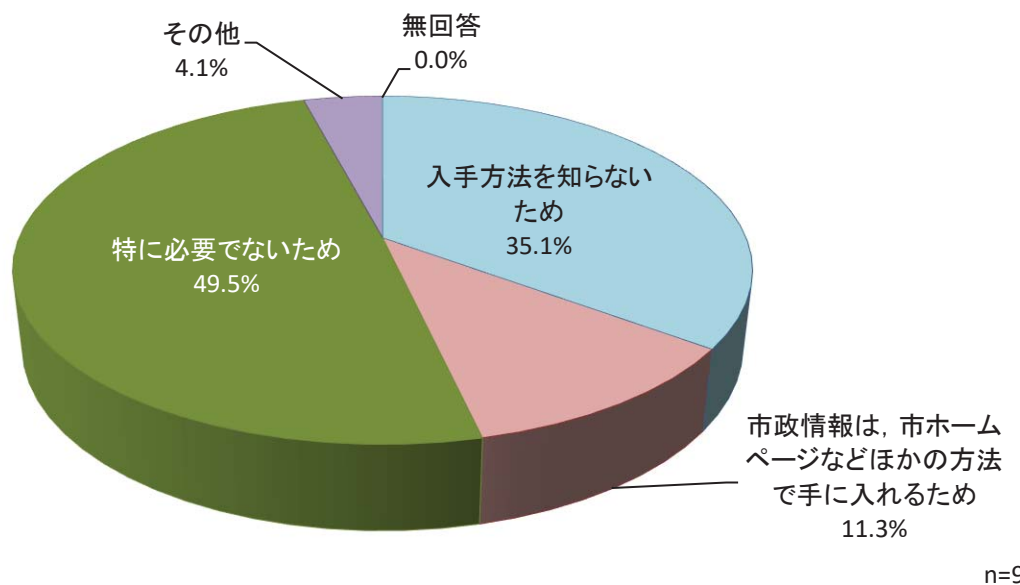
(3) 「広報うつつのみや」を入手していない理由

◇ 「特に必要でないため」が約5割

問6 問5で「7 手に入れていない」に○をつけた方にお聞きします。「広報うつつのみや」の情報を入手していない理由を教えてください。(○は1つ)

	n=97
1 入手方法を知らないため	35.1%
2 市政情報は、市ホームページなどほかの方法で手に入れるため	11.3%
3 特に必要でないため	49.5%
4 その他 (無回答)	4.1% 0.0%

<図IV-2-18>全体



「広報うつつのみや」を入手していない理由は、「特に必要でないため」が 49.5%で最も高かった。一方、「入手方法を知らないため」は 35.1%であった。(図IV-2-18)

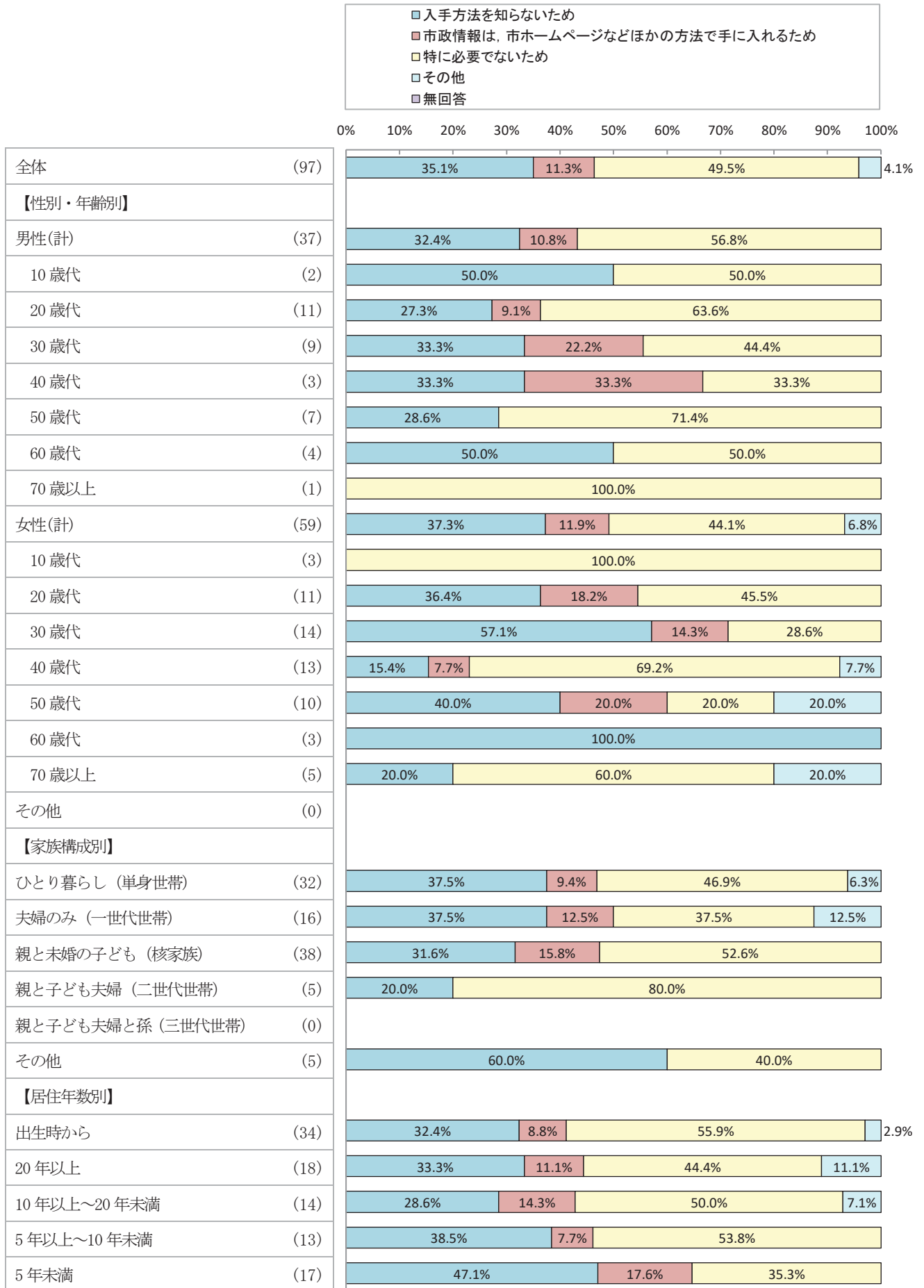
<参考>

性別・年齢別でみると、「入手方法を知らないため」は<女性/60歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が 57.1%と続いている。一方、「特に必要でないため」は<男性/70歳以上>と<女性/10歳代>がいずれも 100.0%で最も高かった。(図IV-2-19)

家族構成別でみると、「入手方法を知らないため」は<ひとり暮らし(単身世帯)>と<夫婦のみ(一世代世帯)>がいずれも 37.5%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が 31.6%であった。(図IV-2-19)

居住年数別でみると、「入手方法を知らないため」は<5年未満>が 47.1%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が 38.5%であった。(図IV-2-19)

<図IV-2-19>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



(4)「広報うつのみや」で読んでいる記事

◇「市政情報」が6割半ば

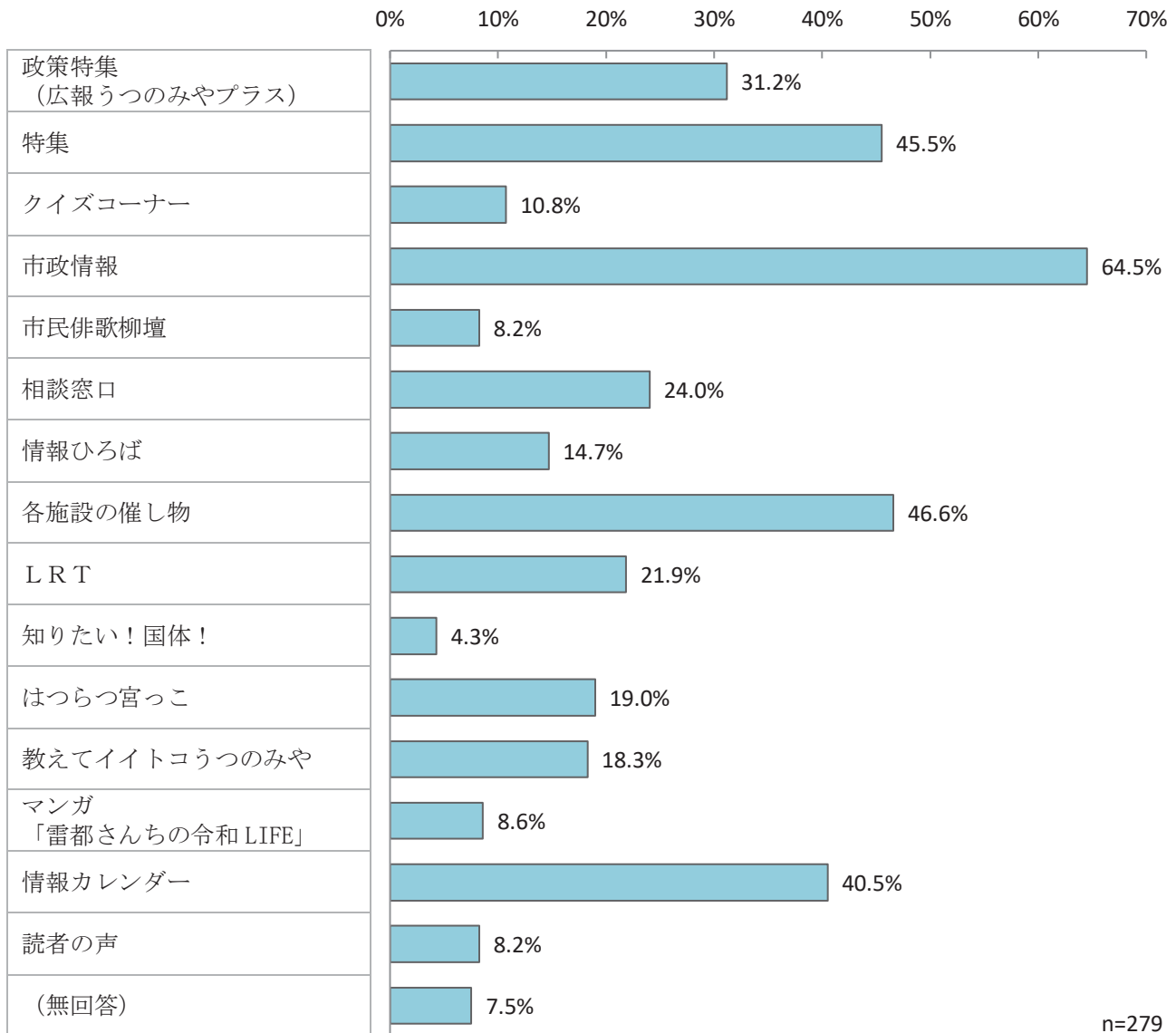
問7 問5で、1～6に○をつけた方にお聞きします。

「広報うつのみや」では、どのような記事を主に読んでいますか。項目の番号に○をつけてください。
(○はいくつでも)

n=279

項目	ページ等	内容	
1 政策特集 (広報うつのみやプラス)	巻頭カラー	年に4回ほど掲載。 市の課題を問題提起し、市民の意見を掲載	31.2%
2 特集	巻頭カラー	毎月掲載。 市の重点事業や旬な話題など	45.5%
3 クイズコーナー	目次	宇都宮にまつわる知識等をクイズ形式で紹介	10.8%
4 市政情報	—	健康・子ども・住まい・暮らし・税・文化・スポーツ・施設の教室・講座など	64.5%
5 市民俳歌柳壇	—	市民から投稿された俳句・短歌・川柳を紹介	8.2%
6 相談窓口	—	法律・行政・健康・福祉・子ども・女性など	24.0%
7 情報ひろば	—		14.7%
8 各施設の催し物	巻末カラー	宇都宮美術館、ろまんちっく村、図書館など	46.6%
9 LRT	巻末カラー	LRT 事業について掲載	21.9%
10 知りたい!国体!	巻末カラー	宇都宮ケーブルテレビ連動企画。「いちご一会とちぎ国体」見どころ・魅力を紹介	4.3%
11 はつらつ宮っこ	巻末カラー	輝いている市民を紹介	19.0%
12 教えてイイトコうつのみや	巻末カラー	とちぎテレビ連動企画。リポーター井上マーさんが街を歩き宇都宮のイイトコを紹介	18.3%
13 マンガ 「雷都さんちの令和LIFE」	巻末カラー	マンガを通じて、耳寄り情報などを紹介	8.6%
14 情報カレンダー		市のイベントカレンダー	40.5%
15 読者の声	巻末カラー	広報うつのみやを読んだ方からの意見紹介	8.2%
(無回答)			7.5%

<図IV-2-20>全体



問5で「広報うつのみや」を入手していると答えた人(279人)に、どのような記事を主に読んでいるかについて聞いたところ、1位が「市政情報」で64.5%、2位「各施設の催し物」で46.6%、3位「特集」で45.5%、4位「情報カレンダー」で40.5%、5位「政策特集(広報うつのみやプラス)」で31.2%、6位「相談窓口」の24.0%という順であった。(図IV-2-20)

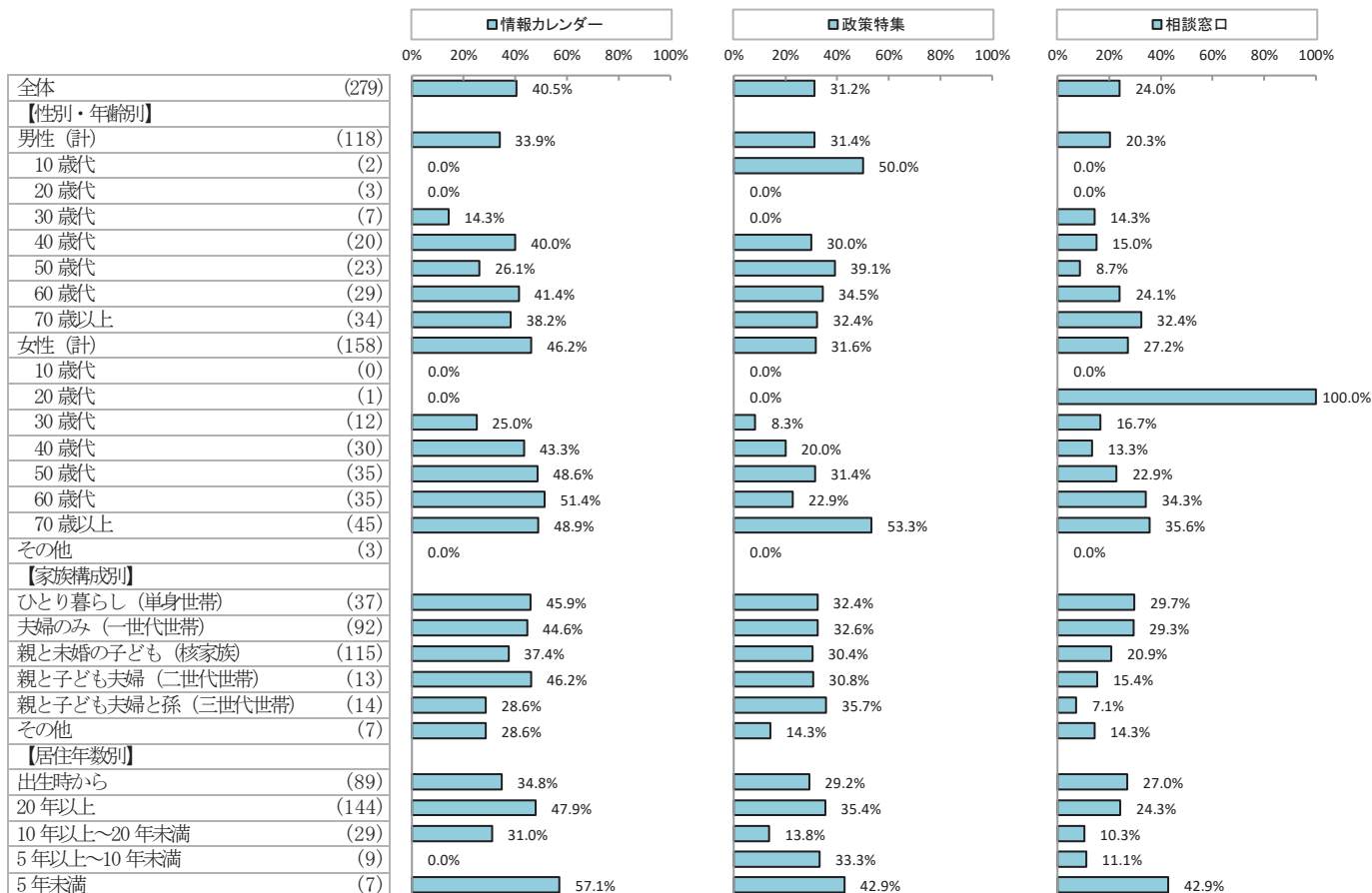
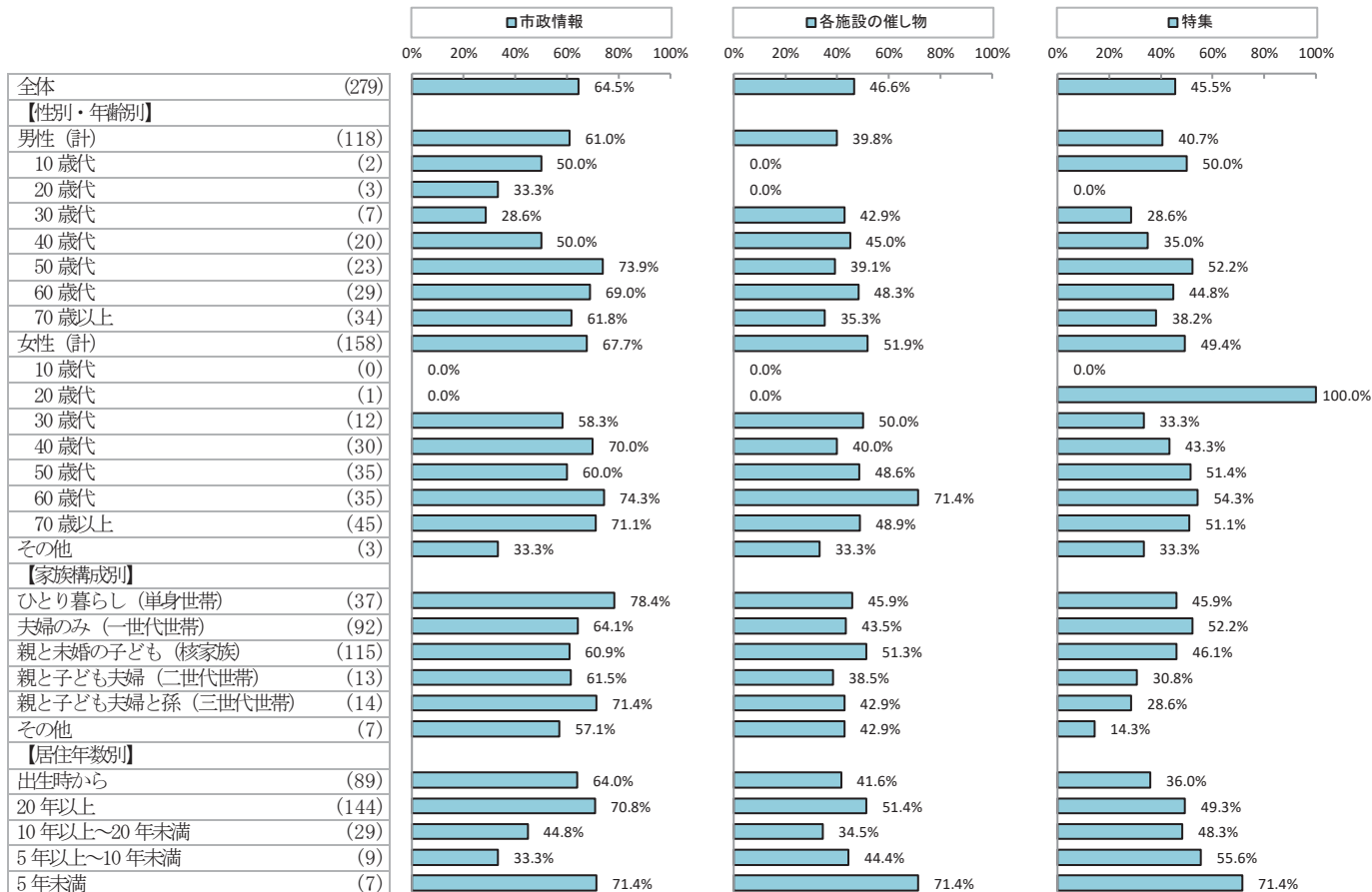
<参考>

上位6項目について性別・年齢別でみると、「市政情報」は<女性/60歳代>が74.3%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が73.9%であった。「各施設の催し物」は<女性/60歳代>が71.4%、「特集」は<女性/60歳代>が54.3%、「情報カレンダー」は<女性/60歳代>が51.4%で最も高かった。(図IV-2-21)

家族構成別でみると、「市政情報」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が78.4%で最も高く、「各施設の催し物」は<親と未婚の子ども(核家族)>が51.3%、「特集」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が52.2%であった。(図IV-2-21)

居住年数別でみると、「市政情報」は<5年未満>が71.4%で最も高く、「各施設の催し物」は<5年未満>が71.4%、「特集」は<5年未満>が71.4%であった。(図IV-2-21)

<図IV-2-21>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別（上位6項目）



(5) 広報うつのみやに関する感想、取り上げてほしい話題・情報

問8 広報うつのみやに関する感想、取り上げて欲しい話題や情報などをお書きください。

広報紙やホームページで充実してほしい記事や情報、改善してほしい点などについては、以下のような意見があった。(原文のまま)

【情報】

- ◆ 地域(町)ピックアップ。自分が知らない町名って結構あります。毎号、1ヶ所ずつ紹介して下さい。地域の特色などと一緒に。
- ◆ 表紙に写っている人のコメントやどんな所に住んでいるのかをわかりやすく、表紙の裏側に書いておくといいと思う。(個人情報がわからない程度)マイブームとか。
- ◆ 私の母が市内に友人がいないのですが、移動手段等もなく、なかなか外へ出る機会がありません。地区ごとの高齢者イベントはなかなかないのかもしれませんが(現在コロナの状況も含めて)、あれば知りたいです。
- ◆ 「totora」の取得する場所・方法を詳しく取り上げてほしい。「Suica」との違いもくわしく取り上げてほしい。
- ◆ 競輪場情報。
- ◆ 子育て情報。
- ◆ 生きがい、ボランティア活動、家庭菜園などの講習会、懇談会、自然を楽しめるイベント。
- ◆ 資源ごみがどのように処理され活用されているか。
- ◆ 市内の各学校(小中高)の内容等の情報。制服等のそれぞれの特徴など。
- ◆ 防災情報の回数を増やして頂けると嬉しいです。
- ◆ 新規の公共施設(建築・土木)整備予定立地(整備)場所、説明会日程、スケジュール、目的、予算等。
- ◆ バスの路線検索など。
- ◆ こども関係の事。
- ◆ 市内にある有形・無形文化財や、伝統工芸品、100年以上続いているお店などを知りたいです。
- ◆ 新型コロナの感染拡大を防ぐ為の協力や呼びかけ(ワクチンに対して etc)をもっと市長や知事から積極的に発信してほしい。
- ◆ 宇都宮の歴史
- ◆ 災害対策, コロナ禍対策, 子育て対策, 介護福祉対策, 環境対策。
- ◆ ワクチンの予約スケジュールを前広に載せてもらえると助かります。
- ◆ 私は精神障がい者なので、関連した情報を分かりやすく掲載してほしいです。
- ◆ 年前の同月の市内の出来事など、会話のきっかけになるようなトピックの紹介、当時の記事の再掲など
- ◆ 宇都宮の中心地だけではなく、もっといろいろなところの素晴らしさを紹介してほしい。

【見やすさ・分かりやすさ】

- ◆ 交通系 IC カードのシステムがわかりにくい。コロナ対策について具体的な仕事が見えていない。
- ◆ 子どもの予防接種、くわしく、大きく（初めて宇都宮に来た方がわかりやすく・見やすく）。子どもの行事・イベント（コロナ渦での状況）。
- ◆ 紙媒体をやめ、市のホームページからの閲覧にする。ネット環境にない方や、紙媒体を希望の方には有料にて郵送する(65 歳以上には無料)。費用対効果を考えるべき時期ではないか。
- ◆ 宇都宮市民の身近な情報特集など、地区に分けてお知らせする。病院情報を具体的に掲載してほしい。
- ◆ LRT をもっと詳しく。
- ◆ 無駄な項目が多い。
- ◆ 良く編集されていてとても参考になる。コロナについての情報がもっと詳しく知りたい（ワクチン接種場所、今後の情報等）。高齢者向けの医療、福祉のことを詳しく知りたい。
- ◆ 道の駅の情報をもっと知りたいです。
- ◆ 各課や警察などの一般紙面の回覧を広報うつのみやの裏表紙辺りに載せてくれた方が見るし、広報紙は保存しておく方が多いので、その方がその都度回す回覧と違って良い。節税にもなる。

【その他】

- ◆ 子どもの体操教室や運動系の教室をもっとひらいてほしい。

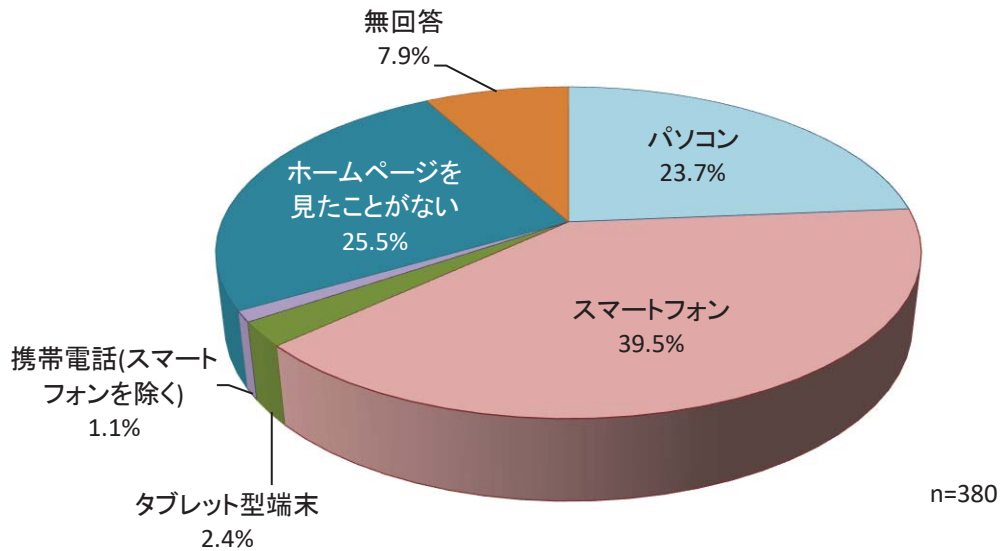
(6) 市のホームページを見るための主な手段

◇ 「スマートフォン」が約4割

問9 市ではホームページを開設しています。ホームページを見るための主な手段は何ですか。
(○は1つ)

	n=380
1 パソコン	23.7%
2 スマートフォン	39.5%
3 タブレット型端末	2.4%
4 携帯電話(スマートフォンを除く)	1.1%
5 ホームページを見たことがない	25.5%
(無回答)	7.9%

<図IV-2-22>全体



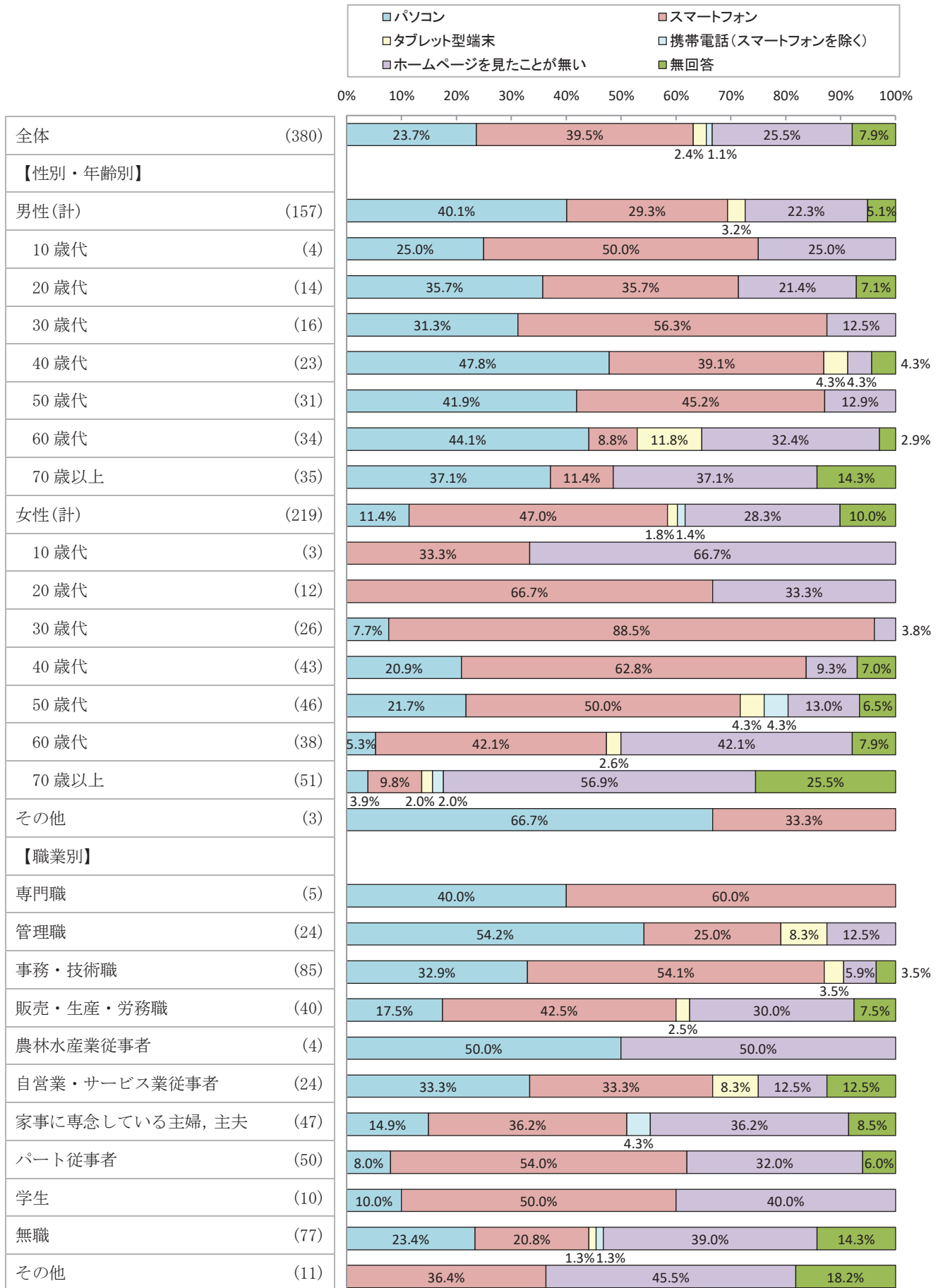
市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」が39.5%で最も高く、次いで「ホームページを見たことがない」25.5%、「パソコン」23.7%と続いている。(図IV-2-22)

<参考>

性別・年齢別でみると、「スマートフォン」は<女性/30歳代>が88.5%で最も高く、次いで<女性/10歳代>が66.7%であった。「パソコン」は<男性/40歳代>が47.8%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が44.1%であった。(図IV-2-23)

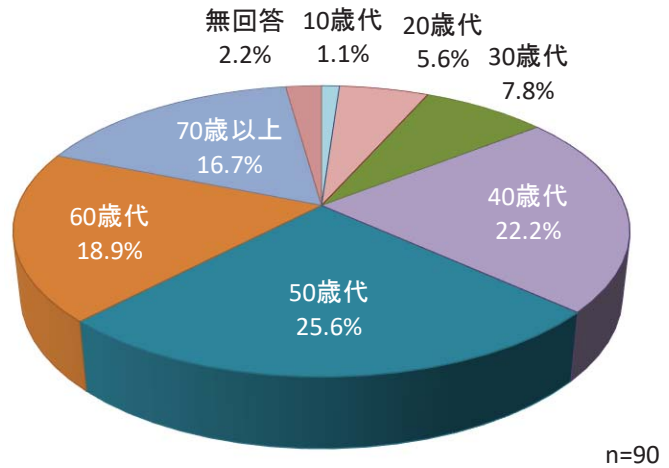
職業別でみると、「スマートフォン」は<専門職>が60.0%で最も高かった。「パソコン」は<管理職>が54.2%で最も高かった。(図IV-2-23)

<図IV-2-23>性別・年齢別/職業別



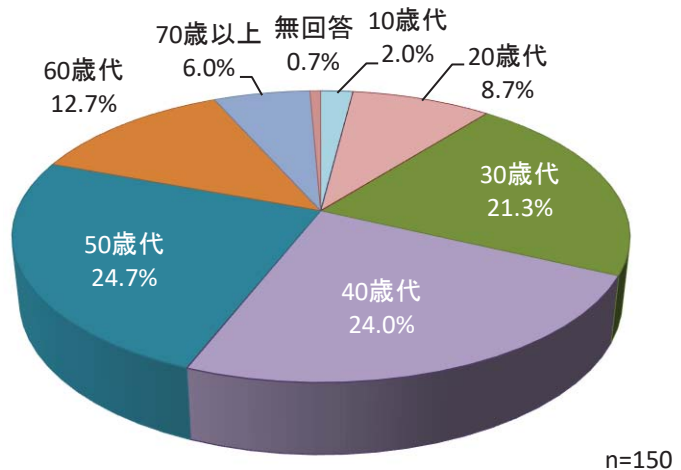
<図Ⅳ-2-24> 【パソコン】年齢別

【年齢別】	
10歳代	1.1%
20歳代	5.6%
30歳代	7.8%
40歳代	22.2%
50歳代	25.6%
60歳代	18.9%
70歳以上	16.7%
無回答	2.2%



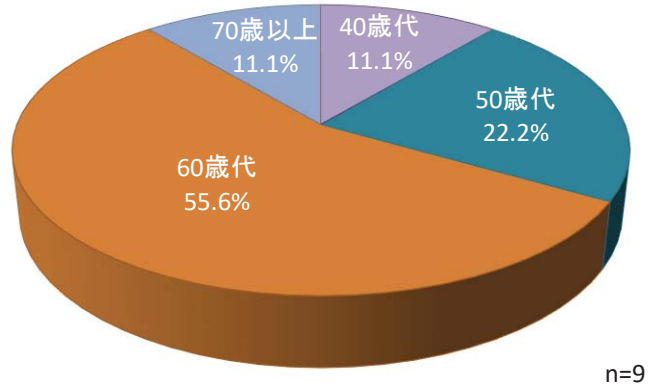
<図Ⅳ-2-25> 【スマートフォン】年齢別

【年齢別】	
10歳代	2.0%
20歳代	8.7%
30歳代	21.3%
40歳代	24.0%
50歳代	24.7%
60歳代	12.7%
70歳以上	6.0%
無回答	0.7%



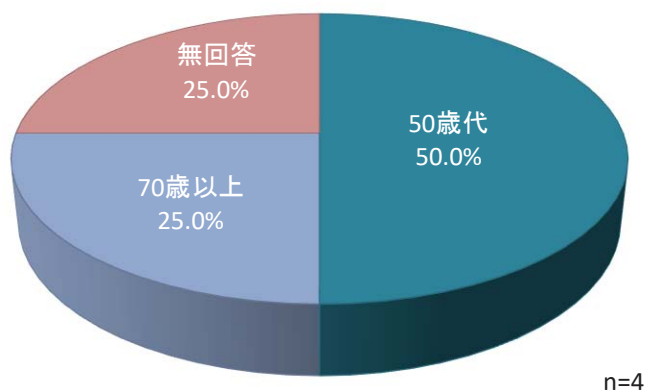
<図Ⅳ-2-26> 【タブレット型端末】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	0.0%
30歳代	0.0%
40歳代	11.1%
50歳代	22.2%
60歳代	55.6%
70歳以上	11.1%
無回答	0.0%



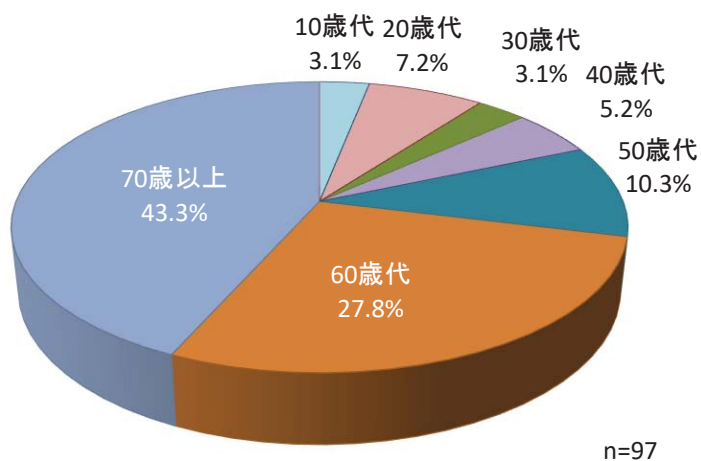
<図Ⅳ-2-27> 【携帯電話（スマートフォンを除く）】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	0.0%
30歳代	0.0%
40歳代	0.0%
50歳代	50.0%
60歳代	0.0%
70歳以上	25.0%
無回答	25.0%



<図Ⅳ-2-28> 【ホームページを見たことがない】年齢別

【年齢別】	
10歳代	3.1%
20歳代	7.2%
30歳代	3.1%
40歳代	5.2%
50歳代	10.3%
60歳代	27.8%
70歳以上	43.3%
無回答	0.0%

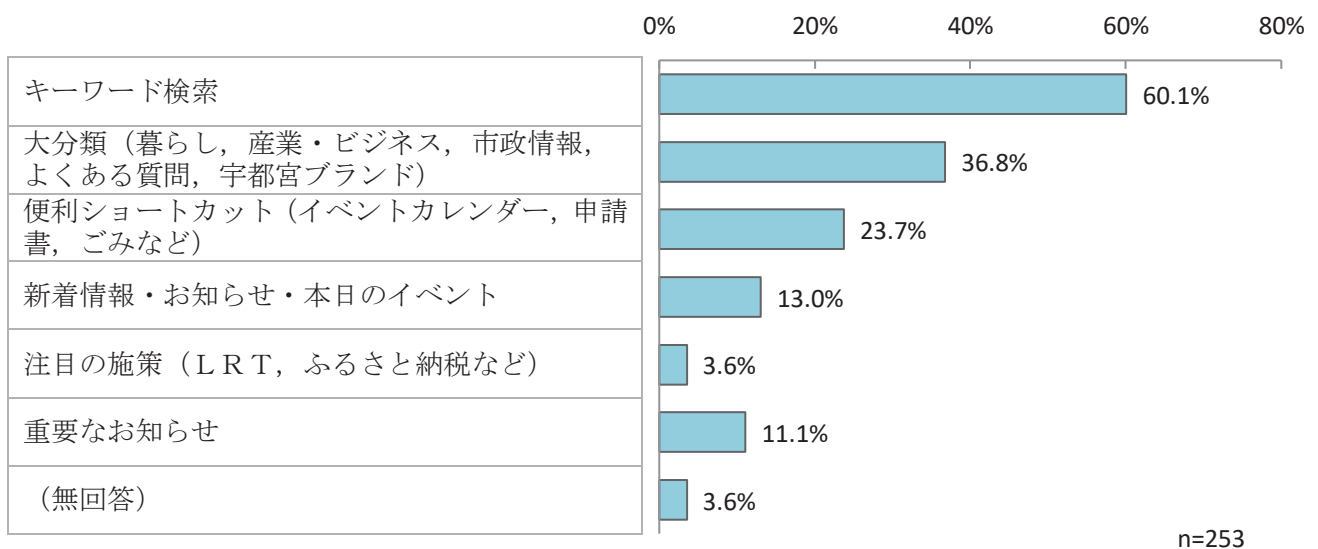


(7) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

◇ 「キーワード検索」が約6割

問10	問9で1～4に○をつけた方にお聞きます。ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探しますか。	(○は3つまで)	n=253
1	キーワード検索		60.1%
2	大分類 (暮らし, 産業・ビジネス, 市政情報, よくある質問, 宇都宮ブランド)		36.8%
3	便利ショートカット (イベントカレンダー, 申請書, ごみなど)		23.7%
4	新着情報・お知らせ・本日のイベント		13.0%
5	注目の施策 (LRT, ふるさと納税など)		3.6%
6	重要なお知らせ		11.1%
	(無回答)		3.6%

<図IV-2-29>全体



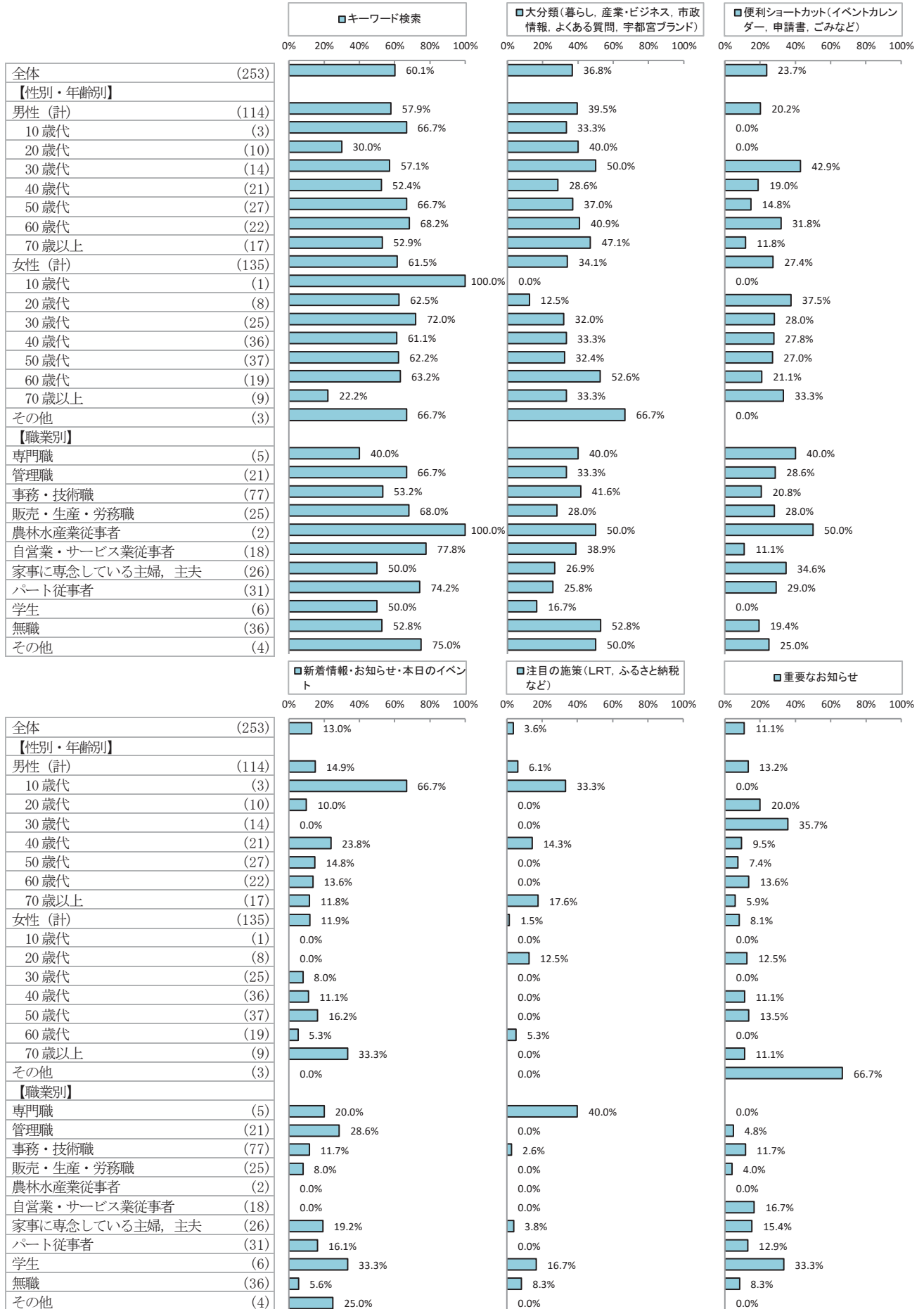
ホームページで知りたい情報はどこから探すかは、「キーワード検索」が60.1%で最も高く、次いで「大分類 (暮らし, 産業・ビジネス, 市政情報, よくある質問, 宇都宮ブランド)」が36.8%と続いている。(図IV-2-29)

<参考>

上位6項目について性別・年齢別で見ると、「キーワード検索」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が72.0%であった。「大分類 (暮らし, 産業・ビジネス, 市政情報, よくある質問, 宇都宮ブランド)」はその他を除くと、<女性/60歳代>が52.6%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が50.0%であった。(図IV-2-30)

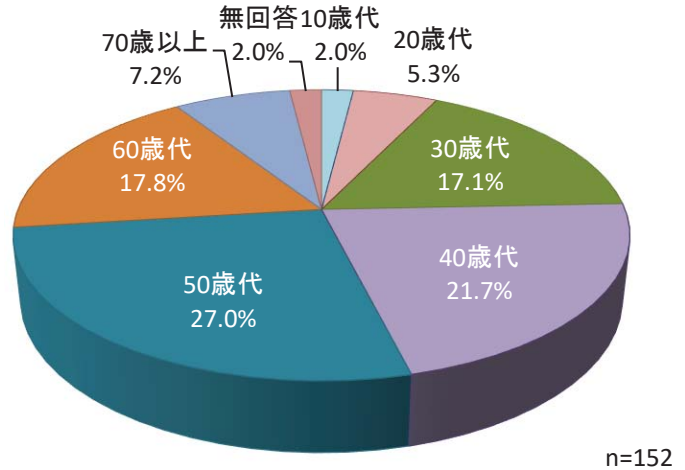
職業別で見ると、「キーワード検索」は<農林水産業従事者>が100.0%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が77.8%であった。「大分類 (暮らし, 産業・ビジネス, 市政情報, よくある質問, 宇都宮ブランド)」はその他を除くと、<無職>が52.8%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>が50.0%であった。(図IV-2-30)

<図IV-2-30>性別・年齢別／職業別（上位6項目）



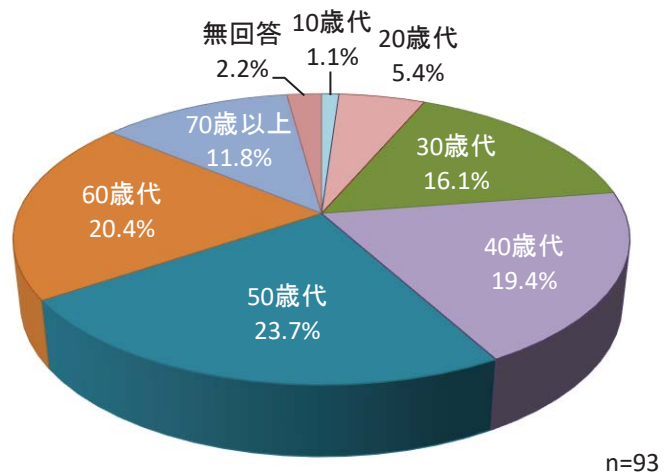
<図Ⅳ-2-31> 【キーワード検索】 年齢別

【年齢別】	
10 歳代	2.0%
20 歳代	5.3%
30 歳代	17.1%
40 歳代	21.7%
50 歳代	27.0%
60 歳代	17.8%
70 歳以上	7.2%
無回答	2.0%



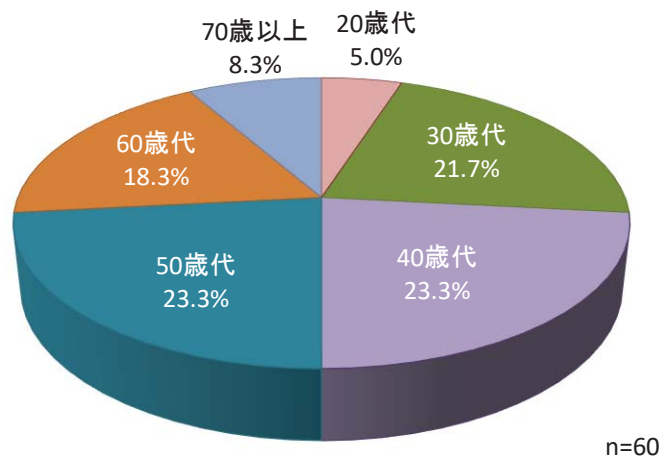
<図Ⅳ-2-32> 【大分類（暮らし、産業・ビジネス、市政情報、よくある質問、宇都宮ブランド）】 年齢別

【年齢別】	
10 歳代	1.1%
20 歳代	5.4%
30 歳代	16.1%
40 歳代	19.4%
50 歳代	23.7%
60 歳代	20.4%
70 歳以上	11.8%
無回答	2.2%



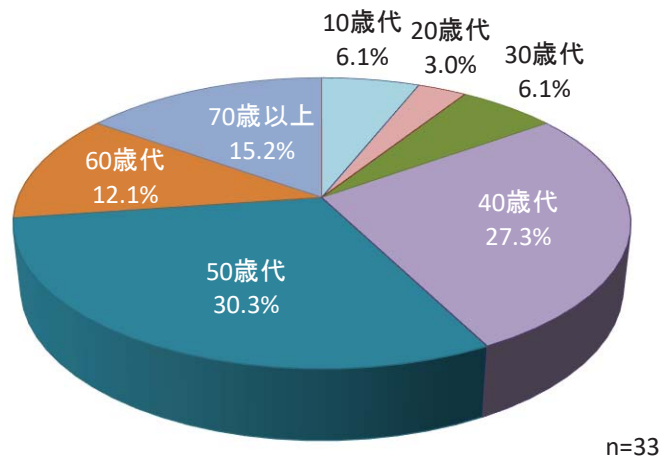
<図Ⅳ-2-33> 【便利ショートカット（イベントカレンダー、申請書、ごみなど）】 年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	5.0%
30 歳代	21.7%
40 歳代	23.3%
50 歳代	23.3%
60 歳代	18.3%
70 歳以上	8.3%
無回答	0.0%



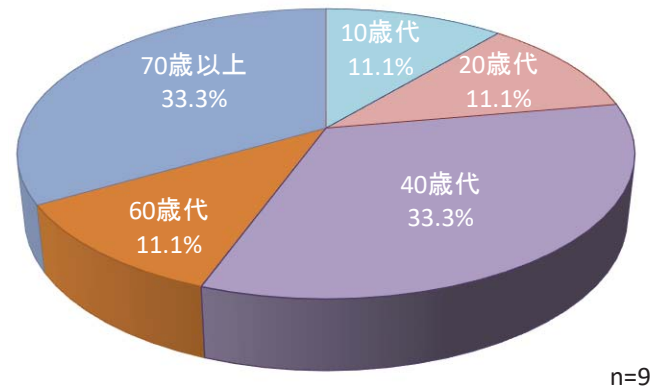
<図Ⅳ-2-34> 【新着情報・お知らせ・本日のイベント】年齢別

【年齢別】	
10歳代	6.1%
20歳代	3.0%
30歳代	6.1%
40歳代	27.3%
50歳代	30.3%
60歳代	12.1%
70歳以上	15.2%
無回答	0.0%



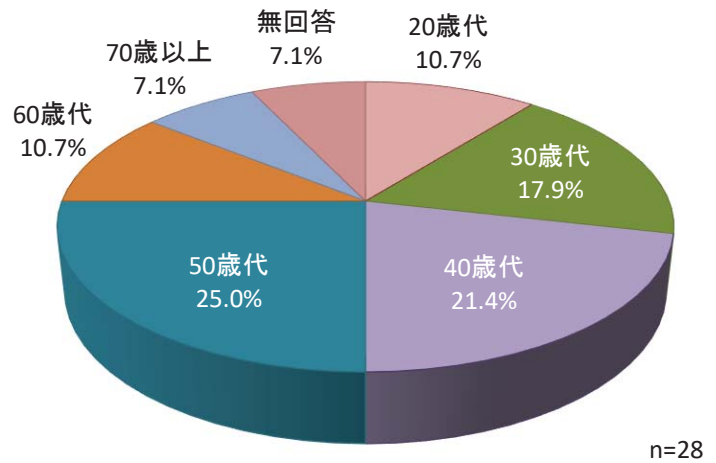
<図Ⅳ-2-35> 【注目の施策（LRT, ふるさと納税など）】年齢別

【年齢別】	
10歳代	11.1%
20歳代	11.1%
30歳代	0.0%
40歳代	33.3%
50歳代	0.0%
60歳代	11.1%
70歳以上	33.3%
無回答	0.0%



<図Ⅳ-2-36> 【重要なお知らせ】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	10.7%
30歳代	17.9%
40歳代	21.4%
50歳代	25.0%
60歳代	10.7%
70歳以上	7.1%
無回答	7.1%

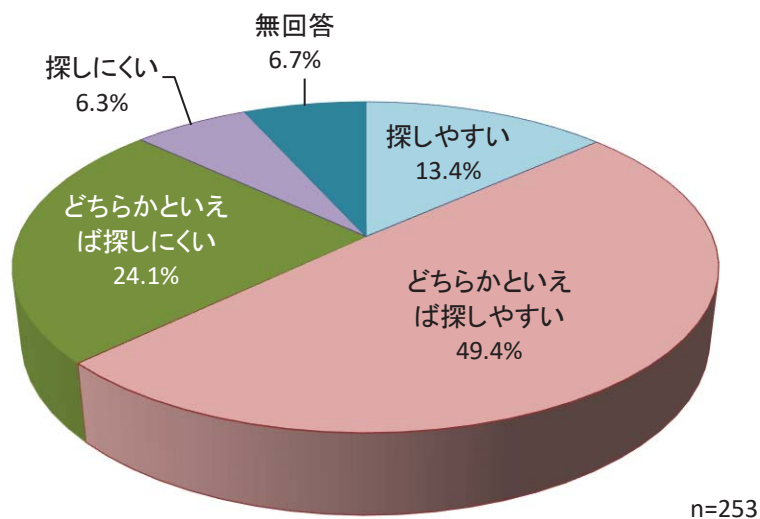


(8) ホームページで知りたい情報は探しやすいか

◇ 「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい(計)】が6割強

問11	問9で1～4に○をつけた方にお聞きます。ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいですか。	(○は1つ)	n=253
1	探しやすい		13.4%
2	どちらかといえば探しやすい		49.4%
3	どちらかといえば探しにくい		24.1%
4	探しにくい		6.3%
	(無回答)		6.7%

<図IV-2-37>全体



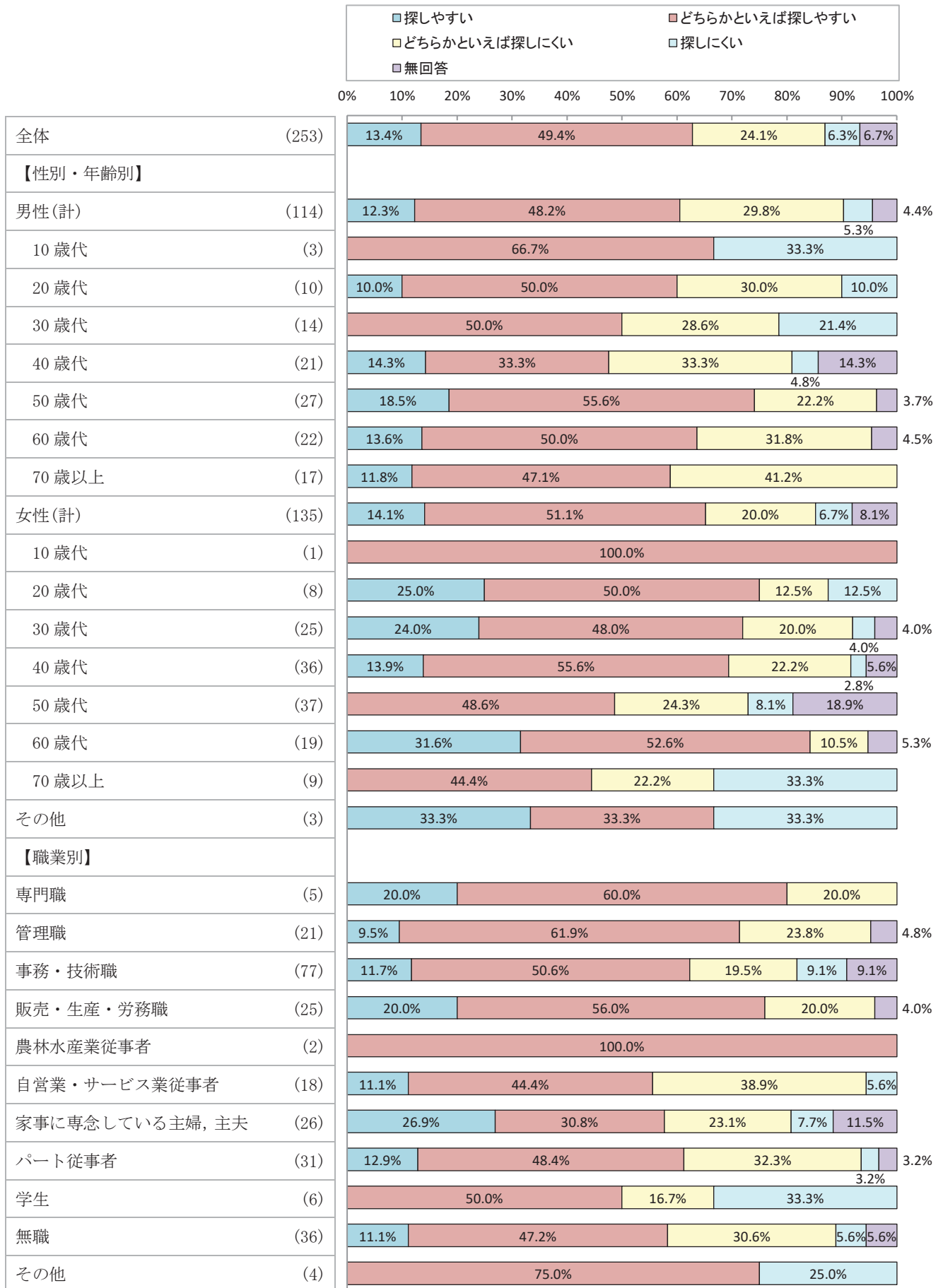
ホームページで知りたい情報は探しやすいかについて、「探しやすい」が13.4%、「どちらかといえば探しやすい」が49.4%で、これらを合わせた【探しやすい(計)】が62.8%であった。一方、「どちらかといえば探しにくい」24.1%、「探しにくい」6.3%で、これらを合わせた【探しにくい(計)】は30.4%であった。(図IV-2-37)

<参考>

性別・年齢別でみると、【探しやすい(計)】は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が84.2%であった。一方、【探しにくい(計)】は<男性/30歳以上>が50.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が41.2%であった。(図IV-2-38)

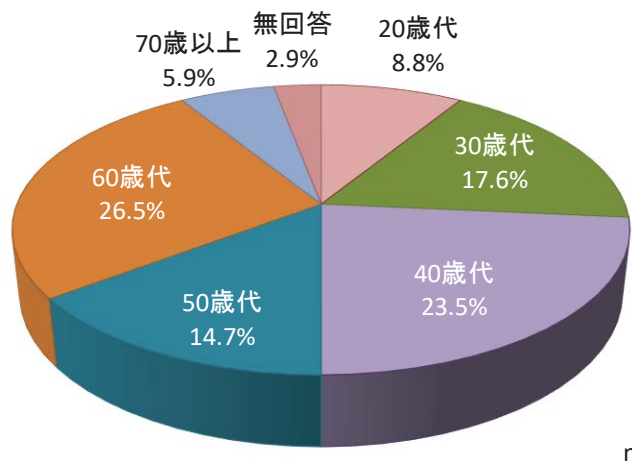
職業別でみると、【探しやすい(計)】は<農林水産業従事者>が100.0%で最も高く、次いで<専門職>が80.0%であった。【探しにくい(計)】は<学生>が50.0%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が44.5%であった。(図IV-2-38)

<図IV-2-38>性別・年齢別/職業別



<図Ⅳ-2-39> 【探しやすい】年齢別

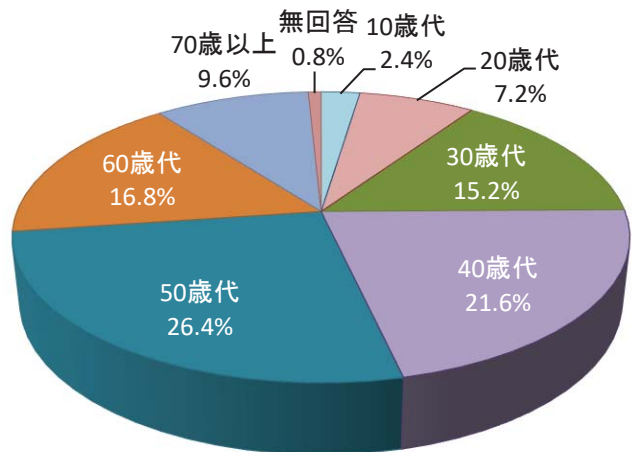
【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	8.8%
30歳代	17.6%
40歳代	23.5%
50歳代	14.7%
60歳代	26.5%
70歳以上	5.9%
無回答	2.9%



n=34

<図Ⅳ-2-40> 【どちらかといえば探しやすい】年齢別

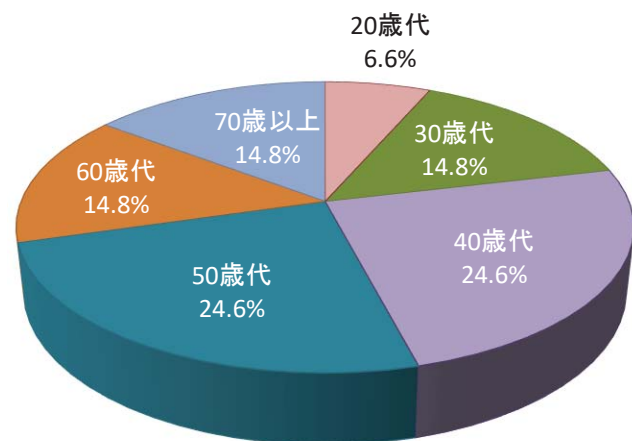
【年齢別】	
10歳代	2.4%
20歳代	7.2%
30歳代	15.2%
40歳代	21.6%
50歳代	26.4%
60歳代	16.8%
70歳以上	9.6%
無回答	0.8%



n=125

<図Ⅳ-2-41> 【どちらかといえば探しにくい】年齢別

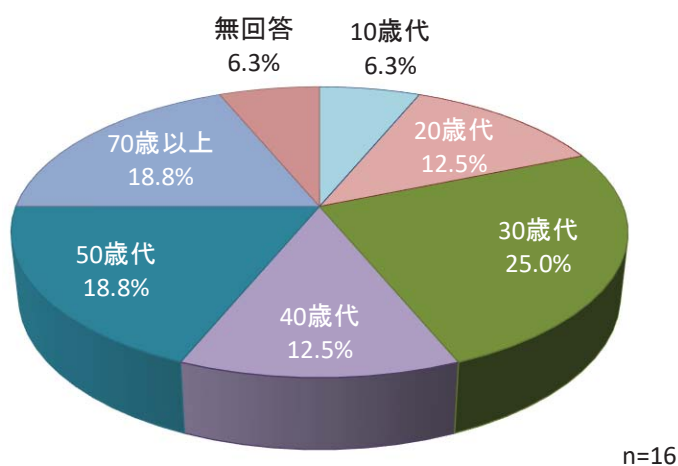
【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	6.6%
30歳代	14.8%
40歳代	24.6%
50歳代	24.6%
60歳代	14.8%
70歳以上	14.8%
無回答	0.0%



n=61

<図Ⅳ-2-42> 【探しにくい】年齢別

【年齢別】	
10歳代	6.3%
20歳代	12.5%
30歳代	25.0%
40歳代	12.5%
50歳代	18.8%
60歳代	0.0%
70歳以上	18.8%
無回答	6.3%



(9) ホームページに関する感想, 充実してほしい機能や情報

問12 ホームページに関する感想, 充実してほしい機能や情報などをお書きください。

ホームページに関する感想, 充実してほしい機能や情報などについては, 以下のような意見があった。(原文のまま)

【情報】

- ◆ LRT が開通しても、赤字路線になるのは目に見えてる。今後かかる工事費や運営費、それに見合う売り上げがあるのか、詳しく知りたい。
- ◆ 市民以外の方への情報発信をもっとした方が良い。観光案内、飲食店案内など。
- ◆ 特に市内のスポーツ情報、飲食店の内容等。
- ◆ 積極的に PR してほしい。
- ◆ 医療の情報。
- ◆ 高齢者にもパソコンが使えるようなエクササイズのを設けてほしい。
- ◆ 来庁やペーパレスを踏まえ、ホームページから諸手続が直接出来る機能や簡素化した機能など。
- ◆ 暮らしに便利な情報。
- ◆ 新型コロナに関する情報。
- ◆ 私は精神障がい者で B 型事業所を探しているのですが、更新を早くしてほしいです。
- ◆ 最新の情報をわかりやすく載せてほしい。
- ◆ 保育園のその月毎の空き状況など、ホームページを確認するだけで分かる様になると便利だと感じます。
- ◆ 宇都宮市のハザードマップなど危険な場所などがわかる地図があると助かる。
- ◆ 支援制度等まとめて見たい。

【見やすさ・分かりやすさ】

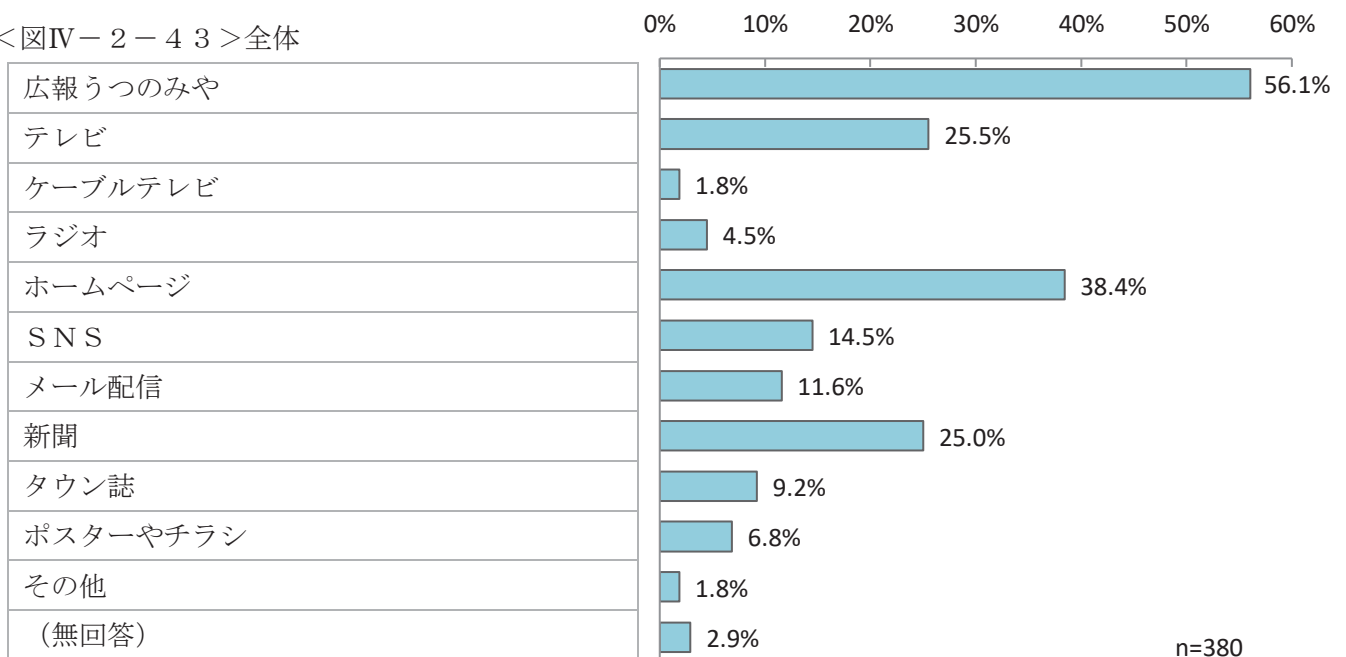
- ◆ 課の連絡先も書いてありますし、見やすいです。
- ◆ ホームページの掲載情報がタイムラインで遅く、内容も伝わりづらい。検索してもリンクしない。
- ◆ 他市町を参考に常に改善更新してほしい。
- ◆ 各課の電話番号は書いてあるが、直接行く時にどこなのか分かりにくいので、一緒に階数等が書いてあると分かりやすい。
- ◆ ホームページは自ら調べることがないと見えないので、SNSでいろんな情報を発信してくれた方が、いろんな事を知りやすいです。
- ◆ 問6を答えるに際し「広報うつのみや」の PDF を探してみましたが、たどり着くまでに迷いました。もう少しリンクが分かりやすいとありがたいと思いました。
- ◆ 市政に新たな提案をしたい時、気楽に出来るように、何らかの窓口を開設するなり、システムを構築してほしい。
- ◆ リンクをクリックすると、またリンクのような、リンクのネストを解消してほしい。
- ◆ ホームページの背景をもっと派手にして、宇都宮市の良いところをアピールして欲しい。

(10) 市政情報をどんな手段で知りたいか

◇ 「広報うつのみや」が5割半ば

問13	今後、市政情報をどんな手段で知りたいですか。	(〇は3つまで)
		n=380
1	広報うつのみや	56.1%
2	テレビ	25.5%
3	ケーブルテレビ	1.8%
4	ラジオ	4.5%
5	ホームページ	38.4%
6	SNS	14.5%
7	メール配信	11.6%
8	新聞	25.0%
9	タウン誌	9.2%
10	ポスターやチラシ	6.8%
11	その他	1.8%
	(無回答)	2.9%

<図IV-2-43>全体



今後、市政情報をどんな手段で知りたいかは、「広報うつのみや」が56.1%で最も高く、次いで「ホームページ」が38.4%と続いている。(図IV-2-43)

その他の意見としては、「自治会回覧」「You Tube」「LINE」「アプリ」があった。

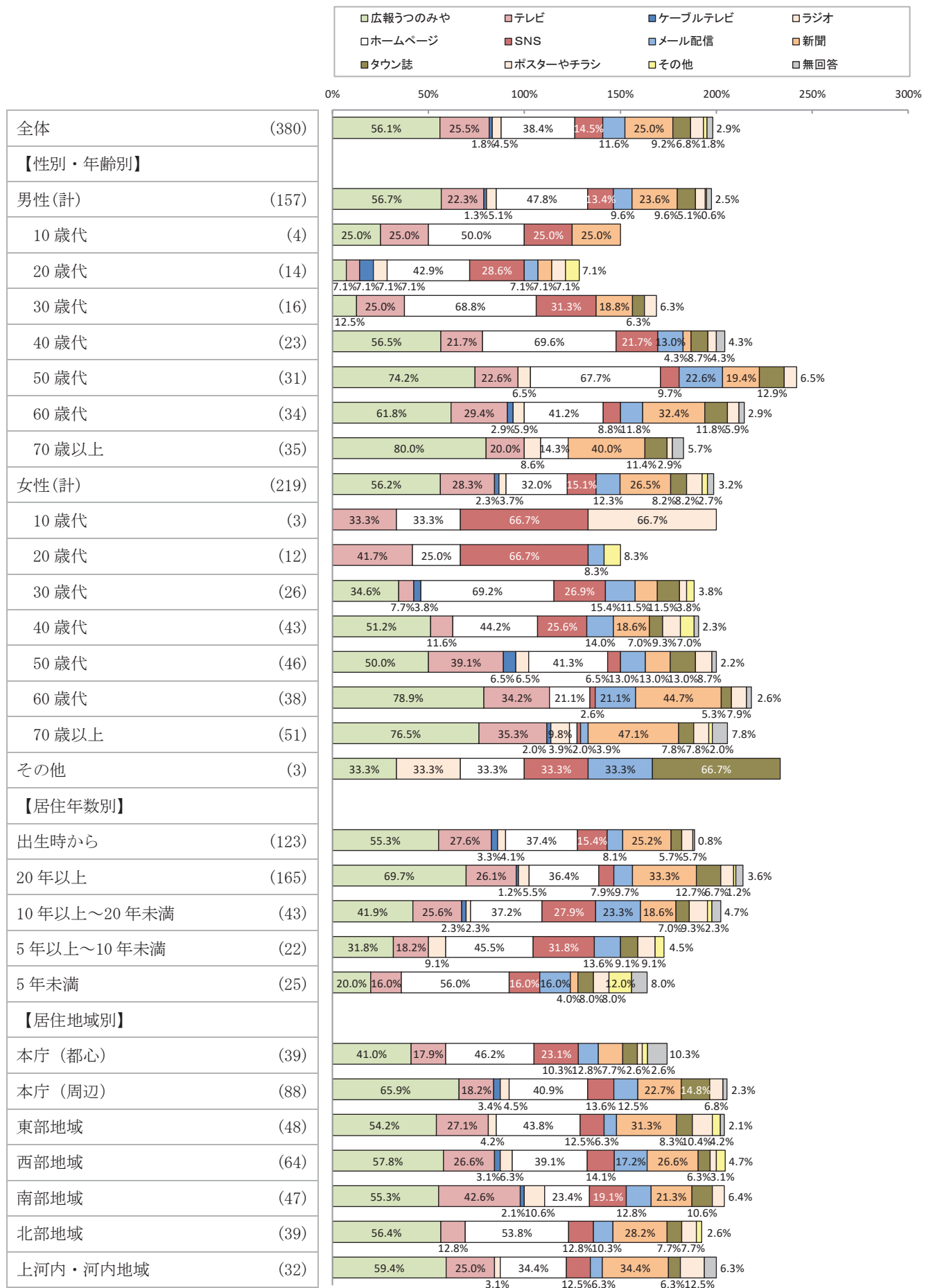
<参考>

性別・年齢別で見ると、「広報うつのみや」は<男性/70歳以上>が80.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が78.9%であった。「ホームページ」は<男性/40歳以上>が69.6%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が69.2%であった。(図IV-2-44)

居住年数別で見ると、「広報うつのみや」は<20年以上>が69.7%で最も高く、次いで<出生時から>が55.3%であった。「ホームページ」は<5年未満>が56.0%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が45.5%であった。(図IV-2-44)

居住地域別で見ると、「広報うつのみや」は<本庁(周辺)>が65.9%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が59.4%であった。「ホームページ」は<北部地域>が53.8%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が46.2%であった。(図IV-2-44)

<図IV-2-44>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別



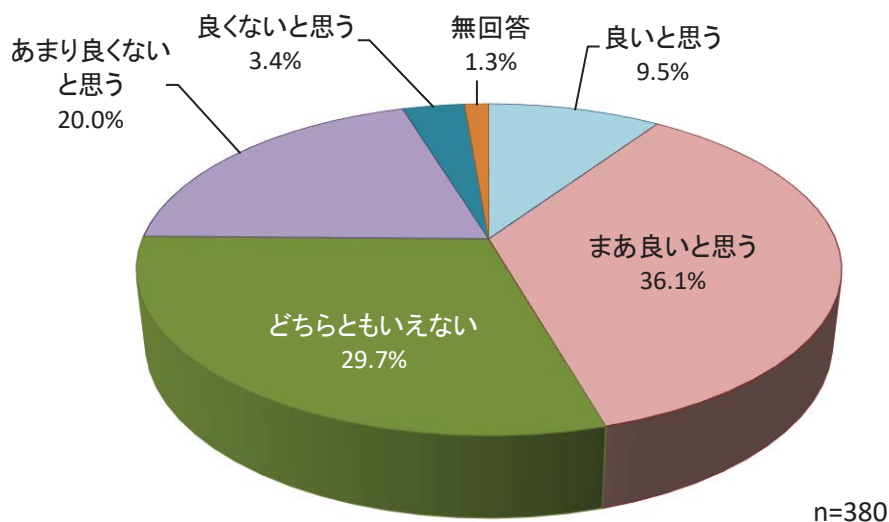
3. 健康づくりについて

(1) 健康面からの生活習慣

◇ 「良いと思う」と「まあ良いと思う」を合わせた【良いと思う（計）】が4割半ば

問14 健康の面から見て、自分の生活習慣をどう思いますか。(○は1つ)		n=380
1	良いと思う	9.5%
2	まあ良いと思う	36.1%
3	どちらともいえない	29.7%
4	あまり良くないと思う	20.0%
5	良くないと思う	3.4%
	(無回答)	1.3%

<図IV-3-1>全体



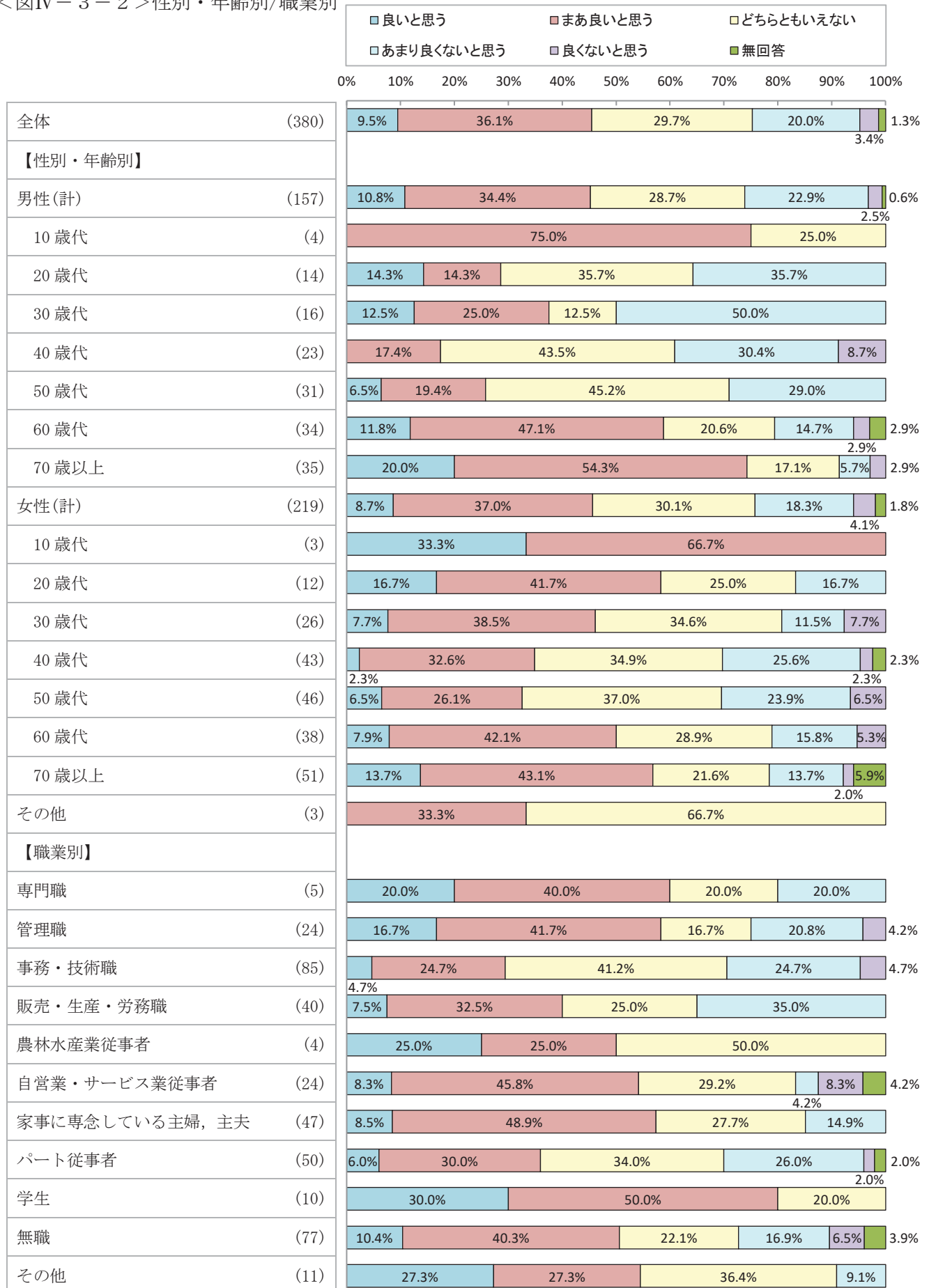
健康面からの生活習慣について、「良いと思う」が9.5%、「まあ良いと思う」が36.1%で、これらを合わせた【良いと思う（計）】が45.6%であった。一方、「あまり良くないと思う」20.0%、「良くないと思う」3.4%で、これらを合わせた【良くないと思う（計）】は23.4%であった。(図IV-3-1)

<参考>

性別・年齢別でみると、【良いと思う（計）】は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が75.0%であった。一方、【良くないと思う（計）】は<男性/30歳代>が50.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が39.1%であった。(図IV-3-2)

職業別でみると、【良いと思う（計）】は<学生>が80.0%で最も高く、次いで<専門職>が60.0%であった。一方、【良くないと思う（計）】は<販売・生産・労務職>が35.0%で最も高く、次いで<事務・技術職>が29.4%であった。(図IV-3-2)

<図IV-3-2>性別・年齢別/職業別

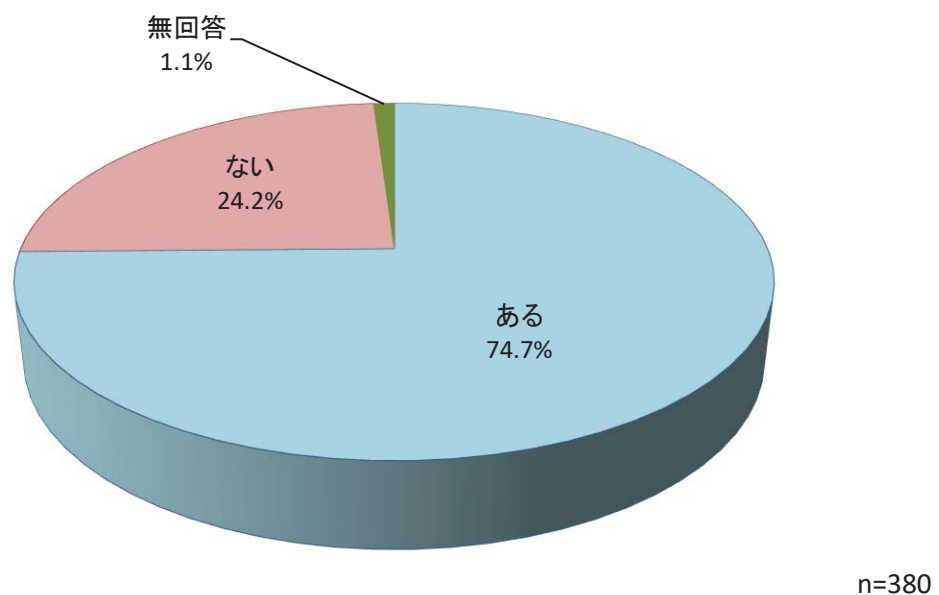


(2) 相談できるかかりつけの歯科医院

◇ 「ある」が7割半ば

問15	歯と口の健康に関する治療や相談ができるかかりつけの歯科医院はありますか。(○は1つ)	n=380
1	ある	74.7%
2	ない	24.2%
	(無回答)	1.1%

<図IV-3-3>全体



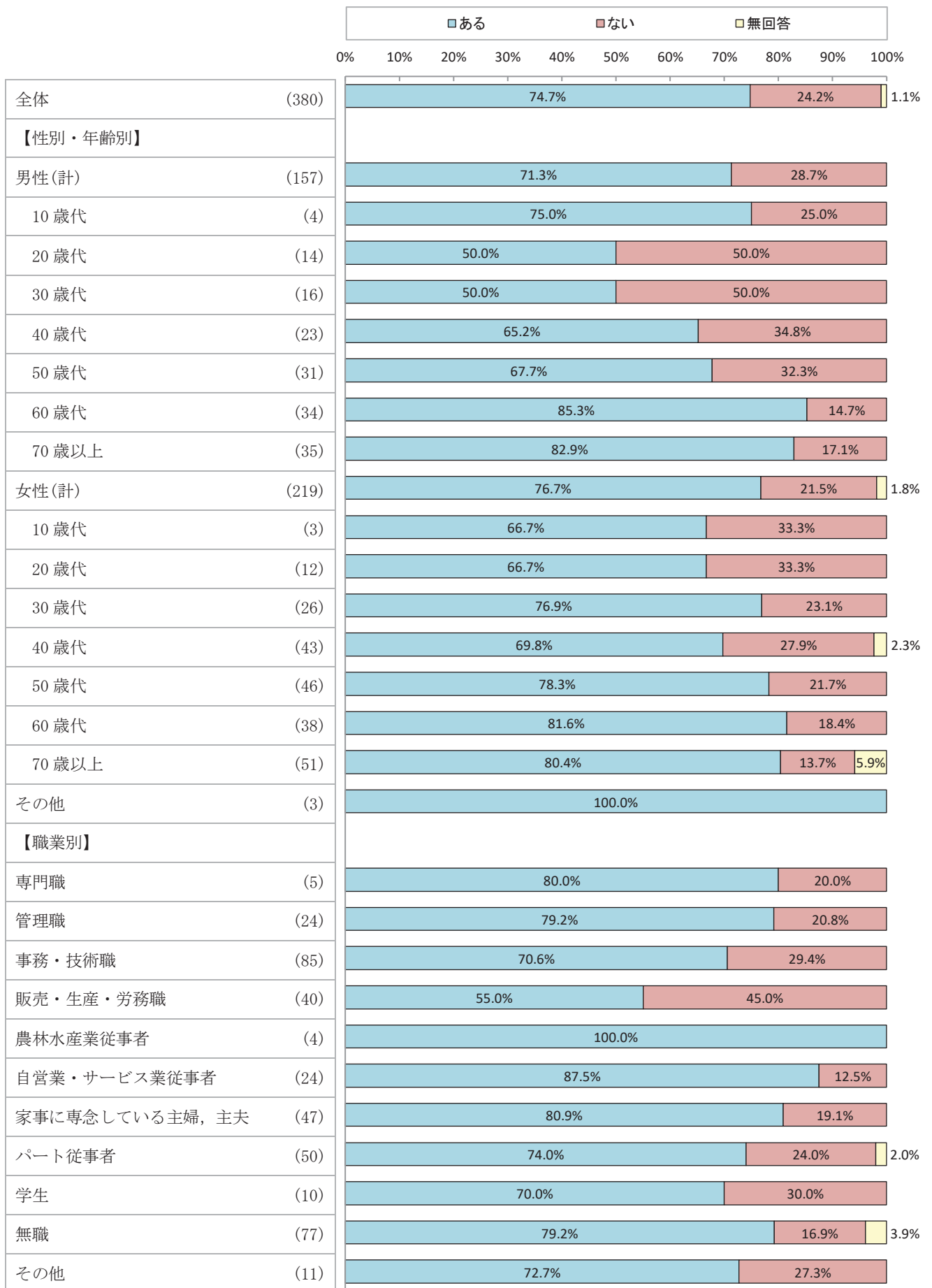
相談できるかかりつけの歯科医院について、「ある」が74.7%、一方「ない」は24.2%であった。(図IV-3-3)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「ある」は<その他>を除くと<男性/60歳代>が85.3%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が82.9%であった。「ある」は、性別・年齢別に関係なく5割以上となっている。一方、「ない」は<男性/20歳代>と<男性/30歳代>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が34.8%と続いている。(図IV-3-4)

職業別で見ると、「ある」は<農林水産業従事者>が100.0%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が87.5%であった。一方、「ない」は<販売・生産・労務職>が45.0%で最も高く、次いで<学生>が30.0%であった。(図IV-3-4)

<図IV-3-4>性別・年齢別/職業別



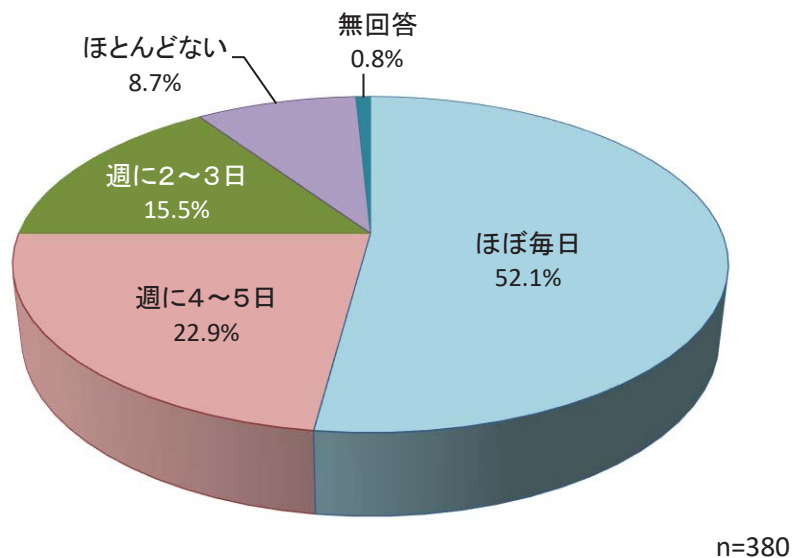
(3) 主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数

◇ 「ほぼ毎日」が5割強

問16 主食・主菜・副菜(※)をそろえて食べるのが1日2回以上あるのは週に何日ありますか。
 ※主食とは、ごはん・パン・めん類などの穀物でエネルギー源となるもの。主菜とは、肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理など、副菜とは、野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理など (○は1つ)

		n=380
1	ほぼ毎日	52.1%
2	週に4～5日	22.9%
3	週に2～3日	15.5%
4	ほとんどない	8.7%
	(無回答)	0.8%

<図IV-3-5>全体



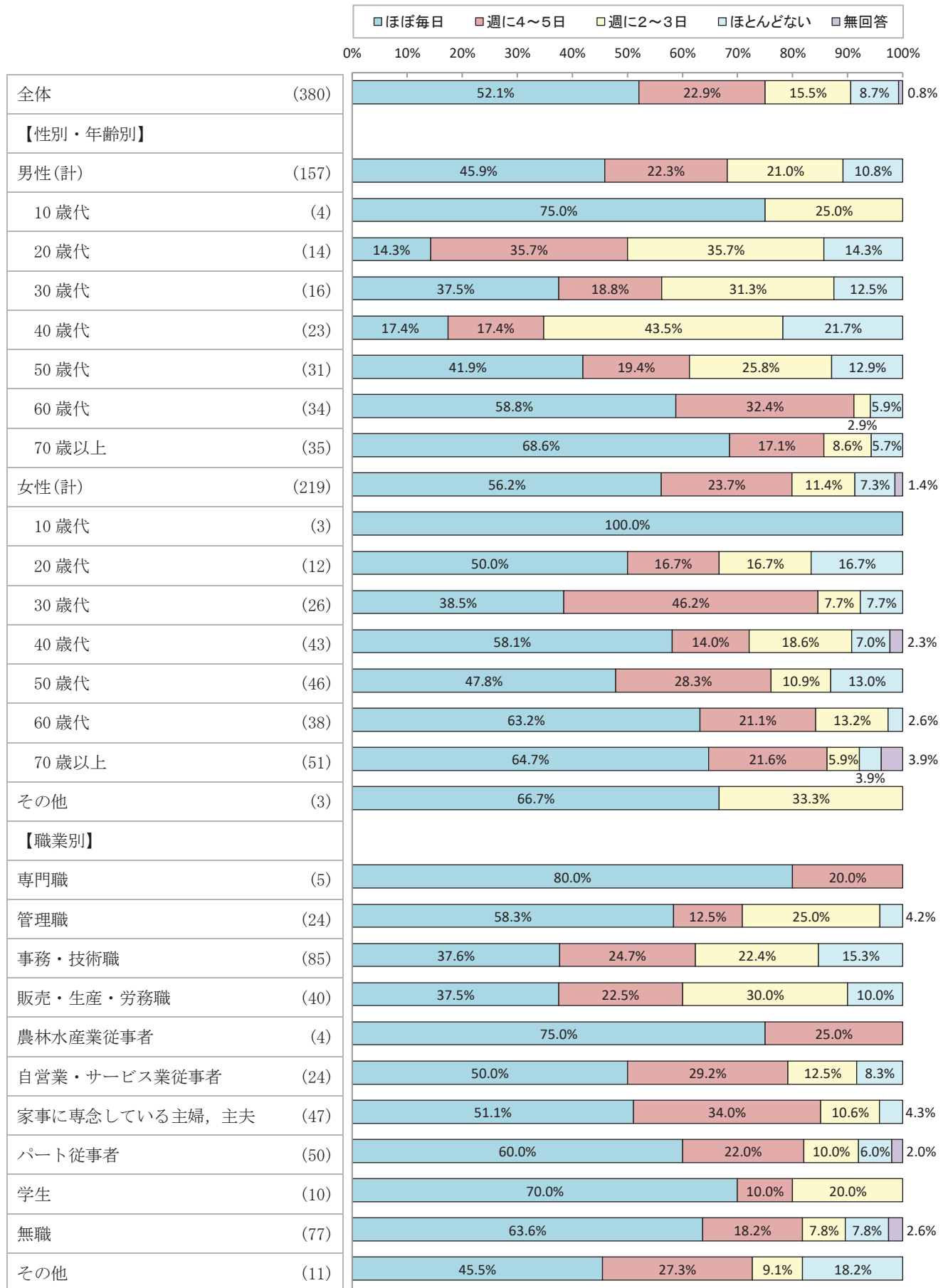
主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数については、「ほぼ毎日」が52.1%で最も高く、次いで「週に4～5日」が22.9%、「週に2～3日」が15.5%と続いている。(図IV-3-5)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「ほぼ毎日」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が75.0%と続いている。一方、「ほとんどない」は<男性/40歳代>が21.7%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が16.7%と続いている。(図IV-3-6)

職業別で見ると、「ほぼ毎日」は<専門職>が80.0%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>が75.0%であった。一方、「ほとんどない」は<その他>を除くと<事務・技術職>が15.3%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が10.0%であった。(図IV-3-6)

<図IV-3-6>性別・年齢別/職業別



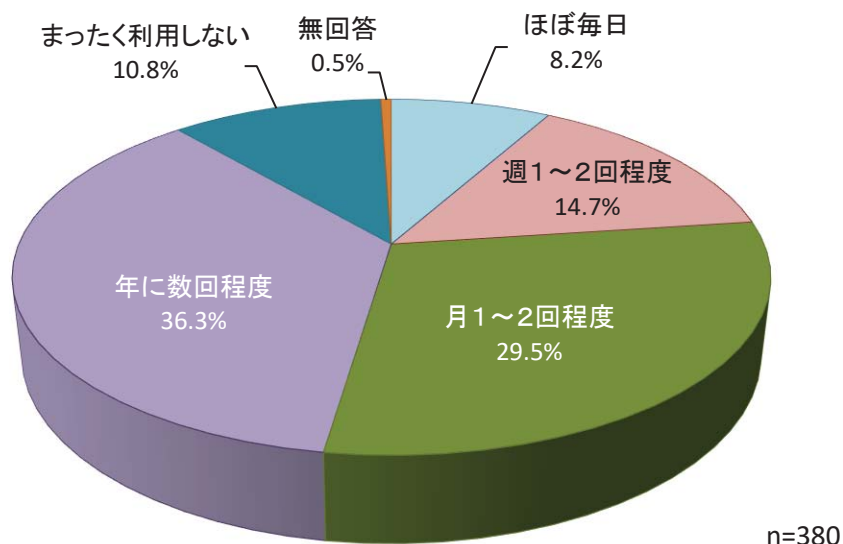
4. 中心市街地の活性化について

(1) 中心市街地に出かける頻度

◇ 「年に数回程度」が3割半ば

問17	あなたは、中心市街地にどのくらいの頻度で出かけますか。	(○は1つ)
		n=380
1	ほぼ毎日	8.2%
2	週1～2回程度	14.7%
3	月1～2回程度	29.5%
4	年に数回程度	36.3%
5	まったく利用しない	10.8%
	(無回答)	0.5%

<図IV-4-1>全体



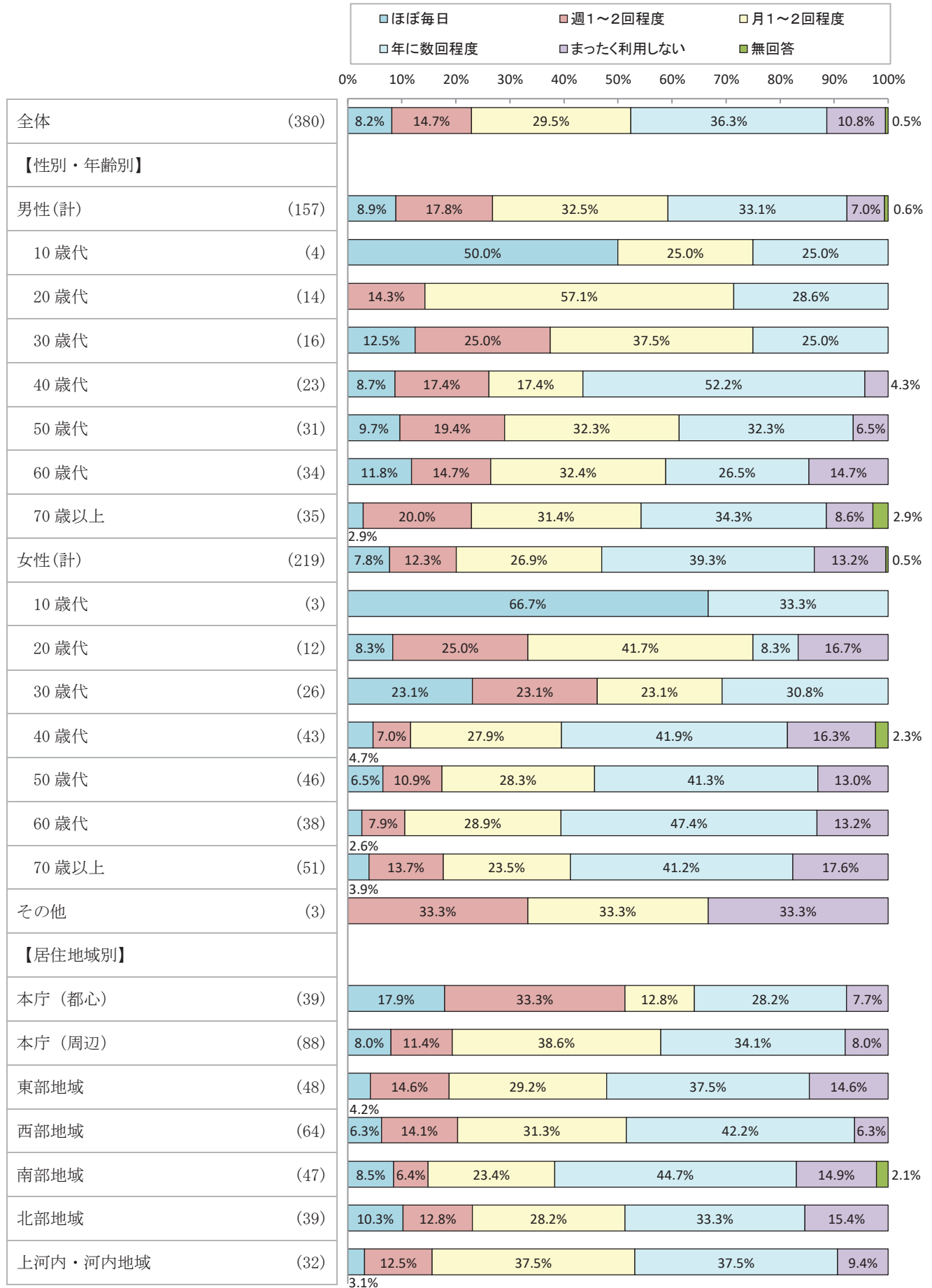
中心市街地に出かける頻度については、「年に数回程度」が36.3%で最も高く、次いで「月1～2回程度」が29.5%、「週1～2回程度」が14.7%と続いている。(図IV-4-1)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「年に数回程度」は<男性/40歳代>が52.2%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が47.4%であった。一方、「まったく利用しない」は<その他>が33.3%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が17.6%と続いている。(図IV-4-2)

居住地域別で見ると、「年に数回程度」は<南部地域>が44.7%で最も高く、次いで<西部地域>が42.2%であった。一方、「まったく利用しない」は<北部地域>が15.4%で最も高く、次いで<南部地域>が14.9%であった。(図IV-4-2)

<図IV-4-2>性別・年齢別/居住地域別

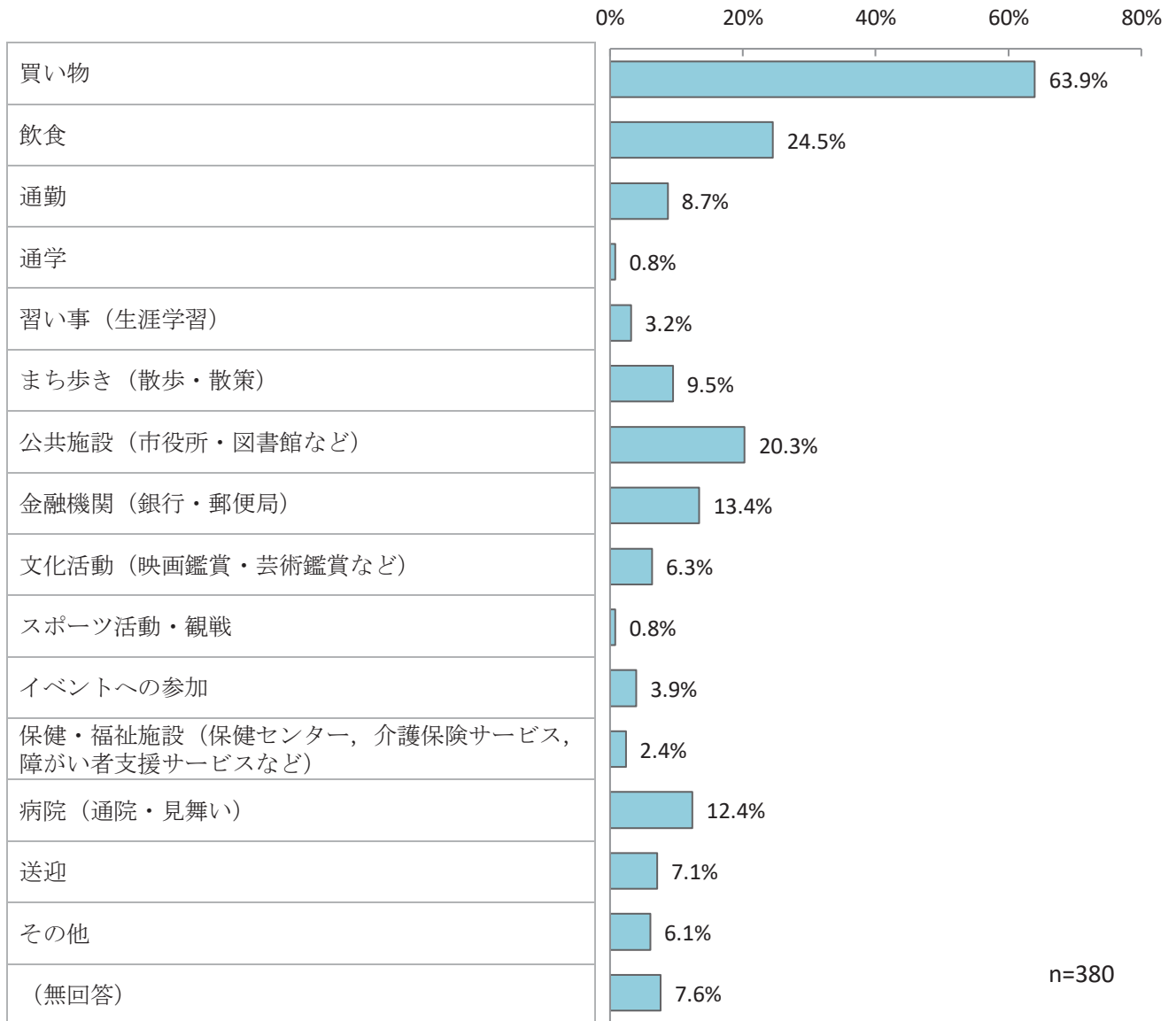


(2) 中心市街地へ出かける目的

◇ 「買い物」が6割半ば

問18	あなたが中心市街地へ出かける目的は何ですか。問17で「5 まったく利用しない」と答えた方は、どのような魅力があったら中心市街地へ出かけますか。(〇は3つまで)	n=380
1	買い物	63.9%
2	飲食	24.5%
3	通勤	8.7%
4	通学	0.8%
5	習い事(生涯学習)	3.2%
6	まち歩き(散歩・散策)	9.5%
7	公共施設(市役所・図書館など)	20.3%
8	金融機関(銀行・郵便局)	13.4%
9	文化活動(映画鑑賞・芸術鑑賞など)	6.3%
10	スポーツ活動・観戦	0.8%
11	イベントへの参加	3.9%
12	保健・福祉施設(保健センター, 介護保険サービス, 障がい者支援サービスなど)	2.4%
13	病院(通院・見舞い)	12.4%
14	送迎	7.1%
15	その他	6.1%
	(無回答)	7.6%

<図IV-4-3>全体



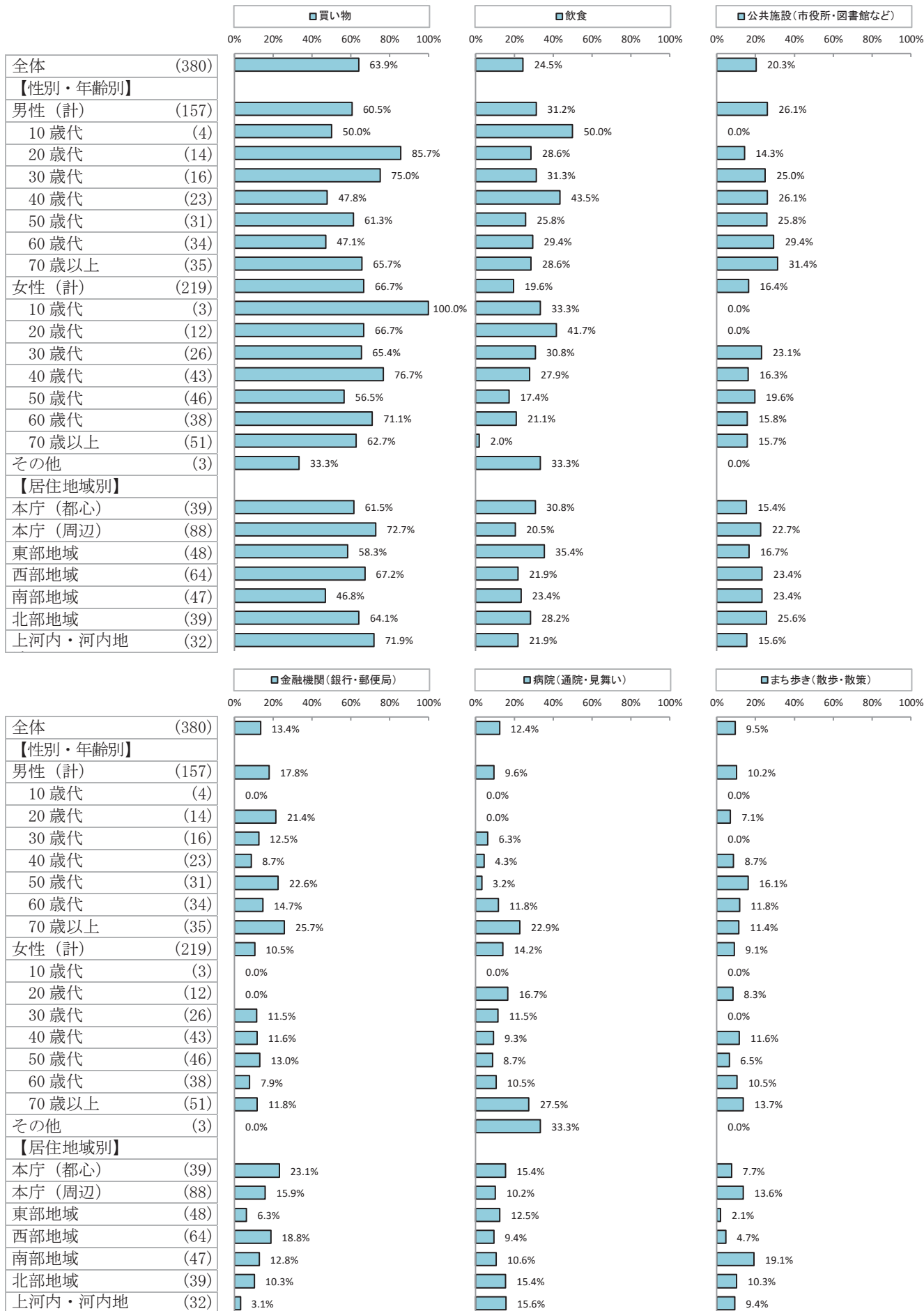
中心市街地へ出かける目的については、「買い物」が63.9%で最も高く、次いで「飲食」が24.5%と続いている。（図IV-4-3）

<参考>

上位6項目について性別・年齢別でみると、「買い物」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が85.7%であった。「飲食」は<男性/10歳代>が50.0%、「公共施設（市役所・図書館など）」は<男性/70歳以上>が31.4%、「金融機関（銀行・郵便局）」は<男性/70歳以上>が25.7%で最も高かった。（図IV-4-4）

居住地域別でみると、「買い物」は<本庁（周辺）>が72.7%で最も高く、「飲食」は<東部地域>が35.4%、「公共施設（市役所・図書館など）」は<北部地域>が25.6%であった。（図IV-4-4）

<図IV-4-4>性別・年齢別／居住地域別（上位6項目）

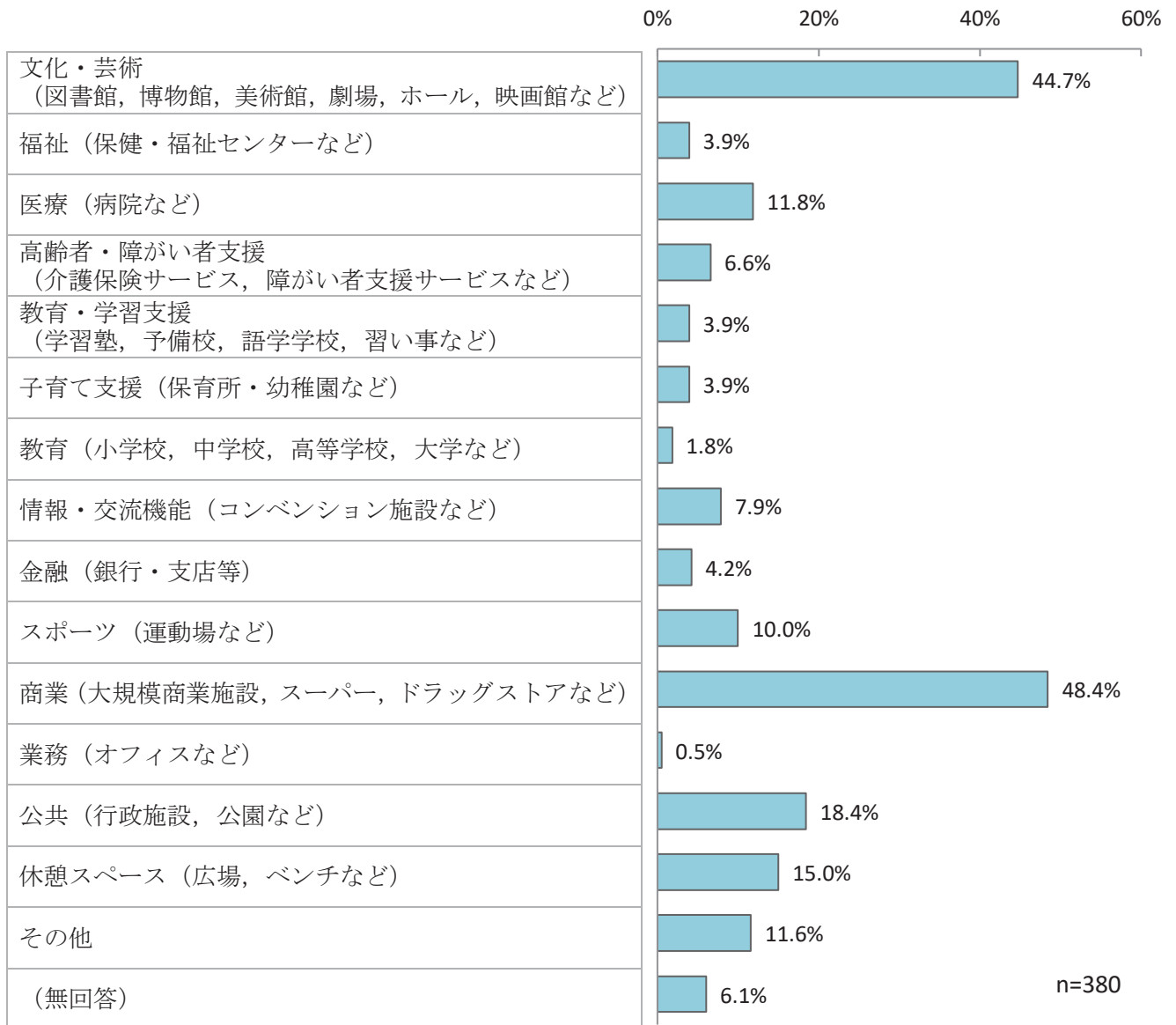


(3) より訪れたいくなるための機能や施設

◇ 「商業（大規模商業施設，スーパー，ドラッグストアなど）」が5割弱

問19	あなたが中心市街地に、より訪れたいくなるためにはどのような機能や施設が充実するとよいと思いますか。	(〇は2つまで)	n=380
1	文化・芸術（図書館，博物館，美術館，劇場，ホール，映画館など）		44.7%
2	福祉（保健・福祉センターなど）		3.9%
3	医療（病院など）		11.8%
4	高齢者・障がい者支援（介護保険サービス，障がい者支援サービスなど）		6.6%
5	教育・学習支援（学習塾，予備校，語学学校，習い事など）		3.9%
6	子育て支援（保育所・幼稚園など）		3.9%
7	教育（小学校，中学校，高等学校，大学など）		1.8%
8	情報・交流機能（コンベンション施設など）		7.9%
9	金融（銀行・支店等）		4.2%
10	スポーツ（運動場など）		10.0%
11	商業（大規模商業施設，スーパー，ドラッグストアなど）		48.4%
12	業務（オフィスなど）		0.5%
13	公共（行政施設，公園など）		18.4%
14	休憩スペース（広場，ベンチなど）		15.0%
15	その他		11.6%
	（無回答）		6.1%

<図IV-4-5>全体



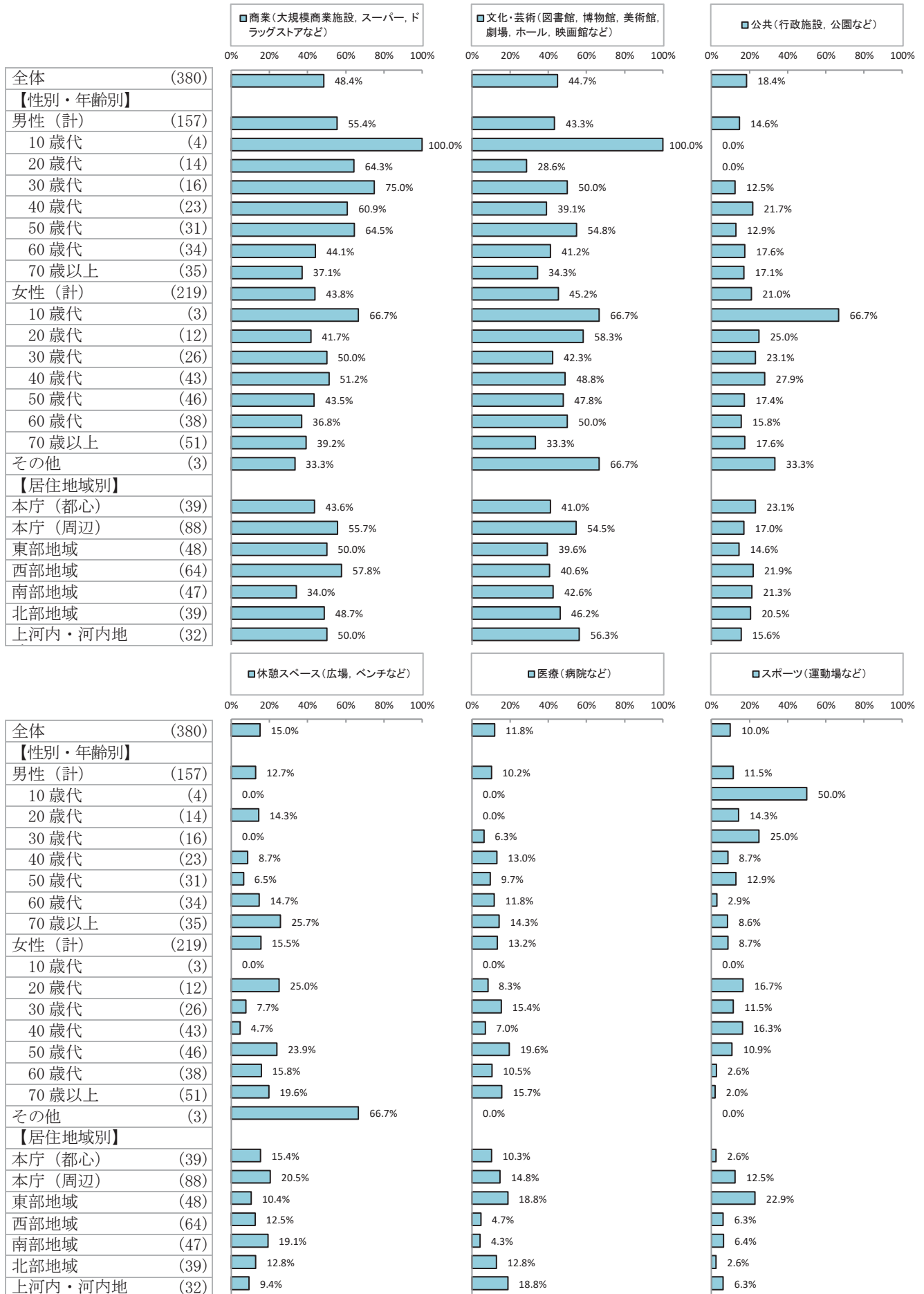
より訪れたいくなるための機能や施設については、「商業（大規模商業施設，スーパー，ドラッグストアなど）」が48.4%で最も高く，次いで「文化・芸術（図書館，博物館，美術館，劇場，ホール，映画館など）」が44.7%，「公共（行政施設，公園など）」が18.4%と続いている。（図IV-4-5）

<参考>

上位6項目について性別・年齢別でみると，「商業（大規模商業施設，スーパー，ドラッグストアなど）」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く，次いで<男性/30歳代>が75.0%であった。「文化・芸術（図書館，博物館，美術館，劇場，ホール，映画館など）」は<男性/10歳代>が100.0%，「休憩スペース（広場，ベンチなど）」は<その他>が66.7%，「医療（病院など）」は<女性/50歳代>が19.6%で最も高かった。（図IV-4-6）

居住地域別でみると，「商業（大規模商業施設，スーパー，ドラッグストアなど）」は<西部地域>が57.8%で最も高く，「文化・芸術（図書館，博物館，美術館，劇場，ホール，映画館など）」は<上河内・河内地域>が56.3%，「公共（行政施設，公園など）」は<本庁（都心）>が23.1%であった。（図IV-4-6）

<図IV-4-6>性別・年齢別/居住地域別（上位6項目）



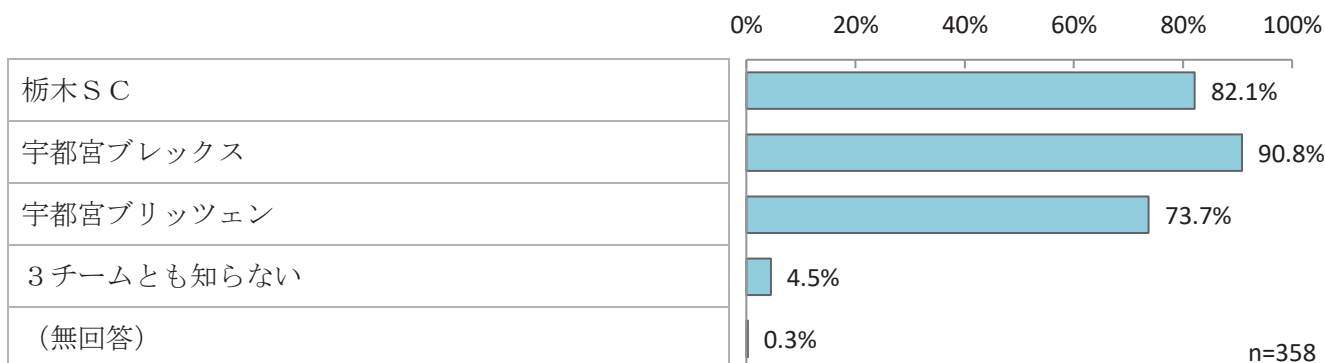
5. 宇都宮市を拠点とするプロスポーツチームについて

(1) 本市を拠点に活動するプロスポーツチームの認知度

◇ 「宇都宮ブレックス」が約9割

問20	本市を拠点に活動する3つのプロスポーツチームを知っていますか。	(○はいくつでも)	n=358
1	栃木SC		82.1%
2	宇都宮ブレックス		90.8%
3	宇都宮ブリッツェン		73.7%
4	3チームとも知らない		4.5%
	(無回答)		0.3%

<図IV-5-1>全体



本市を拠点に活動する3つのプロスポーツチームの認知度については、「宇都宮ブレックス」が90.8%で最も高く、次いで「栃木SC」が82.1%、「宇都宮ブリッツェン」が73.7%であった。(図IV-5-1)

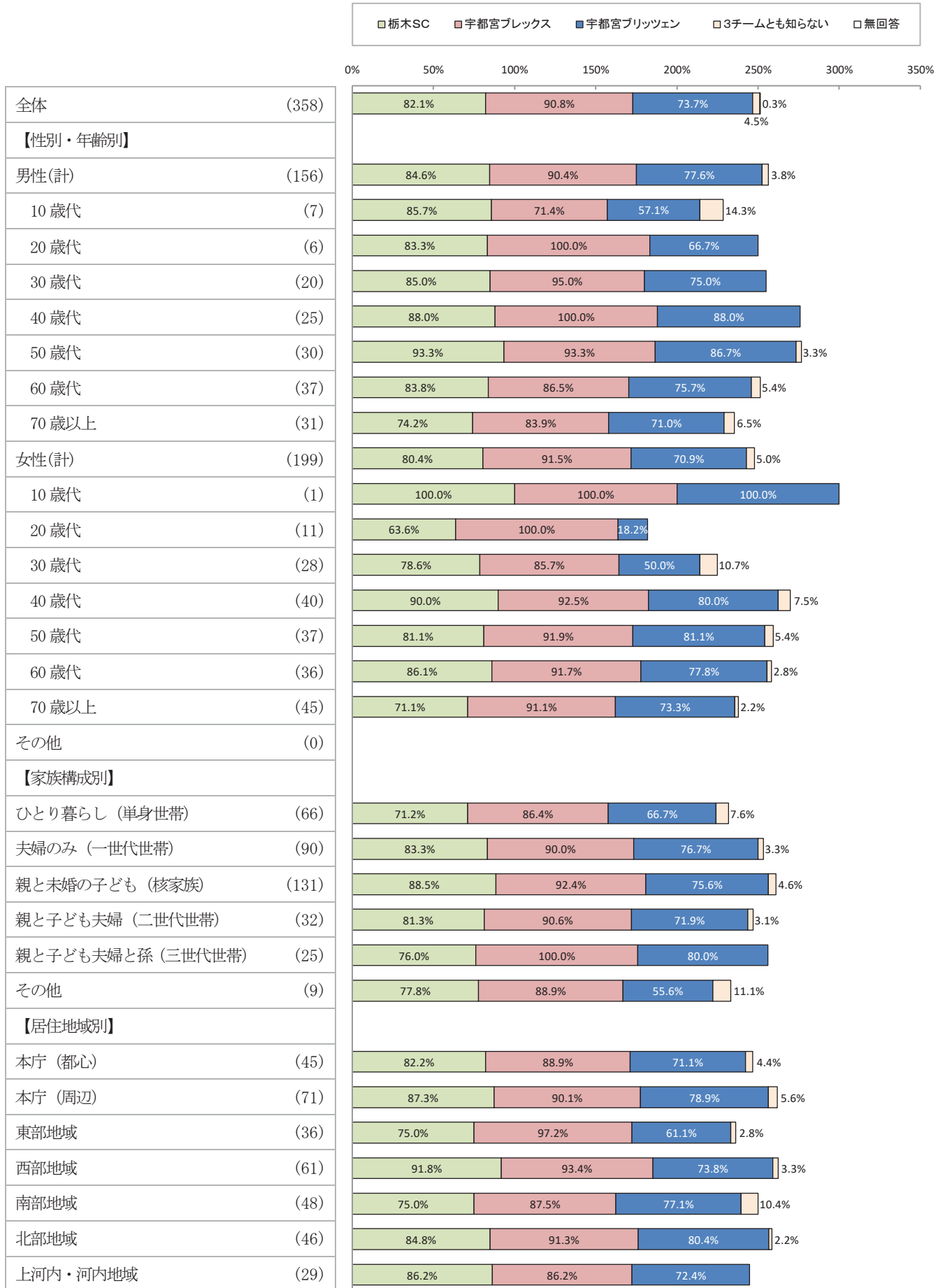
<参考>

性別・年齢別で見ると、「宇都宮ブレックス」は<男性/20歳代>、<男性/40歳代>、<女性/10歳代>、<女性/20歳代>がいずれも100.0%で最も高かった。「栃木SC」、「宇都宮ブリッツェン」は<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高かった。(図IV-5-2)

家族構成別で見ると、「宇都宮ブレックス」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が100.0%、「栃木SC」は<親と未婚の子ども(核家族)>が88.5%、「宇都宮ブリッツェン」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が80.0%で最も高かった。(図IV-5-2)

居住地域別で見ると、「宇都宮ブレックス」は<東部地域>が97.2%、「栃木SC」は<西部地域>が91.8%、「宇都宮ブリッツェン」は、<北部地域>が80.4%で最も高かった。(図IV-5-2)

<図IV-5-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

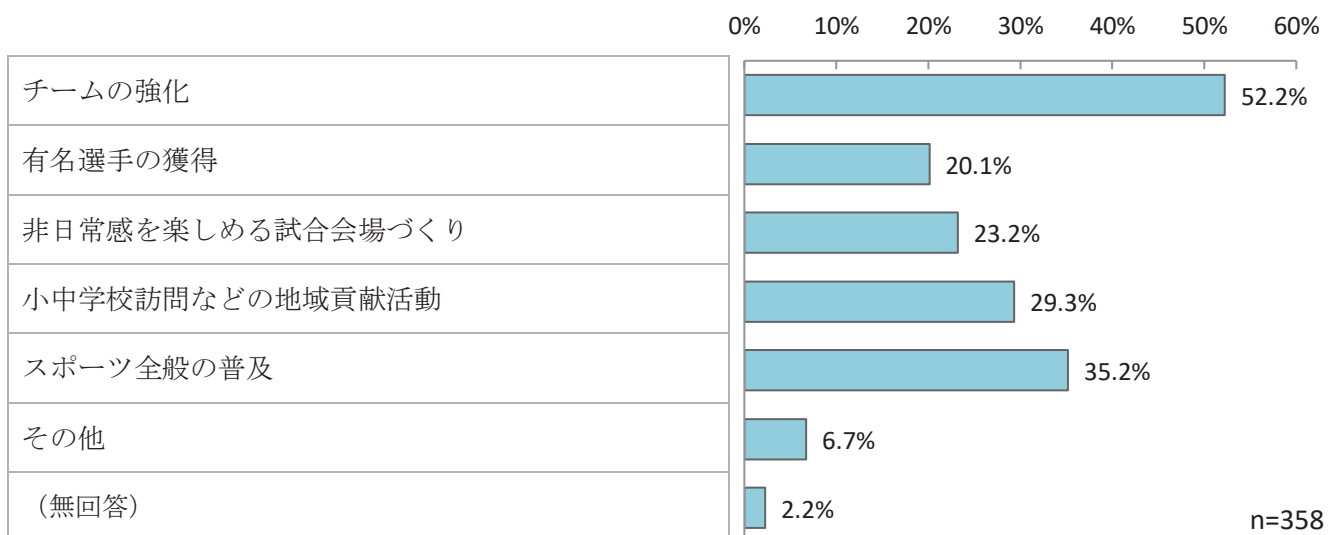


(2) プロスポーツチームに期待することは何か

◇ 「チームの強化」が5割強

問 2 1	3つのプロスポーツチームに期待することは何ですか。	(○はいくつでも)
		n=358
1	チームの強化	52.2%
2	有名選手の獲得	20.1%
3	非日常感を楽しめる試合会場づくり	23.2%
4	小中学校訪問などの地域貢献活動	29.3%
5	スポーツ全般の普及	35.2%
6	その他	6.7%
	(無回答)	2.2%

<図IV-5-3>全体



3つのプロスポーツチームに期待することについては、「チームの強化」が52.2%で最も高く、次いで「スポーツ全般の普及」が35.2%、「小中学校訪問などの地域貢献活動」が29.3%と続いている。(図IV-5-3)

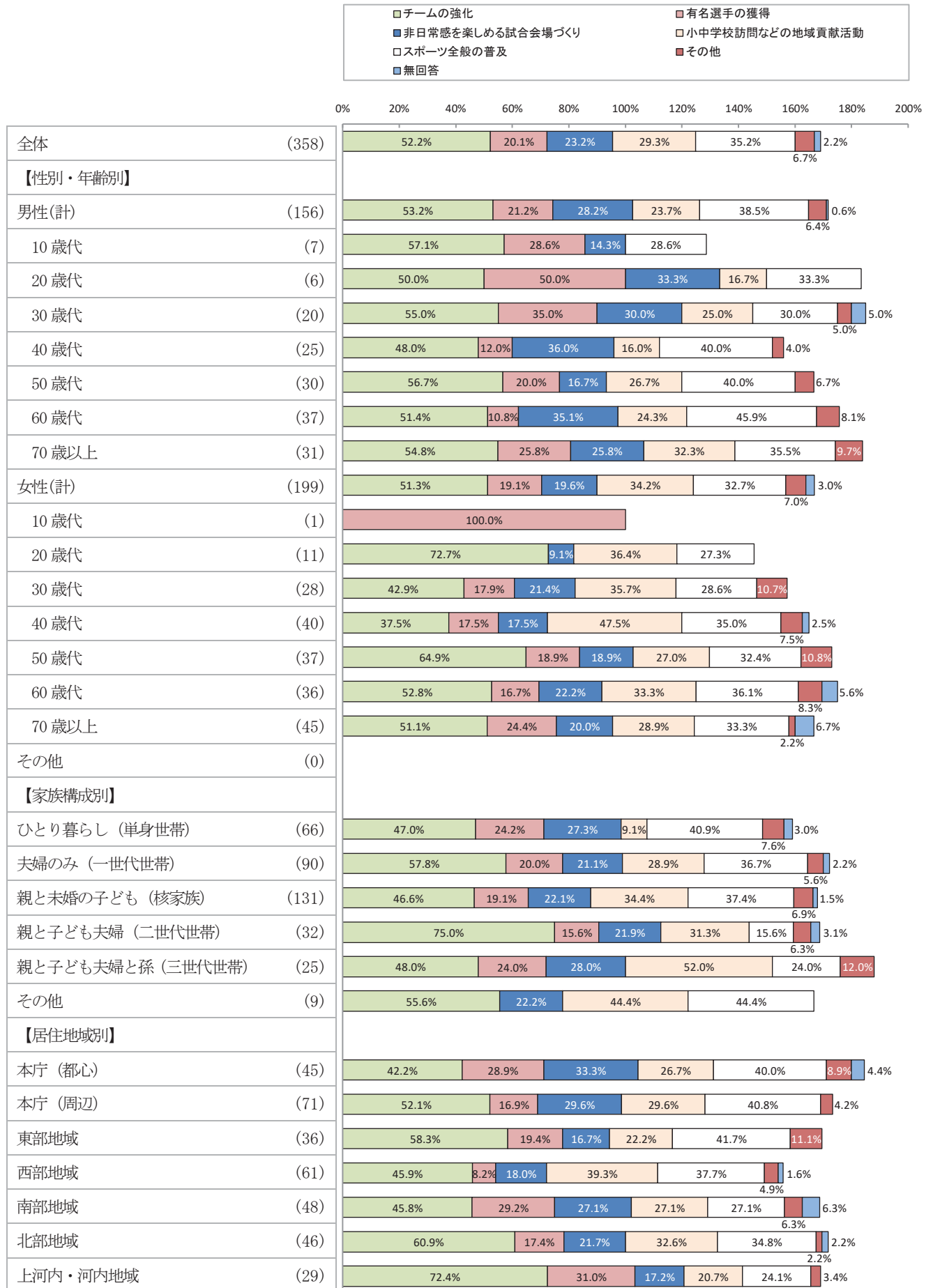
<参考>

性別・年齢別で見ると、「チームの強化」は<女性/20歳代>が72.7%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が64.9%であった。「スポーツ全般の普及」は<男性/60歳代>が45.9%で最も高く、次いで<男性/40歳代>と<男性/50歳代>がいずれも40.0%であった。(図IV-5-4)

家族構成別で見ると、「チームの強化」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が75.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が57.8%であった。「スポーツ全般の普及」は<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が40.9%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が37.4%であった。(図IV-5-4)

居住地域別で見ると、「チームの強化」は<上河内・河内地域>が72.4%で最も高く、次いで<北部地域>が60.9%であった。「スポーツ全般の普及」は<東部地域>が41.7%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が40.8%であった。(図IV-5-4)

<図IV-5-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

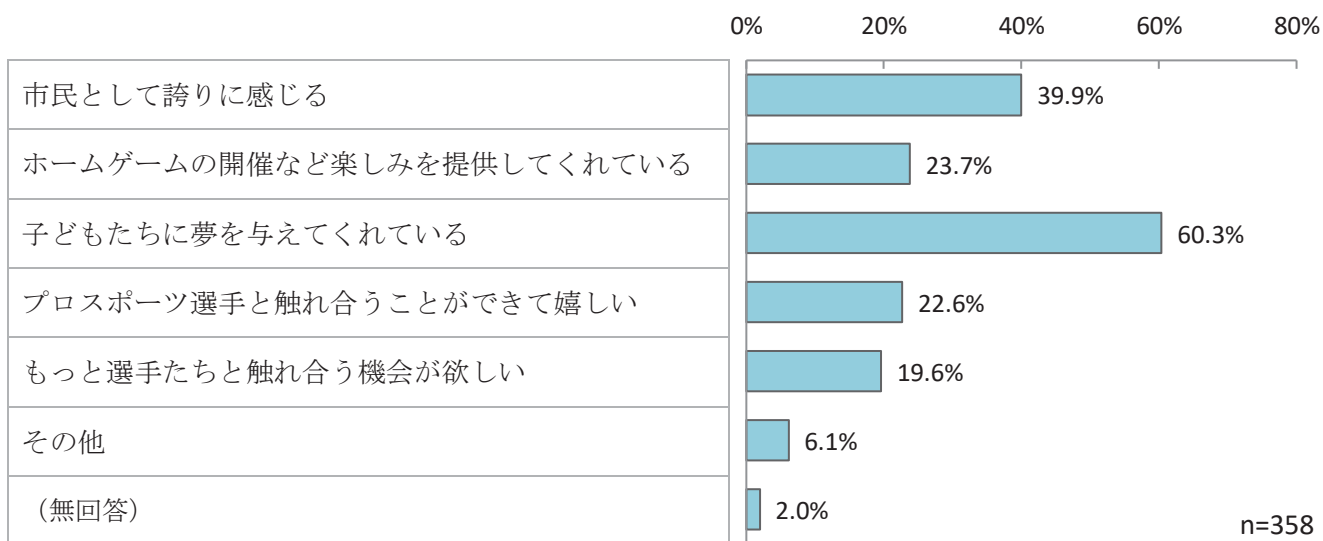


(3) プロスポーツの活躍や活動に対してどう感じているか

◇ 「子どもたちに夢を与えてくれている」が約6割

問 2 2	3つのプロスポーツチームは、試合やレースでの活躍をはじめ、介護予防教室や小中学校訪問などの地域貢献活動なども積極的に行っています。あなたはこうしたプロスポーツの活躍や活動に対してどう感じていますか。	(○は1つ)
		n=358
1	市民として誇りに感じる	39.9%
2	ホームゲームの開催など楽しみを提供してくれている	23.7%
3	子どもたちに夢を与えてくれている	60.3%
4	プロスポーツ選手と触れ合うことができ嬉しい	22.6%
5	もっと選手たちと触れ合う機会が欲しい	19.6%
6	その他	6.1%
	(無回答)	2.0%

<図IV-5-5>全体



プロスポーツの活躍や活動に対してどう感じているかについては、「子どもたちに夢を与えてくれている」が60.3%で最も高く、次いで「市民として誇りに感じる」が39.9%、「ホームゲームの開催など楽しみを提供してくれている」が23.7%と続いている。(図IV-5-5)

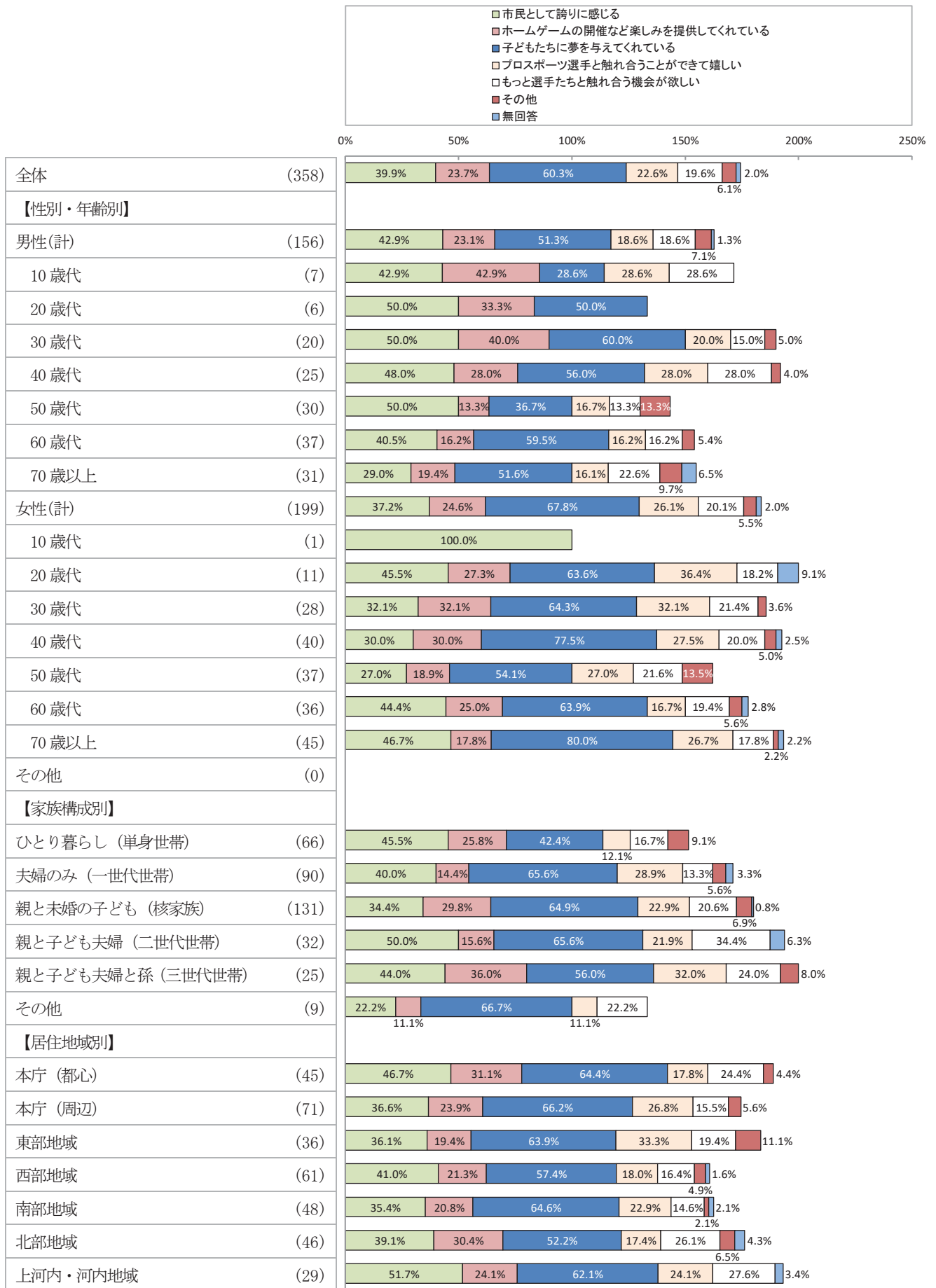
<参考>

性別・年齢別で見ると、「子どもたちに夢を与えてくれている」は<女性/70歳以上>が80.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が77.5%であった。「市民として誇りに感じる」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>と<男性/30歳代>と<男性/50歳代>がいずれも50.0%であった。(図IV-5-6)

家族構成別で見ると、「子どもたちに夢を与えてくれている」は<その他>を除くと<夫婦のみ(一世帯世帯)>と<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>がいずれも65.6%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が64.9%であった。「市民として誇りに感じる」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が50.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が45.5%であった。(図IV-5-6)

居住地域別で見ると、「子どもたちに夢を与えてくれている」は<本庁(周辺)>が66.2%で最も高く、次いで<南部地域>が64.6%であった。「市民として誇りに感じる」は<上河内・河内地域>が51.7%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が46.7%であった。(図IV-5-6)

<図IV-5-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



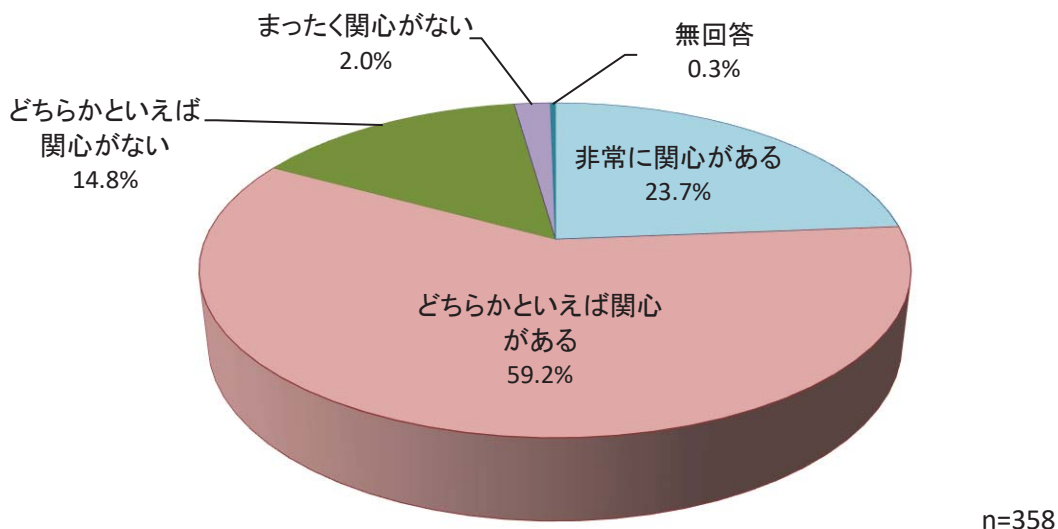
6. 生物多様性について

(1) 自然環境について関心があるか

◇ 「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた【関心がある（計）】が8割強

問 2 3	自然環境について関心がありますか。	(○は1つ)
		n=358
1	非常に関心がある	23.7%
2	どちらかといえば関心がある	59.2%
3	どちらかといえば関心がない	14.8%
4	まったく関心がない	2.0%
	(無回答)	0.3%

<図IV-6-1>全体



自然環境について関心があるかについては、「非常に関心がある」が23.7%、「どちらかといえば関心がある」が59.2%で、これらを合わせた【関心がある（計）】は82.9%であった。一方「どちらかといえば関心がない」が14.8%、「まったく関心がない」が2.0%で、これらを合わせた【関心がない（計）】は16.8%であった。（図IV-6-1）

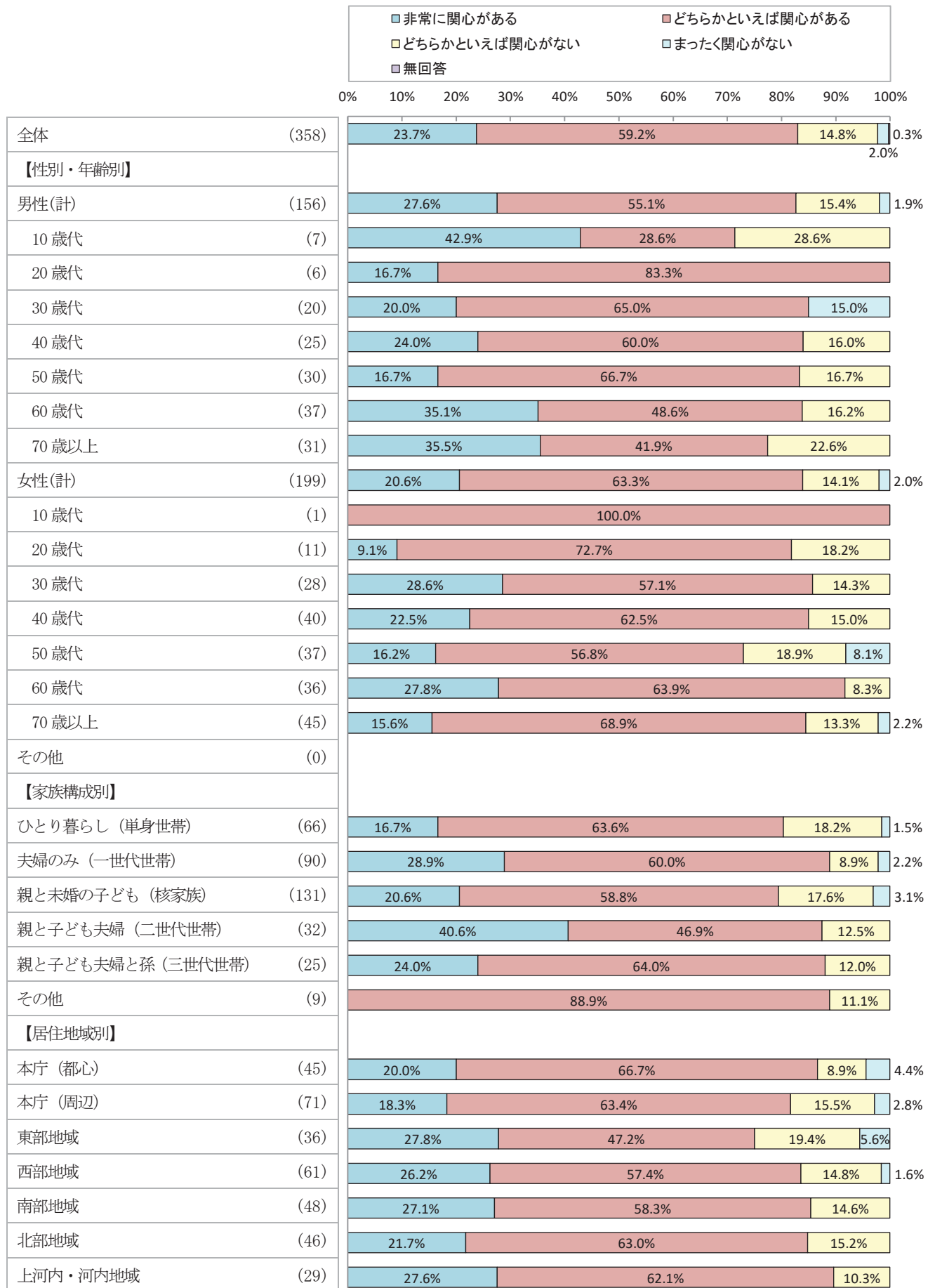
<参考>

性別・年齢別で見ると、【関心がある（計）】は<男性/20歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が91.7%であった。一方、【関心がない（計）】は<男性/10歳代>が28.6%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が27.0%であった。（図IV-6-2）

家族構成別で見ると、【関心がある（計）】は<その他>を除くと<夫婦のみ（一世代世帯）>が88.9%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が88.0%であった。一方、【関心がない（計）】は<親と未婚の子ども（核家族）>が20.7%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が19.7%であった。（図IV-6-2）

居住地域別で見ると、【関心がある（計）】は<上河内・河内地域>が89.7%で最も高く、次いで<本庁（都心）>が86.7%であった。一方、【関心がない（計）】は<東部地域>が25.0%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が18.3%であった。（図IV-6-2）

<図IV-6-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

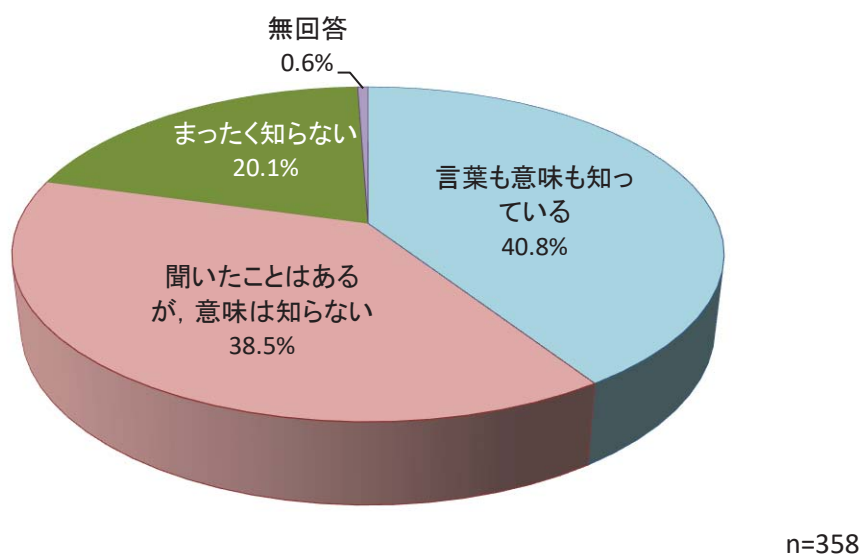


(2) 「生物多様性」の認知度

◇ 「言葉も意味も知っている」が約4割

問24	「生物多様性」について知っていますか。	(○は1つ)
		n=358
1	言葉も意味も知っている	40.8%
2	聞いたことはあるが、意味は知らない	38.5%
3	まったく知らない	20.1%
	(無回答)	0.6%

<図IV-6-3>全体



「生物多様性」の認知度については、「言葉も意味も知っている」が40.8%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、意味は知らない」が38.5%、「まったく知らない」が20.1%であった。(図IV-6-3)

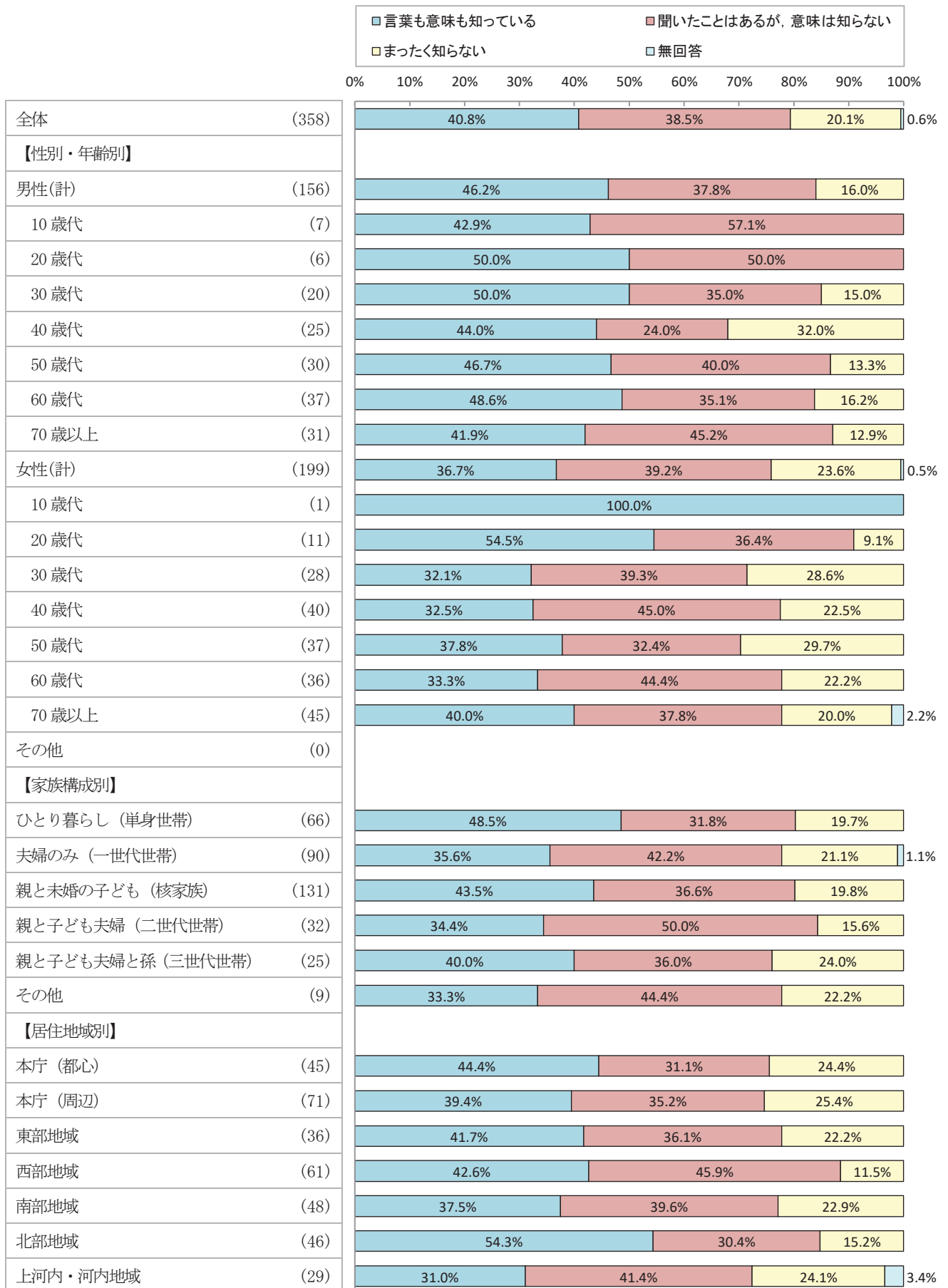
<参考>

性別・年齢別でみると、「言葉も意味も知っている」は<女性/10歳以上>が100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が54.5%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<男性/10歳代>が57.1%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が50.0%であった。(図IV-6-4)

家族構成別でみると、「言葉も意味も知っている」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が48.5%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が43.5%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が50.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が42.2%であった。(図IV-6-4)

居住地域別でみると、「言葉も意味も知っている」は<北部地域>が54.3%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が44.4%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<西部地域>が45.9%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が41.4%であった。(図IV-6-4)

<図IV-6-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

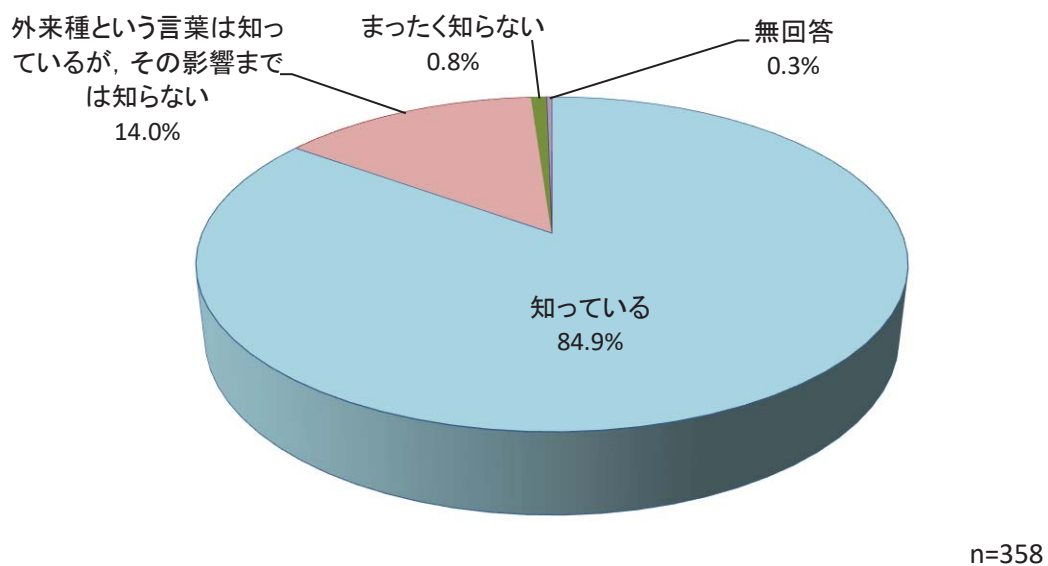


(3) 外来種が及ぼす影響の認知度

◇ 「知っている」が8割半ば

問 2 5	外来種が及ぼす影響を知っていますか。	(○は1つ)
		n=358
1	知っている	84.9%
2	外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない	14.0%
3	まったく知らない	0.8%
	(無回答)	0.3%

<図IV-6-5>全体



外来種が及ぼす影響の認知度については、「知っている」が84.9%で最も高く、次いで「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」が14.0%、「まったく知らない」が0.8%であった。(図IV-6-5)

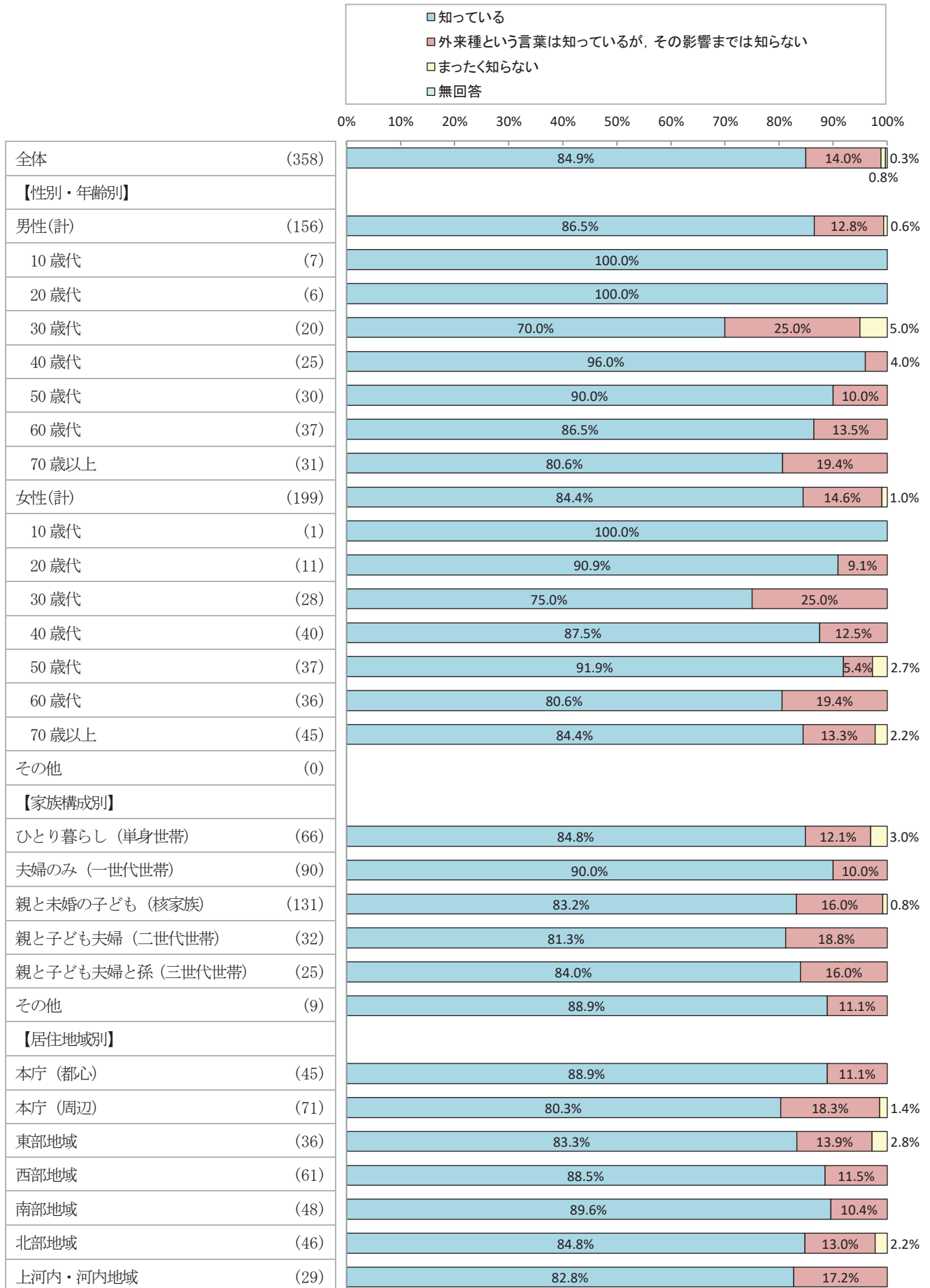
<参考>

性別・年齢別でみると、「知っている」は<男性/10歳代>と<男性/20歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が96.0%であった。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」は<男性/30歳代>と<女性/30歳代>がいずれも25.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>と<女性/60歳代>がいずれも19.4%であった。(図IV-6-6)

家族構成別でみると、「知っている」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が90.0%で最も高く、次いで<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が84.8%であった。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が18.8%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>と<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>がいずれも16.0%であった。(図IV-6-6)

居住地域別でみると、「知っている」は<南部地域>が89.6%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が88.9%であった。「外来種という言葉は知っているが、その影響までは知らない」は<本庁(周辺)>が18.3%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が17.2%であった。(図IV-6-6)

<図IV-6-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



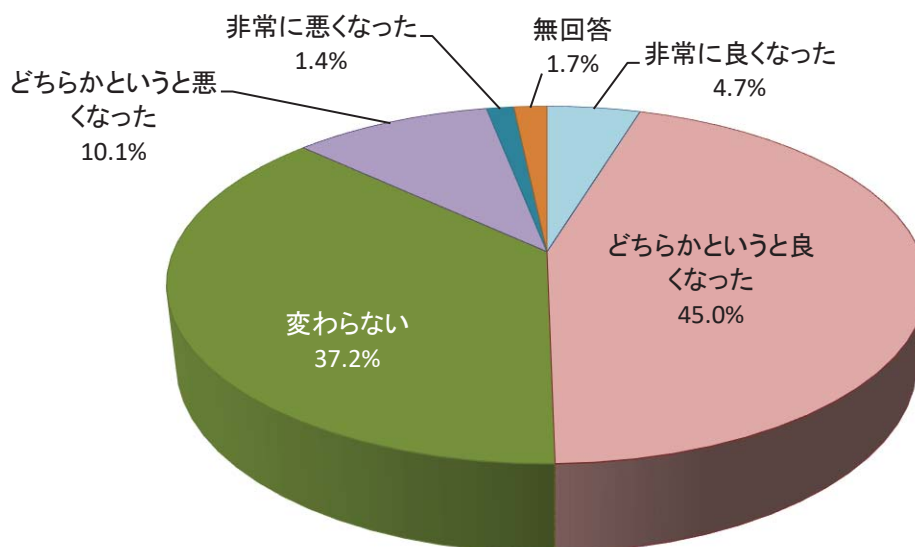
7. 宇都宮市の景観について

(1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

◇ 「非常に良くなった」と「どちらかというと言良くなった」を合わせた【良くなった(計)】が約5割

問26	宇都宮市の景観は10年前と比べてどう変化したと感じますか。	(○は1つ)
		n=358
1	非常に良くなった	4.7%
2	どちらかというと言良くなった	45.0%
3	変わらない	37.2%
4	どちらかというと言悪くなった	10.1%
5	非常に悪くなった	1.4%
	(無回答)	1.7%

<図IV-7-1>全体



n=358

宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについて、「非常に良くなった」が4.7%、「どちらかというと言良くなった」が45.0%で、これらを合わせた【良くなった(計)】が49.7%であった。一方、「どちらかというと言悪くなった」10.1%、「非常に悪くなった」1.4%で、これらを合わせた【悪くなった(計)】は11.5%であった。(図IV-7-1)

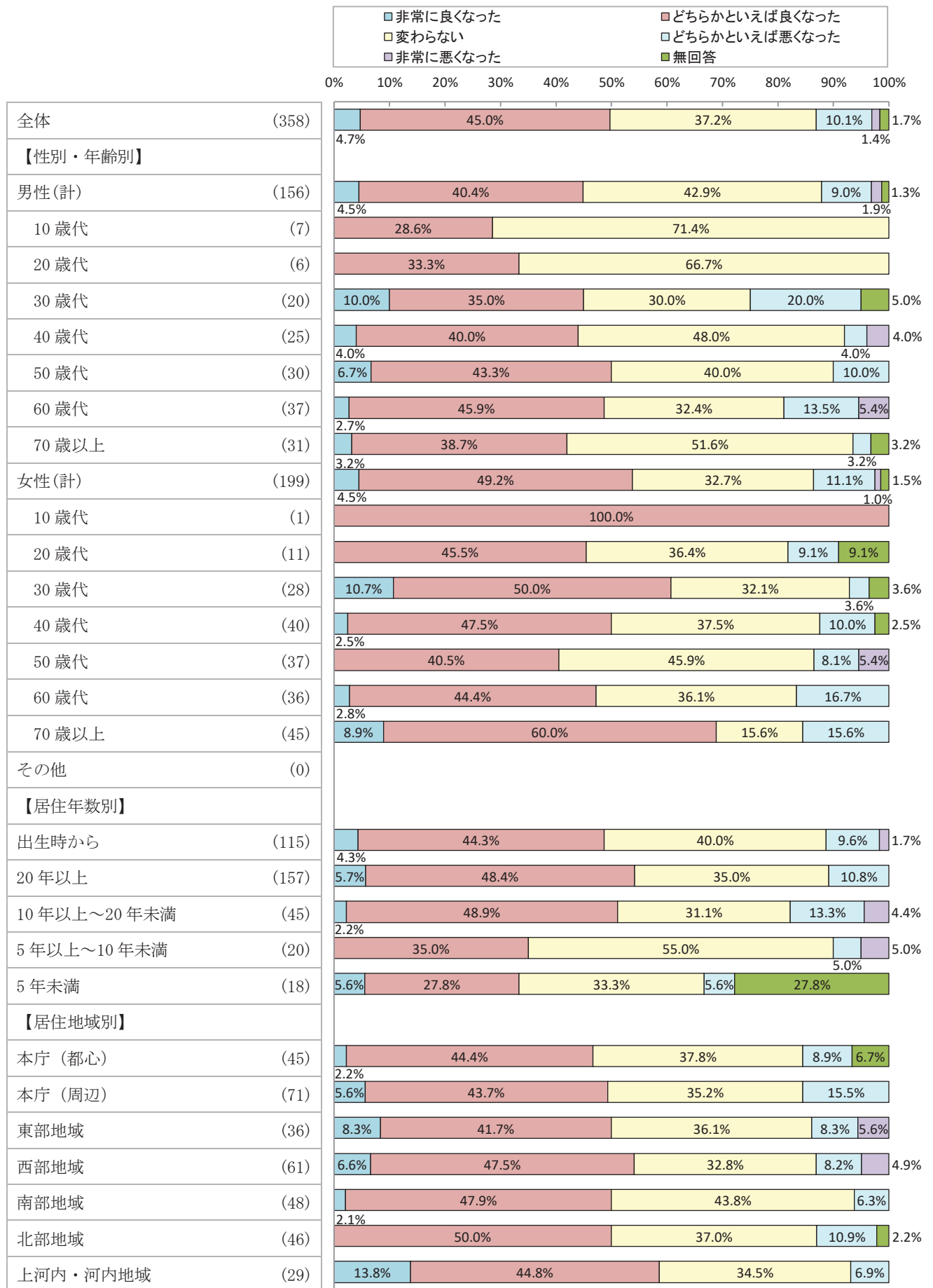
<参考>

性別・年齢別でみると、【良くなった(計)】は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が68.9%であった。一方、【悪くなった(計)】は<男性/30歳代>が20.0%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が18.9%であった。(図IV-7-2)

居住年数別でみると、【良くなった(計)】は<20年以上>が54.1%で最も高く、次いで<10年以上~20年未満>が51.1%であった。一方、【悪くなった(計)】は<10年以上~20年未満>が17.7%で最も高く、次いで<出生時から>が11.3%であった。(図IV-7-2)

居住地域別でみると、【良くなった(計)】は<上河内・河内地域>が58.6%で最も高く、次いで<西部地域>が54.1%であった。一方、【悪くなった(計)】は<本庁(周辺)>が15.5%で最も高く、次いで<東部地域>が13.9%であった。(図IV-7-2)

<図IV-7-2>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

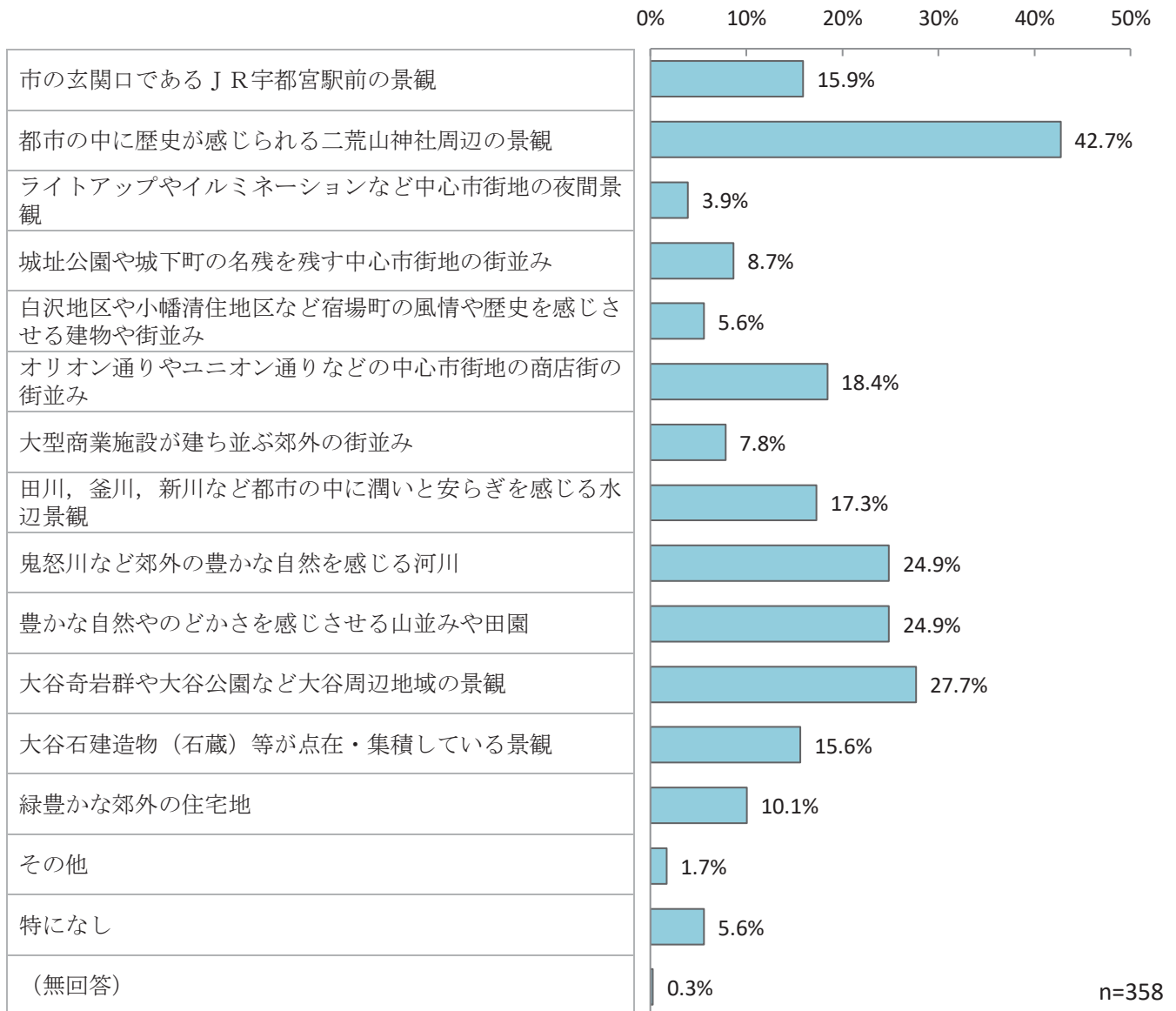


(2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

◇ 「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が4割強

問27	宇都宮市内で愛着や誇りを感じる「宇都宮らしい景観」は何ですか。	(○は3つまで)
		n=358
1	市の玄関口であるJR宇都宮駅前の景観	15.9%
2	都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観	42.7%
3	ライトアップやイルミネーションなど中心市街地の夜間景観	3.9%
4	城址公園や城下町の名残を残す中心市街地の街並み	8.7%
5	白沢地区や小幡清住地区など宿場町の風情や歴史を感じさせる建物や街並み	5.6%
6	オリオン通りやユニオン通りなどの中心市街地の商店街の街並み	18.4%
7	大型商業施設が建ち並ぶ郊外の街並み	7.8%
8	田川, 釜川, 新川など都市の中に潤いと安らぎを感じる水辺景観	17.3%
9	鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川	24.9%
10	豊かな自然やのどかさを感じさせる山並みや田園	24.9%
11	大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観	27.7%
12	大谷石建造物(石蔵)等が点在・集積している景観	15.6%
13	緑豊かな郊外の住宅地	10.1%
14	その他	1.7%
15	特になし	5.6%
	(無回答)	0.3%

<図IV-7-3>全体



「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が42.7%で最も高く、次いで「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」が27.7%と続いている。(図IV-7-3)

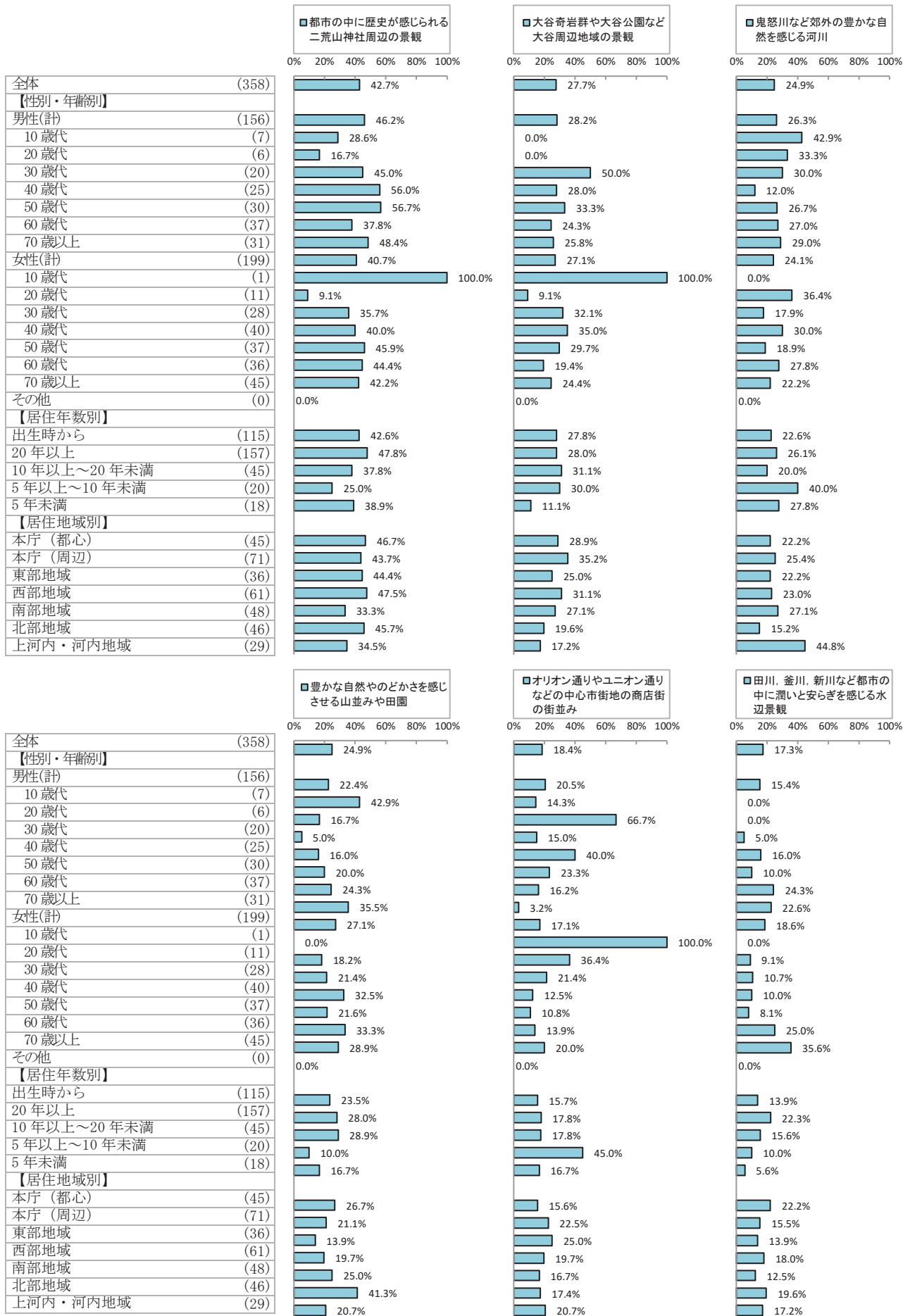
<参考>

性別・年齢別でみると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が56.7%であった。「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が50.0%であった。(図IV-7-4)

居住年数別でみると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<20年以上>が47.8%で最も高かった。「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」は<10年以上~20年未満>が31.1%で最も高かった。(図IV-7-4)

居住地域別でみると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<西部地域>が47.5%で最も高かった。「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」は<本庁(周辺)>が35.2%で最も高かった。(図IV-7-4)

<図IV-7-4>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

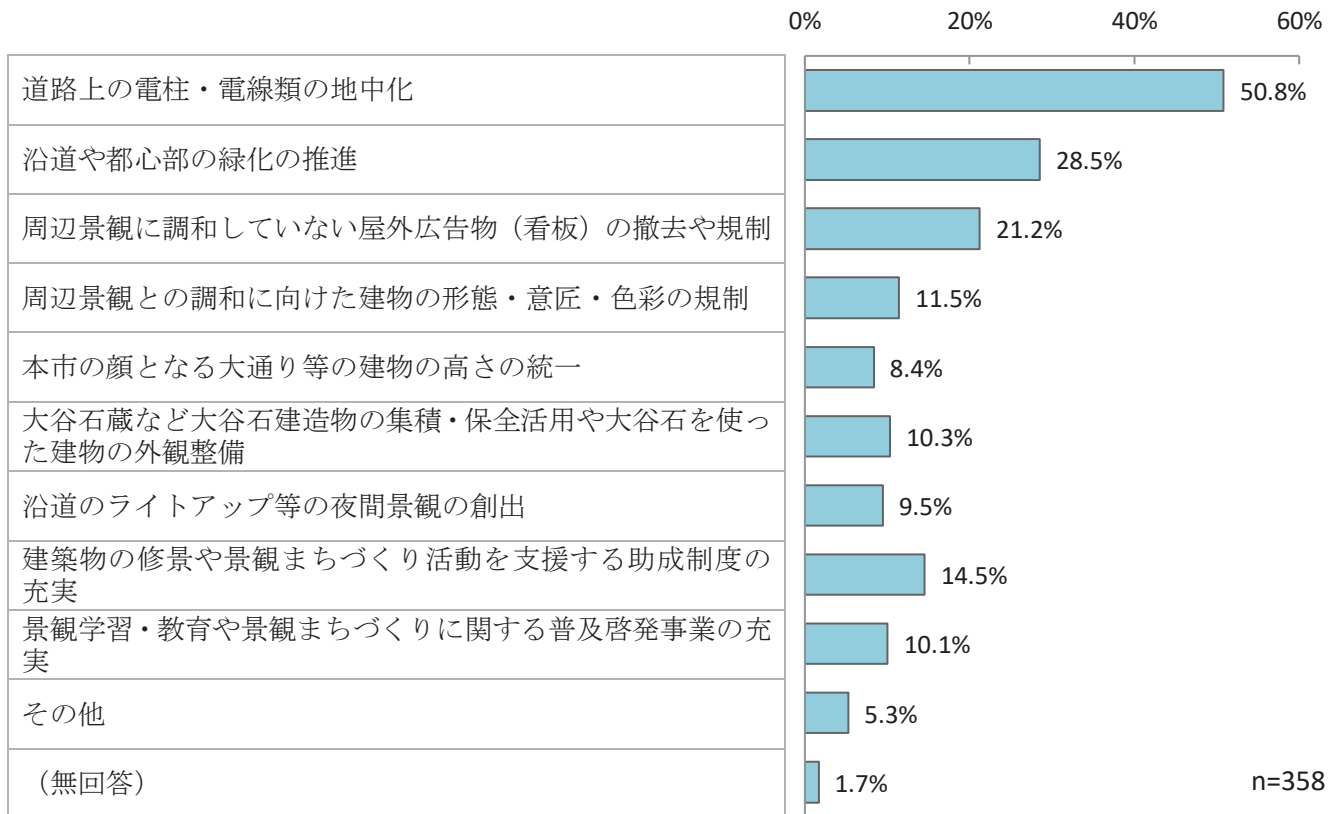


(3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

◇ 「道路上の電柱・電線類の地中化」が約5割

問28	良好な都市景観の形成に必要なことは何だと思えますか。	(○は2つまで)
		n=358
1	道路上の電柱・電線類の地中化	50.8%
2	沿道や都心部の緑化の推進	28.5%
3	周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制	21.2%
4	周辺景観との調和に向けた建物の形態・意匠・色彩の規制	11.5%
5	本市の顔となる大通り等の建物の高さの統一	8.4%
6	大谷石蔵など大谷石建造物の集積・保全活用や大谷石を使った建物の外観整備	10.3%
7	沿道のライトアップ等の夜間景観の創出	9.5%
8	建築物の修景や景観まちづくり活動を支援する助成制度の充実	14.5%
9	景観学習・教育や景観まちづくりに関する普及啓発事業の充実	10.1%
10	その他	5.3%
	(無回答)	1.7%

<図IV-7-5>全体



良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が 50.8%で最も高く、次いで「沿道や都心部の緑化の推進」が 28.5%と続いている。(図IV-7-5)

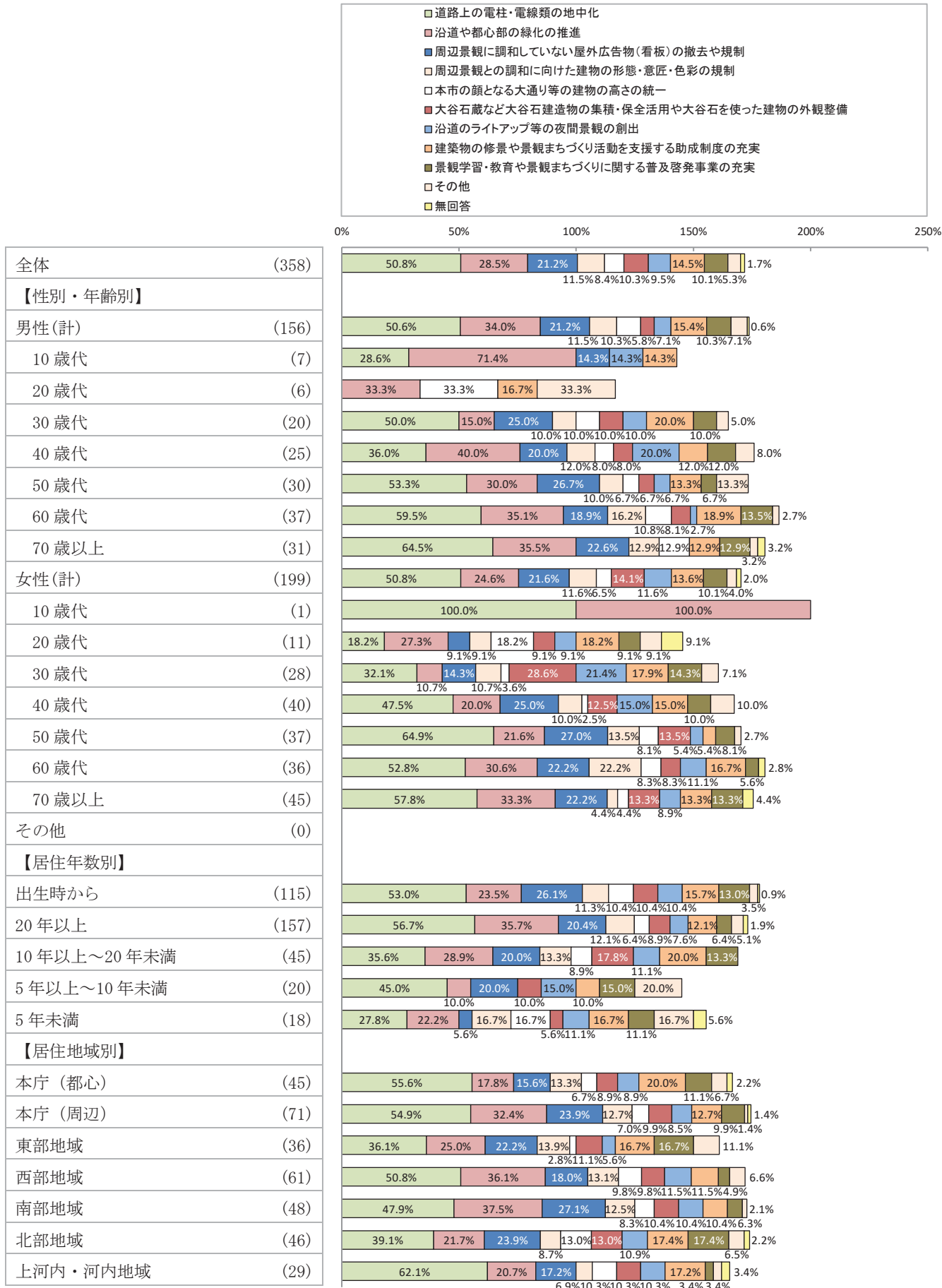
<参考>

性別・年齢別で見ると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<女性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が 64.9%であった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<女性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が 71.4%であった。(図IV-7-6)

居住年数別で見ると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<20年以上>が 56.7%で最も高く、次いで<出生時から>が 53.0%であった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<20年以上>が 35.7%で最も高く、次いで<10年以上～20年未満>が 28.9%であった。(図IV-7-6)

居住地域別で見ると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<上河内・河内地域>が 62.1%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が 55.6%であった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<南部地域>が 37.5%で最も高く、次いで<西部地域>が 36.1%であった。(図IV-7-6)

<図IV-7-6>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

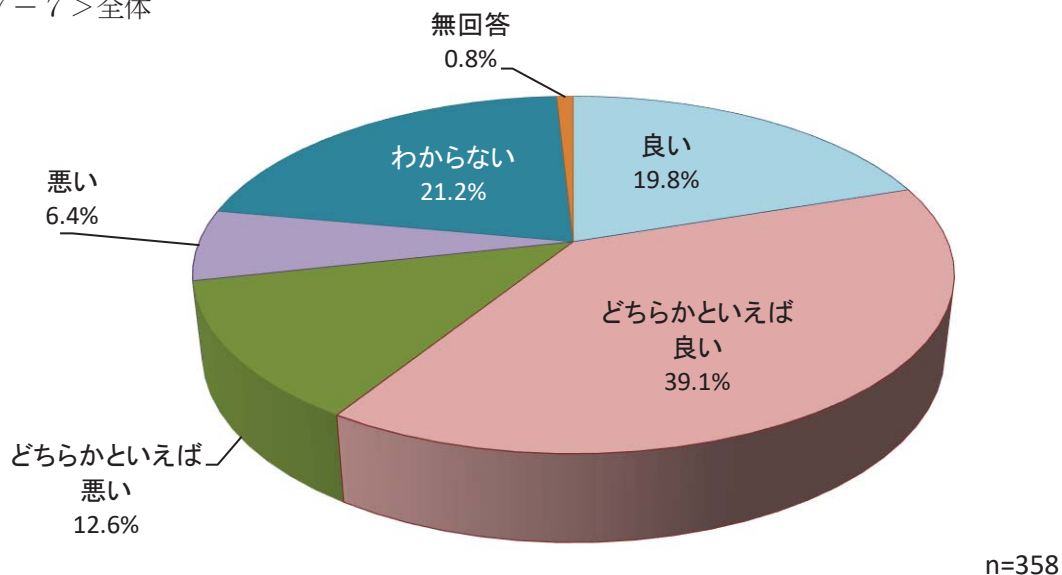


(4) 動画や静止画を表示する看板（デジタルサイネージ）の印象

◇ 「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた【良い（計）】が約6割

問29 屋外に設置される液晶ディスプレイなどを利用して動画や静止画を表示する看板（デジタルサイネージ）について、あなたは、どのような印象をお持ちですか。（○は1つ）		n=358
1	良い	19.8%
2	どちらかといえば良い	39.1%
3	どちらかといえば悪い	12.6%
4	悪い	6.4%
5	わからない	21.2%
	（無回答）	0.8%

<図IV-7-7>全体



動画や静止画を表示する看板（デジタルサイネージ）の印象については、「良い」が19.8%、「どちらかといえば良い」が39.1%で、これらを合わせた【良い（計）】は58.9%であった。一方、「どちらかといえば悪い」が12.6%、「悪い」が6.4%で、これらを合わせた【悪い（計）】は19.0%であった。（図IV-7-7）

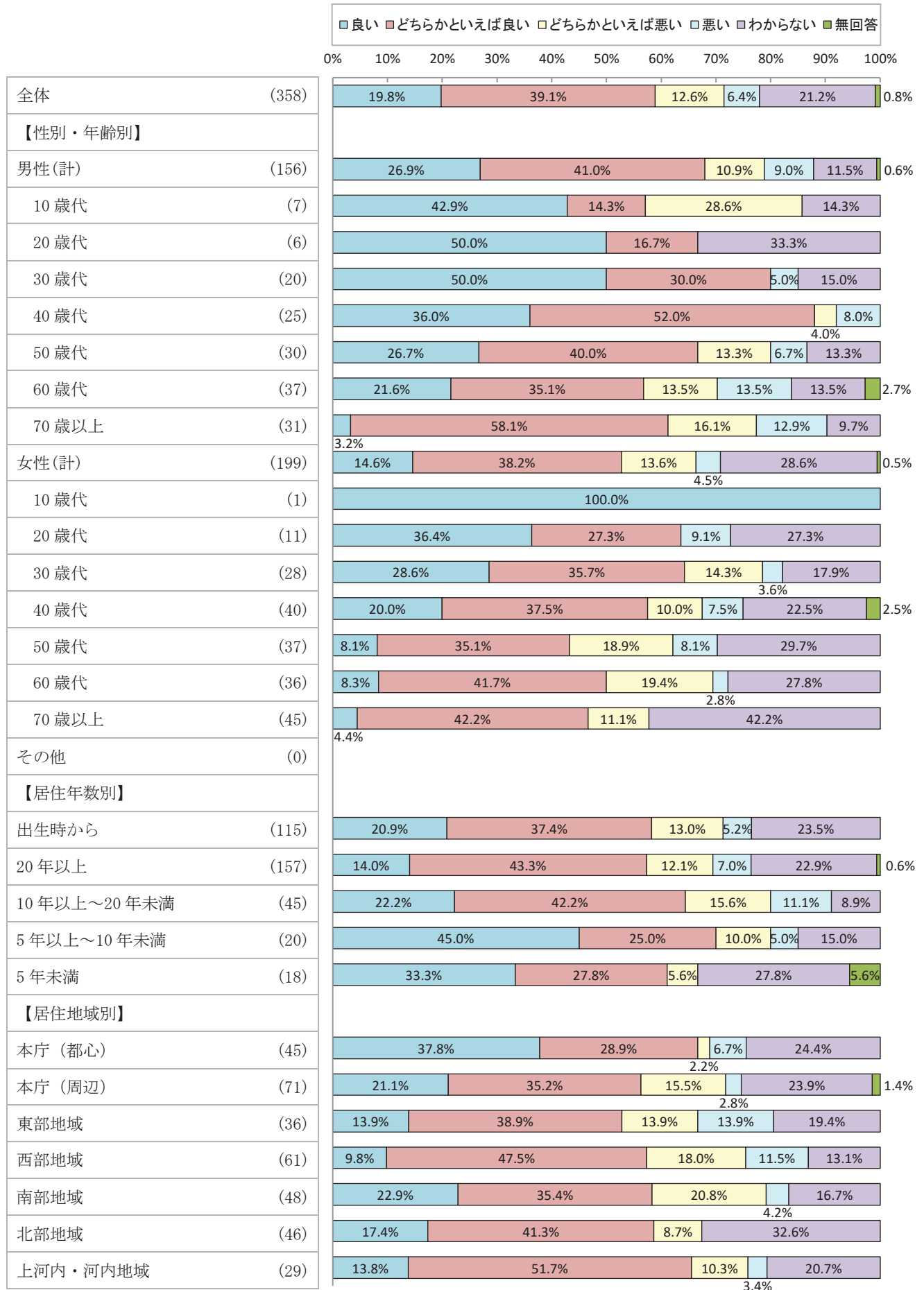
<参考>

性別・年齢別で見ると、【良い（計）】は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が88.0%であった。一方、【悪い（計）】は<男性/70歳以上>が29.0%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が28.6%であった。（図IV-7-8）

居住年数別で見ると、【良い（計）】は<5年以上～10年未満>が70.0%で最も高く、次いで<10年以上～20年未満>が64.4%であった。一方、【悪い（計）】は<10年以上～20年未満>が26.7%で最も高く、次いで<20年以上>が19.1%であった。（図IV-7-8）

居住地域別で見ると、【良い（計）】は<本庁（都心）>が66.7%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が65.5%であった。一方、【悪い（計）】は<西部地域>が29.5%で最も高く、次いで<東部地域>が27.8%であった。（図IV-7-8）

<図IV-7-8>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

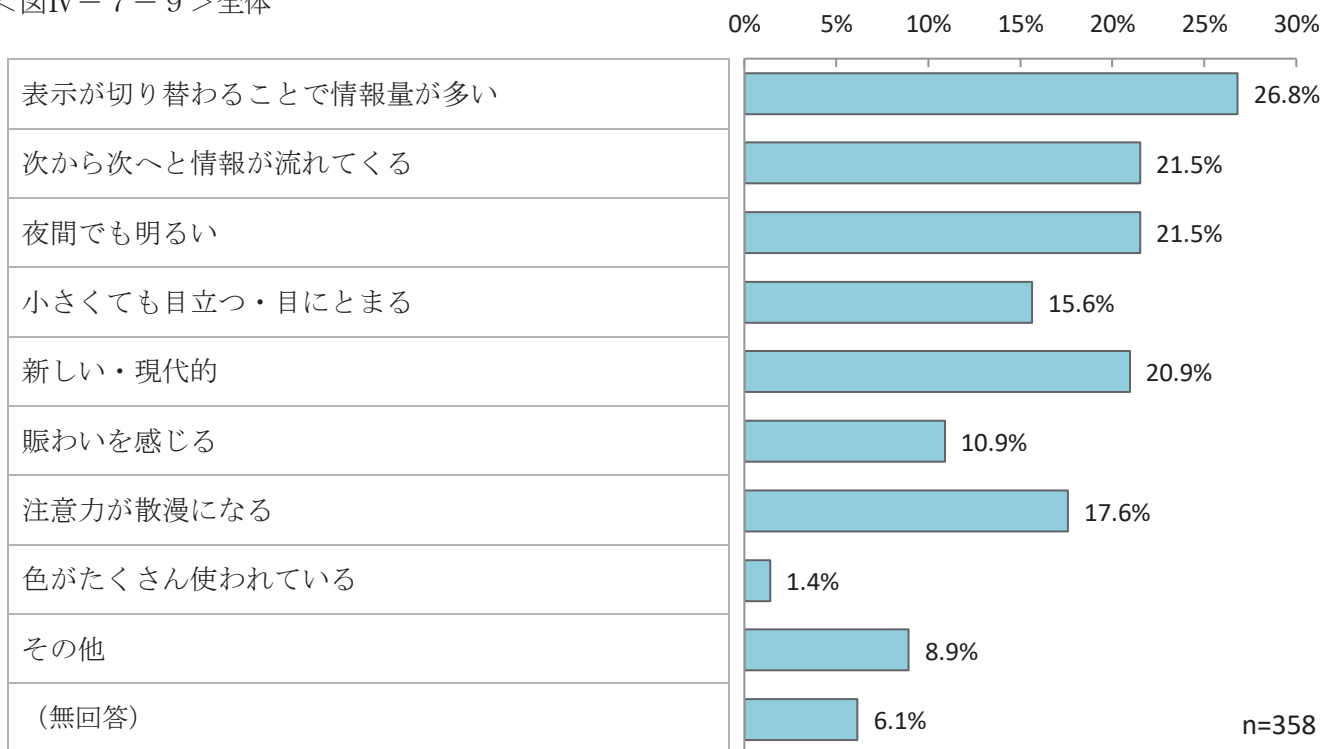


(5) 看板 (デジタルサイネージ) に感じる点

◇ 「表示が切り替わることで情報量が多い」が3割弱

問30	問29でそのような印象を持たれたのはどういう点についてですか。	(〇は2つまで)
		n=358
1	表示が切り替わることで情報量が多い	26.8%
2	次から次へと情報が流れてくる	21.5%
3	夜間でも明るい	21.5%
4	小さくても目立つ・目にとまる	15.6%
5	新しい・現代的	20.9%
6	賑わいを感じる	10.9%
7	注意力が散漫になる	17.6%
8	色がたくさん使われている	1.4%
9	その他	8.9%
	(無回答)	6.1%

<図IV-7-9>全体



看板 (デジタルサイネージ) に感じる点については、「表示が切り替わることで情報量が多い」が 26.8% で最も高く、次いで「次から次へと情報が流れてくる」、「夜間でも明るい」が 21.5% と続いている。(図IV-7-9)

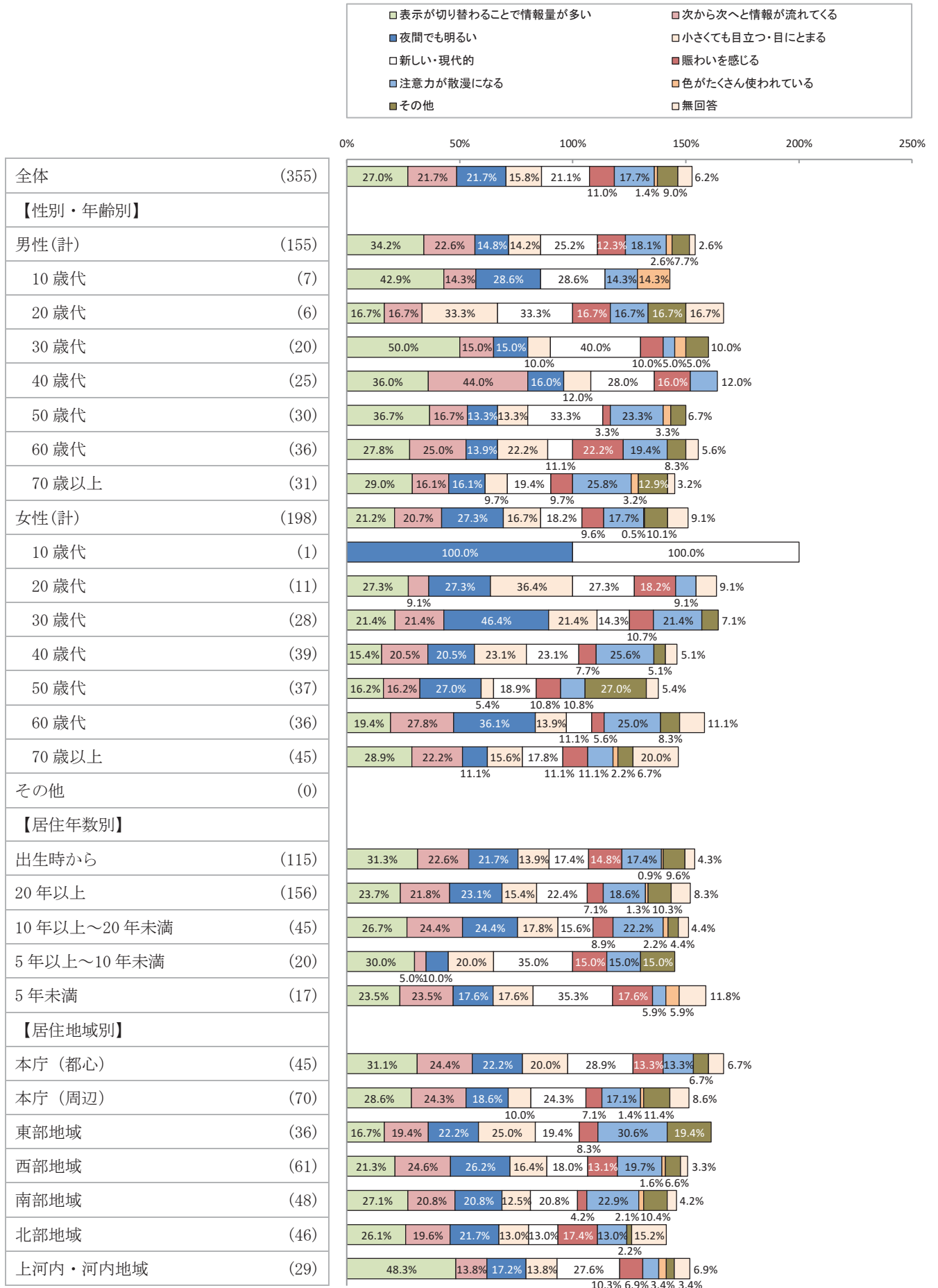
<参考>

性別・年齢別で見ると、「表示が切り替わることで情報量が多い」は<男性/30歳代>が 50.0% で最も高く、次いで<男性/10歳代>が 42.9% であった。(図IV-7-10)

居住年数別で見ると、「表示が切り替わることで情報量が多い」は<出生時から>が 31.3% で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が 30.0% であった。(図IV-7-10)

居住地域別で見ると、「表示が切り替わることで情報量が多い」は<上河内・河内地域>が 48.3% で最も高く、次いで<本庁(都心)>が 31.1% であった。(図IV-7-10)

<図IV-7-10>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別



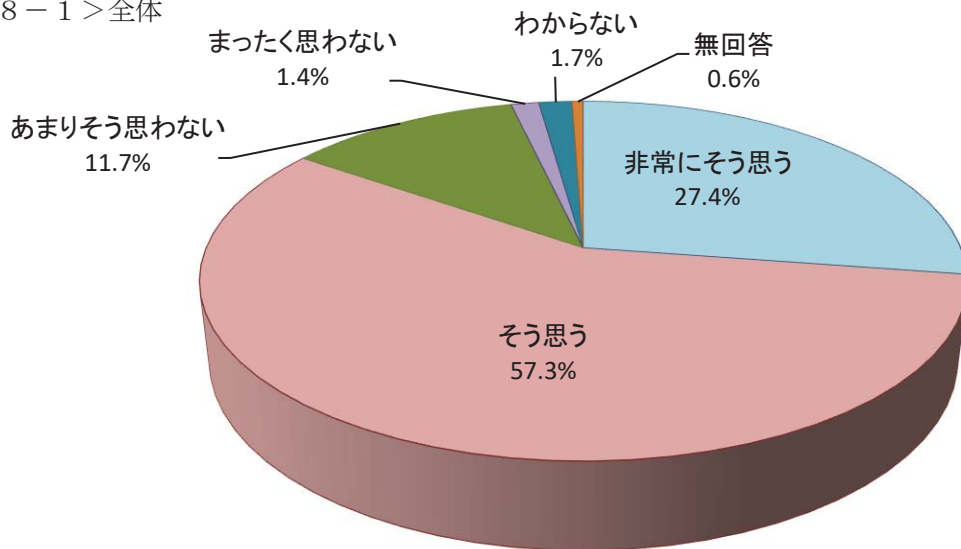
8. うつのみや産の農産物について

(1) 「うつのみや産」の農産物の購入意欲

◇「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が8割半ば

問3 1	市は地産地消を推進していますが、あなたは「うつのみや産」の農産物を積極的に選択して購入したいと思いませんか。	(○は1つ)
		n=358
1	非常にそう思う	27.4%
2	そう思う	57.3%
3	あまりそう思わない	11.7%
4	まったく思わない	1.4%
5	わからない	1.7%
	(無回答)	0.6%

<図IV-8-1>全体



n=358

「うつのみや産」の農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」が27.4%、「そう思う」が57.3%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は84.7%であった。一方「あまりそう思わない」が11.7%、「まったく思わない」が1.4%で、これらを合わせた【思わない（計）】は13.1%であった。（図IV-8-1）

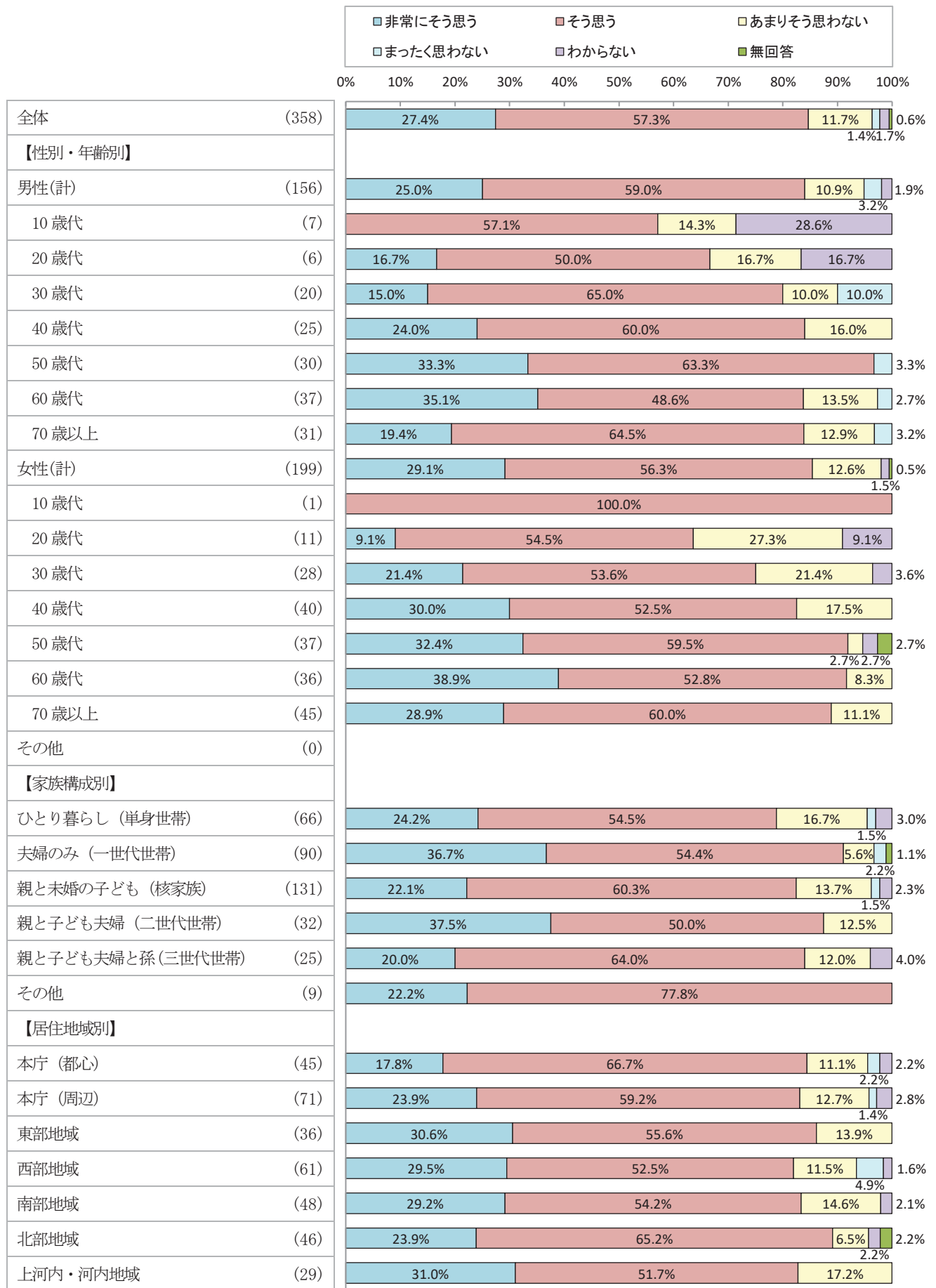
<参考>

性別・年齢別で見ると、【そう思う（計）】は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が96.6%であった。一方、【思わない（計）】は<女性/20歳代>が27.3%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が21.4%であった。（図IV-8-2）

家族構成別で見ると、【そう思う（計）】は<その他>を除くと<夫婦のみ（一世代世帯）>が91.1%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世代世帯）>が87.5%であった。一方、【思わない（計）】は<ひとり暮らし（単身世帯）>が18.2%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が15.2%であった。（図IV-8-2）

居住地域別で見ると、【そう思う（計）】は<北部地域>が89.1%で最も高く、次いで<東部地域>が86.2%であった。一方、【思わない（計）】は<上河内・河内地域>が17.2%で最も高く、次いで<西部地域>が16.4%であった。（図IV-8-2）

<図IV-8-2>性別・年齢別/家族構成別/居住地域別

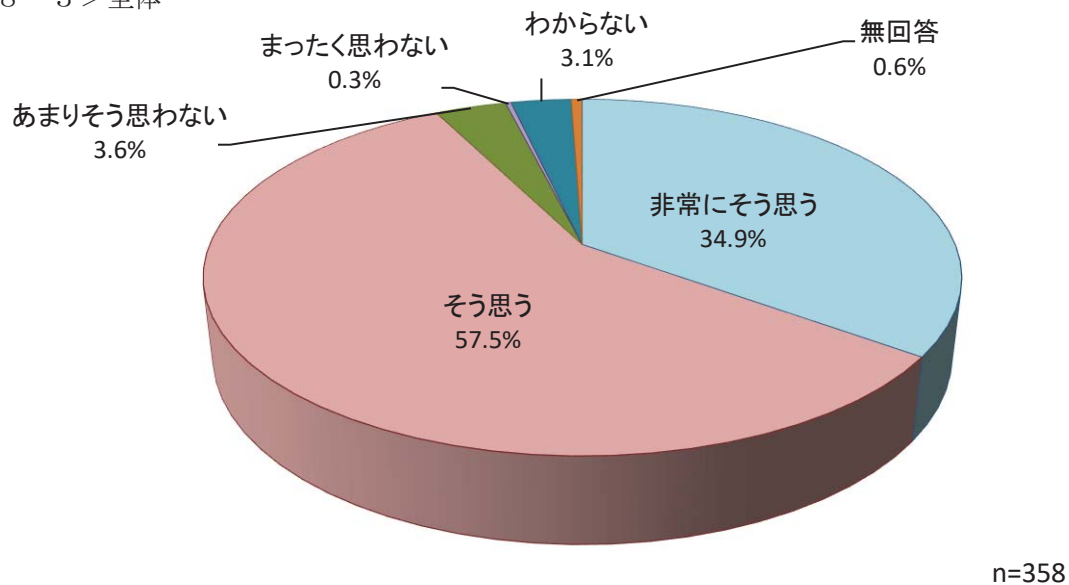


(2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

◇ 「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が9割強

問32	市は「農業王国うつのみや」の実現を目指した取組を推進していますが、あなたは宇都宮の農業を大切にしたいと思いますか。	(○は1つ)
		n=358
1	非常にそう思う	34.9%
2	そう思う	57.5%
3	あまりそう思わない	3.6%
4	まったく思わない	0.3%
5	わからない	3.1%
	(無回答)	0.6%

<図IV-8-3>全体



宇都宮の農業を大切にしたいと思うかについては、「非常にそう思う」が34.9%、「そう思う」が57.5%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は92.4%であった。一方「あまりそう思わない」が3.6%、「まったく思わない」が0.3%で、これらを合わせた【思わない（計）】は3.9%であった。(図IV-8-3)

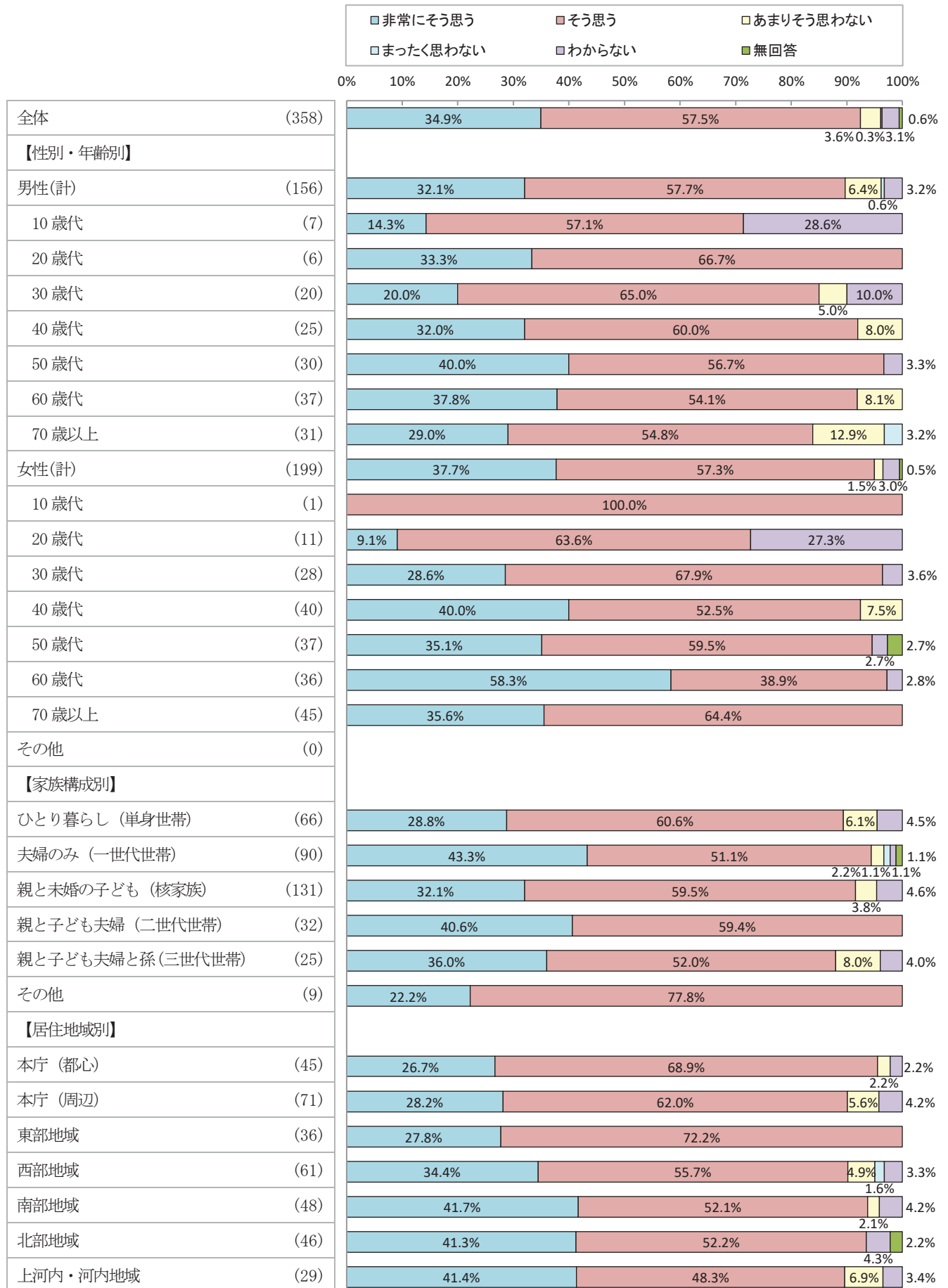
<参考>

性別・年齢別で見ると、【そう思う（計）】は<男性/20歳代>と<女性/10歳代>と<女性/70歳以上>がいずれも100.0%で最も高かった。一方、【思わない（計）】は<男性/70歳以上>が16.1%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が8.1%であった。(図IV-8-4)

家族構成別で見ると、【そう思う（計）】は<その他>を除くと<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が100.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が94.4%であった。一方、【思わない（計）】は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が8.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が6.1%であった。(図IV-8-4)

居住地域別で見ると、【そう思う（計）】は<東部地域>が100.0%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が95.6%であった。一方、【思わない（計）】は<上河内・河内地域>が6.9%で最も高く、次いで<西部地域>が6.5%であった。(図IV-8-4)

<図IV-8-4>性別・年齢別/家族構成別/居住地域別



9. 男女共同参画について

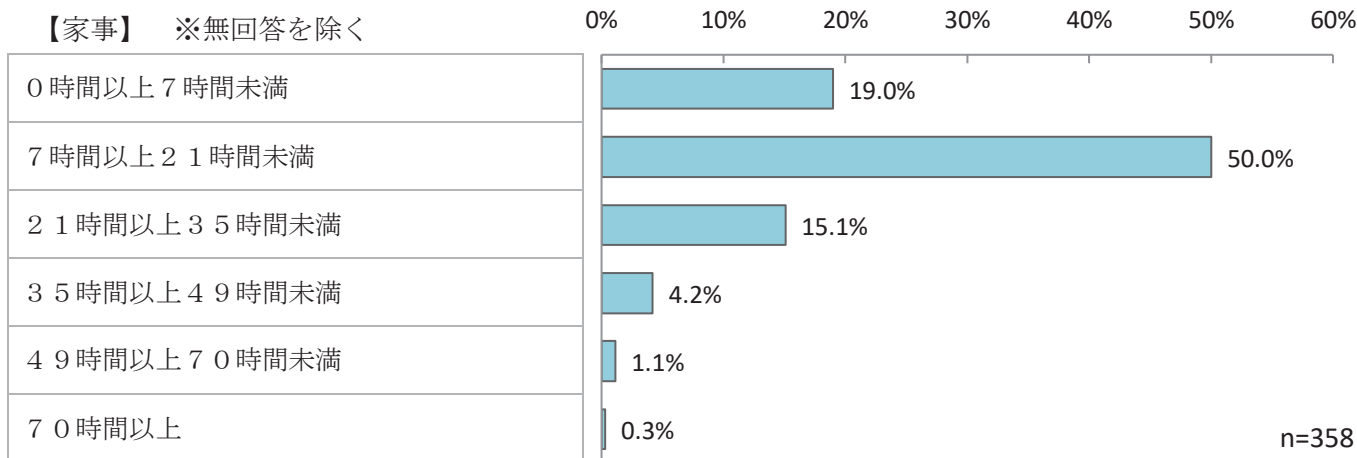
(1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

※月曜日から土曜日は1日3時間程度（3時間×6日＝18時間），日曜日は1日2時間程度（2時間×1日＝2時間）を費やしている場合，回答は「20時間」となります。また，育児，介護について，対象者がいない場合は，「対象者なし」に○を付けてください。

◇ 「7時間以上21時間未満」が約5割

問33	1週間の生活の中で，家事・育児・介護におおよそどの程度の時間を費やしたかお答えください。	
	【家事】	
		n=358
1	0時間以上7時間未満	19.0%
2	7時間以上21時間未満	50.0%
3	21時間以上35時間未満	15.1%
4	35時間以上49時間未満	4.2%
5	49時間以上70時間未満	1.1%
6	70時間以上	0.3%
	(無回答)	10.3%

<図IV-9-1>全体



家事に費やした時間については，「7時間以上21時間未満」が50.0%で最も高く，次いで「0時間以上7時間未満」が19.0%，「21時間以上35時間未満」が15.1%と続いている。（図IV-9-1）

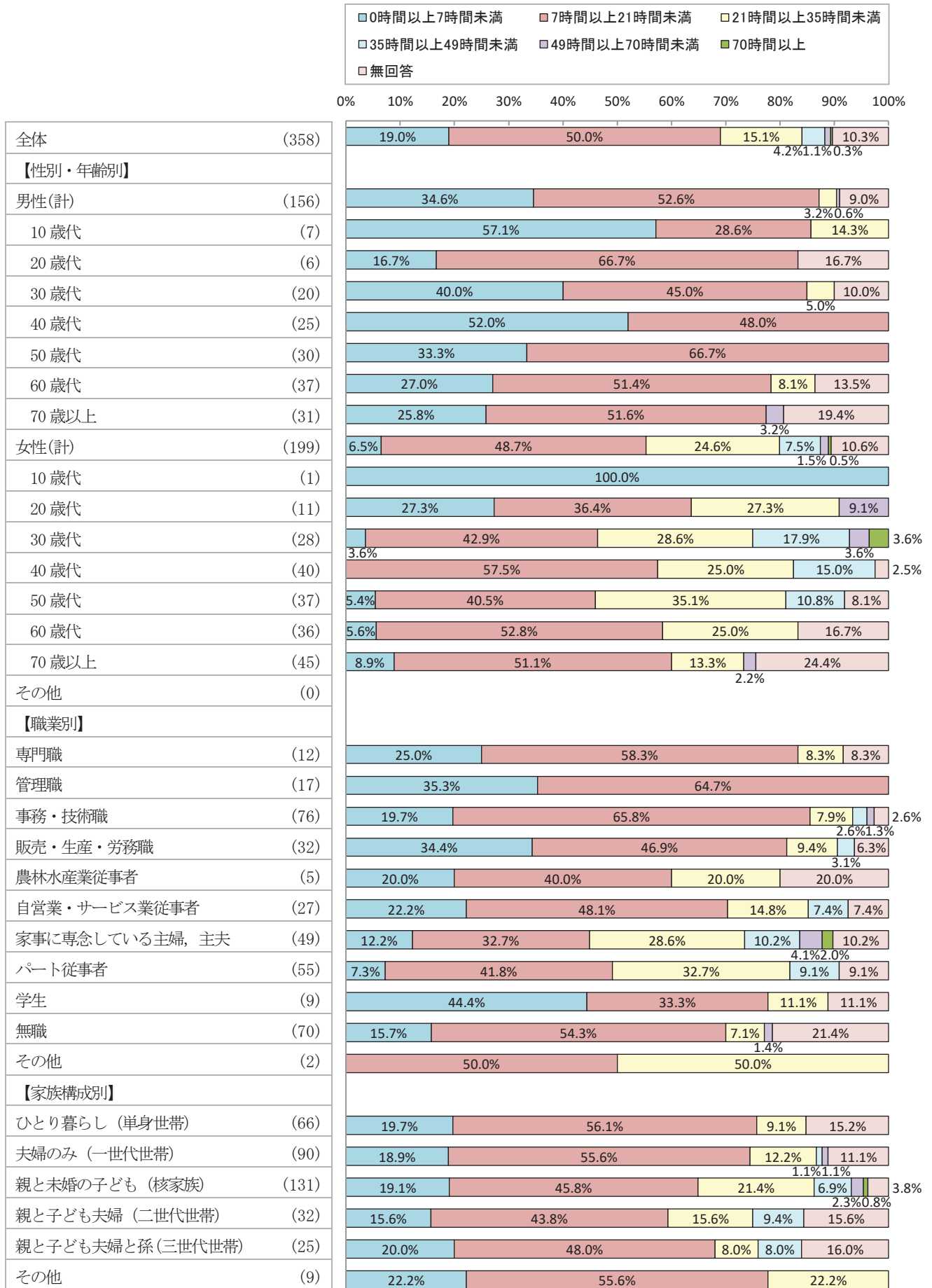
<参考>

性別・年齢別で見ると，「7時間以上21時間未満」は<男性/20歳代>と<男性/50歳代>が66.7%で最も高く，次いで<女性/40歳代>が57.5%であった。「0時間以上7時間未満」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く，次いで<男性/10歳代>が57.1%であった。「21時間以上35時間未満」は<女性/50歳代>が35.1%で最も高く，次いで<女性/30歳代>が28.6%であった（図IV-9-2）

職業別で見ると，「7時間以上21時間未満」は<事務・技術職>が65.8%で最も高く，次いで<管理職>が64.7%であった。「0時間以上7時間未満」は<学生>が44.4%で最も高く，次いで<管理職>が35.3%であった。「21時間以上35時間未満」は<その他>を除くと<パート従事者>が32.7%で最も高く，次いで<家事に専念している主婦，主夫>が28.6%であった。（図IV-9-2）

家族構成別で見ると，「7時間以上21時間未満」は<その他>を除くと<ひとり暮らし（単身世帯）>が56.1%で最も高かった。「0時間以上7時間未満」は<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が20.0%で最も高かった。「21時間以上35時間未満」は<親と未婚の子ども（核家族）>が21.4%で最も高かった。（図IV-9-2）

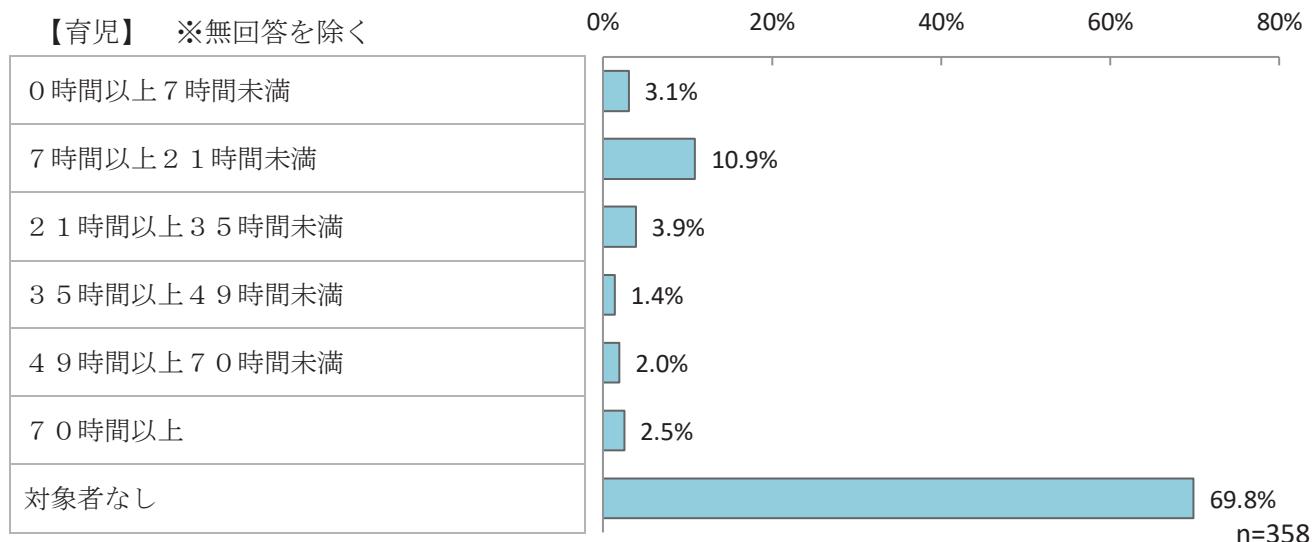
<図IV-9-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別



【育児】

		n=358
1	0時間以上7時間未満	3.1%
2	7時間以上21時間未満	10.9%
3	21時間以上35時間未満	3.9%
4	35時間以上49時間未満	1.4%
5	49時間以上70時間未満	2.0%
6	70時間以上	2.5%
7	対象者なし	69.8%
	(無回答)	6.4%

<図IV-9-3>全体



育児に費やした時間については、「対象者なし」が69.8%で最も高く、次いで「7時間以上21時間未満」が10.9%、「21時間以上35時間未満」が3.9%と続いている。(図IV-9-3)

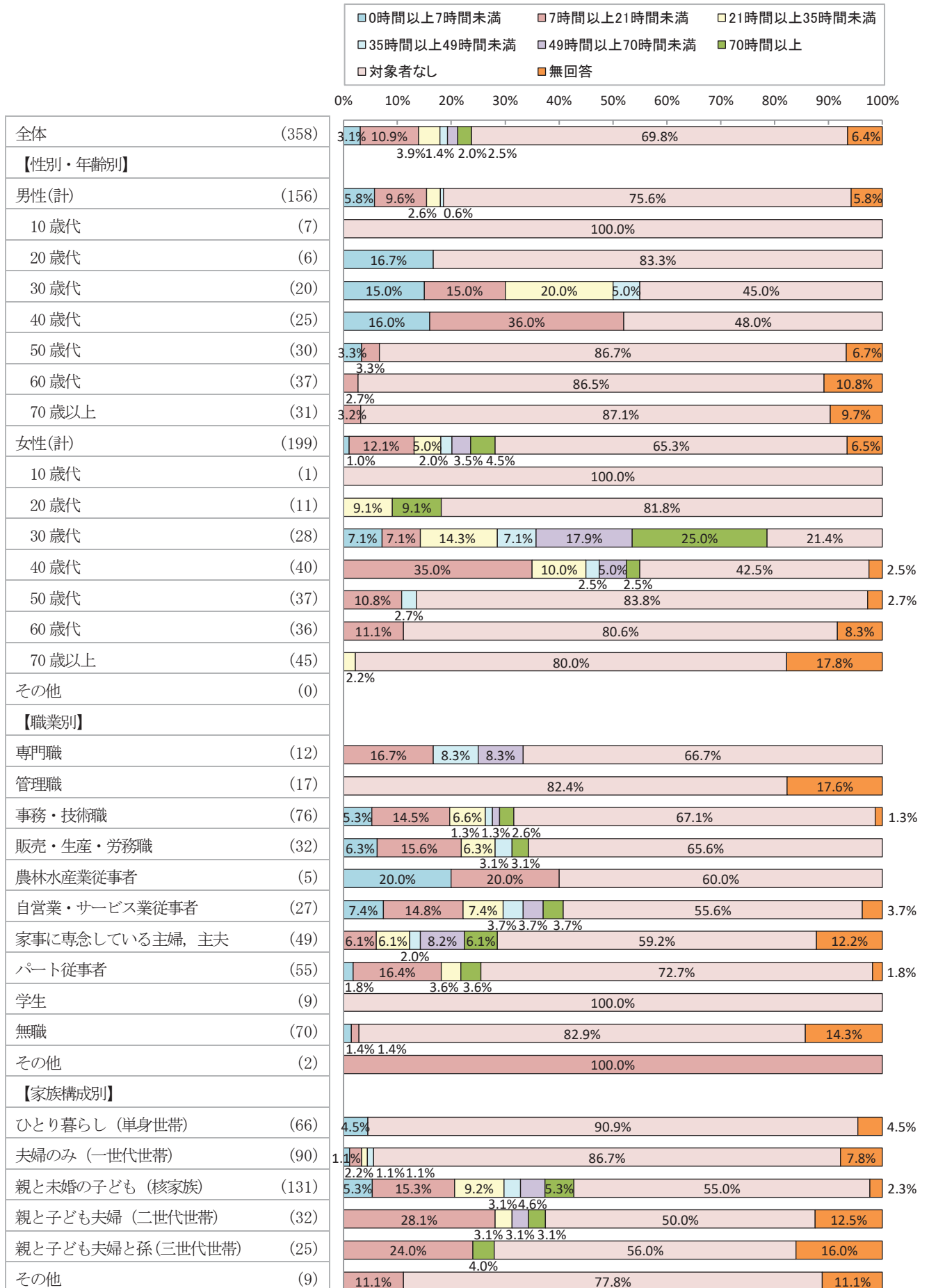
<参考>

性別・年齢別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<男性/40歳代>が36.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が35.0%であった。(図IV-9-4)

職業別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<その他>を除くと<農林水産業従事者>が20.0%で最も高く、次いで<専門職>が16.7%であった。(図IV-9-4)

家族構成別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が28.1%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が24.0%であった。(図IV-9-4)

<図IV-9-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別

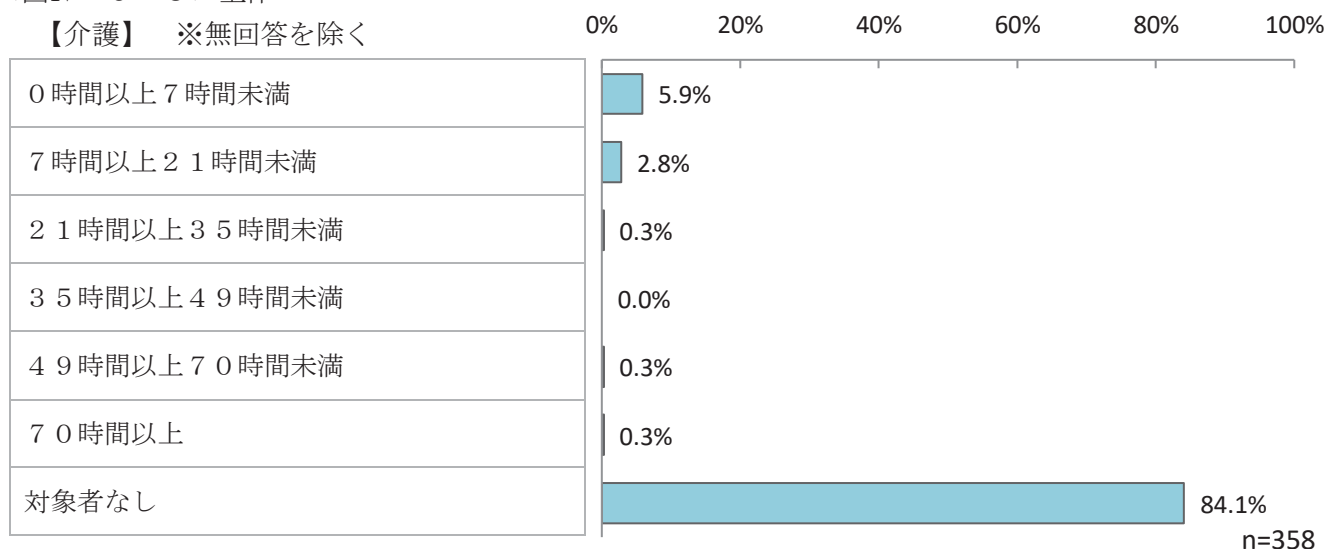


【介護】

		n=358
1	0時間以上7時間未満	5.9%
2	7時間以上21時間未満	2.8%
3	21時間以上35時間未満	0.3%
4	35時間以上49時間未満	0.0%
5	49時間以上70時間未満	0.3%
6	70時間以上	0.3%
7	対象者なし	84.1%
	(無回答)	6.4%

<図IV-9-5>全体

【介護】 ※無回答を除く



介護に費やした時間については、「対象者なし」が84.1%で最も高く、次いで「0時間以上7時間未満」が5.9%、「7時間以上21時間未満」が2.8%と続いている。(図IV-9-5)

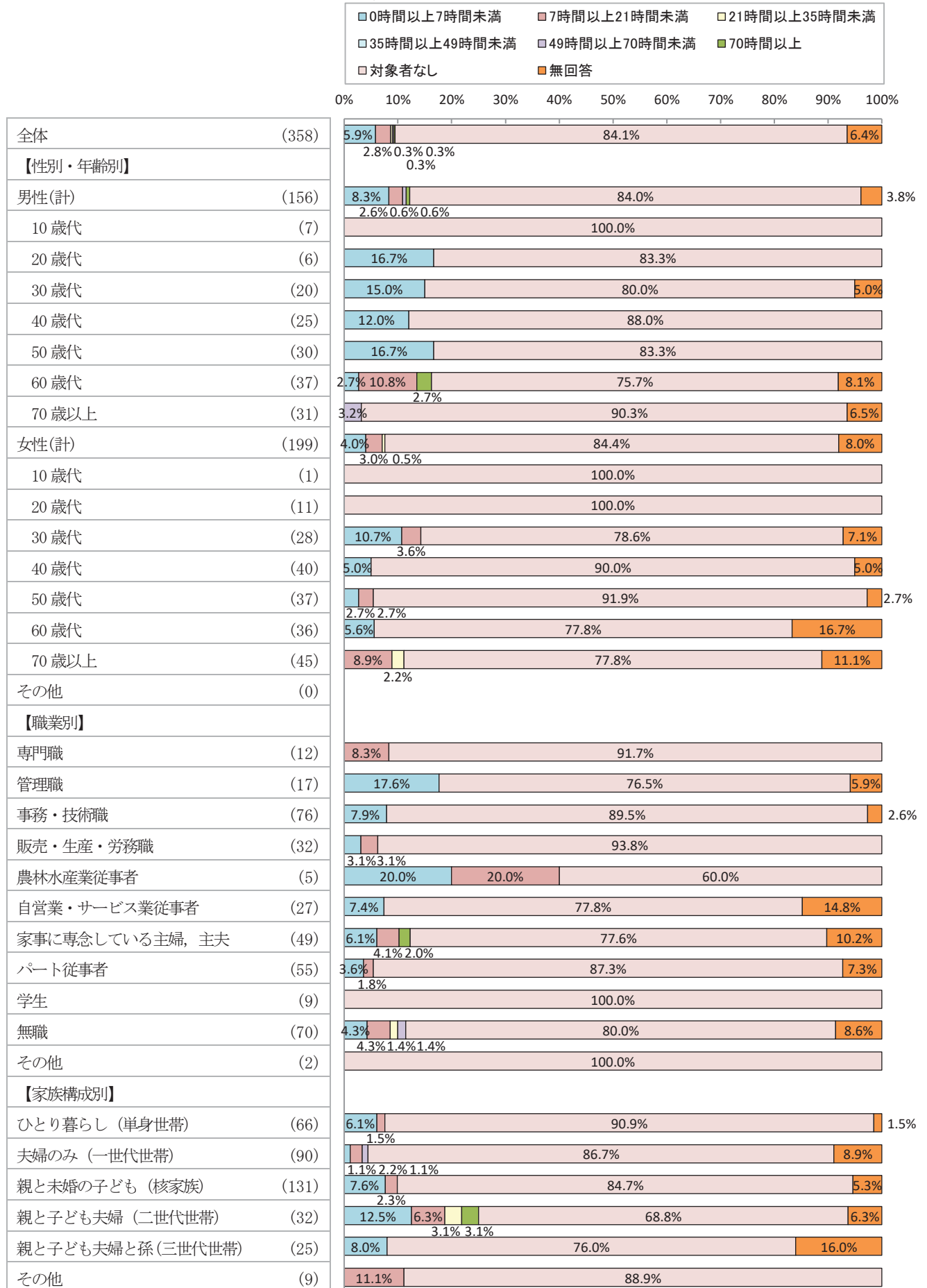
<参考>

性別・年齢別で見ると、「0時間以上7時間未満」は<男性/20歳代>と<男性/50歳代>がいずれも16.7%で最も高かった。(図IV-9-6)

職業別で見ると、「0時間以上7時間未満」は<農林水産業従事者>が20.0%で最も高く、次いで<管理職>が17.6%であった。(図IV-9-6)

家族構成別で見ると、「0時間以上7時間未満」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が12.5%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が8.0%であった。(図IV-9-6)

<図IV-9-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別

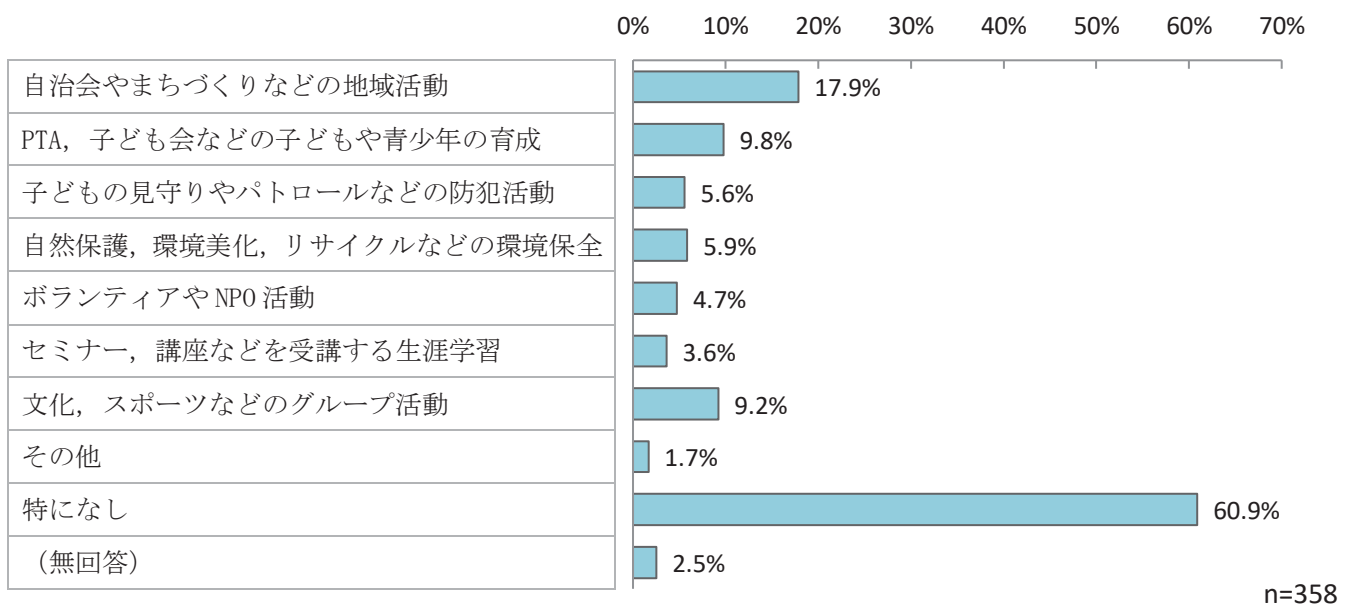


(2) 社会的な活動の実施状況

◇ 「特になし」が約6割

問 3 4	現在，地域などで社会的な活動を行なっていますか。	(○はいくつでも)	n=358
1	自治会やまちづくりなどの地域活動		17.9%
2	PTA，子ども会などの子どもや青少年の育成		9.8%
3	子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動		5.6%
4	自然保護，環境美化，リサイクルなどの環境保全		5.9%
5	ボランティアやNPO活動		4.7%
6	セミナー，講座などを受講する生涯学習		3.6%
7	文化，スポーツなどのグループ活動		9.2%
8	その他		1.7%
9	特になし		60.9%
	(無回答)		2.5%

<図IV-9-7>全体



社会的な活動の実施状況については、「特になし」が60.9%で最も高く、次いで「自治会やまちづくりなどの地域活動」が17.9%、「PTA，子ども会などの子どもや青少年の育成」が9.8%と続いている。(図IV-9-7)

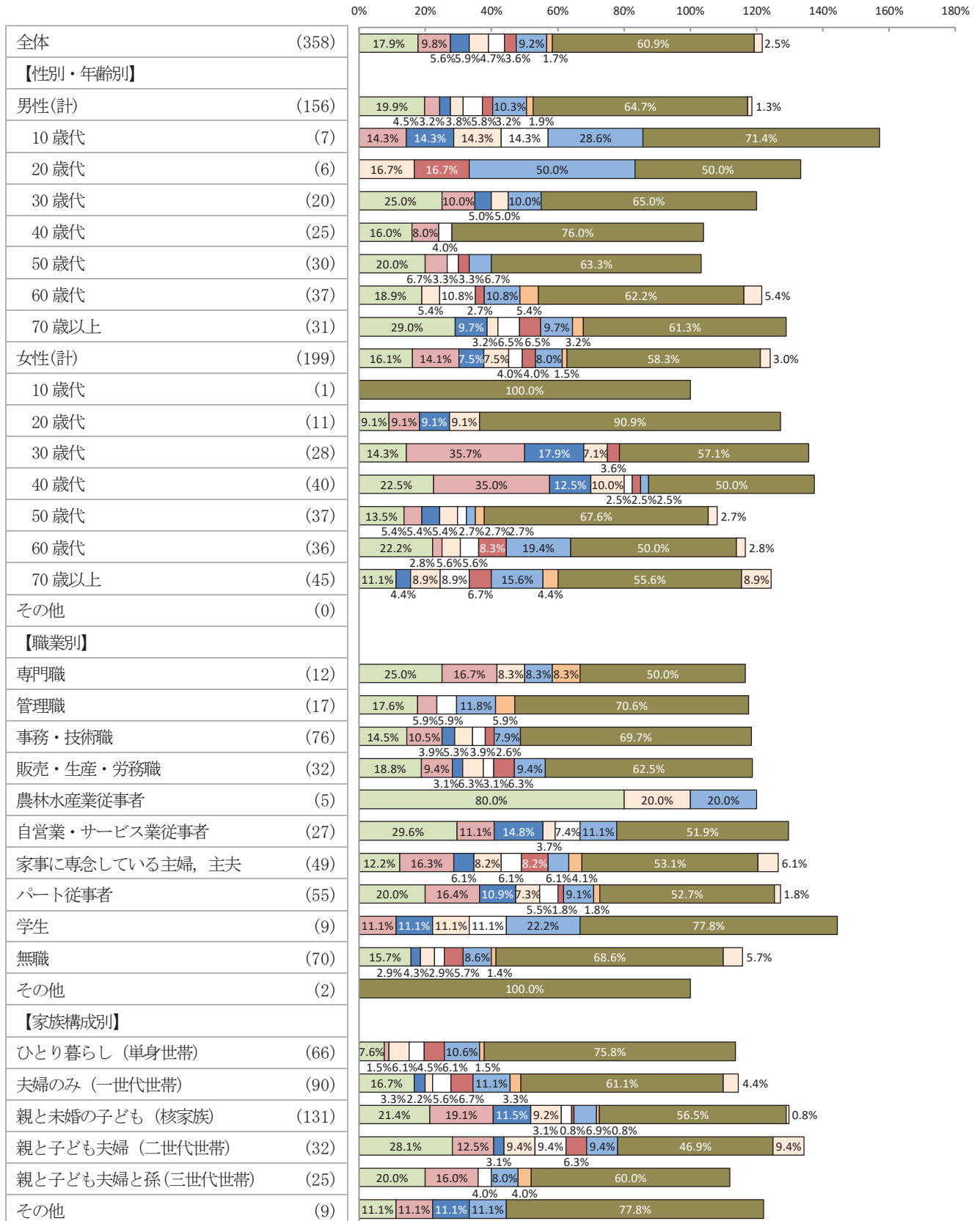
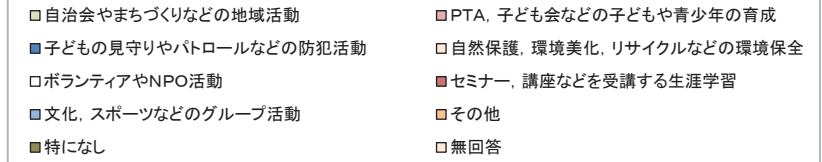
<参考>

性別・年齢別で見ると、「特になし」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が90.9%であった。「自治会やまちづくりなどの地域活動」は<男性/70歳以上>が29.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が25.0%であった。(図IV-9-8)

職業別で見ると、「特になし」は<その他>を除くと<学生>が77.8%で最も高く、次いで<管理職>が70.6%であった。「自治会やまちづくりなどの地域活動」は<農林水産業従事者>が80.0%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が29.6%であった。(図IV-9-8)

家族構成別で見ると、「特になし」は<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が75.8%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が61.1%であった。「自治会やまちづくりなどの地域活動」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が28.1%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が21.4%であった。(図IV-9-8)

<図IV-9-8>性別・年齢別／職業別／家族構成別



(3) 配偶者等からの暴力を受けた経験

◇ 「何でもあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり(計)】は、「心理的攻撃」が4.2%

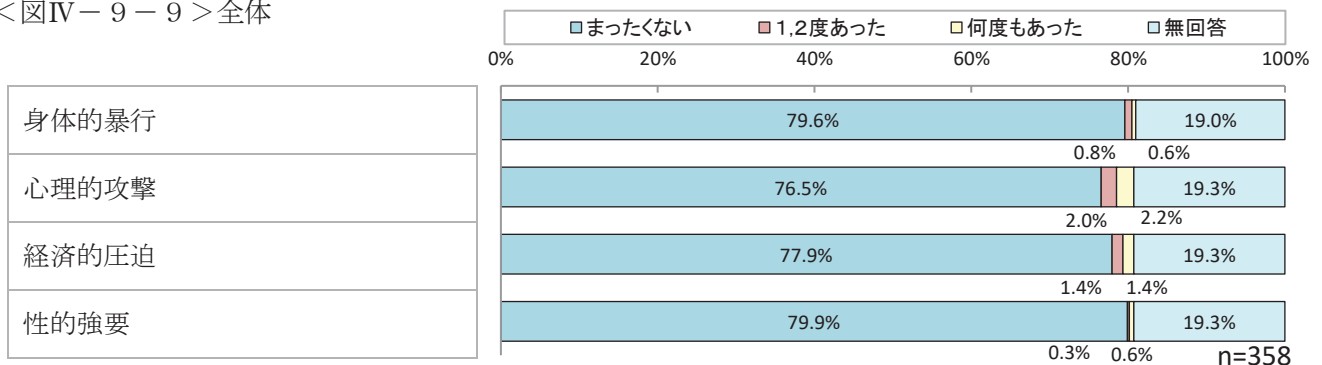
問35 過去1年間に配偶者から、次のような暴力を受けたことがありますか。

(それぞれ項目ごとに○は1つ)

n=358

	項目	まったく ない	1, 2度 あった	何でも あった	無回答
1	身体的暴行 (例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)	79.6%	0.8%	0.6%	19.0%
2	心理的攻撃 (例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫)	76.5%	2.0%	2.2%	19.3%
3	経済的圧迫 (例えば、生活費を渡さない、給料や貯金を使われる、外で働くことを妨害されるなど)	77.9%	1.4%	1.4%	19.3%
4	性的強要 (例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)	79.9%	0.3%	0.6%	19.3%

<図IV-9-9>全体



過去1年間に配偶者から、暴力を受けたことがあるかについて、「何でもあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり(計)】の割合は、「心理的攻撃」が4.2%で最も高く、次いで「経済的圧迫」が2.8%、「身体的暴行」が1.4%、「性的強要」が0.9%であった。(図IV-9-9)

<参考>

さらに暴力の種類ごとに性別・年齢別でみると【経験あり(計)】が最も多かったのは、「心理的攻撃」で<男性/40歳代>が12.0%で最も高く、「身体的暴行」は<男性/30歳代>が10.0%、「経済的圧迫」は<男性/40歳代>が8.0%、「性的強要」は<女性/40歳代>が5.0%であった。(図IV-9-10~図IV-9-13)

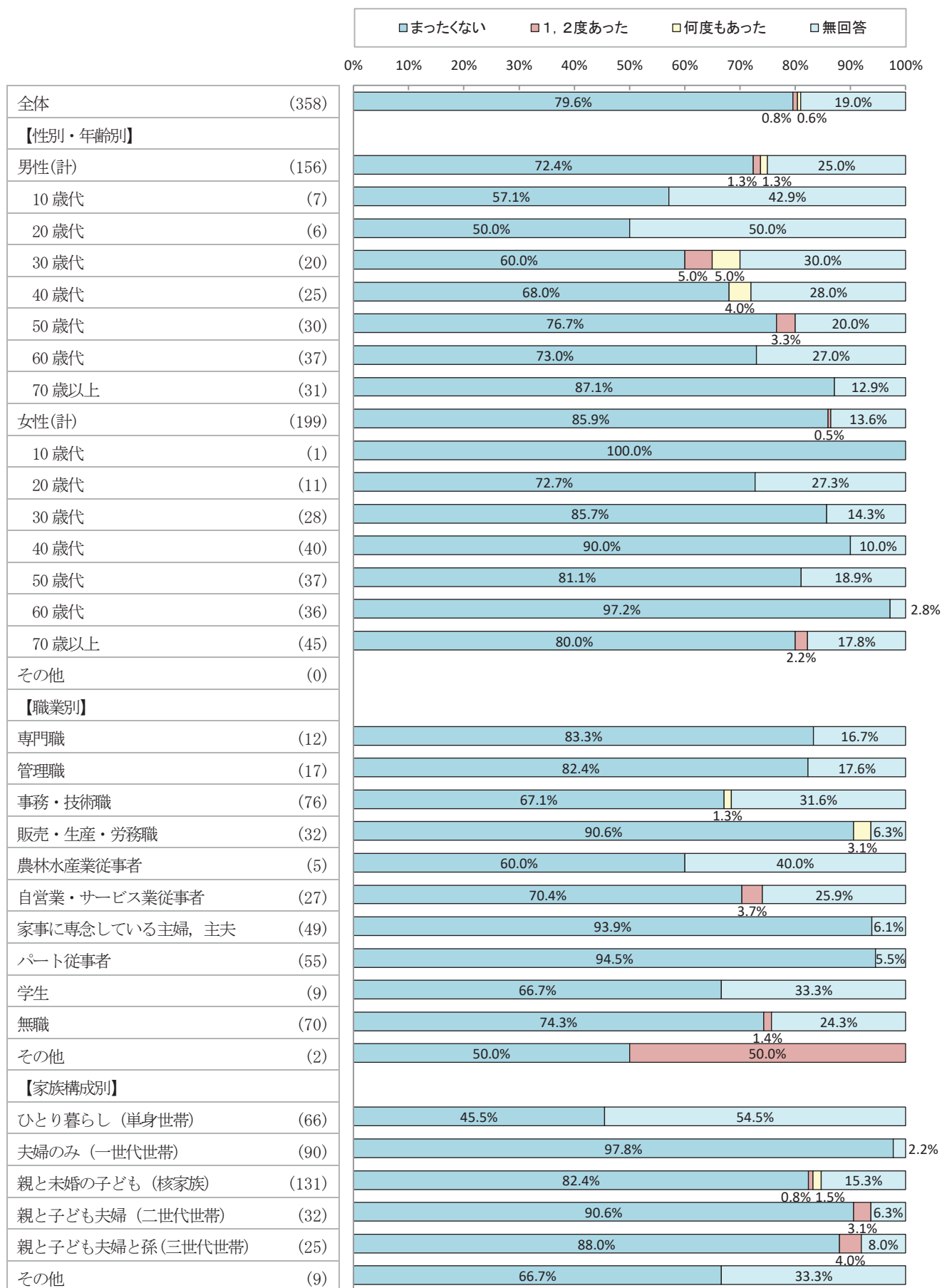
暴力を受けたことがある(総合)について性別でみると、【経験あり(計)】は<男性>が2.4%、<女性>が2.2%で<男性>が高かった。性別・年齢別でみると、【経験あり(計)】は<男性/40歳代>が7.0%で最も高かった。(図IV-9-14 総合)

暴力を受けたことがある(総合)について職業別でみると、【経験あり(計)】は<その他>を除くと<販売・生産・労務職>が3.9%で最も高かった。(図IV-9-14 総合)

暴力を受けたことがある(総合)について家族構成別でみると、【経験あり(計)】は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が4.7%で最も高かった。(図IV-9-14 総合)

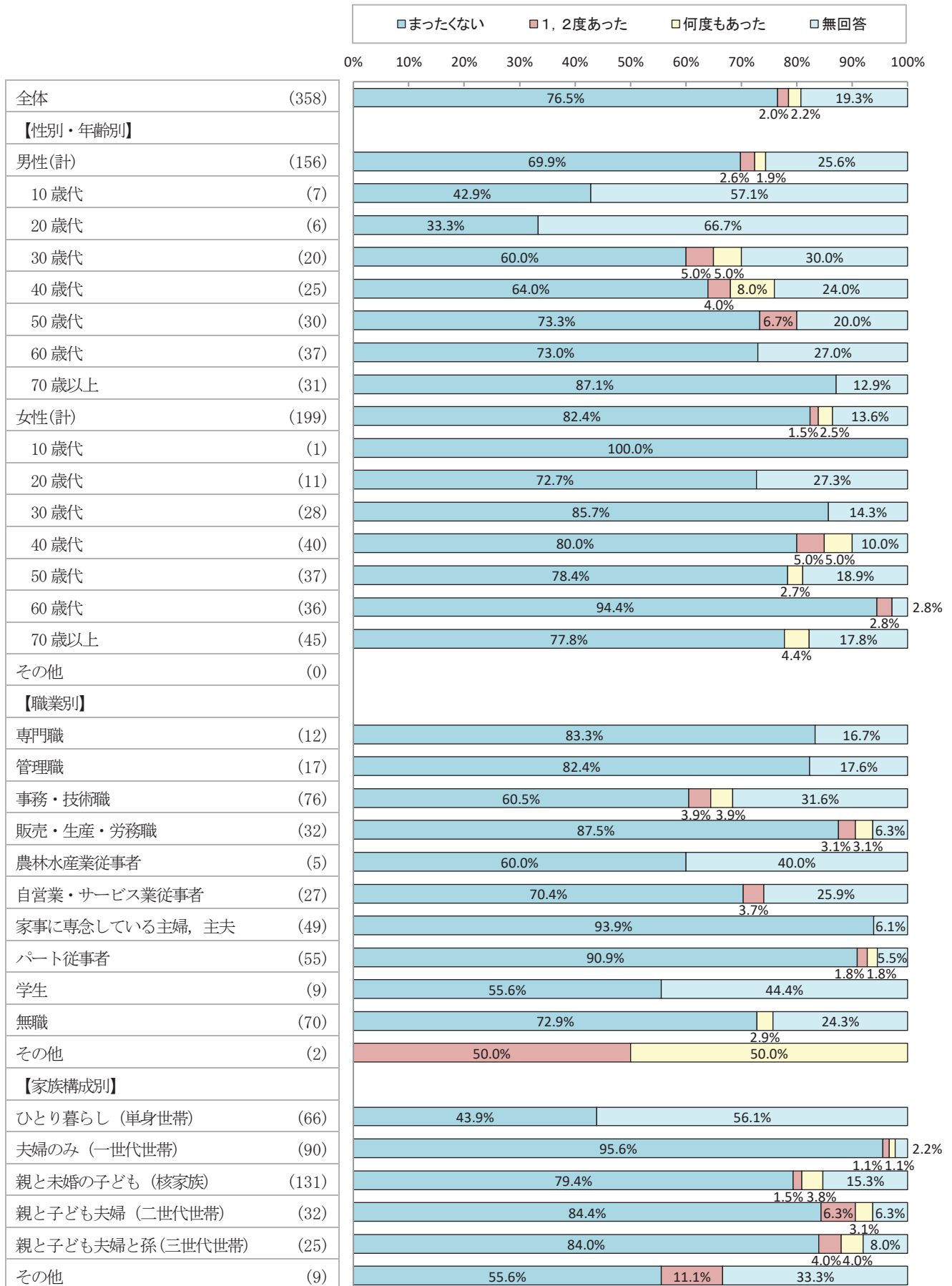
①身体的暴行

<図IV-9-10>性別・年齢別／職業別／家族構成別「身体的暴行」



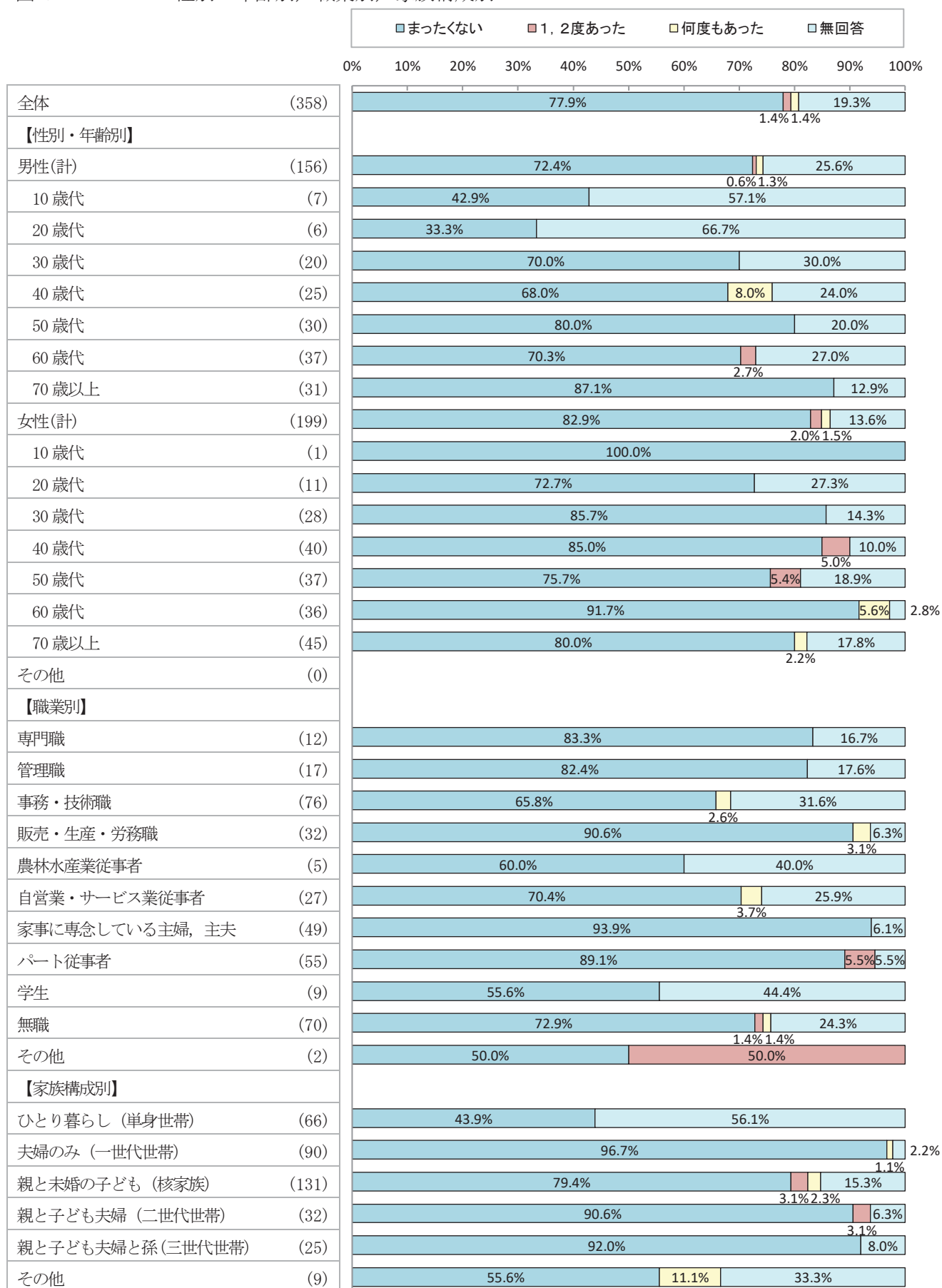
②心理的攻撃

<図IV-9-11>性別・年齢別／職業別／家族構成別



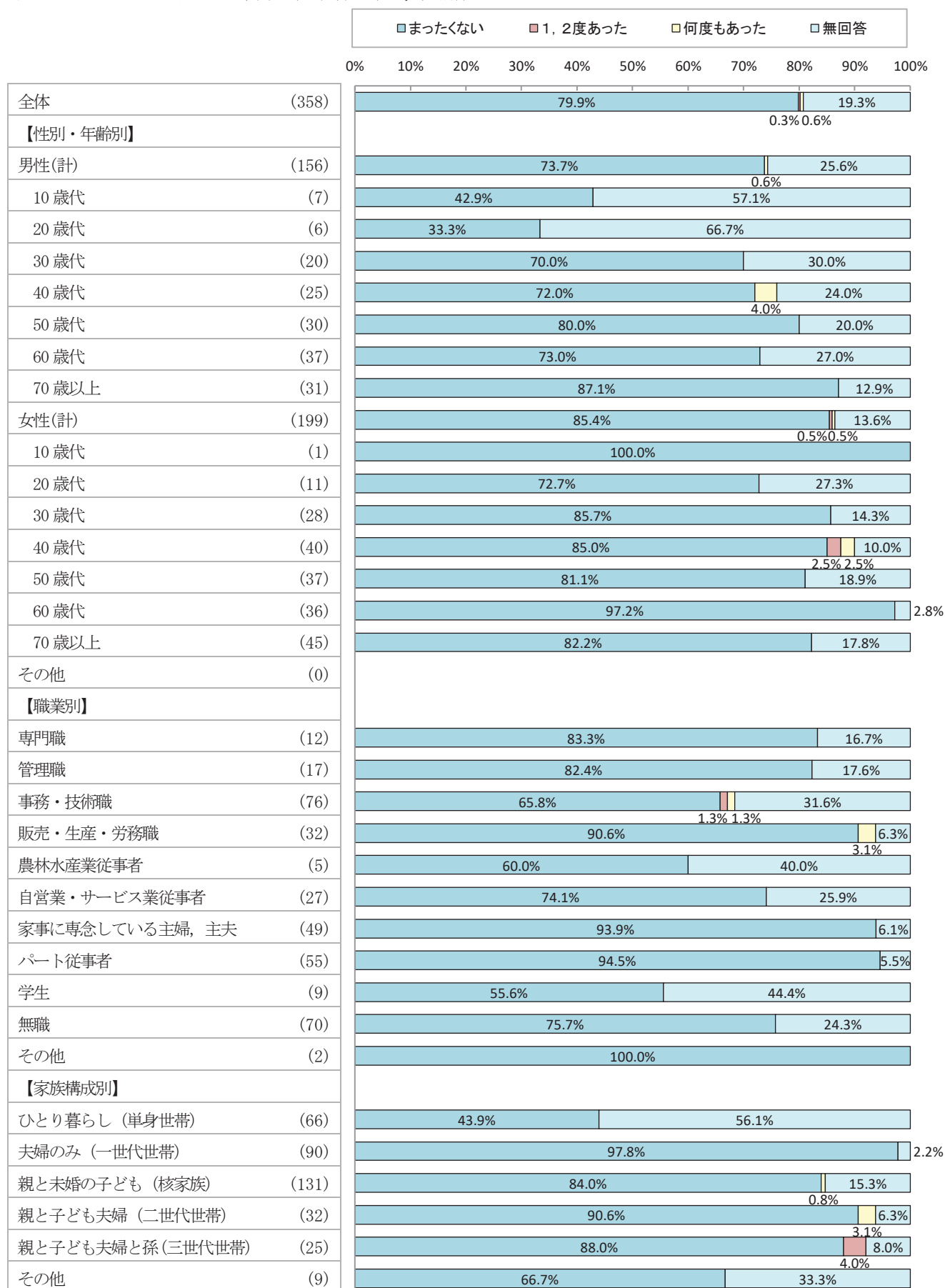
③経済的圧迫

<図Ⅳ－9－12>性別・年齢別／職業別／家族構成別



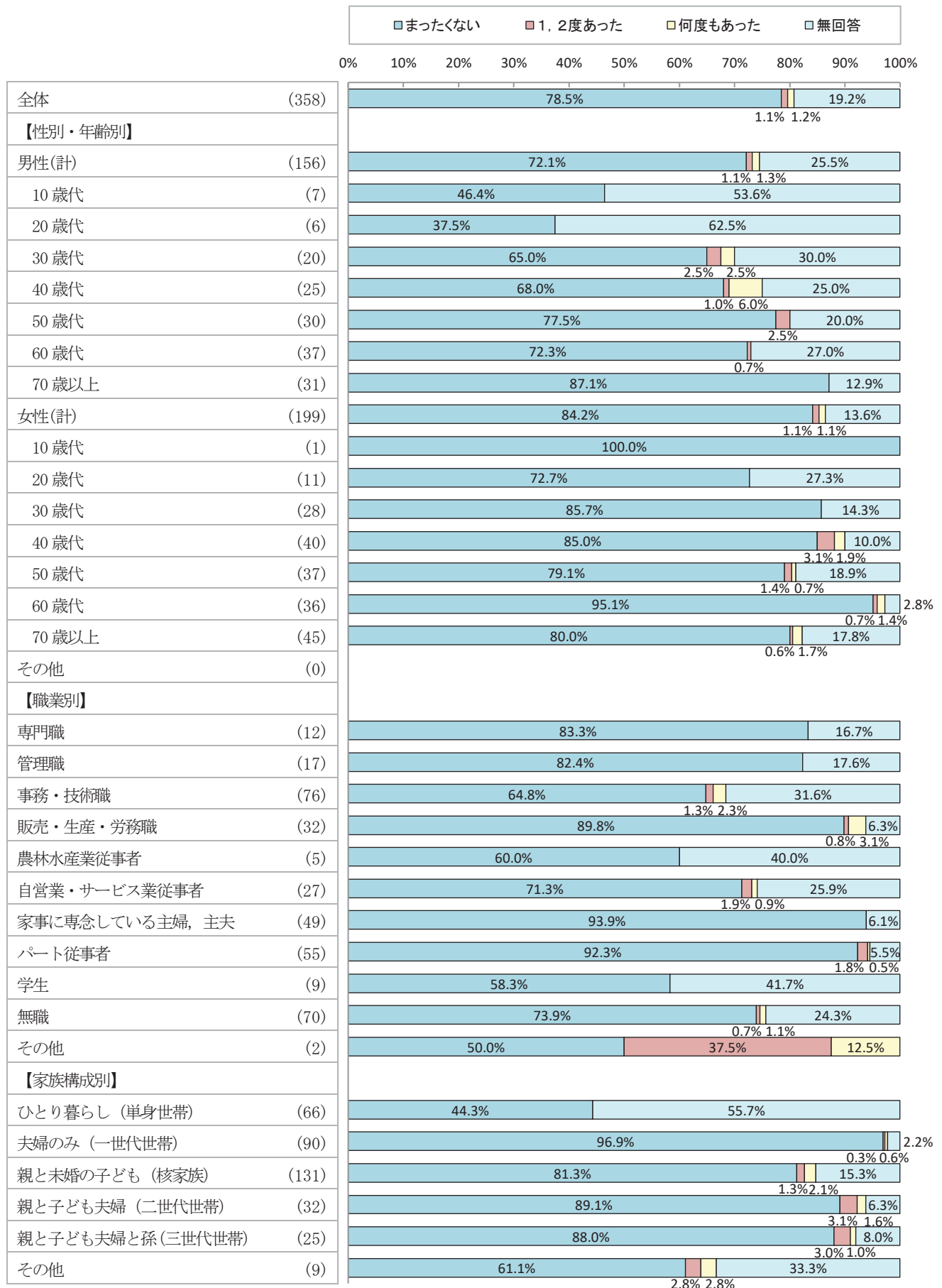
④性的強要

<図IV-9-13>性別・年齢別／職業別／家族構成別



●暴力を受けたことがある（総合）

<図IV-9-14>性別・年齢別／職業別／家族構成別

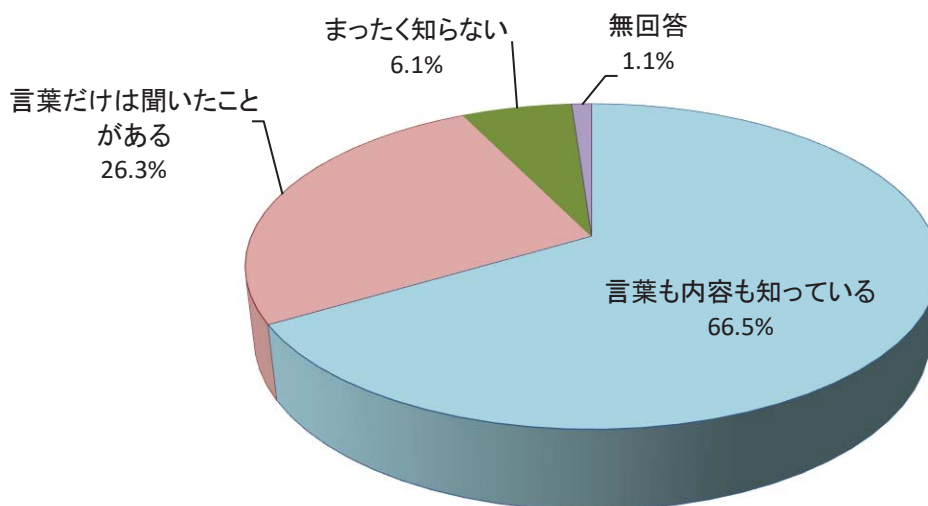


(4) LGBT (エルジービーティー) の認知度

◇ 「言葉も内容も知っている」が7割弱

問36 LGBT (エルジービーティー) ※という言葉について聞いたことがありますか。		
※L (レズビアン・女性同性愛者), G (ゲイ・男性同性愛者), B (バイセクシャル・両性愛者), T (トランスジェンダー・からだところの性が一致せず, 性別に違和感を覚える人) の4つの単語の頭文字をとった言葉で, 性的マイノリティ (性的少数者) を表す総称のひとつ		
		(○は1つ)
		n=358
1	言葉も内容も知っている	66.5%
2	言葉だけは聞いたことがある	26.3%
3	まったく知らない	6.1%
	(無回答)	1.1%

<図IV-9-15>全体



n=358

LGBT (エルジービーティー) の認知度については、「言葉も内容も知っている」が66.5%で最も高く、次いで「言葉だけは聞いたことがある」が26.3%、「まったく知らない」が6.1%であった。(図IV-9-15)

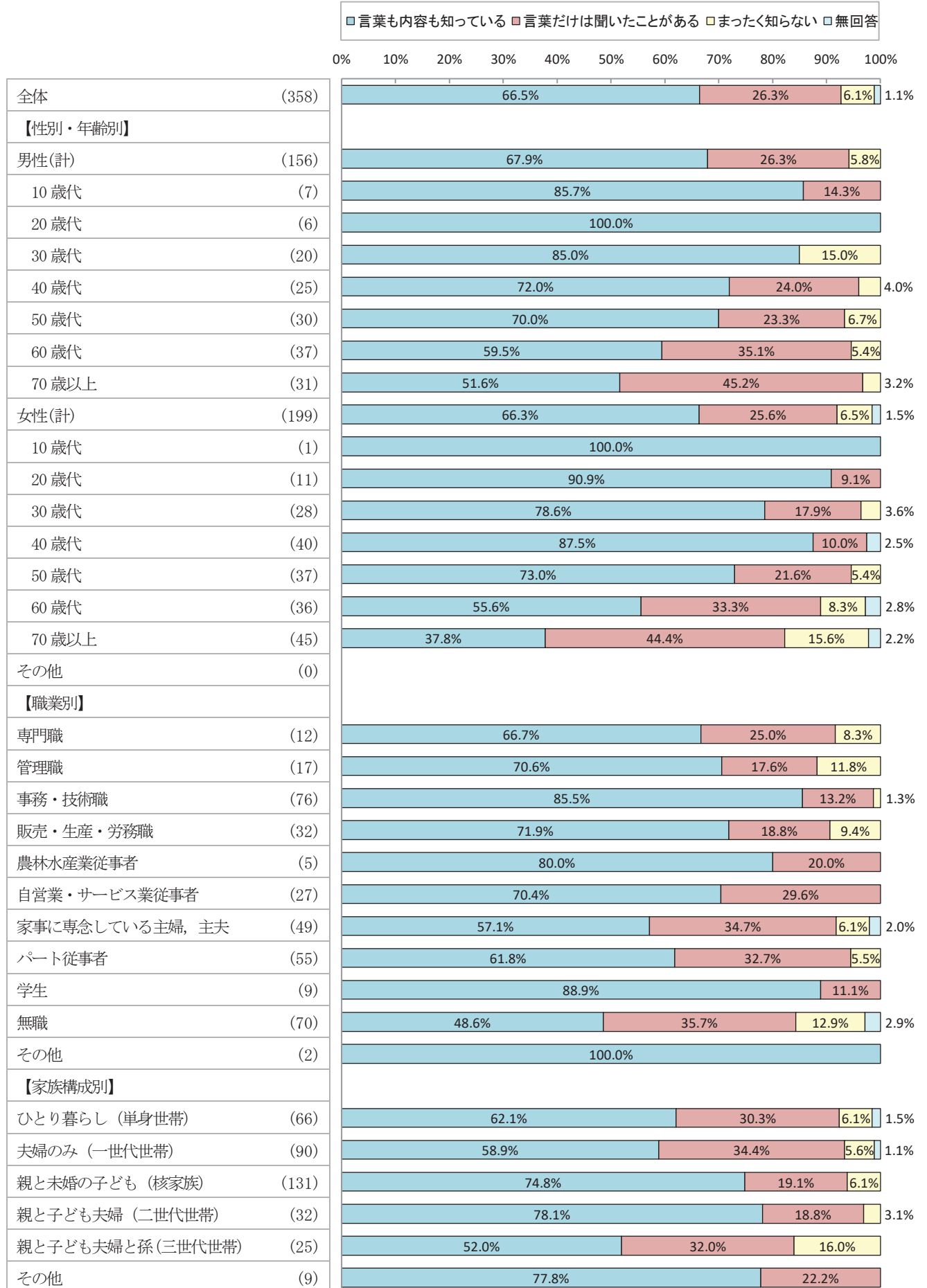
<参考>

性別・年齢別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<男性/20歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高かった。「言葉だけは聞いたことがある」は<男性/70歳以上>が45.2%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が44.4%であった。(図IV-9-16)

職業別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<その他>を除くと<学生>が88.9%で最も高く、次いで<事務・技術職>が85.5%であった。「言葉だけは聞いたことがある」は<無職>が35.7%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦, 主夫>が34.7%であった。(図IV-9-16)

家族構成別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<親と子ども夫婦 (二世帯世帯)>が78.1%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と未婚の子ども (核家族)>が74.8%であった。「言葉だけは聞いたことがある」は<夫婦のみ (一世帯世帯)>が34.4%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫 (三世帯世帯)>が32.0%であった。(図IV-9-16)

<図IV-9-16>性別・年齢別／職業別／家族構成別



10. 空き家及び防犯・交通安全に関する意識について

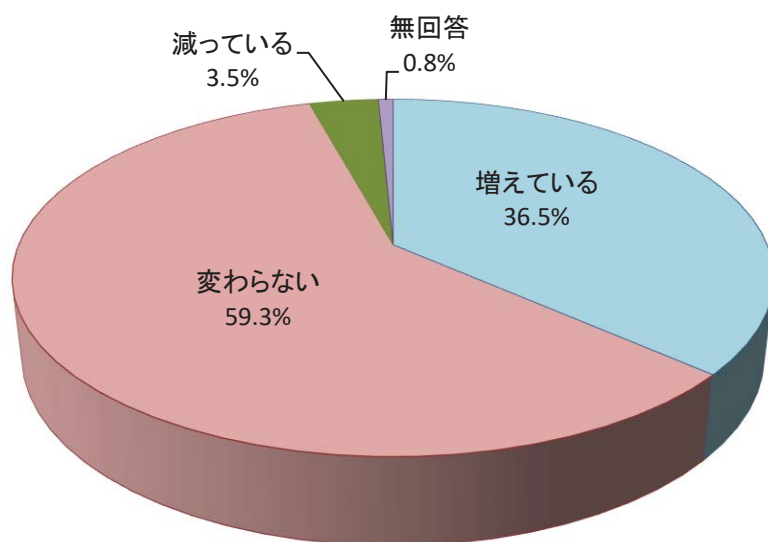
(1) 管理が不十分な空き家が増えていると感じるか

◇「変わらない」が約6割

問37 あなたの住まいの近所で、建物の一部が敷地外に崩れ落ちたり、生い茂った草木が隣地にはみ出したりするなど、管理が不十分な空き家が増えていると感じますか。(〇は1つ)

		n=400
1	増えている	36.5%
2	変わらない	59.3%
3	減っている	3.5%
	(無回答)	0.8%

<図IV-10-1>全体



n=400

管理が不十分な空き家が増えていると感じるかについては、「変わらない」が59.3%で最も高かった。(図IV-10-1)

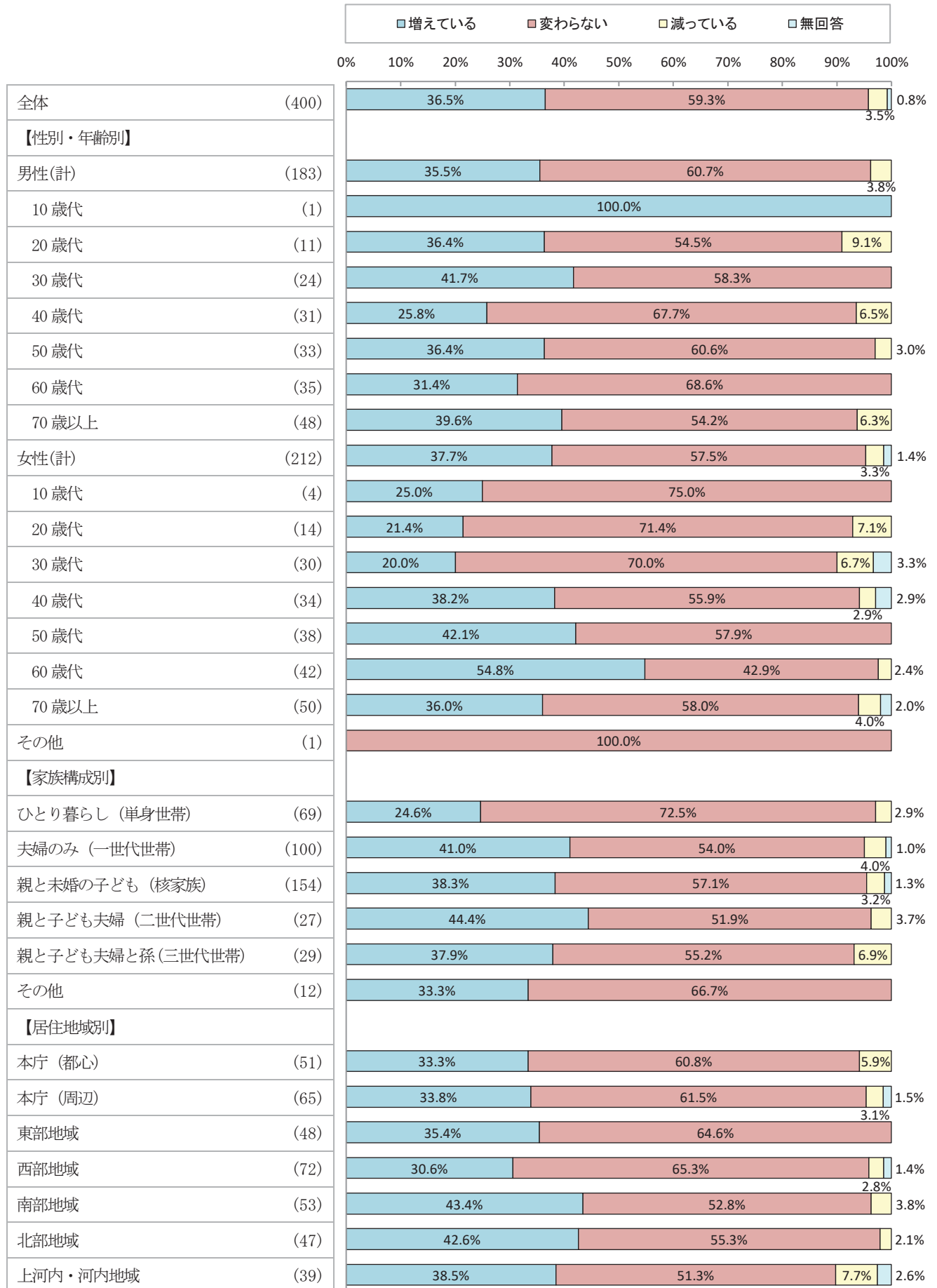
<参考>

性別・年齢別で見ると、「変わらない」は<その他>が100.0%で最も高く、次いで<女性/10歳代>が75.0%であった。「増えている」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が54.8%であった。(図IV-10-2)

家族構成別で見ると、「変わらない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が72.5%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と未婚の子ども(核家族)>が57.1%であった。「増えている」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が44.4%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が41.0%であった。(図IV-10-2)

居住地域別で見ると、「変わらない」は<西部地域>が65.3%で最も高かった。「増えている」は<南部地域>が43.4%で最も高かった。(図IV-10-2)

<図IV-10-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

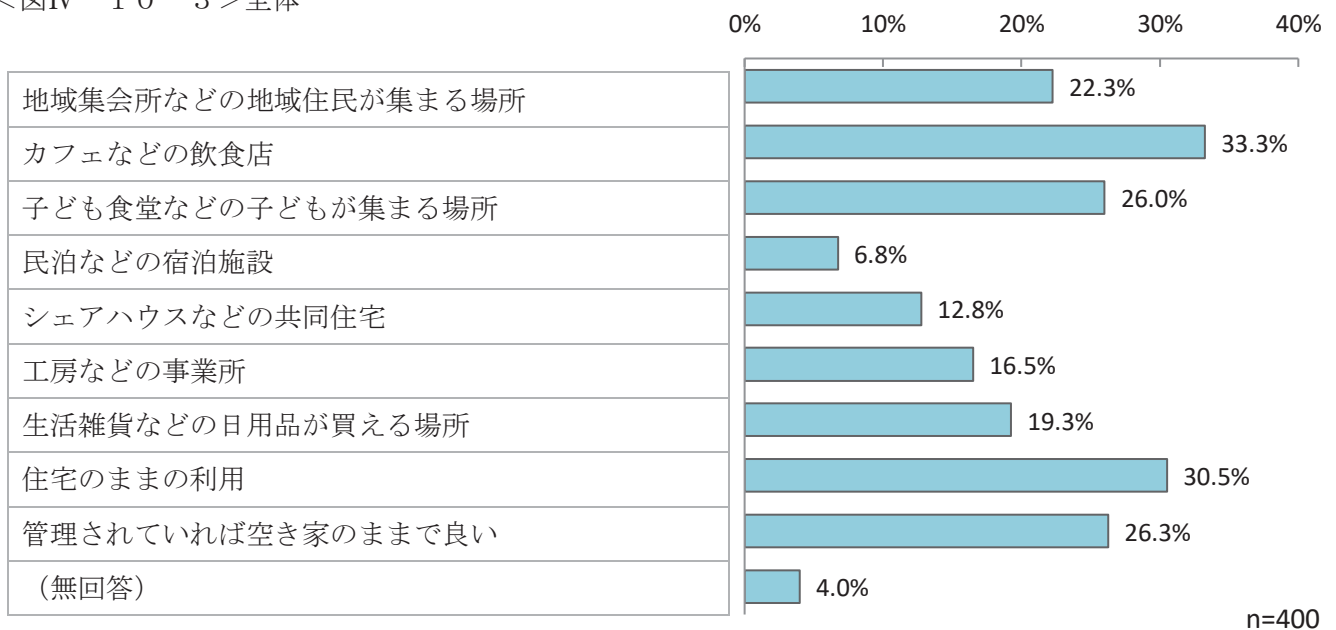


(2) 近所の空き家の活用方法

◇ 「カフェなどの飲食店」が3割強

問38	近所の空き家が、どのように活用されると良いと思いますか。	(○はいくつでも)
		n=400
1	地域集会所などの地域住民が集まる場所	22.3%
2	カフェなどの飲食店	33.3%
3	子ども食堂などの子どもが集まる場所	26.0%
4	民泊などの宿泊施設	6.8%
5	シェアハウスなどの共同住宅	12.8%
6	工房などの事業所	16.5%
7	生活雑貨などの日用品が買える場所	19.3%
8	住宅のままの利用	30.5%
9	管理されていれば空き家のままで良い	26.3%
	(無回答)	4.0%

<図IV-10-3>全体



近所の空き家の活用方法については、「カフェなどの飲食店」が33.3%で最も高く、次いで「住宅のままの利用」が30.5%と続いている。(図IV-10-3)

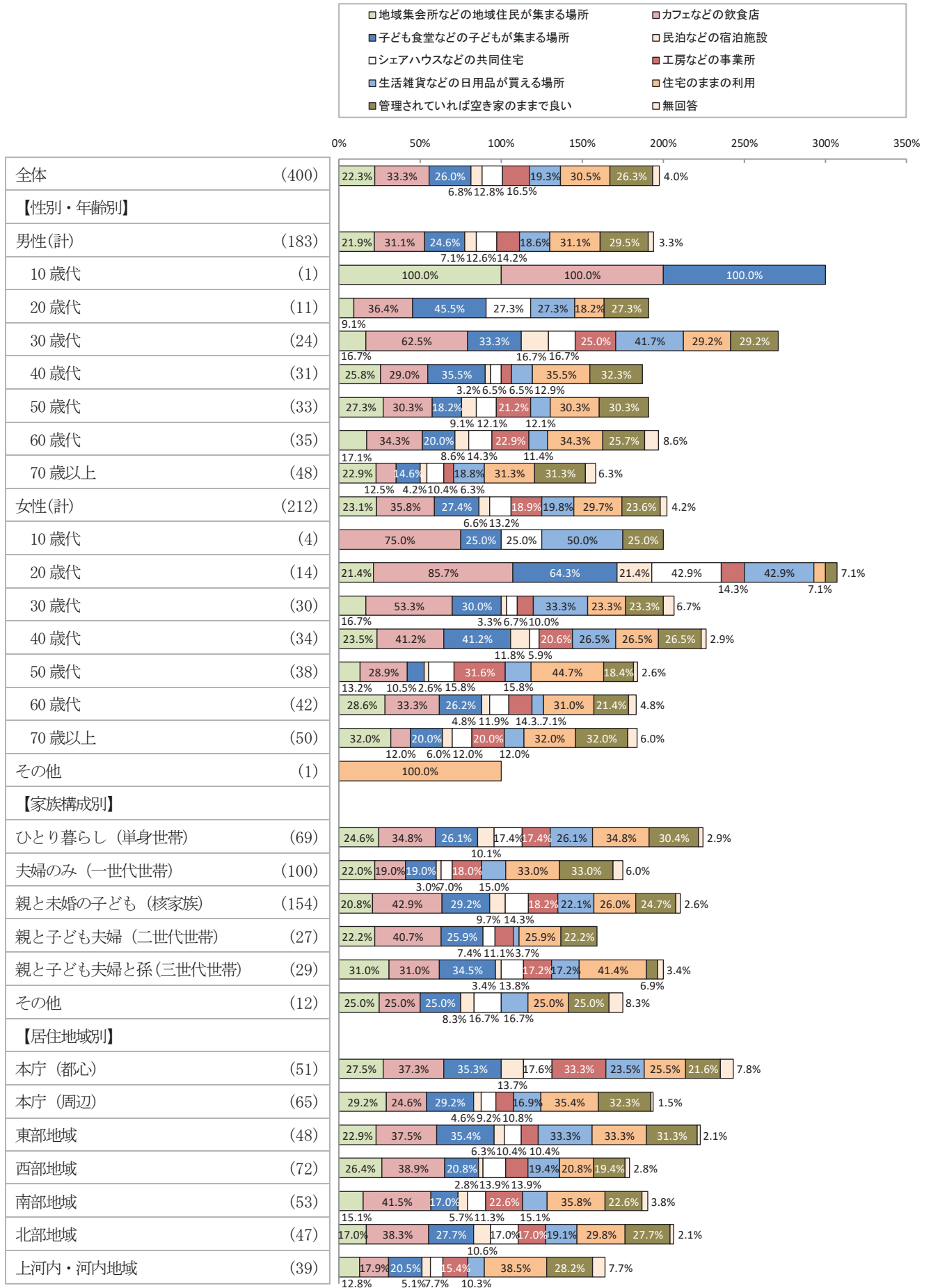
<参考>

性別・年齢別でみると、「カフェなどの飲食店」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が85.7%と続いている。「住宅のままの利用」は<女性/50歳代>が44.7%で最も高く、次いで<男性/40歳以上>が35.5%であった。(図IV-10-4)

家族構成別でみると、「カフェなどの飲食店」は<親と未婚の子ども(核家族)>が42.9%で最も高かった。「住宅のままの利用」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が41.4%で最も高かった。(図IV-10-4)

居住地域別でみると、「カフェなどの飲食店」は<南部地域>が41.5%で最も高かった。「住宅のままの利用」は<上河内・河内地域>が38.5%で最も高かった。(図IV-10-4)

<図IV-10-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

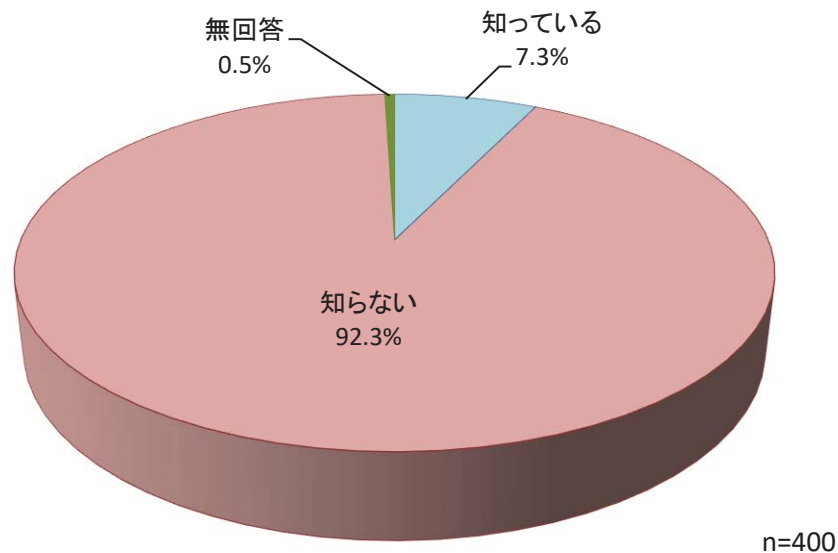


(3)「宇都宮空き家会議」の認知度

◇「知らない」が9割強

問39	空き家の所有者と利用希望者をマッチングする事業や空き家を活用して地域集会所の整備支援などに取り組んでいる官民連携組織「宇都宮空き家会議」を知っていますか。(○は1つ)	n=400
1	知っている	7.3%
2	知らない	92.3%
	(無回答)	0.5%

<図IV-10-5>全体



「宇都宮空き家会議」の認知度については、「知っている」が7.3%、「知らない」が92.3%であった。(図IV-10-5)

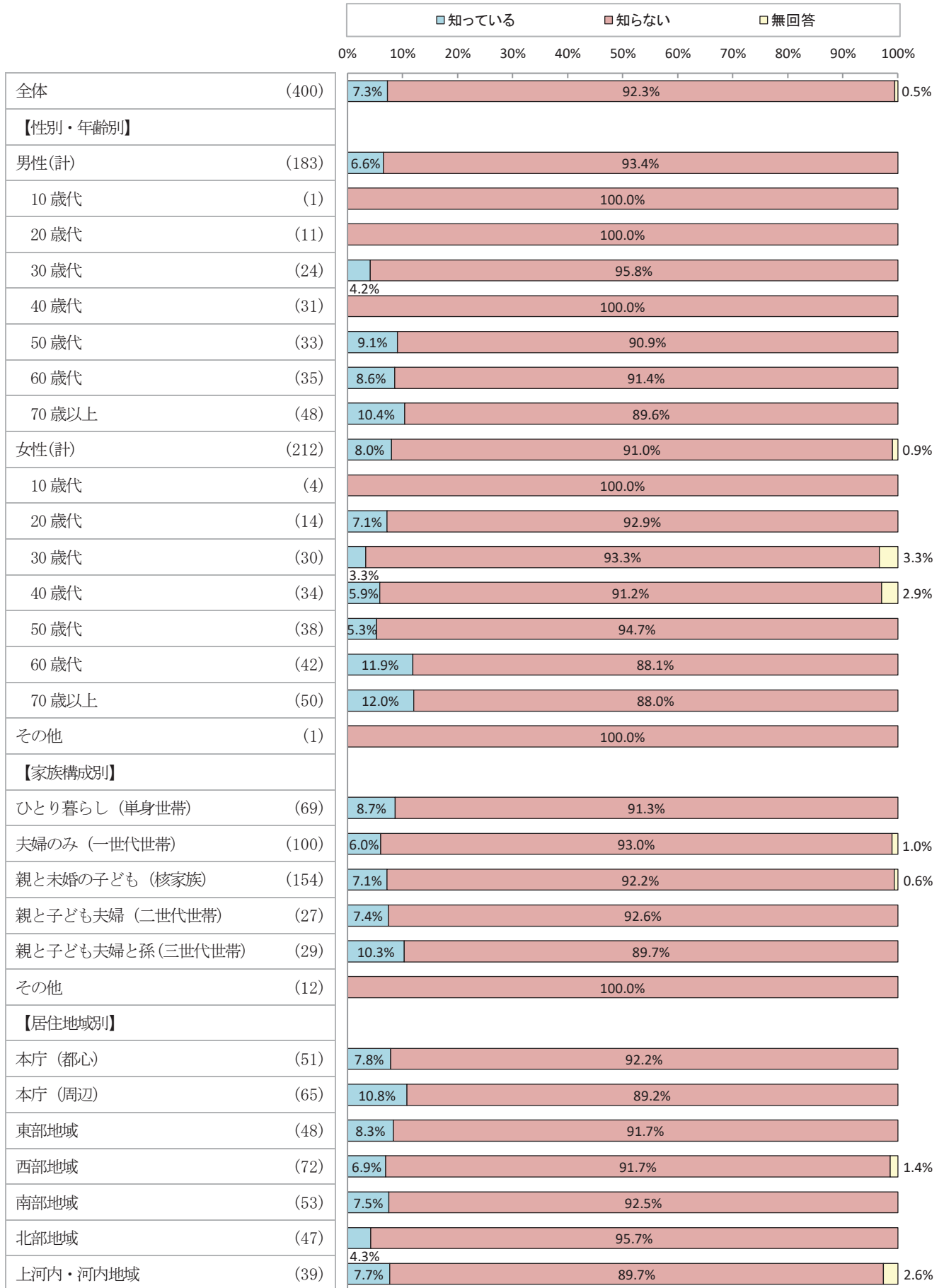
<参考>

性別・年齢別でみると、「知らない」は<その他>を除く<男性/10歳代>、<男性/20歳代>、<男性/40歳代>、<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高かった。一方、「知っている」は<女性/70歳以上>が12.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が11.9%であった。(図IV-10-6)

家族構成別でみると、「知らない」は<その他>を除く<夫婦のみ(一世代世帯)>が93.0%で最も高かった。一方、「知っている」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が10.3%で最も高かった。(図IV-10-6)

居住地域別でみると、「知らない」は<北部地域>が95.7%で最も高かった。一方、「知っている」は<本庁(周辺)>が10.8%で最も高かった。(図IV-10-6)

<図IV-10-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

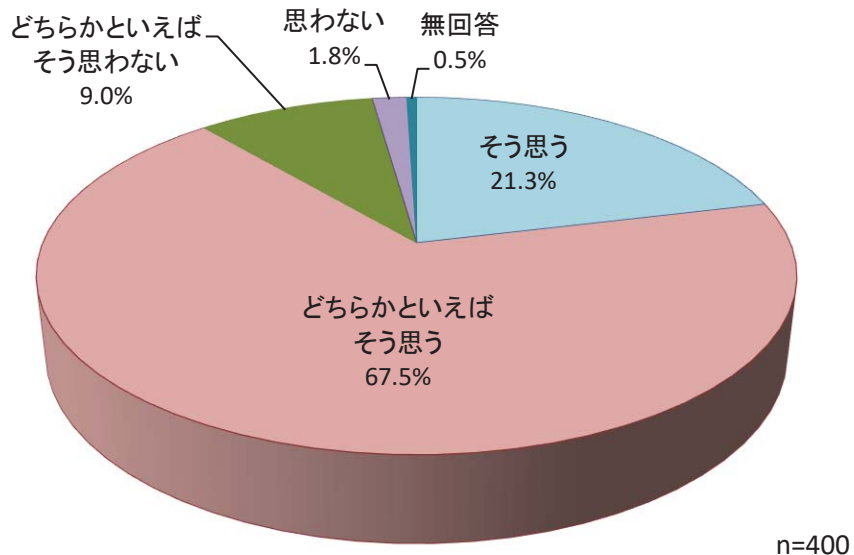


(4) 安心して暮らすことができていると思うか

◇ 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約9割

問40	宇都宮市では、犯罪のない安全で安心なまちづくりを目指した取組を推進していますが、あなたは普段、宇都宮市で生活する中で、安心して暮らすことができていると思いますか。（○は1つ）	n=400
1	そう思う	21.3%
2	どちらかといえばそう思う	67.5%
3	どちらかといえばそう思わない	9.0%
4	思わない	1.8%
	(無回答)	0.5%

<図IV-10-7>全体



安心して暮らすことができていると思うかについては、「そう思う」が21.3%、「どちらかといえばそう思う」が67.5%で、これらを合わせた【そう思う（計）】が88.8%であった。一方、「どちらかといえばそう思わない」9.0%、「思わない」1.8%で、これらを合わせた【そう思わない（計）】は10.8%であった。（図IV-10-7）

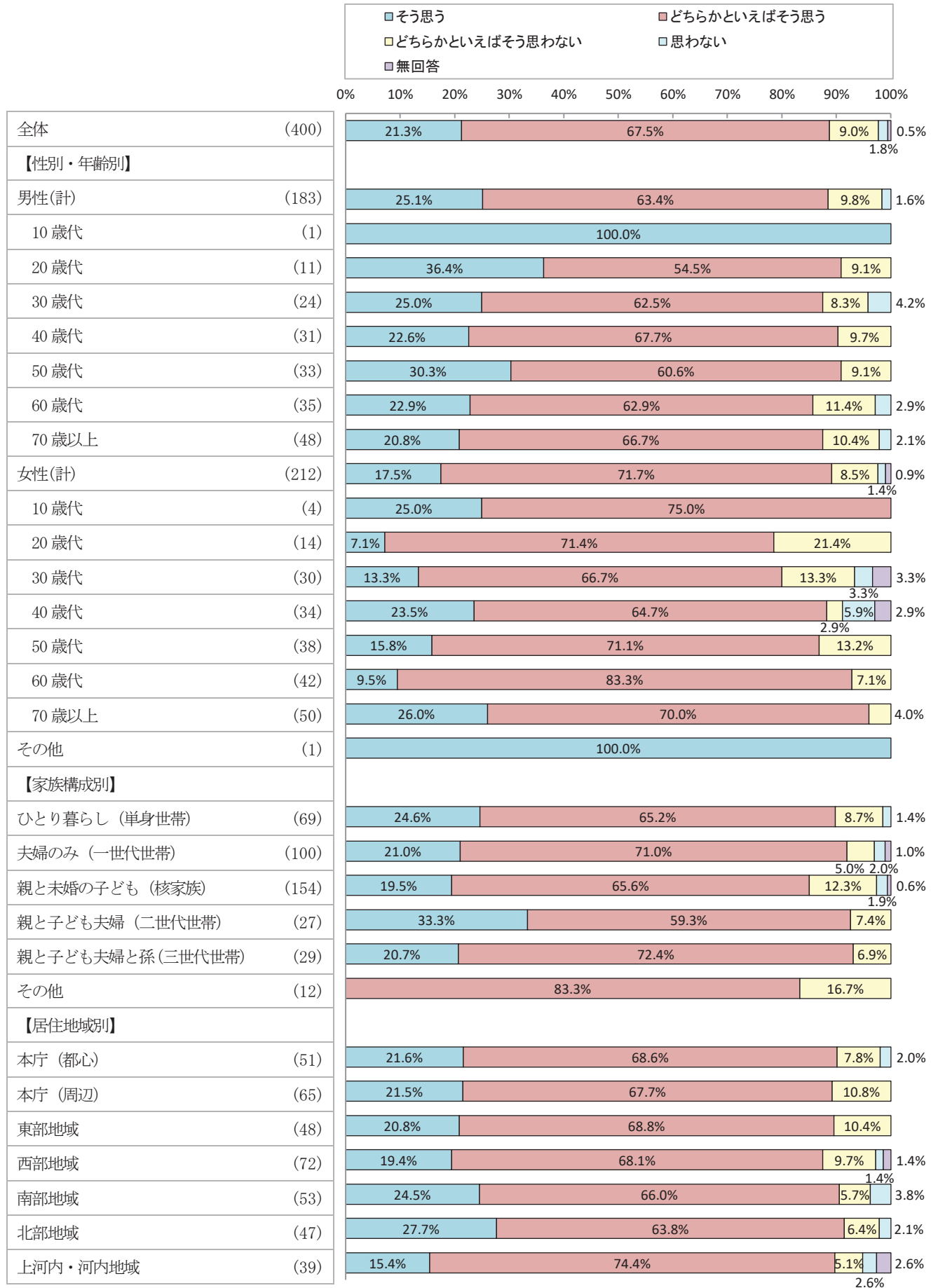
<参考>

性別・年齢別でみると、【そう思う（計）】は<男性/10歳代>、<女性/10歳代>、<その他>がいずれも100.0%で最も高かった。【そう思わない（計）】は<女性/20歳代>が21.4%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が16.6%であった。（図IV-10-8）

家族構成別でみると、【そう思う（計）】は<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が93.1%で最も高かった。【そう思わない（計）】は<親と未婚の子ども（核家族）>が14.3%で最も高かった。（図IV-10-8）

居住地域別でみると、【そう思う（計）】は<北部地域>が91.5%で最も高かった。【そう思わない（計）】は<西部地域>が11.1%で最も高かった。（図IV-10-8）

<図IV-10-8>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

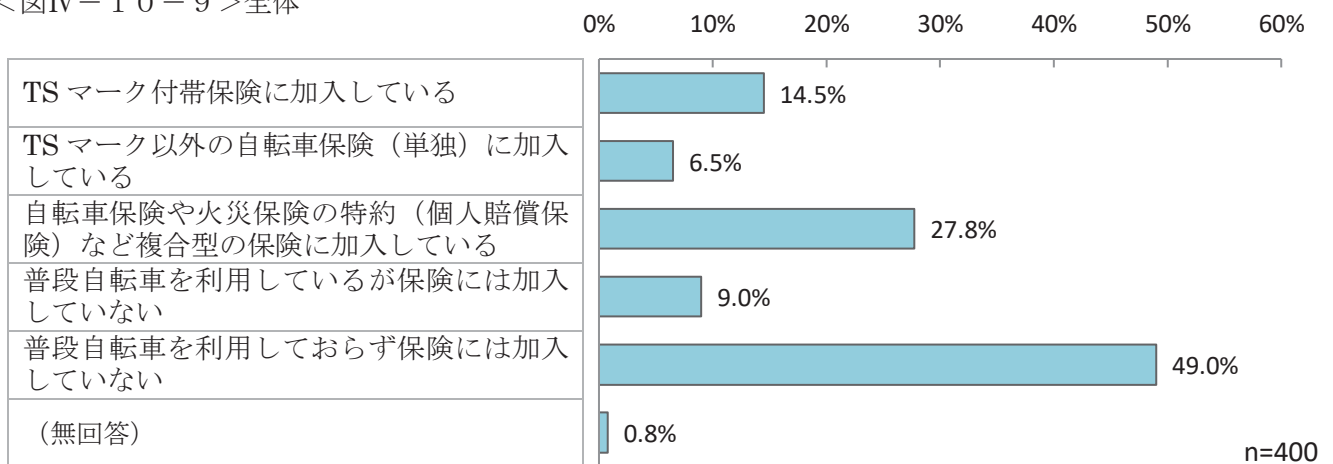


(5) 自転車保険の加入状況

◇ 「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が約5割

問 4 1	宇都宮市では、「交通事故のない社会」を目指し、総合的な交通安全対策を推進していますが、あなたは、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手のけがの治療費などを補償する保険（自転車保険）に加入していますか。	(○はいくつでも)	n=400
1	TS マーク付帯保険に加入している		14.5%
2	TS マーク以外の自転車保険（単独）に加入している		6.5%
3	自転車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している		27.8%
4	普段自転車を利用しているが保険には加入していない		9.0%
5	普段自転車を利用しておらず保険には加入していない		49.0%
	(無回答)		0.8%

<図IV-10-9>全体



自転車保険の加入状況については、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が 49.0%で最も高く、次いで「自転車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」が 27.8%、「TS マーク付帯保険に加入している」が 14.5%と続いている。（図IV-10-9）

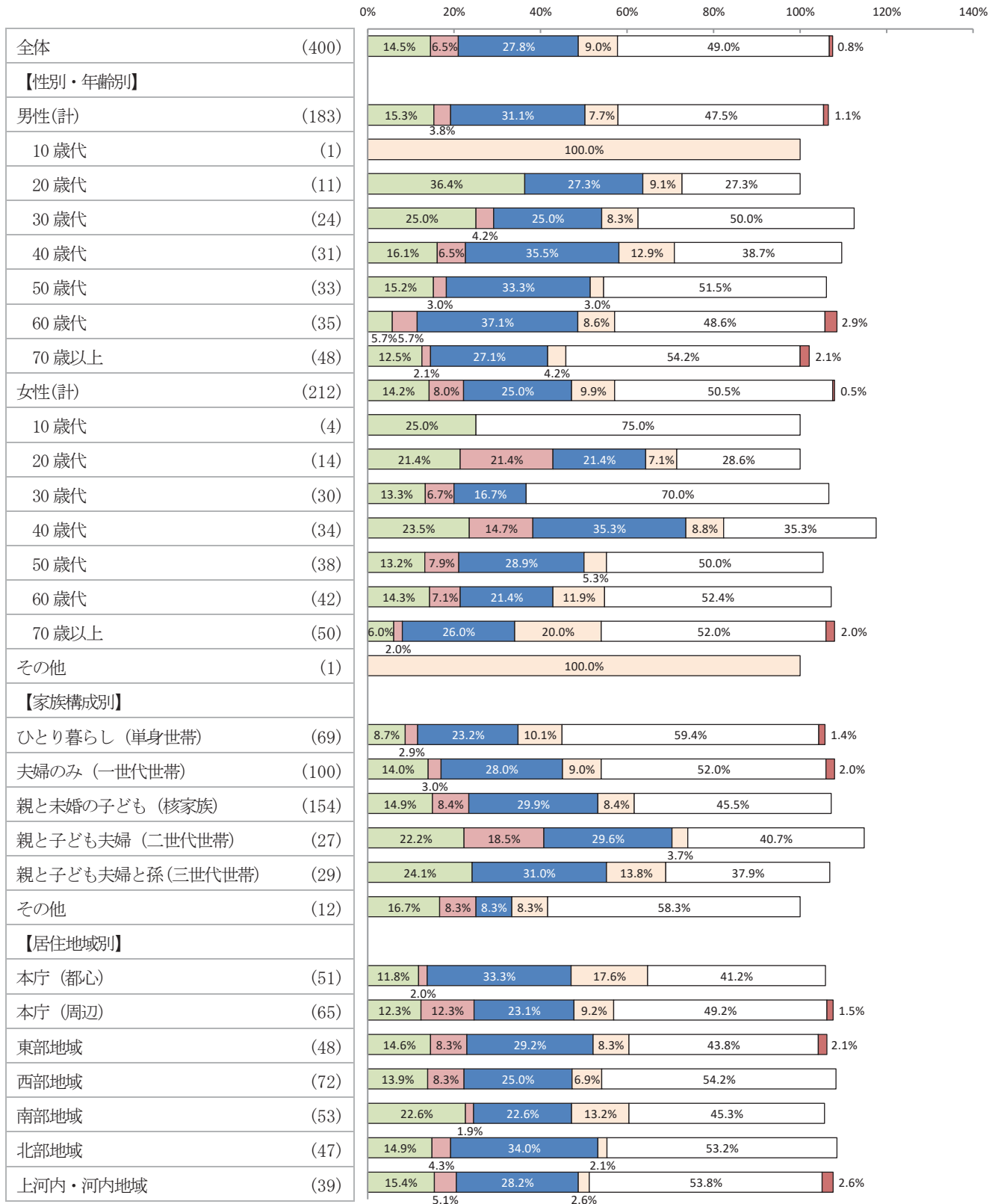
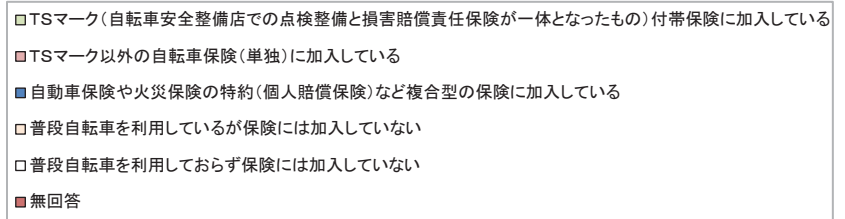
<参考>

性別・年齢別でみると、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」は<女性/10歳代>が 75.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が 70.0%と続いている。「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」は<男性/60歳代>が 37.1%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が 35.5%であった。（図IV-10-10）

家族構成別でみると、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」は、<ひとり暮らし（単身世帯）>が 59.4%で最も高かった。「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」は<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が 31.0%で最も高かった。（図IV-10-10）

居住地域別でみると、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」は<西部地域>が 54.2%で最も高かった。「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」は<北部地域>が 34.0%で最も高かった。（図IV-10-10）

<図IV-10-10>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



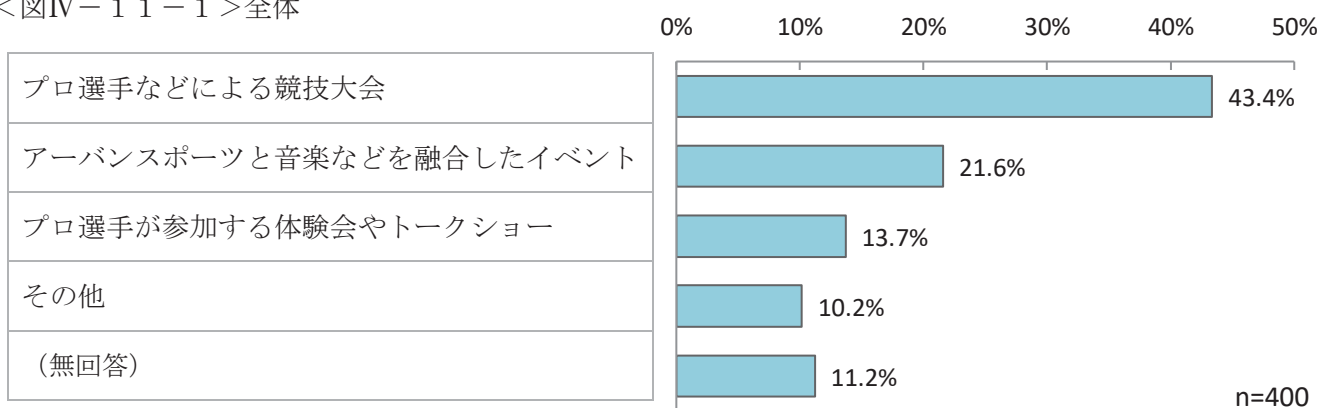
11. アーバンスポーツへの関心について

(1) どのようなアーバンスポーツイベントがあれば観戦したいか

◇「プロ選手などによる競技大会」が4割強

問42	本市が推進している3x3や東京オリンピックの正式種目となっているスケートボード、BMXなどのアーバン（都市型）スポーツについて、身近な場所で、どのようなアーバンスポーツイベントがあれば観戦したいですか。（〇はいくつでも）	n=400
1	プロ選手などによる競技大会	43.4%
2	アーバンスポーツと音楽などを融合したイベント	21.6%
3	プロ選手が参加する体験会やトークショー	13.7%
4	その他	10.2%
	（無回答）	11.2%

<図IV-11-1>全体



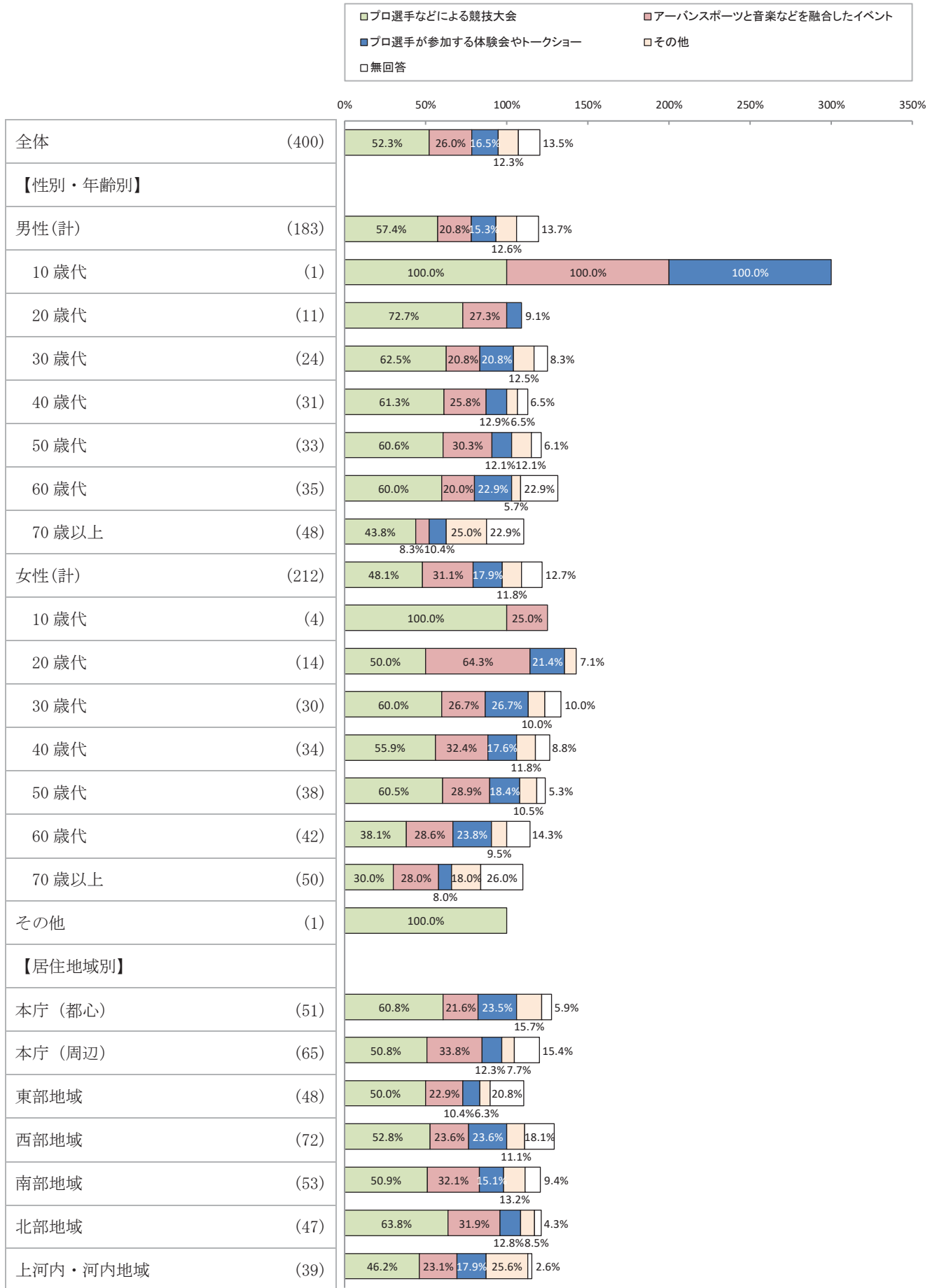
どのようなアーバンスポーツイベントがあれば観戦したいかについては、「プロ選手などによる競技大会」が43.4%で最も高く、次いで「アーバンスポーツと音楽などを融合したイベント」が21.6%、「プロ選手が参加する体験会やトークショー」が13.7%と続いている。（図IV-11-1）

<参考>

性別・年齢別でみると、「プロ選手などによる競技大会」は<男性/10歳代>、<女性/10歳代>、<その他>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が72.7%と続いている。「アーバンスポーツと音楽などを融合したイベント」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が64.3%であった。（図IV-11-2）

居住地域別でみると、「プロ選手などによる競技大会」は<北部地域>が63.8%で最も高かった。「アーバンスポーツと音楽などを融合したイベント」は<本庁（周辺）>が33.8%で最も高かった。（図IV-11-2）

<図IV-11-2>性別・年齢別/居住地域別

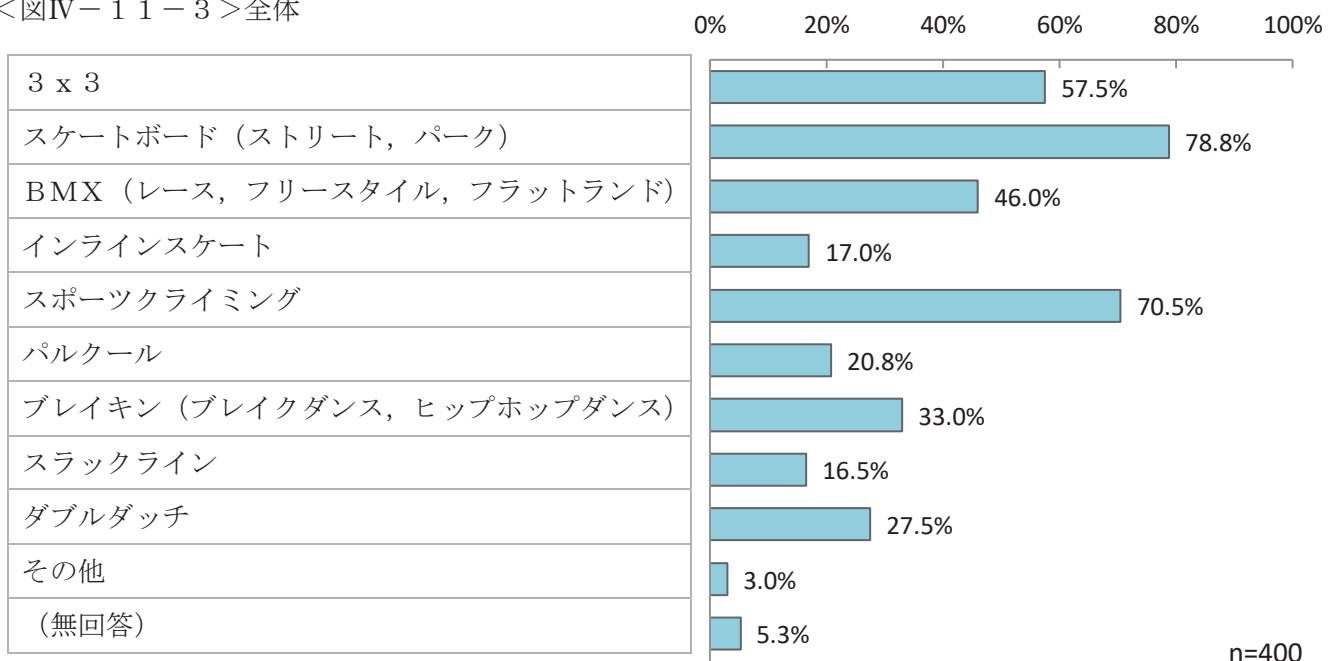


(2) アーバン（都市型）スポーツの種目の認知度

◇ 「スケートボード（ストリート，パーク）」が約8割

問43 アーバン（都市型）スポーツについて、あなたが知っている種目をすべてお選びください。		(〇はいくつでも)	n=400
1	3 x 3		57.5%
2	スケートボード（ストリート，パーク）		78.8%
3	BMX（レース，フリースタイル，フラットランド）		46.0%
4	インラインスケート		17.0%
5	スポーツクライミング		70.5%
6	パルクール		20.8%
7	ブレイキン（ブレイクダンス，ヒップホップダンス）		33.0%
8	スラックライン		16.5%
9	ダブルダッチ		27.5%
10	その他		3.0%
	(無回答)		5.3%

<図IV-11-3>全体



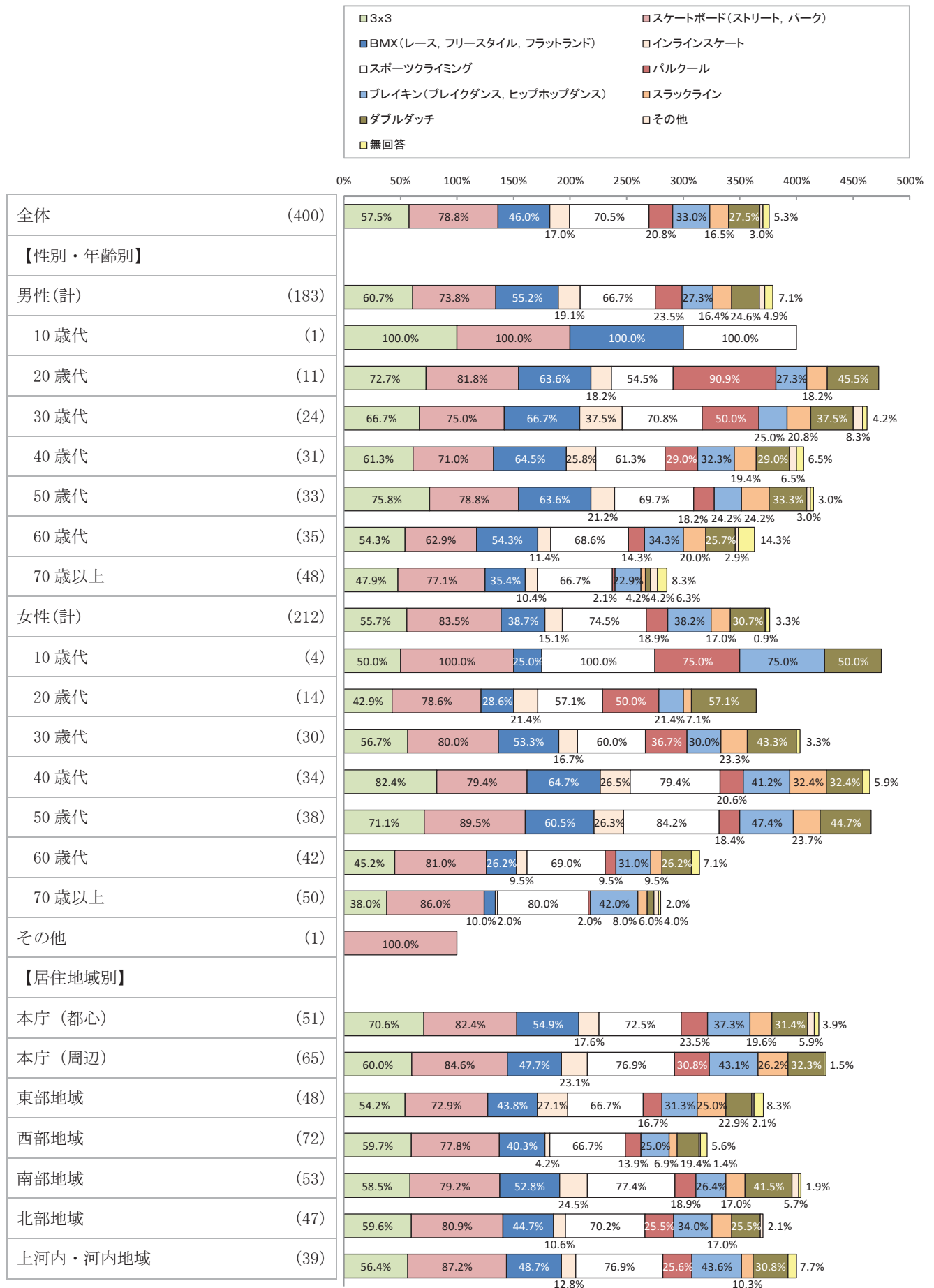
アーバン（都市型）スポーツの種目の認知度については、「スケートボード（ストリート，パーク）」が78.8%で最も高く、「スポーツクライミング」が70.5%、「3 x 3」が57.5%と続いている。（図IV-11-3）

<参考>

性別・年齢別でみると、「スケートボード（ストリート，パーク）」は<男性/10歳代>，<女性/10歳代>，<その他>がいずれも100.0%で最も高く，次いで<女性/50歳代>が89.5%と続いている。「スポーツクライミング」は<男性/10歳代>，<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く，次いで<女性/50歳代>が84.2%と続いている。（図IV-11-4）

居住地域別でみると、「スケートボード（ストリート，パーク）」は<上河内・河内地域>が87.2%で最も高く，次いで<本庁（周辺）>が84.6%と続いている。「スポーツクライミング」は<南部地域>が77.4%で最も高かった。（図IV-11-4）

<図IV-11-4>性別・年齢別/居住地域別

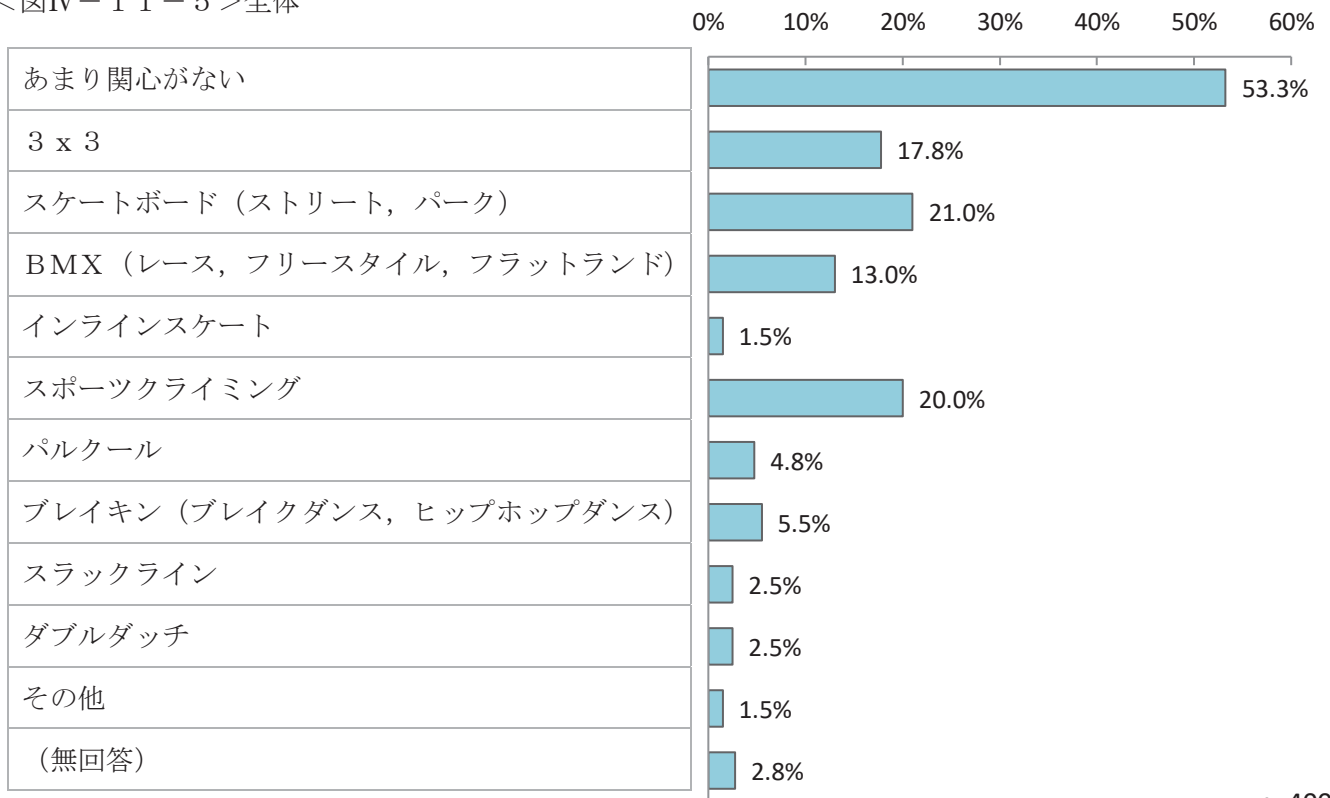


(3) 興味や関心または既にやっているアーバン（都市型）スポーツの種目

◇ 「あまり関心がない」が5割強

問 4 4 アーバン（都市型）スポーツについてあなたが興味や関心がある種目，または，既にやっている種目があればお選びください。		(〇はいくつでも)	n=400
1	あまり関心がない		53.3%
2	3 x 3		17.8%
3	スケートボード（ストリート，パーク）		21.0%
4	BMX（レース，フリースタイル，フラットランド）		13.0%
5	インラインスケート		1.5%
6	スポーツクライミング		20.0%
7	パルクール		4.8%
8	ブレイキン（ブレイクダンス，ヒップホップダンス）		5.5%
9	スラックライン		2.5%
10	ダブルダッチ		2.5%
11	その他		1.5%
	（無回答）		2.8%

<図IV-11-5>全体



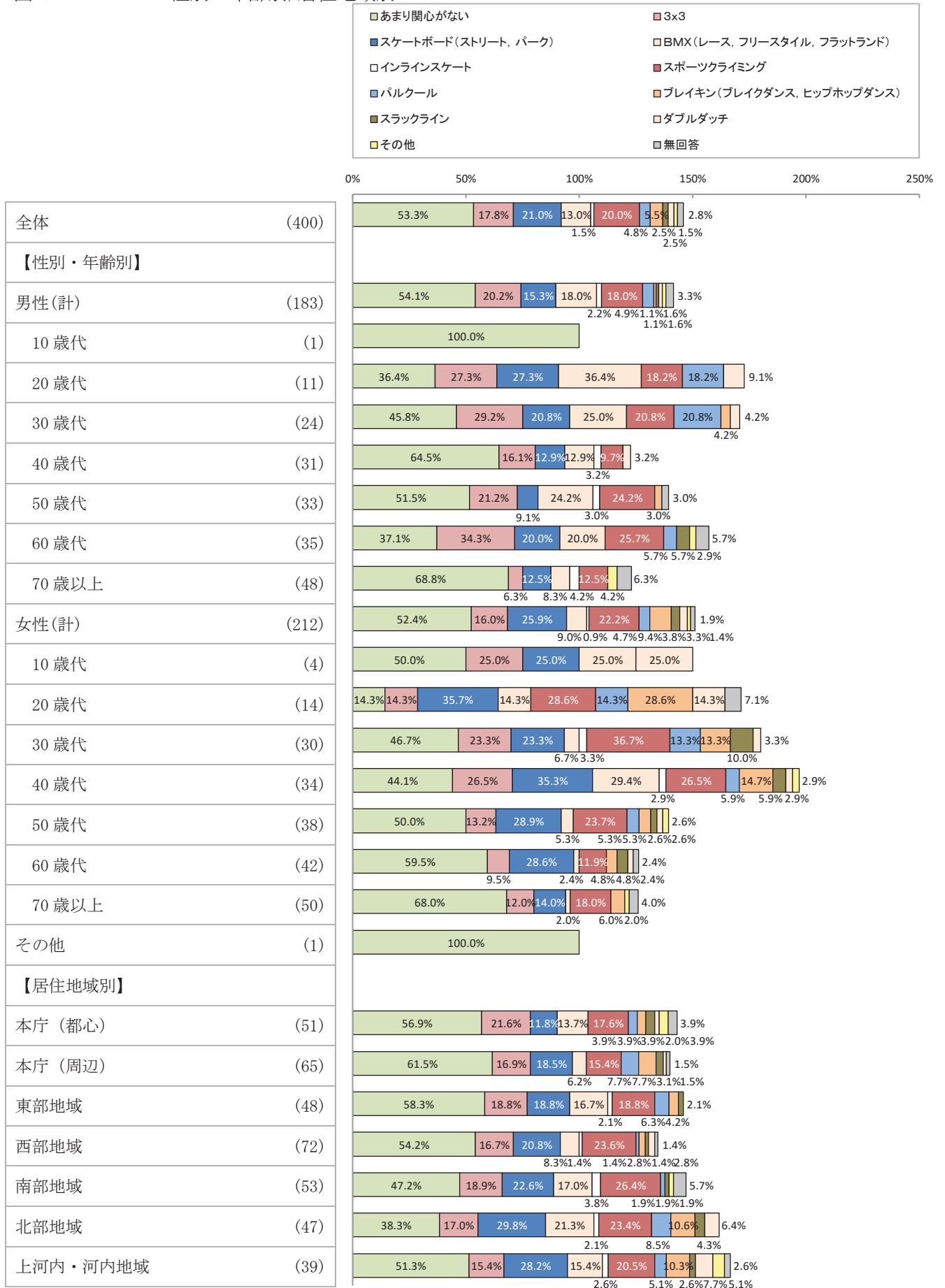
興味や関心または既にやっているアーバン（都市型）スポーツの種目については、「あまり関心がない」が 53.3%で最も高く、「スケートボード（ストリート，パーク）」が 21.0%、「スポーツクライミング」が 20.0%と続いている。（図IV-11-5）

<参考>

性別・年齢別でみると、「あまり関心がない」は<男性/10歳代>、<その他>が 100.0%でいずれも最も高く、次いで<男性/70歳以上>が 68.8%と続いている。「スケートボード（ストリート，パーク）」は<女性/20歳代>が 35.7%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が 35.3%と続いている。（図IV-11-6）

居住地域別でみると、「あまり関心がない」は<本庁（周辺）>が 61.5%で最も高く、次いで<東部地域>が 58.3%と続いている。「スケートボード（ストリート，パーク）」は<北部地域>が 29.8%で最も高かった。（図IV-11-6）

<図IV-11-6>性別・年齢別/居住地域別

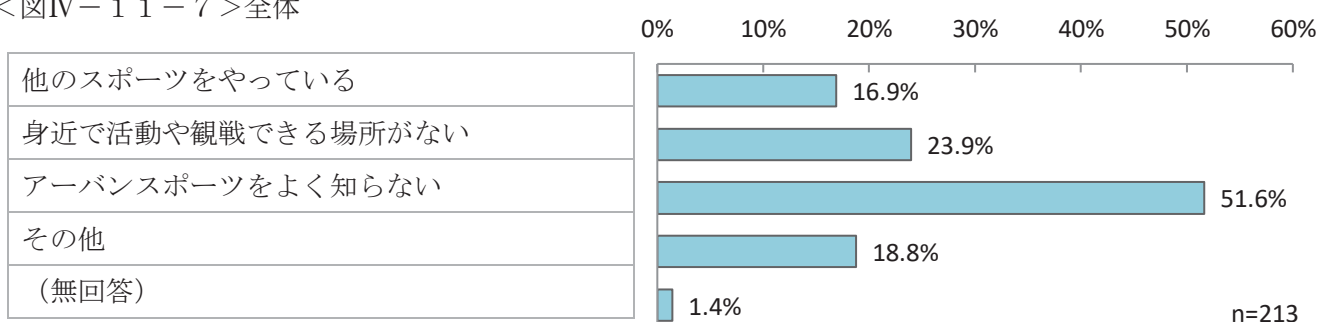


(4) アーバン（都市型）スポーツに関心がない理由

◇「アーバンスポーツをよく知らない」が5割強

問45	問44で「1 あまり関心がない」と答えた方にお聞きします。アーバン（都市型）スポーツに関心がないのは、どのような理由からですか。（〇はいくつでも）	n=213
1	他のスポーツをやっている	16.9%
2	身近で活動や観戦できる場所がない	23.9%
3	アーバンスポーツをよく知らない	51.6%
4	その他	18.8%
	（無回答）	1.4%

<図IV-11-7>全体



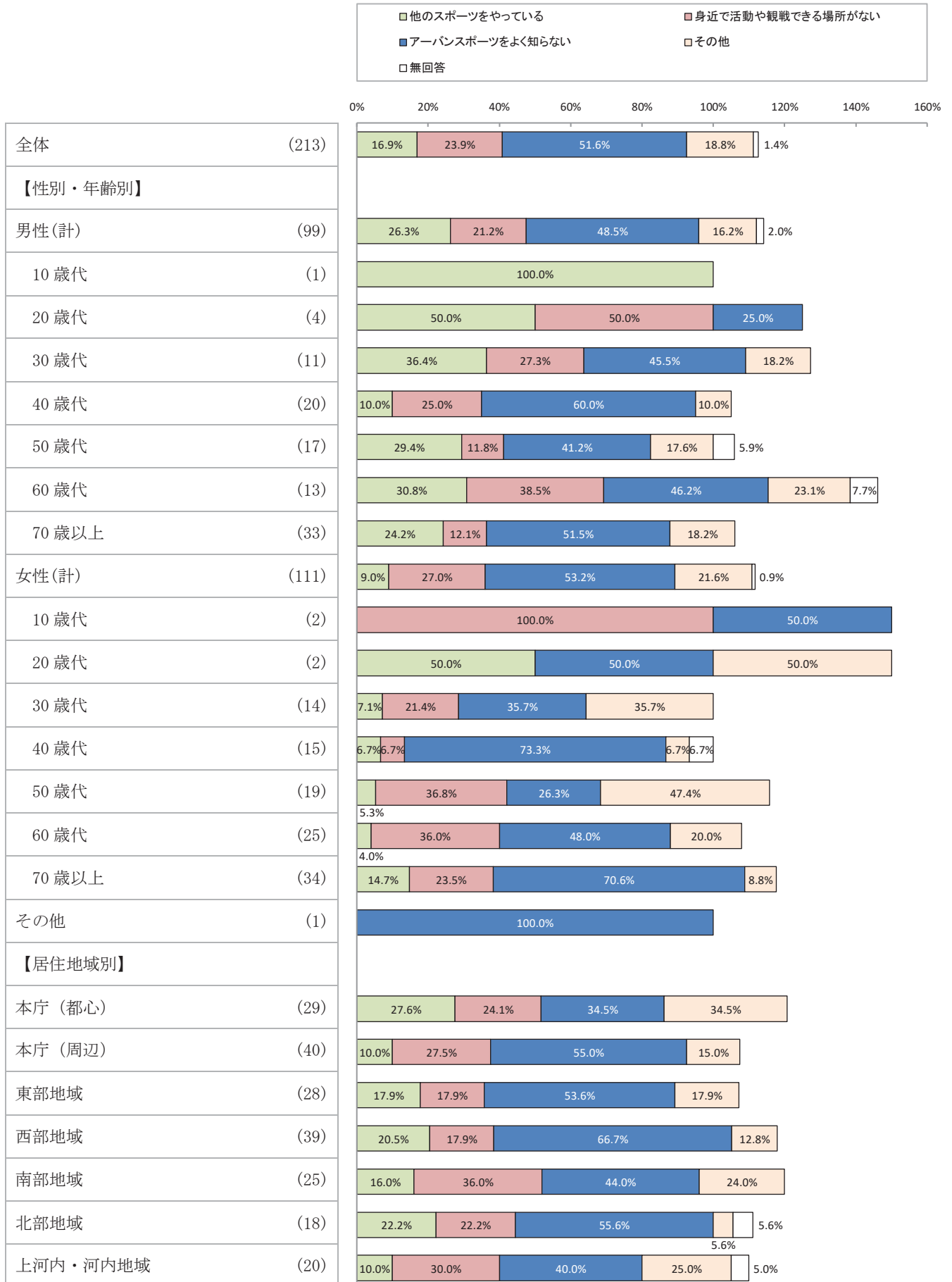
アーバン（都市型）スポーツに関心がない理由については、「アーバンスポーツをよく知らない」が51.6%で最も高く、次いで「身近で活動や観戦できる場所がない」が23.9%、「その他」が18.8%と続いている。（図IV-11-7）

<参考>

性別・年齢別でみると、「アーバンスポーツをよく知らない」は<その他>が100.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が73.3%と続いている。「身近で活動や観戦できる場所がない」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が50.0%と続いている。（図IV-11-8）

居住地域別でみると、「アーバンスポーツをよく知らない」は<西部地域>が66.7%で最も高く、次いで<北部地域>が55.6%と続いている。「身近で活動や観戦できる場所がない」は<南部地域>が36.0%で最も高かった。（図IV-11-8）

<図IV-11-8>性別・年齢別/居住地域別



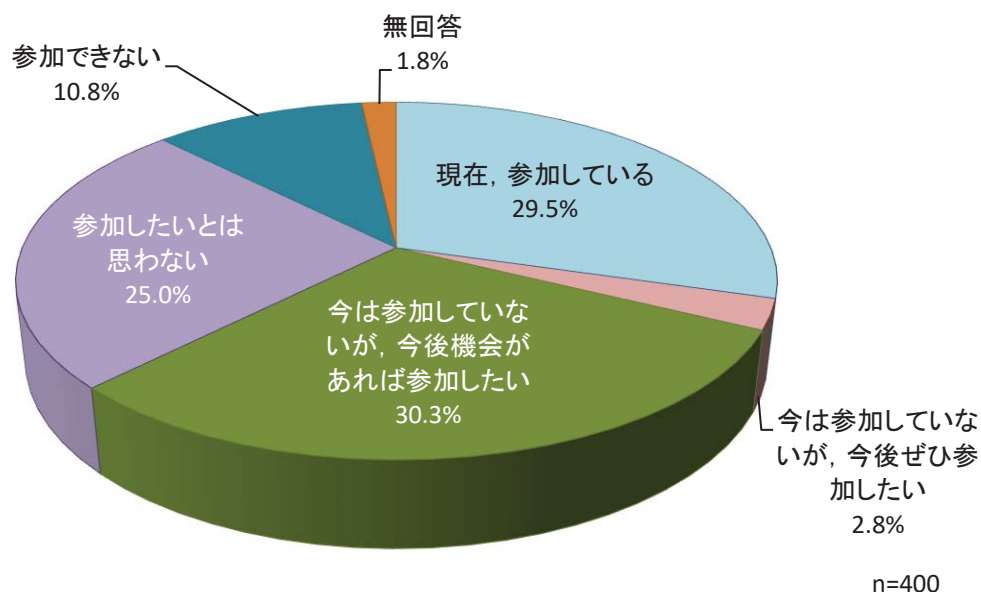
12. まちづくり活動への意識について

(1) まちづくり活動の参加状況

◇ 「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が約3割

問46	あなたのまちづくり活動の参加状況について教えてください。	(○は1つ)
		n=400
1	現在, 参加している	29.5%
2	今は参加していないが, 今後ぜひ参加したい	2.8%
3	今は参加していないが, 今後機会があれば参加したい	30.3%
4	参加したいとは思わない	25.0%
5	参加できない	10.8%
	(無回答)	1.8%

<図IV-12-1>全体



まちづくり活動の参加状況については、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が30.3%で最も高く、次いで「現在,参加している」が29.5%、「参加したいとは思わない」が25.0%と続いている。(図IV-12-1)

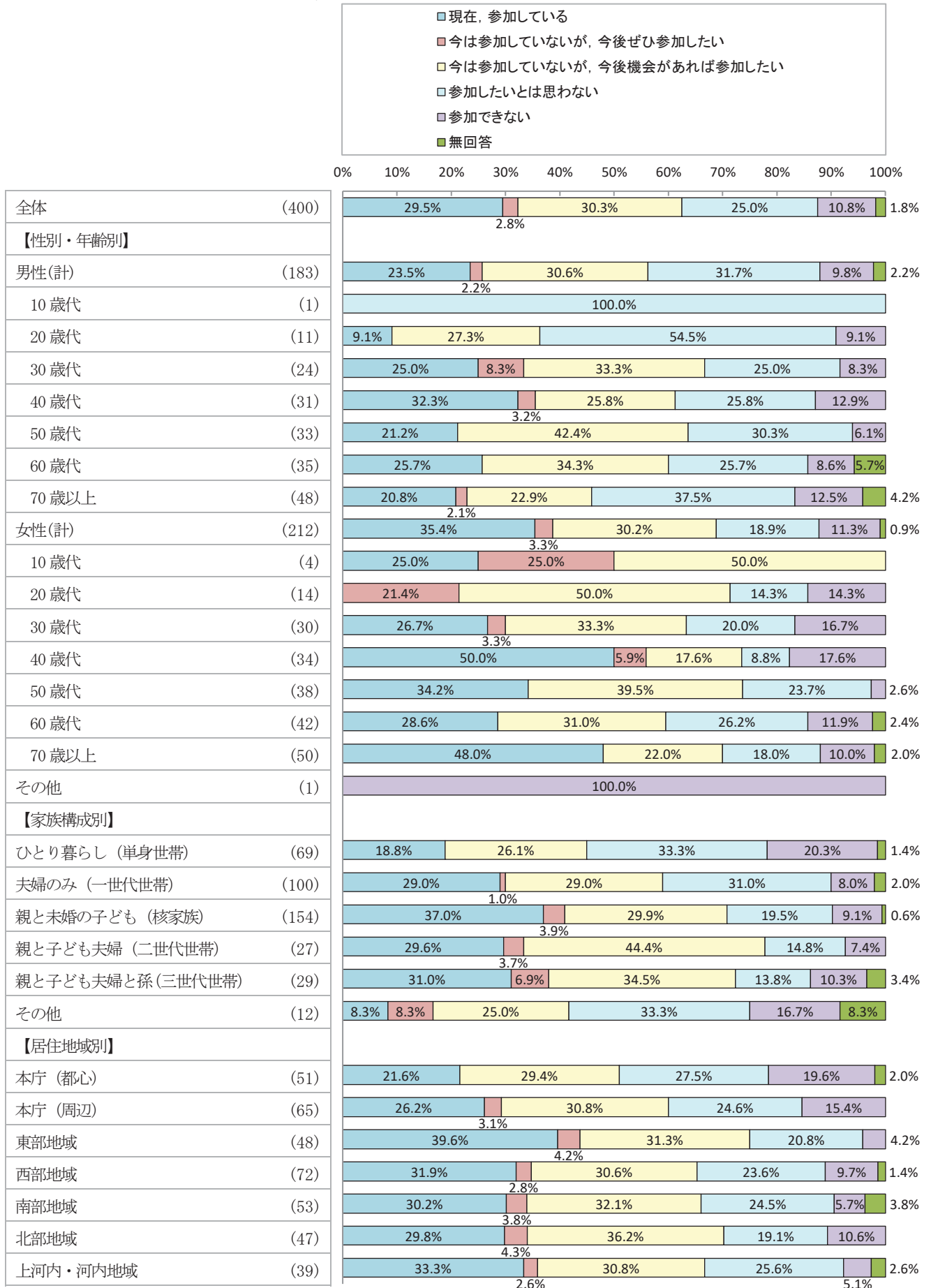
<参考>

性別・年齢別で見ると、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」は<女性/10歳代>、<女性/20歳代>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<男性/50歳以上>が42.4%と続いている。「現在,参加している」は<女性/40歳代>が50.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が48.0%と続いている。(図IV-12-2)

家族構成別で見ると、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が44.4%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が34.5%と続いている。「現在,参加している」は<親と未婚の子ども(核家族)>が37.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が31.0%と続いている。(図IV-12-2)

居住地域別で見ると、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」は<北部地域>が36.2%で最も高く、次いで<南部地域>が32.1%と続いている。「現在,参加している」は<東部地域>が39.6%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が33.3%と続いている。(図IV-12-2)

<図IV-12-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

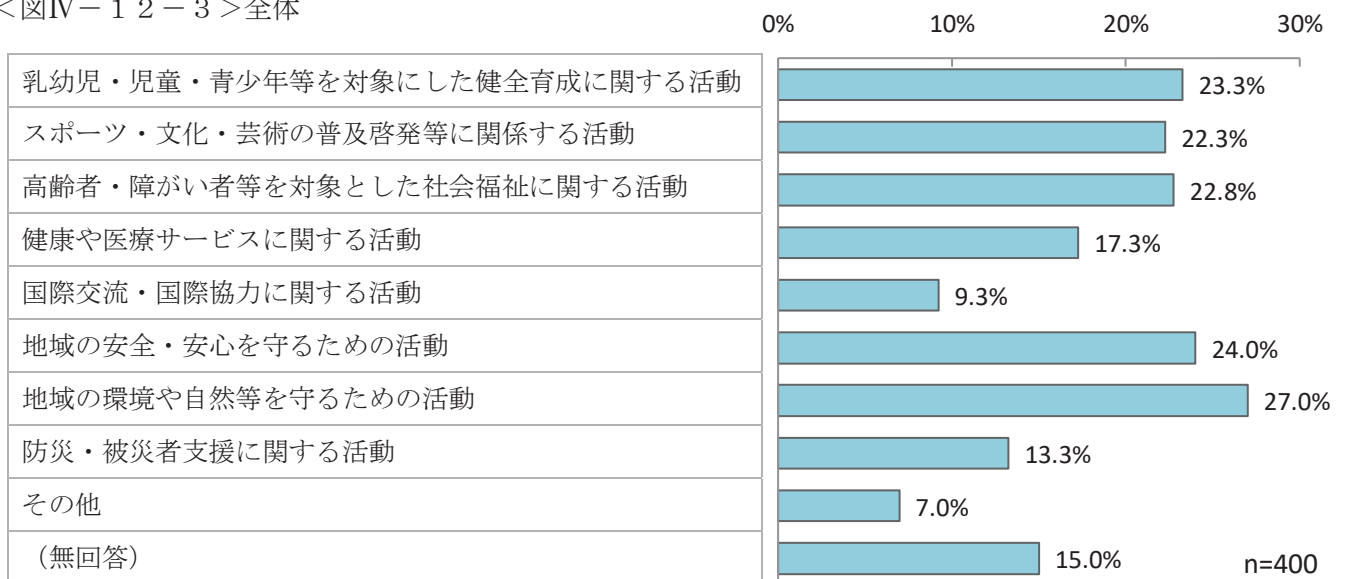


(2) 参加中または興味があるまちづくり活動の種類

◇ 「地域の環境や自然等を守るための活動」が3割弱

問47 あなたはどのような種類のまちづくり活動に参加していますか、または興味がありますか。		(〇はいくつでも)
		n=400
1	乳幼児・児童・青少年等を対象にした健全育成に関する活動	23.3%
2	スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動	22.3%
3	高齢者・障がい者等を対象とした社会福祉に関する活動	22.8%
4	健康や医療サービスに関する活動	17.3%
5	国際交流・国際協力に関する活動	9.3%
6	地域の安全・安心を守るための活動	24.0%
7	地域の環境や自然等を守るための活動	27.0%
8	防災・被災者支援に関する活動	13.3%
9	その他	7.0%
	(無回答)	15.0%

<図IV-12-3>全体



参加中または興味があるまちづくり活動の種類については、「地域の環境や自然等を守るための活動」が27.0%で最も高く、次いで「地域の安全・安心を守るための活動」が24.0%、「乳幼児・児童・青少年等を対象にした健全育成に関する活動」が23.3%と続いている。(図IV-12-3)

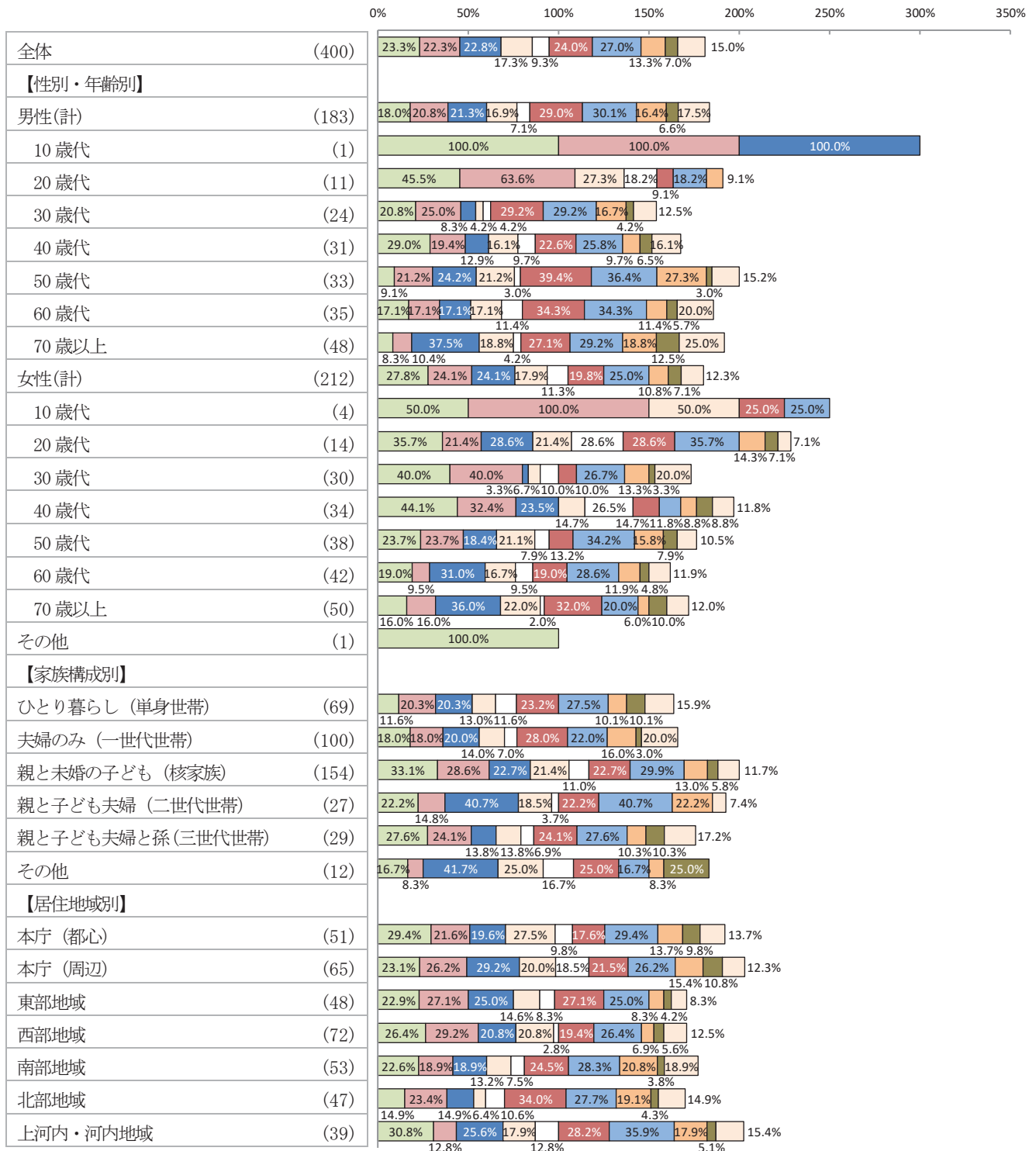
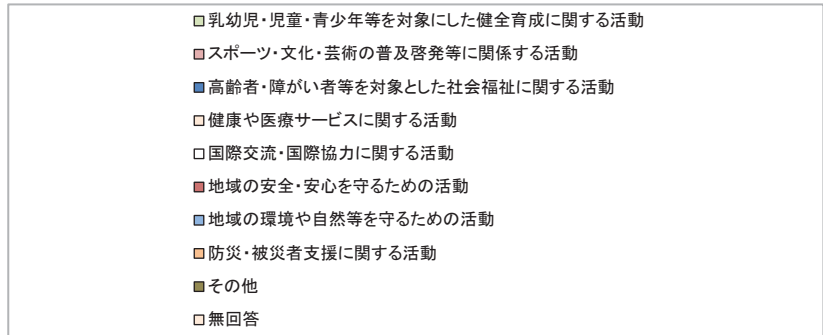
<参考>

性別・年齢別でみると、「地域の環境や自然等を守るための活動」は<男性/50歳代>が36.4%で最も高く、次いで<女性/20歳以上>が35.7%と続いている。「地域の安全・安心を守るための活動」は<男性/50歳代>が39.4%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が34.3%と続いている。(図IV-12-4)

家族構成別でみると、「地域の環境や自然等を守るための活動」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が40.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が29.9%と続いている。「地域の安全・安心を守るための活動」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>が28.0%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が24.1%と続いている。(図IV-12-4)

居住地域別でみると、「地域の環境や自然等を守るための活動」は<上河内・河内地域>が35.9%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が29.4%と続いている。「地域の安全・安心を守るための活動」は<北部地域>が34.0%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が28.2%と続いている。(図IV-12-4)

<図IV-12-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



(3) まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由

◇ 「参加するチャンス・きっかけがない」が2割半ば

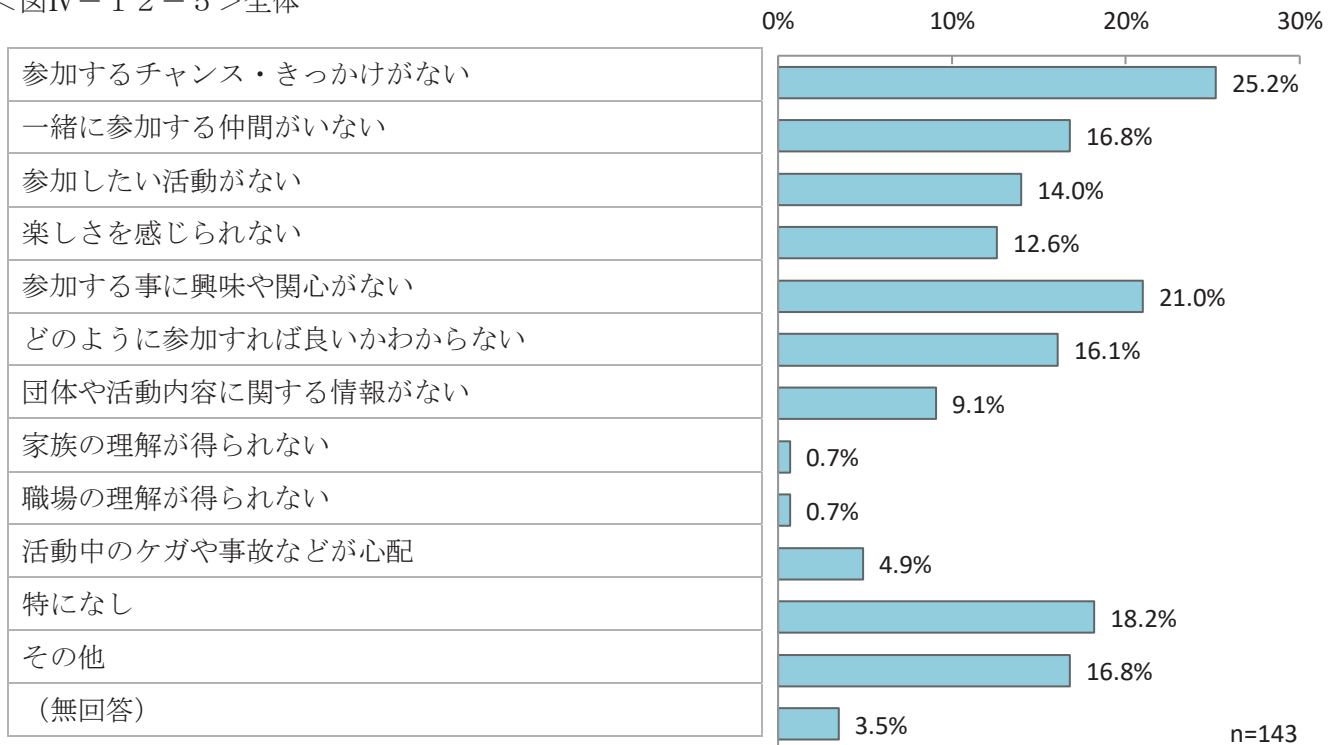
問48 問46でまちづくり活動に「4 参加したいと思わない」、「5 参加できない」と回答した方にお聞きします。参加したいと思わない、または参加できない理由は何ですか。

(〇はいくつでも)

n=143

1	参加するチャンス・きっかけがない	25.2%
2	一緒に参加する仲間がない	16.8%
3	参加したい活動がない	14.0%
4	楽しさを感じられない	12.6%
5	参加する事に興味や関心がない	21.0%
6	どのように参加すれば良いかわからない	16.1%
7	団体や活動内容に関する情報がない	9.1%
8	家族の理解が得られない	0.7%
9	職場の理解が得られない	0.7%
10	活動中のケガや事故などが心配	4.9%
11	特になし	18.2%
12	その他	16.8%
	(無回答)	3.5%

<図IV-12-5>全体



まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由については、「参加するチャンス・きっかけがない」が25.2%で最も高く、次いで「参加する事に興味や関心がない」が21.0%、「特になし」が18.2%と続いている。(図IV-12-5)

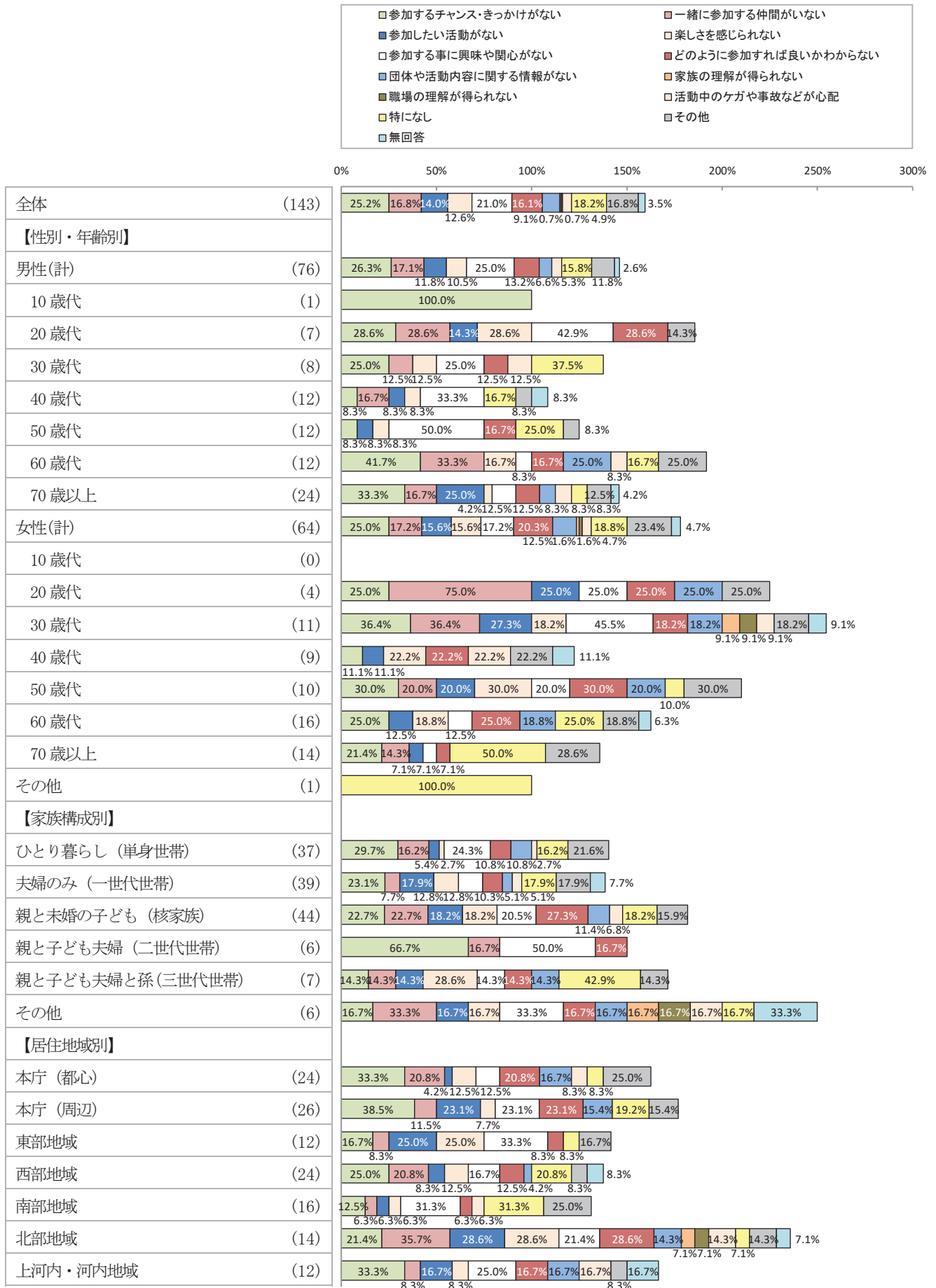
<参考>

性別・年齢別でみると、「参加するチャンス・きっかけがない」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/60歳以上>が41.7%と続いている。「参加する事に興味や関心がない」は<男性/50歳代>が50.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が45.5%と続いている。(図IV-12-6)

家族構成別でみると、「参加するチャンス・きっかけがない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が66.7%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が29.7%と続いている。「参加する事に興味や関心がない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が50.0%で最も高く、次いで<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が24.3%と続いている。(図IV-12-6)

居住地域別でみると、「参加するチャンス・きっかけがない」は<本庁(周辺)>が38.5%で最も高く、次いで<本庁(都心)>、<上河内・河内地域>がいずれも33.3%と続いている。「参加する事に興味や関心がない」は<東部地域>が33.3%で最も高く、次いで<南部地域>が31.3%と続いている。(図IV-12-6)

<図IV-12-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



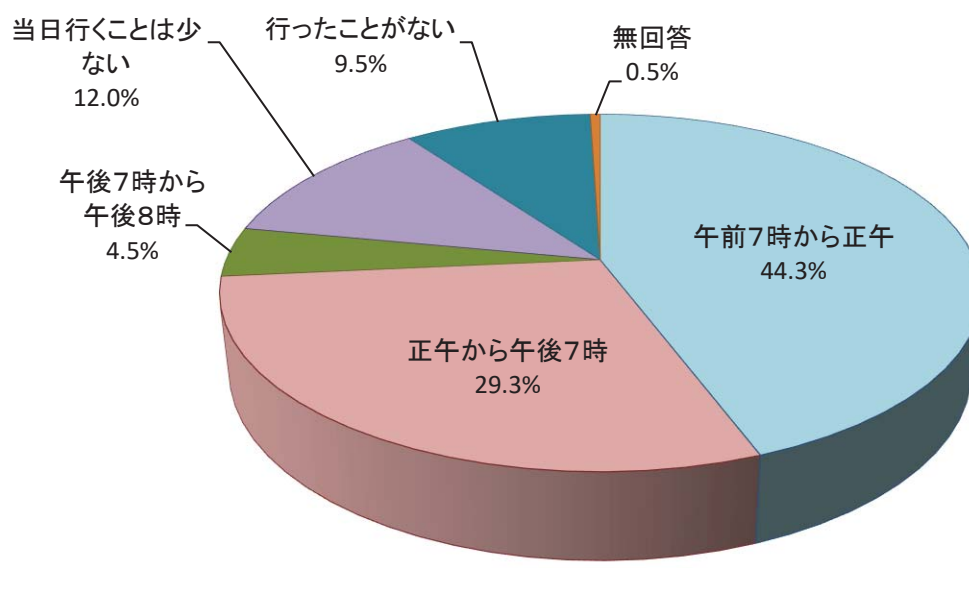
1 3. 選挙の環境向上に向けた取組について

(1) どの時間帯で投票所へ行くことが多いか

◇ 「午前7時から正午」が4割半ば

問 4 9	あなたは、選挙当日どの時間帯で投票所へ投票に行くことが多いですか。(○は1つ)	n=400
1	午前7時から正午	44.3%
2	正午から午後7時	29.3%
3	午後7時から午後8時	4.5%
4	当日行くことは少ない	12.0%
5	行ったことがない	9.5%
	(無回答)	0.5%

<図IV-13-1>全体



どの時間帯で投票所へ行くことが多いかについては、「午前7時から正午」が44.3%で最も高く、次いで「正午から午後7時」が29.3%、「当日行くことは少ない」12.0%と続いている。(図IV-13-1)

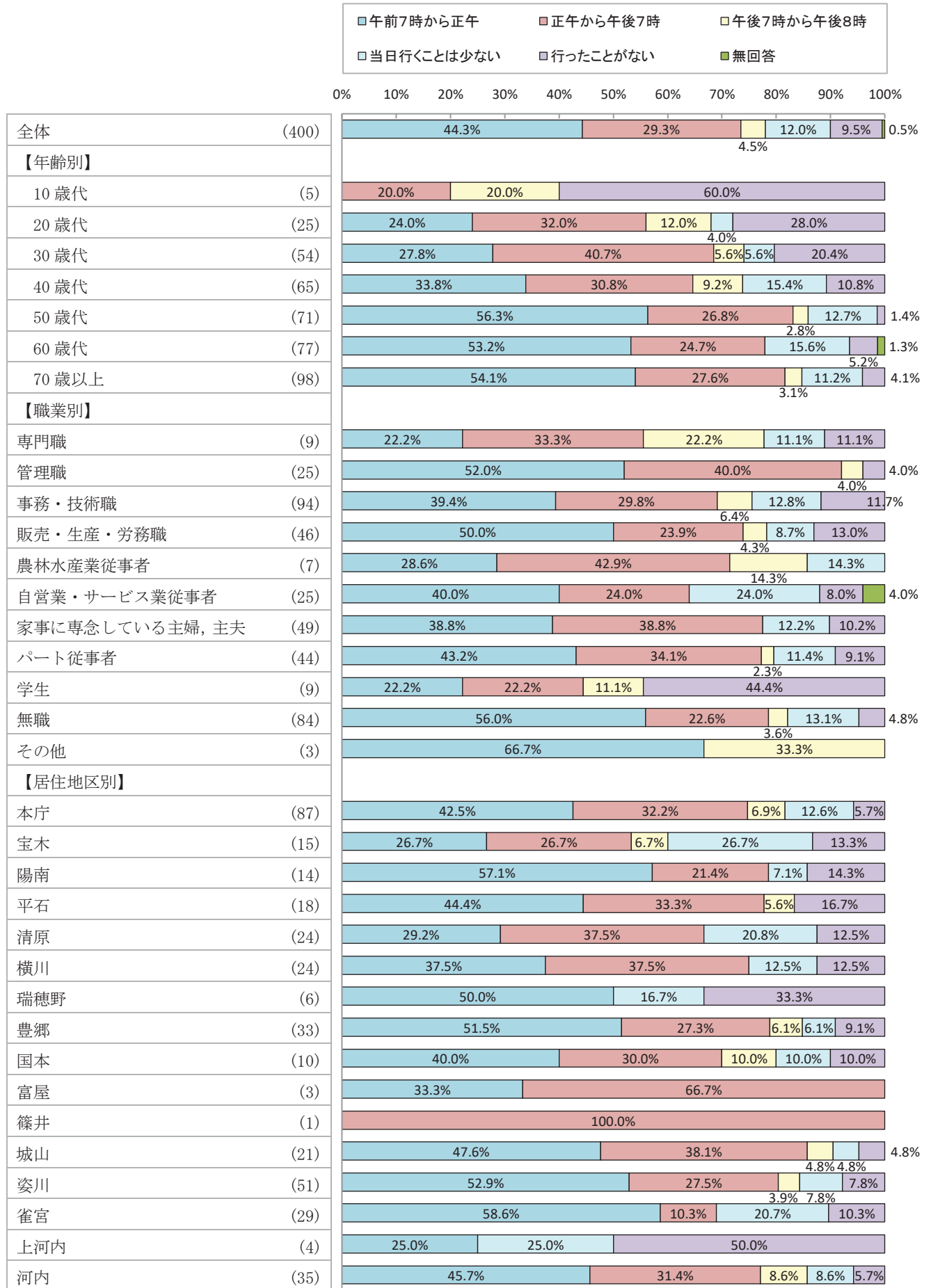
<参考>

年齢別でみると、「午前7時から正午」は<50歳代>が56.3%で最も高く、次いで<70歳以上>が54.1%と続いている。「正午から午後7時」は<30歳代>が40.7%で最も高く、次いで<20歳代>が32.0%と続いている。(図IV-13-2)

職業別でみると、「午前7時から正午」は<その他>を除くと<無職>が56.0%で最も高く、次いで<管理職>が52.0%と続いている。「正午から午後7時」は<農林水産業従事者>が42.9%で最も高く、次いで<管理職>が40.0%と続いている。(図IV-13-2)

居住地域別でみると、「午前7時から正午」は<雀宮>が58.6%で最も高く、次いで<陽南>が57.1%と続いている。「正午から午後7時」は<篠井>が100.0%で最も高く、次いで<富屋>が66.7%と続いている。(図IV-13-2)

<図Ⅳ-13-2>年齢別／職業別／居住地区別

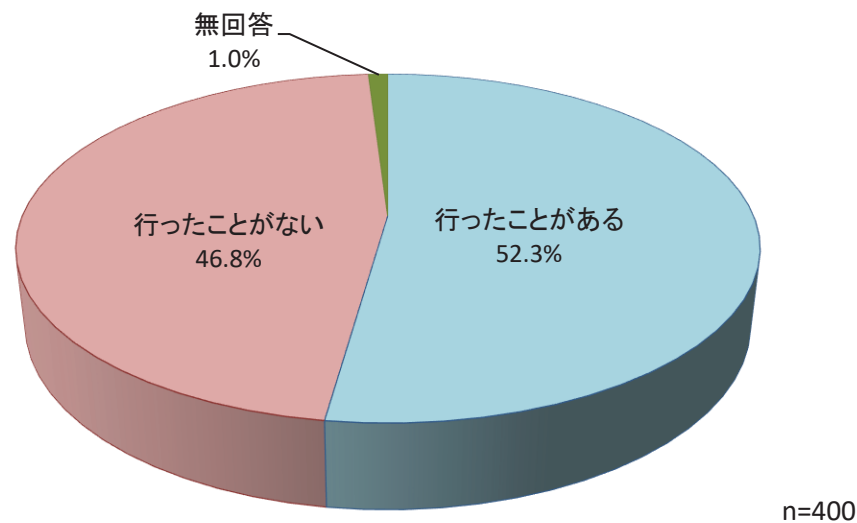


(2) 期日前投票所に行って投票をしたことがあるか

◇ 「行ったことがある」が5割強

問50	あなたは、これまでに期日前投票所に行って投票をしたことがありますか。(○は1つ)	n=400
1	行ったことがある	52.3%
2	行ったことがない	46.8%
	(無回答)	1.0%

<図IV-13-3>全体



期日前投票所に行って投票をしたことがあるかについては、「行ったことがある」が52.3%で最も高かった。(図IV-13-3)

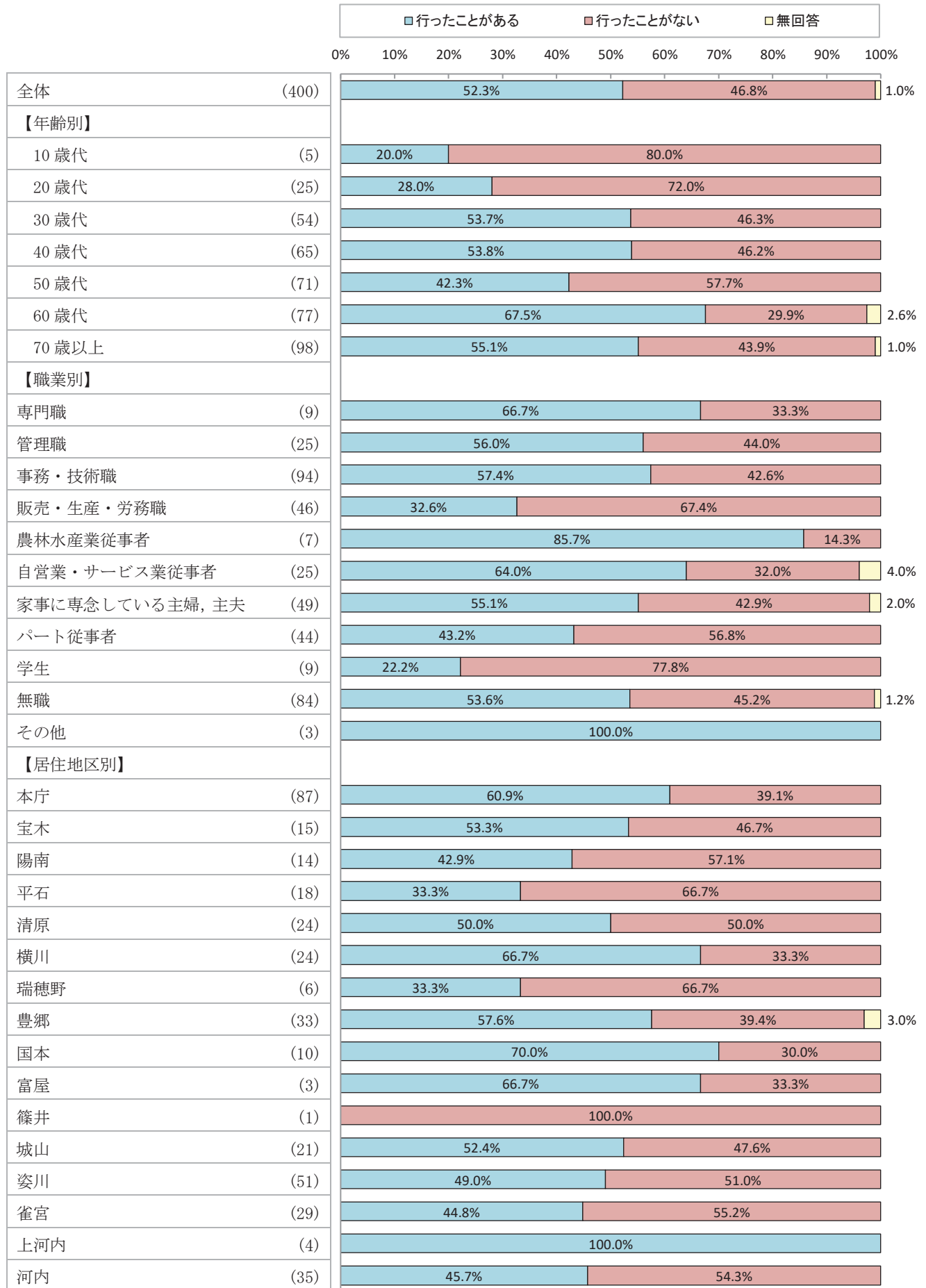
<参考>

年齢別でみると、「行ったことがある」は<60歳代>が67.5%で最も高く、次いで<70歳以上>が55.1%と続いている。一方、「行ったことがない」は<10歳代>が80.0%で最も高く、次いで<20歳代>が72.0%と続いている。(図IV-13-4)

職業別でみると、「行ったことがある」は<その他>を除くと<農林水産業従事者>が85.7%で最も高く、次いで<専門職>が66.7%と続いている。一方、「行ったことがない」は<学生>が77.8%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が67.4%と続いている。(図IV-13-4)

居住地区別でみると、「行ったことがある」は<上河内>が100.0%で最も高く、次いで<国本>が70.0%と続いている。一方、「行ったことがない」は<篠井>が100.0%で最も高く、次いで<平石>、<瑞穂野>がいずれも66.7%と続いている。(図IV-13-4)

<図Ⅳ－１３－４>年齢別／職業別／居住地区別

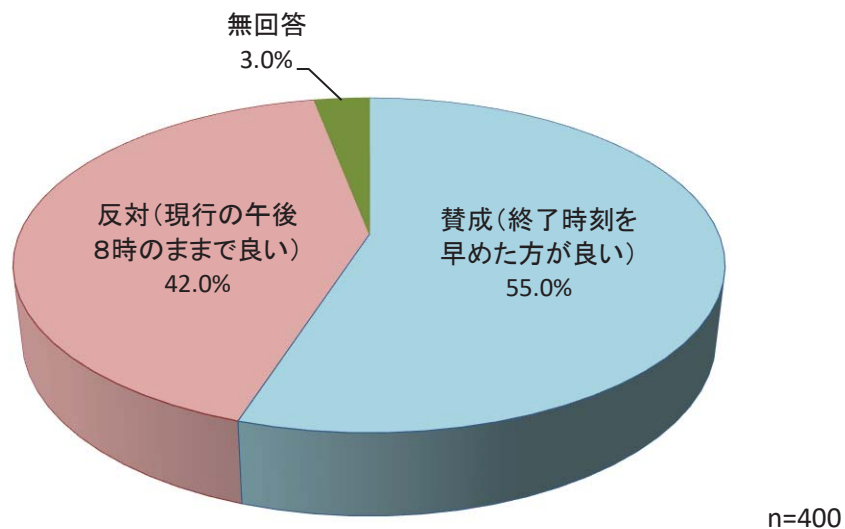


(3) 投票所の終了時刻を早めること

◇ 「賛成（終了時刻を早めた方がよい）」が5割半ば

問5 1	現在、選挙当日の投票所の終了時刻は、午後8時までとなっていますが、当日の終了時刻を早めることについてどう思いますか。（○は1つ）	n=400
1	賛成（終了時刻を早めた方がよい）	55.0%
2	反対（現行の午後8時のままでよい） （無回答）	42.0% 3.0%

<図IV-13-5>全体



投票所の終了時刻を早めることについては、「賛成（終了時刻を早めた方がよい）」が55.0%で最も高くなっている。（図IV-13-5）

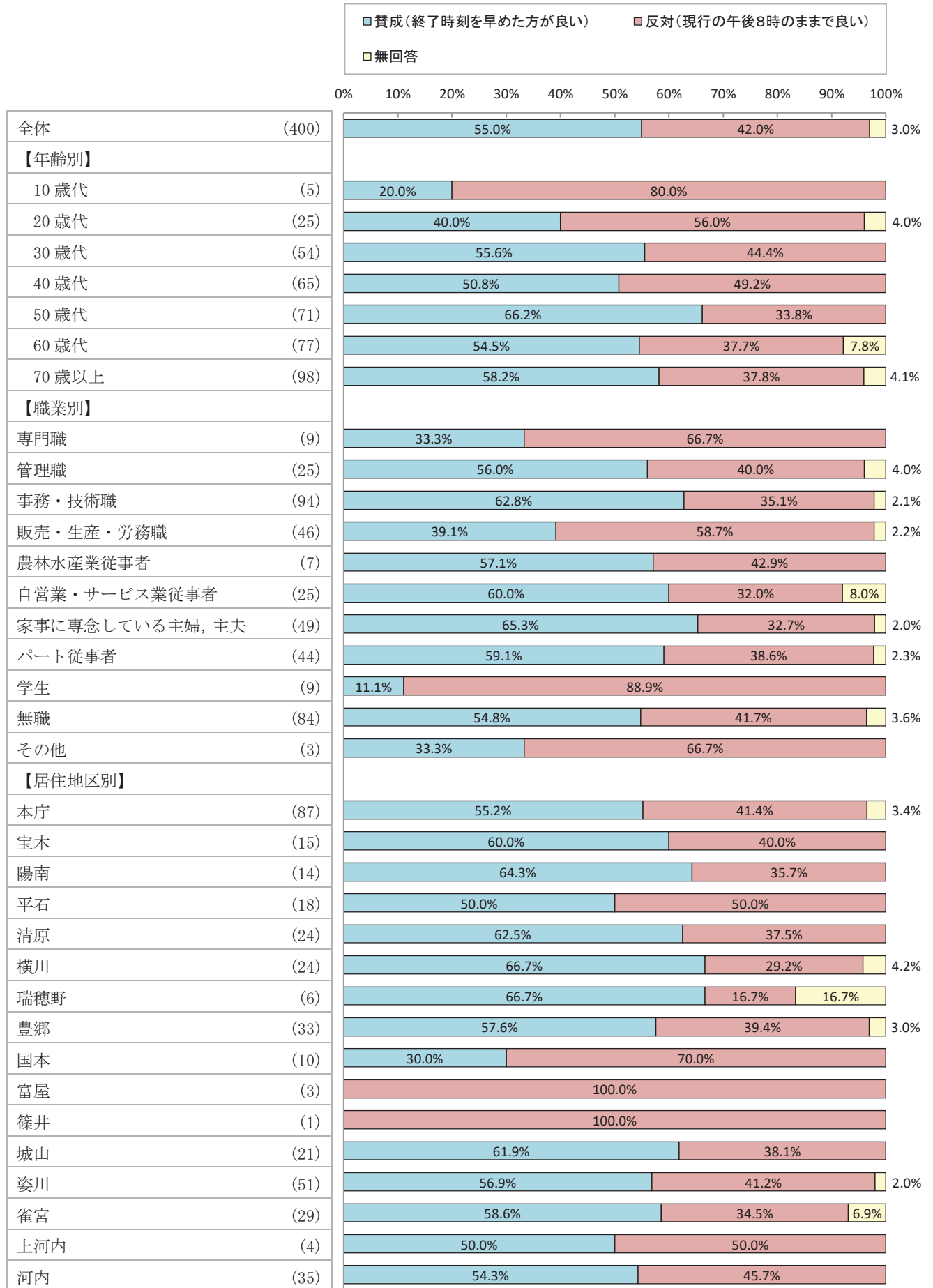
<参考>

年齢別でみると、「賛成（終了時刻を早めた方がよい）」は<50歳代>が66.2%で最も高く、次いで<70歳以上>が58.2%と続いている。一方、「反対（現行の午後8時のままでよい）」は<10歳代>が80.0%で最も高く、次いで<20歳代>が56.0%と続いている。（図IV-13-6）

職業別でみると、「賛成（終了時刻を早めた方がよい）」は<家事に専念している主婦、主夫>が65.3%で最も高く、次いで<事務・技術職>が62.8%と続いている。一方、「反対（現行の午後8時のままでよい）」は<学生>が88.9%で最も高く、次いで<その他>を除くと<専門職>が66.7%と続いている。（図IV-13-6）

居住地区別でみると、「賛成（終了時刻を早めた方がよい）」は<横川>、<瑞穂野>がいずれも66.7%で最も高く、次いで<陽南>が64.3%と続いている。一方、「反対（現行の午後8時のままでよい）」は<富屋>、<篠井>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<国本>が70.0%と続いている。（図IV-13-6）

<図IV-13-6>年齢別／職業別／居住地区別

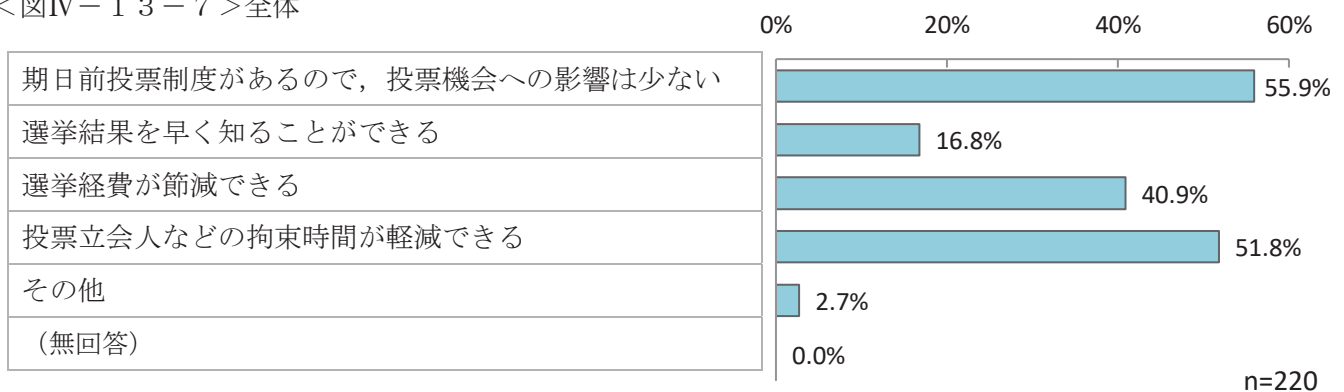


(4) 終了時刻を早めることに賛成する理由

◇ 「期日前投票制度があるので、投票機会への影響は少ない」が5割半ば

問52	問51で「1 賛成」と回答した方にお聞きします。投票所の終了時刻を早めることに賛成する理由は何ですか。	(〇は2つまで)	n=220
1	期日前投票制度があるので、投票機会への影響は少ない		55.9%
2	選挙結果を早く知ることができる		16.8%
3	選挙経費が節減できる		40.9%
4	投票立会人などの拘束時間が軽減できる		51.8%
5	その他		2.7%
	(無回答)		0.0%

<図IV-13-7>全体



終了時刻を早めることに賛成する理由については、「期日前投票制度があるので、投票機会への影響は少ない」が55.9%で最も高く、次いで「投票立会人などの拘束時間が軽減できる」が51.8%、「選挙経費が節減できる」が40.9%と続いている。(図IV-13-7)

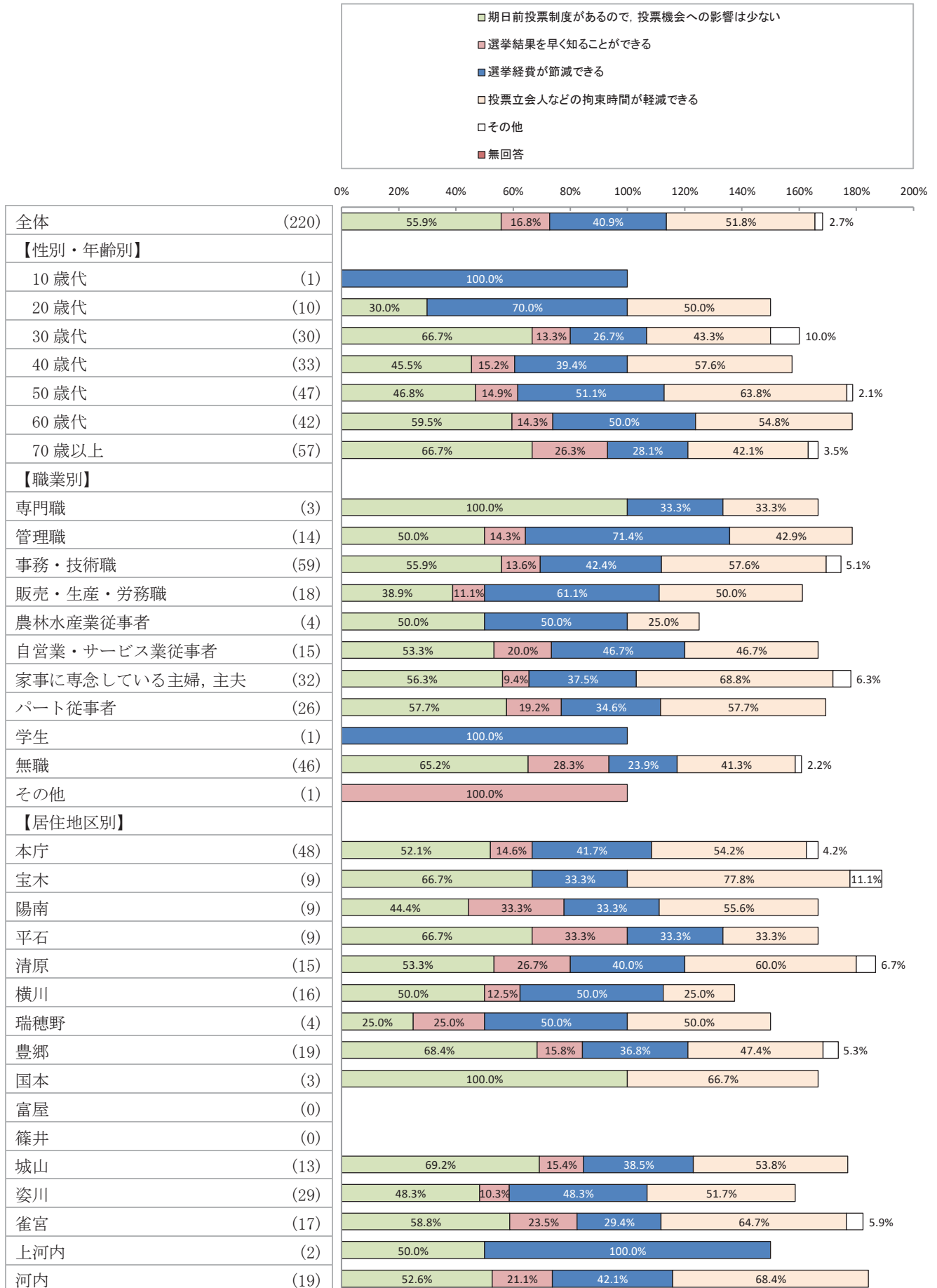
<参考>

年齢別でみると、「期日前投票制度があるので、投票機会への影響は少ない」は<30歳代>、<70歳以上>がいずれも66.7%で最も高く、次いで<60歳代>が59.5%と続いている。「投票立会人などの拘束時間が軽減できる」は<50歳代>が63.8%で最も高く、次いで<40歳代>が57.6%と続いている。(図IV-13-8)

職業別でみると、「期日前投票制度があるので、投票機会への影響は少ない」は<専門職>が100.0%で最も高く、次いで<無職>が65.2%と続いている。「投票立会人などの拘束時間が軽減できる」は<家事に専念している主婦、主夫>が68.8%で最も高く、次いで<パート従事者>が57.7%と続いている。(図IV-13-8)

居住地区別でみると、「期日前投票制度があるので、投票機会への影響は少ない」は<国本>が100.0%で最も高く、次いで<城山>が69.2%と続いている。「投票立会人などの拘束時間が軽減できる」は<宝木>が77.8%で最も高く、次いで<河内>が68.4%と続いている。(図IV-13-8)

<図IV-13-8>年齢別／職業別／居住地区別

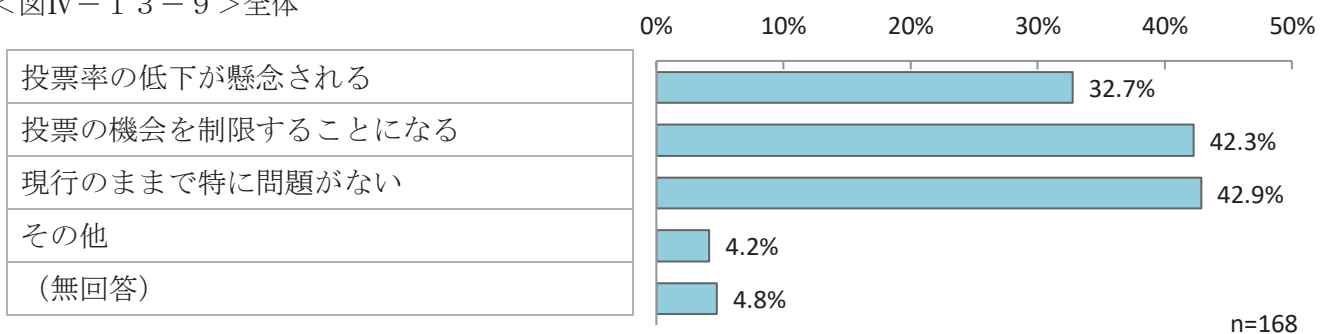


(5) 終了時刻を早めることに反対する理由

◇ 「投票の機会を制限することになる」、「現行のままで特に問題がない」が4割強

問53	問51で「2 反対」と回答した方にお聞きします。投票所の終了時刻を早めることに反対する理由は何ですか。	(○は2つまで)	n=168
1	投票率の低下が懸念される		32.7%
2	投票の機会を制限することになる		42.3%
3	現行のままで特に問題がない		42.9%
4	その他		4.2%
	(無回答)		4.8%

<図IV-13-9>全体



終了時刻を早めることに反対する理由については、「現行のままで特に問題がない」が42.9%で最も高く、次いで「投票の機会を制限することになる」が42.3%、「投票率の低下が懸念される」が32.7%と続いている。(図IV-13-9)

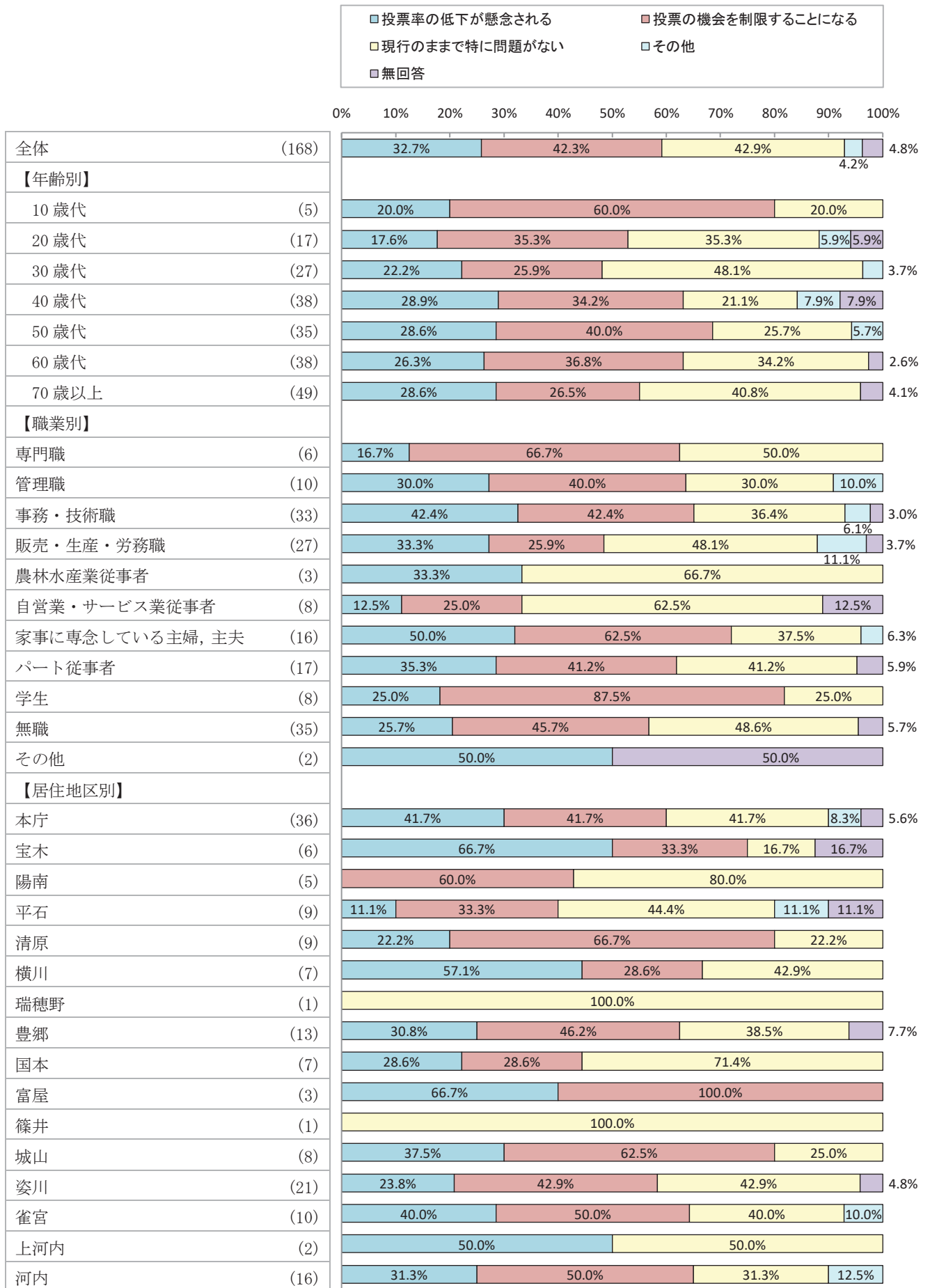
<参考>

年齢別でみると、「現行のままで特に問題がない」は<30歳代>が48.1%で最も高く、次いで<70歳以上>が40.8%と続いている。「投票の機会を制限することになる」は<10歳代>が60.0%で最も高く、次いで<50歳代>が40.0%と続いている。(図IV-13-10)

職業別でみると、「現行のままで特に問題がない」は<農林水産業従事者>が66.7%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が62.5%と続いている。「投票の機会を制限することになる」は<学生>が87.5%で最も高く、次いで<専門職>が66.7%と続いている。(図IV-13-10)

居住地区別でみると、「現行のままで特に問題がない」は<瑞穂野>、<篠井>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<陽南>が80.0%と続いている。「投票の機会を制限することになる」は<富屋>が100.0%で最も高く、次いで<清原>が66.7%と続いている。(図IV-13-10)

<図Ⅳ-13-10>年齢別／職業別／居住地区別

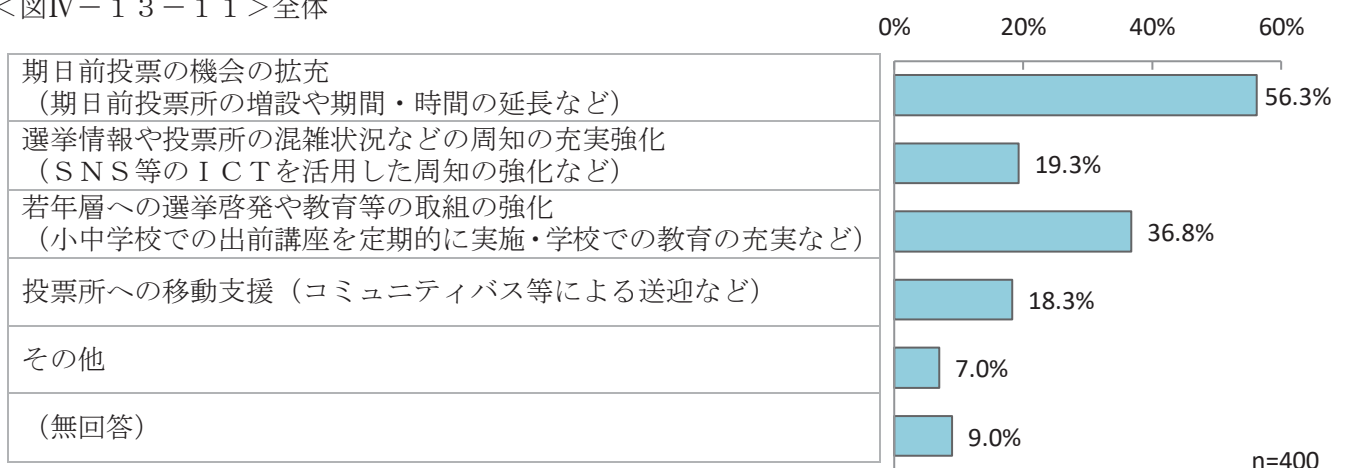


(6) 選挙の環境向上に役に立つと思う取組

◇ 「期日前投票の機会の拡充（期日前投票所の増設や期間・時間の延長など）」が5割半ば

問54	「選挙当日の投票所の終了時刻を早めること」を実施した場合、併せて実施することによって、選挙の環境向上に役に立つと思う取組を選んでください。（○は2つまで）	n=400
1	期日前投票の機会の拡充（期日前投票所の増設や期間・時間の延長など）	56.3%
2	選挙情報や投票所の混雑状況などの周知の充実強化（SNS等のICTを活用した周知の強化など）	19.3%
3	若年層への選挙啓発や教育等の取組の強化（小中学校での出前講座を定期的実施・学校での教育の充実など）	36.8%
4	投票所への移動支援（コミュニティバス等による送迎など）	18.3%
5	その他	7.0%
	（無回答）	9.0%

<図IV-13-11>全体



選挙の環境向上に役に立つと思う取組については、「期日前投票の機会の拡充（期日前投票所の増設や期間・時間の延長など）」が56.3%で最も高く、次いで「若年層への選挙啓発や教育等の取組の強化（小中学校での出前講座を定期的実施・学校での教育の充実など）」が36.8%、「選挙情報や投票所の混雑状況などの周知の充実強化（SNS等のICTを活用した周知の強化など）」が19.3%と続いている。（図IV-13-11）

<参考>

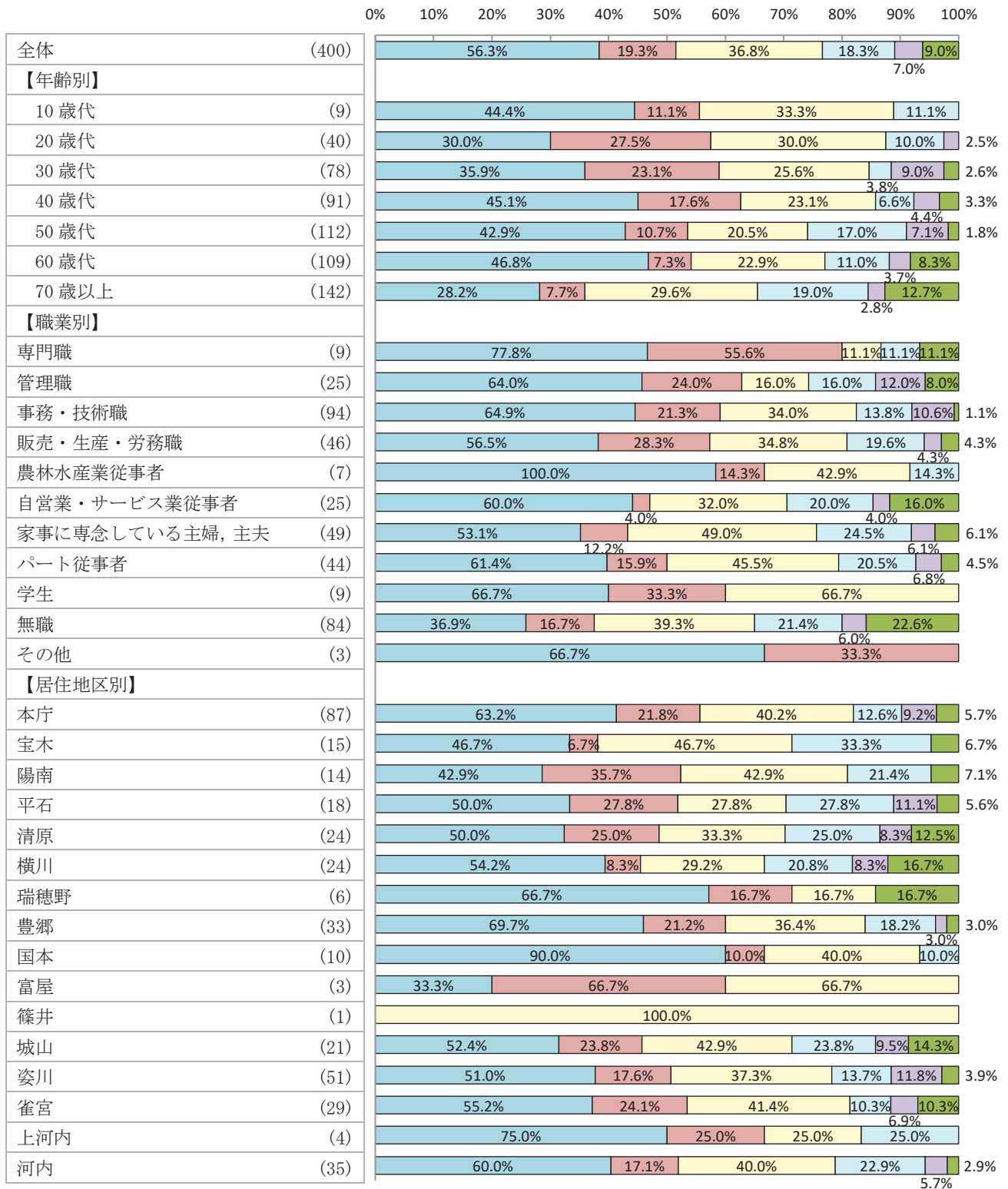
年齢別でみると、「期日前投票の機会の拡充（期日前投票所の増設や期間・時間の延長など）」は<60歳代>が46.8%で最も高く、次いで<40歳代>が45.1%と続いている。「若年層への選挙啓発や教育等の取組の強化（小中学校での出前講座を定期的実施・学校での教育の充実など）」は<10歳代>が33.3%で最も高く、次いで<20歳代>が30.0%と続いている。（図IV-13-12）

職業別でみると、「期日前投票の機会の拡充（期日前投票所の増設や期間・時間の延長など）」は<農林水産業従事者>が100.0%で最も高く、次いで<専門職>が77.8%と続いている。「若年層への選挙啓発や教育等の取組の強化（小中学校での出前講座を定期的実施・学校での教育の充実など）」は<学生>が66.7%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が49.0%と続いている。（図IV-13-12）

居住地区別でみると、「期日前投票の機会の拡充（期日前投票所の増設や期間・時間の延長など）」は<国本>が90.0%で最も高く、次いで<上河内>が75.0%と続いている。「若年層への選挙啓発や教育等の取組の強化（小中学校での出前講座を定期的実施・学校での教育の充実など）」は<篠井>が100.0%で最も高く、次いで<富屋>が66.7%と続いている。（図IV-13-12）

<図Ⅳ-13-12>年齢別／職業別／居住地区別

- 期日前投票の機会の拡充(期日前投票所の増設や期間・時間の延長など)
- 選挙情報や投票所の混雑状況などの周知の充実強化
(SNS等のICTを活用した周知の強化など)
- 若年層への選挙啓発や教育等の取組の強化
(小中学校での出前講座を定期的実施・学校での教育の充実など)
- 投票所への移動支援(コミュニティバス等による送迎など)
- その他
- 無回答



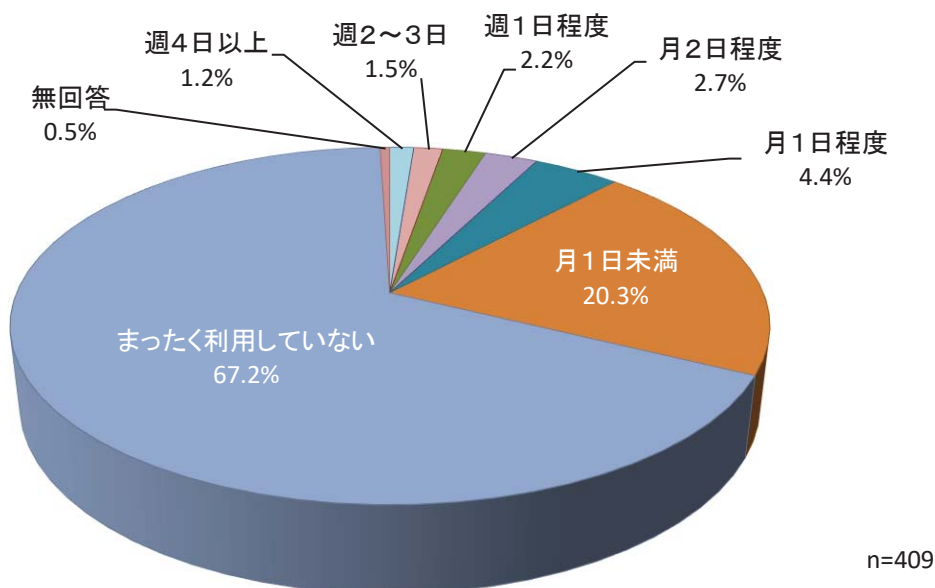
14. 路線バスの利用状況等について

(1) 路線バスをどの程度利用するか

◇「まったく利用していない」が7割弱

問55	普段あなたは路線バスをどの程度利用していますか。	(○は1つ)
		n=409
1	週4日以上	1.2%
2	週2～3日	1.5%
3	週1日程度	2.2%
4	月2日程度	2.7%
5	月1日程度	4.4%
6	月1日未満	20.3%
7	まったく利用していない	67.2%
	(無回答)	0.5%

<図IV-14-1>全体



路線バスをどの程度利用するかについては、「まったく利用していない」が67.2%で最も高く、次いで「月1日未満」20.3%、「月1日程度」4.4%と続いている（図IV-14-1）

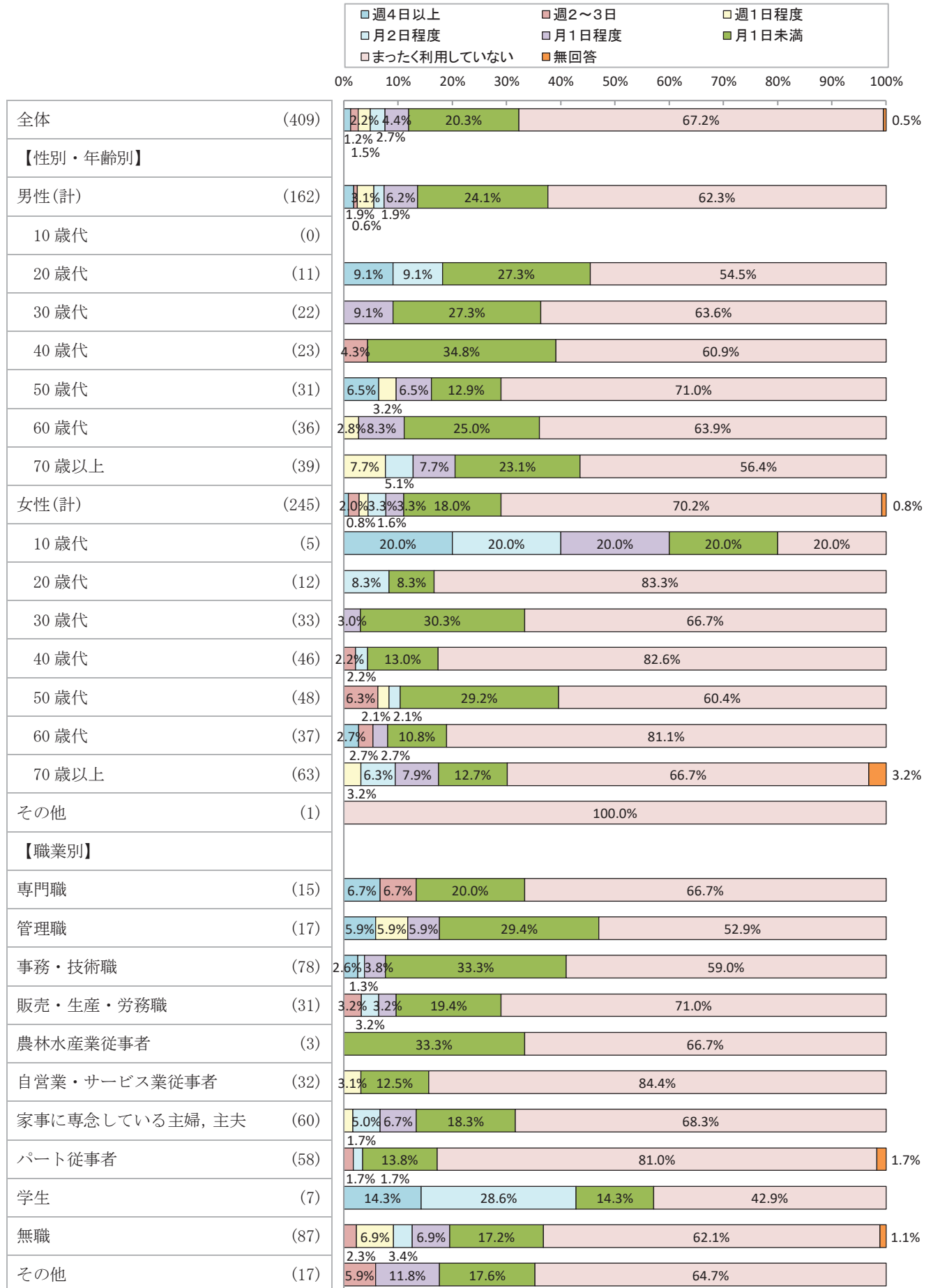
<参考>

性別・年齢別で見ると、「まったく利用していない」は<その他>が100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が83.3%と続いている。「月1日未満」は<男性/40歳代>が34.8%で最も高く、<女性/30歳代>が30.3%と続いている。（図IV-14-2）

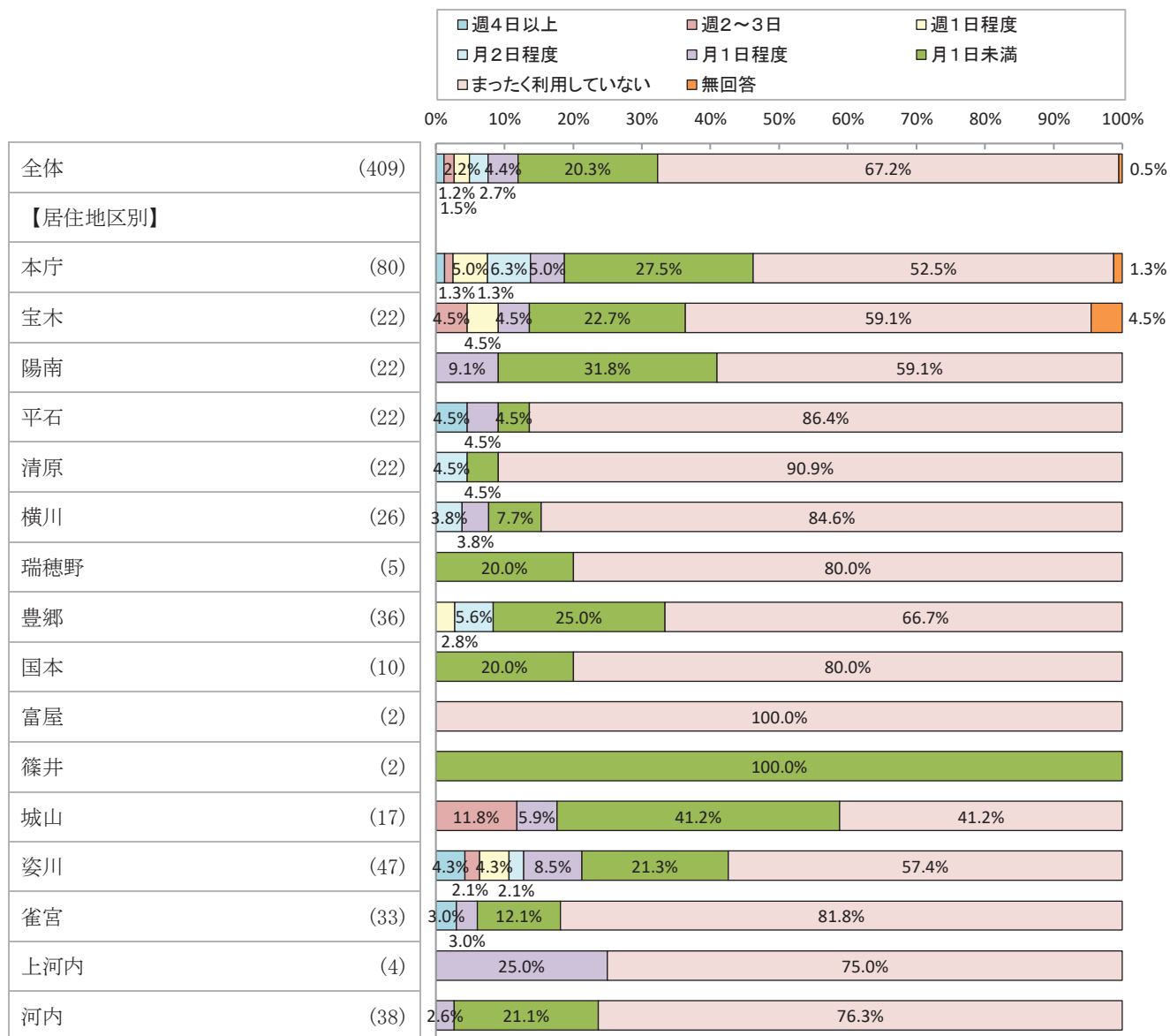
職業別で見ると、「まったく利用していない」は<自営業・サービス業従事者>が84.4%で最も高く、次いで<パート従事者>が81.0%であった。「月1日未満」は<事務・技術職>、<農林水産業従事者>がいずれも33.3%で最も高く、次いで<管理職>が29.4%であった。（図IV-14-2）

居住地区別で見ると、「まったく利用していない」は<富屋>が100.0%で最も高く、次いで<清原>が90.9%と続いている。「月1日未満」は<篠井>が100.0%で最も高く、次いで<城山>が41.2%であった。（図IV-14-3）

<図IV-14-2>性別・年齢別／職業別



<図IV-14-3>居住地区別

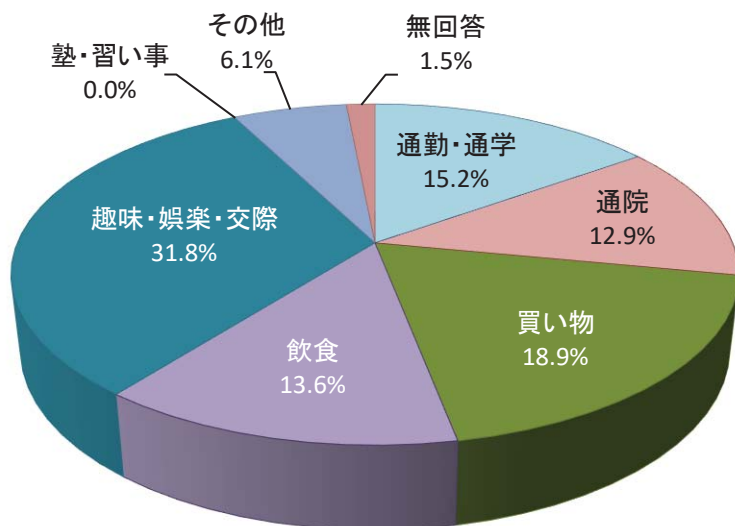


(2) 路線バスを利用する際の主な外出目的

◇ 「趣味・娯楽・交際」が3割強

問56	問55で1～6と答えた方にお聞きします。路線バスを利用する際の主な外出目的は何ですか。最も回数が多いものを1つ選択してください。(○は1つ)	n=132
1	通勤・通学	15.2%
2	通院	12.9%
3	買い物	18.9%
4	飲食	13.6%
5	趣味・娯楽・交際	31.8%
6	塾・習い事	0.0%
7	その他	6.1%
	(無回答)	1.5%

<図IV-14-4>全体



n=132

路線バスを利用する際の主な外出目的については、「趣味・娯楽・交際」が31.8%で最も高く、次いで「買い物」18.9%、「通勤・通学」15.2%と続いている（図IV-14-4）

<参考>

性別・年齢別で見ると、「趣味・娯楽・交際」は<女性/50歳代>が57.9%で最も高く、次いで<男性/30歳代>、<女性/20歳代>が50.0%と続いている。「買い物」は<女性/60歳代>が42.9%で最も高く、<男性/70歳以上>が35.3%と続いている。（図IV-14-5）

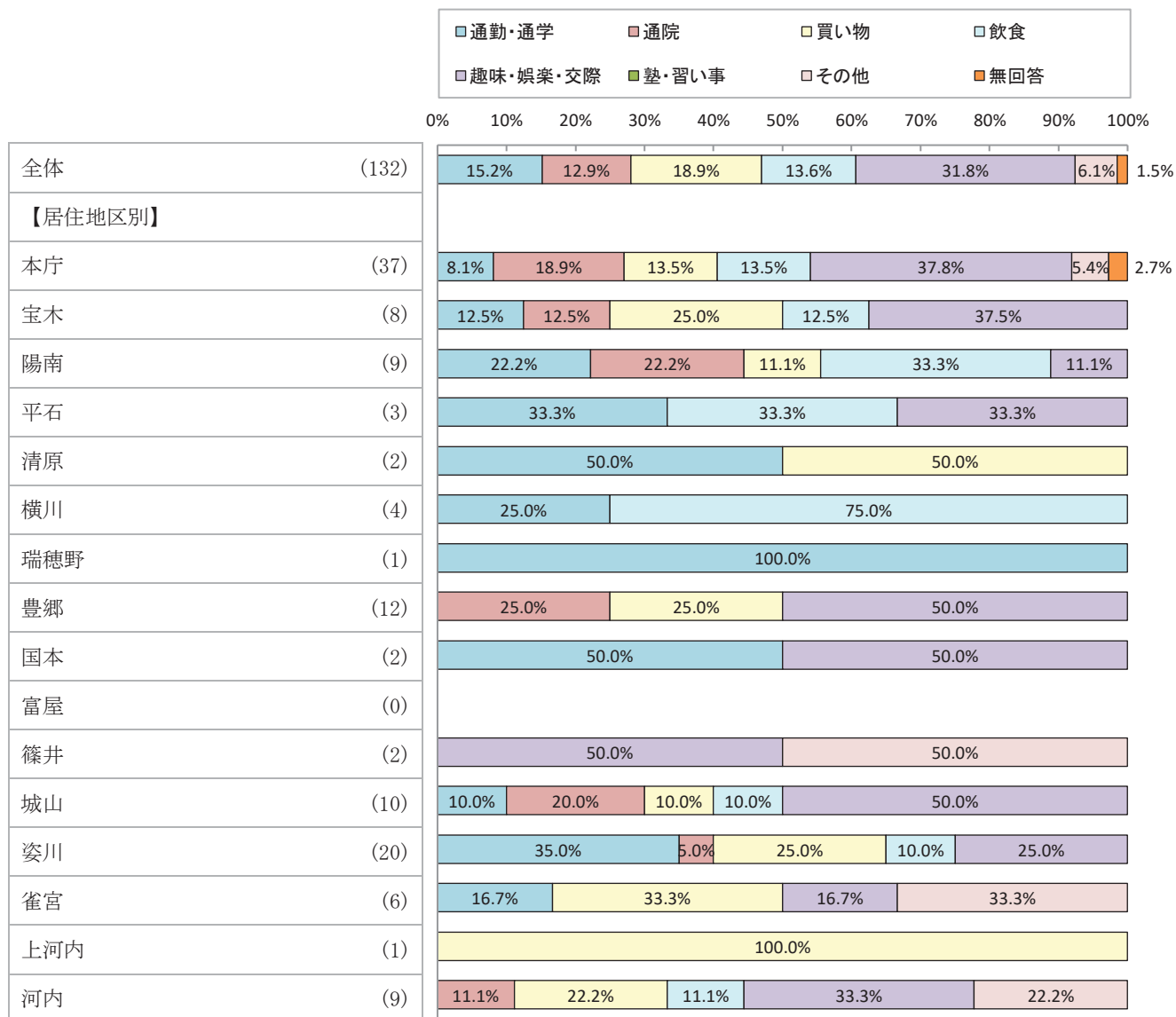
職業別で見ると、「趣味・娯楽・交際」は<自営業・サービス業従事者>、<パート従事者>がいずれも60.0%で最も高く、次いで<管理職>が50.0%であった。「買い物」は<家事に専念している主婦、主夫>が36.8%で最も高く、次いで<無職>が28.1%であった。（図IV-14-5）

居住地区別で見ると、「趣味・娯楽・交際」は<豊郷>、<国本>、<篠井>、<城山>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<本庁>が37.8%と続いている。「買い物」は<上河内>が100.0%で最も高く、次いで<清原>が50.0%であった。（図IV-14-6）

<図IV-14-5>性別・年齢別／職業別



<図IV-14-6>居住地区別

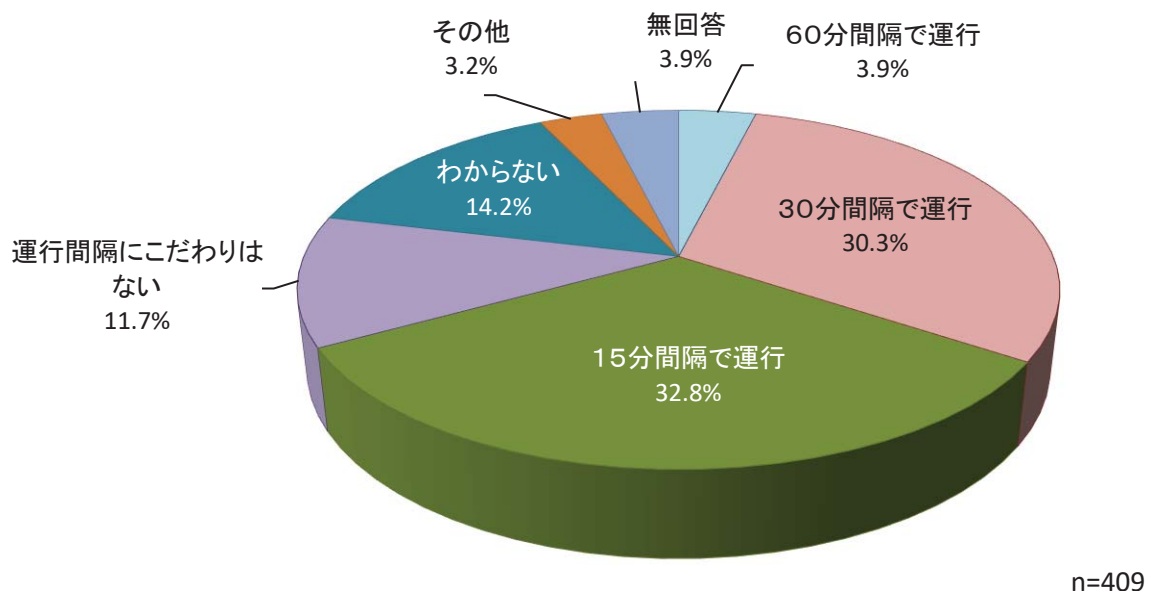


(3) どの程度の間隔で運行されていけば利用しやすいか

◇ 「15分間隔で運行」が3割強

問57	路線バスが最低でもどの程度の間隔で運行されていけば利用しやすいですか。	(○は1つ)
		n=409
1	60分間隔で運行	3.9%
2	30分間隔で運行	30.3%
3	15分間隔で運行	32.8%
4	運行間隔にこだわりはない	11.7%
5	わからない	14.2%
6	その他	3.2%
	(無回答)	3.9%

<図IV-14-7>全体



どの程度の間隔で運行されていけば利用しやすいかについては、「15分間隔で運行」が32.8%で最も高く、次いで「30分間隔で運行」30.3%、「わからない」14.2%と続いている(図IV-14-7)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「15分間隔で運行」は<女性/10歳代>が80.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が47.9%と続いている。「30分間隔で運行」は<その他>が100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が41.7%と続いている。(図IV-14-8)

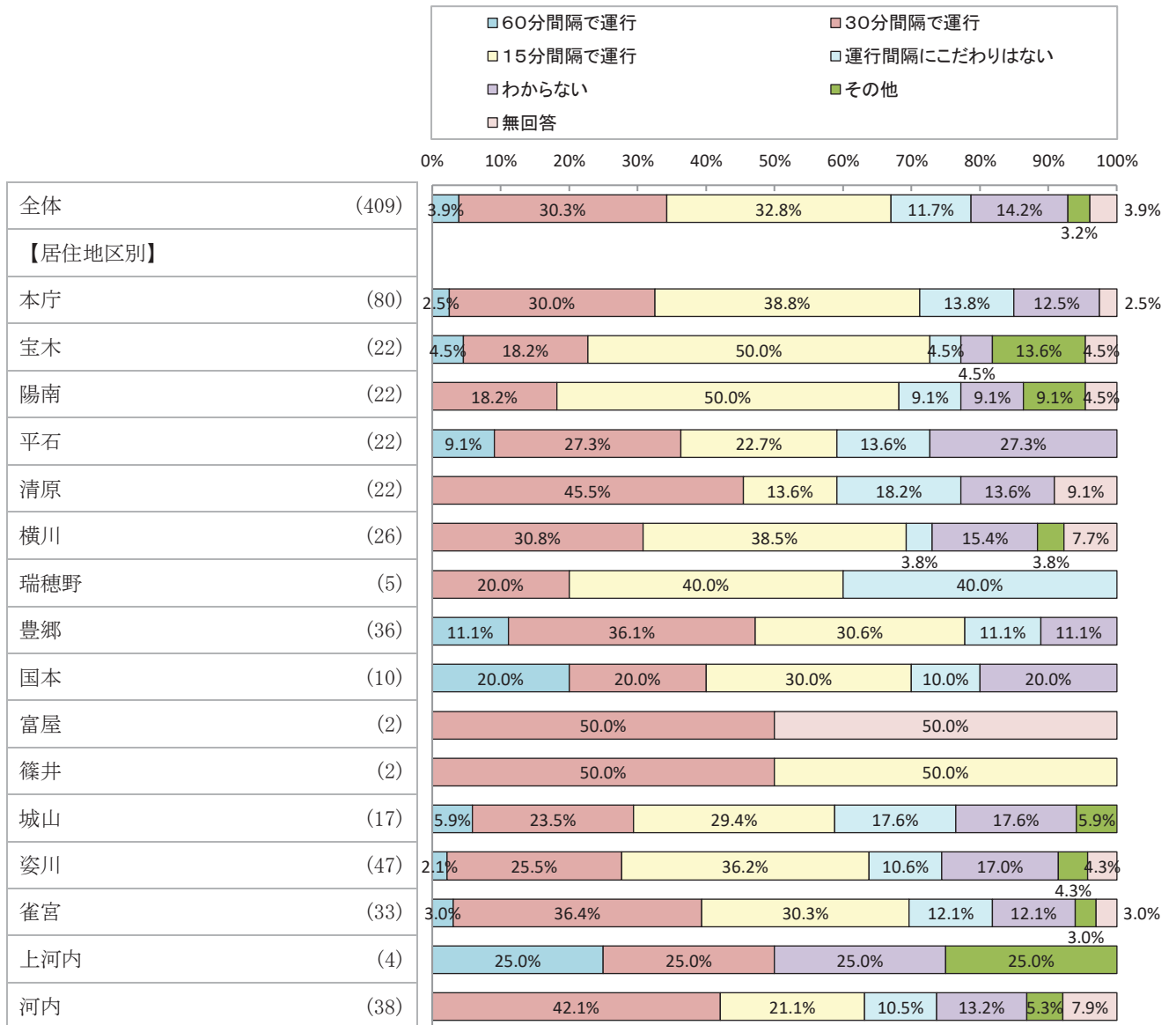
職業別で見ると、「15分間隔で運行」は<学生>が71.4%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が45.2%であった。「30分間隔で運行」は<販売・生産・労務職>が35.5%で最も高く、次いで<その他>を除くと<管理職>が35.3%であった。(図IV-14-8)

居住地区別で見ると、「15分間隔で運行」は<宝木>、<陽南>、<篠井>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<瑞穂野>が40.0%と続いている。「30分間隔で運行」は<富屋>、<篠井>が50.0%で最も高く、次いで<清原>が45.5%であった。(図IV-14-9)

<図IV-14-8>性別・年齢別／職業別



<図IV-14-9>居住地区別

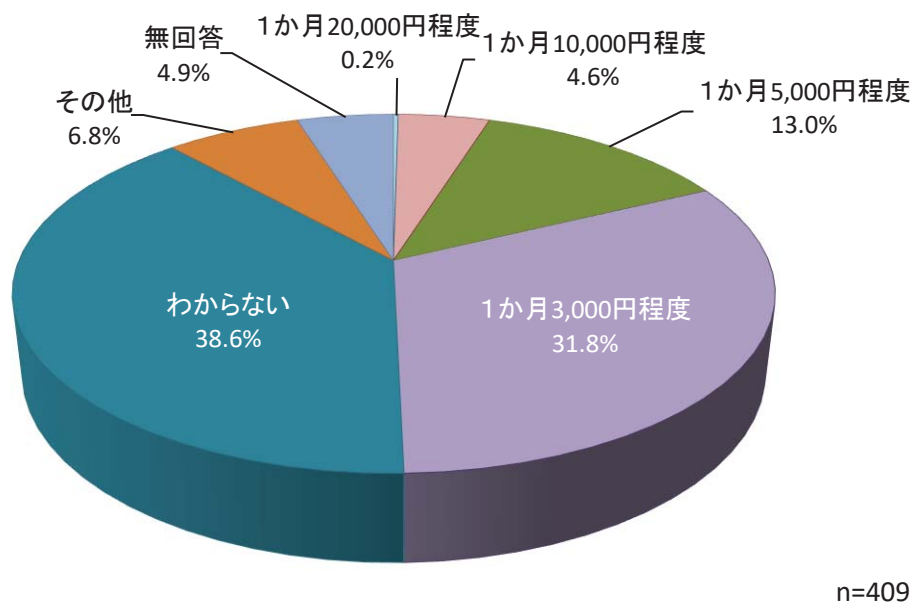


(4) 利用料金の1か月あたりの程度

◇ 「わからない」が約4割

問58 路線バスの利用料金に1か月あたりどの程度であれば支払っても良いと思いますか。		(○は1つ)
		n=409
1	1か月 20,000 円程度	0.2%
2	1か月 10,000 円程度	4.6%
3	1か月 5,000 円程度	13.0%
4	1か月 3,000 円程度	31.8%
5	わからない	38.6%
6	その他	6.8%
	(無回答)	4.9%

<図IV-14-10>全体



利用料金の1か月あたりの程度については、「わからない」が38.6%で最も高く、次いで「1か月 3,000円程度」31.8%、「1か月 5,000円程度」13.0%と続いている（図IV-14-10）

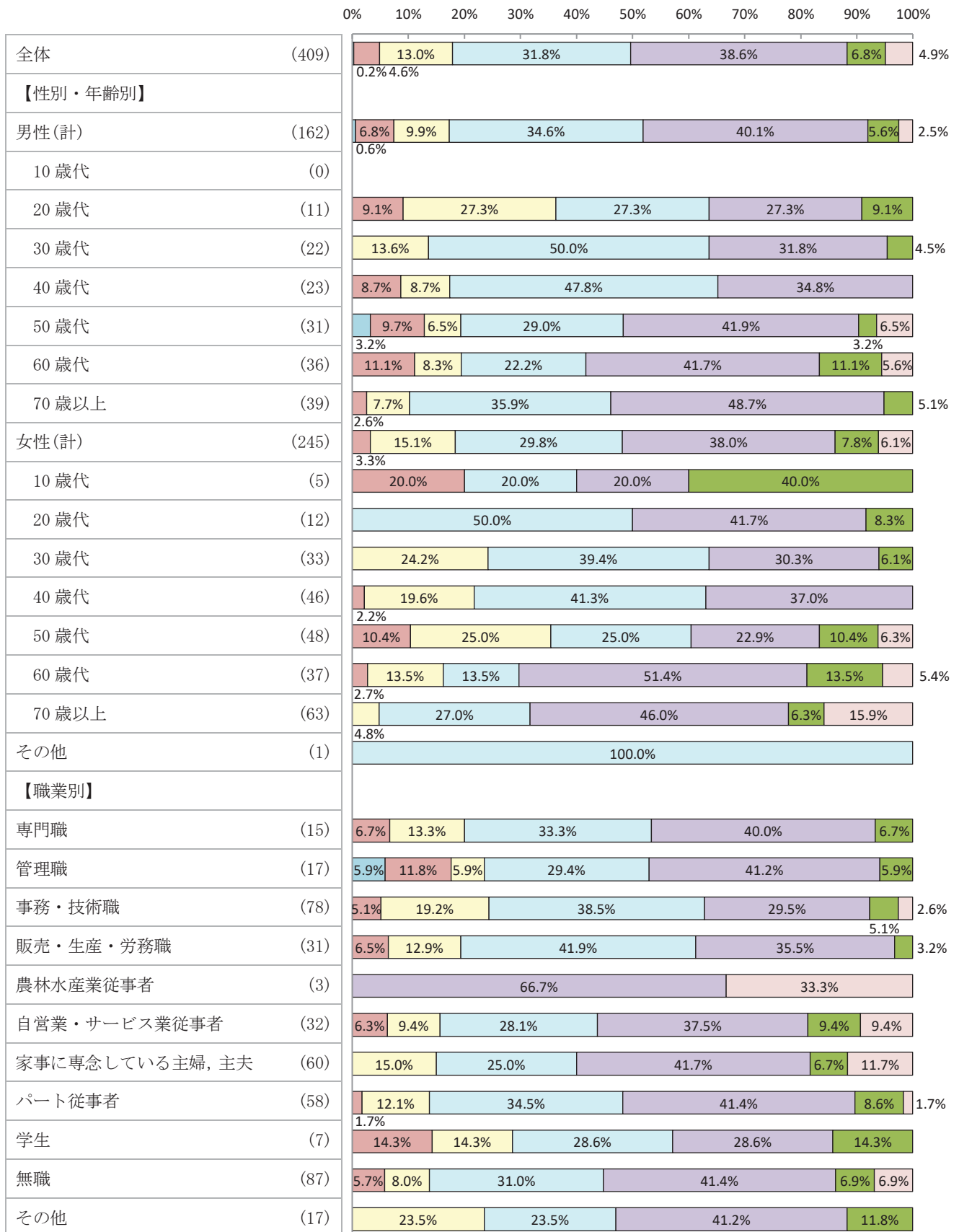
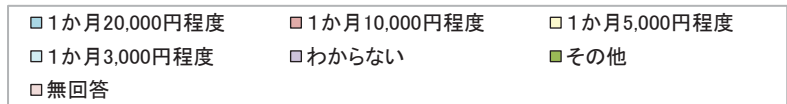
<参考>

性別・年齢別で見ると、「1か月 3,000円程度」は<男性/30歳代>、<女性/20歳代>が50.0%で最も高く、<男性/40歳代>が47.8%と続いている。「1か月 5,000円程度」は<男性/20歳代>が27.3%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が25.0%と続いている。（図IV-14-11）

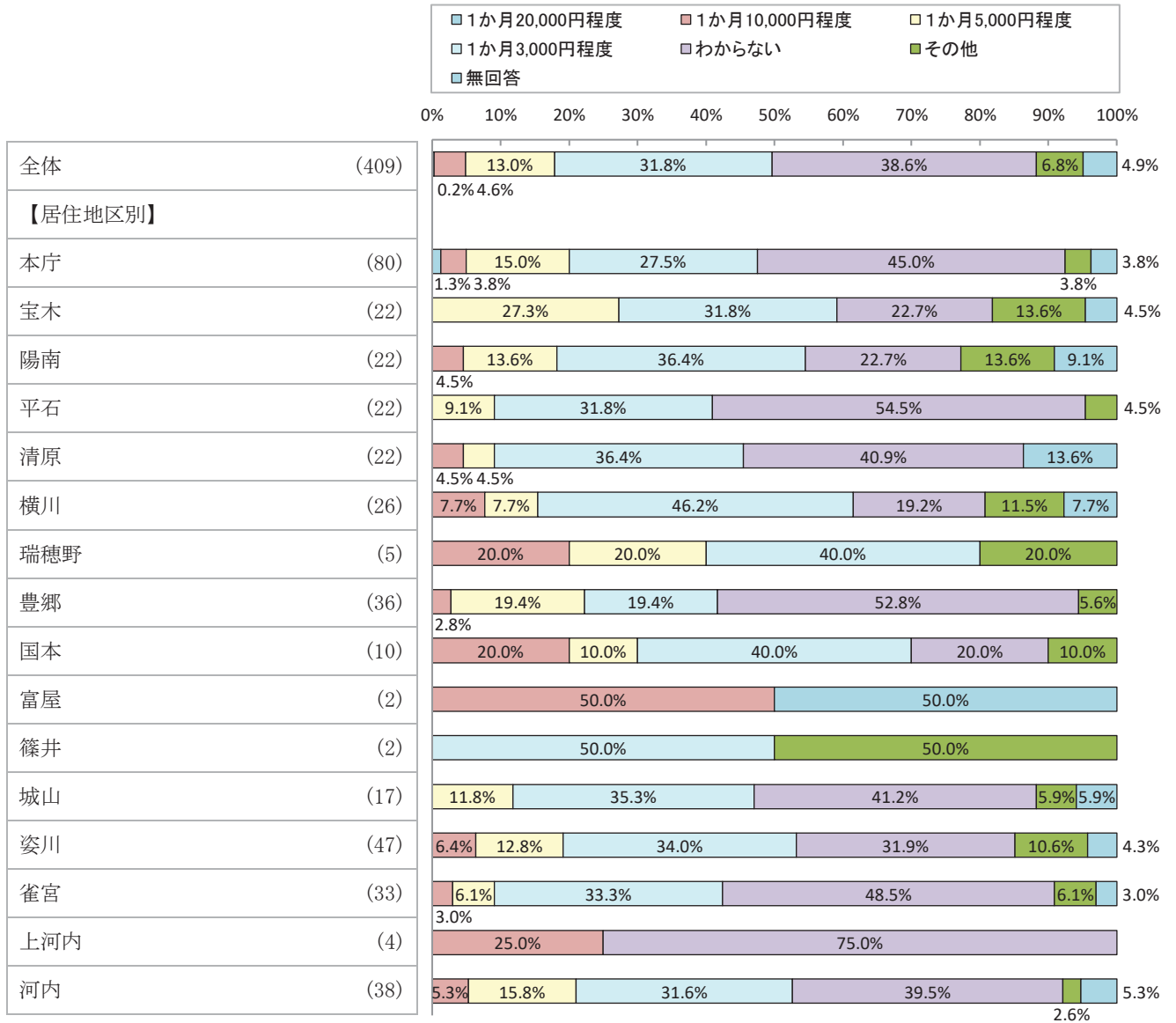
職業別で見ると、「1か月 3,000円程度」は<販売・生産・労務職>が41.9%で最も高く、次いで<事務・技術職>が38.5%であった。「1か月 5,000円程度」は<事務・技術職>が19.2%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が15.0%と続いている。（図IV-14-11）

居住地区別で見ると、「1か月 3,000円程度」は<篠井>が50.0%で最も高く、次いで<横川>が46.2%であった。「1か月 5,000円程度」は<宝木>が27.3%で最も高く、次いで<瑞穂野>が20.0%と続いている。

<図IV-14-11>性別・年齢別／職業別



<図IV-14-12>居住地区別

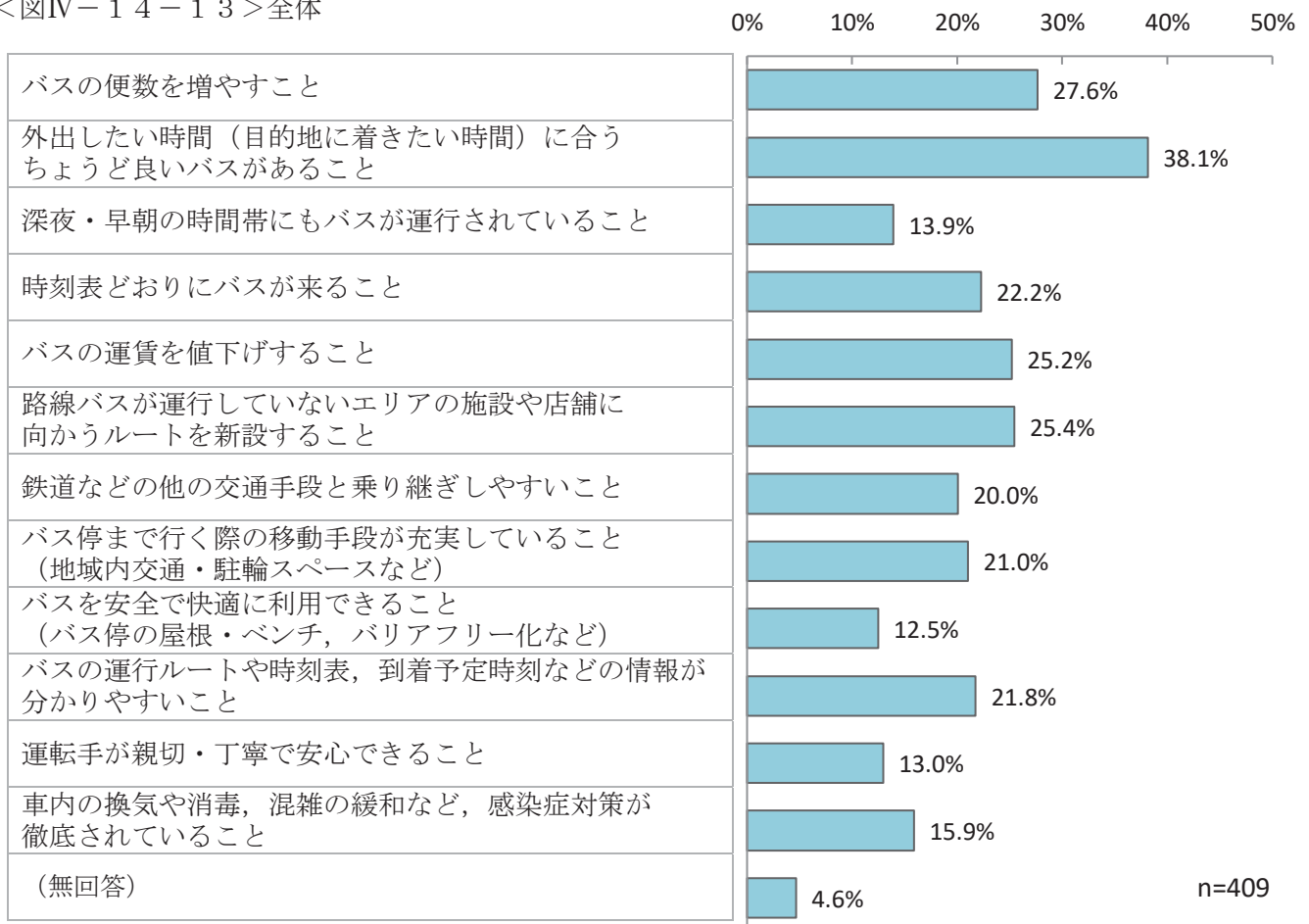


(5) 路線バスを利用するために重要なこと

◇ 「外出したい時間（目的地に着きたい時間）に合うちょうど良いバスがあること」が4割弱

問59	あなたが路線バスを利用するために重要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)	n=409
1	バスの便数を増やすこと	27.6%
2	外出したい時間（目的地に着きたい時間）に合うちょうど良いバスがあること	38.1%
3	深夜・早朝の時間帯にもバスが運行されていること	13.9%
4	時刻表どおりにバスが来ること	22.2%
5	バスの運賃を値下げすること	25.2%
6	路線バスが運行していないエリアの施設や店舗に向かうルートを新設すること	25.4%
7	鉄道などの他の交通手段と乗り継ぎしやすいこと	20.0%
8	バス停まで行く際の移動手段が充実していること（地域内交通・駐輪スペースなど）	21.0%
9	バスを安全で快適に利用できること（バス停の屋根・ベンチ，バリアフリー化など）	12.5%
10	バスの運行ルートや時刻表，到着予定時刻などの情報が分かりやすいこと	21.8%
11	運転手が親切・丁寧で安心できること	13.0%
12	車内の換気や消毒，混雑の緩和など，感染症対策が徹底されていること	15.9%
	（無回答）	4.6%

<図IV-14-13>全体



路線バスを利用するために重要なことについては、「外出したい時間（目的地に着きたい時間）に合うちょうど良いバスがあること」が38.1%で最も高く、次いで「バスの便数を増やすこと」27.6%、「路線バスが運行していないエリアの施設や店舗に向かうルートを新設すること」が25.4%と続いている。（図IV-14-13）

<参考>

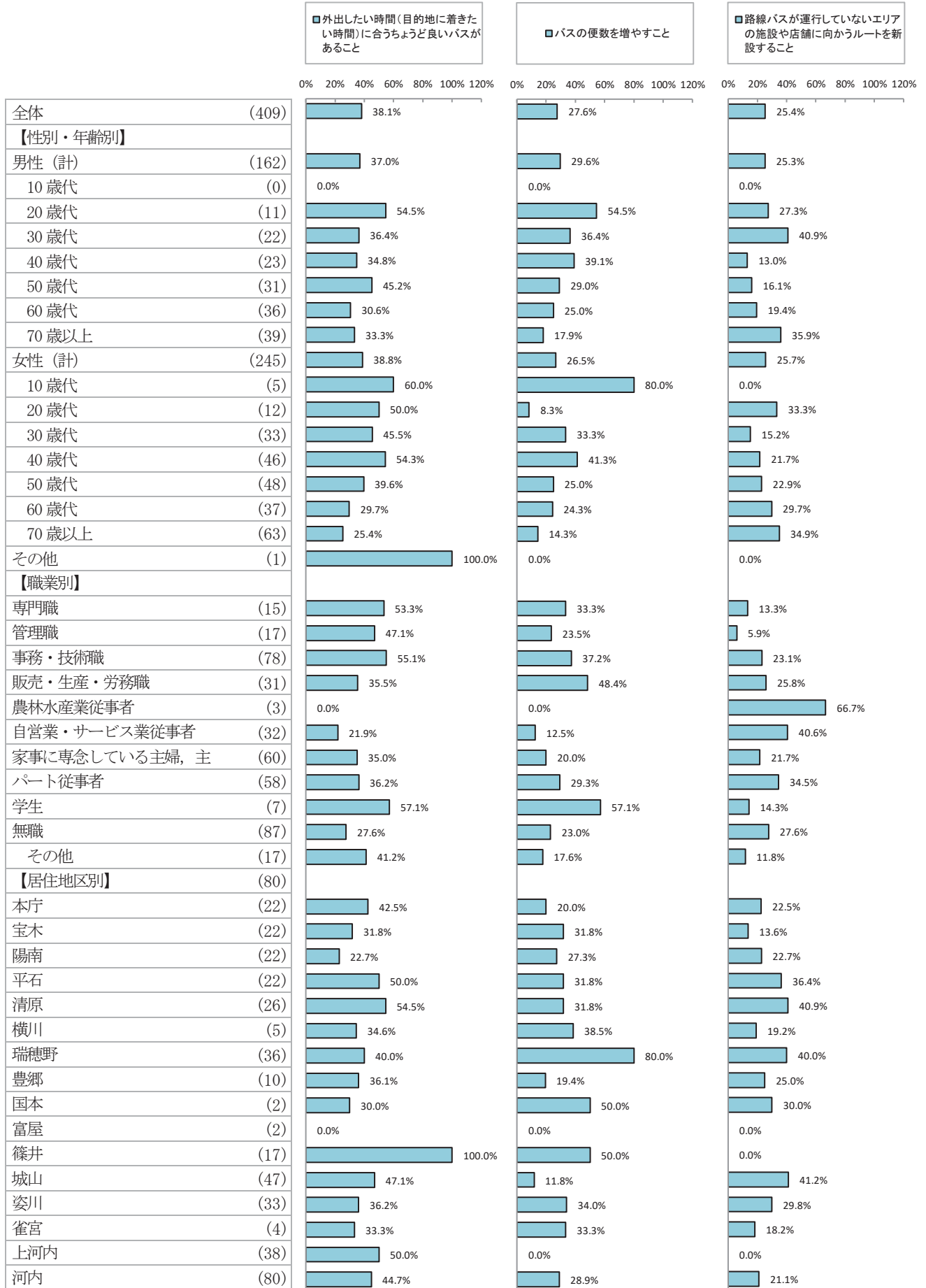
上位6項目について性別・年齢別で見ると、「外出したい時間（目的地に着きたい時間）に合うちょうど良いバスがあること」は<その他>が100.0%で最も高く、次いで<女性/10歳代>が60.0%と続いている。

「バスの便数を増やすこと」は<女性/10歳代>が80.0%で最も高く、<男性/20歳代>が54.5%と続いている。（図IV-14-14）

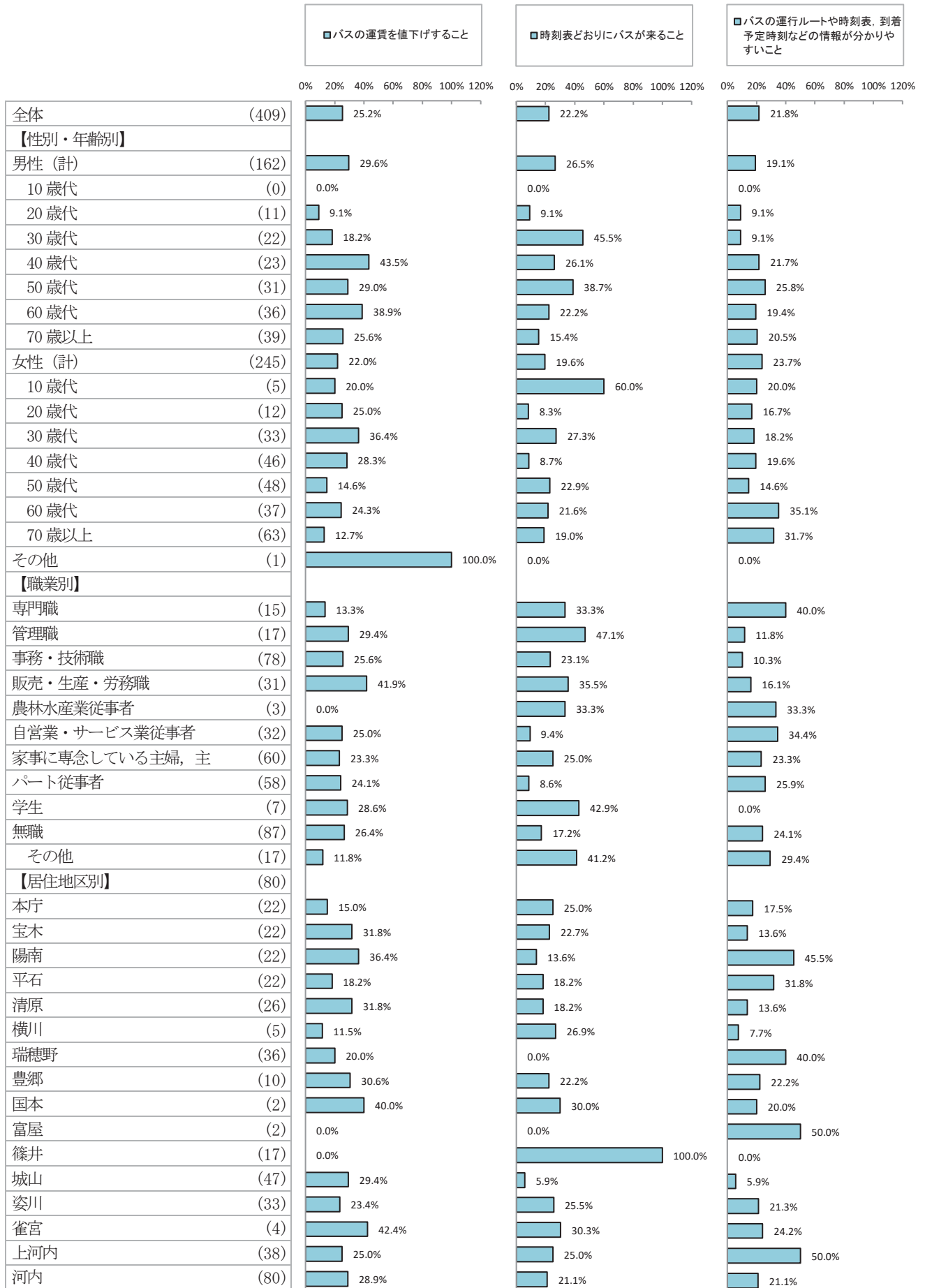
職業別でみると、「外出したい時間（目的地に着きたい時間）に合うちょうど良いバスがあること」は<学生>が57.1%で最も高く、次いで<事務・技術職>が55.1%であった。「バスの便数を増やすこと」は<学生>が57.1%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が48.4%であった。（図IV-14-14）

居住地区別で見ると、「外出したい時間（目的地に着きたい時間）に合うちょうど良いバスがあること」は<篠井>が100.0%で最も高く、次いで<清原>が54.5%と続いている。「バスの便数を増やすこと」は<瑞穂野>が80.0%で最も高く、次いで<国本>、<篠井>がいずれも50.0%であった。（図IV-14-14）

<図IV-14-14>性別・年齢別／職業別／居住地域別（上位6項目）



<図IV-14-14>性別・年齢別／居住地別（上位6項目）



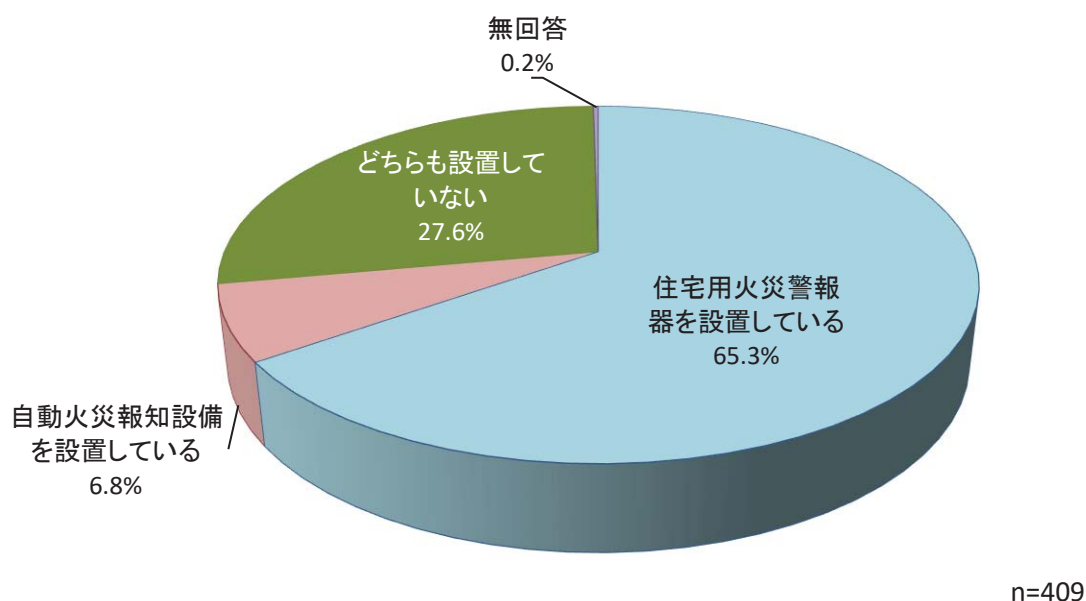
15. 住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について

(1) 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況

◇ 「住宅用火災警報器を設置している」が6割半ば

問60	現在、自宅に「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」を設置していますか。(○は1つ)	n=409
1	住宅用火災警報器を設置している	65.3%
2	自動火災報知設備を設置している	6.8%
3	どちらも設置していない	27.6%
	(無回答)	0.2%

<図IV-15-1>全体

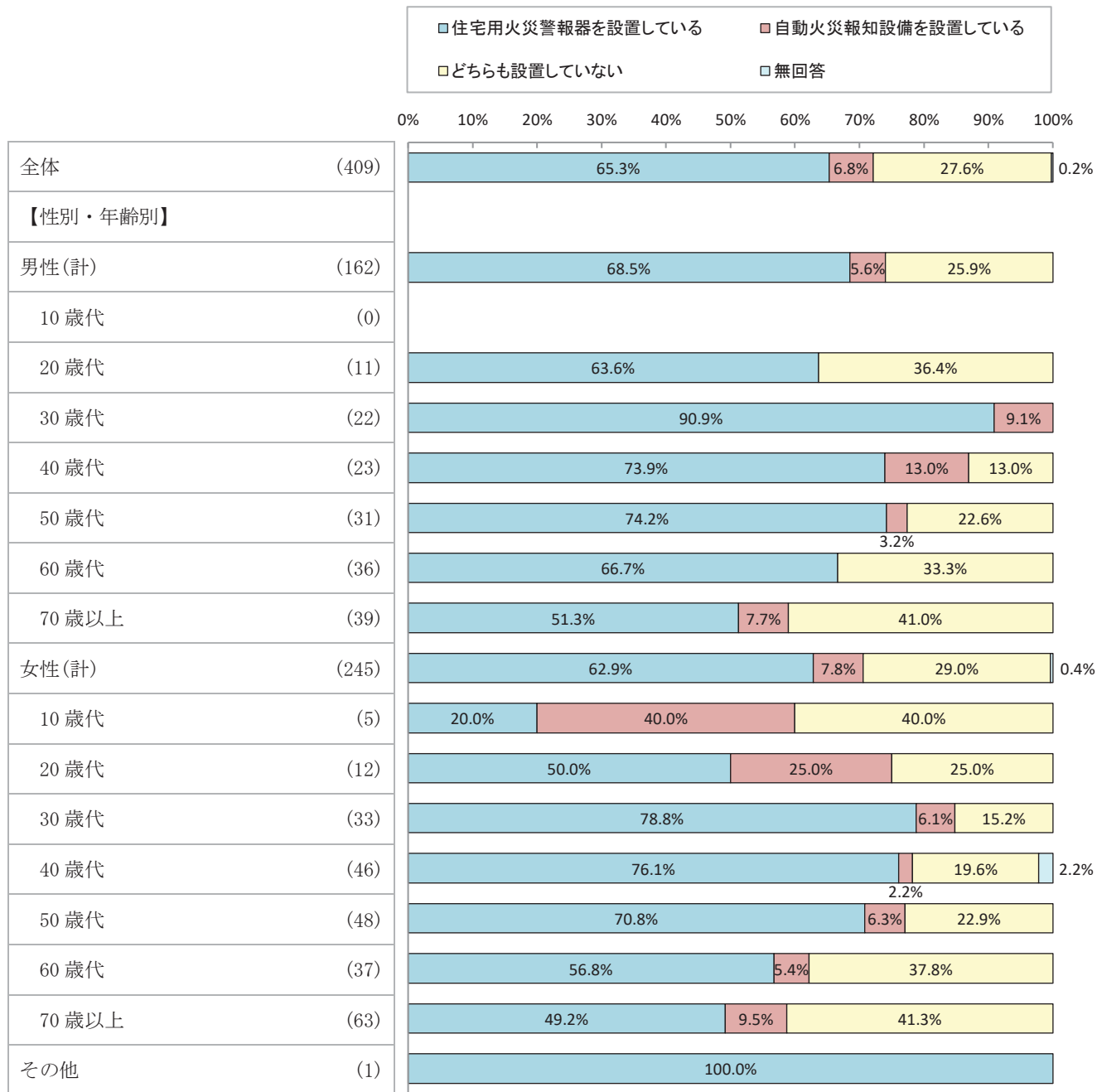


「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況については、「住宅用火災警報器を設置している」が65.3%で最も高く、「どちらも設置していない」が27.6%、「自動火災報知設備を設置している」が6.8%であった。(図IV-15-1)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「住宅用火災警報器を設置している」は<その他>が100.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が90.9%と続いている。「どちらも設置していない」は<女性/70歳代>が41.3%で最も高く、<男性/70歳代>が41.0%と続いている。(図IV-15-2)

<図IV-15-2>性別・年齢別

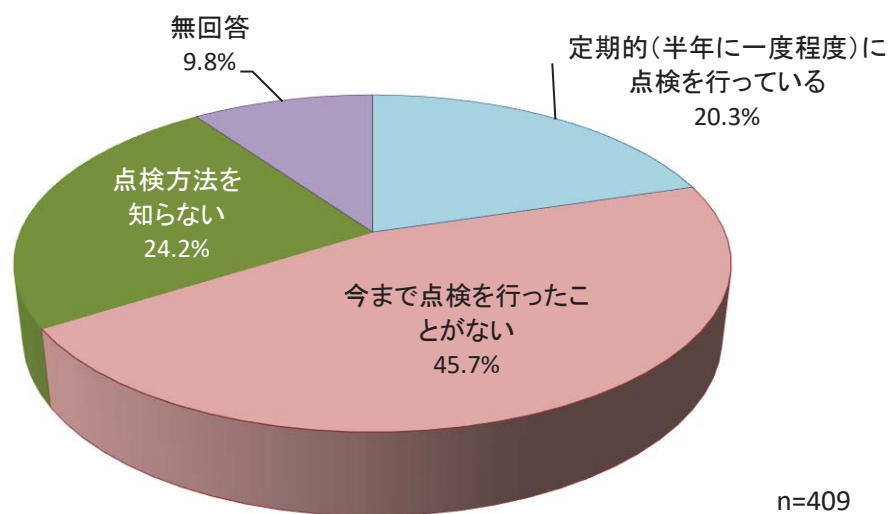


(2) 住宅用火災警報器等の「点検」の有無

◇ 「今まで点検を行ったことがない」が4割半ば

問6 1	今までに住宅用火災警報器等の「点検」を行ったことはありますか。 (○は1つ)	n=409
1	定期的(半年に一度程度)に点検を行っている	20.3%
2	今まで点検を行ったことがない	45.7%
3	点検方法を知らない	24.2%
	(無回答)	9.8%

<図IV-15-3>全体

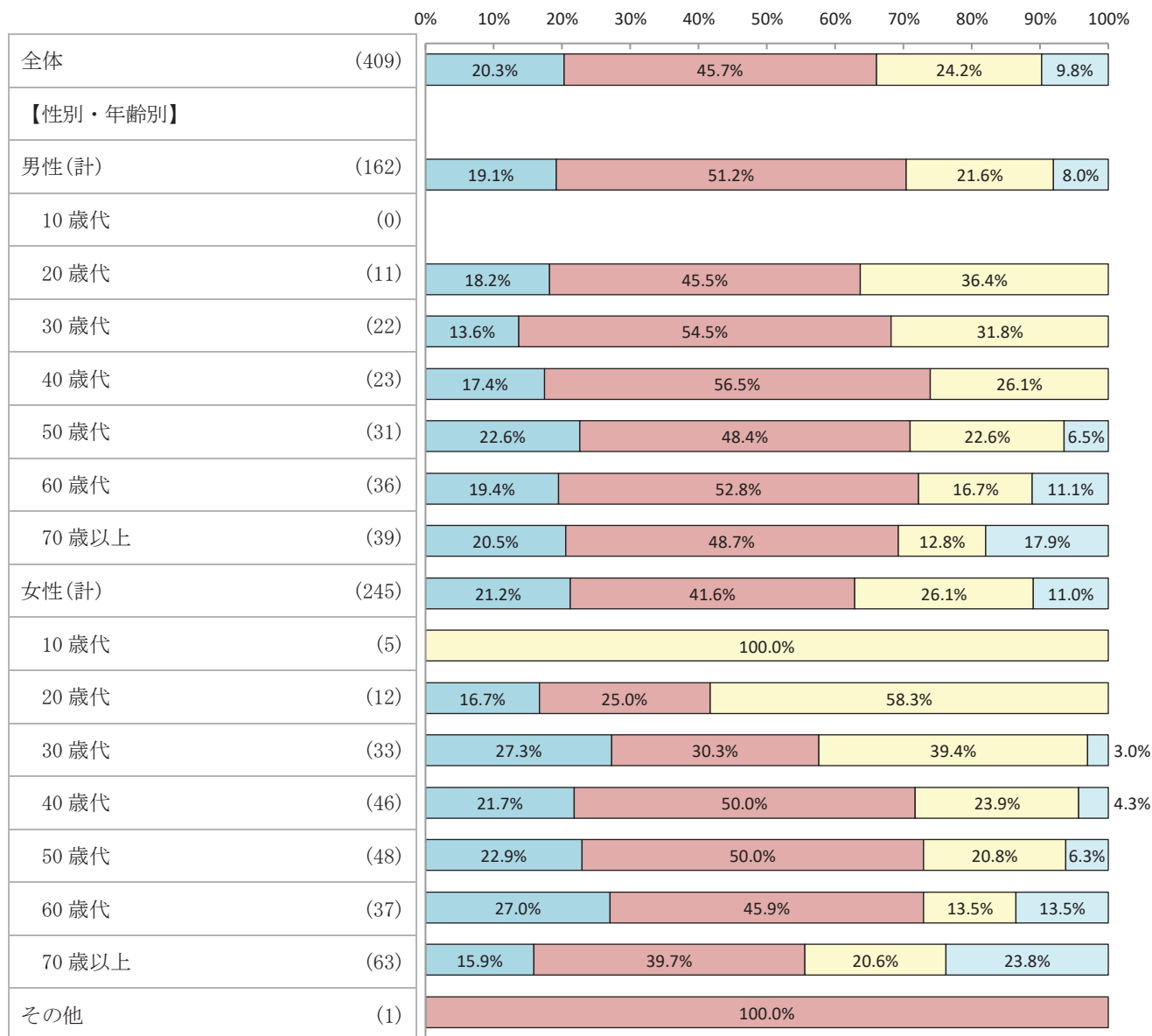
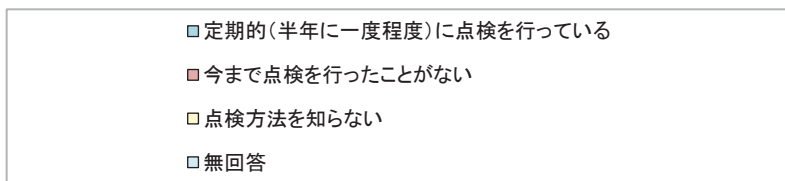


住宅用火災警報器等の「点検」の有無については、「今まで点検を行ったことがない」が45.7%で最も高く、次いで「点検方法を知らない」が24.2%、「定期的(半年に一度程度)に点検を行っている」が20.3%であった。(図IV-15-3)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「今まで点検を行ったことがない」は<その他>が100.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が56.5%と続いている。「点検方法を知らない」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、<女性/20歳代>が58.3%と続いている。(図IV-15-4)

<図IV-15-4>性別・年齢別

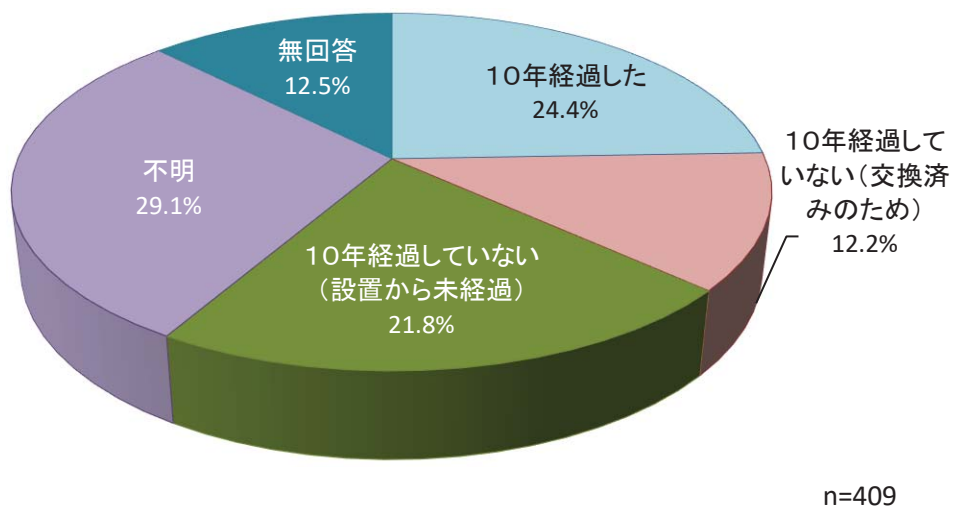


(3) 設置している住宅用火災警報器の経過年数

◇ 「不明」が約3割

問62 設置している住宅用火災警報器は10年を経過していますか。(○は1つ)		n=409
1	10年経過した	24.4%
2	10年経過していない(交換済みのため)	12.2%
3	10年経過していない(設置から未経過)	21.8%
4	不明 (無回答)	29.1% 12.5%

<図IV-15-5>全体

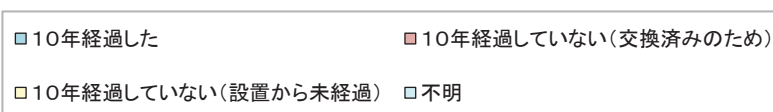


設置している住宅用火災警報器の経過年数については、「不明」が29.1%で最も高く、次いで「10年経過した」が24.4%、「10年経過していない(設置から未経過)」が21.8%と続いている。(図IV-15-5)

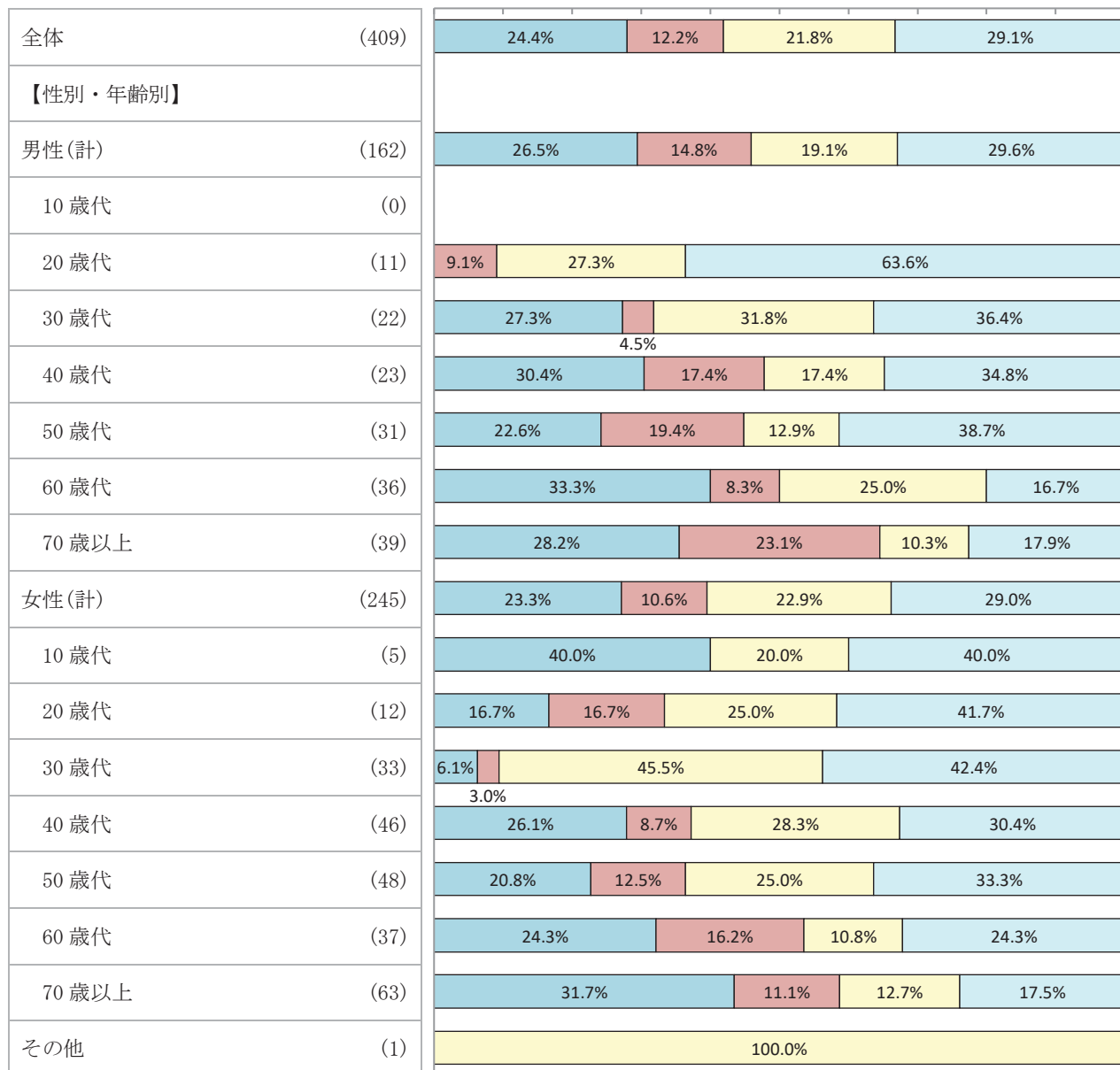
<参考>

性別・年齢別で見ると、「不明」は<男性/20歳代>が63.6%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が42.4%と続いている。「10年経過した」は<女性/10歳代>が40.0%で最も高く、<男性/60歳代>が33.3%と続いている。(図IV-15-6)

<図IV-15-6>性別・年齢別



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



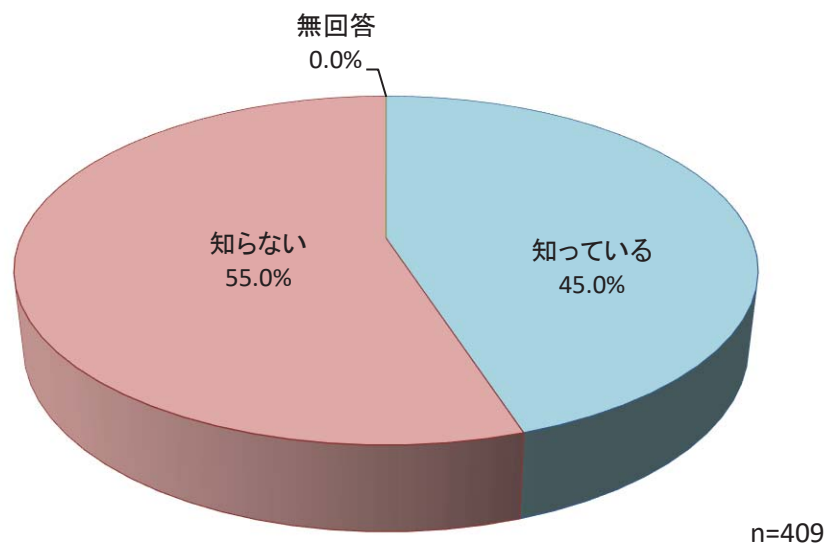
16. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

(1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度

◇ 「知らない」が5割半ば

問63	「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことを知っていますか。	(○は1つ)
		n=409
1	知っている	45.0%
2	知らない	55.0%
	(無回答)	0.0%

<図IV-16-1>全体



「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことの認知度については、「知っている」が45.0%、一方、「知らない」は55.0%であった。(図IV-16-1)

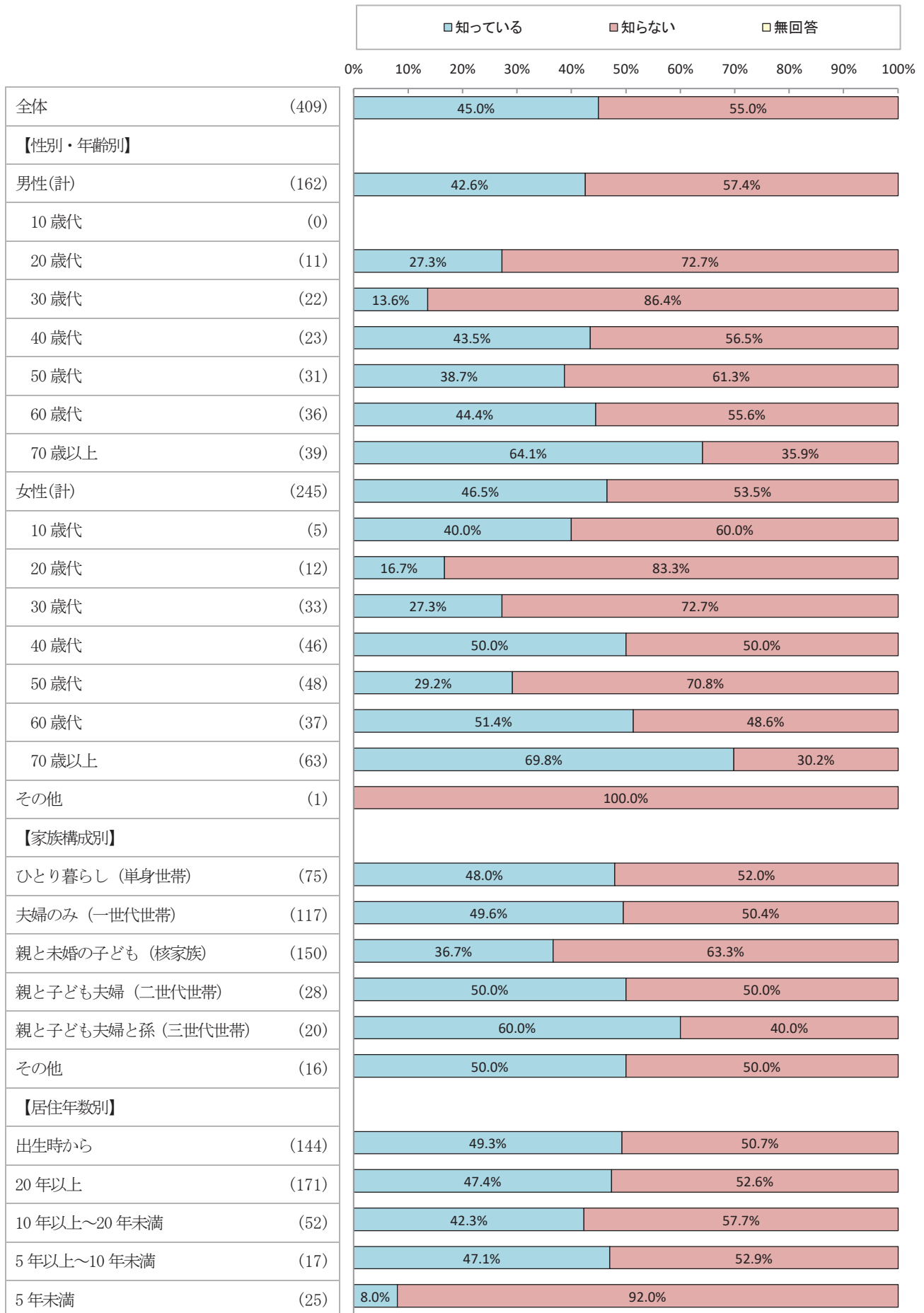
<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<女性/70歳以上>が69.8%で最も高く、<男性/70歳以上>が64.1%と続いている。一方、「知らない」は<その他>が100.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が86.4%と続いている。(図IV-16-2)

家族構成別で見ると、「知っている」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が60.0%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が50.0%であった。一方、「知らない」は<親と未婚の子ども(核家族)>が63.3%で最も高く、<ひとり暮らし(単身世帯)>が52.0%と続いている。(図IV-16-2)

居住年数別で見ると、「知っている」は<出生時から>が49.3%で最も高く、次いで<20年以上>が47.4%であった。一方、「知らない」は<5年未満>が92.0%で最も高く、次いで<10年以上~20年未満>が57.7%であった。(図IV-16-2)

<図IV-16-2>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

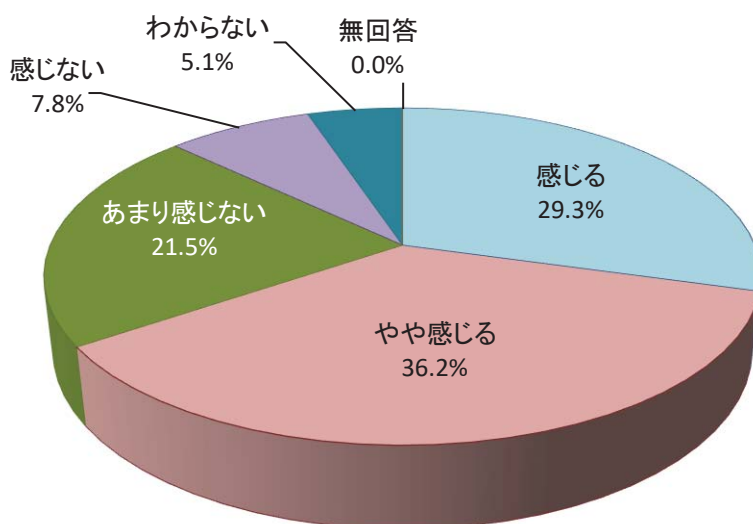


(2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

◇ 「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる(計)】が6割半ば

問64 宇都宮市の暮らしに息づいている「大谷石文化」を誇りに感じますか。		(○は1つ)
		n=409
1	感じる	29.3%
2	やや感じる	36.2%
3	あまり感じない	21.5%
4	感じない	7.8%
5	わからない	5.1%
	(無回答)	0.0%

<図IV-16-3>全体



n=409

「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」が29.3%、「やや感じる」が36.2%で、これらを合わせた【感じる(計)】が65.5%であった。一方、「あまり感じない」21.5%、「感じない」7.8%で、これらを合わせた【感じない(計)】は29.3%であった。(図IV-16-3)

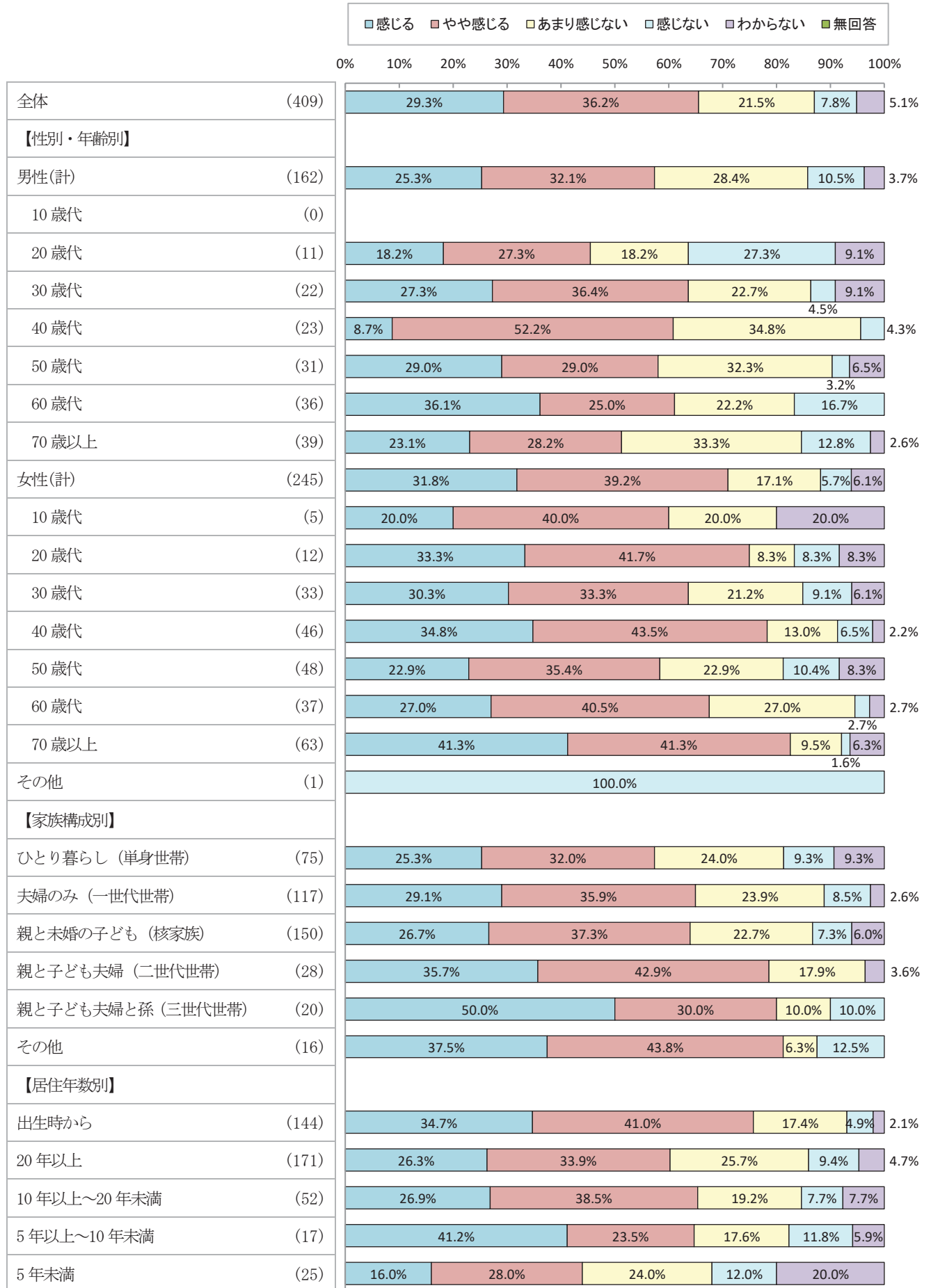
<参考>

性別・年齢別で見ると、【感じる(計)】は<女性/70歳以上>が82.6%で最も高く、<女性/40歳代>が78.3%と続いている。一方、【感じない(計)】は<その他>が100.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が46.1%と続いている。(図IV-16-4)

家族構成別で見ると、【感じる(計)】は<その他>を除くと<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が80.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が78.6%であった。一方、【感じない(計)】は<ひとり暮らし(単身世帯)>が33.3%で最も高く、<夫婦のみ(一世帯世帯)>が32.4%と続いている。(図IV-16-4)

居住年数別で見ると、【感じる(計)】は<出生時から>が75.7%で最も高く、次いで<10年以上~20年未満>が65.4%であった。一方、【感じない(計)】は<5年未満>が36.0%で最も高く、次いで<20年以上>が35.1%であった。(図IV-16-4)

<図IV-16-4>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



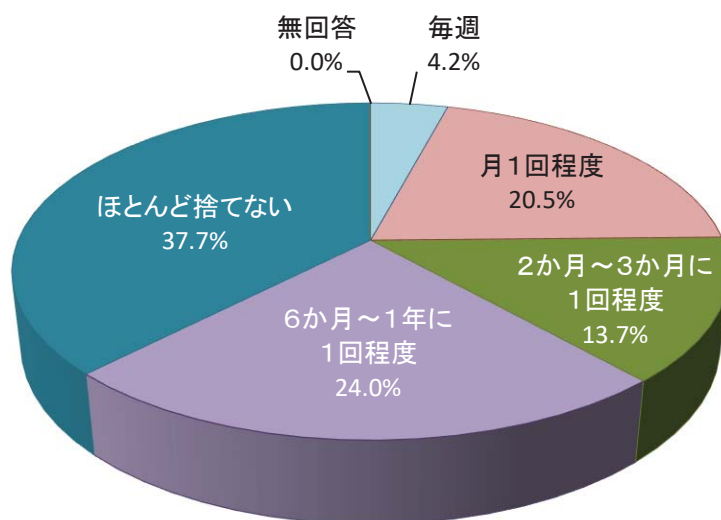
17. 食品ロスの削減について

(1) 未使用、未開封の食品を、焼却ごみとして捨てたことの有無

◇ 「ほとんど捨てない」が4割弱

問65	ご家庭で、未使用、未開封の食品を、何らかの理由で焼却ごみとして捨てたことがありますか。あてはまるものを1つお選びください。(○は1つ)	n=409
1	毎週	4.2%
2	月1回程度	20.5%
3	2か月～3か月に1回程度	13.7%
4	6か月～1年に1回程度	24.0%
5	ほとんど捨てない	37.7%
	(無回答)	0.0%

<図IV-17-1>全体



n=409

未使用、未開封の食品を、焼却ごみとして捨てたことの有無については、「ほとんど捨てない」が37.7%で最も高く、次いで「6か月～1年に1回程度」24.0%、「月1回程度」20.5%と続いている(図IV-17-1)

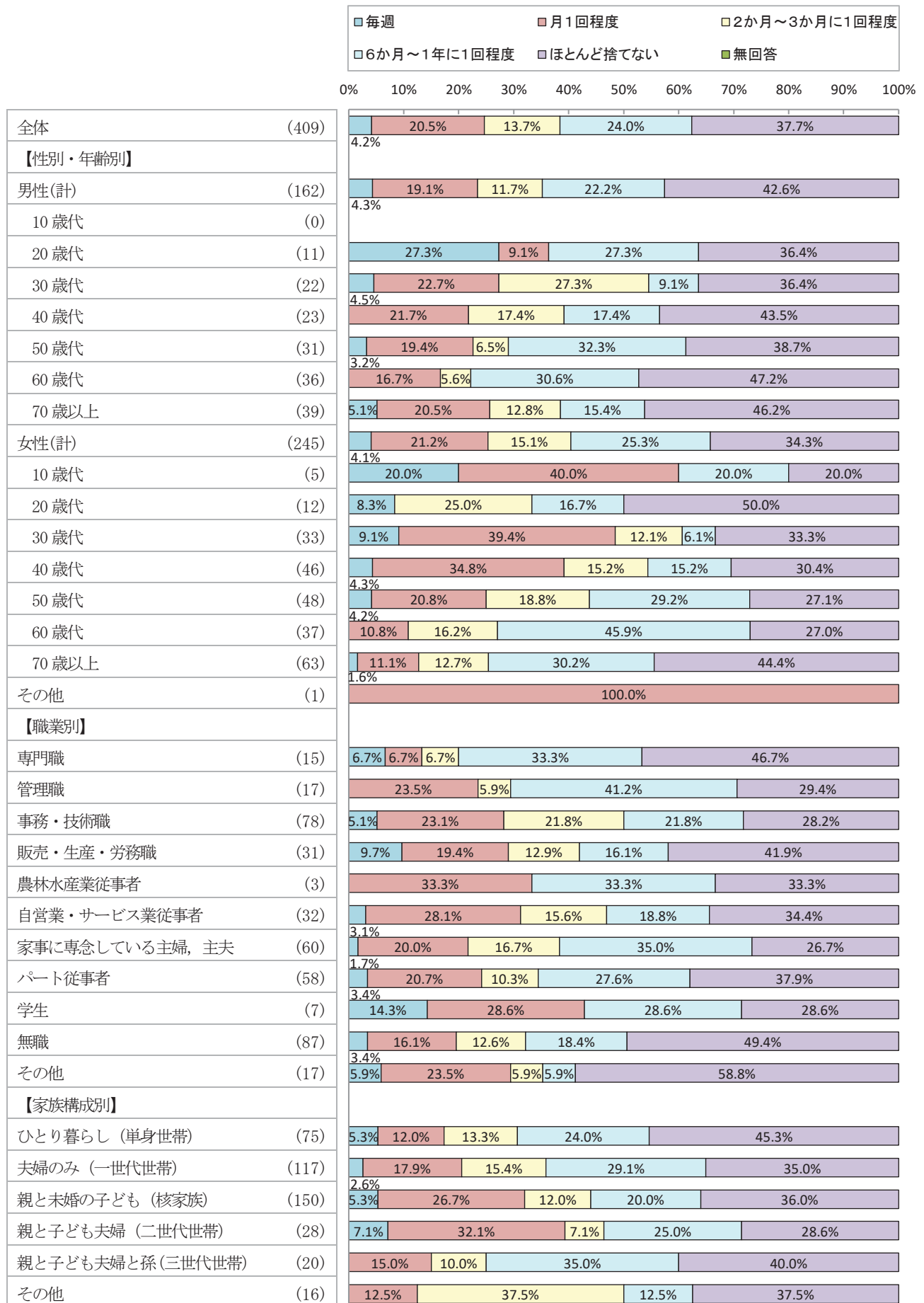
<参考>

性別・年齢別で見ると、「ほとんど捨てない」は<女性/20歳代>が50.0%で最も高く、<男性/60歳代>が47.2%と続いている。一方、「6か月～1年に1回程度」は<女性/60歳代>が45.9%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が32.3%と続いている。(図IV-17-2)

職業別で見ると、「ほとんど捨てない」は<その他>を除くと<無職>が49.4%で最も高く、次いで<専門職>が46.7%であった。一方、「6か月～1年に1回程度」は<管理職>が41.2%で最も高く、<家事に専念している主婦、主夫>が35.0%と続いている。(図IV-17-2)

家族構成別で見ると、「ほとんど捨てない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が45.3%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が40.0%であった。一方、「6か月～1年に1回程度」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が35.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が29.1%であった。(図IV-17-2)

<図IV-17-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

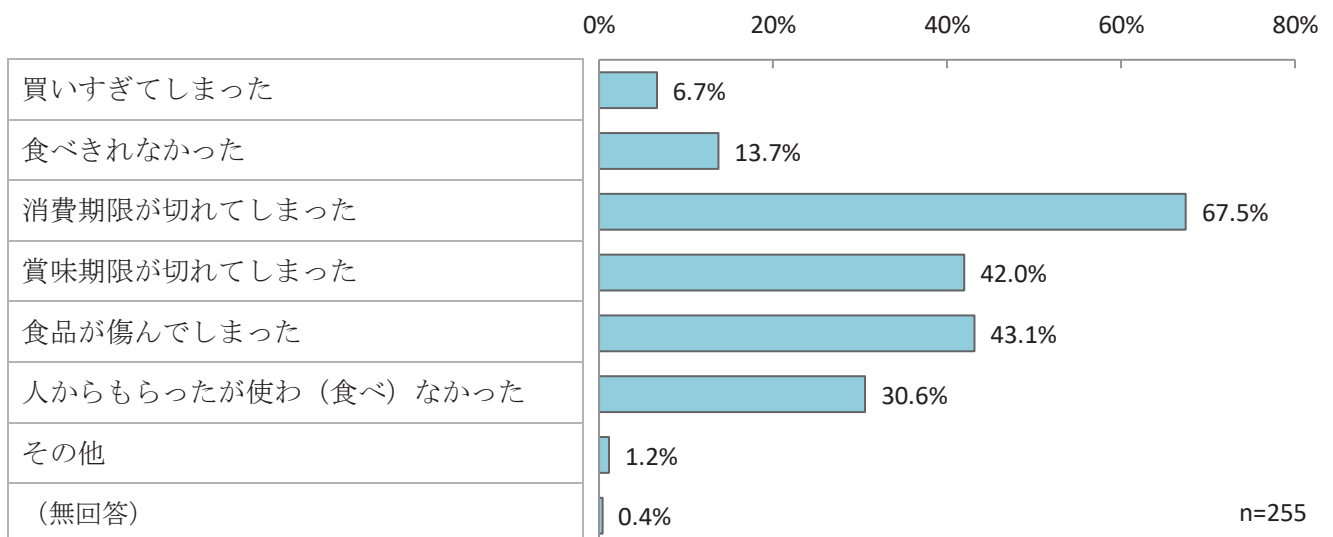


(2) 捨てた理由

◇ 「消費期限が切れてしまった」が7割弱

問66	問65で1～4と答えた方にお聞きします。捨ててしまった理由について、あてはまるものすべてをお選びください。 (〇はいくつでも)	n=255
1	買いすぎてしまった	6.7%
2	食べきれなかった	13.7%
3	消費期限が切れてしまった	67.5%
4	賞味期限が切れてしまった	42.0%
5	食品が傷んでしまった	43.1%
6	人からもらったが使わ(食べ)なかった	30.6%
7	その他 (無回答)	1.2% 0.4%

<図IV-17-3>全体



捨てた理由については、「消費期限が切れてしまった」が67.5%で最も高く、次いで「食品が傷んでしまった」が43.1%、「賞味期限が切れてしまった」が42.0%と続いている。(図IV-17-3)

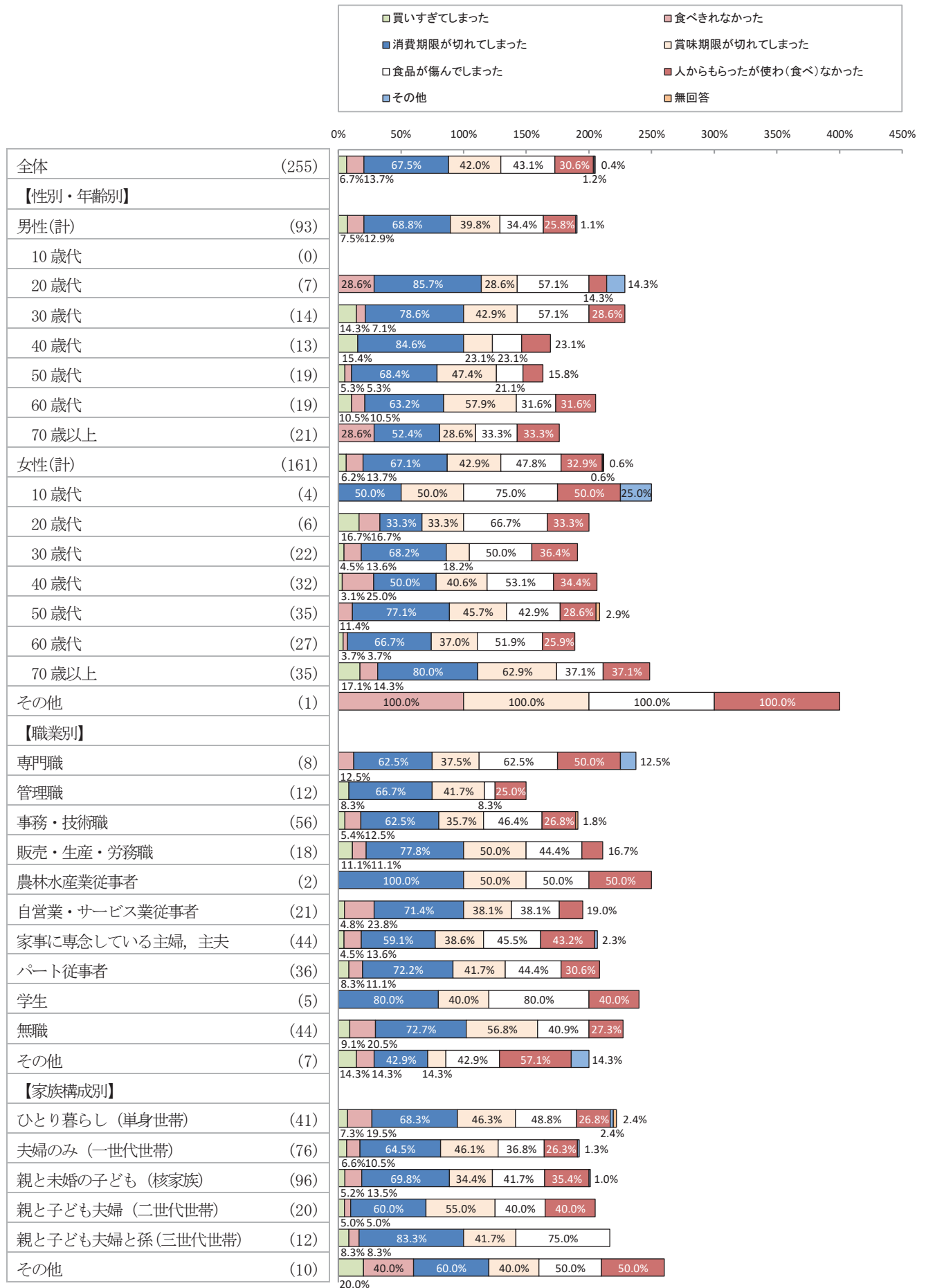
<参考>

性別・年齢別で見ると、「消費期限が切れてしまった」は<男性/20歳代>が85.7%で最も高く、<男性/40歳代>が84.6%と続いている。「食品が傷んでしまった」は<その他>が100.0%で最も高く、次いで<女性/10歳代>が75.0%と続いている。(図IV-17-4)

職業別で見ると、「消費期限が切れてしまった」は<農林水産業従事者>が100.0%で最も高く、次いで<学生>が80.0%であった。「食品が傷んでしまった」は<学生>が80.0%で最も高く、<専門職>が62.5%と続いている。(図IV-17-4)

家族構成別で見ると、「消費期限が切れてしまった」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が83.3%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が69.8%であった。「食品が傷んでしまった」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が75.0%で最も高く、次いで<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が48.8%であった。(図IV-17-4)

<図IV-17-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別

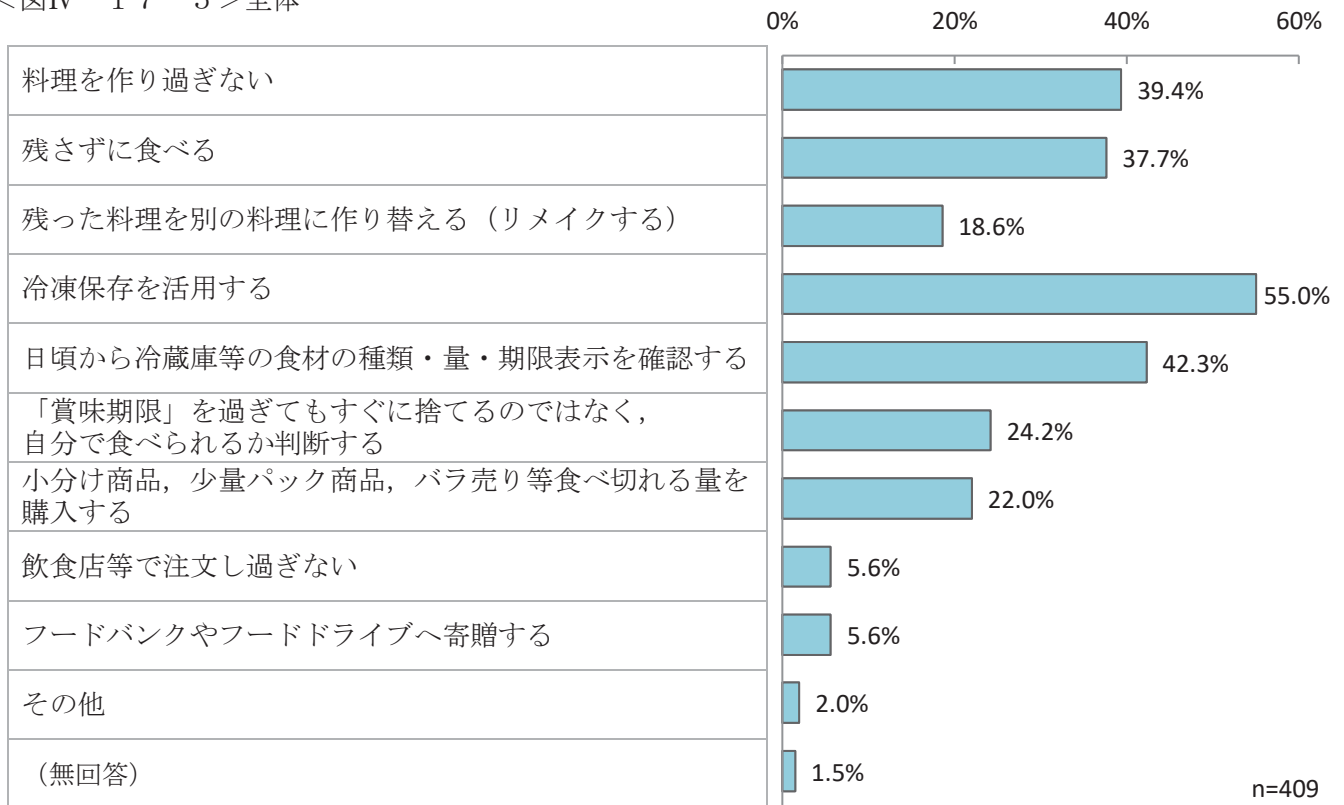


(3)「食品ロス」を減らすために効果があると思うこと

◇「冷凍保存を活用する」が5割半ば

問67 「食品ロス」を減らすために効果があると思うことについて、あてはまるものをすべてお選びください。 (〇はいくつでも)		n=409
1	料理を作り過ぎない	39.4%
2	残さずに食べる	37.7%
3	残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)	18.6%
4	冷凍保存を活用する	55.0%
5	日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する。	42.3%
6	「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	24.2%
7	小分け商品, 少量パック商品, バラ売り等食べ切れる量を購入する	22.0%
8	飲食店等で注文し過ぎない	5.6%
9	フードバンクやフードドライブへ寄贈する	5.6%
10	その他	2.0%
	(無回答)	1.5%

<図IV-17-5>全体



「食品ロス」を減らすために効果があると思うことについては、「冷凍保存を活用する」が 55.0%で最も高く、次いで「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」が 42.3%で続いている。(図IV-17-5)

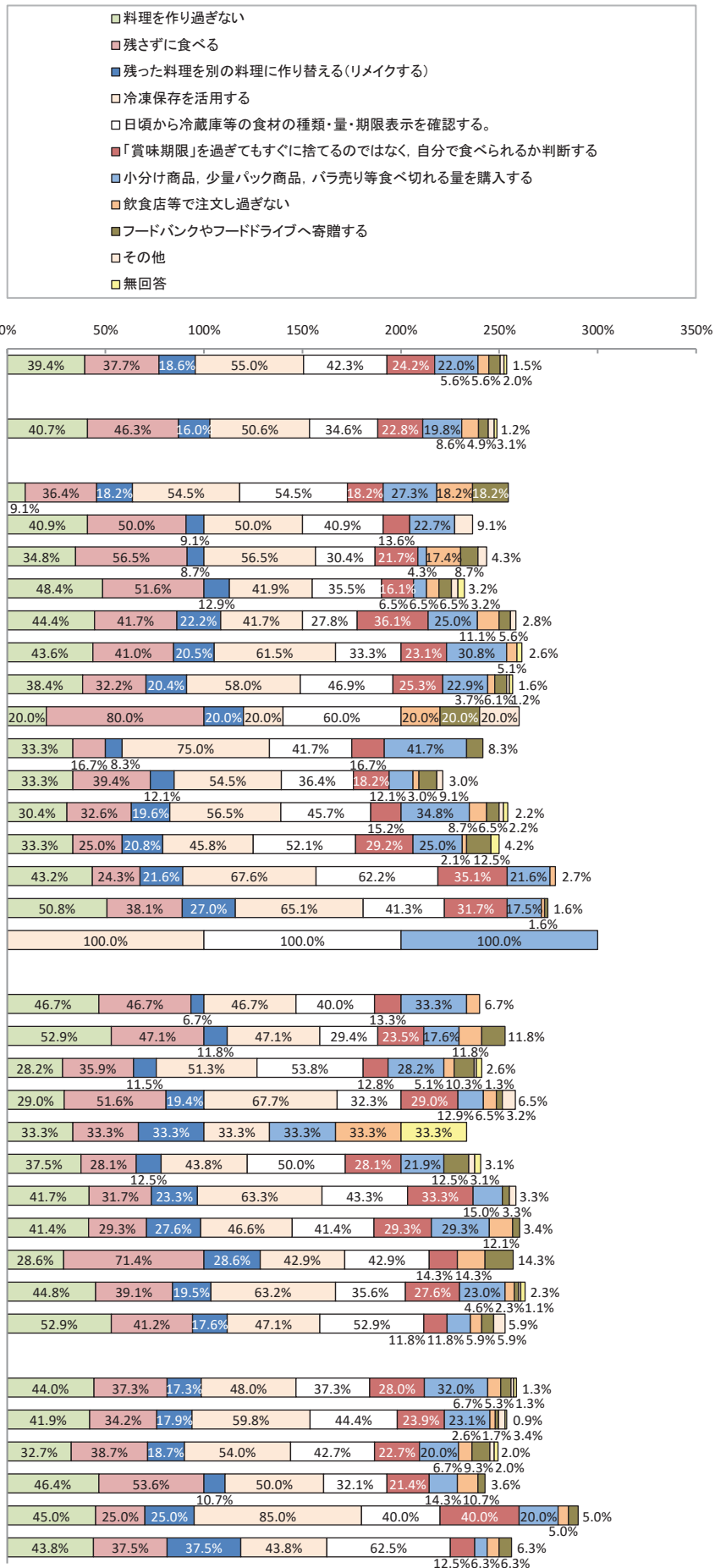
<参考>

上位6項目について性別・年齢別で見ると、「冷凍保存を活用する」は<その他>が 100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が 75.0%と続いている。「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」は<その他>が 100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が 62.2%と続いている。(図IV-17-6)

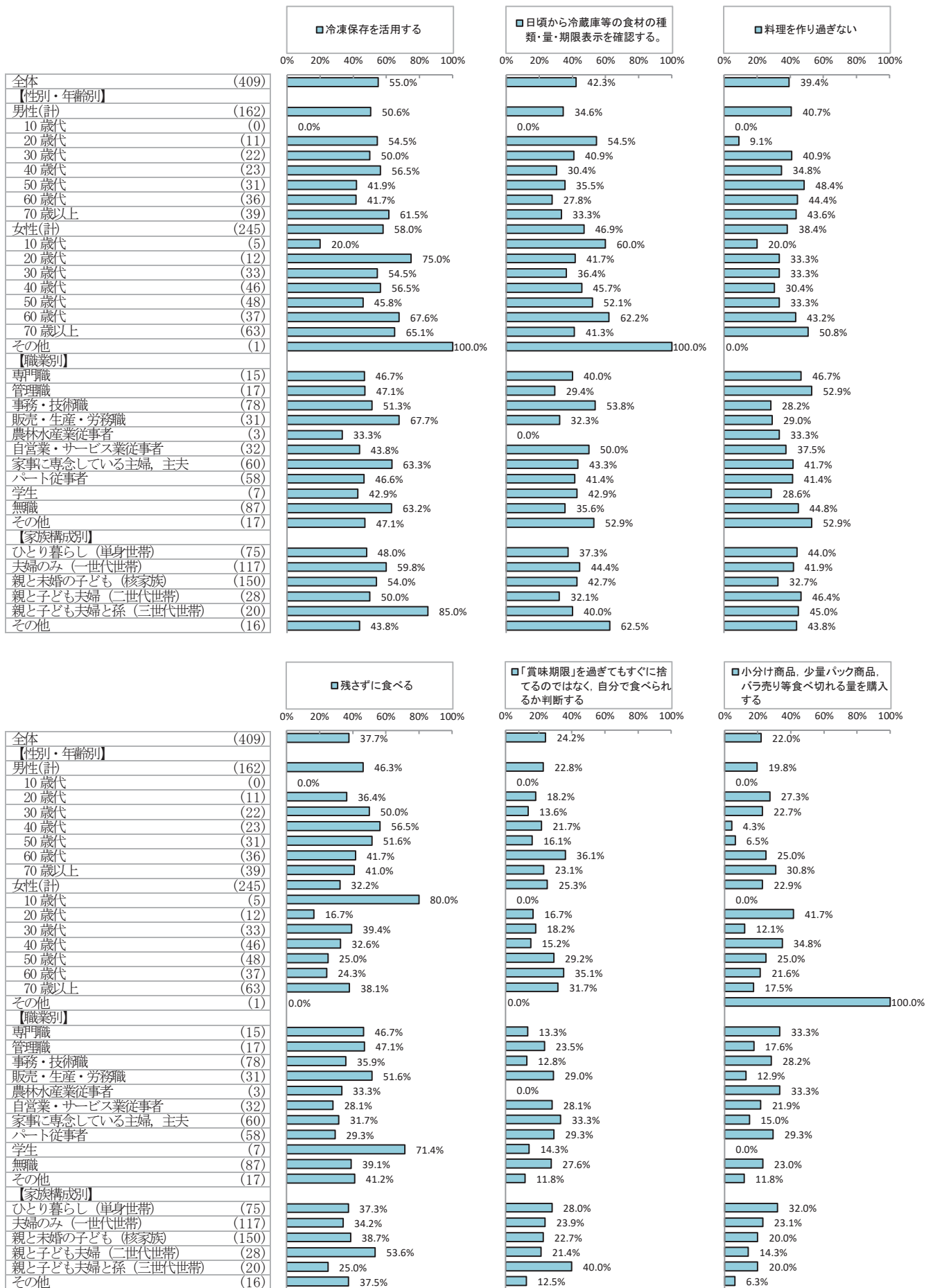
職業別で見ると、「冷凍保存を活用する」は<販売・生産・労務職>が 67.7%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦, 主夫>が 63.3%と続いている。「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」は<事務・技術職>が 53.8%で最も高く、<自営業・サービス業従事者>が 50.0%と続いている。(図IV-17-6)

家族構成別で見ると、「冷凍保存を活用する」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が 85.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が 59.8%と続いている。「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」は<その他>を除くと<夫婦のみ(一世代世帯)>が 44.4%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が 42.7%と続いている。(図IV-17-6)

<図IV-17-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別



<図IV-17-7>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別（上位6項目）



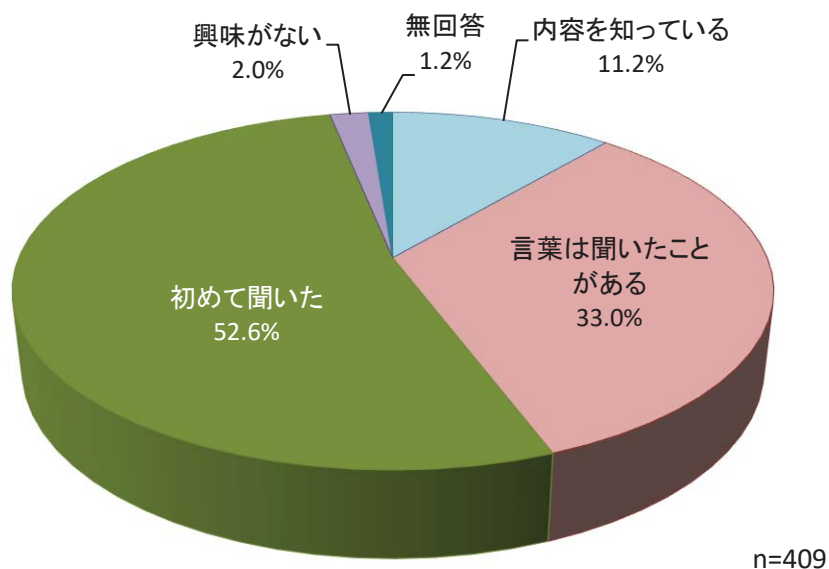
18. 治水・雨水対策について

(1) 総合治水・雨水対策の認知度

◇ 「初めて聞いた」が5割強

問68	宇都宮市の総合治水・雨水対策を知っていますか。	(○は1つ)
		n=409
1	内容を知っている	11.2%
2	言葉は聞いたことがある	33.0%
3	初めて聞いた	52.6%
4	興味がない	2.0%
	(無回答)	1.2%

<図IV-18-1>全体



総合治水・雨水対策の認知度については、「初めて聞いた」が52.6%で最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」が33.0%、「内容を知っている」が11.2%と続いている。(図IV-18-1)

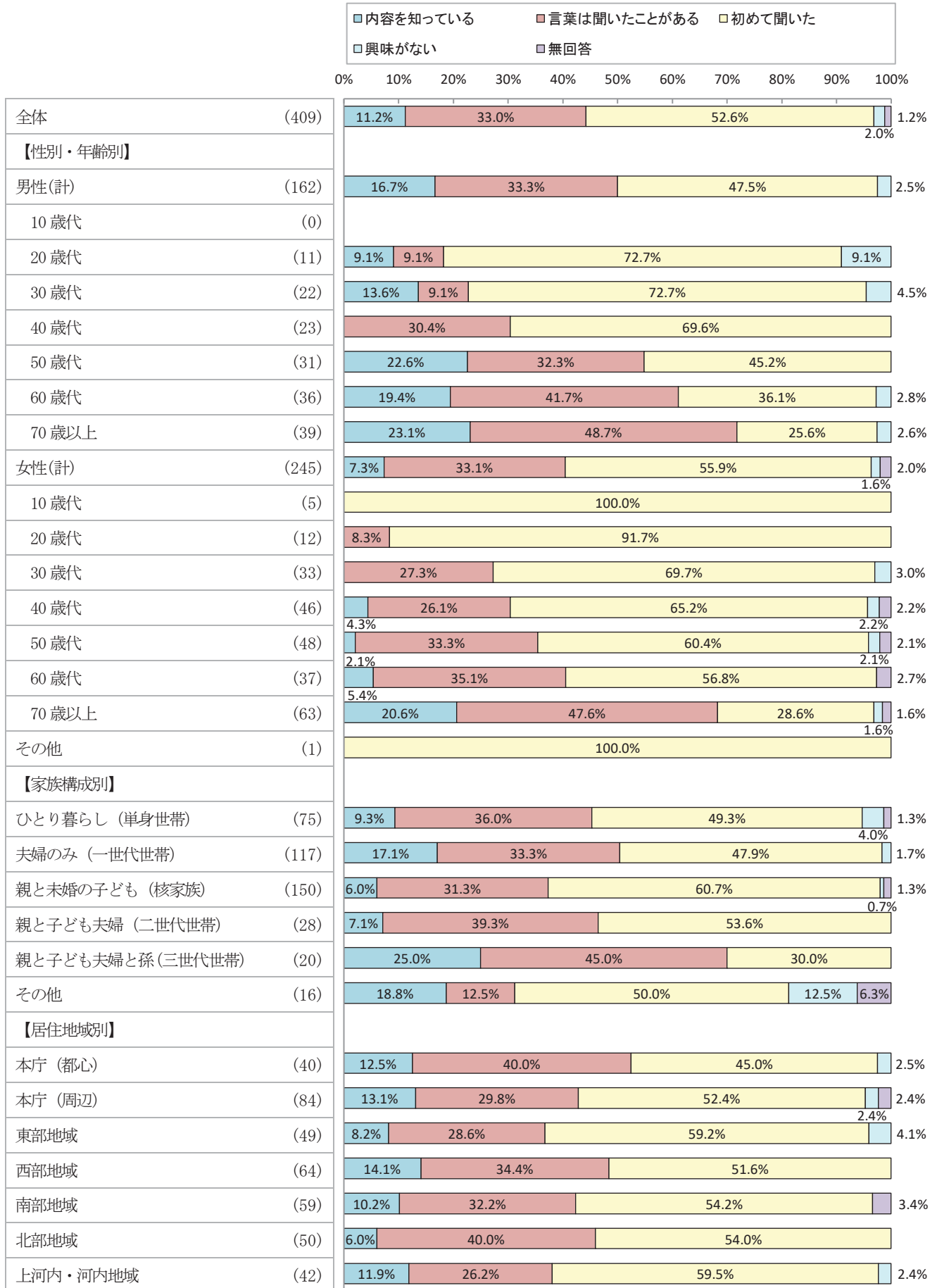
<参考>

性別・年齢別で見ると、「初めて聞いた」は<女性/10歳代>、<その他>がいずれも100.0%で最も高く、<女性/20歳代>が91.7%と続いている。「言葉は聞いたことがある」は<男性/70歳以上>が48.7%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が47.6%と続いている。(図IV-18-2)

家族構成別で見ると、「初めて聞いた」は<親と未婚の子ども(核家族)>が60.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が53.6%と続いている。「言葉は聞いたことがある」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が45.0%で最も高く、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が39.3%と続いている。(図IV-18-2)

居住地域別で見ると、「初めて聞いた」は<上河内・河内地域>が59.5%で最も高く、次いで<東部地域>が59.2%と続いている。「言葉は聞いたことがある」は<本庁(都心)>、<北部地域>がいずれも40.0%で最も高く、次いで<西部地域>が34.4%と続いている。(図IV-18-2)

<図IV-18-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

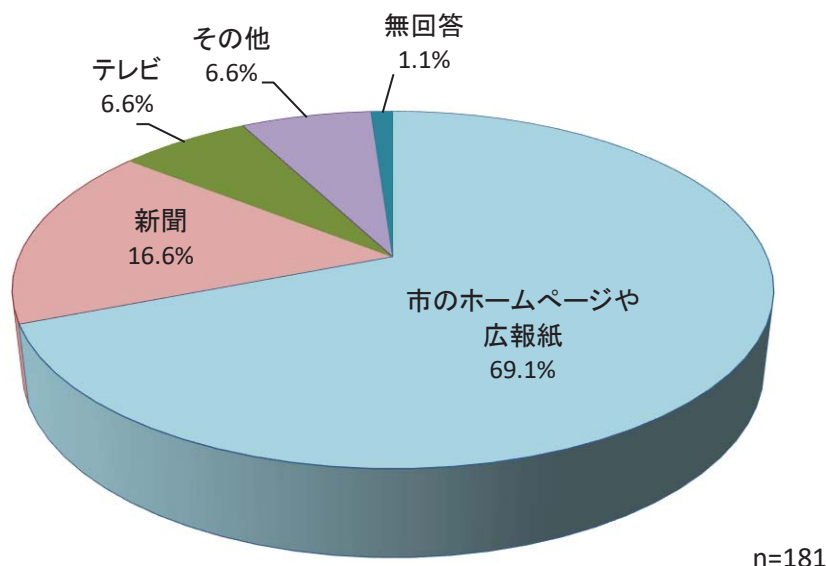


(2) 総合治水・雨水対策をどこから知ったり聞いたりしたか

◇ 「市のホームページや広報紙」が約7割

問69	問68で「1 内容を知っている」「2 言葉は聞いたことがある」を選んだ方にお聞きします。 宇都宮市の総合治水・雨水対策をどこで知ったり聞いたりしましたか。(○は1つ)	n=181
1	市のホームページや広報紙	69.1%
2	新聞	16.6%
3	テレビ	6.6%
4	その他	6.6%
	(無回答)	1.1%

<図IV-18-3>全体



総合治水・雨水対策をどこから知ったり聞いたりしたかについては、「市のホームページや広報紙」が69.1%で最も高く、次いで「新聞」が16.6%、「テレビ」、「その他」が6.6%であった。(図IV-18-3)

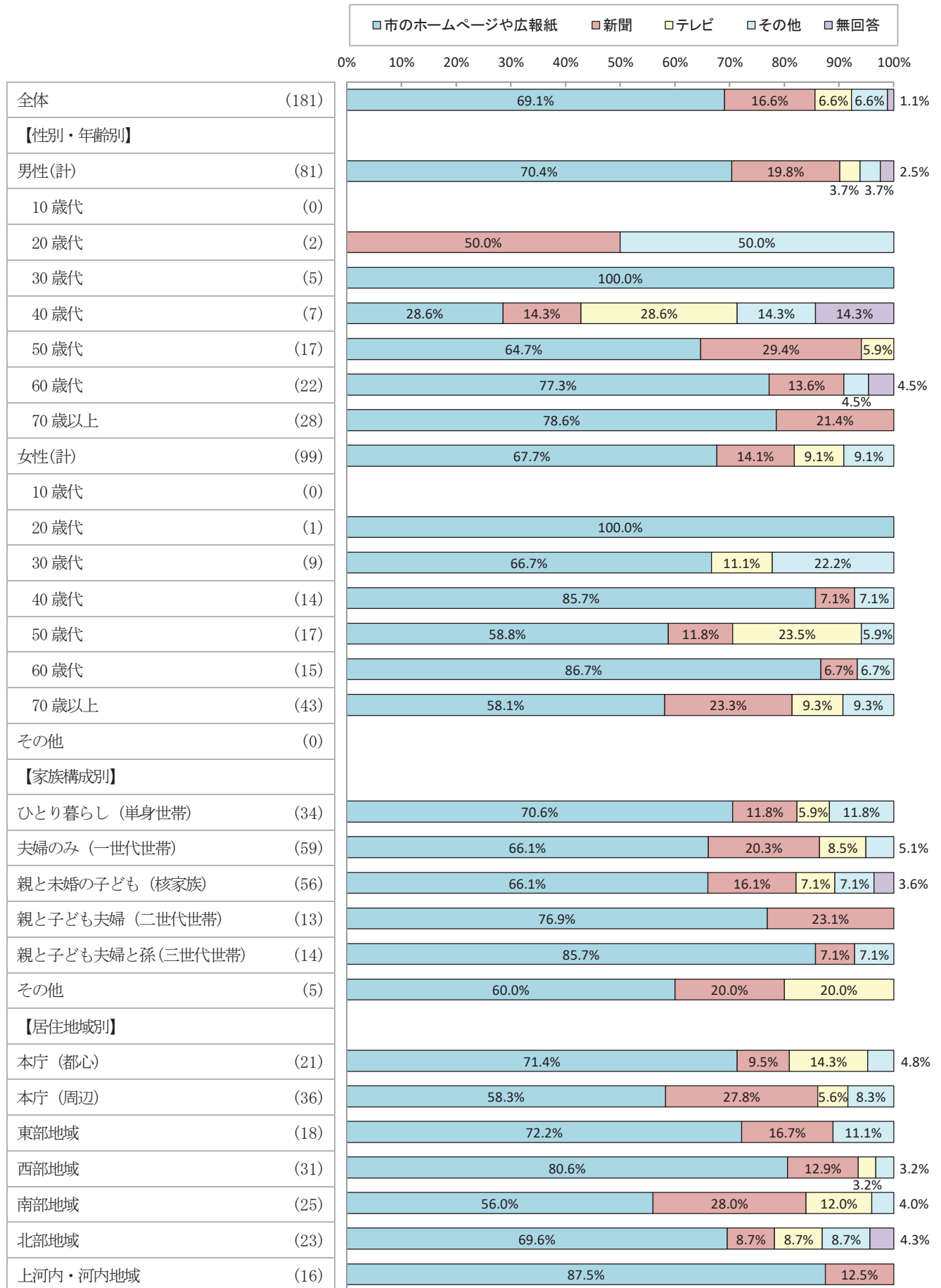
<参考>

性別・年齢別で見ると、「市のホームページや広報紙」は<男性/30歳代>、<女性/20歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が86.7%と続いている。「新聞」は<男性/20歳代>が50.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が29.4%と続いている。(図IV-18-4)

家族構成別で見ると、「市のホームページや広報紙」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が85.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が76.9%と続いている。「新聞」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が23.1%で最も高く、<夫婦のみ(一世帯世帯)>が20.3%と続いている。(図IV-18-4)

居住地域別で見ると、「市のホームページや広報紙」は<上河内・河内地域>が87.5%で最も高く、次いで<西部地域>が80.6%と続いている。「新聞」は<南部地域>が28.0%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が27.8%と続いている。(図IV-18-4)

<図IV-18-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

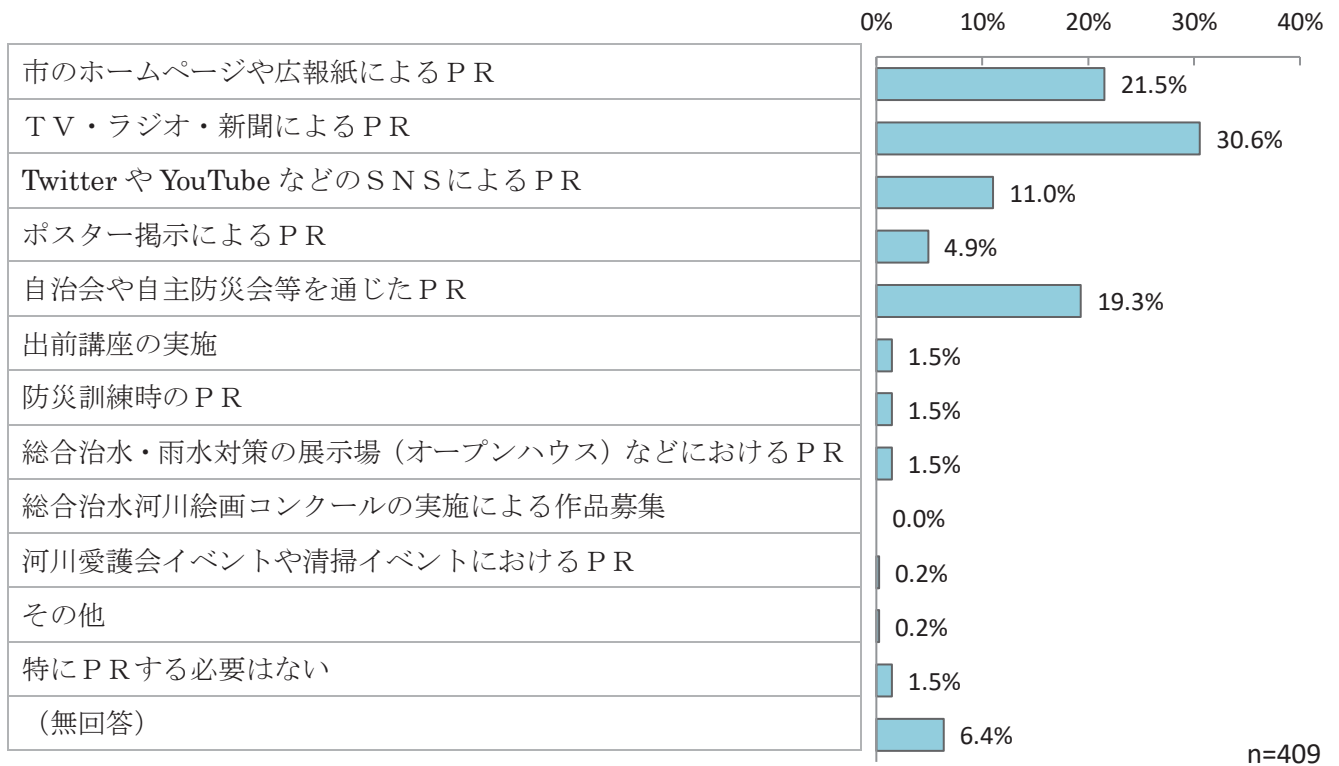


(3) 総合治水・雨水対策の効果的な啓発方法

◇ 「TV・ラジオ・新聞によるPR」が約3割

問70	宇都宮市の総合治水・雨水対策の取組を広めるために、どのような啓発方法が効果的だと思いますか。	(○は1つ)
		n=409
1	市のホームページや広報紙によるPR	21.5%
2	TV・ラジオ・新聞によるPR	30.6%
3	TwitterやYouTubeなどのSNSによるPR	11.0%
4	ポスター掲示によるPR	4.9%
5	自治会や自主防災会等を通じたPR	19.3%
6	出前講座の実施	1.5%
7	防災訓練時のPR	1.5%
8	総合治水・雨水対策の展示場(オープンハウス)などにおけるPR	1.5%
9	総合治水河川絵画コンクールの実施による作品募集	0.0%
10	河川愛護会イベントや清掃イベントにおけるPR	0.2%
11	その他	0.2%
12	特にPRする必要はない	1.5%
	(無回答)	6.4%

<図IV-18-5>全体



総合治水・雨水対策の効果的な啓発方法については、「TV・ラジオ・新聞によるPR」が30.6%で最も高く、次いで「市のホームページや広報紙によるPR」が21.5%と続いている。（図IV-18-5）

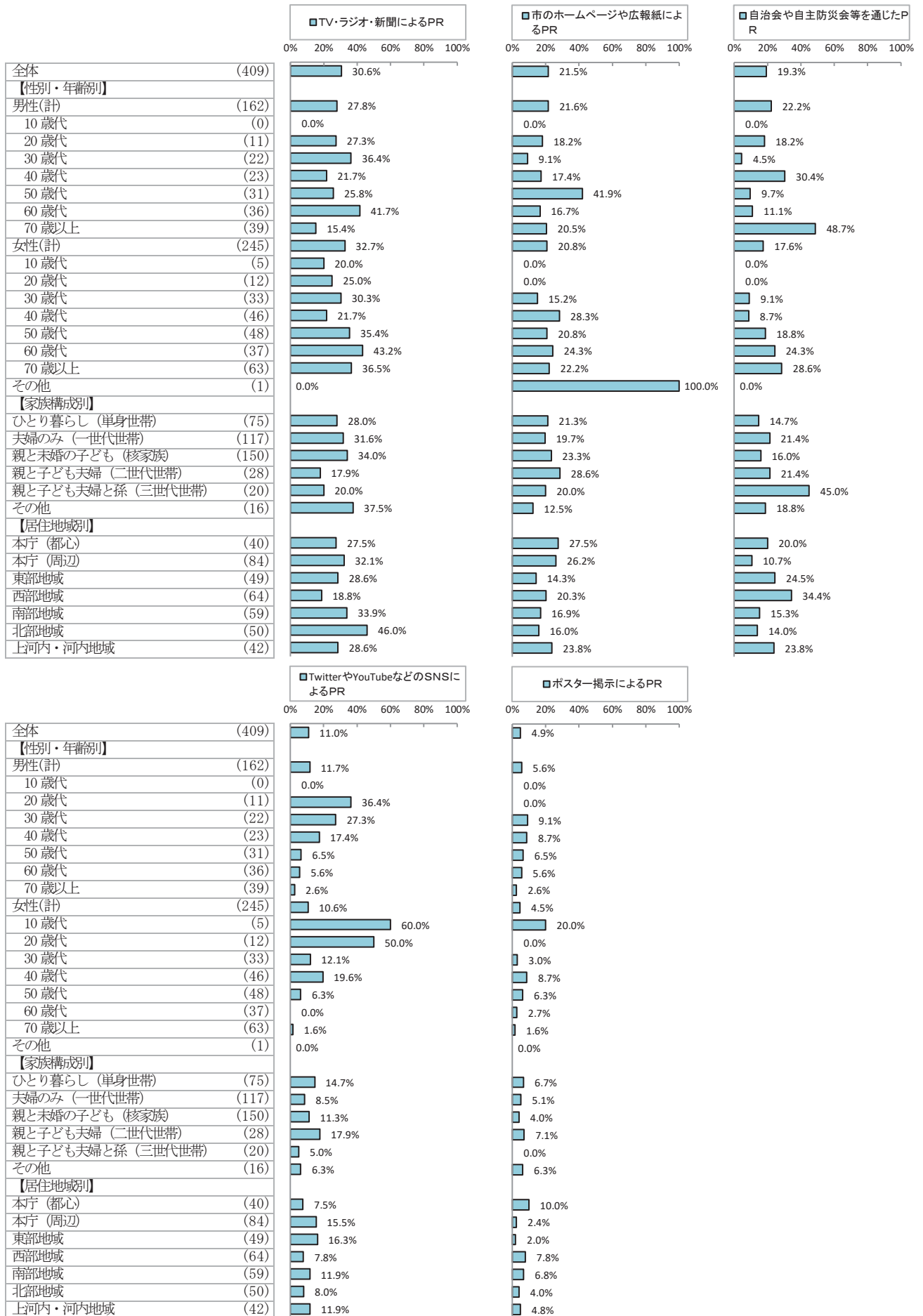
<参考>

性別・年齢別で見ると、「TV・ラジオ・新聞によるPR」は<女性/60歳代>が43.2%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が41.7%と続いている。「市のホームページや広報紙によるPR」は<その他>が100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が41.9%と続いている。（図IV-18-6）

家族構成別で見ると、「TV・ラジオ・新聞によるPR」は<その他>を除くと<親と未婚の子ども（核家族）>が34.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が31.6%と続いている。「市のホームページや広報紙によるPR」は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が28.6%で最も高く、<親と未婚の子ども（核家族）>が23.3%と続いている。（図IV-18-6）

居住地域別で見ると、「TV・ラジオ・新聞によるPR」は<北部地域>が46.0%で最も高く、次いで<南部地域>が33.9%と続いている。「市のホームページや広報紙によるPR」は<本庁（都心）>が27.5%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が26.2%と続いている。（図IV-18-6）

<図IV-18-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別（上位5項目）

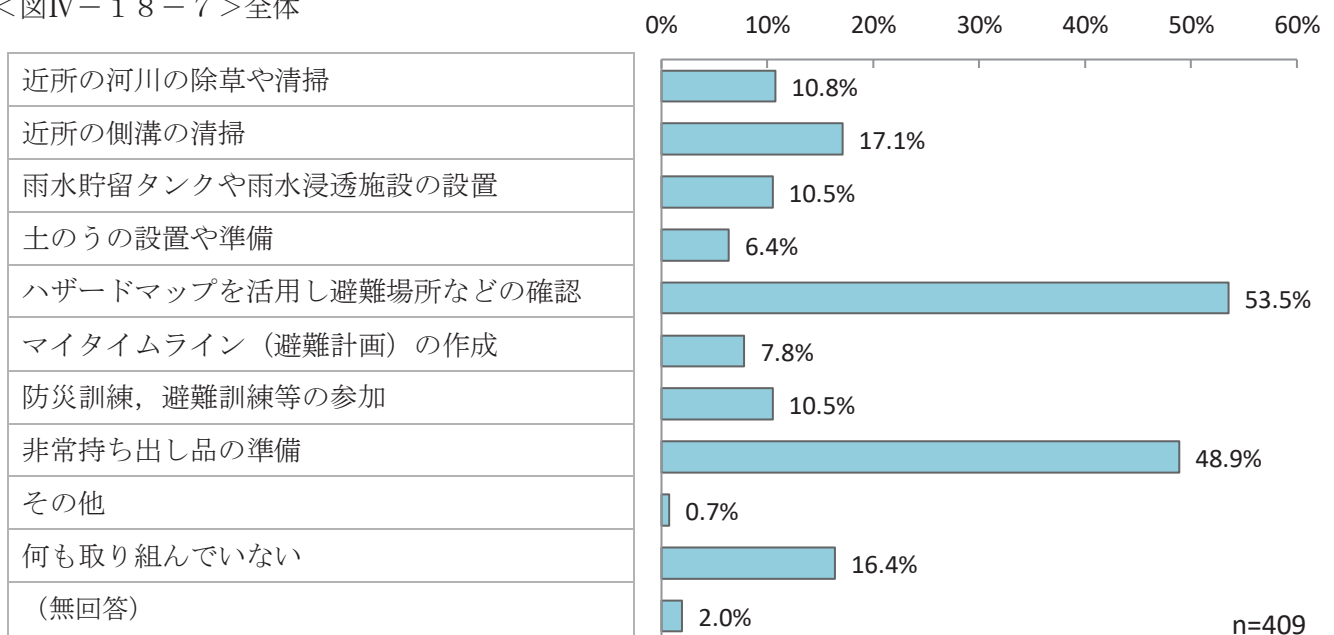


(4) 今後取り組んでいきたいと思っているもの

◇「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」が5割半ば

問7 1	総合治水・雨水計画は行政と市民の皆さまの協働で取り組むことが大変重要となってきます。そこで、ご自身でできる身近な対策として実際に取り組んでいるもの、または、今後取り組んでいきたいと思っているものはありますか。	(〇はいくつでも)
		n=409
1	近所の河川の除草や清掃	10.8%
2	近所の側溝の清掃	17.1%
3	雨水貯留タンクや雨水浸透施設の設置	10.5%
4	土のうの設置や準備	6.4%
5	ハザードマップを活用し避難場所などの確認	53.5%
6	マイタイムライン(避難計画)の作成	7.8%
7	防災訓練, 避難訓練等の参加	10.5%
8	非常持ち出し品の準備	48.9%
9	その他	0.7%
10	何も取り組んでいない	16.4%
	(無回答)	2.0%

<図IV-18-7>全体



今後取り組んでいきたいと思っているものについては、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」が53.5%で最も高く、次いで「非常持ち出し品の準備」が48.9%と続いている。(図IV-18-7)

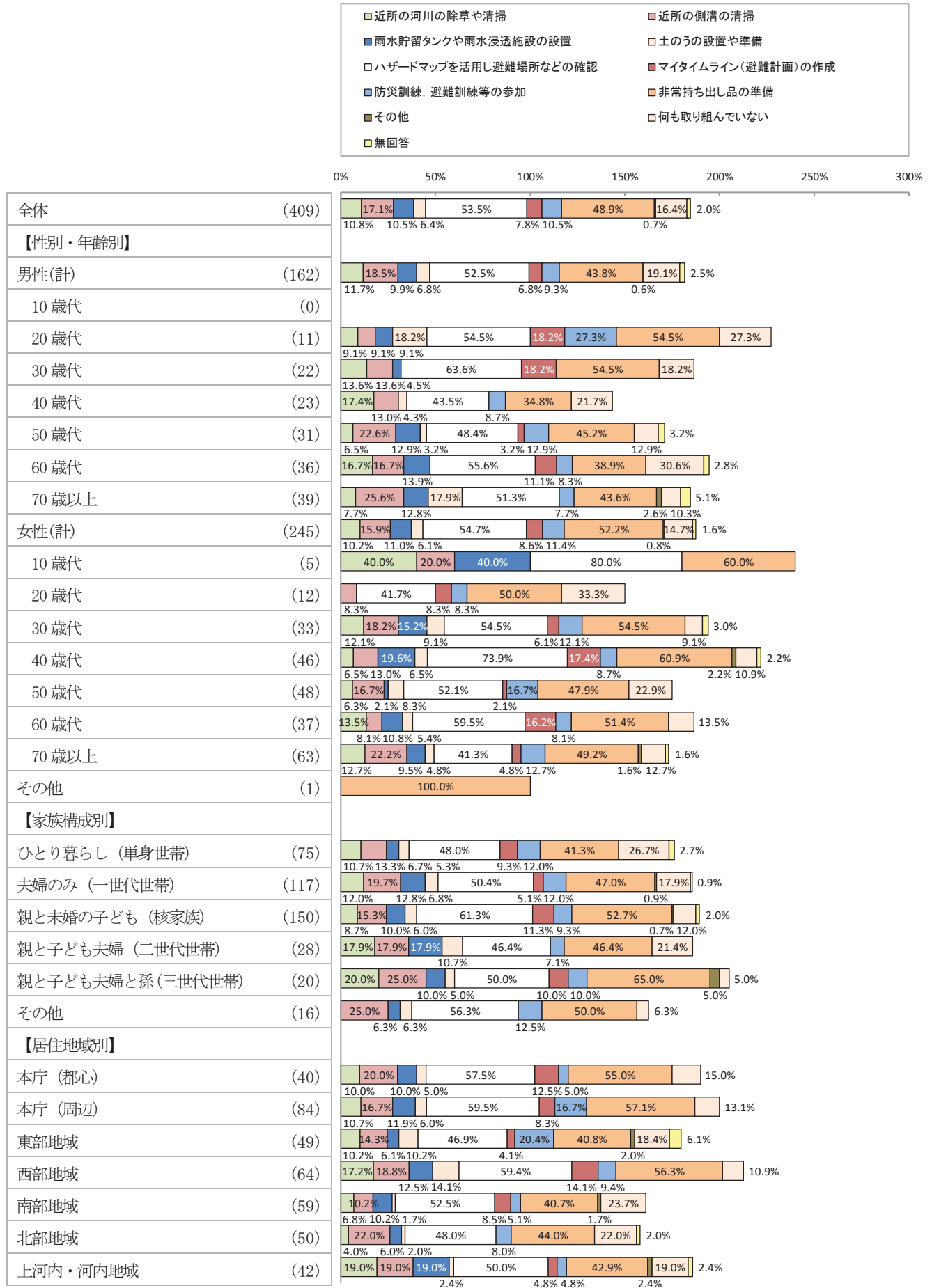
<参考>

性別・年齢別で見ると、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」は<女性/10歳代>が80.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が73.9%と続いている。「非常持ち出し品の準備」は<その他>が100.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が60.9%と続いている。(図IV-18-8)

家族構成別で見ると、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」は<親と未婚の子ども(核家族)>が61.3%で最も高く、次いで<その他>を除くと<夫婦のみ(一世代世帯)>が50.4%と続いている。「非常持ち出し品の準備」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が65.0%で最も高く、<親と未婚の子ども(核家族)>が52.7%と続いている。(図IV-18-8)

居住地域別で見ると、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」は<本庁(周辺)>が59.5%で最も高く、次いで<西部地域>が59.4%と続いている。「非常持ち出し品の準備」は<本庁(周辺)>が57.1%で最も高く、次いで<西部地域>が56.3%と続いている。(図IV-18-8)

<図IV-18-8>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



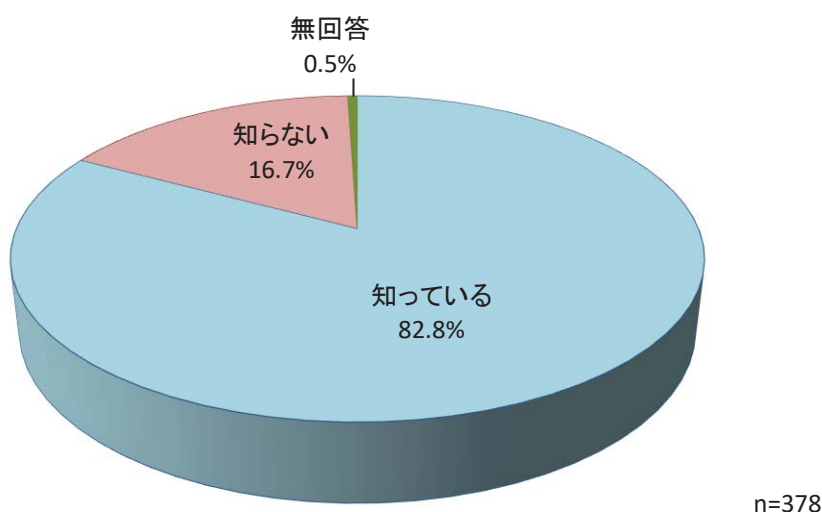
19. いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について

(1) 栃木県で国体が開催されることの認知度

◇ 「知っている」が8割強

問72	あなたは、栃木県で国体が開催されることを知っていますか。	(○は1つ)
		n=378
1	知っている	82.8%
2	知らない	16.7%
	(無回答)	0.5%

<図IV-19-1>全体



栃木県で国体が開催されることの認知度については、「知っている」が82.8%、一方、「知らない」は16.7%であった。(図IV-19-1)

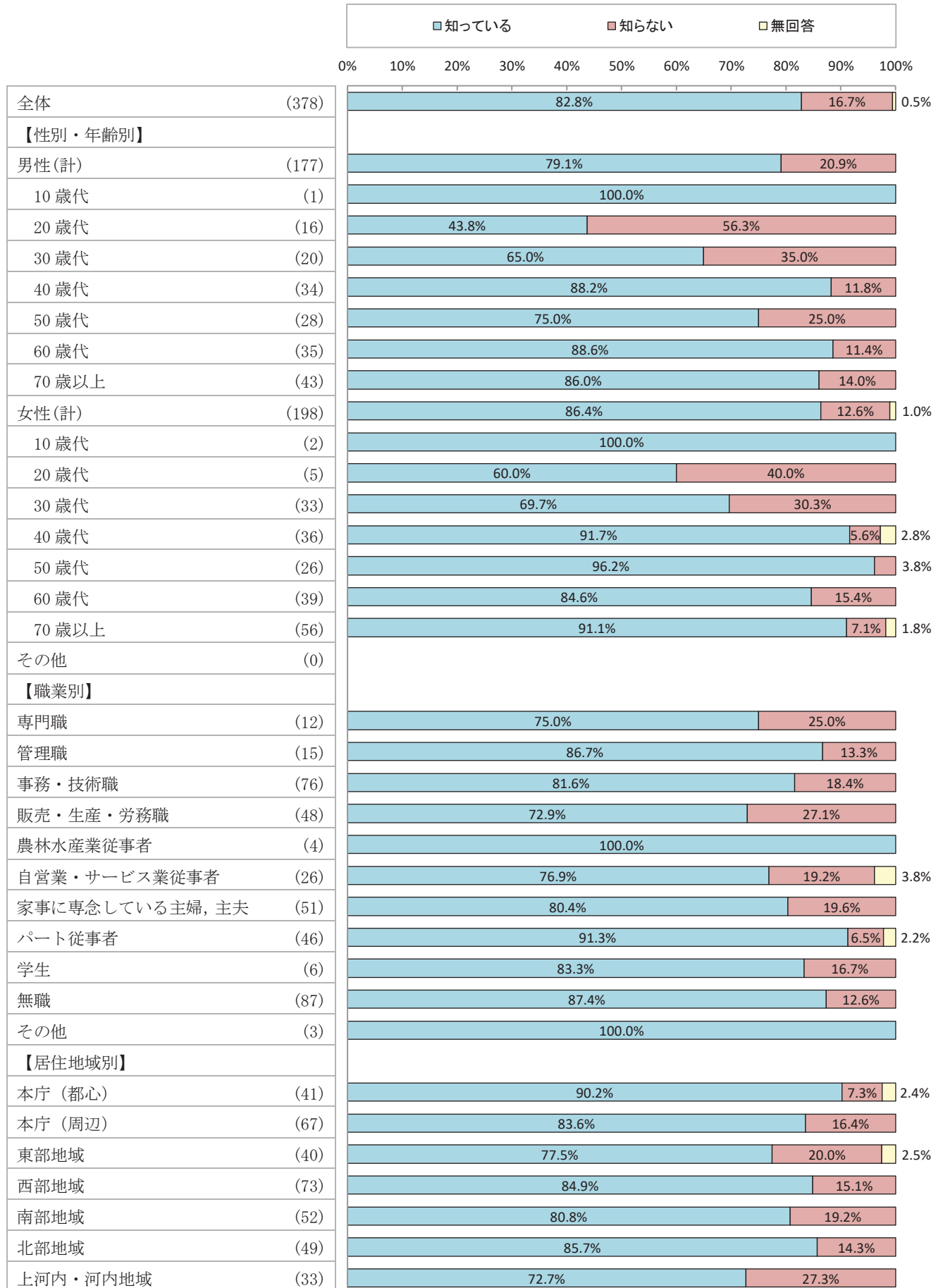
<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<男性/10歳代>、<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が96.2%と続いている。一方、「知らない」は<男性/20歳代>が56.3%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が40.0%と続いている。(図IV-19-2)

職業別で見ると、「知っている」は<その他>を除くと<農林水産業従事者>が100.0%で最も高く、次いで<パート従事者>が91.3%と続いている。一方、「知らない」は<販売・生産・労務職>が27.1%で最も高く、<専門職>が25.0%と続いている。(図IV-19-2)

居住地域別で見ると、「知っている」は<本庁(都心)>が90.2%で最も高く、次いで<北部地域>が85.7%と続いている。一方、「知らない」は<上河内・河内地域>が27.3%で最も高く、次いで<東部地域>が20.0%と続いている。(図IV-19-2)

<図IV-19-2>性別・年齢別／職業別／居住地域別

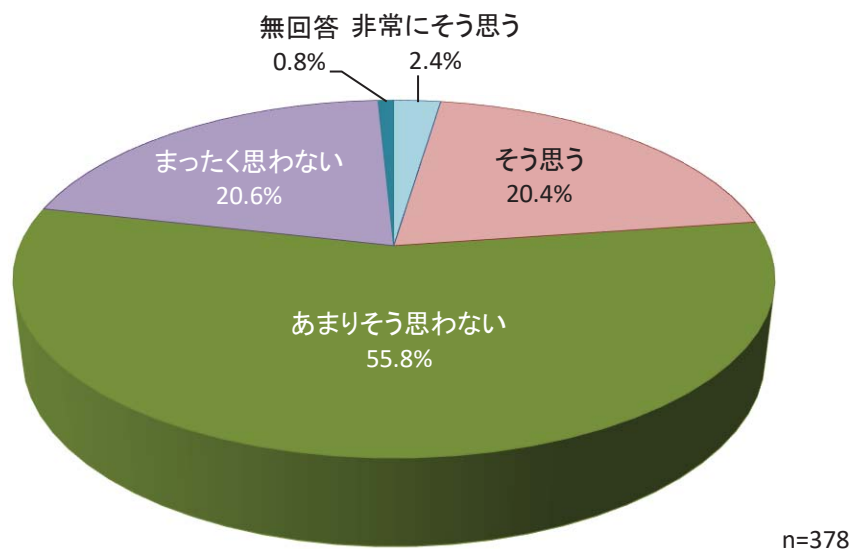


(2) とちぎ国体へボランティアとしての参加意向

◇ 「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う(計)】が2割強

問73	あなたは、ボランティア活動（花いっぱい運動・環境美化活動など）で、とちぎ国体に参加したいと思いますか。	(○は1つ)	n=378
1	非常にそう思う		2.4%
2	そう思う		20.4%
3	あまりそう思わない		55.8%
4	まったく思わない		20.6%
	(無回答)		0.8%

<図IV-19-3>全体



とちぎ国体へボランティアとしての参加意向については、「非常にそう思う」が2.4%、「そう思う」が20.4%で、これらを合わせた【そう思う(計)】が22.8%であった。一方、「あまりそう思わない」55.8%、「まったく思わない」20.6%で、これらを合わせた【思わない(計)】は76.4%であった。(図IV-19-3)

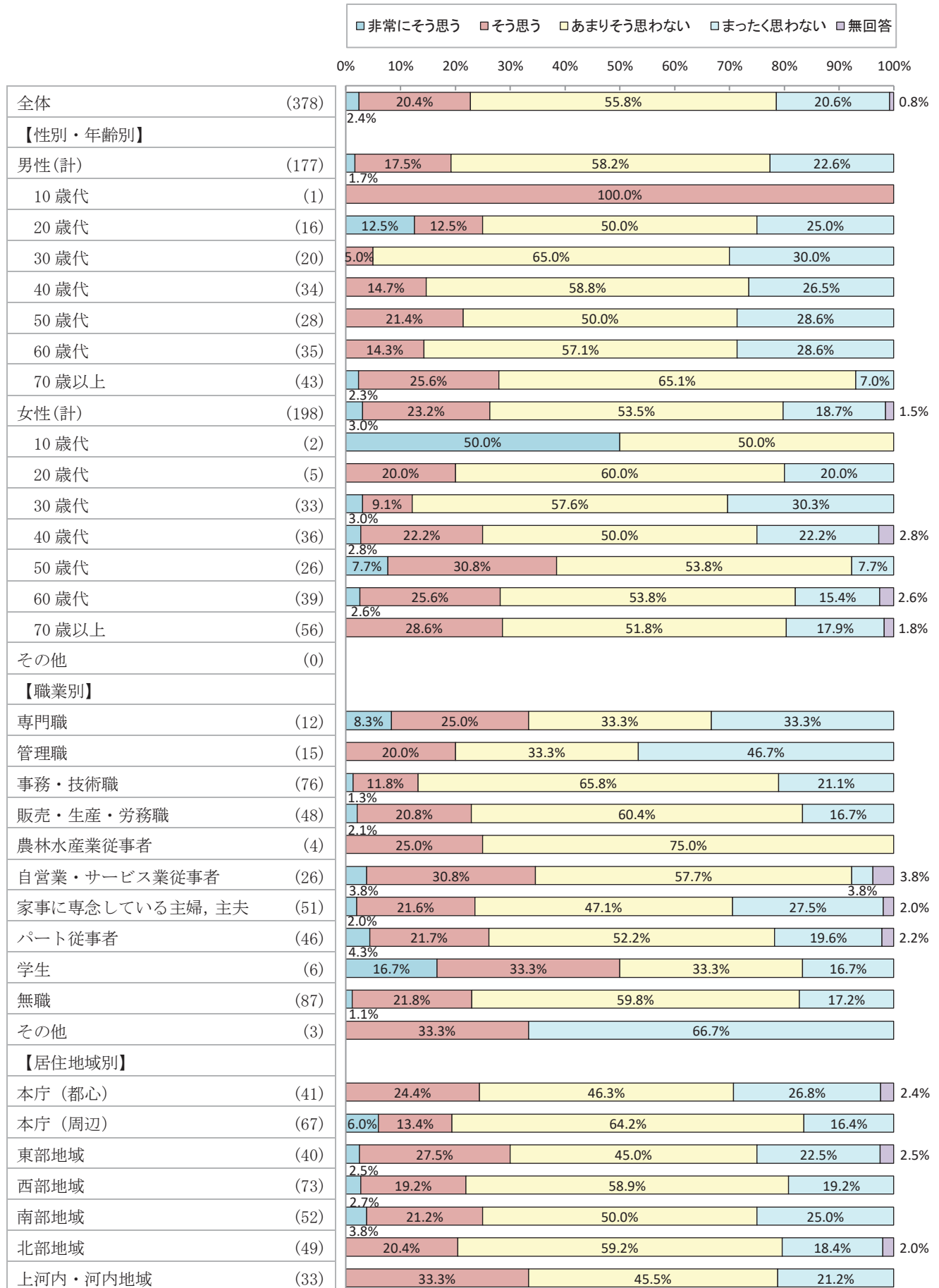
<参考>

性別・年齢別で見ると、【そう思う(計)】は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/10歳代>が50.0%と続いている。一方、【思わない(計)】は<男性/30歳代>が95.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が87.9%と続いている。(図IV-19-4)

職業別で見ると、【そう思う(計)】は<学生>が50.0%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が34.6%と続いている。一方、【思わない(計)】は<事務・技術職>が86.9%で最も高く、<管理職>が80.0%と続いている。(図IV-19-4)

居住地域別で見ると、【そう思う(計)】は<上河内・河内地域>が33.3%で最も高く、次いで<東部地域>が30.0%と続いている。一方、【思わない(計)】は<本庁(周辺)>が80.6%で最も高く、次いで<西部地域>が78.1%と続いている。(図IV-19-4)

<図IV-19-4>性別・年齢別／職業別／居住地域別

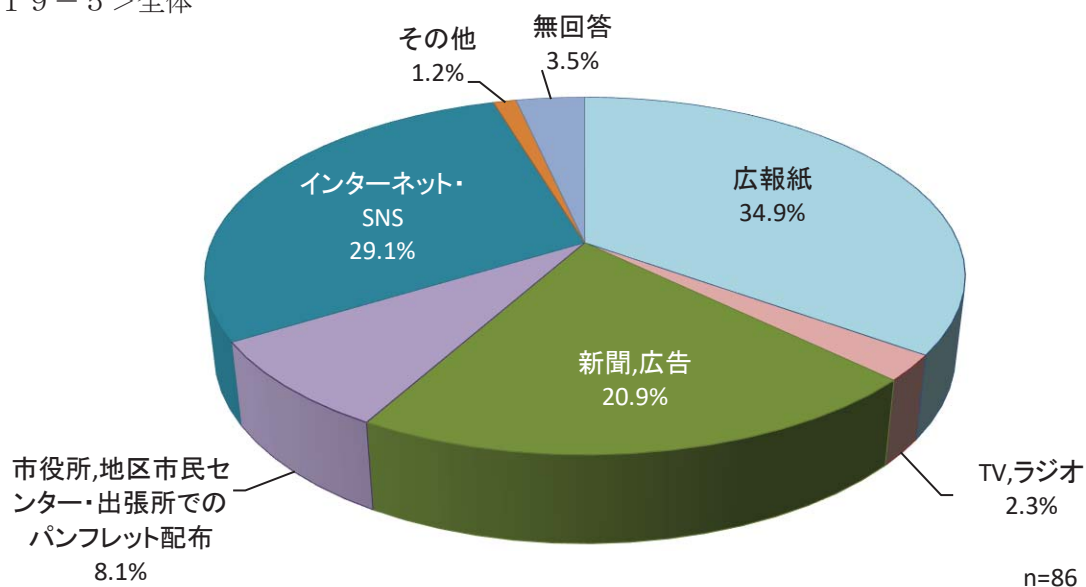


(3) ボランティア情報の入手方法

◇「広報紙」が3割半ば

問74	問73で「1 非常にそう思う」「2 そう思う」と答えた方にお聞きします。あなたがボランティア情報を得るには、どのような方法が情報を得やすいですか。	(○は1つ)
		n=86
1	広報紙	34.9%
2	TV,ラジオ	2.3%
3	新聞,広告	20.9%
4	市役所,地区市民センター・出張所でのパンフレット配布	8.1%
5	インターネット・SNS	29.1%
6	その他	1.2%
	(無回答)	3.5%

<図IV-19-5>全体



ボランティア情報の入手方法については、「広報紙」が34.9%で最も高く、次いで「インターネット・SNS」が29.1%、「新聞,広告」が20.9%であった。(図IV-19-5)

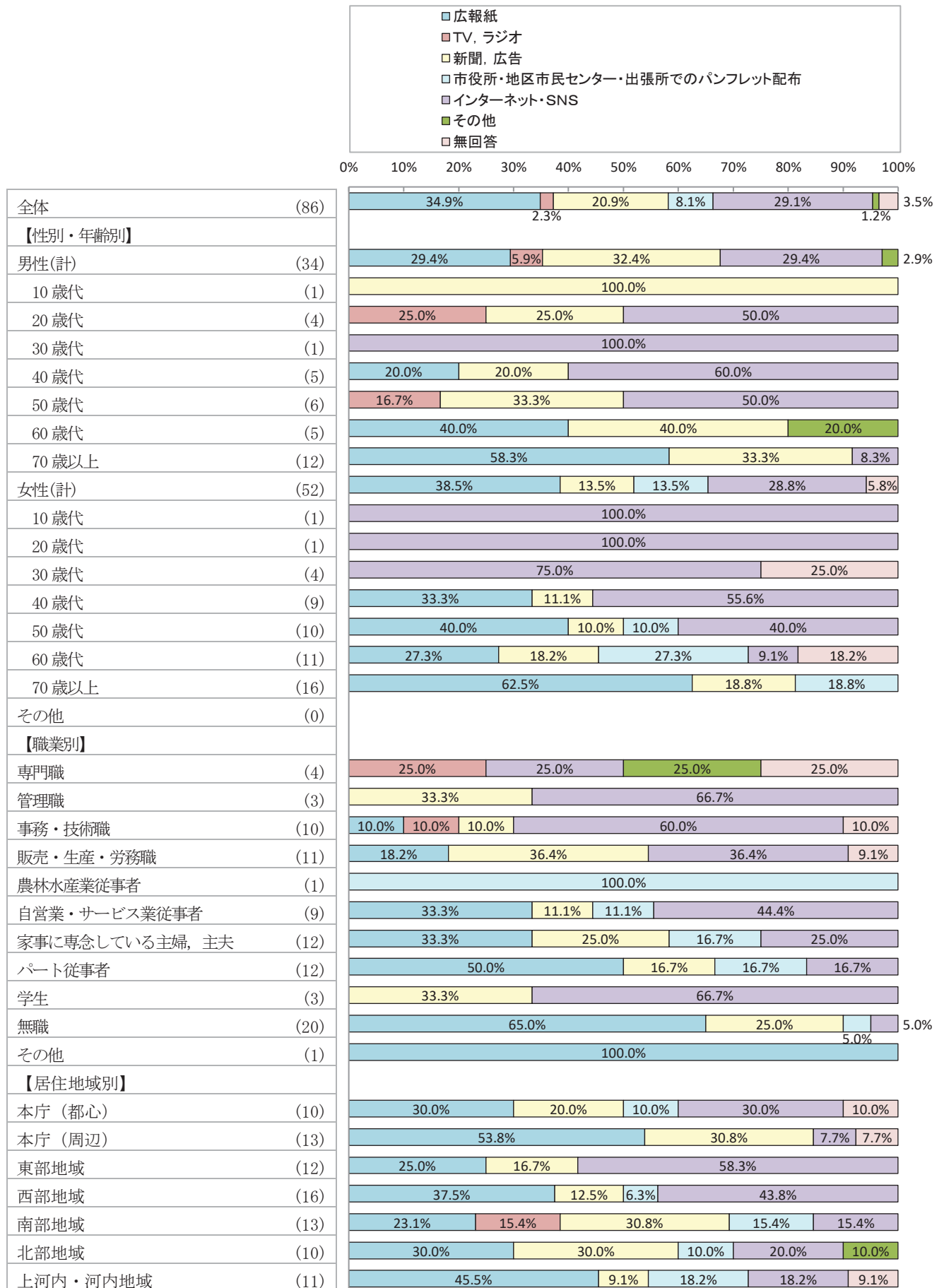
<参考>

性別・年齢別で見ると、「広報紙」は<女性/70歳以上>が62.5%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が58.3%と続いている。「インターネット・SNS」は<男性/30歳代>、<女性/10歳代>、<女性/20歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が75.0%と続いている。(図IV-19-6)

職業別で見ると、「広報紙」は<その他>を除くと<無職>が65.0%で最も高く、次いで<パート従事者>が50.0%と続いている。「インターネット・SNS」は<管理職>、<学生>がいずれも66.7%で最も高く、<事務・技術職>が60.0%と続いている。(図IV-19-6)

居住地域別で見ると、「広報紙」は<本庁(周辺)>が53.8%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が45.5%と続いている。「インターネット・SNS」は<東部地域>が58.3%で最も高く、次いで<西部地域>が43.8%と続いている。(図IV-19-6)

<図IV-19-6>性別・年齢別／職業別／居住地域別

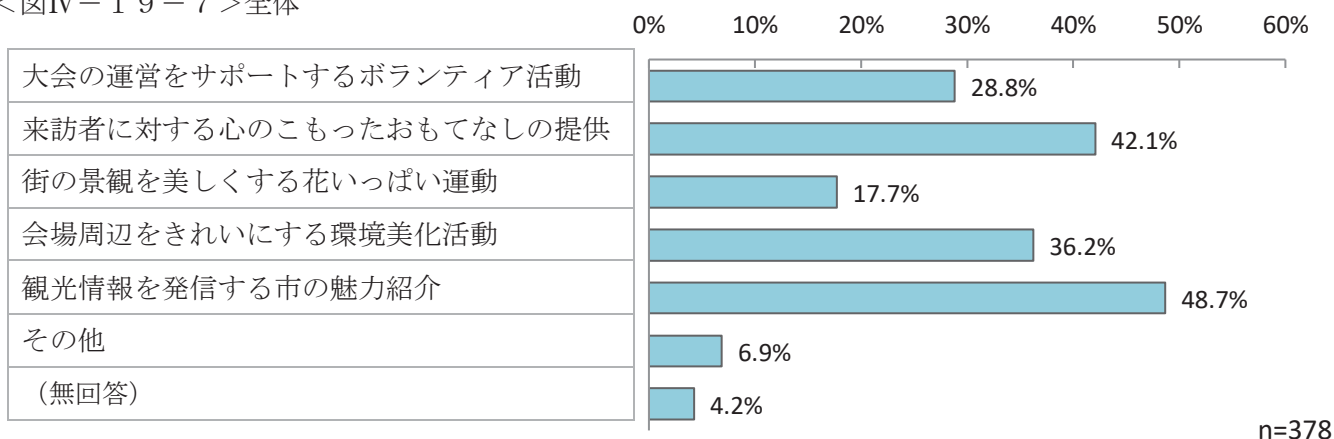


(4) 国体を盛り上げるために重要だと思うこと

◇ 「観光情報を発信する市の魅力紹介」が約5割

問75	あなたは、多くの大会参加者・観覧者が来訪する国体を盛り上げるために、何が重要だと思いますか。 (〇はいくつでも)	n=378
1	大会の運営をサポートするボランティア活動	28.8%
2	来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供	42.1%
3	街の景観を美しくする花いっぱい運動	17.7%
4	会場周辺をきれいにする環境美化活動	36.2%
5	観光情報を発信する市の魅力紹介	48.7%
6	その他	6.9%
	(無回答)	4.2%

<図IV-19-7>全体



国体を盛り上げるために重要だと思うことについては、「観光情報を発信する市の魅力紹介」が48.7%で最も高く、次いで「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」が42.1%と続いている。(図IV-19-7)

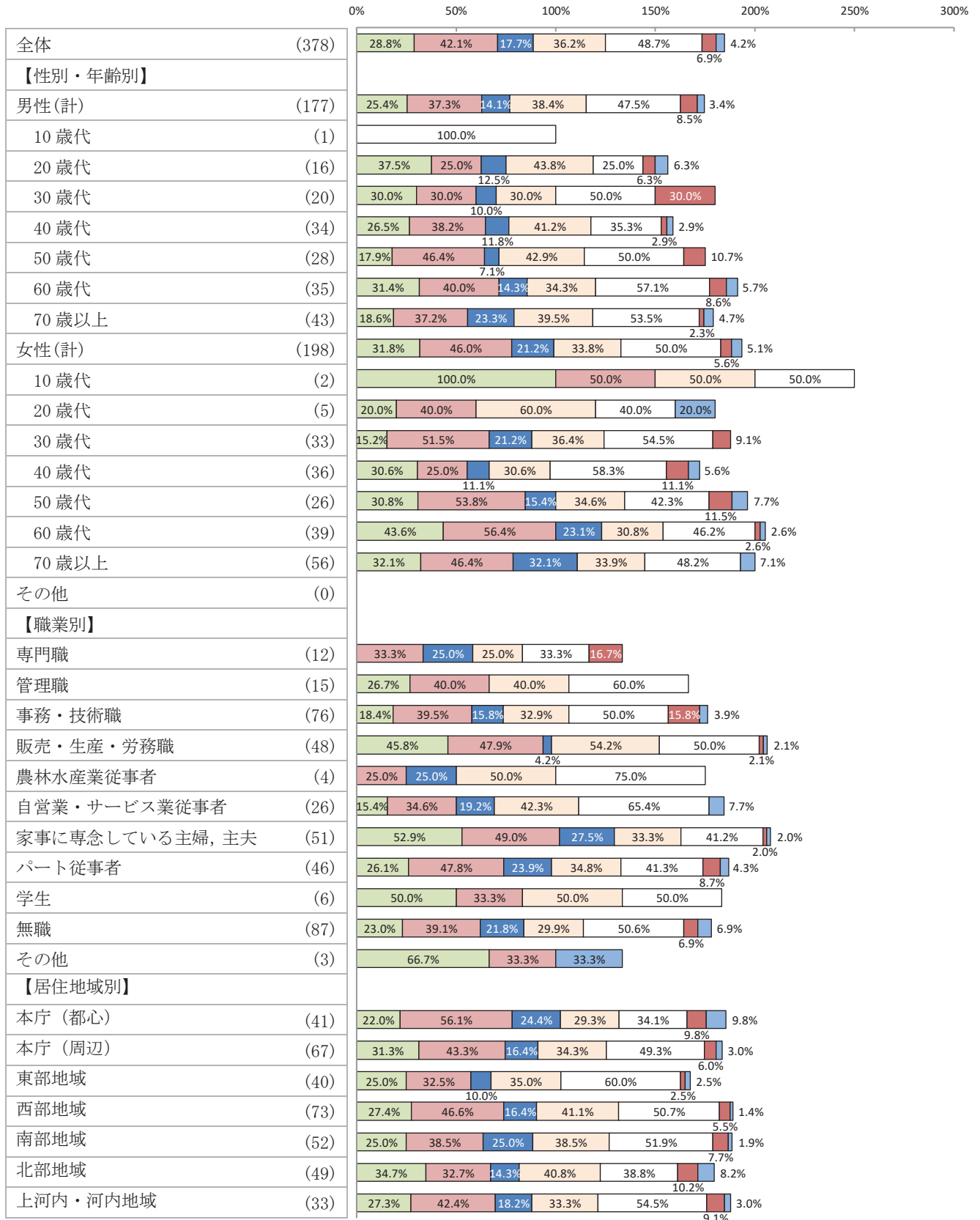
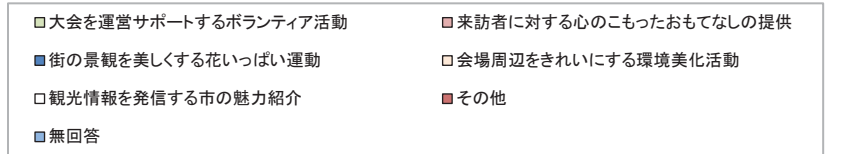
<参考>

性別・年齢別で見ると、「観光情報を発信する市の魅力紹介」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が58.3%と続いている。「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」は<女性/60歳代>が56.4%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が53.8%と続いている。(図IV-19-8)

職業別で見ると、「観光情報を発信する市の魅力紹介」は<農林水産業従事者>が75.0%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が65.4%と続いている。「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」は<家事に専念している主婦、主夫>が49.0%で最も高く、<販売・生産・労務職>が47.9%と続いている。(図IV-19-8)

居住地域別で見ると、「観光情報を発信する市の魅力紹介」は<東部地域>が60.0%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が54.5%と続いている。「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」は<本庁(都心)>が56.1%で最も高く、次いで<西部地域>が46.6%と続いている。(図IV-19-8)

<図IV-19-8>性別・年齢別／職業別／居住地域別



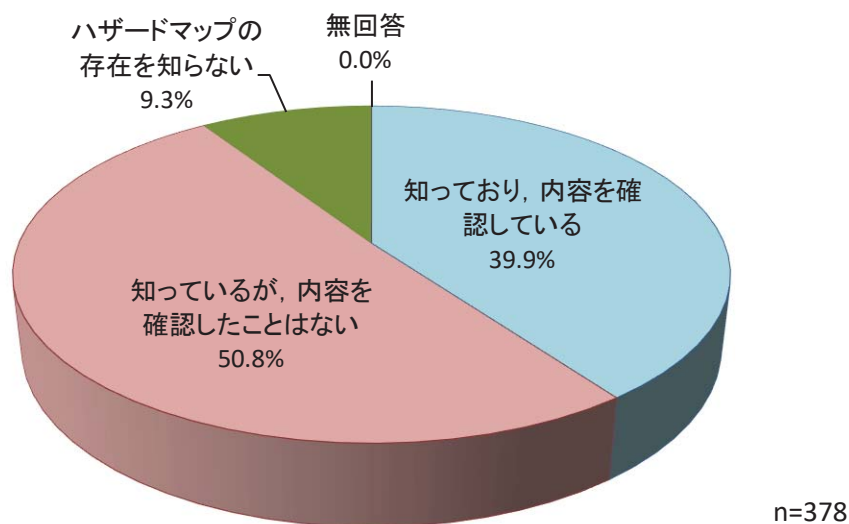
20. 水災害（洪水など）への備えについて

(1) 「ハザードマップ」の存在の認知度

◇ 「知っているが、内容を確認したことはない」が約5割

問76	あなたは、「ハザードマップ」の存在を知っていますか。	(○は1つ)
		n=378
1	知っており、内容を確認している	39.9%
2	知っているが、内容を確認したことはない	50.8%
3	ハザードマップの存在を知らない	9.3%
	(無回答)	0.0%

<図IV-20-1>全体

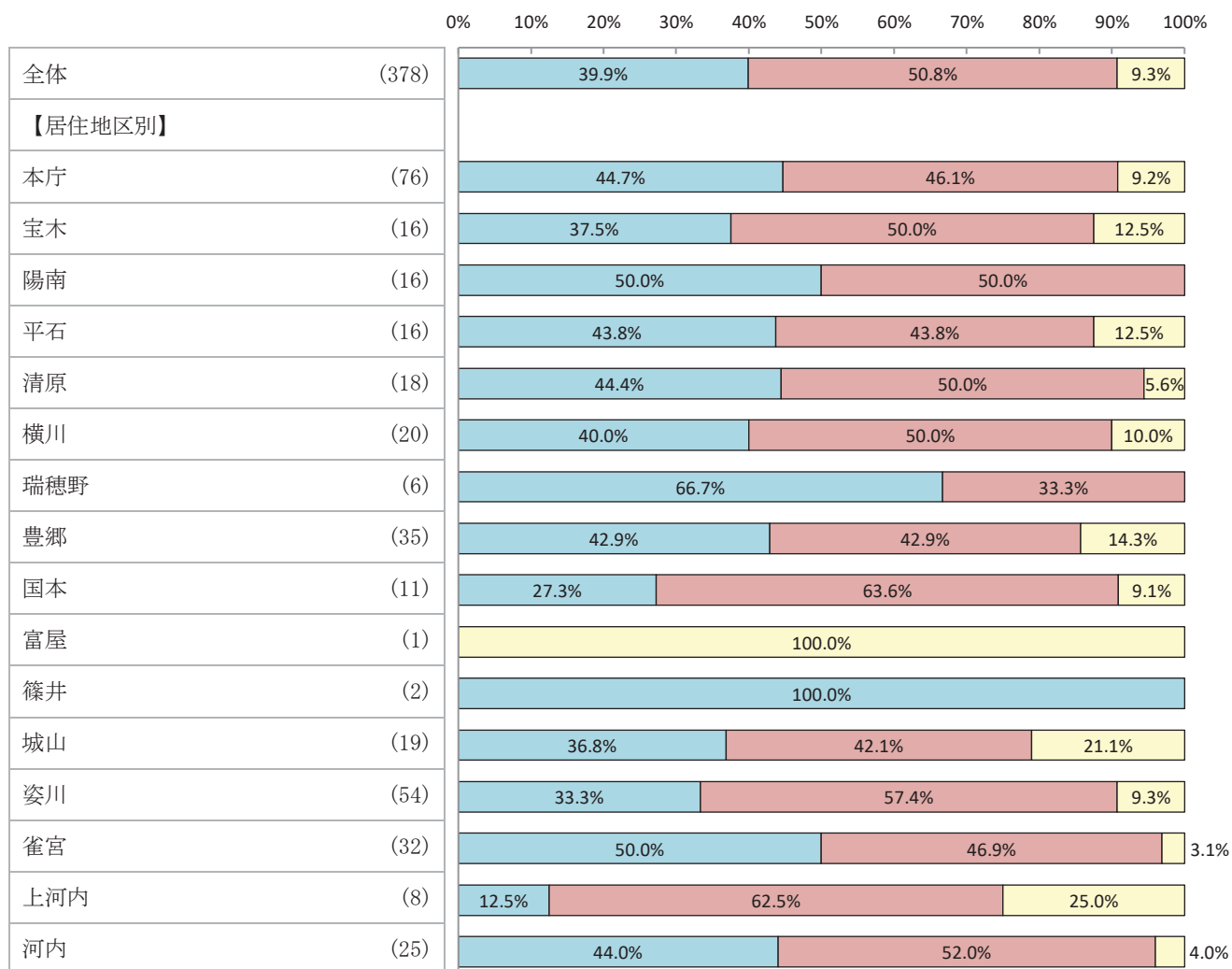
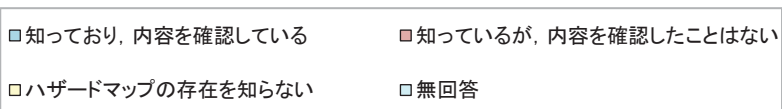


「ハザードマップ」の存在の認知度については、「知っているが、内容を確認したことはない」が50.8%で最も高く、次いで「知っており、内容を確認している」が39.9%、「ハザードマップの存在を知らない」が9.3%であった。(図IV-20-1)

<参考>

居住地区別で見ると、「知っており、内容を確認している」は<篠井>が100.0%で最も高く、次いで<瑞穂野>が66.7%と続いている。一方、「ハザードマップの存在を知らない」は<富屋>が100.0%で最も高く、次いで<上河内>が25.0%と続いている。(図IV-20-2)

<図Ⅳ－２０－２>居住地区別

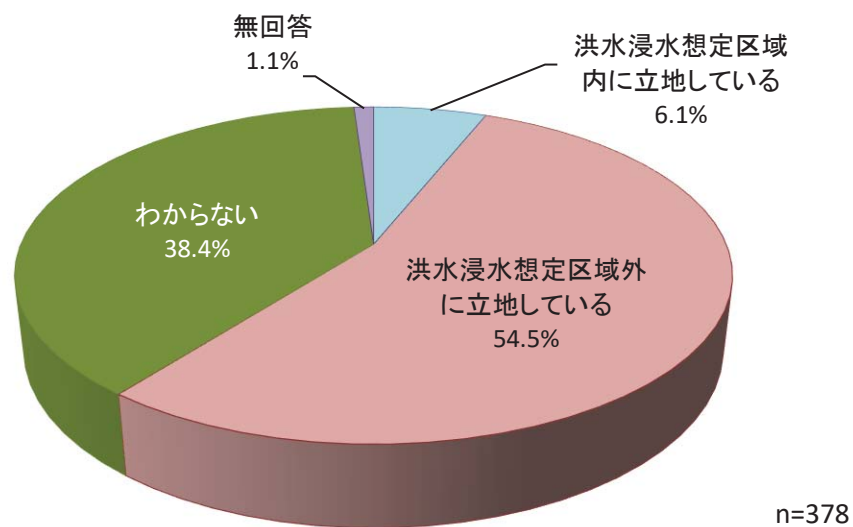


(2) 住んでいる建物（住宅）は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外か

◇ 「洪水浸水想定区域外に立地している」が5割半ば

問77	あなたの住んでいる建物（住宅）は、「ハザードマップ」で示す洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外のどちらに立地していますか。	(○は1つ)
		n=378
1	洪水浸水想定区域内に立地している	6.1%
2	洪水浸水想定区域外に立地している	54.5%
3	わからない	38.4%
	(無回答)	1.1%

<図IV-20-3>全体

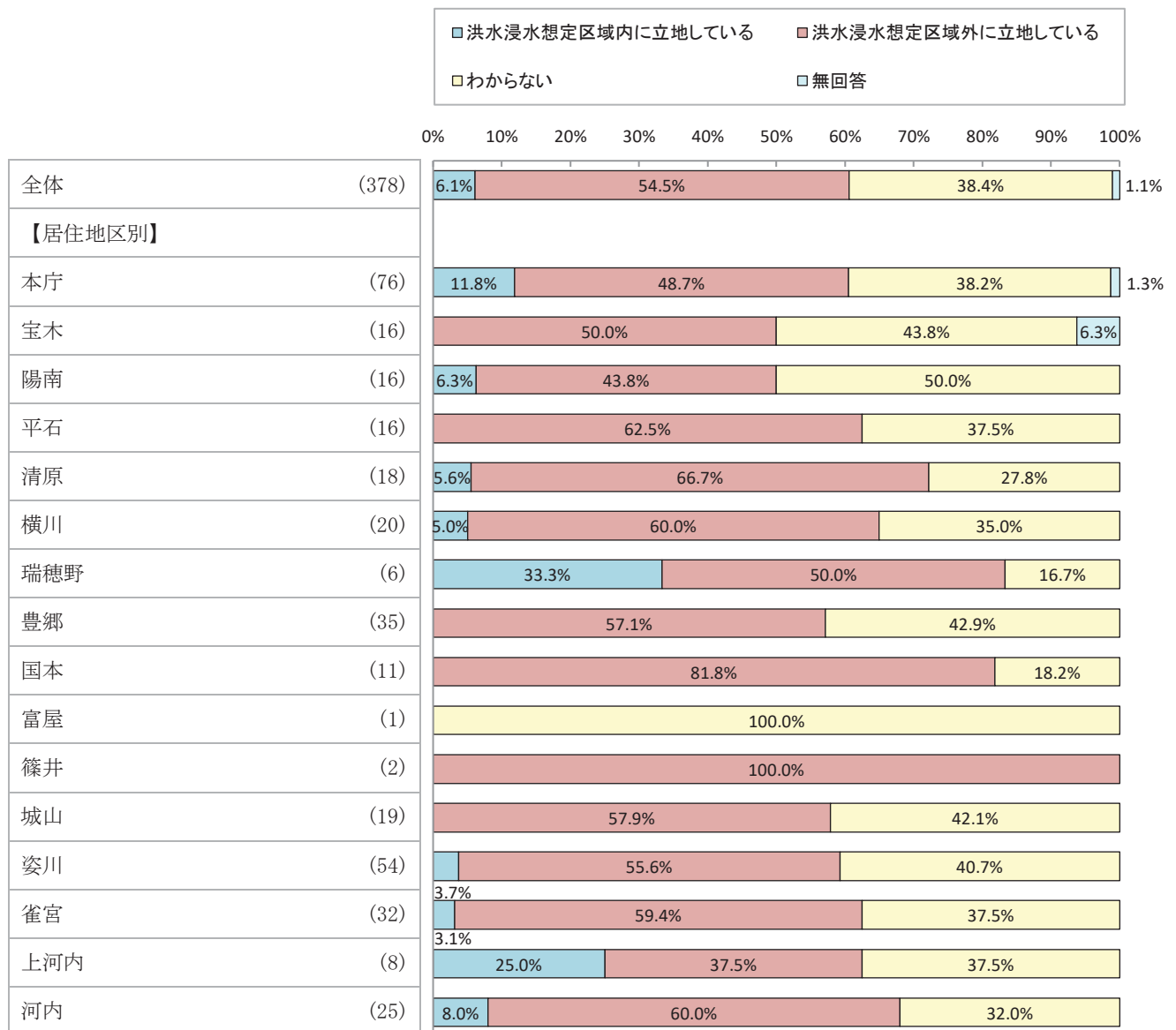


住んでいる建物（住宅）は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外かについては、「洪水浸水想定区域外に立地している」が54.5%で最も高く、次いで「わからない」が38.4%、「洪水浸水想定区域内に立地している」が6.1%であった。(図IV-20-3)

<参考>

居住地区別で見ると、「洪水浸水想定区域外に立地している」は<篠井>が100.0%で最も高く、次いで<国本>が81.8%と続いている。一方、「わからない」は<富屋>が100.0%で最も高く、次いで<陽南>が50.0%と続いている。(図IV-20-4)

<図Ⅳ－２０－４>居住地区別

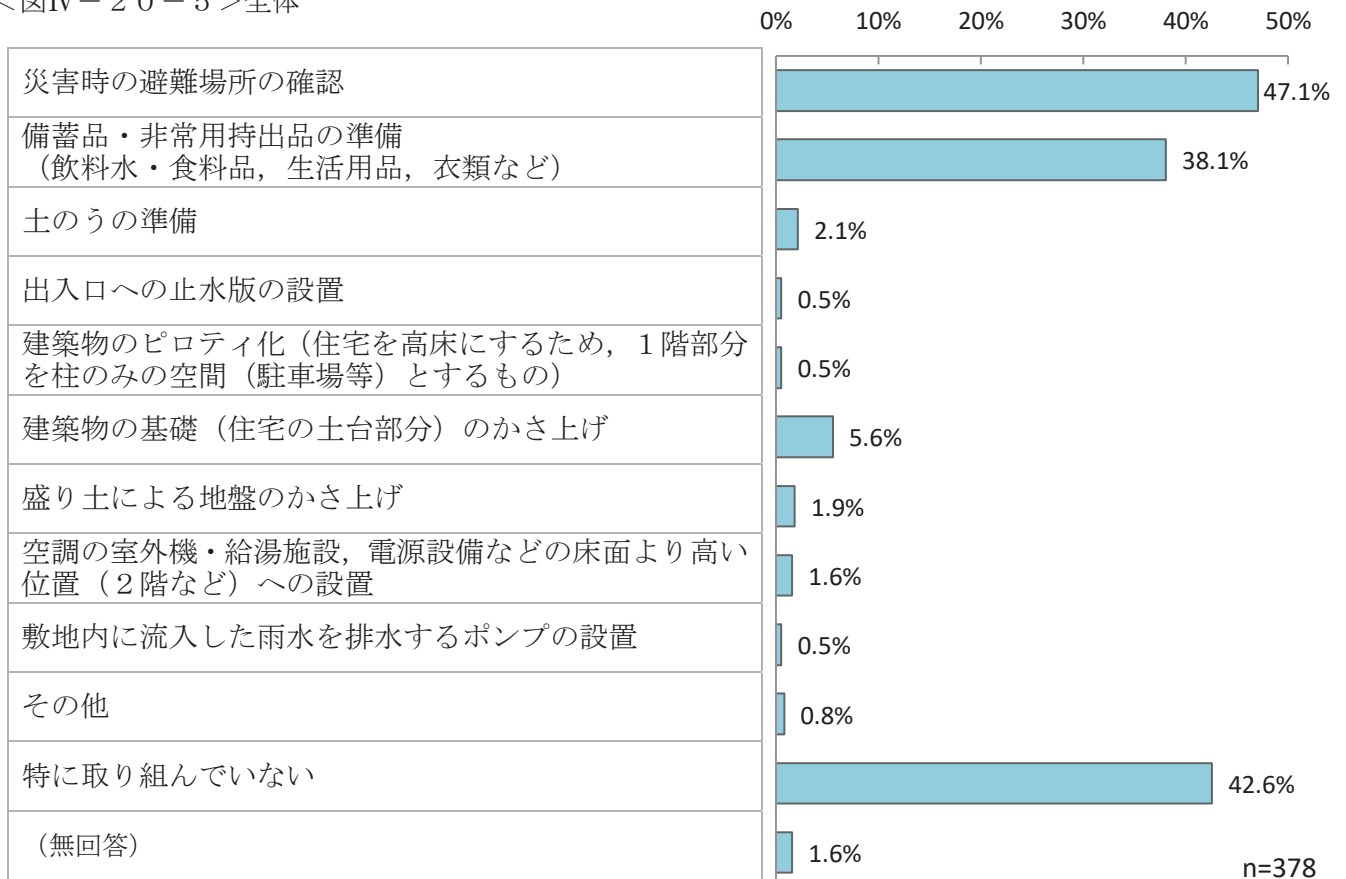


(3) 水災害への備えに取り組んでいるか

◇ 「災害時の避難場所の確認」が5割弱

問78	あなたは、水災害（洪水などに対し、あらかじめ備えるため、以下の水災害への備えに取り組んでいますか。該当するものを全て選んでください。	(○はいくつでも)	n=378
1	災害時の避難場所の確認		47.1%
2	備蓄品・非常用持出品の準備 (飲料水・食料品, 生活用品, 衣類など)		38.1%
3	土のうの準備		2.1%
4	出入口への止水版の設置		0.5%
5	建築物のピロティ化（住宅を高床にするため、1階部分を柱のみの空間 (駐車場等) とするもの)		0.5%
6	建築物の基礎（住宅の土台部分）のかさ上げ		5.6%
7	盛り土による地盤のかさ上げ		1.9%
8	空調の室外機・給湯施設, 電源設備などの床面より高い位置（2階など） への設置		1.6%
9	敷地内に流入した雨水を排水するポンプの設置		0.5%
10	その他		0.8%
11	特に取り組んでいない		42.6%
	(無回答)		1.6%

<図IV-20-5>全体



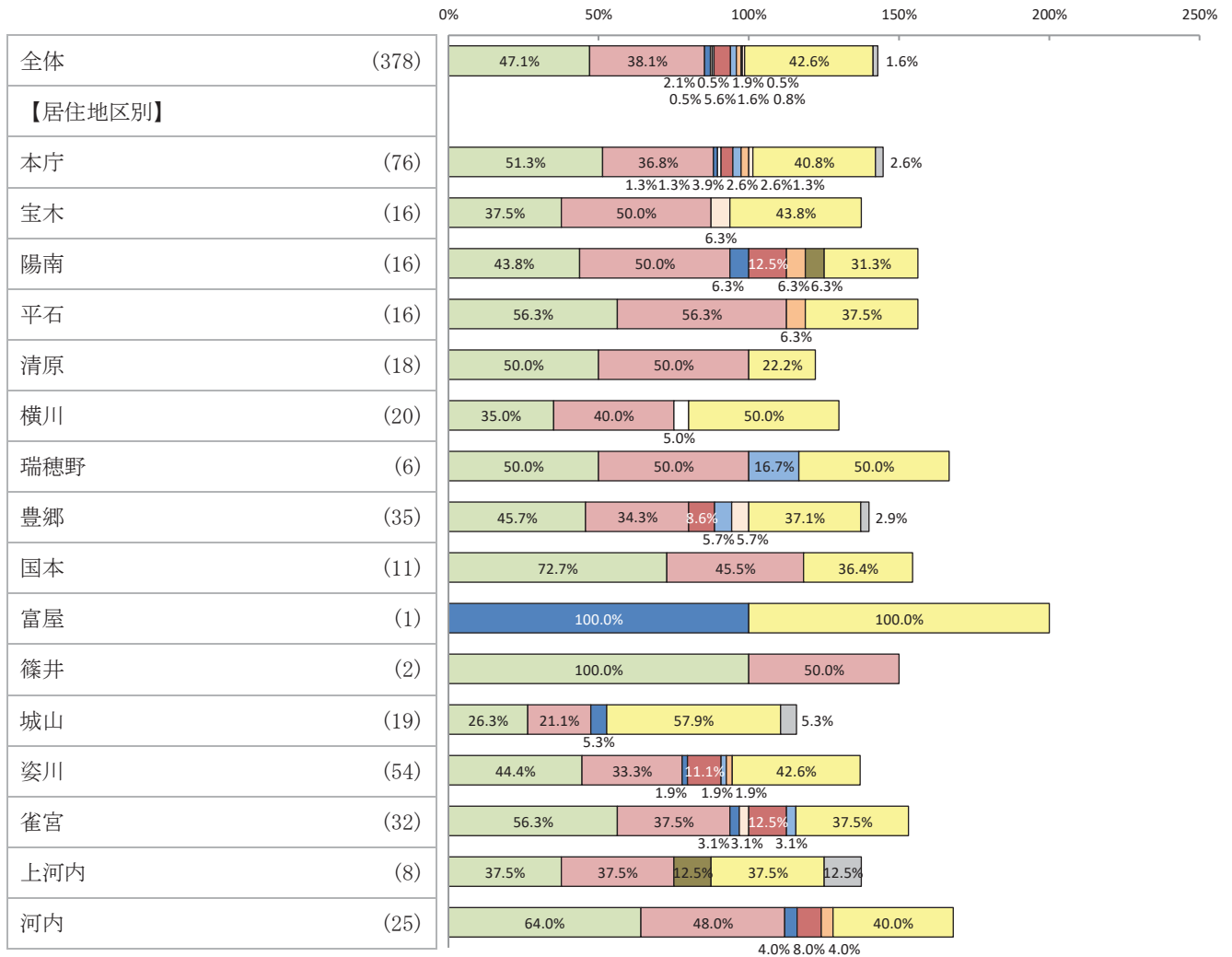
水災害への備えに取り組んでいるかについては、「災害時の避難場所の確認」が47.1%で最も高く、次いで「特に取り組んでいない」が42.6%、「備蓄品・非常用持出品の準備 (飲料水・食料品, 生活用品, 衣類など)」が38.1%と続いている。(図IV-20-5)

<参考>

居住地区別で見ると、「災害時の避難場所の確認」は<篠井>が100.0%で最も高く、次いで<国本>が72.7%と続いている。一方、「特に取り組んでいない」は<富屋>が100.0%で最も高く、次いで<城山>が57.9%と続いている。(図IV-20-6)

<図IV-20-6>居住地区別

- 災害時の避難場所の確認
- 備蓄品・非常用持出品の準備(飲料水・食料品, 生活用品, 衣類など)
- 土のうの準備
- 出入口への止水版の設置
- 建築物のピロティ化(住宅を高床にするため, 1階部分を柱のみの空間(駐車場等)とするもの)
- 建築物の基礎(住宅の土台部分)のかさ上げ
- 盛り土による地盤のかさ上げ
- 空調の室外機・給湯施設, 電源設備などの床面より高い位置(2階など)への設置
- 敷地内に流入した雨水を排水するポンプの設置
- その他
- 特に取り組んでいない
- 無回答



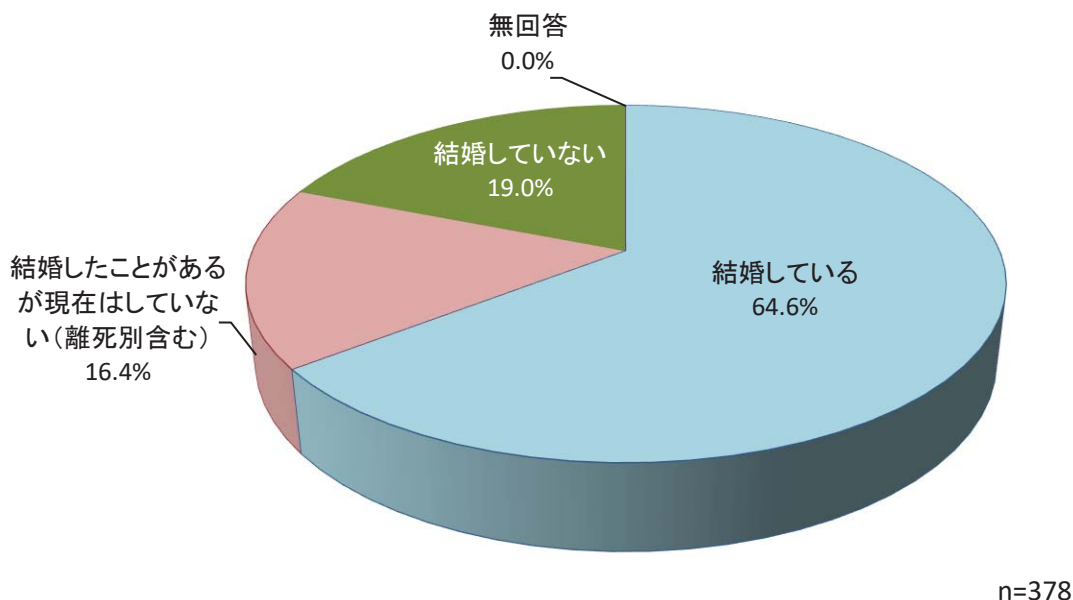
2 1. 結婚・出産・子育てに関する意識について

(1) 結婚しているか

◇ 「結婚している」が6割半ば

問 7 9	あなたは結婚していますか。	(○は1つ)
		n=378
1	結婚している	64.6%
2	結婚したことがあるが現在はしていない(離死別含む)	16.4%
3	結婚していない	19.0%
	(無回答)	0.0%

<図IV-2 1-1>全体



結婚しているかについては、「結婚している」が64.6%となっており、「結婚していない」が19.0%、「結婚したことがあるが現在はしていない(離死別含む)」が16.4%であった。(図IV-2 1-1)

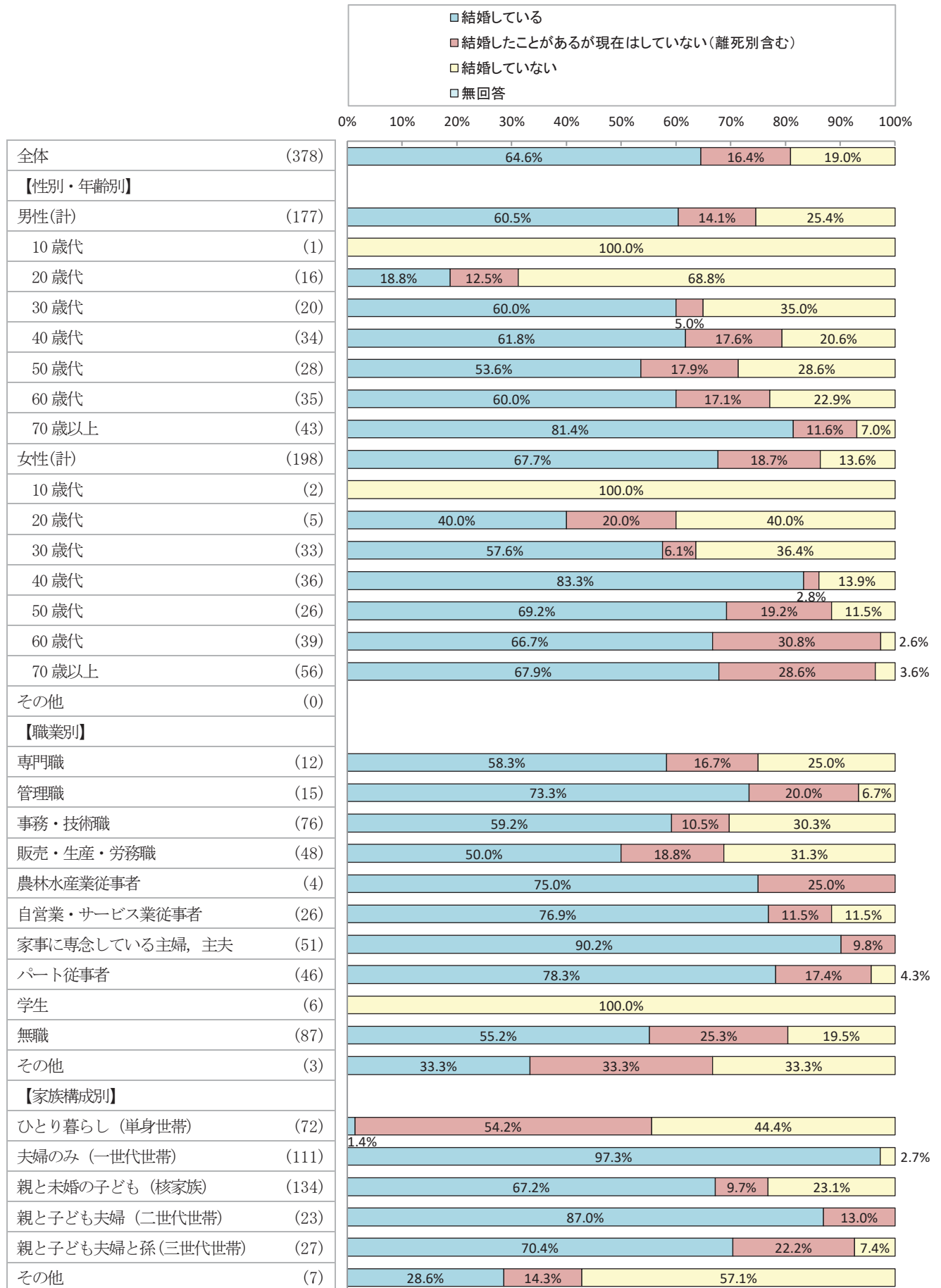
<参考>

性別・年齢別で見ると、「結婚している」は<女性/40歳代>が83.3%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が81.4%と続いている。一方、「結婚していない」は<男性/10歳代>、<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が68.8%と続いている。(図IV-2 1-2)

職業別で見ると、「結婚している」は<家事に専念している主婦、主夫>が90.2%で最も高く、次いで<パート従事者>が78.3%と続いている。一方、「結婚していない」は<学生>が100.0%で最も高く、<その他>を除くと<販売・生産・労務職>が31.3%と続いている。(図IV-2 1-2)

家族構成別で見ると、「結婚している」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が97.3%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が87.0%と続いている。一方、「結婚していない」は<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が44.4%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が23.1%と続いている。(図IV-2 1-2)

<図IV-21-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

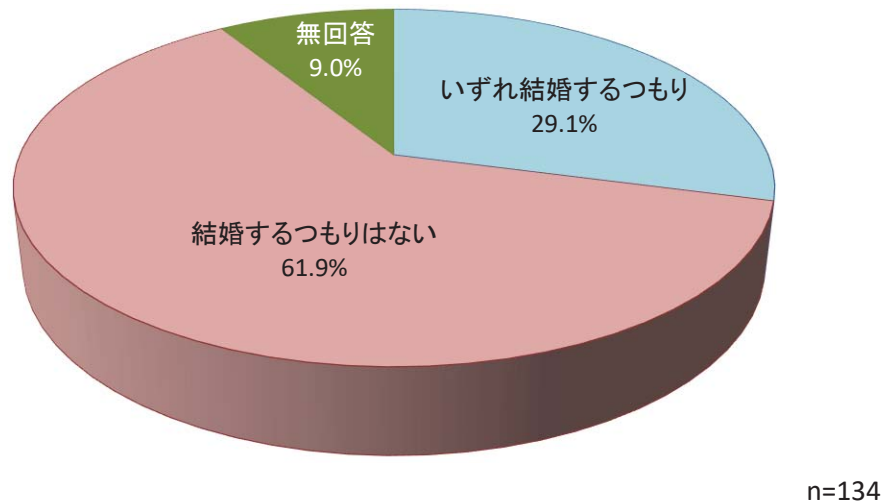


(2) 結婚するつもりがあるか

◇ 「結婚するつもりはない」が6割強

問80	問79で「2 結婚したことがあるが現在はしていない(離死別含む)」「3 結婚していない」と答えた方にお伺いします。あなたの結婚に対する考えは、次のうちどちらですか。(〇は1つ)	n=134
1	いずれ結婚するつもり	29.1%
2	結婚するつもりはない (無回答)	61.9% 9.0%

<図IV-21-3>全体



結婚するつもりがあるかについては、「いずれ結婚するつもり」が 29.1%、「結婚するつもりはない」が 61.9%であった。(図IV-21-3)

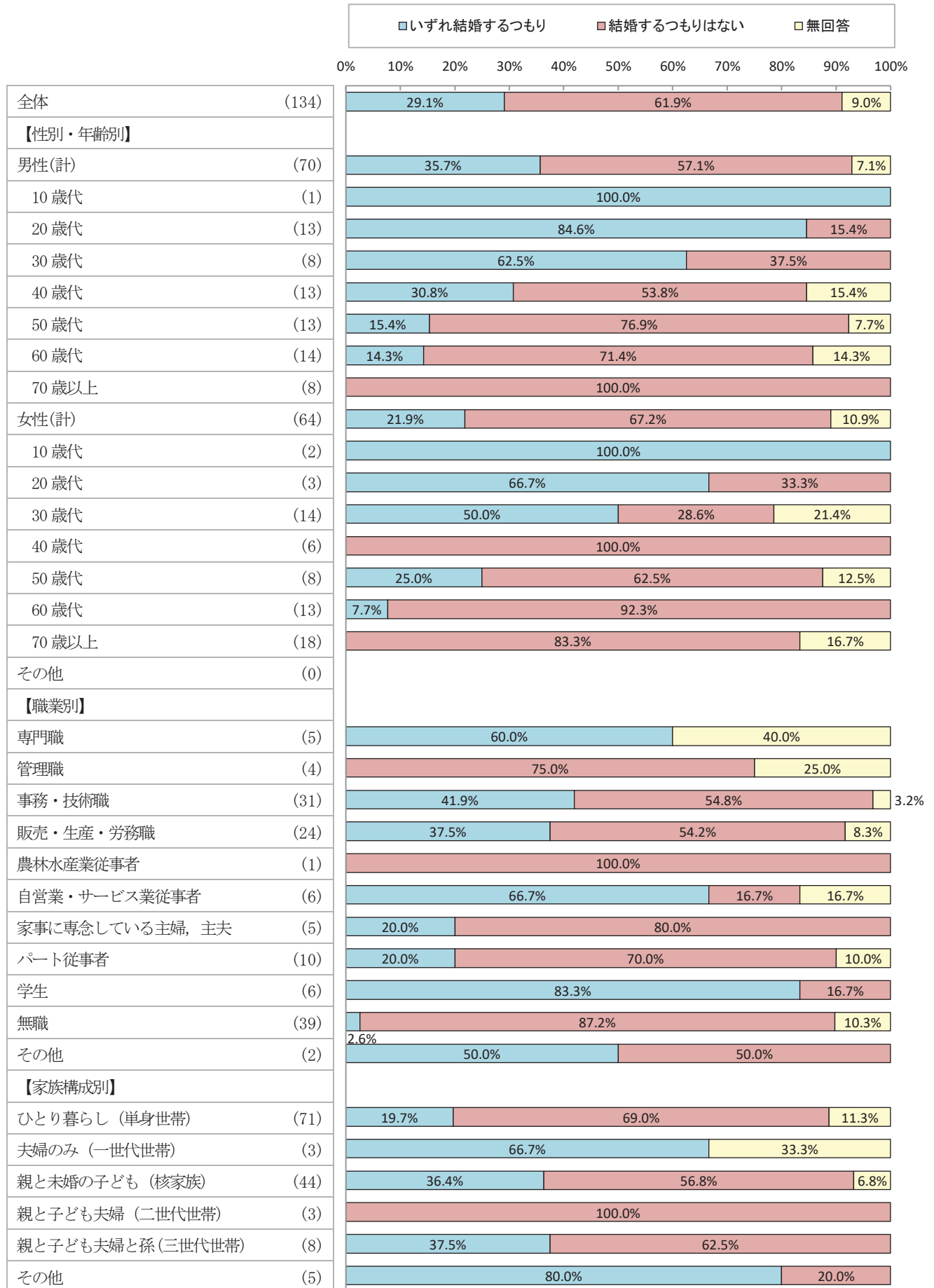
<参考>

性別・年齢別で見ると、「いずれ結婚するつもり」は<男性/10歳代>、<女性/10歳代>がいずれも 100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が 84.6%と続いている。一方、「結婚するつもりはない」は<男性/70歳以上>、<女性/40歳代>がいずれも 100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が 92.3%と続いている。(図IV-21-4)

職業別で見ると、「いずれ結婚するつもり」は<学生>が 83.3%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が 66.7%と続いている。一方、「結婚するつもりはない」は<農林水産業従事者>が 100.0%で最も高く、<無職>が 87.2%と続いている。(図IV-21-4)

家族構成別で見ると、「いずれ結婚するつもり」は<その他>を除くと<夫婦のみ(一世代世帯)>が 66.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が 37.5%と続いている。一方、「結婚するつもりはない」は<親と子ども夫婦(二世代世帯)>が 100.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が 69.0%と続いている。(図IV-21-4)

<図IV-21-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別

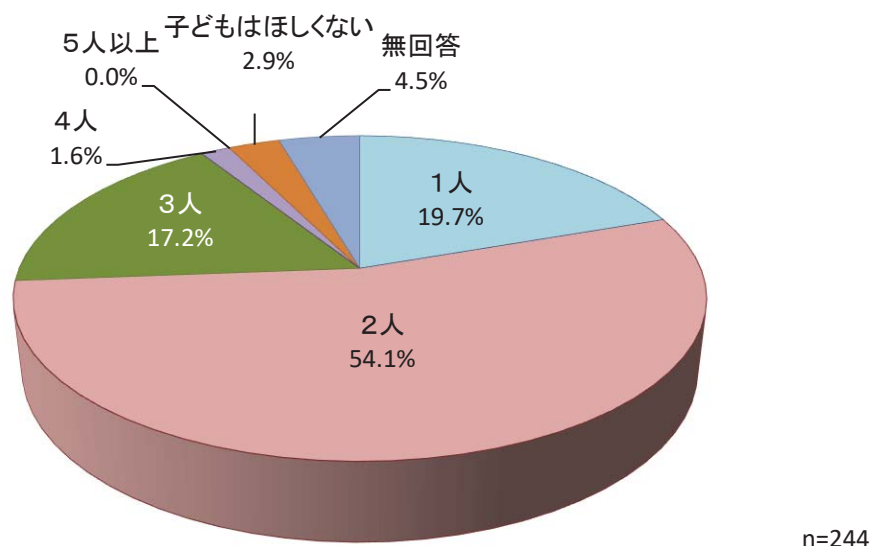


(3) 結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいか

◇ 「2人」が5割半ば

問 8 1	問 7 9で「1 結婚している」と答えた方にお伺いします。「これまでに生んだお子さん」と「今後のお子さんの予定」の数を合わせて、全部で何人のお子さんを持つおつもりですか。(○は1つ)	n=244
1	1人	19.7%
2	2人	54.1%
3	3人	17.2%
4	4人	1.6%
5	5人以上	0.0%
6	子どもはほしくない	2.9%
	(無回答)	4.5%

<図IV-21-5>全体



結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいかについては、「2人」が54.1%と最も多く、次いで「1人」が19.7%、「3人」が17.2%と続いている。(図IV-21-5)

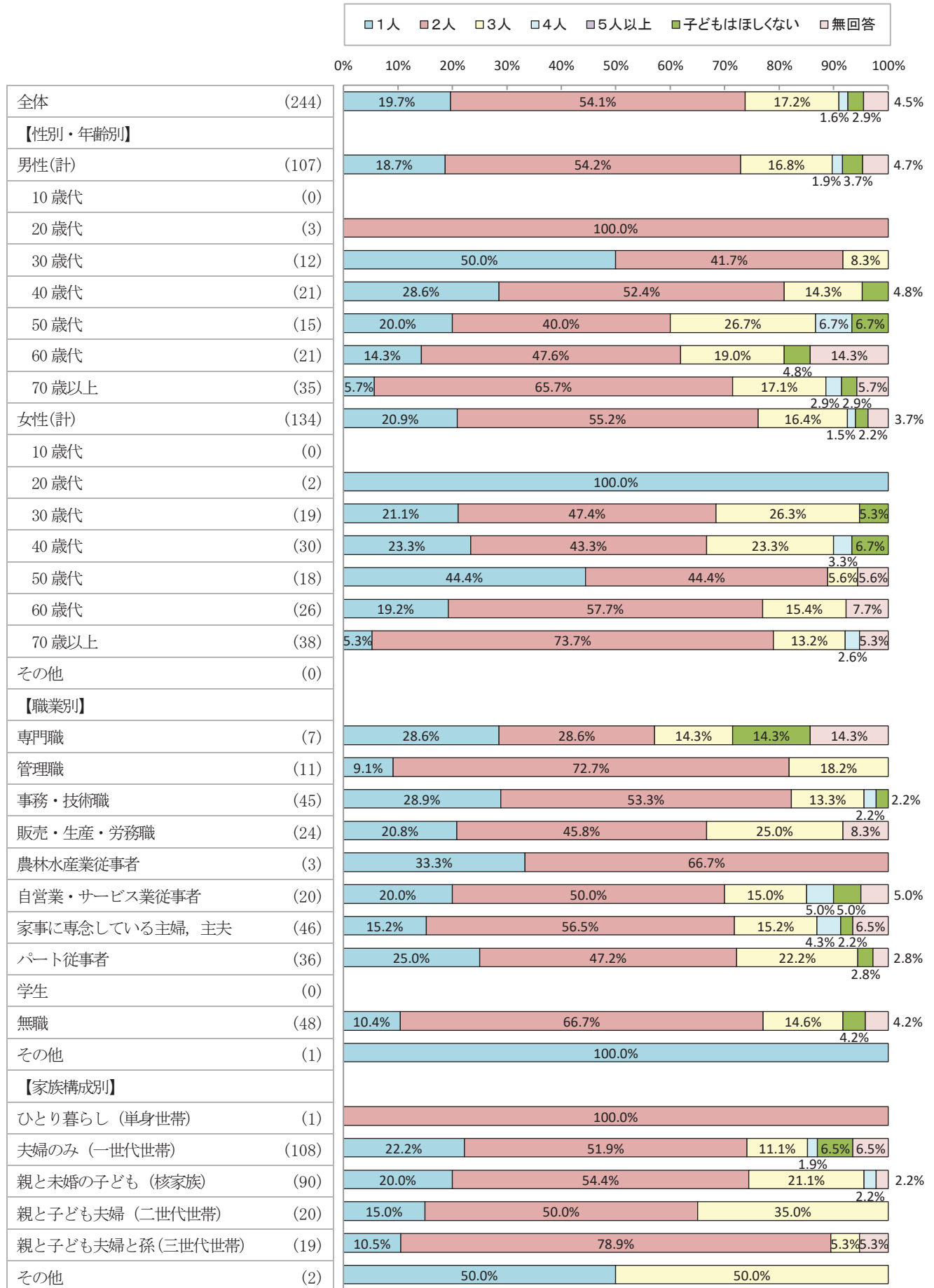
<参考>

性別・年齢別で見ると、「2人」は<男性/20歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が73.7%と続いている。「1人」は<女性/20歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が50.0%と続いている。(図IV-21-6)

職業別で見ると、「2人」は<管理職>が72.7%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>が66.7%と続いている。一方、「1人」は<農林水産業従事者>が33.3%で最も高く、<事務・技術職>が28.9%と続いている。(図IV-21-6)

家族構成別で見ると、「2人」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が100.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が78.9%と続いている。「1人」は<その他>を除くと<夫婦のみ(一世帯世帯)>が22.2%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が20.0%と続いている。(図IV-21-6)

<図IV-21-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別

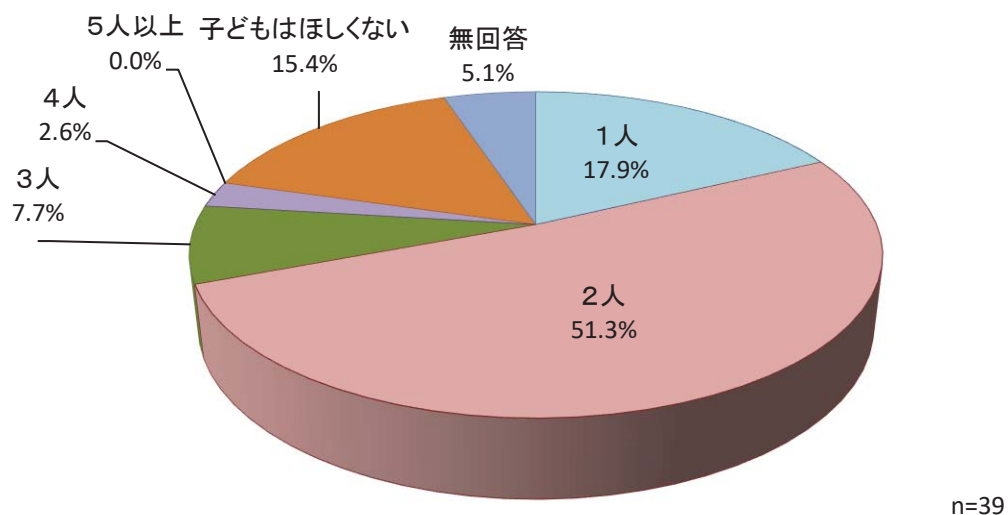


(4) 結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか

◇ 「2人」が約5割

問82	問80で「1 いずれ結婚するつもり」と答えた方にお伺いします。子どもは何人ほしいですか。 (○は1つ)	n=39
1	1人	17.9%
2	2人	51.3%
3	3人	7.7%
4	4人	2.6%
5	5人以上	0.0%
6	子どもはほしくない (無回答)	15.4% 5.1%

<図IV-21-7>全体



結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいかについては、「2人」が51.3%と最も高く、次いで「1人」が17.9%、「子どもはほしくない」が15.4%と続いている。(図IV-21-7)

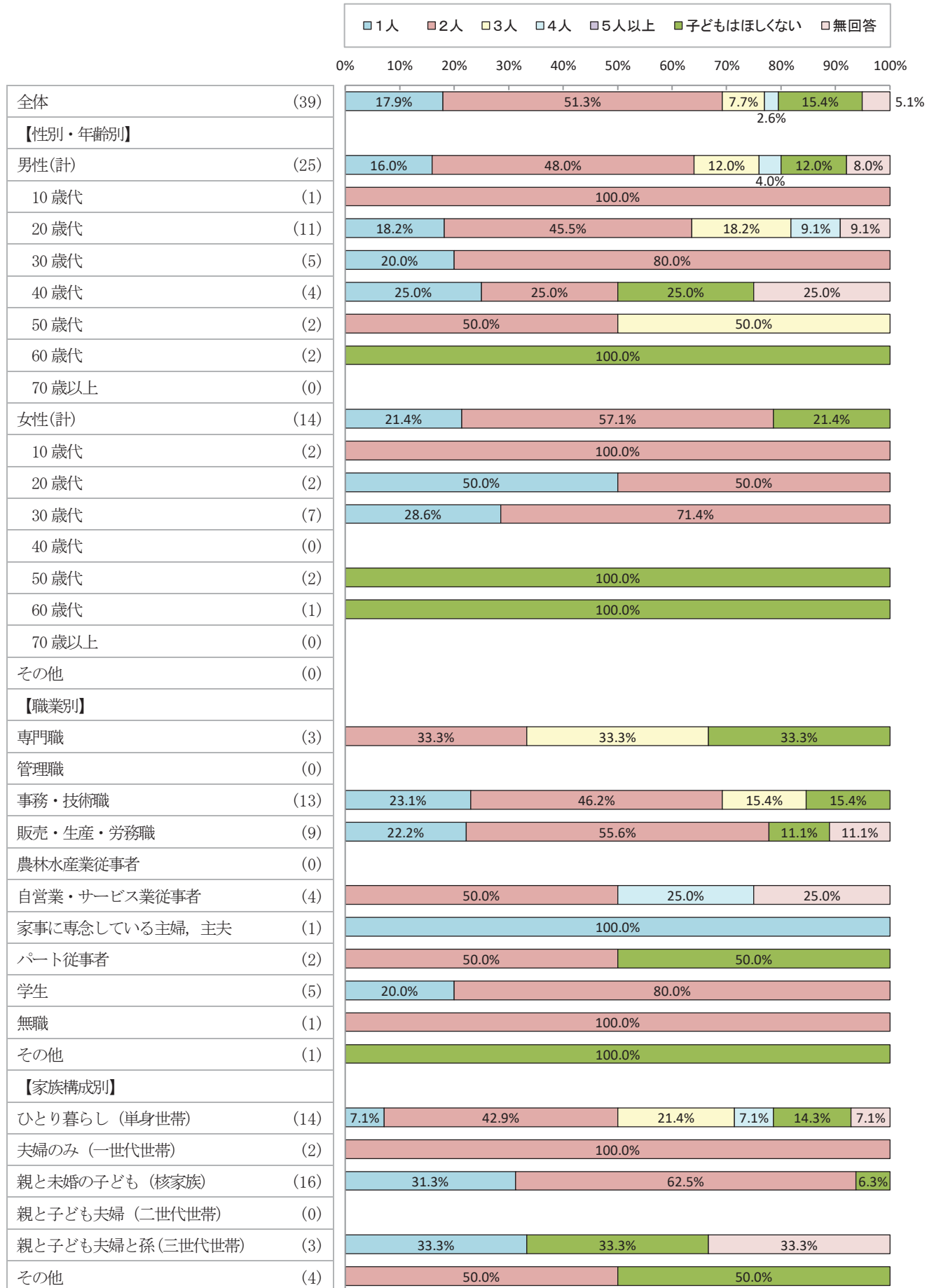
<参考>

性別・年齢別で見ると、「2人」は<男性/10歳代>、<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が80.0%と続いている。「1人」は<女性/20歳代>が50.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が28.6%と続いている。(図IV-21-8)

職業別で見ると、「2人」は<無職>が100.0%で最も高く、次いで<学生>が80.0%と続いている。一方、「1人」は<家事に専念している主婦、主夫>が100.0%で最も高く、<事務・技術職>が23.1%と続いている。(図IV-21-8)

家族構成別で見ると、「2人」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が100.0%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が62.5%と続いている。「1人」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が33.3%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が31.3%と続いている。(図IV-21-8)

<図IV-21-8>性別・年齢別／職業別／家族構成別



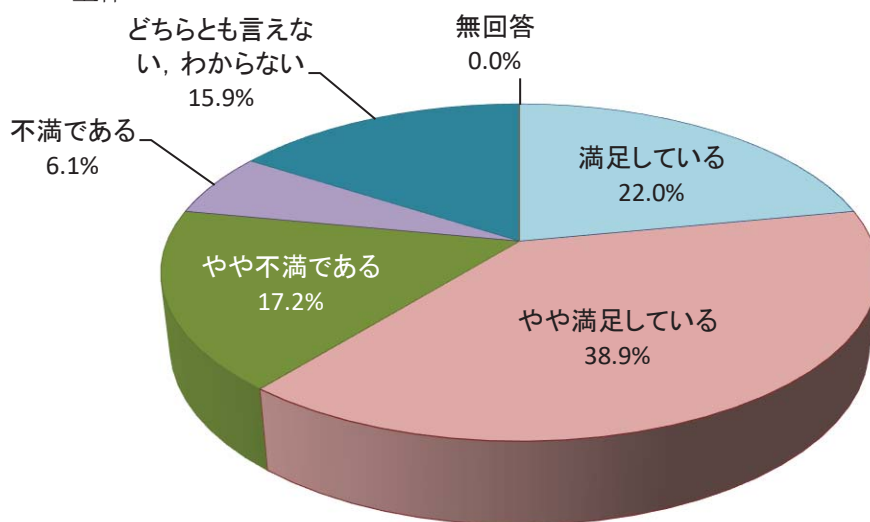
2.2. 宇都宮市のみどりについて

(1) みどりの量についての満足度

◇ 「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している（計）】が約6割

問83	あなたは、現在の宇都宮市のみどりの量について満足していますか。	(○は1つ)
【a 市内全体のみどり】		
		n=378
1	満足している	22.0%
2	やや満足している	38.9%
3	やや不満である	17.2%
4	不満である	6.1%
5	どちらとも言えない、わからない	15.9%
	(無回答)	0.0%

<図IV-22-1>全体



n=378

みどりの量についての満足度のうち市内全体のみどりについては、「満足している」が22.0%、「やや満足している」が38.9%で、これらを合わせた【満足している（計）】が60.9%であった。一方、「やや不満である」17.2%、「不満である」6.1%で、これらを合わせた【不満である（計）】は23.3%であった。（図IV-22-1）

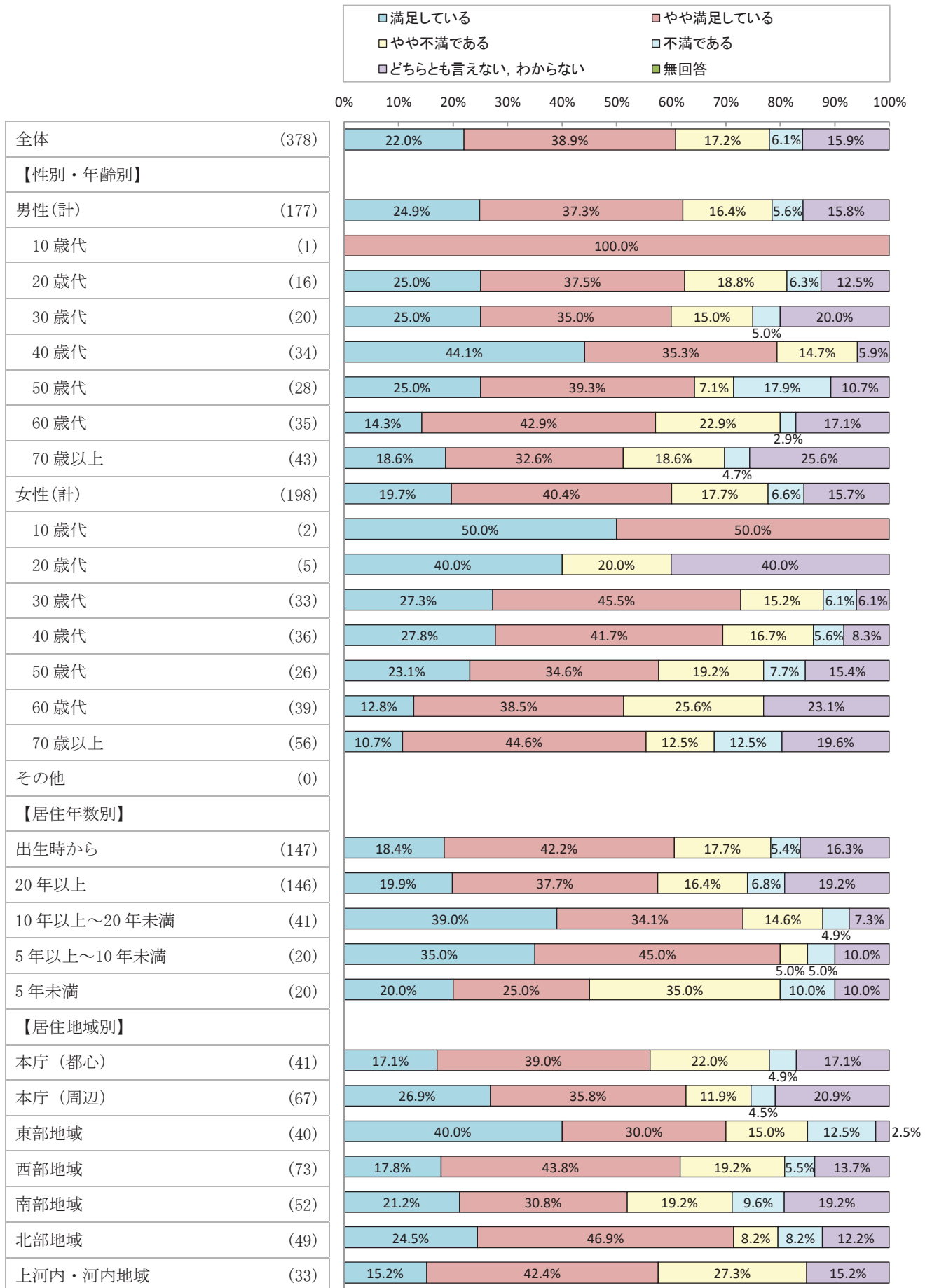
<参考>

性別・年齢別で見ると、【満足している（計）】は<男性/10歳代>、<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が79.4%と続いている。一方、【不満である（計）】は<女性/50歳代>が26.9%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が25.8%と続いている。（図IV-22-2）

居住年数別で見ると、【満足している（計）】は<5年以上～10年未満>が80.0%で最も高く、次いで<10年以上～20年未満>が73.1%と続いている。一方、【不満である（計）】は<5年未満>が45.0%で最も高く、<20年以上>が23.2%と続いている。（図IV-22-2）

居住地域別で見ると、【満足している（計）】は<北部地域>が71.4%で最も高く、次いで<東部地域>が70.0%と続いている。一方、【不満である（計）】は<南部地域>が28.8%で最も高く、次いで<東部地域>が27.5%と続いている。（図IV-22-2）

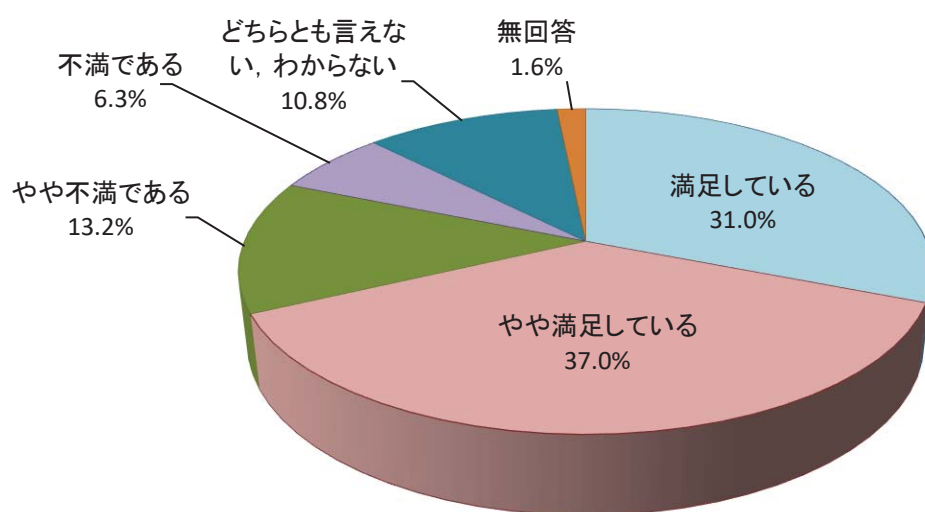
<図IV-22-2>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別



【b 自宅，職場，学校などの身近なみどり】

		n=378
1	満足している	31.0%
2	やや満足している	37.0%
3	やや不満である	13.2%
4	不満である	6.3%
5	どちらとも言えない，わからない	10.8%
	(無回答)	1.6%

<図IV-22-3>全体



n=378

みどりの量についての満足度のうち自宅，職場，学校などの身近なみどりについては，「満足している」が31.0%，「やや満足している」が37.0%で，これらを合わせた【満足している（計）】が68.0%であった。一方，「やや不満である」13.2%，「不満である」6.3%で，これらを合わせた【不満である（計）】は19.5%であった。（図IV-22-3）

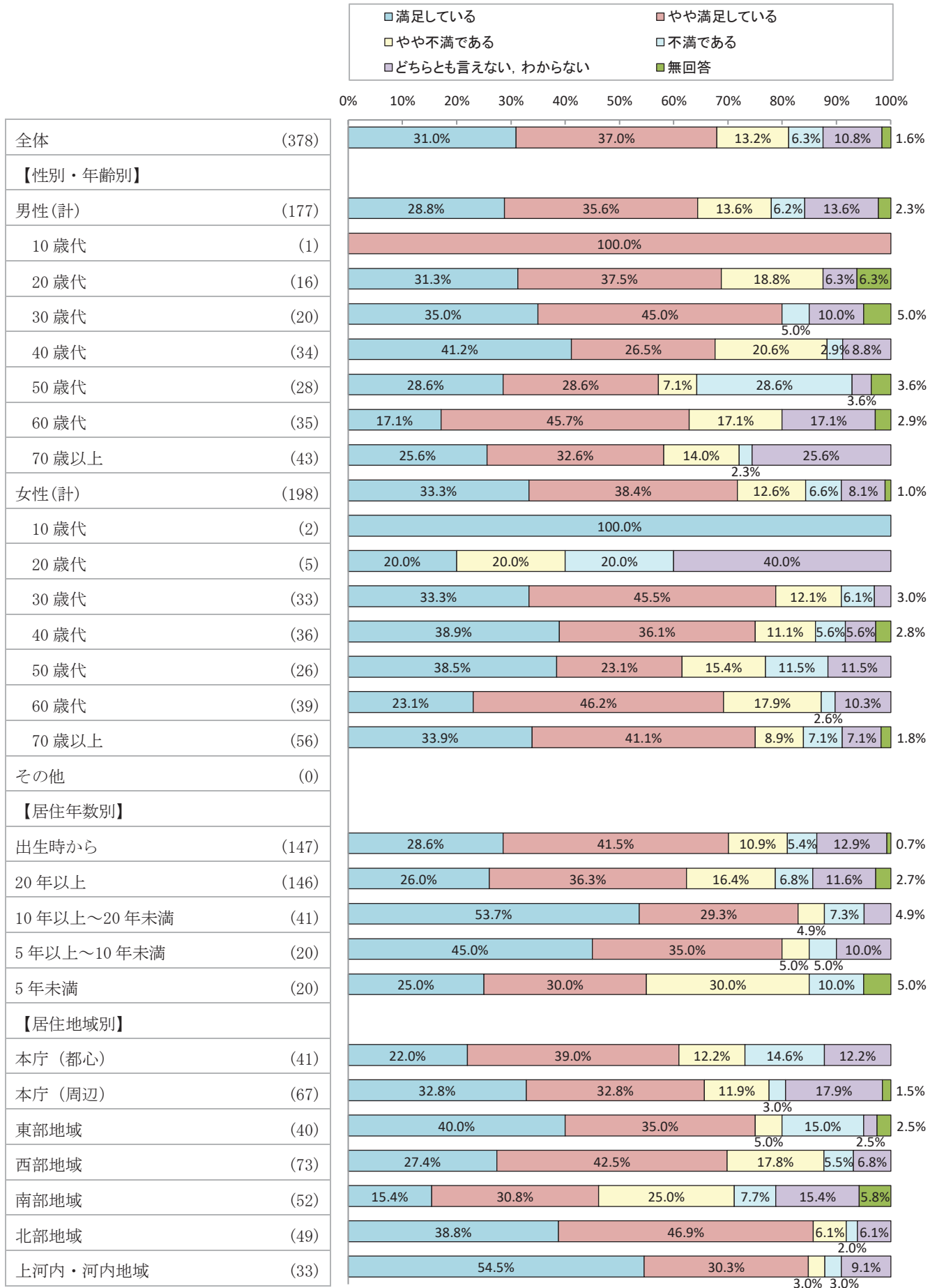
<参考>

性別・年齢別で見ると，【満足している（計）】は<男性/10歳代>，<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く，次いで<男性/30歳代>が80.0%と続いている。一方，【不満である（計）】は<女性/20歳代>が40.0%で最も高く，次いで<男性/50歳代>が35.7%と続いている。（図IV-22-4）

居住年数別で見ると，【満足している（計）】は<10年以上～20年未満>が83.0%で最も高く，次いで<5年以上～10年未満>が80.0%と続いている。一方，【不満である（計）】は<5年未満>が40.0%で最も高く，<20年以上>が23.2%と続いている。（図IV-22-4）

居住地域別で見ると，【満足している（計）】は<北部地域>が85.7%で最も高く，次いで<上河内・河内地域>が84.8%と続いている。一方，【不満である（計）】は<南部地域>が32.7%で最も高く，次いで<本庁（都心）>が26.8%と続いている。（図IV-22-4）

<図IV-22-4>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

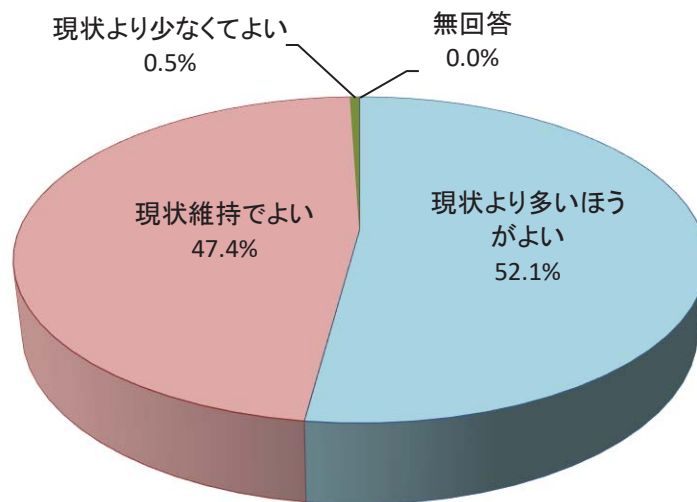


(2) 10年後のみどりの量の在り方

◇ 「現状より多いほうがよい」が5割強

問84 あなたは、10年後の宇都宮市のみどりの量はどうあるべきだと思いますか。(○は1つ)		
【a 市内全体のみどり】		n=378
1	現状より多いほうがよい	52.1%
2	現状維持でよい	47.4%
3	現状より少なくてよい	0.5%
	(無回答)	0.0%

<図IV-22-5>全体



n=378

10年後のみどりの量の在り方のうち市内全体のみどりについては、「現状より多いほうがよい」が52.1%で最も高く、次いで「現状維持でよい」が47.4%、「現状より少なくてよい」が0.5%であった。(図IV-22-5)

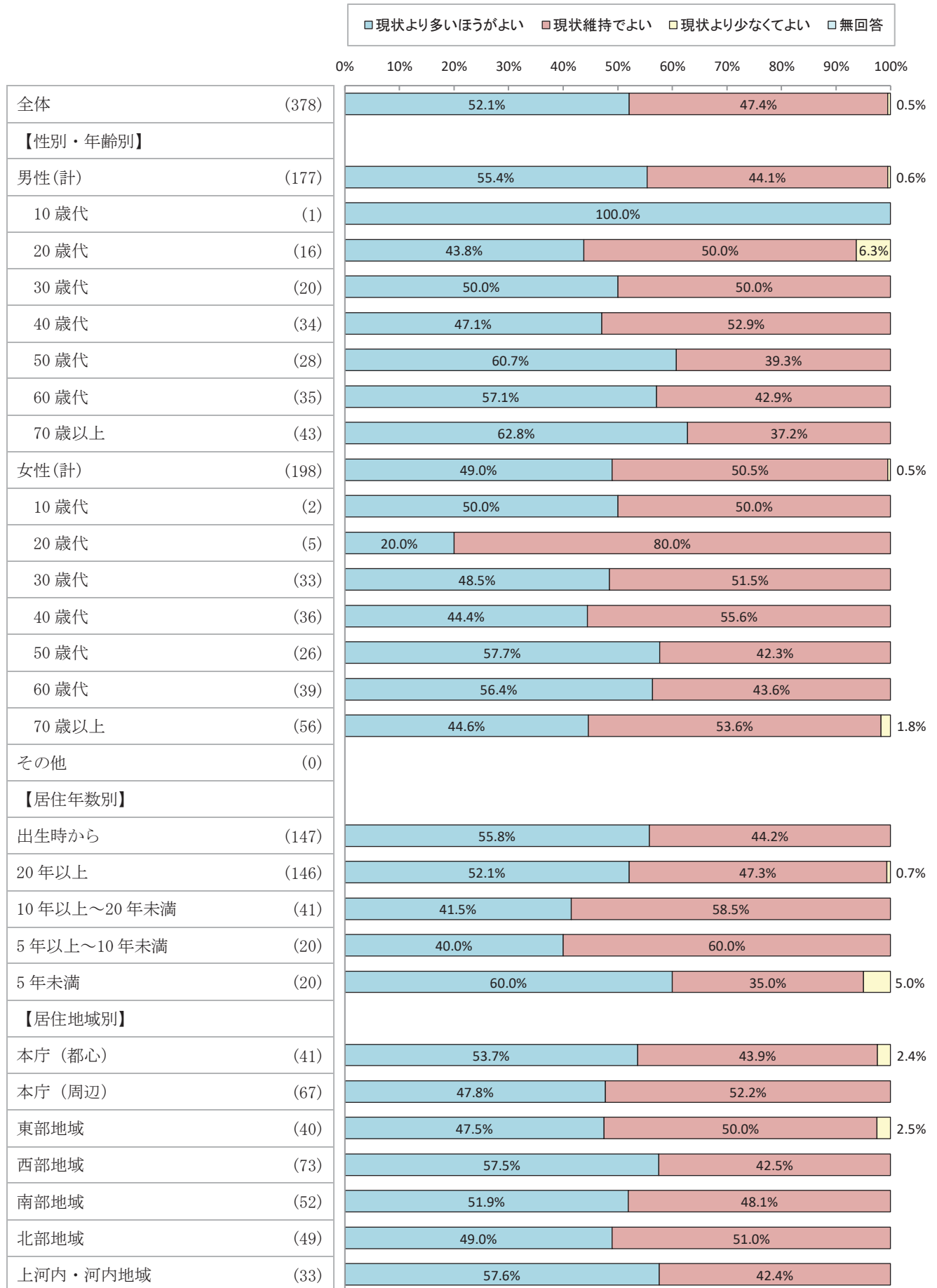
<参考>

性別・年齢別で見ると、「現状より多いほうがよい」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が62.8%と続いている。「現状維持でよい」は<女性/20歳代>が80.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が55.6%と続いている。(図IV-22-6)

居住年数別で見ると、「現状より多いほうがよい」は<5年未満>が60.0%で最も高く、次いで<出生時から>が55.8%と続いている。「現状維持でよい」は<5年以上~10年未満>が60.0%で最も高く、<10年以上~20年未満>が58.5%と続いている。(図IV-22-6)

居住地域別で見ると、「現状より多いほうがよい」は<上河内・河内地域>が57.6%で最も高く、次いで<西部地域>が57.5%と続いている。「現状維持でよい」は<本庁(周辺)>が52.2%で最も高く、次いで<北部地域>が51.0%と続いている。(図IV-22-6)

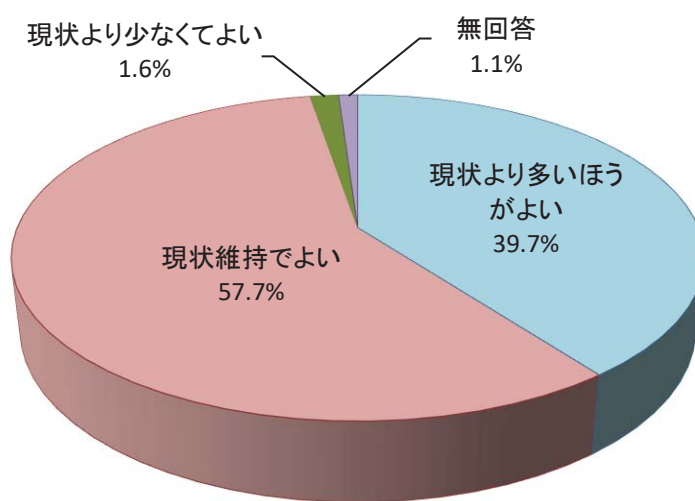
<図IV-22-6>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別



【b 自宅，職場，学校などの身近なみどり】

	n=378
1 現状より多いほうがよい	39.7%
2 現状維持でよい	57.7%
3 現状より少なくてよい	1.6%
(無回答)	1.1%

<図IV-22-7>全体



n=378

10年後のみどりの量の在り方のうち自宅，職場，学校などの身近なみどりについては，「現状維持でよい」が57.7%で最も高く，次いで「現状より多いほうがよい」が39.7%，「現状より少なくてよい」が1.6%であった。(図IV-22-7)

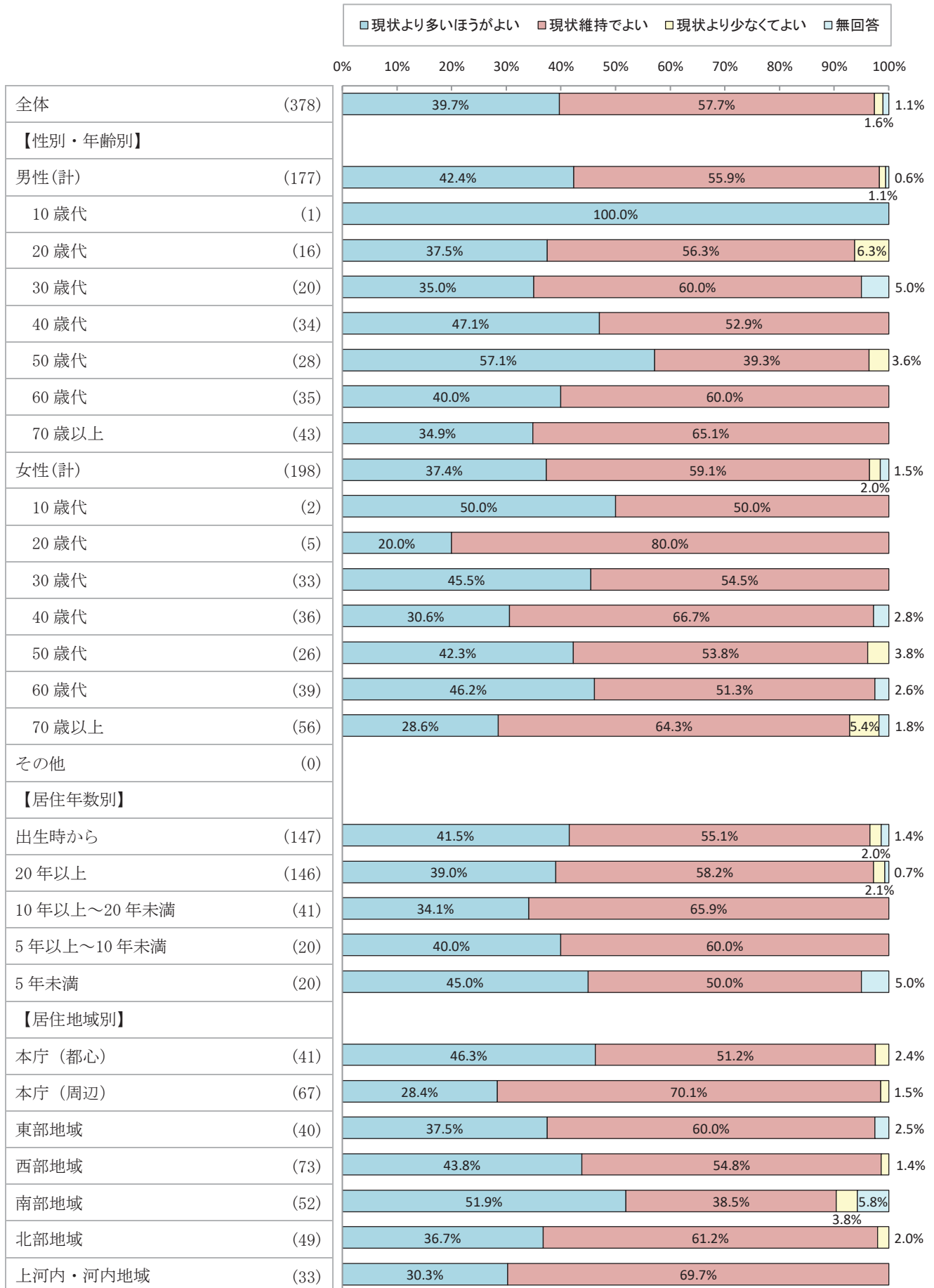
<参考>

性別・年齢別で見ると，「現状維持でよい」は<女性/20歳代>が80.0%で最も高く，次いで<女性/40歳以上>が66.7%と続いている。「現状より多いほうがよい」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く，次いで<男性/50歳代>が57.1%と続いている。(図IV-22-8)

居住年数別で見ると，「現状維持でよい」は<10年以上～20年未満>が65.9%で最も高く，次いで<5年以上～10年未満>が60.0%と続いている。「現状より多いほうがよい」は<5年未満>が45.0%で最も高く，<出生時から>が41.5%と続いている。(図IV-22-8)

居住地域別で見ると，「現状維持でよい」は<本庁(周辺)>が70.1%で最も高く，次いで<上河内・河内地域>が69.7%と続いている。「現状より多いほうがよい」は<南部地域>が51.9%で最も高く，次いで<本庁(都心)>が46.3%と続いている。(図IV-22-8)

<図Ⅳ-22-8>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

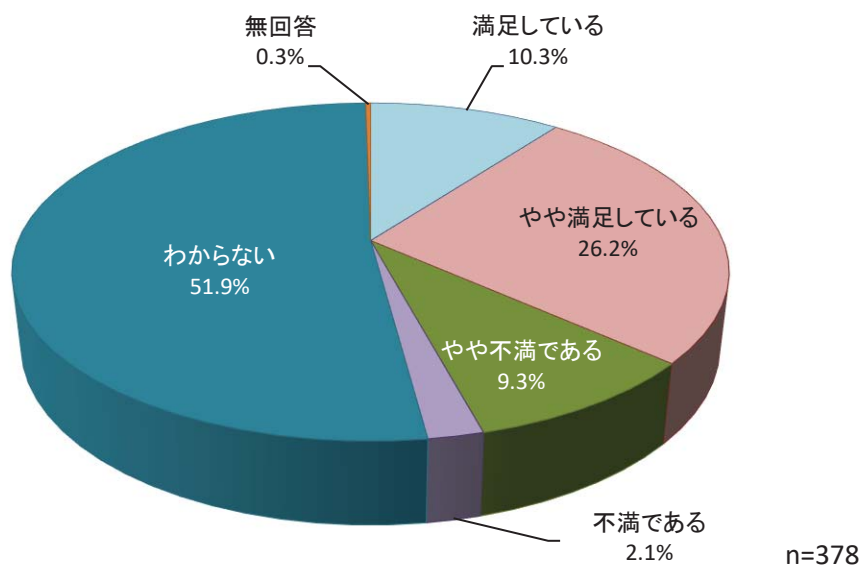


(3) みどりの保全・普及啓発に関する取組の満足度

◇「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している（計）】が4割弱

問 8 5	本市では、みどりの保全・普及啓発に関する取組として、(公財)グリーントラストうつのみやと連携した樹林地などの保全活動や、中心市街地におけるプランター・ハンギングバスケットの設置などの都市緑化活動のほか、各種緑化講習会に取り組んでいます。あなたは、これらの取組に満足していますか。	(○は1つ)
		n=378
1	満足している	10.3%
2	やや満足している	26.2%
3	やや不満である	9.3%
4	不満である	2.1%
5	わからない	51.9%
	(無回答)	0.3%

<図IV-22-9>全体



みどりの保全・普及啓発に関する取組の満足度については、「満足している」が10.3%、「やや満足している」が26.2%で、これらを合わせた【満足している（計）】が36.5%であった。一方、「やや不満である」9.3%、「不満である」2.1%で、これらを合わせた【不満である（計）】は11.4%であった。(図IV-22-9)

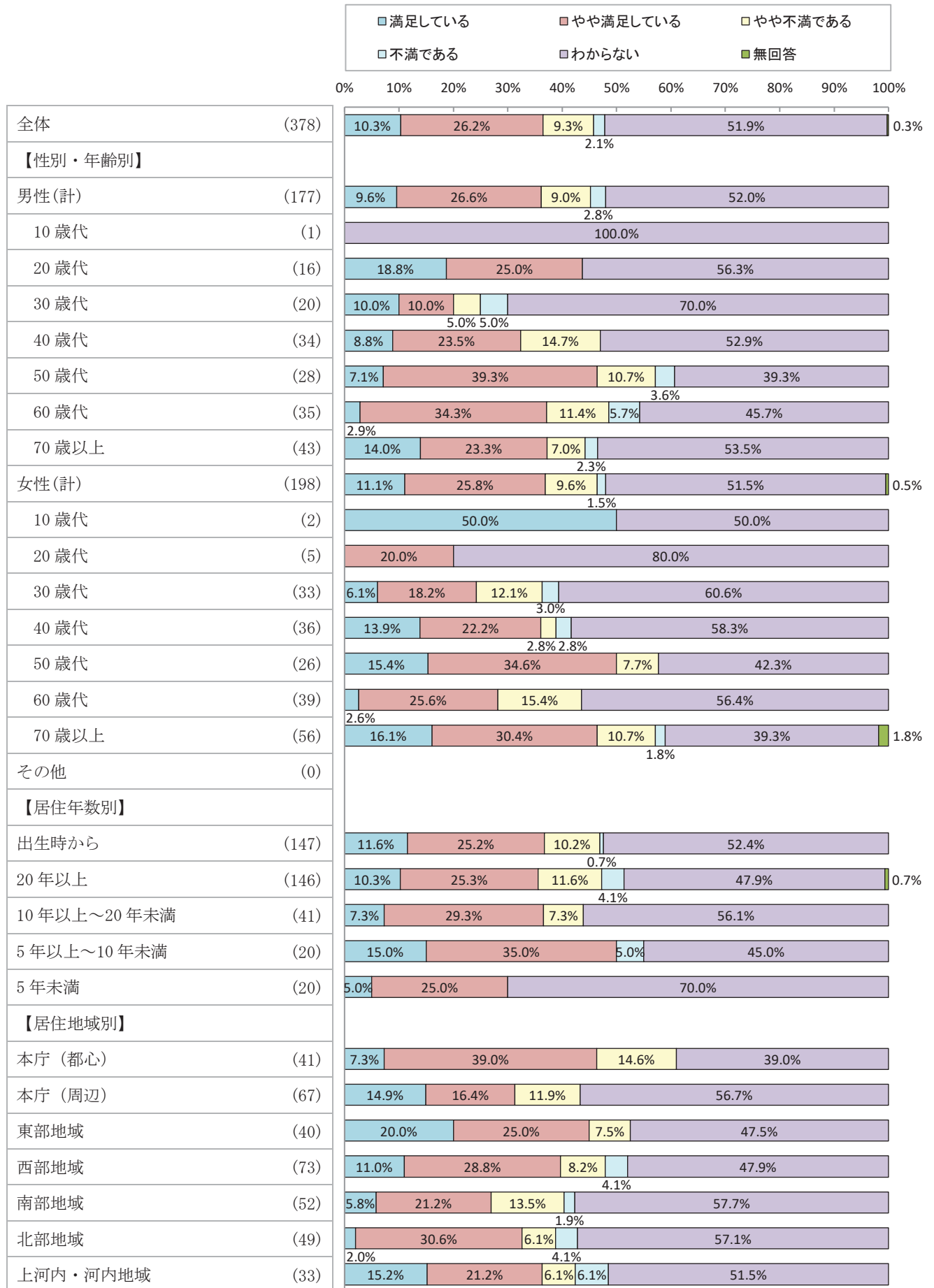
<参考>

性別・年齢別で見ると、【満足している（計）】は<女性/10歳代>、<女性/50歳代>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が46.5%と続いている。一方、【不満である（計）】は<男性/60歳代>が17.1%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が15.4%と続いている。(図IV-22-10)

居住年数別で見ると、【満足している（計）】は<5年以上～10年未満>が50.0%で最も高く、次いで<出生時から>が36.8%と続いている。一方、【不満である（計）】は<20年以上>が15.7%で最も高く、<出生時から>が10.9%と続いている。(図IV-22-10)

居住地域別で見ると、【満足している（計）】は<本庁（都心）>が46.3%で最も高く、次いで<東部地域>が45.0%と続いている。一方、【不満である（計）】は<南部地域>が15.4%で最も高く、次いで<本庁（都心）>が14.6%と続いている。(図IV-22-10)

<図Ⅳ-22-10>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別

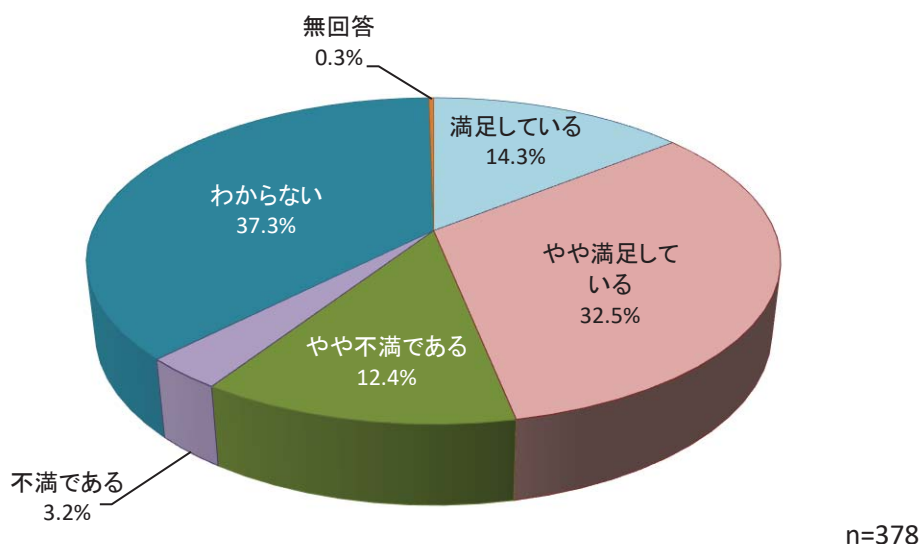


(4) みどりと憩いの拠点づくりの推進の満足度

◇「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している（計）】が5割弱

問 8 6	本市では、交流の場や自然とのふれあいの場となる公園や緑地など、みどりと憩いの拠点づくりの推進に取り組んでいます。あなたは、その取組に満足していますか。	(○は1つ)	n=378
1	満足している		14.3%
2	やや満足している		32.5%
3	やや不満である		12.4%
4	不満である		3.2%
5	わからない		37.3%
	(無回答)		0.3%

<図IV-22-11>全体



みどりと憩いの拠点づくりの推進の満足度については、「満足している」が14.3%、「やや満足している」が32.5%で、これらを合わせた【満足している（計）】が46.8%であった。一方、「やや不満である」12.4%、「不満である」3.2%で、これらを合わせた【不満である（計）】は15.6%であった。(図IV-22-11)

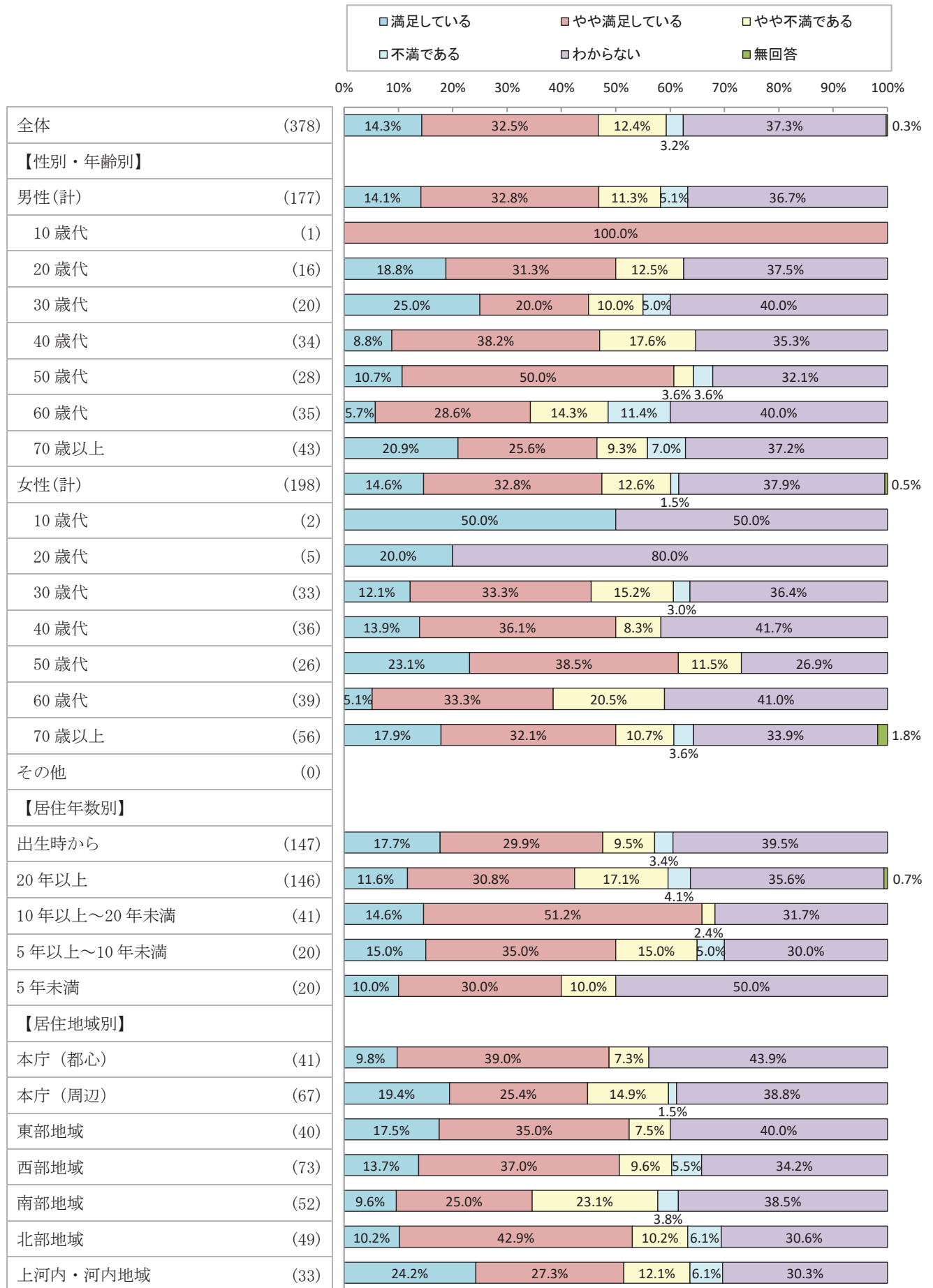
<参考>

性別・年齢別で見ると、【満足している（計）】は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が61.6%と続いている。一方、【不満である（計）】は<男性/60歳代>が25.7%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が20.5%と続いている。(図IV-22-12)

居住年数別で見ると、【満足している（計）】は<10年以上～20年未満>が65.8%で最も高く、次いで<5年以上～10年未満>が50.0%と続いている。一方、【不満である（計）】は<20年以上>が21.2%で最も高く、<5年以上～10年未満>が20.0%と続いている。(図IV-22-12)

居住地域別で見ると、【満足している（計）】は<北部地域>が53.1%で最も高く、次いで<東部地域>が52.5%と続いている。一方、【不満である（計）】は<南部地域>が26.9%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が18.2%と続いている。(図IV-22-12)

<図Ⅳ-22-12>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別



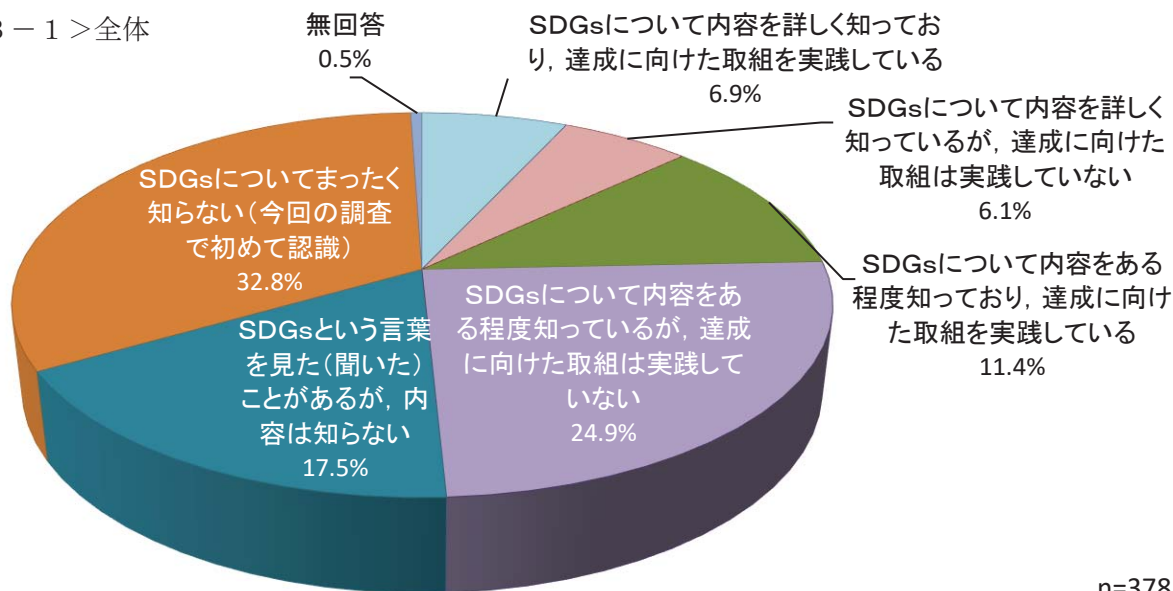
2.3. SDGs（エス・ディー・ジーズ）について

(1) SDGs についての認知度

◇ 「SDGs についてまったく知らない（今回の調査で初めて認識）」が3割強

問87	あなたはSDGs（エス・ディー・ジーズ）について知っていますか。（○は1つ）	n=378
1	SDGs について内容を詳しく知っており、達成に向けた取組を実践している	6.9%
2	SDGs について内容を詳しく知っているが、達成に向けた取組は実践していない	6.1%
3	SDGs について内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している	11.4%
4	SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない	24.9%
5	SDGs という言葉を見た（聞いた）ことがあるが、内容は知らない	17.5%
6	SDGs についてまったく知らない（今回の調査で初めて認識）	32.8%
	（無回答）	0.5%

<図IV-23-1>全体



「SDGs」の認知度については、「SDGs について全く知らない（今回の調査で初めて認識）」が 32.8%、で最も高く、次いで「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」24.9%、「SDGs という言葉を見た（聞いた）ことがあるが、内容は知らない」17.5%と続いている（図IV-23-1）

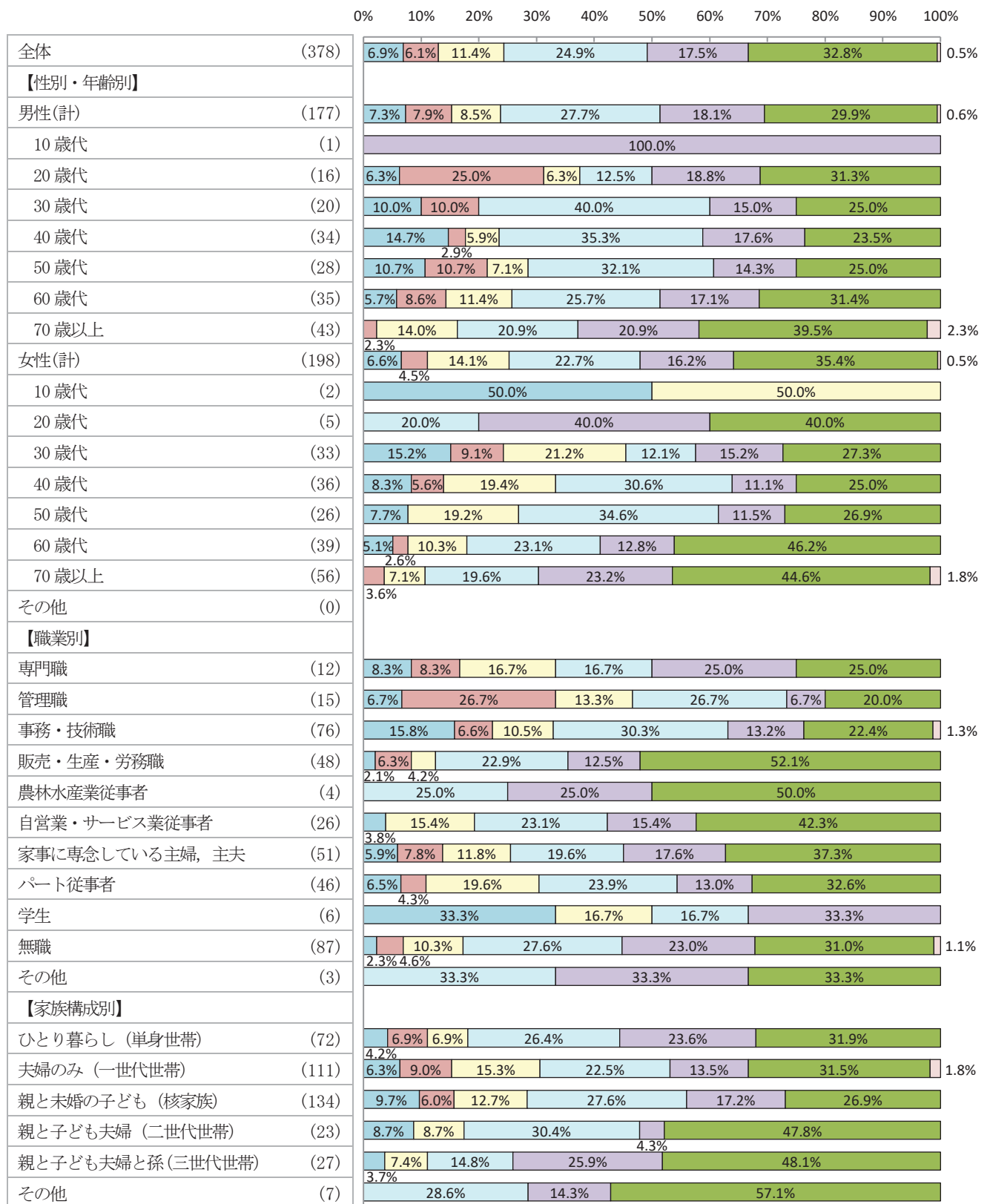
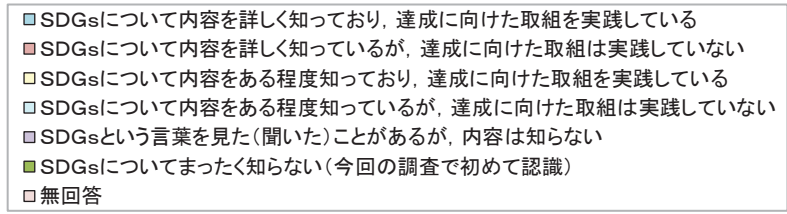
<参考>

性別・年齢別で見ると、「SDGs について全く知らない（今回の調査で初めて認識）」は<女性/60歳代>が 46.2%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が 44.6%と続いている。「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<男性/30歳代>が 40.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が 35.3%と続いている。（図IV-23-2）

職業別で見ると、「SDGs について全く知らない（今回の調査で初めて認識）」は<販売・生産・労務職>が 52.1%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>が 50.0%と続いている。「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<その他>を除く<事務・技術職>が 30.3%で最も高く、<無職>が 27.6%と続いている。（図IV-23-2）

家族構成別で見ると、「SDGs について全く知らない（今回の調査で初めて認識）」は<その他>を除く<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が 48.1%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が 47.8%と続いている。「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が 30.4%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と未婚の子ども（核家族）>が 27.6%と続いている。（図IV-23-2）

<図IV-23-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

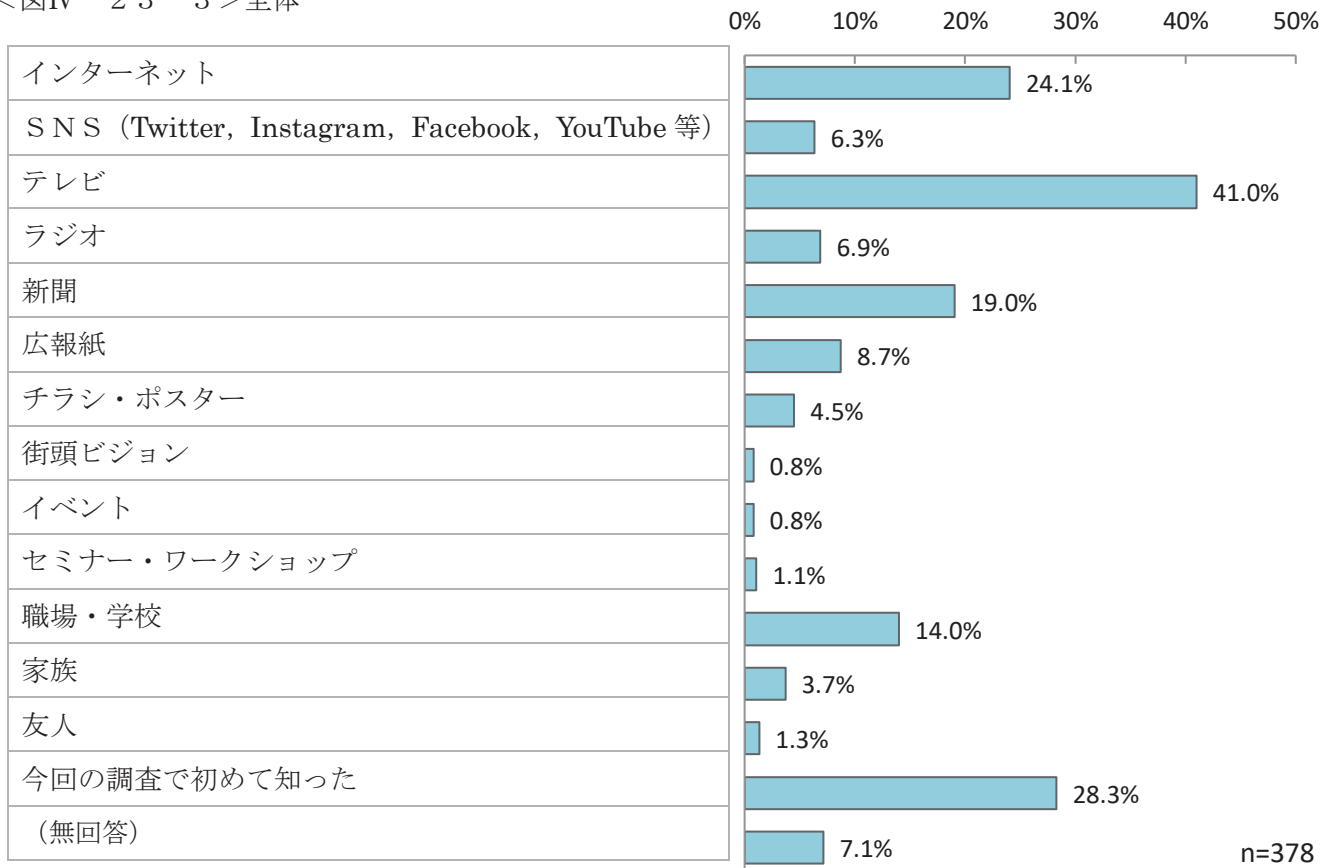


(2) SDGsについて知った手段

◇ 「テレビ」が約4割

問88	SDGsについて、どのようにして知りましたか。	(〇はいくつでも)
		n=378
1	インターネット	24.1%
2	SNS (Twitter, Instagram, Facebook, YouTube 等)	6.3%
3	テレビ	41.0%
4	ラジオ	6.9%
5	新聞	19.0%
6	広報紙	8.7%
7	チラシ・ポスター	4.5%
8	街頭ビジョン	0.8%
9	イベント	0.8%
10	セミナー・ワークショップ	1.1%
11	職場・学校	14.0%
12	家族	3.7%
13	友人	1.3%
14	今回の調査で初めて知った	28.3%
	(無回答)	7.1%

<図IV-23-3>全体



SDGsについて知った手段については、「テレビ」が41.0%で最も高く、次いで「今回の調査で初めて知った」が28.3%、「インターネット」が24.1%と続いている。(図IV-23-3)

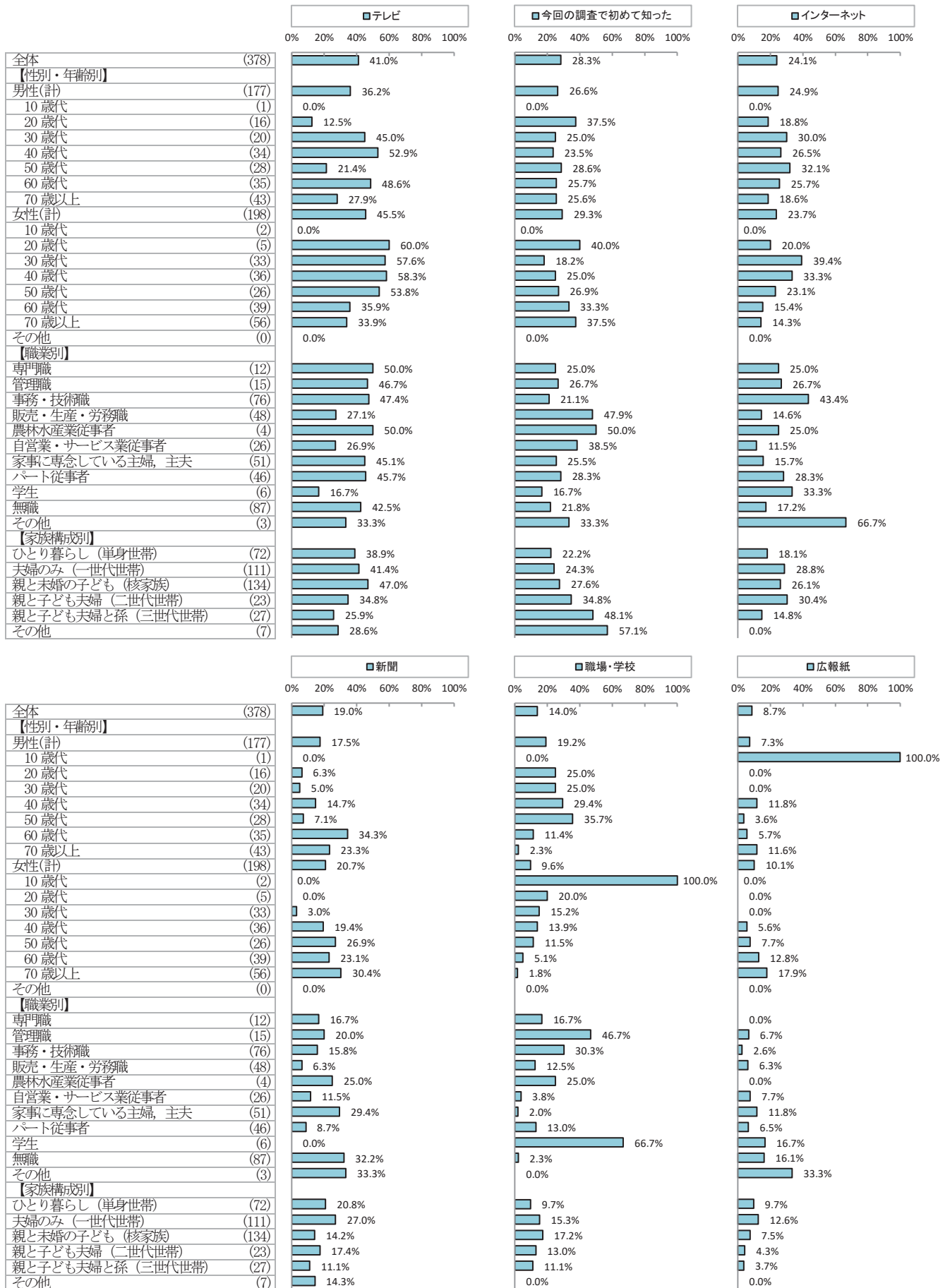
<参考>

上位6項目について性別・年齢別でみると、「テレビ」は<女性/20歳代>が60.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が58.3%と続いている。「今回の調査で初めて知った」は<女性/20歳代>が40.0%、「インターネット」は<女性/30歳代>が39.4%、「新聞」は<男性/60歳代>が34.3%で最も高かった。(図IV-23-4)

上位6項目について職業別でみると、「テレビ」は<専門職>、<農林水産業従事者>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<事務・技術職>が47.4%と続いている。「今回の調査で初めて知った」は<農林水産業従事者>が50.0%、「インターネット」は<その他>を除く<事務・技術職>が43.4%、「新聞」は<その他>を除く<無職>が32.2%で最も高かった。(図IV-23-4)

家族構成別でみると、「テレビ」は<親と未婚の子ども(核家族)>が47.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が41.4%と続いている。「今回の調査で初めて知った」は<その他>を除くと<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が48.1%、「インターネット」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が30.4%、「新聞」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が27.0%で最も高かった。(図IV-23-4)

<図IV-23-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別（上位6項目）

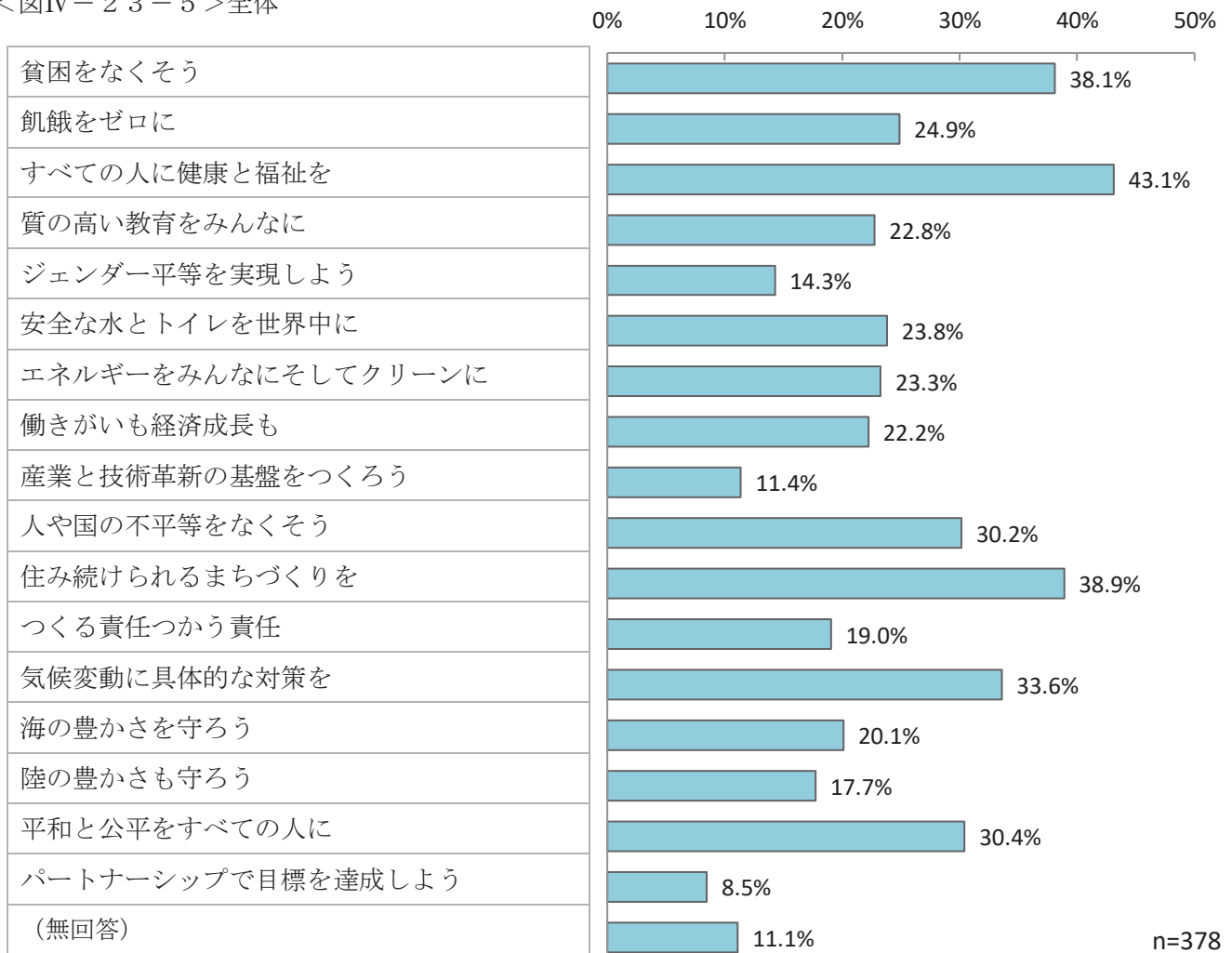


(3) SDGs のゴールの中で、興味・関心のある分野

◇ 「すべての人に健康と福祉を」が4割強

問89	SDGs のゴールの中で、興味・関心のある分野をお答えください。	(○はいくつでも)	n=378
1	貧困をなくそう		38.1%
2	飢餓をゼロに		24.9%
3	すべての人に健康と福祉を		43.1%
4	質の高い教育をみんなに		22.8%
5	ジェンダー平等を実現しよう		14.3%
6	安全な水とトイレを世界中に		23.8%
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに		23.3%
8	働きがいも経済成長も		22.2%
9	産業と技術革新の基盤をつくろう		11.4%
10	人や国の不平等をなくそう		30.2%
11	住み続けられるまちづくりを		38.9%
12	つくる責任つかう責任		19.0%
13	気候変動に具体的な対策を		33.6%
14	海の豊かさを守ろう		20.1%
15	陸の豊かさも守ろう		17.7%
16	平和と公平をすべての人に		30.4%
17	パートナーシップで目標を達成しよう		8.5%
	(無回答)		11.1%

<図IV-23-5>全体



SDGsのゴールの中で、興味・関心のある分野については、「すべての人に健康と福祉を」が43.1%で最も高く、次いで「住み続けられるまちづくりを」と38.9%で続いている。(図IV-23-5)

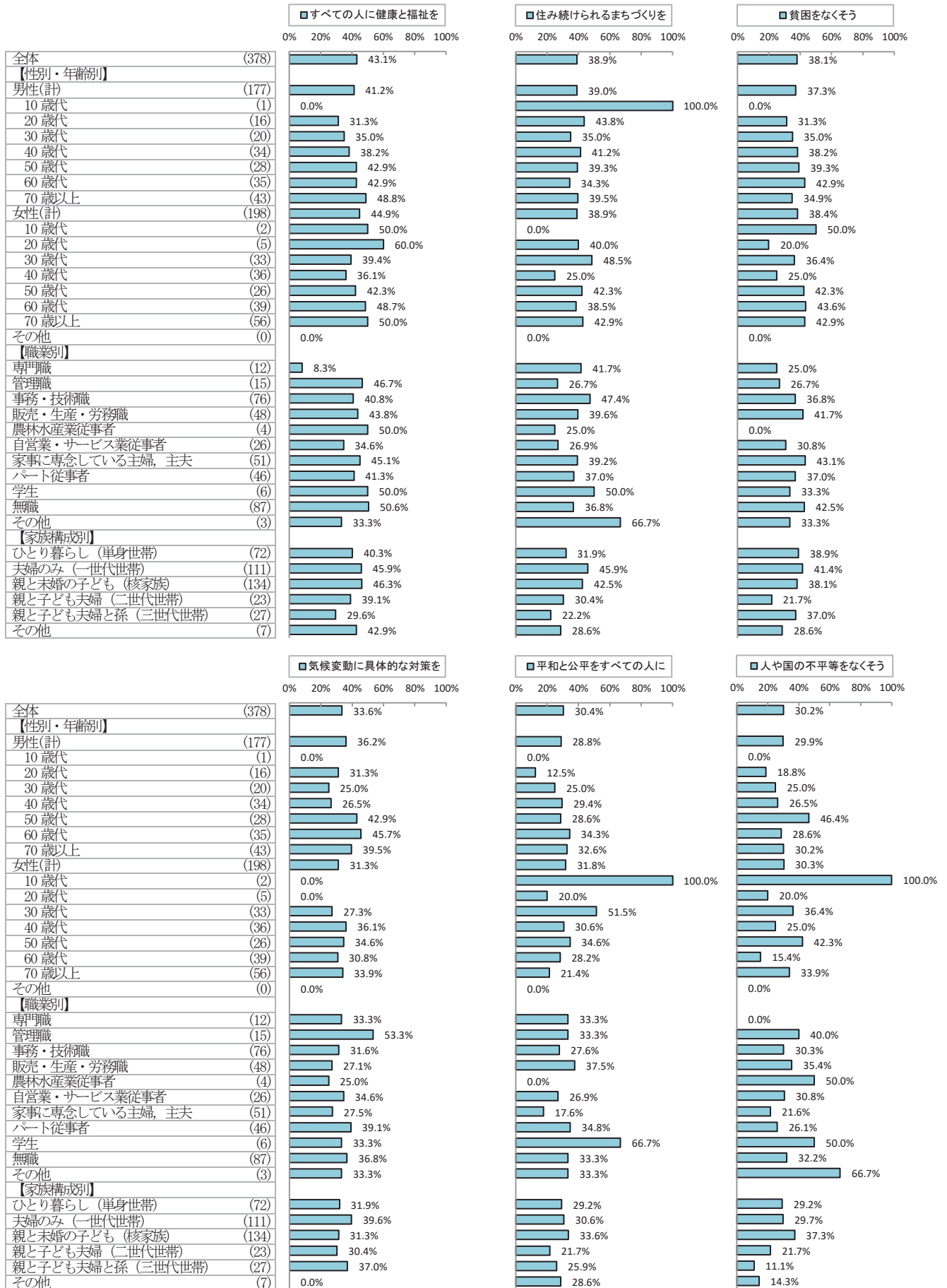
<参考>

上位6項目について性別・年齢別でみると、「すべての人に健康と福祉を」は<女性/20歳代>が60.0%で最も高く、次いで<女性/10歳代>、<女性/70歳以上>がいずれも50.0%と続いている。「住み続けられるまちづくりを」は<男性/10歳代>が100.0%、「貧困をなくそう」は<女性/10歳代>が50.0%、「気候変動に具体的な対策を」は<男性/60歳代>が45.7%で最も高かった。(図IV-23-6)

職業別でみると、「すべての人に健康と福祉を」は<無職>が50.6%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>、<学生>がいずれも50.0%と続いている。「住み続けられるまちづくりを」は<その他>を除くと<学生>が50.0%、「貧困をなくそう」は<家事に専念している主婦、主夫>が43.1%、「気候変動に具体的な対策を」は<管理職>が53.3%で最も高かった。(図IV-23-6)

家族構成別でみると、「すべての人に健康と福祉を」は<親と未婚の子ども(核家族)>が46.3%で最も高くなっている。以降、3分野では<夫婦のみ(一世代世帯)>が最も高く、「住み続けられるまちづくりを」が45.9%、「貧困をなくそう」が41.4%、「気候変動に具体的な対策を」が39.6%であった。(図IV-23-6)

<図IV-23-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別（上位6項目）



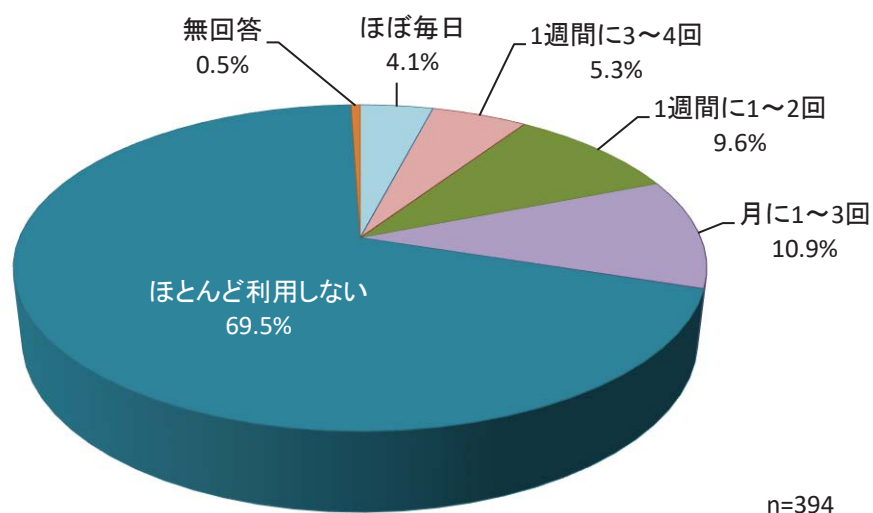
24. 自転車のまちづくりについて

(1) 自転車の利用頻度

◇ 「ほとんど利用しない」が約7割

問90	どのくらいの頻度で自転車を利用されていますか。	(○は1つ)
		n=394
1	ほぼ毎日	4.1%
2	1週間に3~4回	5.3%
3	1週間に1~2回	9.6%
4	月に1~3回	10.9%
5	ほとんど利用しない	69.5%
	(無回答)	0.5%

<図IV-24-1>全体



自転車の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が69.5%で最も高く、次いで「月に1~3回」が10.9%、「1週間に1~2回」が9.6%であった。(図IV-24-1)

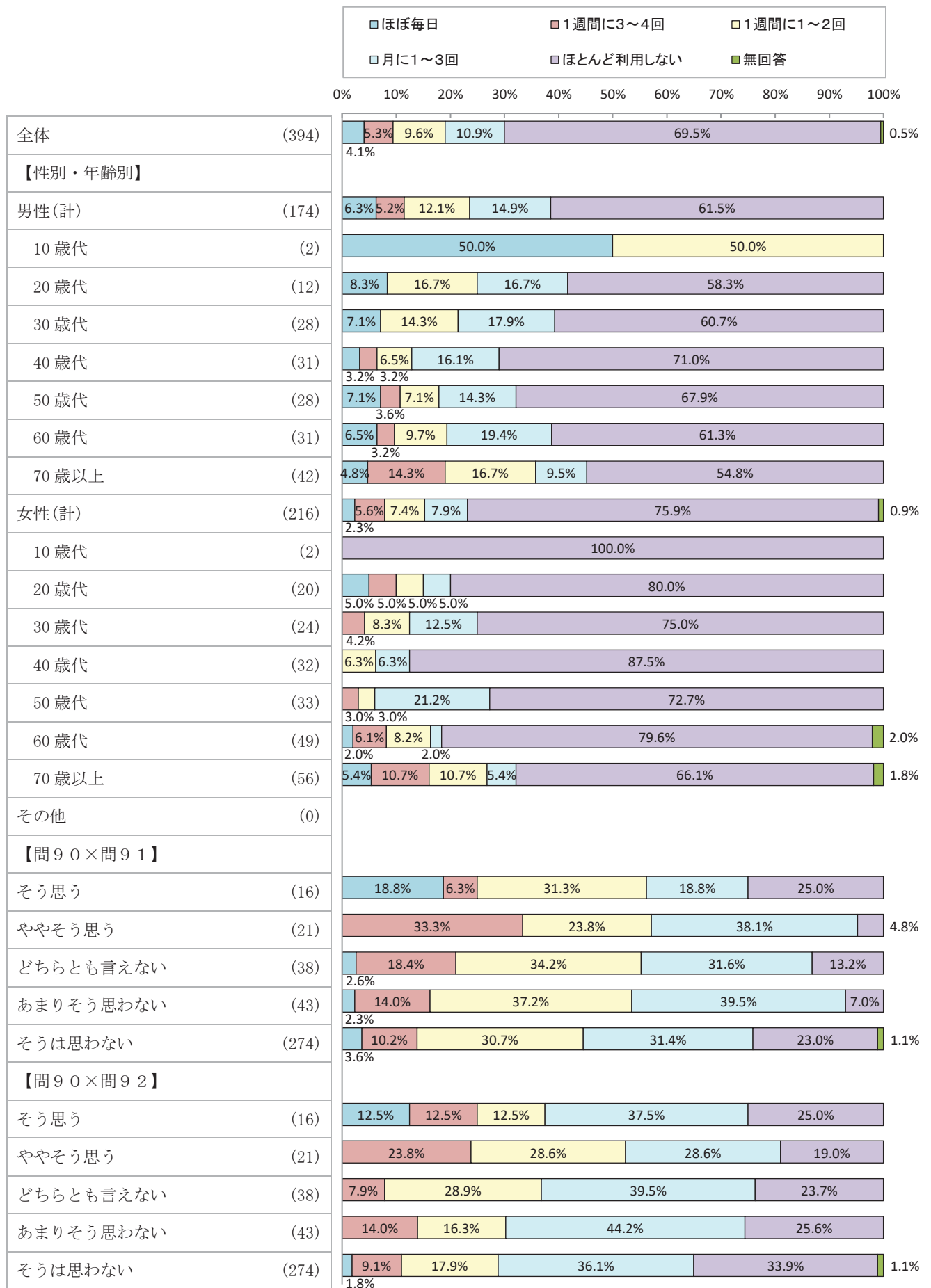
<参考>

性別・年齢別で見ると、「ほとんど利用しない」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が87.5%と続いている。「月に1~3回」は<女性/50歳代>が21.2%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が19.4%と続いている。(図IV-24-2)

問91(宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思いますか)の回答と比較して見ると、「ほとんど利用しない」は<そう思う(問91)>が25.0%で最も高く、次いで<そうは思わない(問91)>が23.0%と続いている。一方、「ほぼ毎日」は<「そう思う」(問91)>が18.8%で最も高く、次いで<「そうは思わない」(問91)>が3.6%と続いている。(図IV-24-2)

問92(自転車走行空間(自転車レーンなど)は十分に整備されていると思いますか)の回答と比較して見ると、「ほとんど利用しない」は<そうは思わない(問92)>が33.9%で最も高く、次いで<あまりそう思わない(問92)>が25.6%と続いている。一方、「ほぼ毎日」は<「そう思う」(問92)>が12.5%で最も高く、次いで<「そうは思わない」(問92)>が1.8%であった。(図IV-24-2)

<図IV-24-2>性別・年齢別／問91／問92

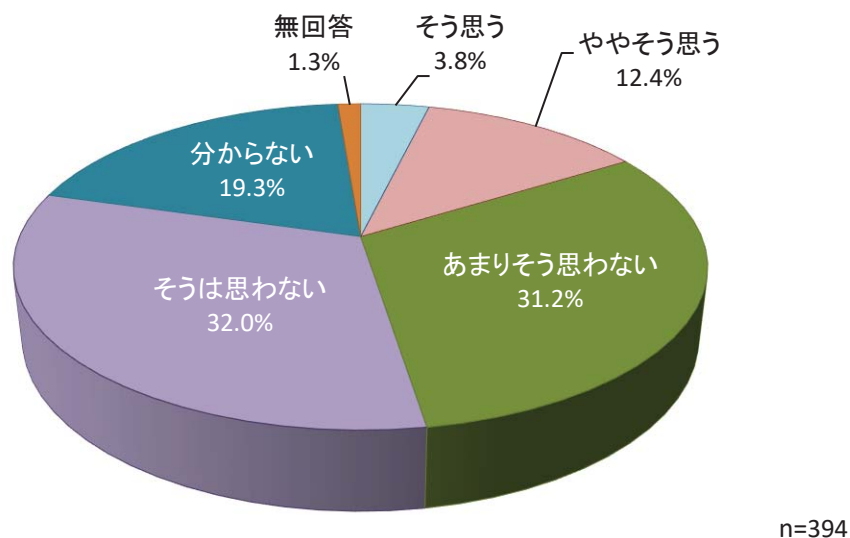


(2) 宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思うか

◇ 「あまりそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた【そう思わない(計)】が6割強

問9 1	宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思いますか。	(○は1つ)
		n=394
1	そう思う	3.8%
2	ややそう思う	12.4%
3	あまりそう思わない	31.2%
4	そうは思わない	32.0%
5	分からない	19.3%
	(無回答)	1.3%

<図IV-24-3>全体



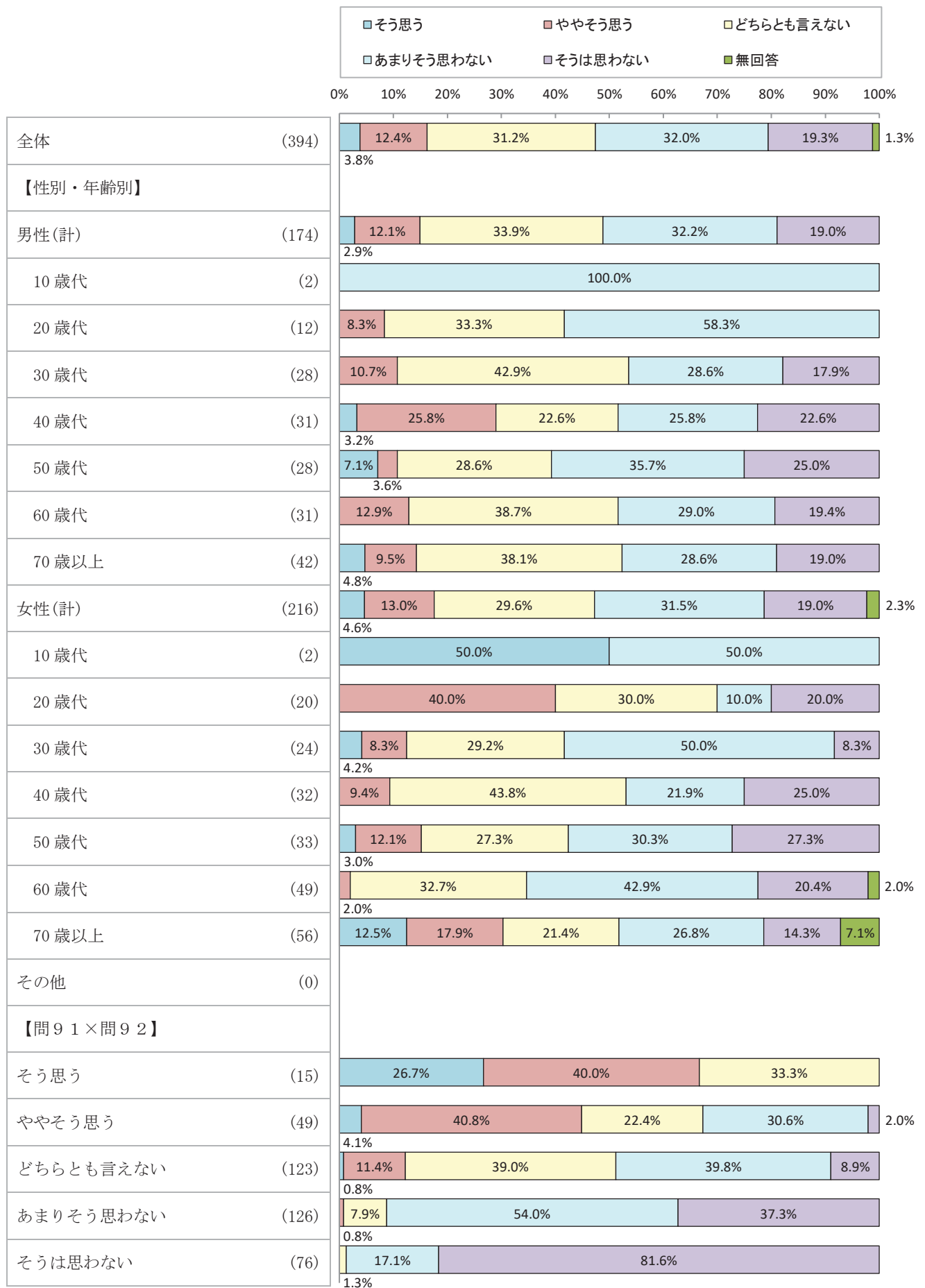
宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思うかについては、「そう思う」が3.8%、「ややそう思う」が12.4%で、これらを合わせた【そう思う(計)】が16.2%であった。一方、「あまりそう思わない」31.2%、「そうは思わない」32.0%で、これらを合わせた【そう思わない(計)】は63.2%であった。(図IV-24-3)

<参考>

性別・年齢別で見ると、【そう思う(計)】は<女性/10歳代>が50.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が40.0%と続いている。【そう思わない(計)】は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が63.3%と続いている。(図IV-24-4)

問9 2 (自転車走行空間(自転車レーンなど)は十分に整備されていると思いますか)の回答と比較して見ると、「そう思う」(問9 1)×「そう思う」(問9 2)が26.7%、「ややそう思う」(問9 1)×「ややそう思う」(問9 2)が40.8%であった。一方、「あまりそう思わない」(問9 1)×「あまりそう思わない」(問9 2)が54.0%、「そうは思わない」(問9 1)×「そうは思わない」(問9 2)が81.6%であった。(図IV-24-4)

<図IV-24-4>性別・年齢別／問9 2

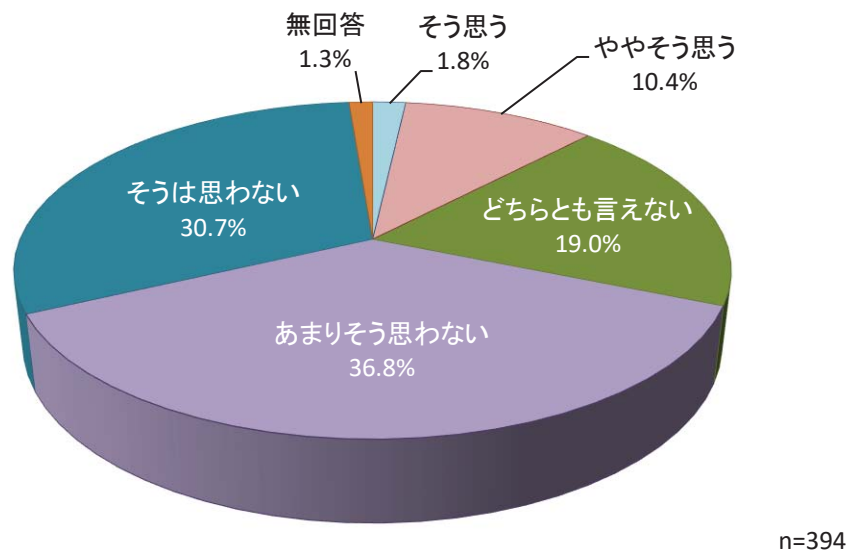


(3) 自転車走行空間（自転車レーンなど）の整備状況

◇ 「あまりそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた【そうは思わない（計）】が7割弱

問9 2	自転車走行空間（自転車レーンなど）は十分に整備されていると思いますか。	(○は1つ)
		n=394
1	そう思う	1.8%
2	ややそう思う	10.4%
3	どちらとも言えない	19.0%
4	あまりそう思わない	36.8%
5	そうは思わない	30.7%
	(無回答)	1.3%

<図IV-24-5>全体

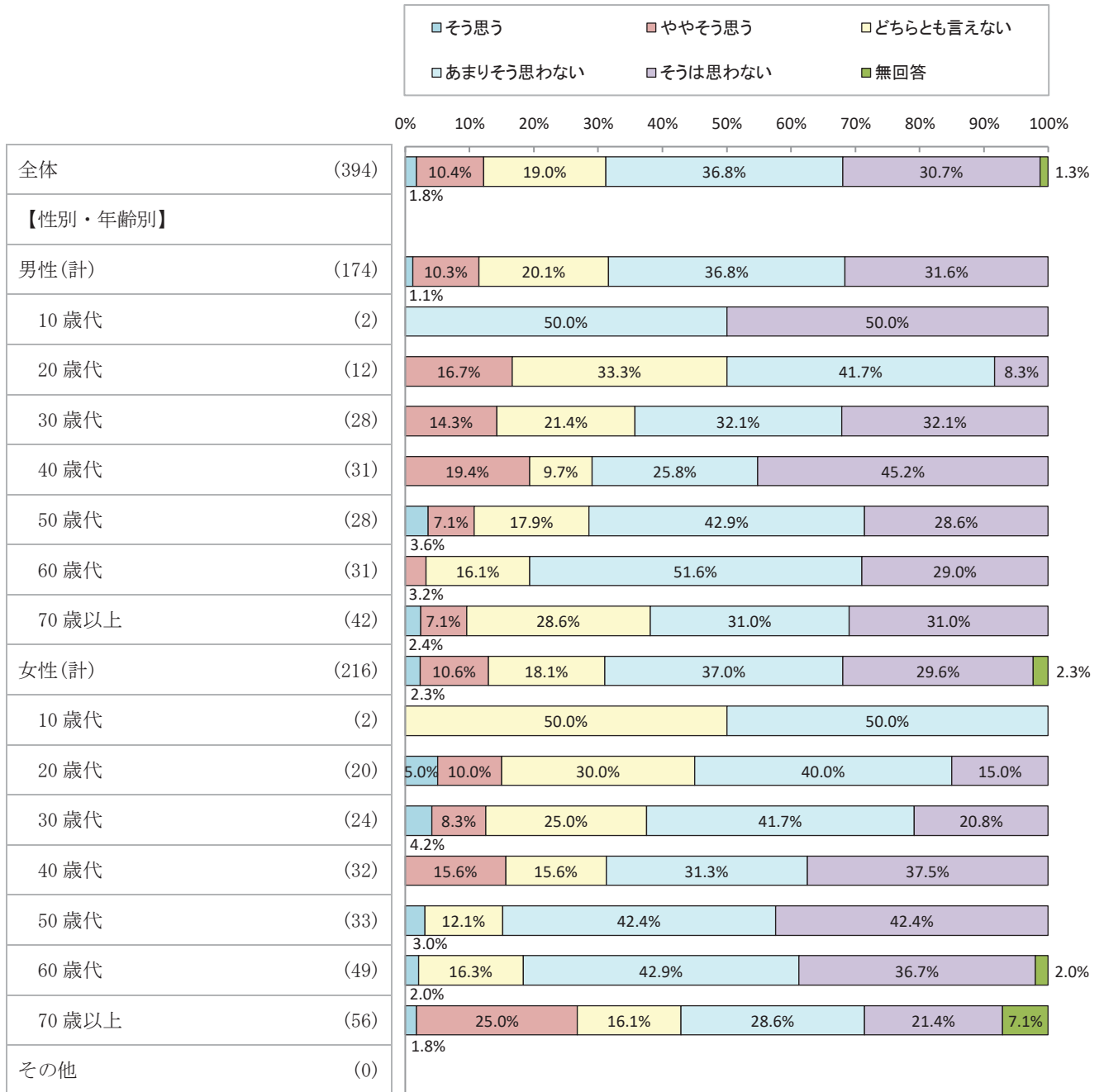


自転車走行空間（自転車レーンなど）の整備状況については、「そう思う」が1.8%、「ややそう思う」が10.4%で、これらを合わせた【そう思う（計）】が12.2%であった。一方、「あまりそう思わない」36.8%、「そうは思わない」30.7%で、これらを合わせた【思わない（計）】は67.5%であった。（図IV-24-5）

<参考>

性別・年齢別で見ると、【そう思う（計）】は<女性/70歳以上>が26.8%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が19.4%と続いている。一方、【思わない（計）】は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が84.8%と続いている。（図IV-24-6）

<図IV-24-6>性別・年齢別



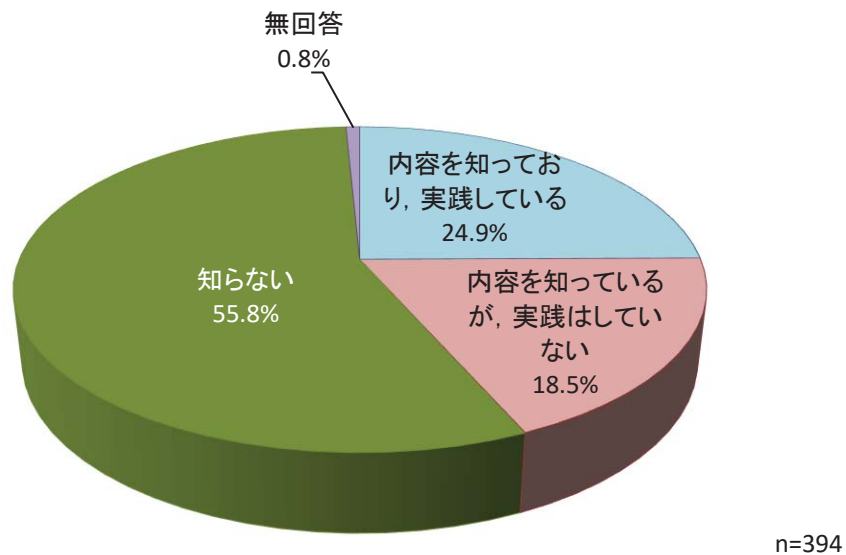
25. 「もったいない運動」について

(1) 「もったいない運動」の認知度

◇ 「知らない」が5割半ば

問93 宇都宮市で取り組んでいるもったいない運動を知っていますか。		(○は1つ)
		n=394
1	内容を知っており、実践している	24.9%
2	内容を知っているが、実践はしていない	18.5%
3	知らない	55.8%
	(無回答)	0.8%

<図IV-25-1>全体



「もったいない運動」の認知度については、「知らない」が55.8%で最も高く、次いで「内容を知っており、実践している」が24.9%、「内容を知っているが、実践はしていない」が18.5%であった。(図IV-25-1)

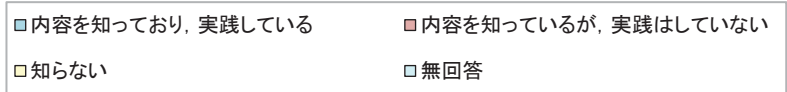
<参考>

性別・年齢別で見ると、「知らない」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が75.0%と続いている。「内容を知っており、実践している」は<女性/70歳以上>が44.6%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が42.9%と続いている。(図IV-25-2)

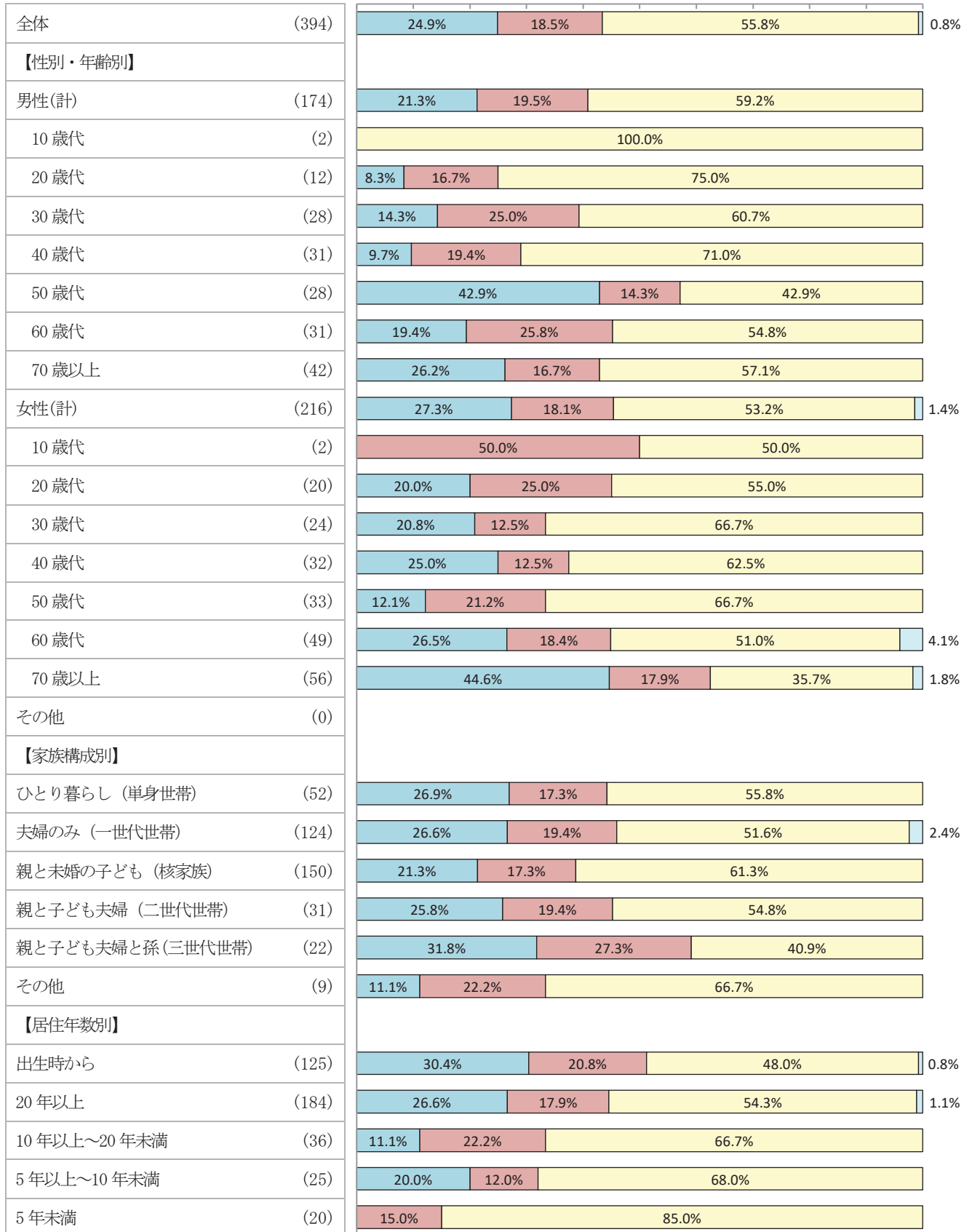
家族構成別で見ると、「知らない」は<その他>を除くと<親と未婚の子ども(核家族)>が61.3%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が55.8%と続いている。「内容を知っており、実践している」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が31.8%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が26.9%と続いている。(図IV-25-2)

居住年数別で見ると、「知らない」は<5年未満>が85.0%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が68.0%と続いている。「内容を知っており、実践している」は<出生時から>が30.4%で最も高く、<20年以上>が26.6%と続いている。(図IV-25-2)

<図IV-25-2>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

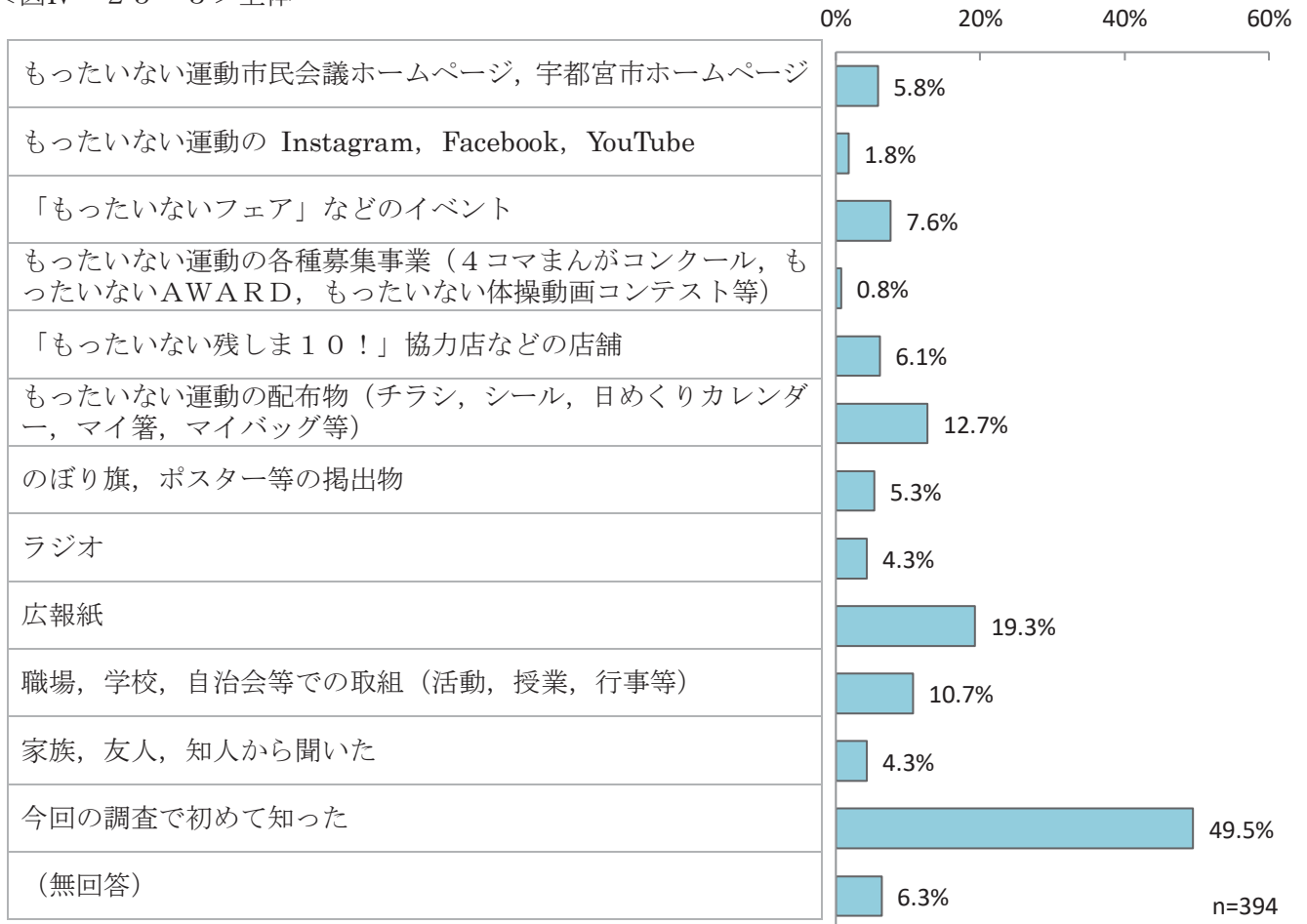


(2) 「もったいない運動」を知った経緯

◇ 「今回の調査で初めて知った」が約5割

問94	「もったいない運動」について、どのようにして知りましたか。	(〇はいくつでも)
		n=394
1	もったいない運動市民会議ホームページ，宇都宮市ホームページ	5.8%
2	もったいない運動の Instagram, Facebook, YouTube	1.8%
3	「もったいないフェア」などのイベント	7.6%
4	もったいない運動の各種募集事業（4コマまんがコンクール，もったいないA WARD，もったいない体操動画コンテスト等）	0.8%
5	「もったいない残しま10！」協力店などの店舗	6.1%
6	もったいない運動の配布物（チラシ，シール，日めくりカレンダー，マイ箸， マイバッグ等）	12.7%
7	のぼり旗，ポスター等の掲出物	5.3%
8	ラジオ	4.3%
9	広報紙	19.3%
10	職場，学校，自治会等での取組（活動，授業，行事等）	10.7%
11	家族，友人，知人から聞いた	4.3%
12	今回の調査で初めて知った	49.5%
	（無回答）	6.3%

<図IV-25-3>全体



「もったいない運動」を知った経緯については、「今回の調査で初めて知った」が49.5%で最も高く、「広報紙」が19.3%と続いている。(図IV-25-3)

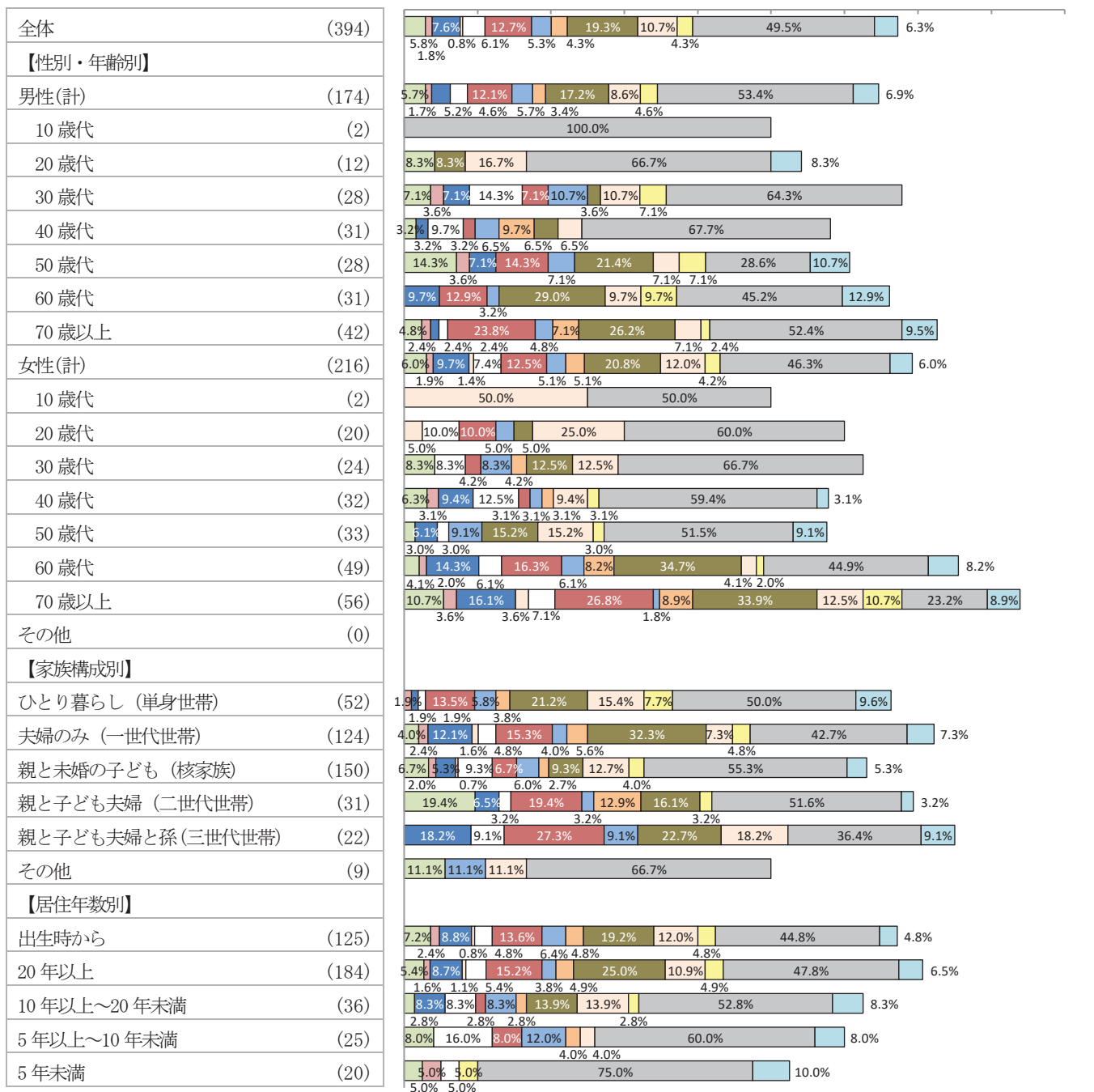
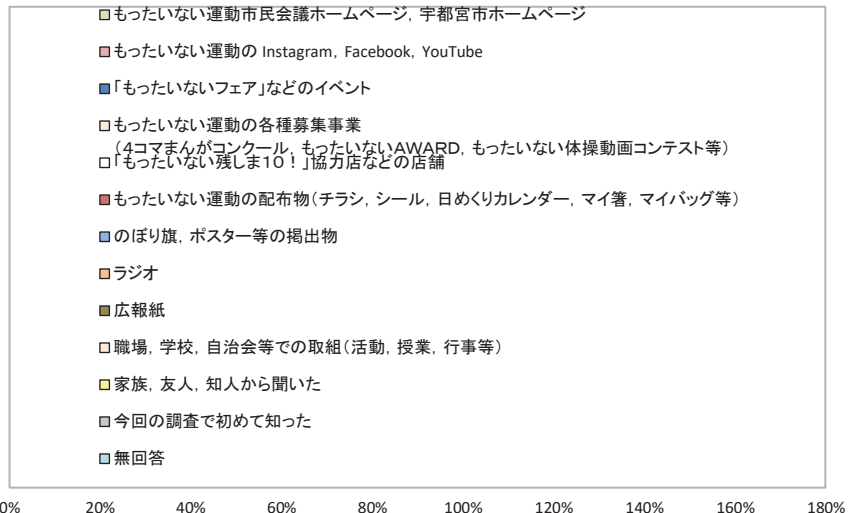
<参考>

性別・年齢別で見ると、「今回の調査で初めて知った」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が67.7%と続いている。「広報紙」は<女性/60歳代>が34.7%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が33.9%と続いている。(図IV-25-4)

家族構成別で見ると、「今回の調査で初めて知った」は<その他>を除くと<親と未婚の子ども(核家族)>が55.3%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が51.6%と続いている。「広報紙」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>が32.3%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が22.7%と続いている。(図IV-25-4)

居住年数別で見ると、「今回の調査で初めて知った」は<5年未満>が75.0%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が60.0%と続いている。「広報紙」は<20年以上>が25.0%で最も高く、<出生時から>が19.2%と続いている。(図IV-25-4)

<図IV-25-4>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

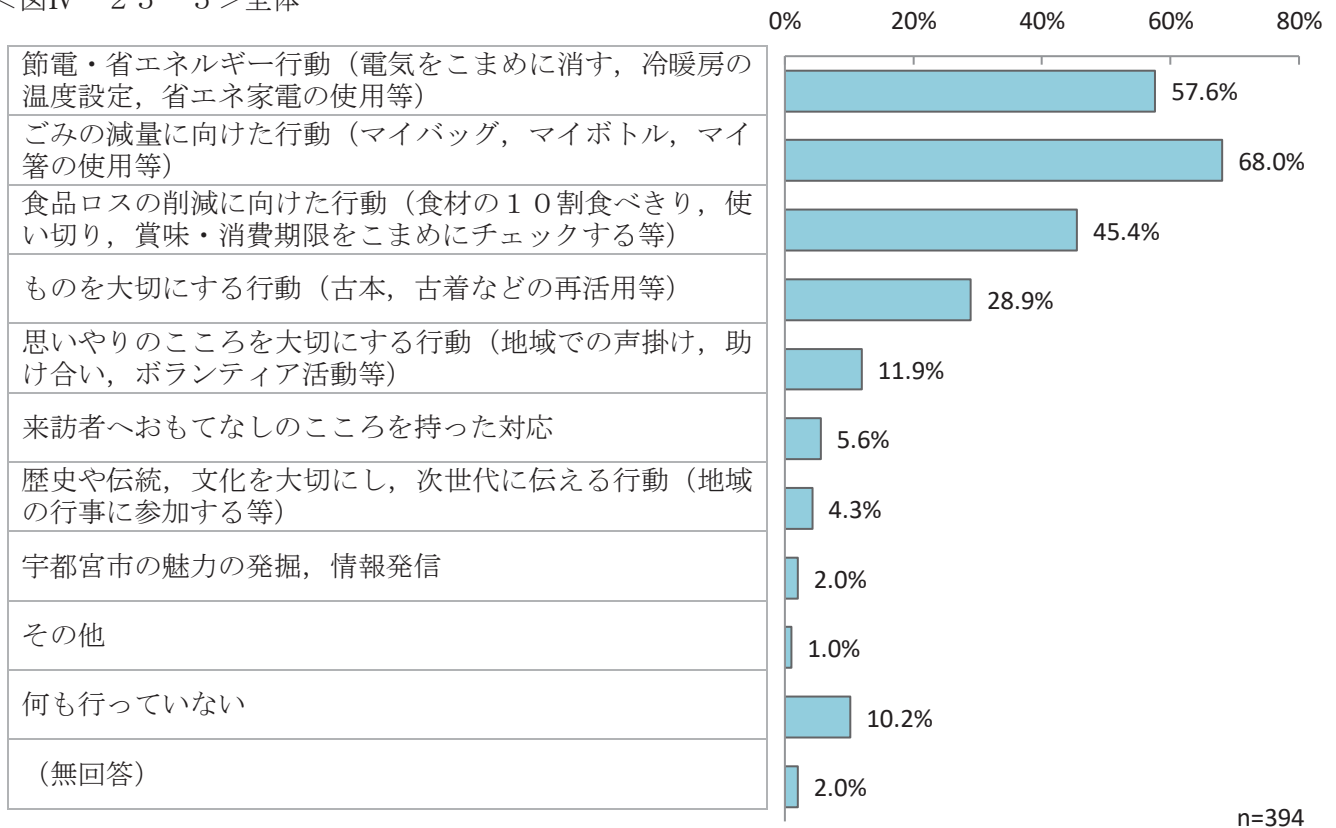


(3) 日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」

◇ 「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等）」が7割弱

問95 あなたが日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」はどのようなことですか。		(〇はいくつでも)
		n=394
1	節電・省エネルギー行動 (電気をこまめに消す, 冷暖房の温度設定, 省エネ家電の使用等)	57.6%
2	ごみの減量に向けた行動 (マイバッグ, マイボトル, マイ箸の使用等)	68.0%
3	食品ロスの削減に向けた行動 (食材の10割食べきり, 使い切り, 賞味・消費期限をこまめにチェックする等)	45.4%
4	ものを大切にしている行動 (古本, 古着などの再活用等)	28.9%
5	思いやりのところを大切にしている行動 (地域での声掛け, 助け合い, ボランティア活動等)	11.9%
6	来訪者へおもてなしのこころを持った対応	5.6%
7	歴史や伝統, 文化を大切にし, 次世代に伝える行動 (地域の行事に参加する等)	4.3%
8	宇都宮市の魅力の発掘, 情報発信	2.0%
9	その他	1.0%
10	何も行っていない	10.2%
	(無回答)	2.0%

<図IV-25-5>全体



日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ，マイボトル，マイ箸の使用等）」が68.0%で最も高く、「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電の使用等）」が57.6%，と続いている。（図IV-25-5）

<参考>

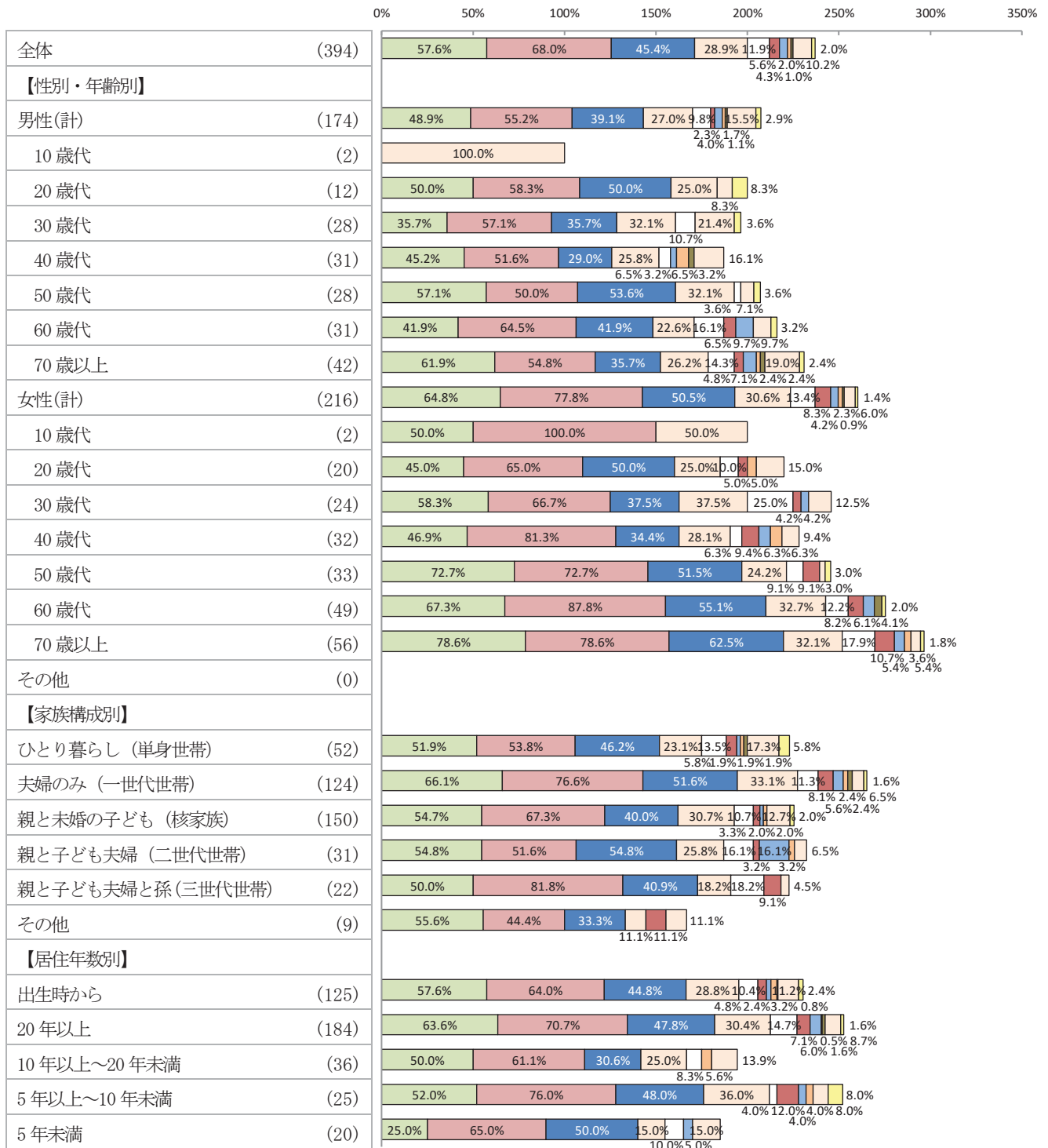
性別・年齢別で見ると、「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ，マイボトル，マイ箸の使用等）」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く，次いで<女性/60歳代>が87.8%と続いている。「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電の使用等）」は<女性/70歳以上>が78.6%で最も高く，次いで<女性/50歳代>が72.7%と続いている。（図IV-25-6）

家族構成別で見ると、「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ，マイボトル，マイ箸の使用等）」は<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が81.8%で最も高く，次いで<夫婦のみ（一世帯世帯）>が76.6%と続いている。「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電の使用等）」は<夫婦のみ（一世帯世帯）>が66.1%で最も高く，次いで<その他>を除くと<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が54.8%と続いている。（図IV-25-6）

居住年数別で見ると、「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ，マイボトル，マイ箸の使用等）」は<5年以上～10年未満>が76.0%で最も高く，次いで<20年以上>が70.7%と続いている。「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す，冷暖房の温度設定，省エネ家電の使用等）」は<20年以上>が63.6%で最も高く，次いで<出生時から>が57.6%と続いている。（図IV-25-6）

<図IV-25-6>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

- 節電・省エネルギー行動(電気をこまめに消す, 冷暖房の温度設定, 省エネ家電の使用等)
- ごみの減量に向けた行動(マイバッグ, マイボトル, マイ箸の使用等)
- 食品ロスの削減に向けた行動(食材の10割食べきり, 使い切り, 賞味・消費期限をこまめにチェックする等)
- ものを大切に作る行動(古本, 古着などの再利用等)
- 思いやりのところを大切に作る行動(地域での声掛け, 助け合い, ボランティア活動等)
- 来訪者へおもてなしのこころを持った対応
- 歴史や伝統, 文化を大切にし, 次世代に伝える行動(地域の行事に参加する等)
- 宇都宮市の魅力の発掘, 情報発信
- その他
- 何も行ってない
- 無回答



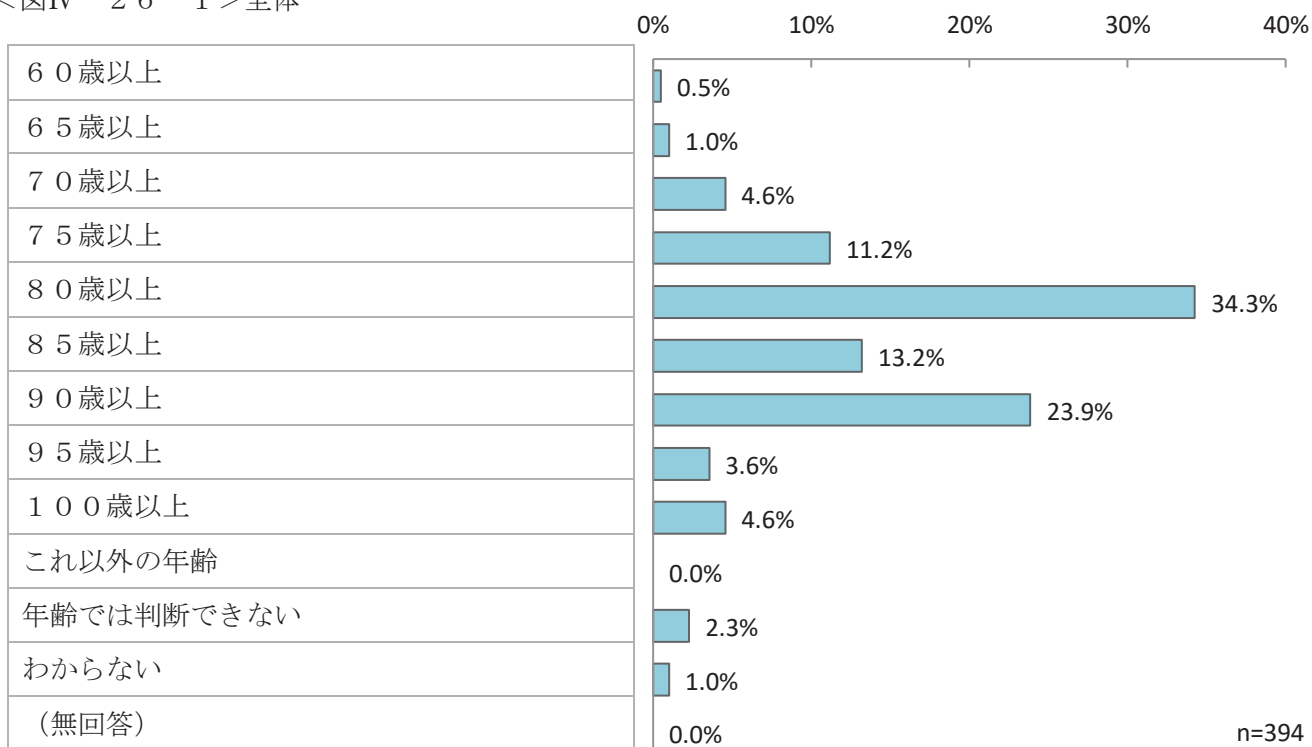
26. 敬老事業について

(1) 「長寿」にふさわしい年齢は何歳から

◇ 「80歳以上」が3割半ば

問96 「長寿」にふさわしい年齢は何歳からだと思いますか。		(○は1つ)
		n=394
1	60歳以上	0.5%
2	65歳以上	1.0%
3	70歳以上	4.6%
4	75歳以上	11.2%
5	80歳以上	34.3%
6	85歳以上	13.2%
7	90歳以上	23.9%
8	95歳以上	3.6%
9	100歳以上	4.6%
10	これ以外の年齢	0.0%
11	年齢では判断できない	2.3%
12	わからない	1.0%
	(無回答)	0.0%

<図IV-26-1>全体



「長寿」にふさわしい年齢は何歳からについては、「80歳以上」が34.3%で最も高く、「90歳以上」が23.9%と続いている。(図IV-26-1)

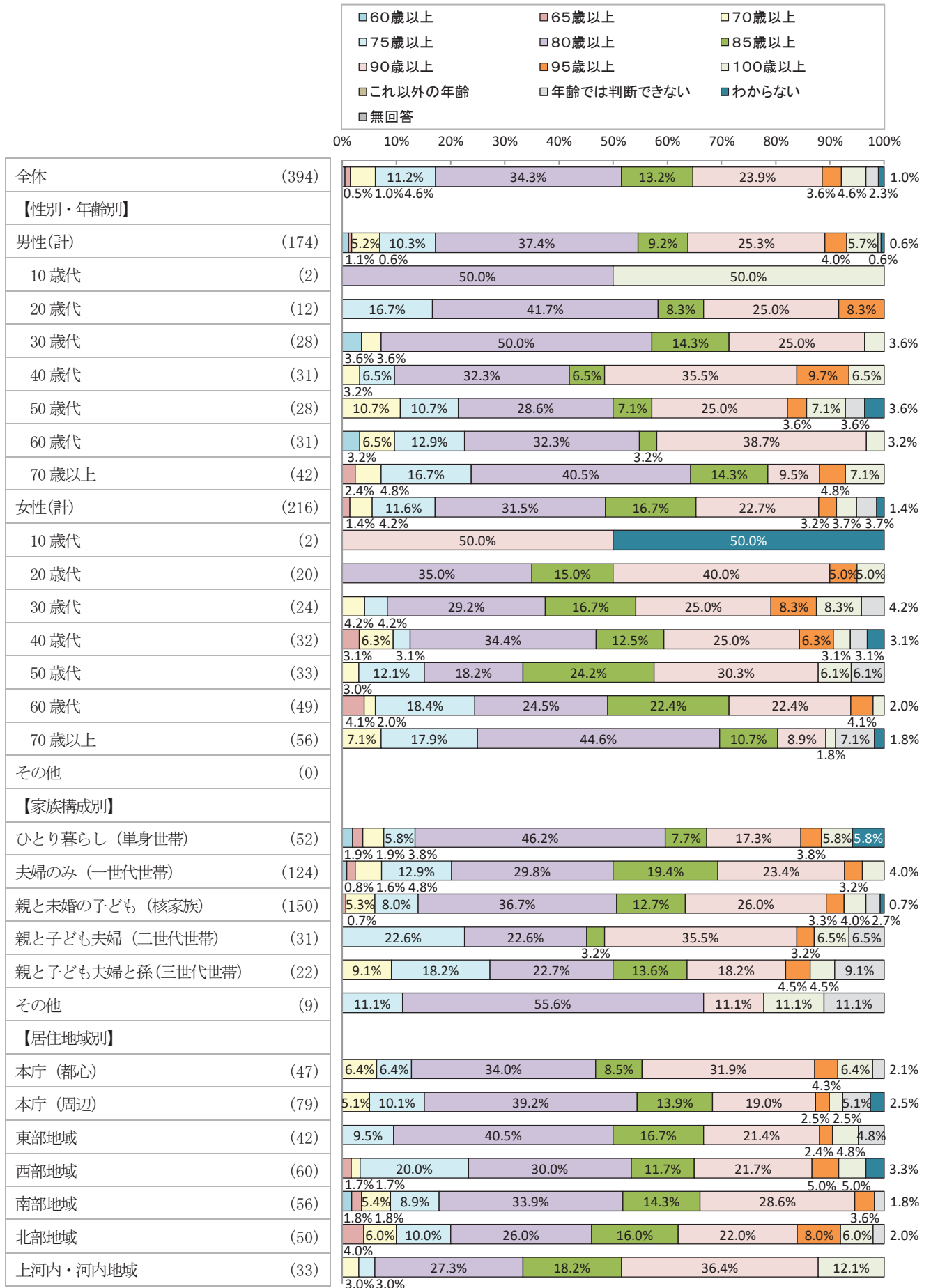
<参考>

性別・年齢別で見ると、「80歳以上」は<男性/10歳代>、<男性/30歳代>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が44.6%と続いている。「90歳以上」は<女性/10歳代>が50.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が40.0%と続いている。(図IV-26-2)

家族構成別で見ると、「80歳以上」は<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が46.2%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が36.7%と続いている。「90歳以上」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が35.5%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が26.0%と続いている。(図IV-26-2)

居住地域別で見ると、「80歳以上」は<東部地域>が40.5%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が39.2%と続いている。「90歳以上」は<上河内・河内地域>が36.4%で最も高く、<本庁(都心)>が31.9%と続いている。(図IV-26-2)

<図IV-26-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

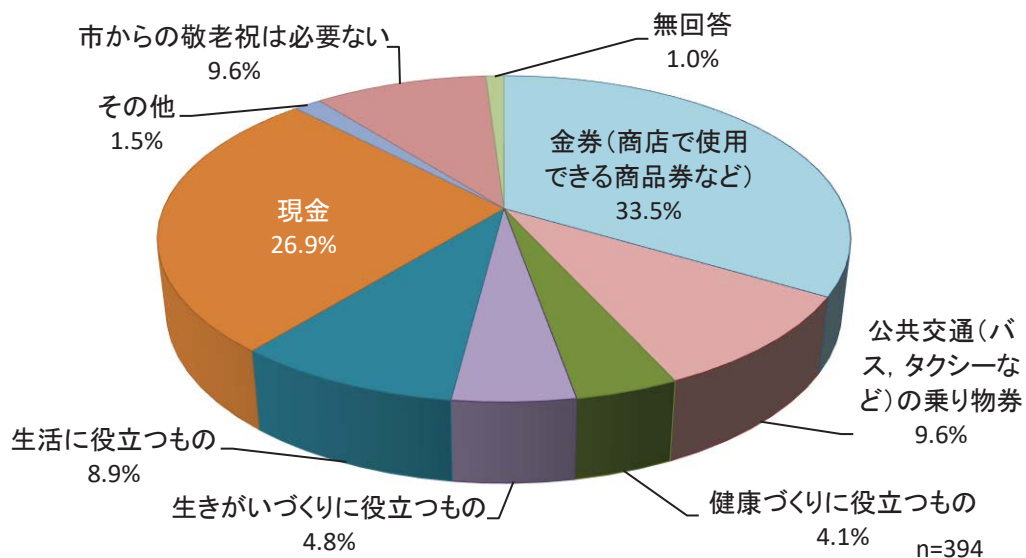


(2) 市からの敬老祝として望むもの

◇ 「金券（商店で使用できる商品券など）」が3割半ば

問 9 7 市からの敬老祝として、どのようなものが望ましいと思いますか。		(○は1つ)
		n=394
1	金券（商店で使用できる商品券など）	33.5%
2	公共交通（バス、タクシーなど）の乗り物券	9.6%
3	健康づくりに役立つもの	4.1%
4	生きがいに役立つもの	4.8%
5	生活に役立つもの	8.9%
6	現金	26.9%
7	その他	1.5%
8	市からの敬老祝は必要ない	9.6%
	(無回答)	1.0%

<図IV-26-3>全体



市からの敬老祝として望むものについては、「金券（商店で使用できる商品券など）」が 33.5%で最も高く、次いで「現金」が 26.9%、「公共交通（バス、タクシーなど）の乗り物券」、「市からの敬老祝は必要ない」が 9.6%であった。（図IV-26-3）

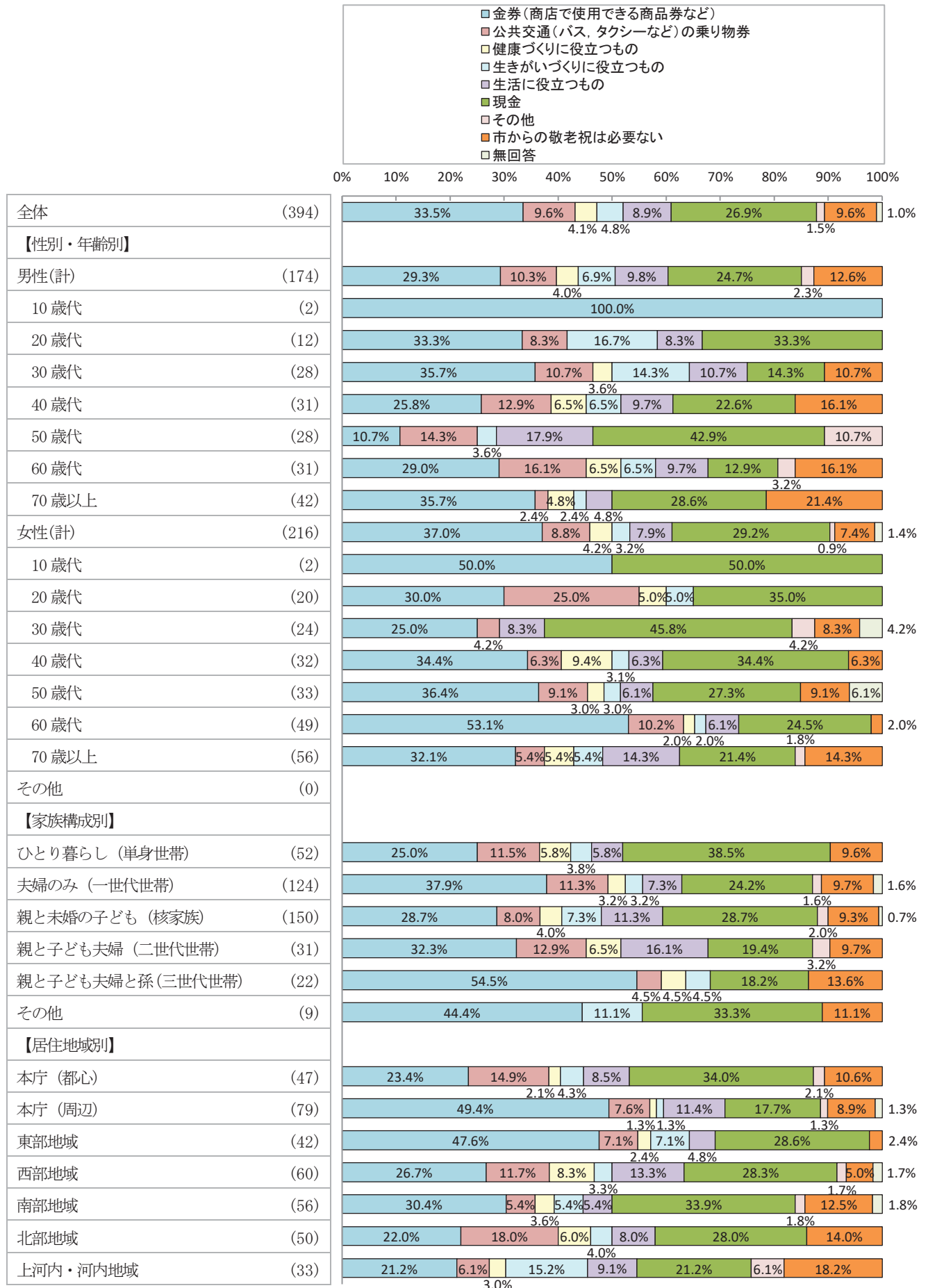
<参考>

性別・年齢別で見ると、「金券（商店で使用できる商品券など）」は<男性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が 53.1%と続いている。「現金」は<女性/10歳代>が 50.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が 45.8%と続いている。（図IV-26-4）

家族構成別で見ると、「金券（商店で使用できる商品券など）」は<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が 54.5%で最も高く、次いで<その他>を除くと<夫婦のみ（一世帯世帯）>が 37.9%と続いている。「現金」は<ひとり暮らし（単身世帯）>が 38.5%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と未婚の子ども（核家族）>が 28.7%と続いている。（図IV-26-4）

居住地域別で見ると、「金券（商店で使用できる商品券など）」は<本庁（周辺）>が 49.4%で最も高く、次いで<東部地域>が 47.6%と続いている。「現金」は<本庁（都心）>が 34.0%で最も高く、<南部地域>が 33.9%と続いている。（図IV-26-4）

<図IV-26-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

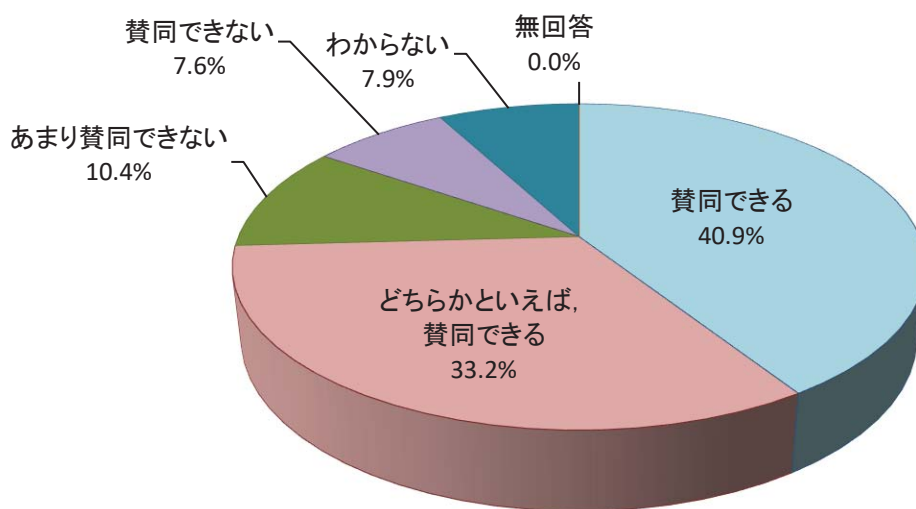


(3) 敬老祝金の贈呈制度のかわりに福祉サービスを充実する考え

◇「賛同できる」と「どちらかといえば、賛同できる」を合わせた【賛同できる(計)】が7割半ば

問98	現在、宇都宮市では、満80歳、90歳、100歳の高齢者に敬老祝金を贈呈していますが、高齢化が進行していることや平均寿命が延びていることに対応して、この制度を見直して、そのかわりに「高齢者が安心して暮らせる」ための福祉サービスの充実に力を入れていくという考え方があります。この考え方について、あなたはどのように考えますか。(○は1つ)	n=394
1	賛同できる	40.9%
2	どちらかといえば、賛同できる	33.2%
3	あまり賛同できない	10.4%
4	賛同できない	7.6%
5	わからない	7.9%
	(無回答)	0.0%

<図IV-26-5>全体



n=394

敬老祝金の贈呈制度のかわりに福祉サービスを充実する考え方については、「賛同できる」が40.9%、「どちらかといえば、賛同できる」が33.2%で、これらを合わせた【賛同できる(計)】が74.1%であった。一方、「あまり賛同できない」10.4%、「賛同できない」7.6%で、これらを合わせた【賛同できない(計)】は18.0%であった。(図IV-26-5)

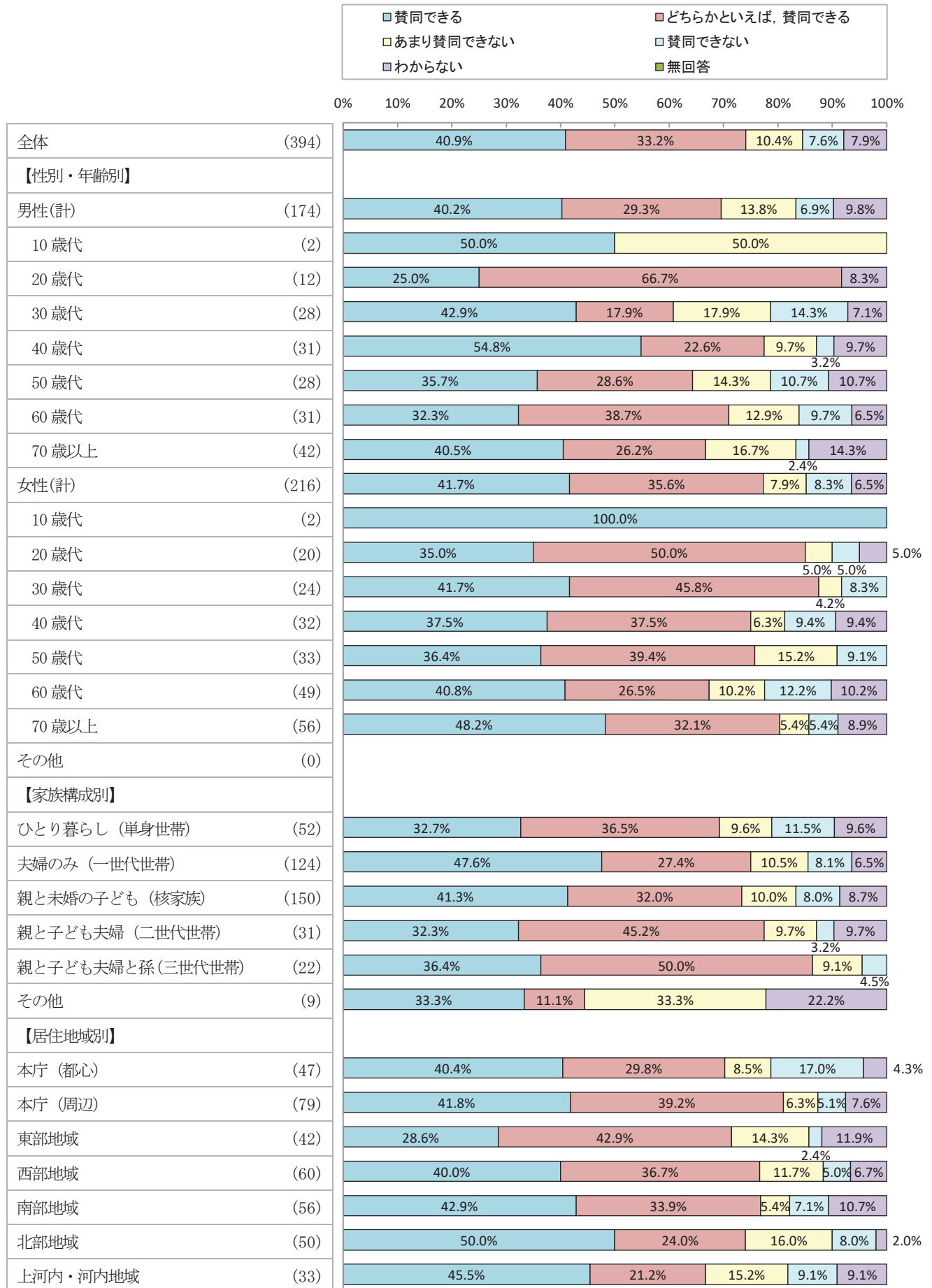
<参考>

性別・年齢別で見ると、【賛同できる(計)】は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が91.7%と続いている。一方、【賛同できない(計)】は<男性/10歳代>が50.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が32.2%と続いている。(図IV-26-6)

家族構成別で見ると、【賛同できる(計)】は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が86.4%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が77.5%と続いている。一方、【賛同できない(計)】は<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が21.1%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が18.6%と続いている。(図IV-26-6)

居住地域別で見ると、【賛同できる(計)】は<本庁(周辺)>が81.0%で最も高く、次いで<南部地域>が76.8%と続いている。一方、【賛同できない(計)】は<本庁(都心)>が25.5%で最も高く、<上河内・河内地域>が24.3%と続いている。(図IV-26-6)

<図IV-26-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



27. GAP（農業生産工程管理）の認知度等について

(1) 農産物について、その生産過程のどのような取組が重要か

◇「残留農薬や異物混入等の食品安全の確保に関する取組」が約8割

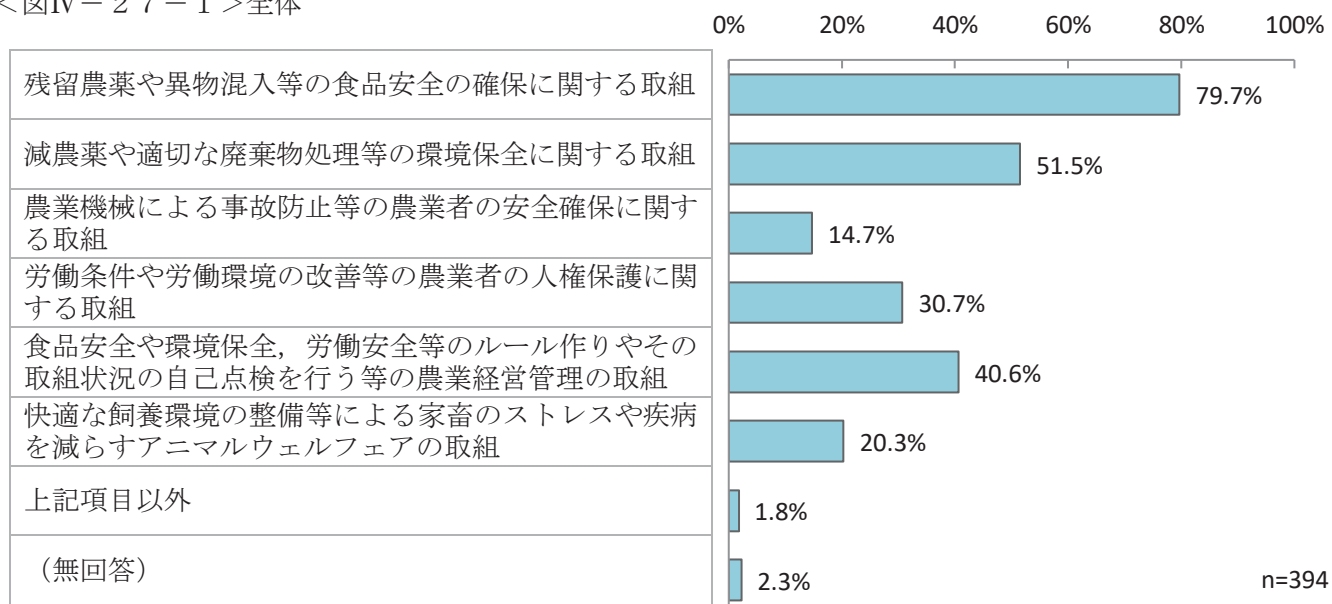
問99 普段購入する野菜や果物、精肉等の農産物や、加工食品、外食の原材料となっている農産物について、その生産過程においてどのような取組が行われていることが重要だと考えますか。

(○は3つまで)

n=394

1	残留農薬や異物混入等の食品安全の確保に関する取組	79.7%
2	減農薬や適切な廃棄物処理等の環境保全に関する取組	51.5%
3	農業機械による事故防止等の農業者の安全確保に関する取組	14.7%
4	労働条件や労働環境の改善等の農業者の人権保護に関する取組	30.7%
5	食品安全や環境保全、労働安全等のルール作りやその取組状況の自己点検を行う等の農業経営管理の取組	40.6%
6	快適な飼養環境の整備等による家畜のストレスや疾病を減らすアニマルウェルフェアの取組	20.3%
7	上記項目以外	1.8%
	(無回答)	2.3%

<図IV-27-1>全体



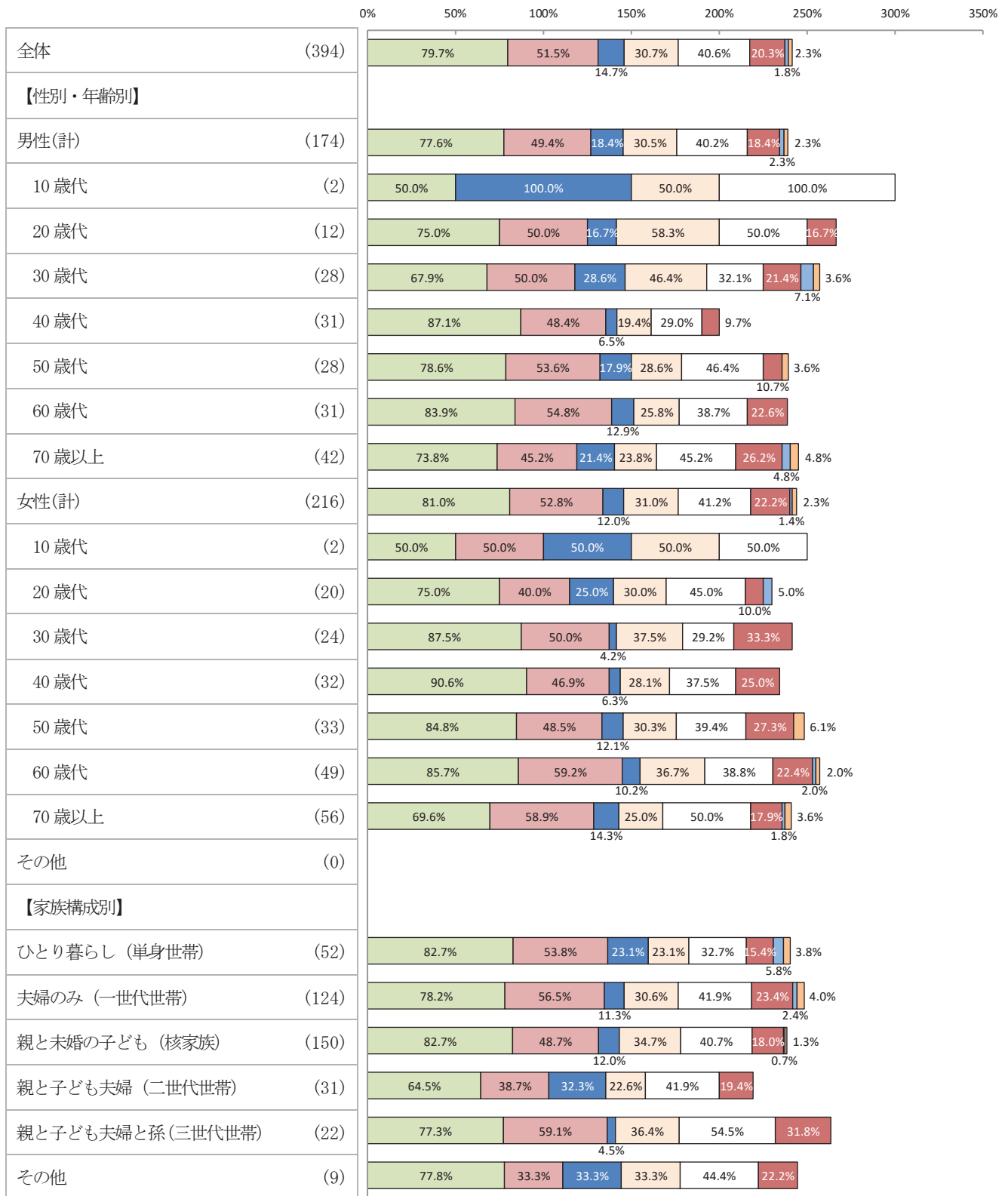
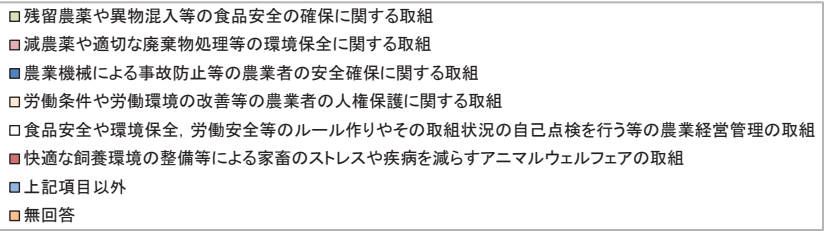
農産物について、その生産過程のどのような取組が重要かについては、「残留農薬や異物混入等の食品安全の確保に関する取組」が79.7%で最も高く、「減農薬や適切な廃棄物処理等の環境保全に関する取組」が51.5%と続いている。(図IV-27-1)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「残留農薬や異物混入等の食品安全の確保に関する取組」は<女性/40歳代>が90.6%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が87.5%と続いている。「減農薬や適切な廃棄物処理等の環境保全に関する取組」は<女性/60歳代>が59.2%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が58.9%と続いている。(図IV-27-2)

家族構成別で見ると、「残留農薬や異物混入等の食品安全の確保に関する取組」は<ひとり暮らし(単身世帯)>、<親と未婚の子ども(核家族)>がいずれも82.7%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が78.2%と続いている。「減農薬や適切な廃棄物処理等の環境保全に関する取組」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が59.1%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が56.5%と続いている。(図IV-27-2)

<図IV-27-2>性別・年齢別／家族構成別



(2) GAPについての認知度及び情報入手機会

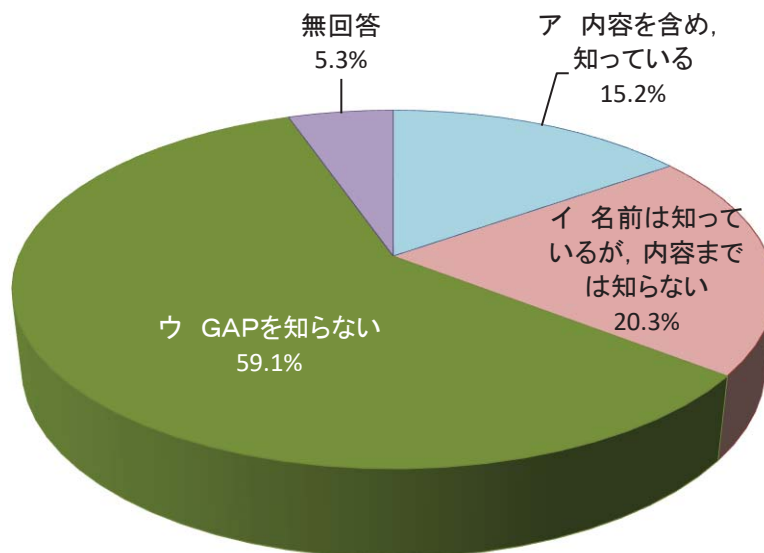
◇ 「ウ GAPを知らない」が約6割

問100 GAP（農業生産工程管理）は、農業者が農産物を作る際に、適正な手順や物の管理を行い、食品安全や環境保全、労働安全、人権保護等を確保する取組みです。あなたがGAPについてどの程度知っているかをア～ウから選択し、どのような機会を通じて知ったかを、1～4のうち、あてはまるものを全て選択してください。（○は1つ）

n=394

1	ア 内容を含め、知っている	15.2%
2	イ 名前は知っているが、内容までは知らない	20.3%
3	ウ GAPを知らない	59.1%
	(無回答)	5.3%

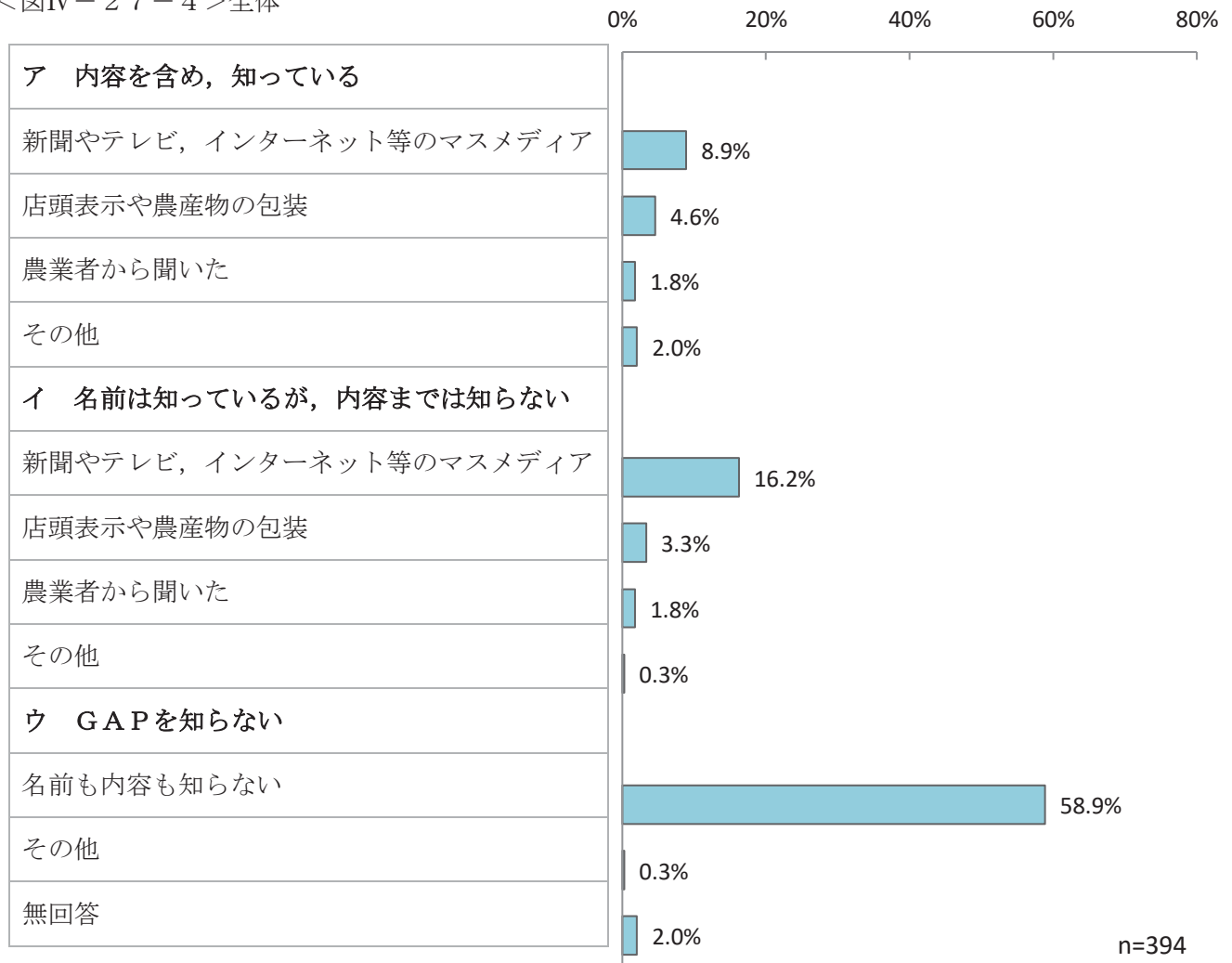
<図IV-27-3>全体



n=394

GAPについての認知度については、「ウ GAPを知らない」が59.1%で最も高く、次いで「イ 名前は知っているが、内容までは知らない」が20.3%、「ア 内容を含め、知っている」が15.2%であった。（図IV-27-3）

<図IV-27-4>全体



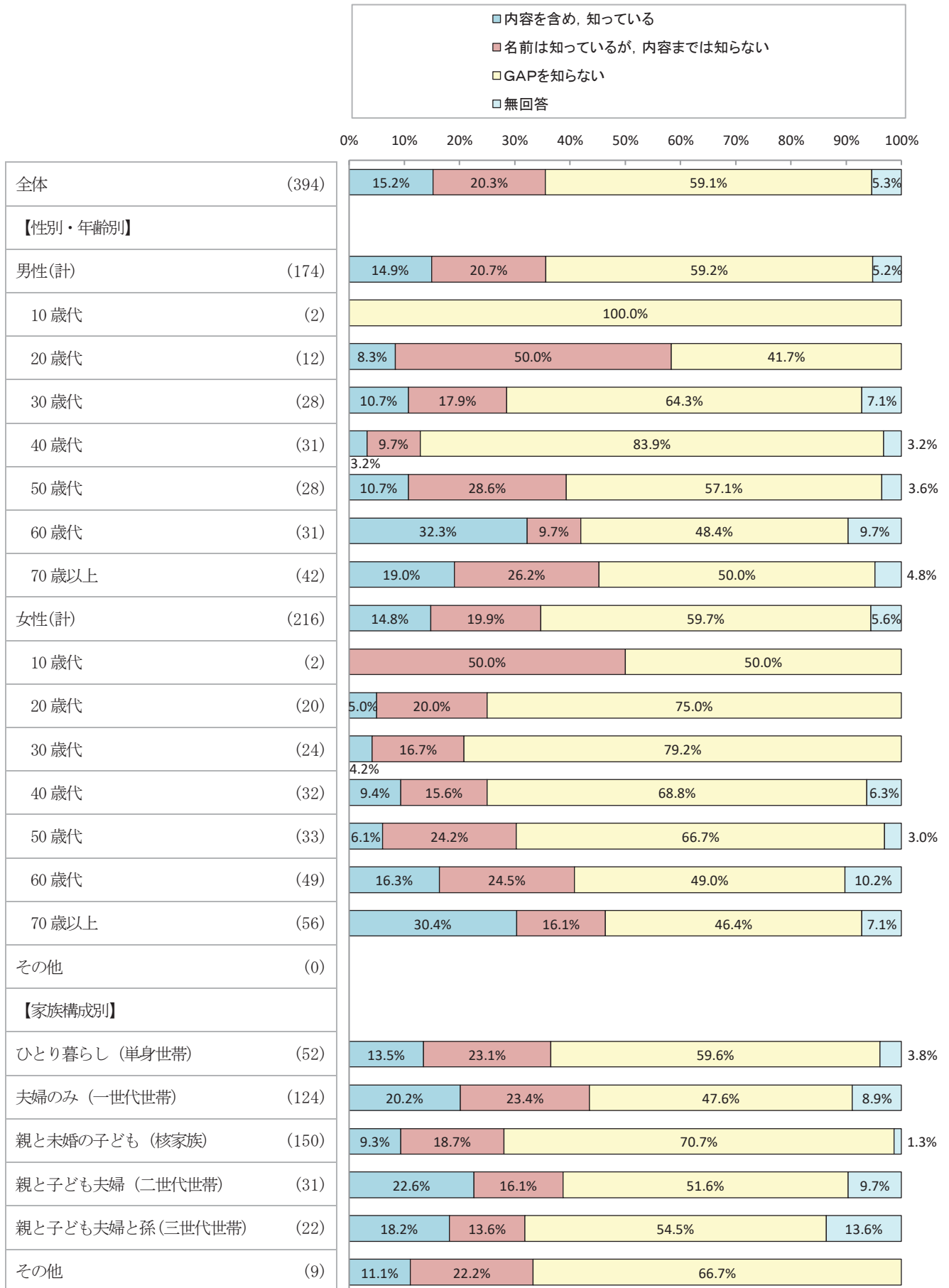
GAPについての情報入手機会については、「ウ GAPを知らない」、「名前も内容も知らない」が58.9%で最も高く、次いで「イ 名前は知っているが、内容までは知らない」、「新聞やテレビ、インターネット等のマスメディア」が16.2%、「ア 内容を含め、知っている」、「新聞やテレビ、インターネット等のマスメディア」が8.9%と続いている。(図IV-27-4)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「ウ GAPを知らない」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が83.9%と続いている。一方、「ア 内容を含め、知っている」は<男性/60歳代>が32.3%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が30.4%と続いている。(図IV-27-5)

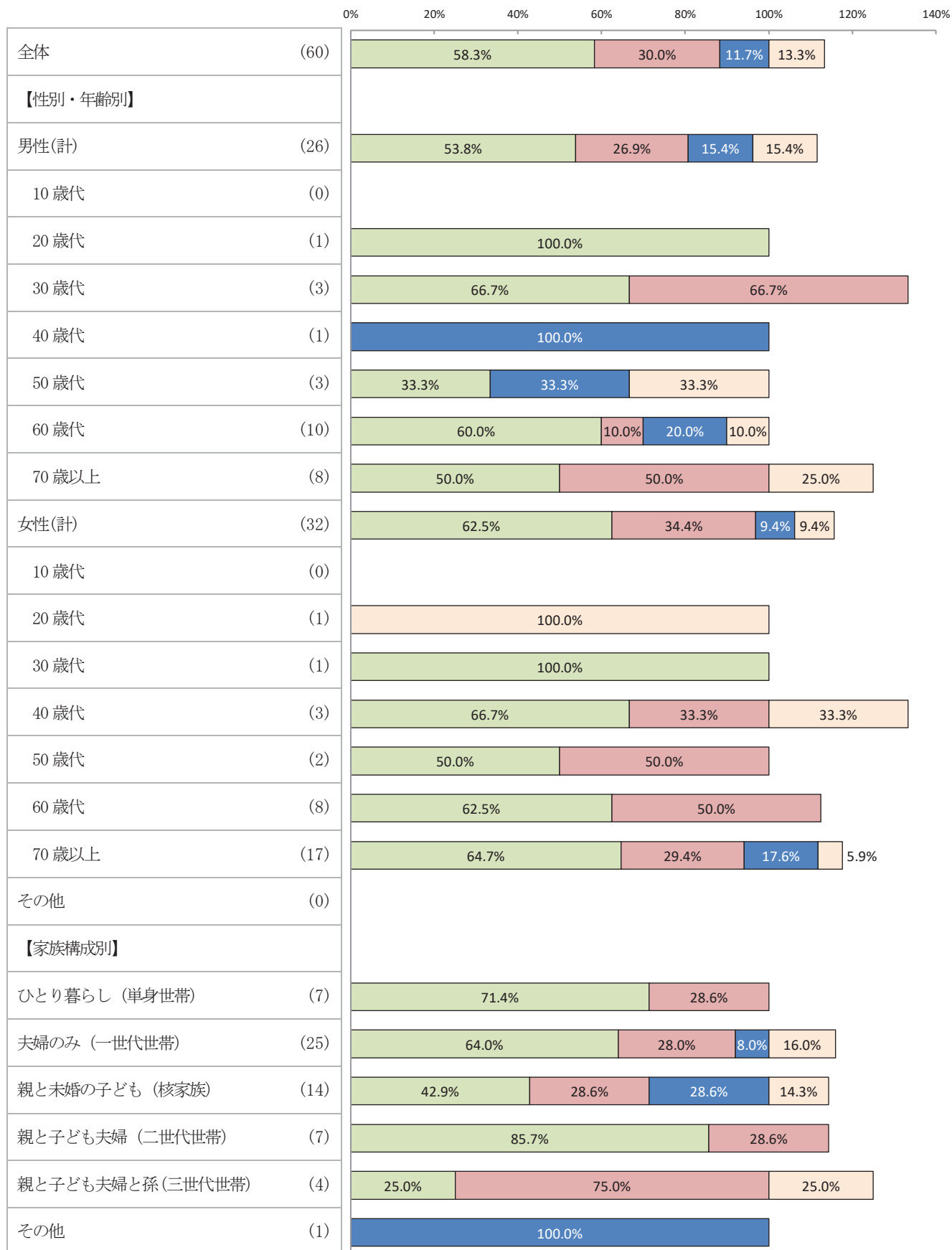
家族構成別で見ると、「ウ GAPを知らない」は<親と未婚の子ども(核家族)>が70.7%で最も高く、次いで<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が59.6%と続いている。一方、「ア 内容を含め、知っている」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が22.6%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が20.2%と続いている。(図IV-27-5)

<図IV-27-5>性別・年齢別／家族構成別



<図IV-27-5-ア>性別・年齢別／家族構成別

□新聞やテレビ、インターネット等のマスメディア □店頭表示や農産物の包装 ■農業者から聞いた □その他



<図IV-27-5-イ>性別・年齢別／家族構成別

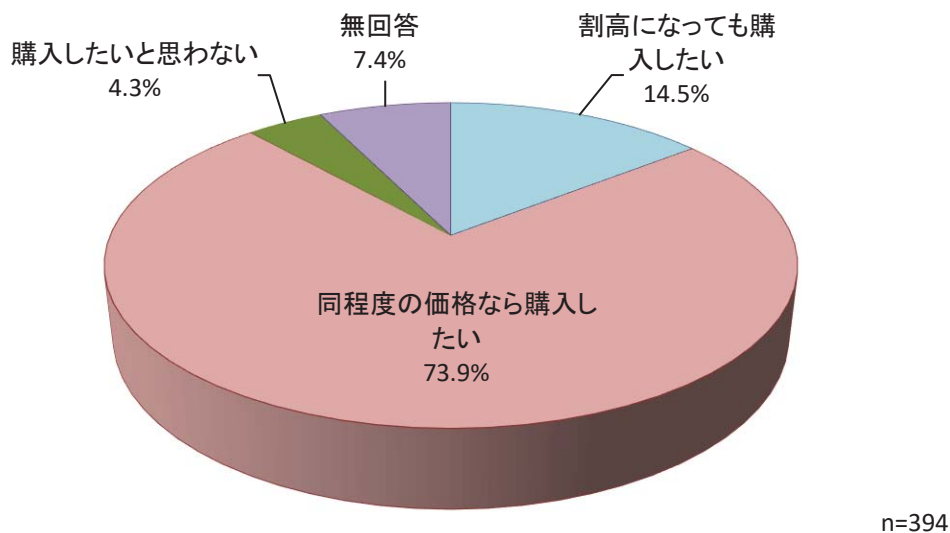


(3) GAPの取組みを行って生産された農産物の購買意欲

◇ 「同程度の価格なら購入したい」が7割半ば

問101	あなたはGAPの取組みを行って生産された農産物を購入したいと思いますか。1つ選択し、その理由を記載してください。	(○は1つ)
		n=394
1	割高になっても購入したい	14.5%
2	同程度の価格なら購入したい	73.9%
3	購入したいと思わない	4.3%
	(無回答)	7.4%

<図IV-27-6>全体



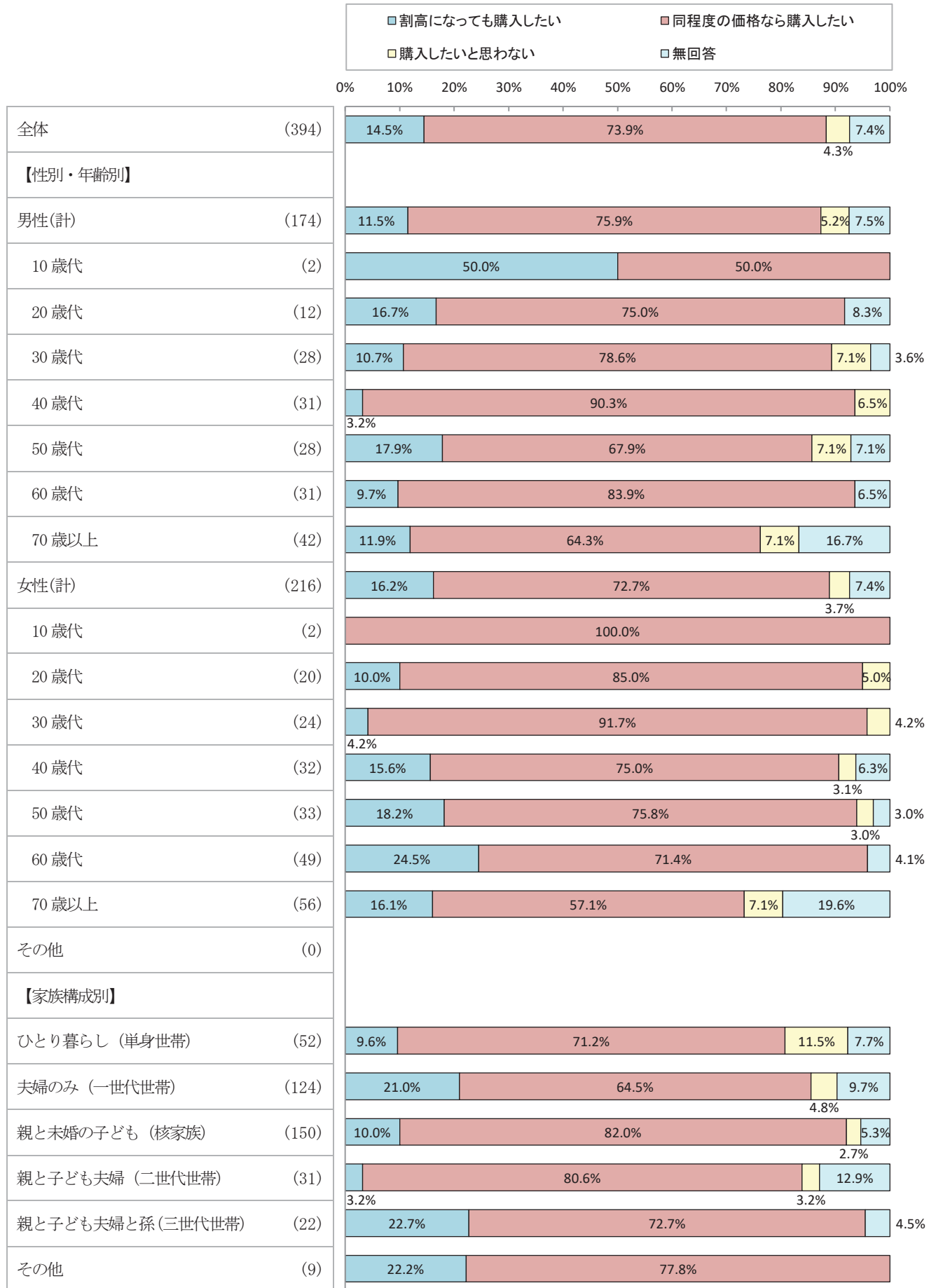
GAPの取組みを行って生産された農産物の購買意欲については、「同程度の価格なら購入したい」が73.9%で最も高く、次いで「割高になっても購入したい」が14.5%、「購入したいと思わない」が4.3%であった。(図IV-27-6)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「同程度の価格なら購入したい」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が91.7%と続いている。一方、「購入したいと思わない」は<男性/30歳代>、<男性/50歳代>、<男性/70歳以上>、<女性/70歳以上>がいずれも7.1%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が6.5%と続いている。(図IV-27-7)

家族構成別で見ると、「同程度の価格なら購入したい」は<親と未婚の子ども(核家族)>が82.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が80.6%と続いている。一方、「購入したいと思わない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が11.5%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が4.8%と続いている。(図IV-27-7)

<図IV-27-7>性別・年齢別／家族構成別



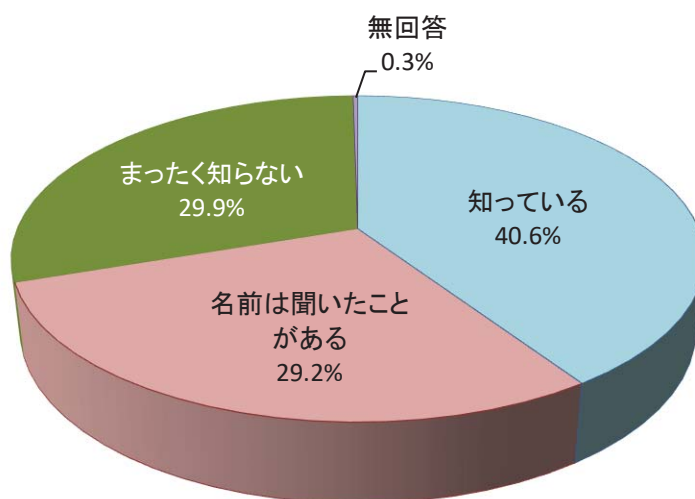
28. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

(1)「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度

◇「知っている」が約4割

問102 ご家庭で使用する「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」について知っていますか。（○は1つ）		n=394
1	知っている	40.6%
2	名前は聞いたことがある	29.2%
3	まったく知らない	29.9%
	(無回答)	0.3%

<図IV-28-1>全体



n=394

「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度については、「知っている」が40.6%で最も高く、次いで「まったく知らない」が29.9%、「名前は聞いたことがある」が29.2%であった。（図IV-28-1）

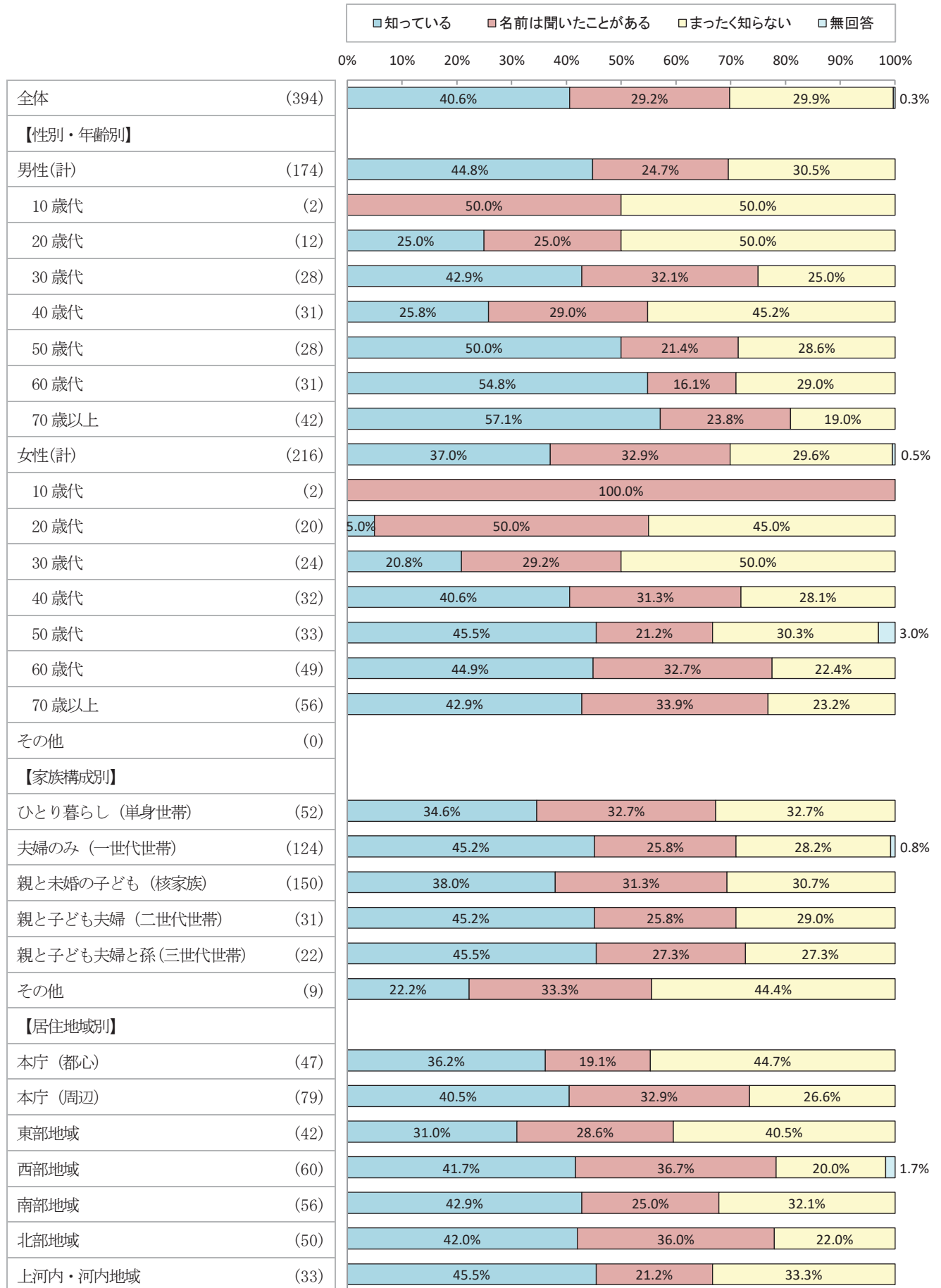
<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<男性/70歳以上>が57.1%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が54.8%と続いている。一方、「まったく知らない」は<男性/10歳代>、<男性/20歳代>、<女性/30歳代>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が45.2%と続いている。（図IV-28-2）

家族構成別で見ると、「知っている」は<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が45.5%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世帯世帯）>、<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>がいずれも45.2%と続いている。一方、「まったく知らない」は<その他>を除くと<ひとり暮らし（単身世帯）>が32.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が30.7%と続いている。（図IV-28-2）

居住地域別で見ると、「知っている」は<上河内・河内地域>が45.5%で最も高く、次いで<南部地域>が42.9%と続いている。一方、「まったく知らない」は<本庁（都心）>が44.7%で最も高く、次いで<東部地域>が40.5%と続いている。（図IV-28-2）

<図IV-28-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

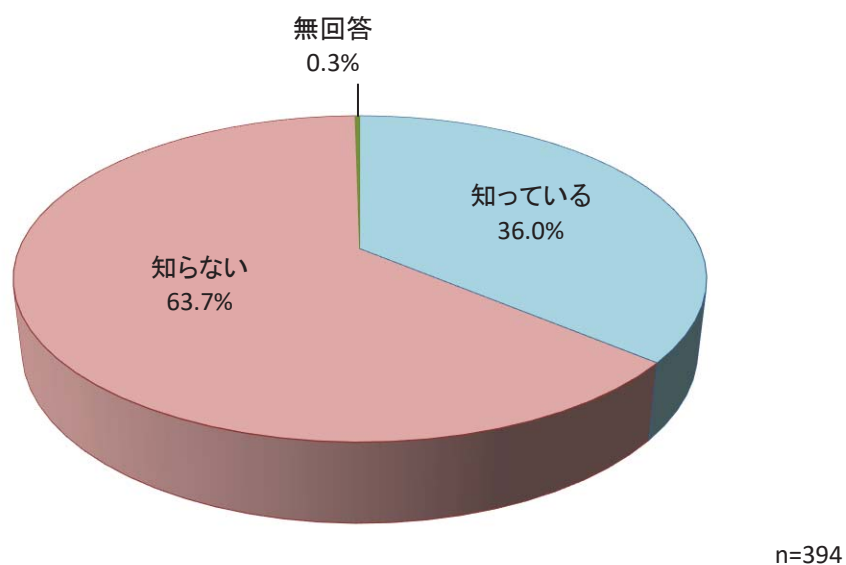


(2) 雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度

◇ 「知らない」が6割半ば

問103 貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度があることを知っていますか。		(○は1つ)
		n=394
1	知っている	36.0%
2	知らない	63.7%
	(無回答)	0.3%

<図IV-28-3>全体



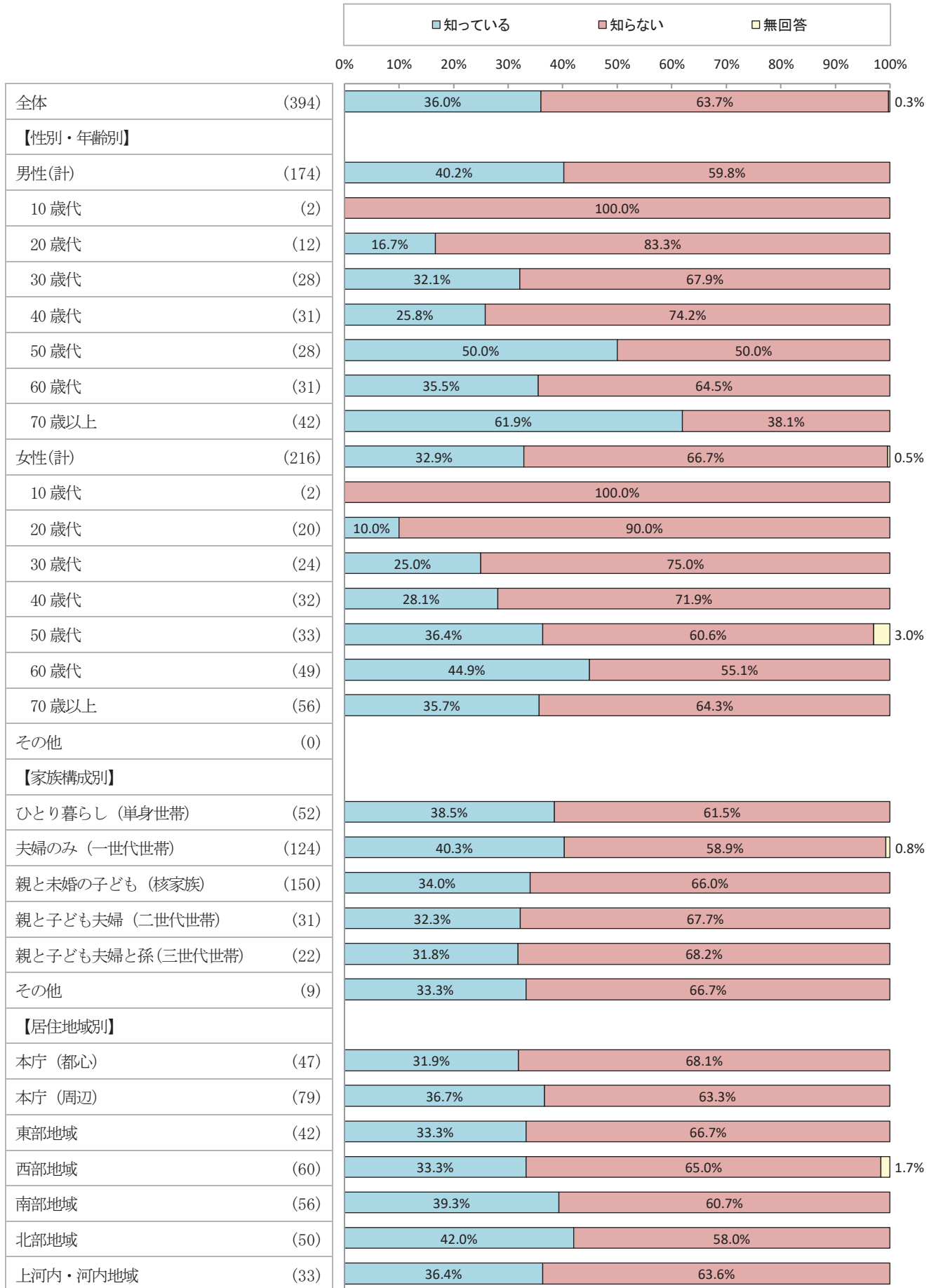
雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度については、「知っている」が36.0%、「知らない」が63.7%であった。(図IV-28-3)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<男性/70歳以上>が61.9%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が50.0%と続いている。一方、「知らない」は<男性/10歳代>、<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が90.0%と続いている。(図IV-28-4)

家族構成別で見ると、「知っている」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が40.3%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が38.5%と続いている。一方、「知らない」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が68.2%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世代世帯)>が67.7%と続いている。(図IV-28-4)

<図IV-28-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

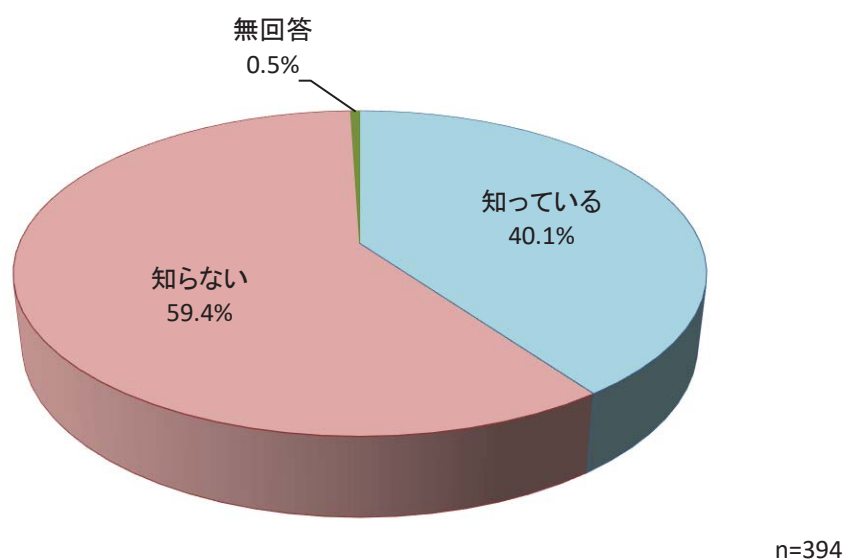


(3) 雨水貯留・浸透施設の設置効果についての認知度

◇ 「知らない」が約6割

問104	貯留タンクや浸透ますなどを設置することが浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながることを知っていますか。	(○は1つ)
		n=394
1	知っている	40.1%
2	知らない	59.4%
	(無回答)	0.5%

<図IV-28-5>全体



雨水貯留・浸透施設の設置効果についての認知度については、「知っている」が40.1%、「知らない」が59.4%であった。(図IV-28-5)

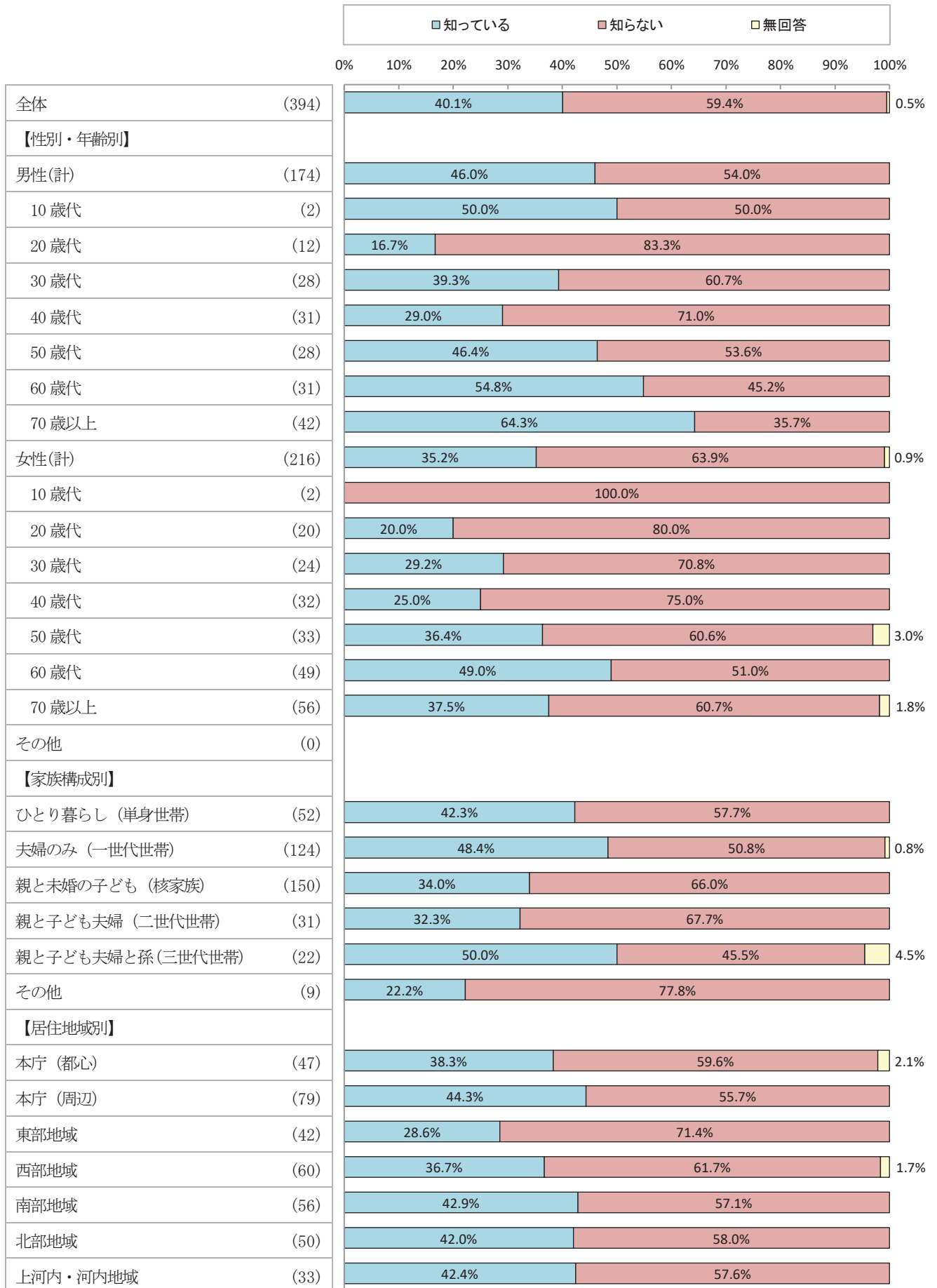
<参考>

性別・年齢別で見ると、「知っている」は<男性/70歳以上>が64.3%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が54.8%と続いている。一方、「知らない」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が83.3%と続いている。(図IV-28-6)

家族構成別で見ると、「知っている」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が50.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が48.4%と続いている。一方、「知らない」は<その他>を除くと<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が67.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が66.0%と続いている。(図IV-28-6)

居住地域別で見ると、「知っている」は<本庁(周辺)>が44.3%で最も高く、次いで<南部地域>が42.9%と続いている。一方、「知らない」は<東部地域>が71.4%で最も高く、次いで<西部地域>が61.7%と続いている。(図IV-28-6)

<図IV-28-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

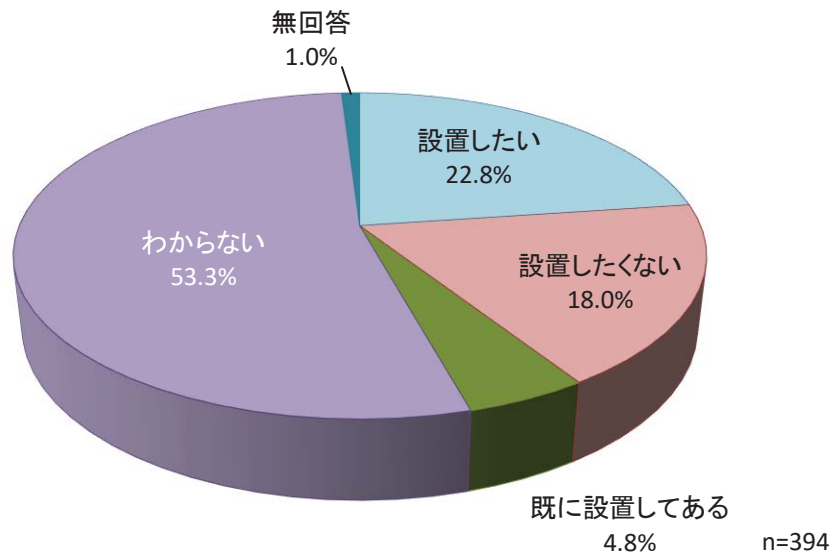


(4) 雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うか

◇ 「わからない」が5割強

問105	貯留タンクや浸透ますを設置したいと思いますか。	(○は1つ)
		n=394
1	設置したい	22.8%
2	設置したくない	18.0%
3	既に設置してある	4.8%
4	わからない	53.3%
	(無回答)	1.0%

<図IV-28-7>全体



雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うかについては、「わからない」が53.3%で最も高く、次いで「設置したい」が22.8%、「設置したくない」が18.0%であった。(図IV-28-7)

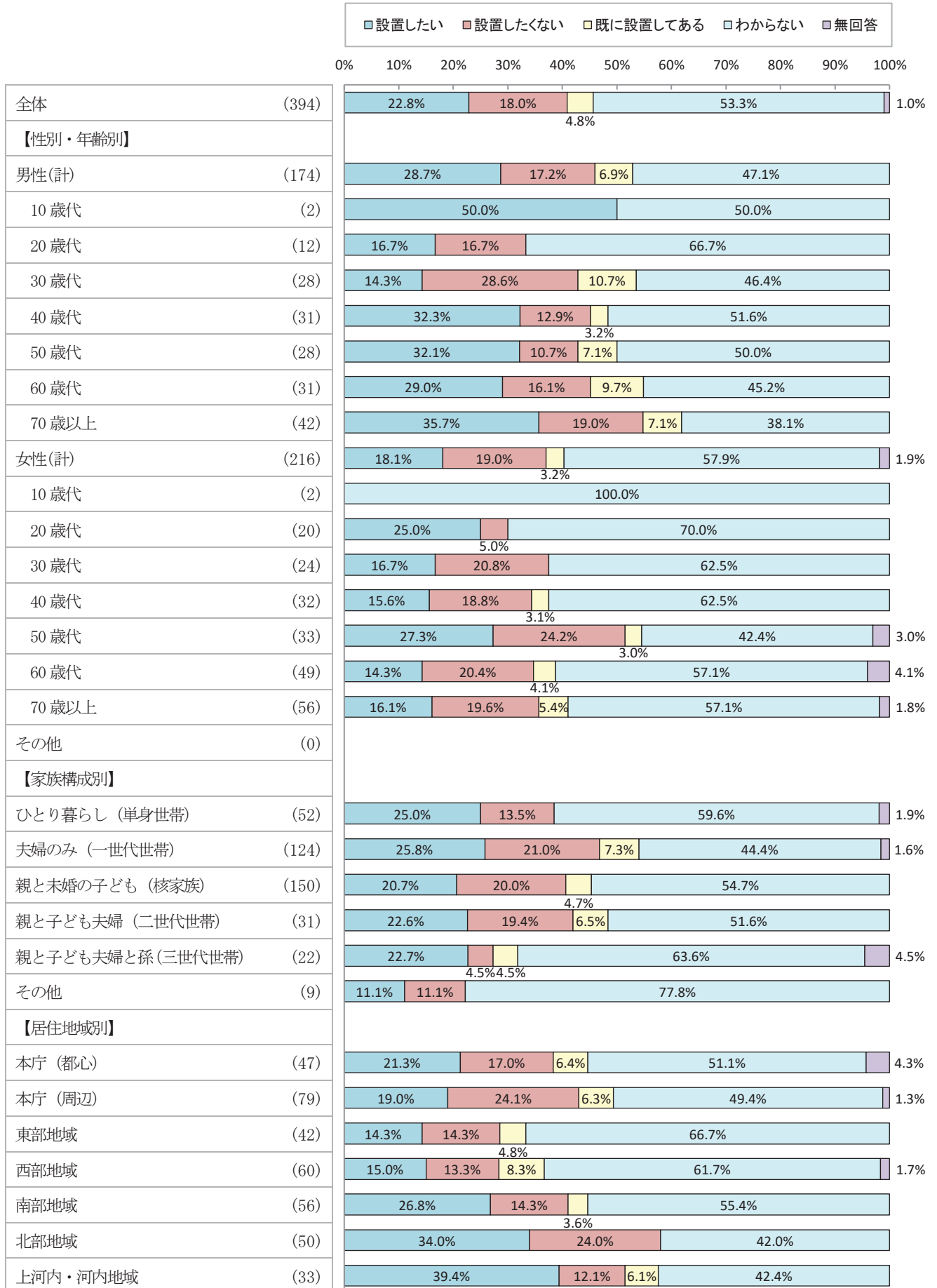
<参考>

性別・年齢別で見ると、「設置したい」は<男性/10歳代>が50.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が35.7%と続いている。一方、「設置したくない」は<男性/30歳代>が28.6%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が24.2%と続いている。(図IV-28-8)

家族構成別で見ると、「設置したい」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が25.8%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が25.0%と続いている。一方、「設置したくない」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が21.0%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が20.0%と続いている。(図IV-28-8)

居住地域別で見ると、「設置したい」は<上河内・河内地域>が39.4%で最も高く、次いで<北部地域>が34.0%と続いている。一方、「設置したくない」は<本庁(周辺)>が24.1%で最も高く、次いで<北部地域>が24.0%と続いている。(図IV-28-8)

<図IV-28-8>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

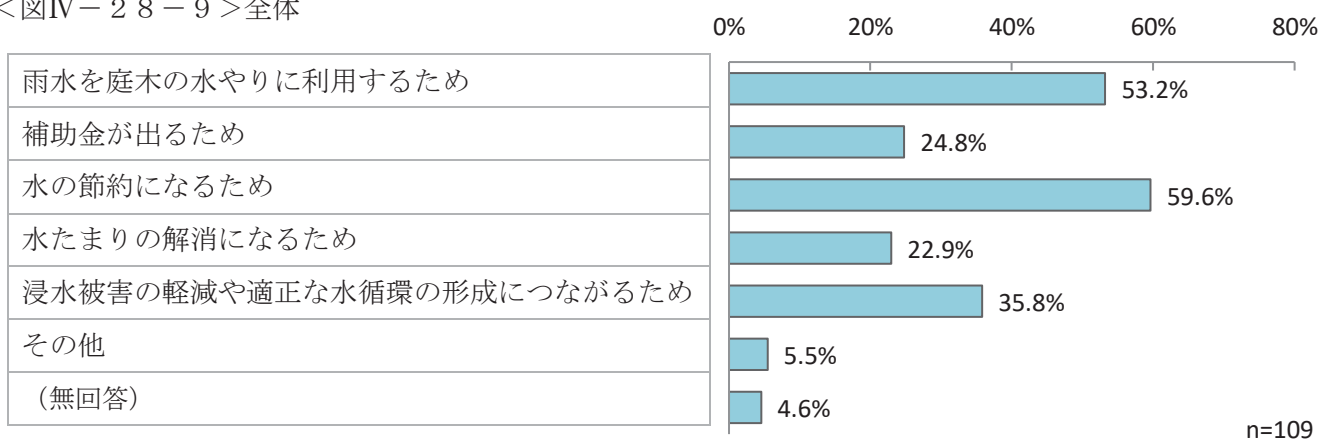


(5) 設置希望・既設置の理由

◇ 「水の節約になるため」が約6割

問106	問105で「1 設置したい」「3 既に設置してある」と回答した方にお聞きします。その理由は何ですか。	(〇はいくつでも)	n=109
1	雨水を庭木の水やりに利用するため		53.2%
2	補助金が出るため		24.8%
3	水の節約になるため		59.6%
4	水たまりの解消になるため		22.9%
5	浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため		35.8%
6	その他		5.5%
	(無回答)		4.6%

<図IV-28-9>全体



設置希望・既設置の理由については、「水の節約になるため」が59.6%で最も高く、次いで「雨水を庭木の水やりに利用するため」が53.2%、「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」が35.8%と続いている。(図IV-28-9)

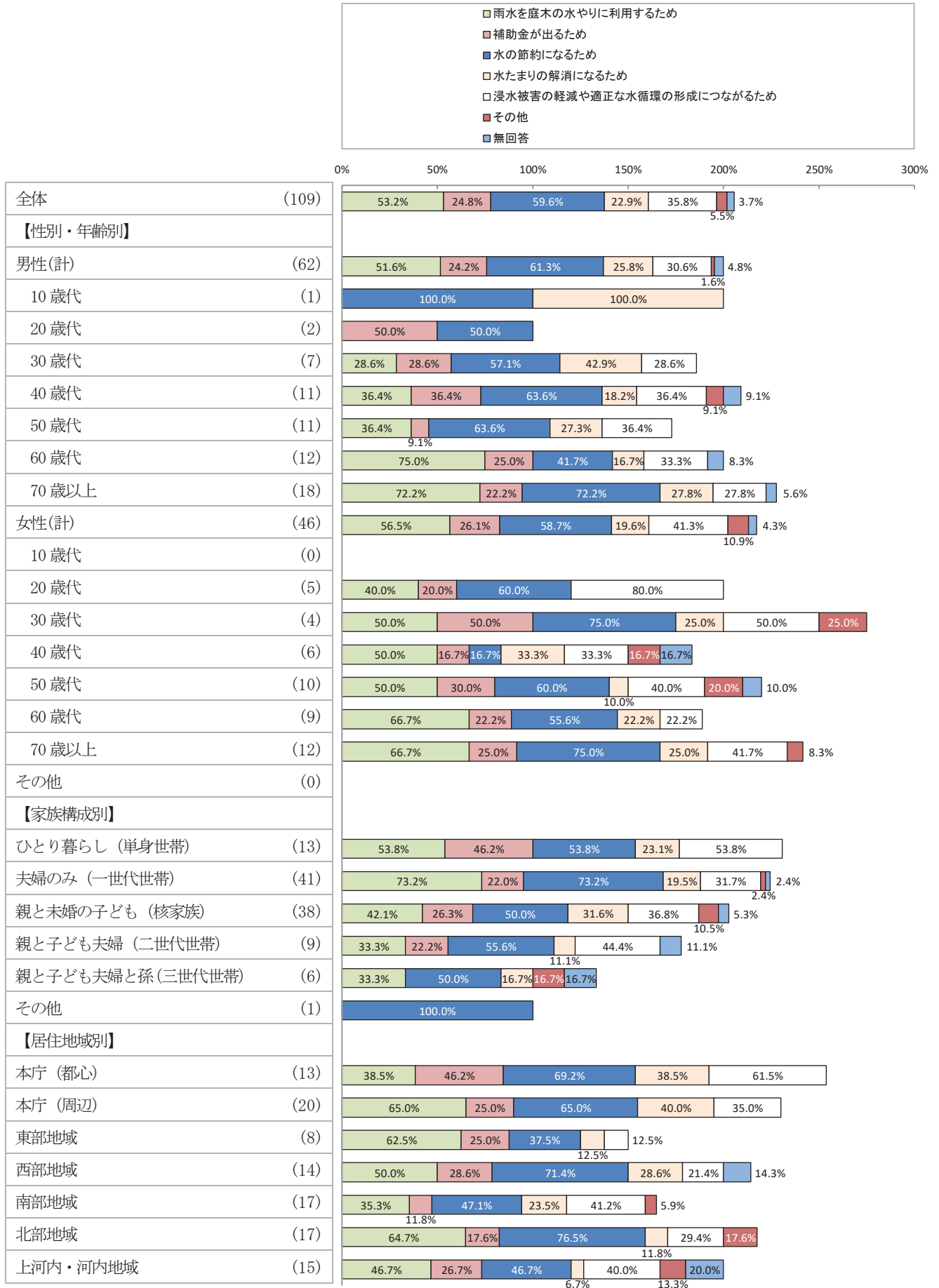
<参考>

性別・年齢別で見ると、「水の節約になるため」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>、<女性/70歳以上>がいずれも75.0%と続いている。「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<男性/60歳代>が75.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が72.2%と続いている。(図IV-28-10)

家族構成別で見ると、「水の節約になるため」は<その他>を除くと<夫婦のみ(一世代世帯)>が73.2%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が55.6%と続いている。「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が73.2%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が53.8%と続いている。(図IV-28-10)

居住地域別で見ると、「水の節約になるため」は<北部地域>が76.5%で最も高く、次いで<西部地域>が71.4%と続いている。「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<本庁(周辺)>が65.0%で最も高く、次いで<北部地域>が64.7%と続いている。(図IV-28-10)

<図IV-28-10>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



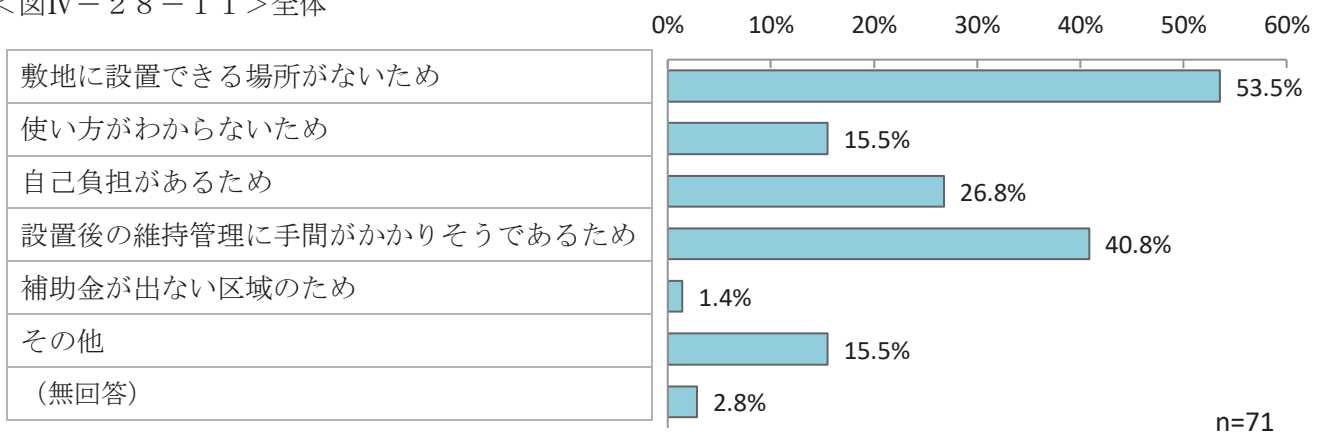
(6) 設置したくない理由

◇ 「敷地に設置できる場所がないため」が5割半ば

問107 問105で「2 設置したくない」と回答した方にお聞きします。その理由は何ですか。
(〇はいくつでも) n=71

1	敷地に設置できる場所がないため	53.5%
2	使い方がわからないため	15.5%
3	自己負担があるため	26.8%
4	設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため	40.8%
5	補助金が出ない区域のため	1.4%
6	その他	15.5%
	(無回答)	2.8%

<図IV-28-11>全体



設置したくない理由については、「敷地に設置できる場所がないため」が53.5%で最も高く、次いで「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」が40.8%で続いている。(図IV-28-11)

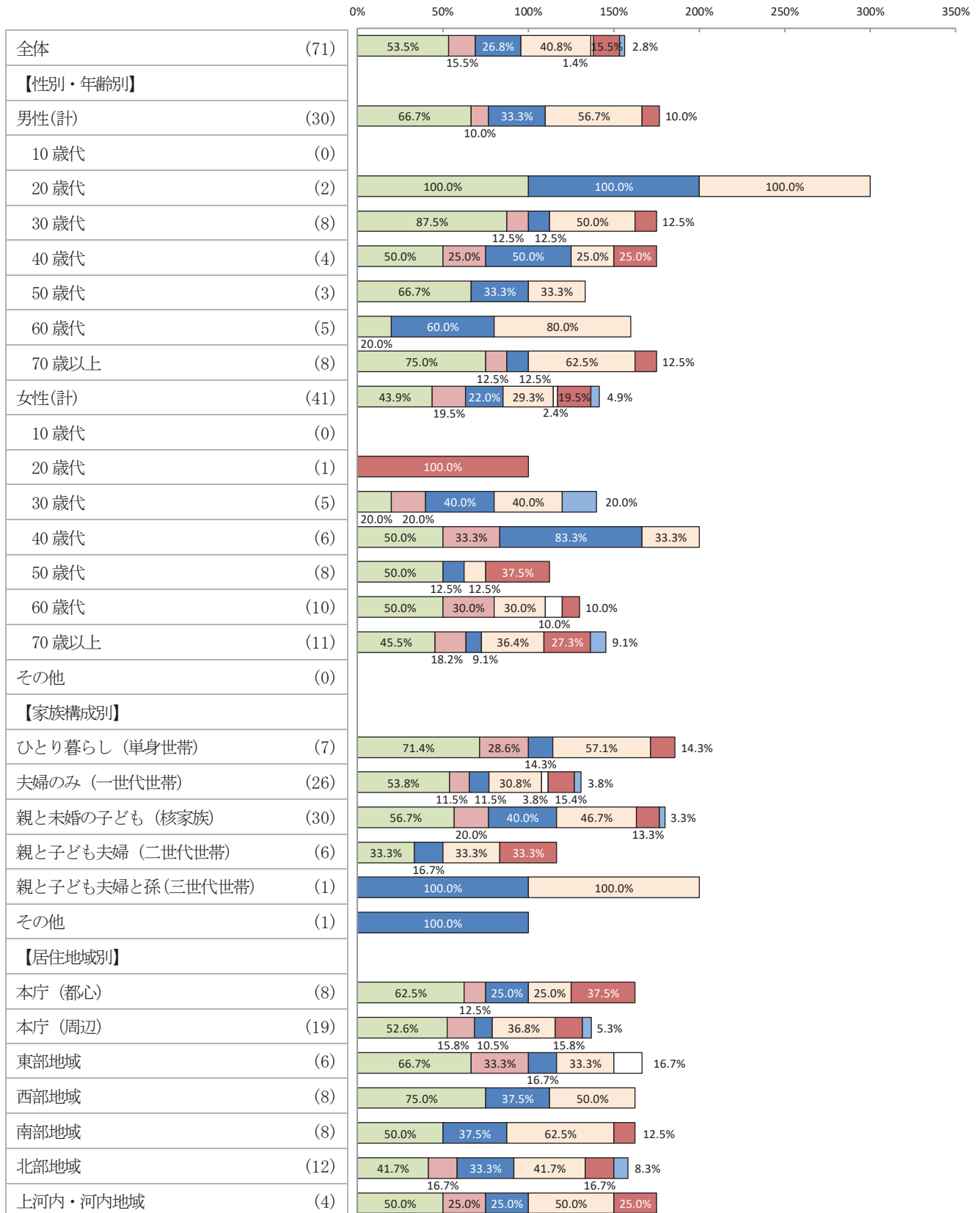
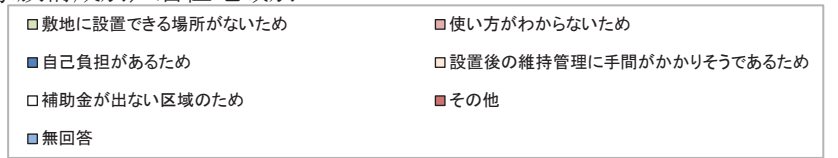
<参考>

性別・年齢別で見ると、「敷地に設置できる場所がないため」は<男性/20歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が87.5%と続いている。「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<男性/20歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が80.0%と続いている。(図IV-28-12)

家族構成別で見ると、「敷地に設置できる場所がないため」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が71.4%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が56.7%と続いている。「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が100.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が57.1%と続いている。(図IV-28-12)

居住地域別で見ると、「敷地に設置できる場所がないため」は<西部地域>が75.0%で最も高く、次いで<東部地域>が66.7%と続いている。「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<南部地域>が62.5%で最も高く、次いで<西部地域>、<上河内・河内地域>が50.0%と続いている。(図IV-28-12)

<図IV-28-12>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



V 調査結果の考察

V 調査結果の考察

宇都宮大学の中村祐司教授に御協力をいただき、専門的、客観的な立場から、各テーマについて、調査結果を考察していただきました。

●中村祐司教授のプロフィール●

1991年3月、早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程を満期退学し、早稲田大学人間科学部助手(1991年4月～1993年3月)を経て、1993年4月に宇都宮大学に赴任。博士(政治学)。2003年4月に宇都宮大学国際学部・大学院国際学研究科教授。2016年4月から宇都宮大学地域デザイン科学部教授。2019年4月から同大学院地域創生科学研究科教授(現在に至る)。

専門は行政学・地方自治。現在、うつのみや市政研究センター企画運営アドバイザーや宇都宮市行政改革推進懇談会委員など、主として栃木県内の地方自治体における審議会等の活動に積極的に従事している。単著に、『スポーツの行政学』(成文堂、2006年)、『“とちぎ発”地域社会を見るポイント100』(下野新聞新書、2007年)、『スポーツと震災復興』(成文堂、2016年)、『政策を見抜く10のポイント』(同、2016年)、『危機と地方自治』(同、2016年)、『2020年東京オリンピックの研究—メガ・スポーツイベントの虚と実—』(同、2018年)。

『2020年東京オリンピックを問う—自治の終焉、統治の歪み—』(同、2020年)。『2020年東京オリンピックの変質—コロナ禍で露呈した誤謬—』(同、2021年)。共著に、『日本の公共経営』(北樹出版、2014年)、『地方自治の基礎』(一藝社、2017年)など多数。

1. 宇都宮市に対する感じ方について

9割以上(91.3%, 前年 92.4%)が宇都宮市を「好き」とした。ただし、その内訳は「好き」(42.0%, 前年 47.9%)が5ポイント下降し、その分「どちらかといえば好き」(49.3%, 前年 44.5%)が上昇した。「純粹好き派」が減ったのは残念な結果である。

また、若干ではあるものの、「どちらかといえば嫌い」(5.6%, 前年 4.9%)も「嫌い」(1.5%, 前年 0.8%)も増えた。両者を合わせても7.1%ではあるが、総じて宇都宮市の好感度は弱まりつつある。宇都宮は他都市と比べて嫌い派の割合がとても低い市だと思うが、「純粹好き派」が90%台の後半に達しなければ、胸を張れない。たとえば、愛着を持って仕事に従事している職員像を市民に浸透させる工夫をもっと行ってほしい。

「自然災害の少なさ」(50.1%, 前年 47.9%)、「買い物など日常生活の便利さ」(45.6%, 前年 44.4%)、「自然環境の豊かさ」(35.3%, 前年 33.8%)、「慣れ親しんだところ」(28.8%, 前年 28.1%)が、好きな理由の定番になっていて、いずれも前年調査から率(割合)が上がった。

「自然災害の少なさ」や「自然環境の豊かさ」はともかく、「買い物など日常生活の便利さ」は市の施策との関連が深い類のものである。その意味では、たとえば「病院などの医療機関が充実しているところ」(14.8%)や「福祉サービスが充実しているところ」(2.8%)については、新型コロナ対策などで行政の真価が問われたといえる。その意味で好きな理由をめぐる各項目間の格差の広がり気になる。

「電車やバスなどの交通機関が整備されているところ」(5.1%, 前年6.5%)や「子どもを育てる環境が整っているところ」(7.5%, 前年8.7%)は前年調査よりも下がった。これらは本来、好きな理由の上位に並んでもいい。

一方で、嫌いな理由として「交通マナーの悪さ」(37.0%, 前年38.0%)が相変わらず定番であり続けている。このことは、「交通渋滞の多さ」(24.8%)や「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」(26.0%)とも無関係ではないだろう。市の交通問題は今や積年の課題として定着してしまった。

「街に活気がないところ」(32.1%)も嫌いな理由の上位となった。街の活気は行政、企業、市民などの活動の相乗効果の現れである。コロナ禍後を見据えて、行政には関連のイベント開催のより一層の工夫など、一点突破的な仕掛けを打ち出してほしい。

2. 広報媒体の活用状況について

広報媒体の活用について、「よく見る(聞く)」でも「ときどき見る(聞く)」でも「広報うつのみや」の存在感が圧倒的である(前者が35.8%, 後者が44.7%, 前年は前者が41.9%, 後者が42.6%)。しかし、前年調査と比べて「よく見る(聞く)」が6ポイント下がったのが気になる。市民の間での広報離れが少しずつ進んでしまっているのかもしれない。

「よく見る(聞く)」では、2番目に高い割合となったのが「暮らしの便利帳」(8.7%, 前年12.2%)であるが、前年調査よりも率が下がった。それでも「広報うつのみや」は市民に強く親しまれている媒体であるのは間違いない。

一方で「ときどき見る(聞く)」に注目すると「暮らしの便利帳」(45.3%, 前年39.3%)や「宇都宮市ホームページ」(46.3%, 前年39.1%)などが活用されていることがわかるし、前年調査よりも率を上げた。こうした広報媒体をめぐる「よく見る(聞く)」と「ときどき見る(聞く)」の率の格差は気になる。積極的に行政に関する情報を取りに行く市民が減っているのであろうか。

たとえば、ユニークな広報媒体といえる「広報塔」(よく見るが0.8%, 前年4.1%, ときどき見るが10.5%, 前年12.9%)についても、アクセス率は減少傾向にある。まちづくりのシンボル候補にもなり得るだけに惜しい結果である。

「広報うつのみや」の入手方法について、紙媒体の新聞と広報紙との相性の良さもあるのか、紙媒体離れがいわれる中で「新聞折込」の奮闘ぶりが窺える。しかし、紙媒体の「新聞折込で自宅に届いている」(57.4%, 前年63.2%)率は前回調査と比べて下がっており、新聞離れの影響をもろに受けているといえる。

「送付で自宅に届いている」(6.8%, 前年9.6%)や「市の公共施設などで手に入れている」(3.4%, 前年4.8%)も前年比で率が下がった。コロナ禍の影響があつたとしても、「市ホームページに掲載されているPDFや電子書籍を閲覧している」(前1.8%, 前年2.0%)も低空飛行のままであるのは解せない。

深刻なのは「手に入っていない」(25.5%, 前年17.3%)の率が上がり、4人に一人はまったく「広報うつのみや」に接しなくなってしまった点である。市政情報満載の広報から、有用な情報を得る機会は意外と多い。市民が自ら取りに行ったりアクセスしたりする機会はなくても、折込や送付によって紙媒体という物理的な形で届くことで、思いがけない貴重な情報に接することがある。紙媒体は手元に置き続けられるという点で、電子媒体よりも優位にあるはずである。広報離れは長い目で見ると市民に不利益を与えるのではないだろうか。

「広報うつのみや」を「入手方法を知らないため」(35.1%, 前年 33.8%) 見ていない市民の割合が前年よりも若干ではあるが増加した。この傾向と「特に必要でないため」(49.5%) の割合の高さを合わせて考えると、「広報うつのみや」の有用価値が下がっているのがわかる。かといって「市政情報は、市ホームページなどほかの方法で手に入れるため」(11.3%) が高い割合となっていない。

ネット利用者は「広報うつのみや」のトップページに最初にアクセスする手間を省き、いきなり検索用語を入れて、情報を取りに行く傾向があるのではないだろうか。それで事が足りれば、ネット上の「広報うつのみや」を意識しないまま、検索行為を終えることになる。

「広報うつのみや」において読んでいる記事について、「市政情報」(64.5%, 前年 64.7%), 「各施設の催し物」(46.6%, 前年 41.8%), 「特集」(45.5%, 前年 46.7%) などの割合が高かった。「各施設の催し物」が率を上げた背景には、コロナ禍に置かれた市民が催し物を切実に求めたことがあったのではないか。「情報カレンダー」(40.5%, 前年 38.1%) や「政策特集」(31.2%, 前年 35.0%) についてもいえるが、行政が提供する生きた情報や魅力的な情報を求める市民は決して少なくない。市民からすれば、行政による情報提供には信頼を置けるし、身近なところで行われる催し物などの情報提供はありがたいものである。

「LRT」についての記事を読んでいる割合は 21.9%と前年の 18.6%から上がったものの、わずか3ポイント強であった。LRTの整備が目に見えるようになり、開通のイメージが浮かぶようになったことが率を押し上げたともいえそうだが、開通延期が関心を顕著に高めていない要因かもしれない。これと連動して整備後のまちづくりへの活用方法などについて市民の関心が高まっていないとすれば、行政はこうした課題に早急に対応しなければならない。

「広報うつのみや」に関する感想、取り上げてほしい話題・情報について、市民の自由記載を読むと、今回調査でも広報には実に多様な情報提供機能が期待されていることがわかる。市民の声は多種多様であり、その中には、行政に対する厳しい声もある。しかし、市民の声を丁寧に受け止め、良い提案は各種施策に反映させていこうとする姿勢こそが、回り回って行政ひいては市全体の活力につながっていくはずである。

市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」(39.5%, 前年 35.5%) が「パソコン」(23.7%, 前年 23.1%) を 15 ポイント以上、上回った。スマホ利用者の増加傾向も見て取れる。今やスマホに対応した行政情報提供が不可欠となっている。

ただ、スマホより大きい画面のパソコン利用の率は下がらなかった。スマホとパソコンの両方をうまく使い分ける利用者も多く、行政には両睨みの対応が求められるのであろう。

ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探すかについて、「キーワード検索」(60.1%, 前年 48.6%) が最上位で、前年から率を上げた。次に、暮らし、産業・ビジネス、市政情報、よくある質問、宇都宮ブランドといった「大分類」(36.8%, 前年 42.7%) が続いたが、前年から5ポイント以上率を下げた。市民からすれば、すぐに目当ての情報を得たいので、「大分類」にアクセスすることを手間と感じてしまうのであろう。

「ホームページで知りたい情報は探しやすいか」について、「探しやすい」(13.4%, 前年 11.9%) と若干上昇したものの、「どちらかといえば探しやすい」(49.4%, 前年 57.3%) は下がってしまった。合わせると探しやすいが 62.8%と前年 69.2%からかなり後退した。探しやすいさをめぐる市民の判断基準のハードルは高い。行政には技術的な工夫の継続が必要なのだろう。今後はデジタル行政の中身がさらに厳しく問われる。

ホームページに関する感想、充実してほしい機能や情報について、辛口な内容が多かった。それはそれで市民からの貴重な指摘であり、行政の対応に活かせるものばかりである。一方で、例外的に「課の連絡先も書いてありますし、見やすいです」という褒め言葉もあった。こうした指摘は、ホームページ作成の志気を高める。今後は市民によるポジティブな見方が増えることを期待したい。

市政情報をどんな手段で知りたいかについて、「広報うつのみや」(56.1%, 前年 60.7%) の割合が最も高いものの、率は減少傾向にある。前年よりも7ポイント増えた「ホームページ」(38.4%, 前年 31.5%) が続き、「新聞」(25.0%, 前年 32.5%) は順位を下げる結果となった。「SNS」(14.5, 前年 10.7%) は率が増加した。ホームページとSNSは相乗効果を発揮しやすい電子媒体であり、こうした複合的な市政情報の提供にさらに力を入れてほしい。

3. 健康づくりについて

健康面での自分の生活習慣について、「良いと思う」(9.5%)は1割に達しなかったものの、「まあ良いと思う」(36.1%)と合わせると45.6%であったため、及第点といったところか。ただ、「あまり良くないと思う」(20.0%)市民が5人に一人の割合で存在する。また、「どちらともいえない」(29.7%)がほぼ3割に達しており、可もなく不可もない結果となった。

歯と口の治療や相談ができるかかりつけの歯科医院について、「ある」(74.7%)が相当に高い割合となった。かかりつけ歯科医院は市民の間に浸透しているといえよう。

主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数について、「ほぼ毎日」(52.1%)と「週に4~5日」(22.9%)を合わせると75.0%となり、4人に三人は食べ物の中身のバランスに気を使うだけでなく、実践していることになる。宇都宮市民は健康志向が高くその実行力もあるといえよう。

4. 中心市街地の活性化について

中心市街地に出かける頻度について、「年に数回程度」(36.3%)の割合が最も高い結果となり、それに続くのが「月1~2回程度」(29.5%)で、「まったく利用しない」(10.8%)と合わせると、76.6%が中心市街地とは疎遠な関係にある。「ほぼ毎日」(8.2%)とまではいかななくても、「週に1~2回程度」(14.7%)を何とか2割台にもっていけないだろうか。

そのためには中心市街地へ出かける目的の多様化が必要だと思う。「買い物」(63.9%)以外の目的の割合を高めたい。「飲食」(24.5%)や公共施設(市役所・図書館など)(20.3%)に加えて、たとえば非日常の空間を楽しむことのできる「イベントへの参加」(3.9%)などの割合をもっと上げたい。

より訪れたいような機能や施設について、市民はとくに「文化・芸術(図書館、博物館、美術館、劇場、ホール、映画館など)」(44.7%)と「商業(大規模商業施設、スーパー、ドラッグストアなど)」(48.4%)を強く求めていることが明白である。

たとえば、中心市街地に充実した「公共(行政施設、公園など)」(18.4%)があれば、それと連動して「休憩スペース(広場、ベンチなど)」(15.0%)の整備を求める声が多くなるなど、項目同士は相互に関連するし、相乗効果が発揮される類のものである。文化・芸術や商業以外のこうした施策が疎かにされてはいけない。

行政は中心市街地における文化・芸術や商業の充実を最優先課題に位置づけ、思い切った仕掛けを打ち出してはどうか。

5. 宇都宮市を拠点とするプロスポーツチームについて

市を拠点に活動するプロスポーツチームの認知度はかなり高い(栃木SC82.1%、宇都宮ブレックス90.8%、宇都宮ブリッツェン73.7%)。今や市はプロスポーツのまちとして全国的にも胸を張れる存在となった。

3つのプロスポーツへの期待について、「チームの強化」(52.2%)に続いたのが、「スポーツ全般の普及」(35.2%)と「小中学校訪問などの地域貢献活動」(29.3%)であった点に注目したい。プロスポーツである限り勝敗は不可欠な要素である。しかし一方で、地域密着型プロスポーツのもう一つの真骨頂は、社会貢献でもある。その意味で、宇都宮市のプロスポーツは地域への浸透を達成しているし、チームを支える多くの市民が存在する。

プロスポーツの活躍や活動についての市民の受け止め方について、「子どもたちに夢を与えている」(60.3%)が最も高かった。次代を担う子どもたちに夢を与える一翼をプロスポーツが担っている。頼もしい限りである。

6. 生物多様性について

自然環境について関心がある（「非常に関心がある」23.7%と「どちらかといえば関心がある」59.2%を合わせて82.9%）が8割を超えた。

その反映であろうか。生物多様性という言葉について、前年調査とは異なり、「言葉も意味も知っている」（40.8%、前年33.6%）が「聞いたことはあるが、意味は知らない」（38.5%、前年45.7%）を上回った。

外来種が及ぼす影響についても、「知っている」（84.9%、前年64.8%）が8割台半ばに達し、前年調査を大幅に上回る結果となった。その裏返しで「言葉は知っているが、その影響までは知らない」（14.0%、前年30.8%）は大幅に減った。外来種の脅威はスピーディーに市民に浸透しつつある。

7. 宇都宮市の景観について

宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについて、「どちらかというとも良くなった」（45.0%、前年44.4%）と「変わらない」（37.2%、前年35.3%）は、前年の調査結果と比べてほぼ横ばいであった。ただ、「非常に良くなった」（4.7%、前年6.7%）は低く、「変わらない」と「どちらかというとも悪くなった」（10.1%）を足した割合と、「良くなった」の割合の差はほとんどなかった。市民の意向はとらえどころが無いともいえ、何とも中途半端な結果となった。

そこで「宇都宮らしい景観」とは何かが問われてくる。「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」（42.7%、前年42.3%）がトップで、市の中心部における歴史的な景観が安定的に評価されている。しかしそれに続いたのが、「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」（24.9%、前年25.1%）、「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」（27.7%、前年23.7%）、「豊かな自然やのどかさを感じさせる山並みや田園」（24.9%、前年23.5%）となり、混戦状況を生み出している。

このことは、「二荒山神社周辺の景観」を除けば、市民の間でもなかなか決め手が見つからないということである。

たとえば、「市の玄関口であるJR宇都宮駅前の景観」（15.9%、前年16.0%）などはLRTの整備と相俟って、シンボリックな景観としてもっと期待されてもいいのだが、市民の受け止め方はそうはなっていない。

良好な都市景観の形成に必要なことについて、「道路上の電柱・電線類の地中化」（50.8%、前年50.7%）の割合が最も高く、それに続いたのが「沿道や都心部の緑化の推進」（28.5%、前年27.4%）や「周辺景観に調和していない野外広告物（看板）の撤去や規制」（21.2%、前年22.1%）であった。いずれも都市の景観と切っても切れない関係にある。前年の分析で、コストが課題となるが、まずはモデルエリアを設定して市民に景観の向上を実感してもらえれば、丁寧な検討と情報の提示を行いつつ、これを重点施策に位置づけることは可能ではないだろうか、と指摘した。行政にはその実行を期待したい。

屋外において動画や静止画を表示する看板（デジタルサイネージ）について、市民は好意的に受け止めている（「良い」19.8%、「どちらかといえば良い」39.1%）。看板（デジタルサイネージ）の印象について、「表示が切り替わることで情報量が多い」（26.8%）、「次から次へと情報が流れてくる」（21.5%）、「夜間でも明るい」（21.5%）といった具合に、多くの市民がデジタルサイネージの優れた機能を認識し評価しているのがわかる。ただし、行政はコスト面での丁寧な説明と「注意力が散漫になる」（17.6%）との指摘への対応が必要であろう。

8. うつのみや産の農産物について

「うつのみや産」の農産物の積極的購入について、「非常にそう思う」(27.4%)と「そう思う」(57.3%)を合わせて8割半ばに達したことは、市民が地産地消を重視している現れであろう。また、圧倒的に多くの市民は、宇都宮の農業を大切にしたいと思っている(「非常にそう思う」34.9%、「そう思う」57.5%)。こうした市民認識は、行政にとって非常に心強い結果である。

ただ、問われるのはその中身である。行政は関係者との協働のもと、「うつのみや産」農産物にさらに磨きをかける施策を進めてほしい。

9. 男女共同参画について

家事・育児・介護それぞれに費やした時間について、家事の場合、「7時間以上21時間未満」(50.0%、前年40.2%)の割合が高く、しかも増加傾向にある。育児の場合、「対象者なし」(72.4%)を差し引く必要はあるものの、その他の項目では、「7時間以上21時間未満」(10.9%)が最も高かった。介護の場合も「対象者なし」(84.1%)が高いものの、「7時間以上21時間未満」(2.8%)よりも「0時間以上7時間未満」(5.9%)の方が高い結果となった。

一方、社会的活動の実施状況について、「特になし」(60.9%)の高い割合は確かに心細いものの、「自治会やまちづくりなどの地域活動」(17.9%)や「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成」(9.8%)、さらには「文化、スポーツなどのグループ活動」(9.2%)などに取って注目したい。いずれも地道な活動の積み重ねがあれば、各々の活動を起点とした社会的連鎖が生じるからである。

過去1年間に配偶者から暴力を受けたことがあるかについて、「心理的攻撃」(「1,2度あった」と「何度もあった」の合計4.2%、前年6.2%)が、他の項目よりも比較的高い割合となった。ただ、「身体的暴行」(1.4%、前年3.7%)、「経済的圧迫」(2.8%、前年2.5%)、「性的強要」(0.9%、前年0.9%)と比べて、「心理的攻撃」の経験範囲は広いと推察できる。

気になるのが、いずれの項目でも「無回答」が、2割弱となっている点である(「身体的暴行」19.0%、前年29.5%、「心理的攻撃」19.3%、前年30.0%、「経済的圧迫」19.3%、前年30.3%など)。しかし、前年調査と比べて無回答の率は大幅に削減している点に改善傾向を読み取れる。

LGBT(エルジービーティー)の認知度について、「言葉も内容も知っている」(66.5%、前年52.9%)が前年より大幅に高まった。社会的関心の高まりと相俟って市民の間の認知が浸透しつつある。設問の説明記載を見て、LGBTという頭文字の意味を改めて確認できた回答者が多くいたこともあろう。また、昨今では「LGBTQ」が主要なキーワードとして定番となっているようにも思われる。

10. 空き家及び防犯・交通安全に関する意識について

「管理が不十分な空き家が増えていると感じるか」について、「変わらない」が59.3%(前年58.8%)だったものの、「増えている」(36.5%、前年35.0%)は横ばいで改善の兆しがなかなか見えて来ない。

近所の空き家の活用の仕方の希望について、「カフェなどの飲食店」(33.3%、前年28.7%)が「住宅のままの利用」(30.5%、前年34.3%)を上回った。背景には「古民家カフェ」などの用語が一般にも知られるようになったこともあるのだろう。「管理されていれば空き家のままで良い」(26.3%、前年32.1%)や「子ども食堂などの子どもが集まる場所」(26.0%、前年21.6%)の前年比からの傾向を見ると、何らかの形で空き家をめぐり市民の活用志向の高まりが窺える。

そうであるならば、「宇都宮空き家会議」（「知っている」7.3%，前年 11.5%，「知らない」92.3%，前年 87.5%）の認知度はもっと高くてもいいはずなのに、前年と比べて下がってしまった。この会議の認知度を空き屋問題に取り組む行政の本気度の指標としてはどうだろうか。

「安心して暮らすことができているか」との問いに対して、「そう思う」（21.3%，前年 23.5%）と「どちらかといえばそう思う」（67.5%，前年 67.6%）を合わせると 9 割弱と心強い結果となった。空き家活用の実が上げれば、とくに「そう思う」市民は増えていくのではないだろうか。

自転車保険の加入状況について、自転車利用者で未保険者は 9.0%であった。保険自体の内容をめぐる議論の余地はあるだろうが、課題解決の方向性は保険の種類を限定せずに未保険者の割合の低下を目指すことにあると思われる。

1 1. アーバンスポーツへの関心について

アーバン（都市型）スポーツの観戦希望の最上位は「プロ選手などによる競技大会」（43.4%）であった。「アーバンスポーツと音楽などを融合したイベント」（21.6%）や「プロ選手が参加する体験会やトークショー」（13.7%）を望む声も決して少なくない。とくに融合型イベントについて、たとえば会場に足を運んだ音楽ファンがこのスポーツのファンになったり、その逆のケースも生じたりすると考えられる。行政支援のスタイルとしても、多面的・多面的なルートを用いた情報の発信と把握が今後は不可欠となっていくであろう。

ただアーバン（都市型）スポーツの種目の認知度については、「スケートボード（ストリート、パーク）」（78.8%）と「スポーツクライミング」（70.5%）が卓越しており、その次の「3 x 3」（57.5%）との差はあり、さらにはその他の種目との認知度をめぐる格差は大きい。

興味や関心がある種目、または、既にやっている種目について、「あまり関心がない」（53.3%）が 5 割を超えているのも気掛かりである。

東京オリンピックの影響なのか、「スケートボード（ストリート、パーク）」（21.0%）、「スポーツクライミング」（20.0%）、「3 x 3」（17.8%）といったように、偏りが顕著である。まずはこうした種目を人気向上の突破口と位置づけ、焦点を当ててさらに支援する手もあるだろう。それと同時に「アーバンスポーツをよく知らない」（51.6%）層への PR 活動が不可欠となる。

1 2. まちづくり活動への意識について

まちづくり活動への参加者（29.5%，前年 24.6%）は、前年比で市民の 4 人に一人から 3 人に一人に増えた。

加えて、「参加したい」の合計は 33.1%（前年 31.7%）である（「今は参加していないが、今後ぜひ参加したい」2.8%，前年 4.6%，「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」30.3%，前年 27.1%）。「機会があれば」参加したいと答えた市民を行政の後押しで参加実践派に転化させたいところだ。

「参加したいとは思わない」（25.0%，前年 26.3%）や「参加できない」（10.8%，前年 16.9%）市民について、後者の減少に注目したい。行政としては参加が可能な環境づくりにもさらに力を注いでほしい。

現に参加しているあるいは興味があるまちづくり活動の種類について、「地域の安全・安心を守るための活動」（24.0%，前年 21.5%）は若干上昇した。「地域の環境や自然等を守るための活動」（27.0%，前年 19.7%）は数ポイント上昇した。「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」（22.3%，前年 19.2%）などについても同様である。「高齢者・障がい者等を対象とした社会福祉に関する活動」（22.8%）も、地域を支えるために今後ますます求められるようになるであろう。

まちづくり活動の内容は多彩であっていい。それに応じて市民の参加や関心も多様であるはずで、当該活動の割合の高低をあまり気にする必要はないかもしれない。

まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由について、「参加する事に興味や関心がない」(21.0%, 前年 27.8%) が前年比で数ポイント下がった。「楽しさを感じられない」(12.6%, 前年 17.2%) についても同様である。

一方で「参加するチャンス・きっかけがない」(25.2%, 前年 16.0%) は 10 ポイント弱も上昇した。市民に参加意欲はあるのに、その機会やきっかけがないとすれば、行政には参加の環境を作る責務があると思われる。市民の自発的な参加を前提とした上で、魅力的な活動の紹介や、参加を促す機会の場や情報の提供などにさらに力を入れてほしい。

1 3. 選挙の環境向上に向けた取組について

投票所へ行く時間帯について、意外にも「午前 7 時から正午」(44.3%) と「正午から午後 7 時」(29.3%) の間にかなりの差が付いた。午前中投票派が多いのは、休日の午後の時間帯を有効に使いたいとの思いがあるのかもしれない。

期日前投票について、投票所に「行ったことがある」(52.3%) が「行ったことがない」(46.8%) を上回り、有権者の間に浸透していることがわかる。「期日前投票の機会の拡充(期日前投票所の増設や期間・時間の延長など)」(56.3%) を望む声が多いことも考えると、期日前投票の割合は今後さらに増えていくと思われる。

投票所の終了時刻を早めることについては、「賛成(終了時刻を早めた方が良い)」(55.0%) が「反対(現行の午後 8 時のままで良い)」(42.0%) を上回り、有権者は投票の運営に柔軟な姿勢を示しているかのようだが、本当だろうか。終了時刻を早めることに反対する理由について、「投票率の低下が懸念される」(32.7%) と「投票の機会を制限することになる」(42.3%) との回答を重く受け止めなければならないからである。前者はやや大局的な見方だとしても、後者は投票権そのものをめぐる懸念の声となっている。

1 4. 路線バスの利用状況等について

路線バスの利用頻度について、「まったく利用していない」(67.2%) が最上位で、それに続くのが「月 1 日未満」(20.3%)、その次が「月 1 日程度」(4.4%) という結果から、車社会である点を差し引いても、危機的状況にあるといえるのではないかと。

「週 4 日以上」(1.2%)、「週 2～3 日」(1.5%)、「週 1 日程度」(2.2%) という結果にも驚いた。仮にアンケート回答者には通学者が少ないとしても、路線バスの存在意義が問われる結果となった。路線バスを利用する際の主な外出目的の最上位が「趣味・娯楽・交際」(31.8%) であるのも、路線バスの利用が低迷している一因なのだろう。

どの程度の間隔で運行されていけば利用しやすいかについて、「15 分間隔で運行」(32.8%) と「30 分間隔で運行」(30.3%) が上位となった。運営側からすれば状況が厳しい中でも、路線バスに求める市民の声は容赦ないと映るのではないだろうか。

1 か月あたりに支払ってもよいと考える利用料金の程度について、「わからない」(38.6%) 以外では、「1 か月 3,000 円程度」(31.8%) が最も高く、その次が「1 か月 5,000 円程度」(13.0%) となった。安いか高いかは一概にはいえないものの、路線バスは市民にとって行きたいところに連れて行ってくれる、気軽かつ便利な足であることが窺われる。

路線バス利用に市民は何を求めるのか。「外出したい時間（目的地に着きたい時間）に合うちょうど良いバスがあること」（38.1%）、「バスの便数を増やすこと」（27.6%）、「路線バスが運行していないエリアの施設や店舗に向かうルートを新設すること」（25.4%）といったように多種多様である。本来、路線バスはこうした市民の様々な要求を満たす、当該地域固有の、その意味でオンリーワンの価値ある移動手段なのである。

1 5. 住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について

住宅用火災警報器を設置率（65.3%）はともかく、課題となるのは「今まで点検を行ったことがない」（45.7%）が、「定期的（半年に一度程度）に点検を行っている」（20.3%）の倍以上となった点と、「点検方法を知らない」（24.2%）の割合も決して低くない点である。

点検方法を知らないのか、点検を行わないのか。それとも点検方法は知ってはいるが、点検を行うまでには至っていないのか。その理由も含めた把握が必要であろう。

さらに、設置している住宅用火災警報器について、「10年経過した」（24.4%）が「10年経過していない（交換済みのため）」（12.2%）の2倍となった。メンテナンスをめぐる課題が明確になっている。

1 6. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度について、「知っている」（45.0%、前年 52.2%）が前年比で下がり、「知らない」（55.0%、前年 47.6%）が増えてしまった。この種の認知度が上がることが大谷石の魅力さをさらに発信していくためには不可欠なはずであり、残念な結果となった。

また、「大谷石文化」を誇りに感じるかについて、たとえコロナ禍の影響を差し引いたとしても、前年調査と比べて「やや感じる」（36.2%、前年 34.9%）は若干上がったものの、「感じる」（29.3%、前年 33.6%）は下がった。年々関心の度合いが低い傾向が続いてしまうのは憂慮すべき状況である。大谷石が市域全体を代表する文化遺産となるよう、その活用をめぐり、切り札となるような盛り返し策はないのだろうか。

1 7. 食品ロスの削減について

未使用、未開封の食品を、焼却ごみとして捨てたことの有無について、「ほとんど捨てない」（37.7%）が最も高く、「6か月～1年に1回程度」（24.0%）が続いた。6割以上の市民が食品を安易に捨てない傾向が窺われる。

捨てた理由について、「消費期限が切れてしまった」（67.5%）が、「賞味期限が切れてしまった」（42.0%）を上回った。多くの市民は両者の違いを理解している。賞味期限が切れた食品の対応について、食品業界や行政の見解をもっと積極的提示してもいいのではないか。そうすれば家庭の中で話し合いが展開されたり、子ども世代を含めた市民の間でもっと関心が高まったりするはずである。

「食品ロス」を減らすために効果があると思うことについては、「冷凍保存を活用する」（55.0%）、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」（42.3%）、「料理を作り過ぎない」（39.4%）、「残さずに食べる」（37.7%）の順であった。「料理を作り過ぎない」と、「残さずに食べる」とはコインの表と裏の関係だが、実践はなかなか難しく、試行錯誤しつつ各自が経験から身に付けていくしかないであろう。

興味深いのは、『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」(24.2%)や「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べ切れる量を購入する」(22.0%)が一定の割合に達した点である。市民の間で工夫できる余地はまだまだあるし、食品に対する向き合い方は消費ばかりでなく、創造的な思考にもつながる。

18. 治水・雨水対策について

総合治水・雨水対策の認知度について、「初めて聞いた」(52.6%)が最も高かったのは、市民の率直な反応だと思う。設問において仮に「総合」を取った形での「治水・雨水対策」であれば、認知度はもっと高かったはずである。回答を迷った多くの市民がいたに違いない。その意味で「言葉は聞いたことがある」(33.0%)の割合にも影響を及ぼしたと推測される。

総合治水・雨水対策の情報源は、圧倒的に「市のホームページや広報紙」(69.1%)からである。「新聞」(16.6%)も情報入手において有用なのであろう。

一方で、市民が求める総合治水・雨水対策の啓発方法については、「市のホームページや広報紙によるPR」(21.5%)よりも、「TV・ラジオ・新聞によるPR」(30.6%)の方が10ポイント近く上回った。行政による啓発活動は後者にも重点を置くべきである。

また、「自治会や自主防災会等を通じたPR」(19.3%)が2割弱に達した。地域・コミュニティ・近隣の置かれた状況は千差万別であり、現場発の防災情報こそ生きた知恵であるので、自治会活動や自主防災会などの活動は極めて重要である。

市民が今後取り組んでいきたいものについて、「ハザードマップを活用し避難場所などの確認」(53.5%)と「非常持ち出し品の準備」(48.9%)が上位となった。いずれも市民自身の実践活動そのものである。防災環境の醸成など、行政はこうした実践市民への後押しを続けてほしい。

19. いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について

栃木県で国体が開催されることを知っているかについて、「知っている」(82.8%, 前年 76.7%)が前年比で6ポイント上昇した。その裏返しで「知らない」(16.7%, 前年 22.5%)は6ポイント下がった。国体に向けて認知度は確実に上がりつつあるものの、地元にとっては数十年に一回のスポーツイベントであり、もう少し上げたいところだ。

ところが、ボランティア活動で、とちぎ国体に参加したいかとなると、「非常にそう思う」(2.4%, 前年 4.4%), 「そう思う」(20.4%, 前年 21.3%)と明らかに下降傾向にある。追い打ちをかけるかのように「あまりそう思わない」(55.8%), 「全く思わない」(20.6%)を合わせると、7割後半もの市民がボランティアには後ろ向きという結果となった。

もちろん、国体に対する関心とボランティア参加意向とは別物である。しかし、いまだにとちぎ国体に向けたボランティア参加の機運は盛り上がっているとは言い難い事実が突きつけられた。無観客で開催された東京五輪の影響もあるのかもしれない。

打開策はどこにあるのだろうか。動員や義務でやるものではないボランティアの特性を考えると、地道に「そう思う」の割合を維持しつつ、少しでも参加者増につなげていきたいところだ。

ボランティア参加に前向きな回答者の中でのボランティア情報の入手方法については、「広報紙」(34.9%)、「インターネット・SNS」(29.1%)、「新聞、広告」(20.9%)の順となった。このように、とくにボランティア情報の入手方法は特定の媒体に偏らずに、バランスの取れた形になっているのはいいと思う。

国体を盛り上げるために重要だと思うことについて、「観光情報を発信する市の魅力紹介」(48.7%, 前年44.9%)、「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」(42.1%, 前年48.5%)、「会場周辺をきれいにする環境美化運動」(36.2%, 前年44.6%)などが高い割合となった。

いずれも大切な項目である。しかし本来であれば、「大会の運営をサポートするボランティア活動」(28.8%, 前年38.5%)の率がもっと高くてもいいはずである。前年比から10ポイントも下がったのも気掛かりである。コロナ禍で自分や家族など身近な生活を守ることで精一杯となり、結果的に市民のボランティア意欲は減退しているのであろうか。

20. 水災害（洪水など）への備えについて

「ハザードマップ」について、「知っているが、内容を確認したことはない」(50.8%)が「知っており、内容を確認している」(39.9%)を大幅に上回った。とくにハザードマップはその内容を確認しておくのが、いざという時に命を守る上で極めて重要である。ハザードマップは使われて初めて実践的な価値が生じる類のものである。

住んでいる建物（住宅）は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外かについて、「洪水浸水想定区域外に立地している」(54.5%)のを知る市民はまだしも、「わからない」(38.4%)市民は不安感を抱くはずである。区域外であるから安心しきってはいけないものの、まずは一人でも多くの市民にハザードマップにアクセスしてもらう必要があり、それを促す行政の仕掛けや知恵が求められる。

水災害への備えに取り組んでいるかについて、上位には「災害時の避難場所の確認」(47.1%)と「備蓄品・非常用持出品の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）」(38.1%)が並んだ。いずれも重要項目である。たとえば「建築物の基礎（住宅の土台部分）のかさ上げ」(5.6%)や「土のうの準備」(2.1%)などその他の項目の率が低いのは、市民からすれば実現のハードルが高いからであろう。

「特に取り組んでいない」(42.6%)の割合も高い。多くの市民は必要性はわかるが、取り組みようがないという実感を持っているのかもしれない。まずはできることを無理せずに、随所に楽しみを取り入れながら取り組んではどうだろうか。

21. 結婚・出産・子育てに関する意識について

「結婚している」(64.6%, 前年60.5%)以外で、現段階において「結婚していない」（結婚経験者と合わせて35.4%, 前年36.8%）とした回答者に対して、結婚するつもりがあるか聞いたところ、「いずれ結婚するつもり」(29.1%, 前年34.0%)、「結婚するつもりはない」(61.9%, 前年58.0%)となった。

行政によるサポート支援の対象となるのは、あくまでも「結婚するつもり」の層なのでであろうか。「結婚するつもりはない」層に結構支援を行うのは、行政の役割としてはみ出していると取られるのだろうか。

結婚している場合に持ちたい子どもの数は、「2人」(54.1%, 前年55.5%)が最も高く、大きく差が開く形で「1人」(19.7%, 前年17.0%)と「3人」(17.2%, 前年20.2%)が続いた。

僅かな差だが、前年比で「3人」よりも「1人」が多くなったのは、子育て環境の問題であろうか。少子化対策の点からは残念な結果である。

「いずれ結婚するつもり」の回答者が子どもを何人望んでいるかについては、「2人」(51.3%, 前年 45.1%)が最も高い割合となり、既婚者の場合とほぼ同様であった。また、「1人」(17.9%, 前年 17.6%)が「3人」(7.7%, 前年 15.7%)を大幅に上回った。「3人」を望む市民は前年比で大きく減っている。「子どもはほしくない」(15.4%)が一定の割合に達しており、結婚後はともかく、結婚前の段階では相対的に子どもを望む率が低いといえる。

行政にできることは何であろうか。たとえば、「いずれ結婚するつもり」の市民に対して、「持ちたい」子どもの数を「持つことができる」子どもの数と思わせるような子育て環境の整備など、行政の支援を拡充してはどうか。

2.2. 宇都宮市のみどりについて

市全体のみどりの量についての満足度は、「満足している」(22.0%)と「やや満足している」(38.9%)を合わせて「満足している」が60.9%に達した。市民の3人に二人は満足していることになる。50万都市における高い「みどり満足度」は誇っていい。ただ、ほぼ4人に一人は「不満」(23.3%)を持っている(「やや不満である」17.2%、「不満である」6.1%)。

自宅、職場、学校などの身近なみどりについては、「満足している」(31.0%)が高い割合で、「やや満足している」(37.0%)を合わせて7割近くに達した。何らかのみどりは生活に欠かすことができない。とくに身近なみどりは日々の生活の質を左右するといっても過言ではない。その意味でも宇都宮市は住みやすい都市なのである。

10年後の宇都宮市全体のみどりの量について、「現状より多いほうがよい」(52.1%)が、「現状維持でよい」(47.4%)を上回った。みどりの大切さを身を持って感じている市民だからこそ、みどりの環境の向上を重視しているのがわかる。そのことは10年後の身近なみどりについても同様である(「現状より多いほうがよい」39.7%、「現状維持でよい」57.7%)。

市が取り組んでいるみどりの保全・普及啓発についての満足度は、一定の割合に達している(「満足している」10.3%、「やや満足している」26.2%)ものの、「わからない」が51.9%と、認知度が不十分な結果となった。

市民の間では、(公財)グリーントラストうつのみやと連携した樹林地などの保全活動、中心市街地におけるプランター・ハンギングバスケットの設置などの都市緑化活動、各種緑化講習会といった行政による具体的な取り組みがまだまだ知られていないので、満足度を問われてもわからないのであろう。

みどりと憩いの拠点づくり(公園や緑地など)の推進についても、「満足している」(14.3%)、「やや満足している」(32.5%)を合わせると5割弱である。しかし、ここでも「わからない」(37.3%)が一定の割合に達している。

2.3. 「SDGs」について

SDGsについての認知度は、「まったく知らない」(32.8%, 前年 70.6%)が大幅に減った。ただ、「内容を詳しく知っている」は13.0%で、そのうちの実践派は6.9%であった。「内容をある程度知っている」実践派は11.4%であったので、実践派は20%に届いていない。

SDGsを知った手段は、「テレビ」(41.0%)が最も高く、「今回の調査で初めて知った」(28.3%)、「インターネット」(24.1%)、「新聞」(19.0%)、「職場・学校」(14.0%)と続いた。

「今回の調査で初めて知った」が2位というのは残念な結果である。アンケート本来の目的とは違うところで、これがインターネットや新聞を上回ってしまったからである。一方で職場や学校での口込みなどでSDGsの認知度が浸透していくのは大歓迎である。よく知られるための、また、実践につなげるための今後の一つの方向性であろう。

SDGsのゴールの中で、興味・関心のある分野について、「すべての人に健康と福祉を」(43.1%)が最上位で、「住み続けられるまちづくりを」(38.9%)、「貧困をなくそう」(38.1%)と続いた。他の項目も含めてSDGsの諸価値をどう実践に映していくのかが、行政にも企業にも市民にも問われている。

2.4. 自転車のまちづくりについて

自転車の利用頻度について、「ほとんど利用しない」(69.5%)がほぼ7割に達した。多くの学生の自転車利用を日々目にしているの、やや意外な結果であった。

宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思いかについて、「そう思う」(3.8%, 前年 6.4%)と「ややそう思う」(12.4%, 前年 24.4%)のうち、後者が前年比で大幅に下がってしまった。ただ、その割には、「あまりそう思わない」(31.2%, 前年 35.2%)は下がらなかった。

対自動車や歩行者との関係で自転車が通るあるいは通れる道や道路の整備は、市民からすればまだまだといったところだろうか。あるいは自転車利用者や自動車運転手のマナーの悪さも影響を受けているのだろうか。プロの自転車チームの人気はあっても、このままでは自転車のまちづくりを掲げる宇都宮市は看板に偽りあり、といわれかねない。

自転車走行空間(自転車レーンなど)の整備状況についても市民の受け止め方は厳しい(「あまりそう思わない」36.8%, 「そうは思わない」30.7%)。自動車道との共存は難題なのであろう。果たしてLRTの開通は、こうした積年の課題の解決に向けた後押しになるのであろうか。

2.5. 「もったいない運動」について

「もったいない運動」について、「内容を知っており、実践している」(24.9%)と「内容を知っているが、実践はしていない」(18.5%)を合わせても5割には優に達せず、「知らない」(55.8%)が上回った。市の金看板の施策であるだけに残念である。ただ、実践派が4人に一人というのは、土台がしっかりしてきたというのか、心強い気もする。

そうだとすると「もったいない運動」を知った経緯について、「今回の調査で初めて知った」(49.5%)が最上位となってしまった。それに続いたのが「広報紙」(19.3%)であり、大きな差が付いた。皮肉にもアンケートが広報機能を果たしているのである。

この際、行政は攻めに出て、「もったいない運動の配布物(チラシ、シール、日めくりカレンダー、マイ箸、マイバッグ等)」(認知度12.7%)以外の周知グッズを新たに生み出すために、子ども世代を含む多世代の市民からもっと案を募ったらどうだろうか。

日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「ごみの減量に向けた行動(マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等)」(68.0%)がトップで、「節電・省エネルギー行動(電気をこまめに消す、冷暖房の温度設定、省エネ家電の使用等)」(57.6%)、さらには「食品ロスの削減に向けた行動(食材の10割食べきり、使い切り、賞味・消費期限をこまめにチェックする等)」(45.4%)が続いた。身近に目を凝らせば、できることはたくさんある。今後は、たとえば環境問題に敏感な若者の間で、「ものを大切に作る行動(古本、古着などの再活用等)」(28.9%)などが増えていく可能性もある。

26. 敬老事業について

「長寿」にふさわしい年齢は何歳からかについて、「80歳以上」(34.3%)が最上位で、続いたのが「90歳以上」(23.9%)であった。一昔前では考えられないような年齢に至らないと長寿と認定されない時代となった。そのことはくしくも「70歳以上」(4.6%)と「100歳以上」(4.6%)が同率となった結果からもわかる。70歳を超えても長寿とは見なされず、100歳以上生きなければ長寿ではないと考える市民も若干ではあるが存在する。

市からの敬老祝として望むものは、「金券(商店で使用できる商品券など)」(33.5%)と「現金」(26.9%)が上位であった。使い道は自分で選択できるように考えた回答者が多く、ここに市民の高齢者に対する思いやりの気持ちが見て取れる。

一方で、敬老祝金の贈呈制度のかわりに福祉サービスを充実する考えについて、「賛同できる」(40.9%)と「どちらかといえば、賛同できる」(33.2%)が合わせて74.1%に達した。金銭的価値を長寿祝いのバロメーターとするのではなく、福祉の中身の充実で敬老サービスに対応してほしいというのが、多くの市民の考え方なのであろう。ただどのような形で、財源の確保は重要課題である。

27. GAP(農業生産工程管理)の認知度等について

農産物生産過程において重要と考える取組について、「残留農薬や異物混入等の食品安全の確保に関する取組」(79.7%)、「減農薬や適切な廃棄物処理等の環境保全に関する取組」(51.5%)、「食品安全や環境保全、労働安全等のルール作りやその取組状況の自己点検を行う等の農業経営管理の取組」(40.6%)が上位となった。とくに3番目の選択肢は「農業経営管理」の要諦なのであろうが、キーワードを盛り込み過ぎて回答者にはわかりづらかったのではないかと。それはともかく、多くの市民は農業における食品安全や環境保全を重要視している。

GAPについてはまだまだ認知不足である(「知らない」は59.1%に対して「内容を含め、知っている」は15.2%のみ)。ただ、今後GAPの認知度が高まったとしても、それがそのまま購買意欲に反映されるかという点、「割高になっても購入したい」(14.5%)は、「同程度の価格なら購入したい」(73.9%)に大きく水をあけられた。GAPが浸透するほど、その程度はともかく、どうしても価格を上げざるを得ないのではないかと。GAPには価格の壁が立ちだかっている。

28. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

雨水貯留・浸透施設の補助金制度の認知度は「知っている」(36.0%, 前年28.8%)が確実に上昇している。3割台後半はかなり高いといえる。行政による情報提供の効果が現れたのではないかと。

雨水貯留・浸透施設の設置効果についても「知っている」(40.1%, 前年34.0%)が上がった。線状降水帯による長時間に及ぶ豪雨などの情報に接した市民は多く、「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成」の大切さを強く認識するようになってきている。ただ、依然として6割近く(59.4%)はその設置効果の認識には至っていないことも事実であり、行政は引き続き周知に力を入れてほしい。

一方で、「貯留タンク」や「浸透ます」の設置意向について、「設置したい」(22.8%, 前年18.4%)は前年比で4ポイントほど増加したものの、「設置したくない」(18.0%, 前年13.6%)も同程度増えてしまった。「わからない」(53.3%, 前年60.3%)が減ったので、設置したいかどうかについて回答者の意思がかなり明確に出た結果となった。

仮に「設置したい」となっても、実際の設置につながるかは不透明であろう。「わからない」とした回答者を「設置したい」と思わせるには、地道なPR活動の継続が必要なのであろう。

上記設問で「設置したい」、「既に設置してある」とした回答者にその理由を聞いたところ、「水の節約になるため」(59.6%, 前年 43.7%) が最上位で、前年比でほぼ 16 ポイントも増えた。市民の節約意識の高まりが見て取れる。続いたのが「雨水を庭木の水やりに利用するため」(53.2%, 前年 46.6%) で、これも増加した。

一方で「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」(35.8%, 前年 43.7%) は下がった。傾向として市民は設置による目に見える身近な効果を重視するようになっている。

雨水貯留・浸透施設を設置したくない理由として挙げられた最上位が、「敷地に設置できる場所がないため」(53.5%, 前年 56.4%) と物理的な理由であった。ただ、設置場所の確保については工夫の余地がある可能性もある。

行政には設置スペースとの関係でぜひ妙案を提示してほしい。「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」(40.8%, 前年 47.3%) についても、実際にやってみれば意外と手間はかからないという点や、維持管理の作業上の秘訣など、行政から簡潔明瞭な説明を発信してほしい。

<MEMO>

VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果

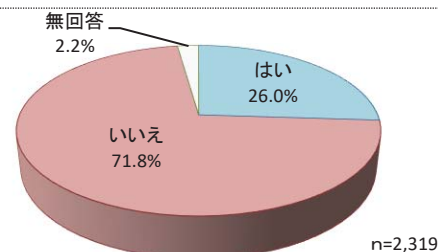
VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果

1. あなたのことについて

(1-1) 子育ての関わりについて

問 1-1-(1) あなたは、現在、小学生まで（12歳以下）のお子さんの子育てに関わりがありますか。 n=2,319

	回答数	構成比
はい	603	26.0%
いいえ	1664	71.8%
無回答	52	2.2%
計	2,319	100.0%

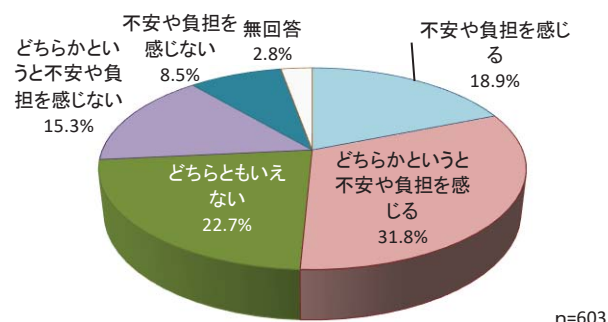


現在、小学生まで（12歳以下）のお子さんの子育てに関わりがあるかについては、「はい」は2割半ば、「いいえ」は7割強であった。

(1-2) 子育てに関しての不安感や負担感を感じるかについて

問 1-1-(2) あなたは、子育てに関して不安感や負担感を感じることがありますか。 n=603

	回答数	構成比
不安や負担を感じる	114	18.9%
どちらかという不安や負担を感じる	192	31.8%
どちらともいえない	137	22.7%
どちらかという不安や負担を感じない	92	15.3%
不安や負担を感じない	51	8.5%
無回答	17	2.8%
計	603	100.0%

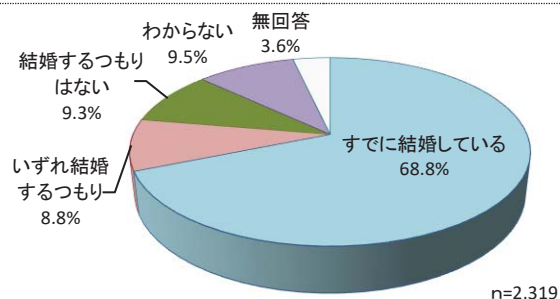


前問で「はい」と答えた人（603人）に、子育てに関して不安感や負担感を感じることがあるか聞いたところ、「どちらかという不安や負担を感じる」が31.8%で最も高く、「不安や負担を感じる」の18.9%を合わせると、不安や負担を感じている人は約5割であった。

(2) 結婚に対する考え方について

問 1-2 あなたの結婚に対するお考えを教えてください。 n=2,319

	回答数	構成比
すでに結婚している	1596	68.8%
いずれ結婚するつもり	205	8.8%
結婚するつもりはない	215	9.3%
わからない	220	9.5%
無回答	83	3.6%
計	2,319	100.0%



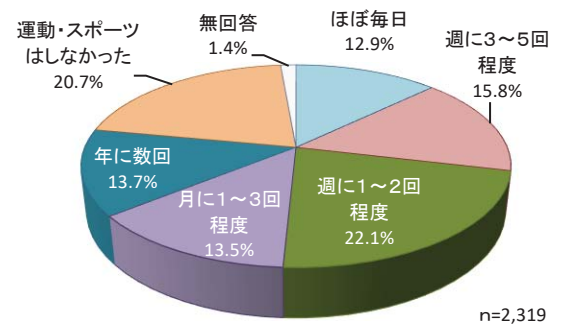
結婚に対する考え方について、「すでに結婚している」が68.8%で最も高く、「いずれ結婚するつもり」の8.8%を合わせると、結婚している・いずれ結婚するつもりという人は8割弱であった。一方、「結婚するつもりはない」は9.3%で約1割であった。

(3) 運動やスポーツの活動状況

問 1-3 あなたは、この1年間に運動やスポーツをどのくらい行いましたか。

n=2,319

	回答数	構成比
ほぼ毎日	299	12.9%
週に3～5回程度	366	15.8%
週に1～2回程度	513	22.1%
月に1～3回程度	312	13.5%
年に数回	318	13.7%
運動・スポーツはしなかった	479	20.7%
無回答	32	1.4%
計	2,319	100.0%



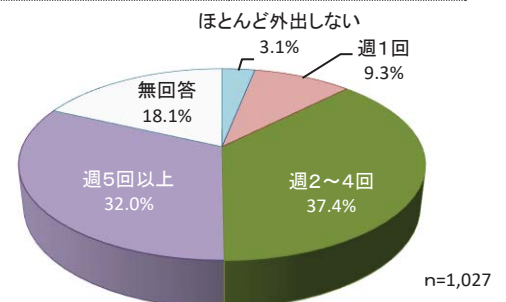
この1年間に運動やスポーツをどのくらい行ったかについては、「週に1～2回程度」が22.1%で最も高く、「ほぼ毎日」、「週に3～5回程度」とあわせると、運動やスポーツを週に1回以上している人は約5割で、運動やスポーツに対する意識は高い傾向にあると思われる。一方、「運動・スポーツはしなかった」は20.7%であった。

(4) 65歳以上の方の外出状況について

問 1-4 65歳以上の方にお伺いします。あなたは週に1回以上外出していますか。

n=1,027

	回答数	構成比
ほとんど外出しない	32	3.1%
週1回	96	9.3%
週2～4回	384	37.4%
週5回以上	329	32.0%
無回答	186	18.1%
計	1,027	100.0%



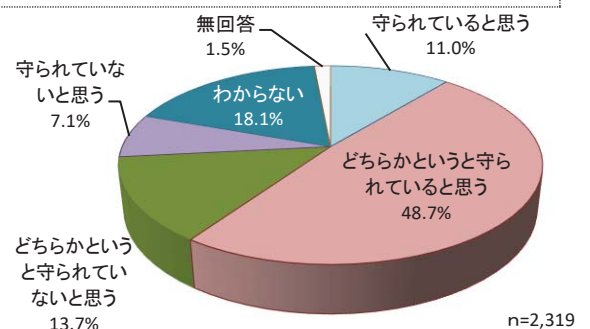
65歳以上の方に、週1回以上外出しているか聞いたところ、「週2～4回」が37.4%で最も高く、「週1回」、「週5回以上」を合わせると、週1回以上外出している人は約8割であった。一方、「ほとんど外出しない」は3.1%で1割弱に満たない結果であった。

(5) 一人一人の権利が守られているかについて

問 1-5 あなたは、子どもから高齢者まで、一人一人の権利が守られていると感じていますか。

n=2,319

	回答数	構成比
守られていると思う	254	11.0%
どちらかというと思われていると思う	1129	48.7%
どちらかというと思われていないと思う	318	13.7%
守られていないと思う	165	7.1%
わからない	419	18.1%
無回答	34	1.5%
計	2,319	100.0%

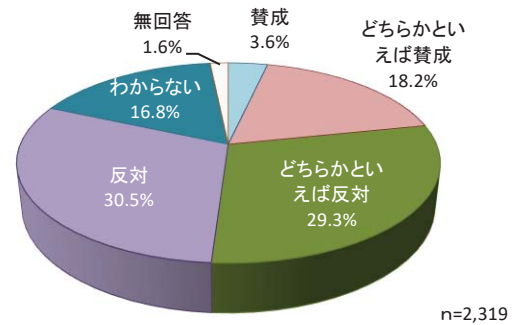


子どもから高齢者まで、一人一人の権利が守られていると感じるかについては、「どちらかというと思われていると思う」の48.7%と「守られていると思う」の11.0%を合わせると約6割であった。

(6-1) 男女共同参画に関する意識について

問 1-6(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。 n=2,319

	回答数	構成比
賛成	83	3.6%
どちらかといえば賛成	422	18.2%
どちらかといえば反対	679	29.3%
反対	707	30.5%
わからない	390	16.8%
無回答	38	1.6%
計	2,319	100.0%

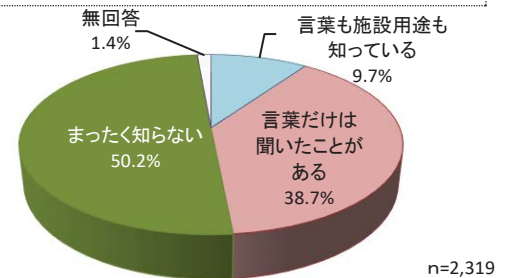


「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、「反対」が 30.5%で最も高く、「どちらかといえば反対」の 29.3%と合わせると約 6 割であった。一方、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせると 2 割強であった。

(6-2) 「宇都宮市配偶者暴力相談支援センター」の認知度について

問 1-6(2) あなたは、「宇都宮市配偶者暴力相談支援センター」を知っていますか。 n=2,319

	回答数	構成比
言葉も施設用途も知っている	226	9.7%
言葉だけは聞いたことがある	898	38.7%
まったく知らない	1163	50.2%
無回答	32	1.4%
計	2,319	100.0%

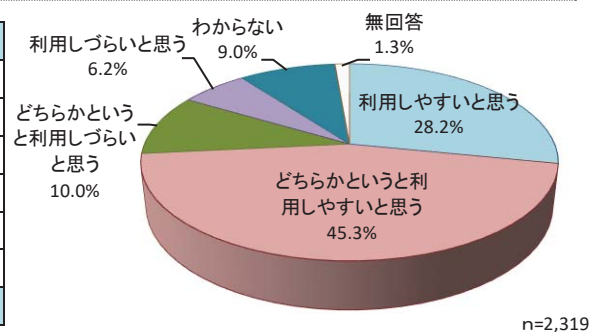


「宇都宮市配偶者暴力相談支援センター」を知っているかについては、「まったく知らない」が 50.2%で知らない人は約 5 割であった。一方、「言葉だけは聞いたことがある」が 38.7%で 2 番目に高い結果で、「言葉も施設用途も知っている」は 9.7%であった。

(7) 地域行政機関を利用しやすいと感じているかについて

問 1-7 あなたは、地区市民センターや出張所などの地域行政機関を利用しやすいと感じていますか。 n=2,319

	回答数	構成比
利用しやすいと思う	653	28.2%
どちらかという util しやすいと思う	1050	45.3%
どちらかという util しやすいと思う	233	10.0%
利用しやすいと思う	144	6.2%
わからない	208	9.0%
無回答	31	1.3%
計	2,319	100.0%



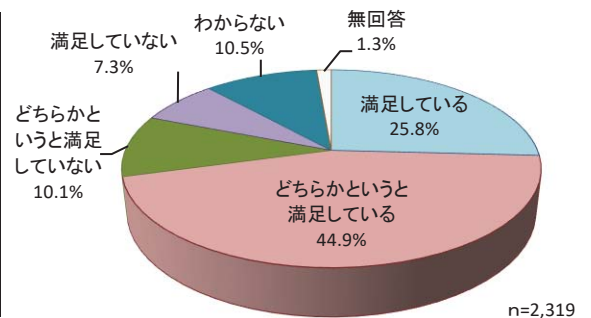
地区市民センターや出張所などの地域行政機関を利用しやすいと感じているかについては、「どちらかという util しやすいと思う」が 45.3%で最も高く、次いで「利用しやすいと思う」が 28.2%であった。これらを合わせた「利用しやすいと思う (計)」は 7 割半ばであった。一方、「利用しやすいと思う」と「どちらかという util しやすいと思う」を合わせると 1 割半ばであった。

(8-1) 上下水道サービスに満足しているかについて

問 1-8(1) あなたは、上下水道サービスに満足していますか。

n=2,319

	回答数	構成比
満足している	599	25.8%
どちらかという満足している	1042	44.9%
どちらかという満足していない	235	10.1%
満足していない	169	7.3%
わからない	243	10.5%
無回答	31	1.3%
計	2,319	100.0%



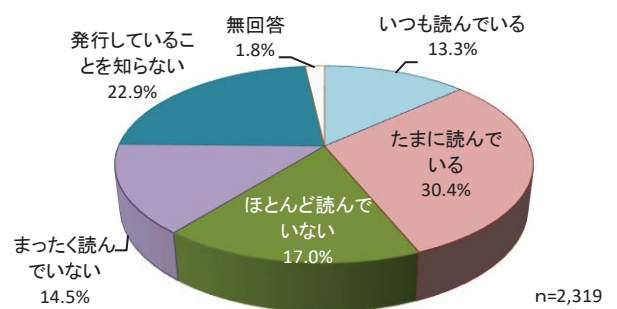
上下水道サービスに満足しているかについては、「どちらかという満足している」が44.9%で最も高く、次いで「満足している」が25.8%であった。これらを合わせた「満足している（計）」は約7割であった。一方、「満足していない」と「どちらかという満足していない」を合わせると2割弱であった。

(8-2) 上下水道局発行の広報紙について

問 1-8(2) あなたは、上下水道局が年に4回（3，6，9，12月）発行している広報紙「私たちのくらしと水」を読んだことがありますか。

n=2,319

	回答数	構成比
いつも読んでいる	309	13.3%
たまに読んでいる	706	30.4%
ほとんど読んでいない	394	17.0%
まったく読んでいない	337	14.5%
発行していることを知らない	532	22.9%
無回答	41	1.8%
計	2,319	100.0%



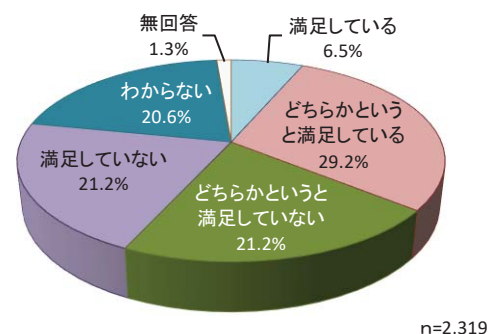
「私たちのくらしと水」を読んだことがあるかについては、「たまに読んでいる」が30.4%で最も高く、次いで「発行していることを知らない」が22.9%であった。

(9) 公共交通の充実に向けた取組について

問 1-9 あなたは、本市の公共交通の充実に向けた取組に満足していますか。

n=2,319

	回答数	構成比
満足している	151	6.5%
どちらかという満足している	677	29.2%
どちらかという満足していない	491	21.2%
満足していない	492	21.2%
わからない	478	20.6%
無回答	30	1.3%
計	2,319	100.0%



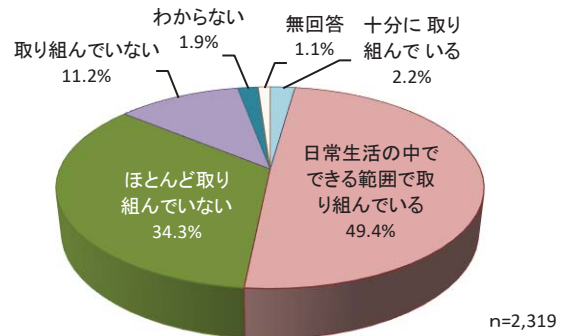
本市の公共交通の充実に向けた取組に満足しているかについては、「どちらかという満足している」が29.2%で最も高く、「満足している」の6.5%を合わせると、「満足している（計）」という人は3割半ばであった。一方、「どちらかという満足していない」と「満足していない」を合わせると4割強であった。

(10-1) 災害への備えにどのように取り組んでいるかについて

問 1-10 あなたは、日常生活において、災害への備えに、どのように取り組んでいますか。

n=2,319

	回答数	構成比
十分に取り組んでいる	52	2.2%
日常生活の中でできる範囲で取り組んでいる	1145	49.4%
ほとんど取り組んでいない	795	34.3%
取り組んでいない	259	11.2%
わからない	43	1.9%
無回答	25	1.1%
計	2,319	100.0%



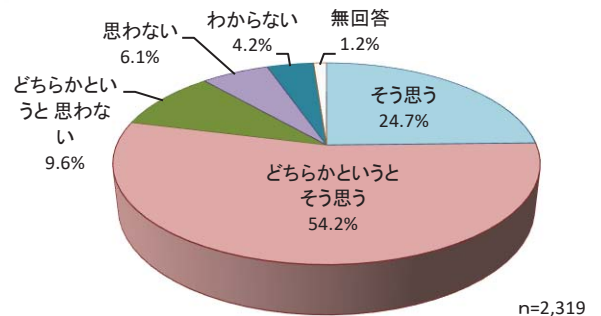
災害への備えにどのように取り組んでいるかについては、「日常生活の中でできる範囲で取り組んでいる」が49.4%で最も高く「十分に取り組んでいる」の2.2%と合わせると、取り組んでいる人は5割強であった。一方、「取り組んでいない」と「ほとんど取り組んでいない」を合わせると4割半ばであった。

(11-1) 宇都宮市に魅力や愛着を感じるかについて

問 1-11 あなたは、宇都宮市に魅力や愛着を感じますか。

n=2,319

	回答数	構成比
そう思う	572	24.7%
どちらかというと思う	1257	54.2%
どちらかというと思わない	223	9.6%
思わない	142	6.1%
わからない	98	4.2%
無回答	27	1.2%
計	2,319	100.0%



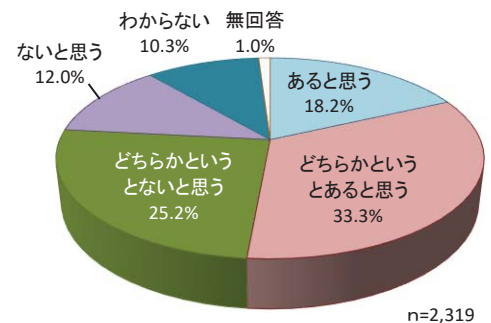
宇都宮市に魅力や愛着を感じるかについては、「どちらかというと思う」が54.2%で最も高く、「そう思う」の24.7%と合わせると約8割であった。一方、「思わない」と「どちらかというと思わない」を合わせると1割半ばであった。

(12) 宇都宮市の伝統や文化に自慢できるものがあると感じるかについて

問 1-12 あなたは、宇都宮市の伝統や文化に自慢できるものがあると感じていますか。

n=2,319

	回答数	構成比
あると思う	421	18.2%
どちらかというと思う	772	33.3%
どちらかというと思わない	585	25.2%
ないと思う	279	12.0%
わからない	238	10.3%
無回答	24	1.0%
計	2,319	100.0%



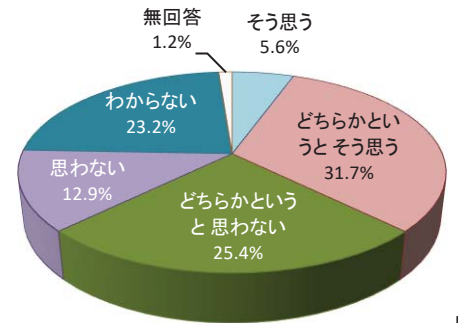
宇都宮市の伝統や文化に自慢できるものがあると感じるかについて「どちらかというと思う」が33.3%で最も高く、「あると思う」の18.2%と合わせると5割強であった。一方、「ないと思う」と「どちらかというと思わない」を合わせると4割弱であった。

(13) 健全な自治体経営が行われていると思うかについて

問 1-13 あなたは、宇都宮市では将来にわたって発展できる健全な自治体経営が行われていると思いますか。

n=2,319

	回答数	構成比
そう思う	129	5.6%
どちらかというと思う	736	31.7%
どちらかというと思わない	590	25.4%
思わない	298	12.9%
わからない	538	23.2%
無回答	28	1.2%
計	2,319	100.0%



n=2,319

健全な自治体経営が行われていると思うかについて「どちらかというと思う」が31.7%で最も高く、「そう思う」の5.6%と合わせると4割弱であった。一方、「思わない」と「どちらかというと思わない」を合わせると4割弱であった。

2. 現在の宇都宮市について

問2

宇都宮市がまちづくりとして実施している各種取組について、お聞きします。
あなたは、下記の取組の、「重要度」と「満足度」をどのように感じていますか。（1つに○）

(1) 宇都宮市が実施している取組（24基本施策 85施策）の重要度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

(%)

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	重要度
1. 全ての子供・若者を健やかに育成する	児童福祉・青少年育成に関する分野	72.3
	子ども・若者の健全育成環境の充実	77.6
	子どもを守り育てる支援の充実	80.2
	結婚の希望をかなえる支援の拡充	63.4
	安心して妊娠・出産できる環境の充実	78.7
	子育て支援の充実	77.6
2. 確かな自信と志を育む学校教育を推進する	学校教育に関する分野	66.4
	成長の基盤となる知・徳・体の育成	78.4
	未来を生き抜く力の育成	79.0
	地域とともにある学校づくりの推進	68.4
	教育環境の充実	75.8
	多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	80.5
	教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	79.0
	幼児教育の推進	73.7
3. 生涯にわたる学習活動を促進する	高校、高等教育の充実・支援	76.1
	生涯学習に関する分野	55.7
	自己を磨き社会を支える学習の推進	70.8
	学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	72.9
4. 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する	学んだ成果を生かした活動の推進	65.2
	スポーツ振興に関する分野	62.6
	ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	62.3
	スポーツ活動環境の充実	64.8
	スポーツを支える人材の育成、団体の活性化	66.5

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

(%)

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	重要度
5. 健康づくりと地域医療を充実する	保健・医療サービスに関する分野	77.1
	健康づくりの推進	84.4
	地域医療体制の充実	84.4
6. 高齢期の生活を充実する	高齢者福祉に関する分野	74.6
	支え合いによる高齢者の日常生活の充実	81.0
	高齢者の生きがいづくりの推進	80.7
	地域包括ケアシステムの構築・推進	82.4
7. 障がいのある人の生活を充実する	障がい者福祉に関する分野	66.4
	障がい者の社会的自立の促進	74.3
	障がい者の地域生活支援の充実	74.6
8. 身近な地域の福祉力を高める	都市の福祉基盤に関する分野	66.0
	福祉のこころをはぐくむ人づくりの推進	79.1
	安心して暮らせる福祉基盤の充実	79.1
	共に支え合う地域社会づくりの推進	77.6

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	重要度
9. 危機への備え・対応力を高める	危機管理・防災対策に関する分野	75.6
	危機に対する体制・都市基盤の強化	83.3
	総合的な治水・雨水対策の推進	84.3
	消防・救急体制の充実	87.3
10. 日常生活の安心感を高める	日常生活の安全・安心に関する分野	72.3
	防犯対策の充実	87.6
	交通安全対策の充実	88.0
	消費生活の向上	83.8
	食品の安全性の向上	86.1
11. 市民が主役のまちづくりを推進する	生活衛生環境の向上	80.1
	市民主役のまちづくりに関する分野	63.8
	協働によるまちづくりの推進	68.0
	地域主体のまちづくりの促進	72.3
	市民の市政への参画促進	70.0
12. 相互理解の促進による共生社会を形成する	市民の相互理解と共生に関する分野	57.6
	かけがえのない個人の尊重	78.0
	男女共同参画の推進	75.1
	多文化共生の推進	70.1

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	重要度
13. 都市ブランドの確立と更なる魅力を創出する	地域資源の活用・創出に関する分野	60.4
	都市ブランド戦略の推進	59.0
	移住・定住の促進	57.7
	都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ	60.6
	観光地・大谷の地域活性化の推進	61.9
14. 個性豊かな観光と交流を創出する	観光や交流創出に関する分野	53.1
	戦略的観光の推進	59.6
	おもてなしの充実	63.5
15. 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する	文化振興に関する分野	52.1
	文化活動の充実	66.1
	文化の創造・継承、保存・活用	59.4

⑤政策の柱Ⅴ：「産業・環境」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	重要度
16. 地域産業の創造性・発展性を高める	地域産業に関する分野	62.5
	地域特性を活かした産業集積の促進	66.7
	新規開業・新事業創出の促進	60.6
	就労・雇用対策の充実	73.8
17. 商工・サービス業の活力を高める	商業・サービス業・工業に関する分野	61.7
	魅力ある商業の振興	74.6
	安定した経営基盤の確立	65.0
	中小企業の経営・技術革新の促進	66.7
18. 農林業の生産性・販売力・地域力を高める	流通機能の充実	72.0
	農林業に関する分野	59.5
	農林業を支える担い手の確保・育成	69.6
	農林業経営を支える生産体制の強化	66.4
	生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化	67.5
19. 環境への負荷を低減する	環境と調和した農林業の推進	67.0
	環境にやさしい社会に関する分野	65.0
	環境保全行動の推進	72.9
	地球温暖化対策の推進	76.4
	ごみの発生抑制、資源の循環利用の推進	86.3
	廃棄物の適正処理の推進	86.6
良好な生活環境の確保	84.5	
生物多様性の保全	74.4	

⑥政策の柱Ⅵ：「都市空間・交通」

(%)

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	重要度
20. 暮らしやすく魅力ある都市空間を作成する	都市空間形成に関する分野	64.7
	地域特性に応じた土地利用の推進	65.5
	地域特性を生かした魅力ある拠点の形成	63.5
	地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成	74.1
	空き家・空き地対策の推進	79.7
	都市景観の保全・創出	72.3
21. 快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出する	住環境・自然環境に関する分野	67.5
	安心で快適な住まいづくりの促進	67.5
	水と緑の保全・創出	80.4
22. 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築する	交通に関する分野	66.2
	公共交通ネットワークの充実	65.6
	道路ネットワークの充実	75.1
	自転車利用環境の充実	65.6
23. 質の高い上下水道サービスを提供する	上下水道に関する分野	74.1
	安定した上下水道事業の推進	88.3
	顧客に信頼される経営の推進	72.0

■各施策の柱を支える行政経営基盤

(%)

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	重要度
24. 強固な行政経営基盤を確立する	行政経営に関する分野	56.2
	効果的で効率的な行政経営システムの確立	64.7
	地区行政の推進	70.6
	行政の組織力の向上	69.6
	財政基盤の確立	67.3
	情報化の推進	71.4

(2) 宇都宮市が実施している取組 (24 基本施策 85 施策) の現在の満足度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
1. 全ての子供・若者を健やかに育成する	児童福祉・青少年育成に関する分野	39.0
	子ども・若者の健全育成環境の充実	29.4
	子どもを守り育てる支援の充実	29.0
	結婚の希望をかなえる支援の拡充	20.0
	安心して妊娠・出産できる環境の充実	30.8
	子育て支援の充実	30.5
2. 確かな自信と志を育む学校教育を推進する	学校教育に関する分野	29.2
	成長の基盤となる知・徳・体の育成	31.9
	未来を生き抜く力の育成	21.8
	地域とともにある学校づくりの推進	26.3
	教育環境の充実	30.3
	多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	21.6
	教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	18.4
	幼児教育の推進	26.8
	高校、高等教育の充実・支援	22.3
3. 生涯にわたる学習活動を促進する	生涯学習に関する分野	16.9
	自己を磨き社会を支える学習の推進	23.9
	学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	25.5
	学んだ成果を生かした活動の推進	17.4
4. 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する	スポーツ振興に関する分野	29.0
	ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	26.8
	スポーツ活動環境の充実	27.9
	スポーツを支える人材の育成、団体の活性化	26.0

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
5. 健康づくりと地域医療を充実する	保健・医療サービスに関する分野	38.2
	健康づくりの推進	36.9
	地域医療体制の充実	34.1
6. 高齢期の生活を充実する	高齢者福祉に関する分野	24.0
	支え合いによる高齢者の日常生活の充実	26.0
	高齢者の生きがいづくりの推進	26.8
	地域包括ケアシステムの構築・推進	25.9
7. 障がいのある人の生活を充実する	障がい者福祉に関する分野	15.3
	障がい者の社会的自立の促進	17.9
	障がい者の地域生活支援の充実	16.2
8. 身近な地域の福祉力を高める	都市の福祉基盤に関する分野	19.0
	福祉のこころをはぐくむ人づくりの推進	18.7
	安心して暮らせる福祉基盤の充実	20.9
	共に支え合う地域社会づくりの推進	20.1

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
9. 危機への備え・対応力を高める	危機管理・防災対策に関する分野	33.8
	危機に対する体制・都市基盤の強化	35.3
	総合的な治水・雨水対策の推進	35.1
	消防・救急体制の充実	50.3
10. 日常生活の安心感を高める	日常生活の安全・安心に関する分野	43.3
	防犯対策の充実	44.3
	交通安全対策の充実	36.8
	消費生活の向上	39.6
	食品の安全性の向上	46.1
11. 市民が主役のまちづくりを推進する	生活衛生環境の向上	41.8
	市民主役のまちづくりに関する分野	28.8
	協働によるまちづくりの推進	34.3
	地域主体のまちづくりの促進	37.8
12. 相互理解の促進による共生社会を形成する	市民の市政への参画促進	28.5
	市民の相互理解と共生に関する分野	26.3
	かけがえのない個人の尊重	33.3
	男女共同参画の推進	30.5
	多文化共生の推進	32.0

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
13. 都市ブランドの確立と更なる魅力を創出する	地域資源の活用・創出に関する分野	25.7
	都市ブランド戦略の推進	22.4
	移住・定住の促進	24.2
	都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ	34.2
	観光地・大谷の地域活性化の推進	41.1
14. 個性豊かな観光と交流を創出する	観光や交流創出に関する分野	19.3
	戦略的観光の推進	20.5
	おもてなしの充実	22.0
15. 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する	文化振興に関する分野	21.8
	文化活動の充実	31.8
	文化の創造・継承、保存・活用	24.5

⑤政策の柱Ⅴ：「産業・環境」

(%)

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
16. 地域産業の創造性・発展性を高める	地域産業に関する分野	24.9
	地域特性を活かした産業集積の促進	26.7
	新規開業・新事業創出の促進	18.8
	就労・雇用対策の充実	23.6
17. 商工・サービス業の活力を高める	商業・サービス業・工業に関する分野	22.5
	魅力ある商業の振興	15.9
	安定した経営基盤の確立	18.3
	中小企業の経営・技術革新の促進	17.2
18. 農林業の生産性・販売力・地域力を高める	流通機能の充実	32.8
	農林業に関する分野	20.9
	農林業を支える担い手の確保・育成	17.2
	農林業経営を支える生産体制の強化	18.0
	生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化	21.4
19. 環境への負荷を低減する	環境と調和した農林業の推進	14.5
	環境にやさしい社会に関する分野	31.7
	環境保全行動の推進	35.8
	地球温暖化対策の推進	31.2
	ごみの発生抑制、資源の循環利用の推進	50.2
	廃棄物の適正処理の推進	42.9
	良好な生活環境の確保	39.4
	生物多様性の保全	33.2

⑥政策の柱Ⅵ：「都市空間・交通」

(%)

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	満足度
20. 暮らしやすく魅力ある都市空間を作成する	都市空間形成に関する分野	29.2
	地域特性に応じた土地利用の推進	25.9
	地域特性を生かした魅力ある拠点の形成	33.0
	地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成	31.3
	空き家・空き地対策の推進	17.0
	都市景観の保全・創出	35.1
21. 快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出する	住環境・自然環境に関する分野	32.5
	安心して快適な住まいづくりの促進	29.5
	水と緑の保全・創出	40.8
22. 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築する	交通に関する分野	17.0
	公共交通ネットワークの充実	25.9
	道路ネットワークの充実	28.3
	自転車利用環境の充実	20.9
23. 質の高い上下水道サービスを提供する	上下水道に関する分野	55.8
	安定した上下水道事業の推進	64.2
	顧客に信頼される経営の推進	36.6

■各施策の柱を支える行政経営基盤

(%)

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	満足度
24. 強固な行政経営基盤を確立する	行政経営に関する分野	16.9
	効果的で効率的な行政経営システムの確立	19.5
	地区行政の推進	28.4
	行政の組織力の向上	21.8
	財政基盤の確立	16.6
	情報化の推進	36.9

3. 各施策についての重要度

(1) 宇都宮市が実施している取組（24 基本施策 85 施策）の重要度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

①-1 全ての子ども・若者を健やかに育成する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
児童福祉・青少年育成に関する分野	380	56.8	15.5	1.3	1.1	10.3	15.0
子ども・若者の健全育成環境の充実	380	57.9	19.7	1.1	1.1	14.5	5.8
子どもを守り育てる支援の充実	380	63.4	16.8	0.8	1.3	12.4	5.3
結婚の希望をかなえる支援の拡充	380	36.8	26.6	10.5	2.6	18.9	4.5
安心して妊娠・出産できる環境の充実	380	65.0	13.7	1.1	0.8	14.2	5.3
子育て支援の充実	380	60.8	16.8	1.6	1.3	13.4	6.1

全ての子ども・若者を健やかに育成するについて、【重要】と【やや重要】を合わせた【重要(計)】(以下【重要(計)】とする)は「子どもを守り育てる支援の充実」と「安心して妊娠・出産できる環境の充実」がいずれも約8割であった。

①-2 確かな自信と志を育む学校教育を推進する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
学校教育に関する分野	380	55.3	11.1	0.8	0.8	14.7	17.4
成長の基盤となる知・徳・体の育成	380	63.9	14.5	1.1	1.3	13.9	5.3
未来を生き抜く力の育成	380	60.3	18.7	2.1	0.8	13.4	4.7
地域とともにある学校づくりの推進	380	41.8	26.6	7.9	0.8	15.5	7.4
教育環境の充実	380	55.0	20.8	3.7	1.1	13.7	5.8
多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	380	61.8	18.7	0.5	0.5	11.6	6.8
教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	380	63.7	15.3	1.1	0.8	12.4	6.8
幼児教育の推進	380	53.2	20.5	3.2	0.5	16.1	6.6
高校、高等教育の充実・支援	380	53.7	22.4	3.2	1.1	13.2	6.6

確かな自信と志を育む学校教育を推進するについて、【重要(計)】は「未来を生き抜く力の育成」と「多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進」と「教職員の資質・能力と学校の組織力の向上」がいずれも約8割であった。

①-3 生涯にわたる学習活動を促進する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
生涯学習に関する分野	380	31.8	23.9	6.3	1.1	15.8	21.1
自己を磨き社会を支える学習の推進	380	42.4	28.4	6.3	1.1	16.1	5.8
学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	380	47.9	25.0	3.9	1.3	15.8	6.1
学んだ成果を生かした活動の推進	380	34.7	30.5	6.8	1.1	21.3	5.5

生涯にわたる学習活動を促進するについて、【重要(計)】は「学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実」が7割強と最も高く、次いで「自己を磨き社会を支える学習の推進」が約7割であった。

①-4 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
スポーツ振興に関する分野	358	28.8	33.8	11.5	2.0	15.6	8.4
ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	358	24.0	38.3	9.2	2.8	19.8	5.9
スポーツ活動環境の充実	358	26.8	38.0	8.7	3.1	18.7	4.7
スポーツを支える人材の育成, 団体の活性化	358	28.8	37.7	6.7	2.5	19.6	4.7

誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現するについて、【重要(計)】は「スポーツを支える人材の育成, 団体の活性化」が7割弱と最も高く、次いで「スポーツ活動環境の充実」が6割半ばであった。

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

②-5 健康づくりと地域医療を充実する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
保健・医療サービスに関する分野	358	55.3	21.8	1.4	0.0	8.7	12.8
健康づくりの推進	358	58.1	26.3	0.8	0.0	9.8	5.0
地域医療体制の充実	358	66.2	18.2	0.6	0.3	9.5	5.3

健康づくりと地域医療を充実するについて、【重要(計)】は「健康づくりの推進」と「地域医療体制の充実」がいずれも8割半ばであった。

②-6 高齢期の生活を充実する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
高齢者福祉に関する分野	358	52.0	22.6	1.7	0.6	13.7	9.5
支え合いによる高齢者の日常生活の充実	358	57.0	24.0	1.7	0.3	12.3	4.7
高齢者の生きがいがづくりの推進	358	56.1	24.6	3.9	0.3	11.2	3.9
地域包括ケアシステムの構築・推進	358	60.1	22.3	2.0	0.0	11.5	4.2

高齢期の生活を充実するについて、【重要(計)】は「地域包括ケアシステムの構築・推進」が8割強と最も高く、次いで「支え合いによる高齢者の日常生活の充実」と「高齢者の生きがいがづくりの推進」がいずれも約8割であった。

②-7 障がいのある人の生活を充実する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
障がい者福祉に関する分野	358	49.4	17.0	2.0	0.3	22.3	8.9
障がい者の社会的自立の促進	358	54.5	19.8	2.0	0.0	19.3	4.5
障がい者の地域生活支援の充実	358	53.9	20.7	1.4	0.3	19.3	4.5

障がいのある人の生活を充実するについて、【重要(計)】は「障がい者の社会的自立の促進」と「障がい者の地域生活支援の充実」がいずれも7割半ばであった。

②-8 身近な地域の福祉力を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
都市の福祉基盤に関する分野	358	45.3	20.7	2.8	0.3	18.4	12.6
福祉のこころをはぐくむ人づくりの推進	358	51.7	27.4	2.0	0.0	14.8	4.2
安心して暮らせる福祉基盤の充実	358	58.7	20.4	2.0	0.3	14.0	4.7
共に支え合う地域社会づくりの推進	358	50.8	26.8	3.6	0.3	14.0	4.5

身近な地域の福祉力を高めるについて、【重要(計)】は「福祉のこころをはぐくむ人づくりの推進」と「安心して暮らせる福祉基盤の充実」がいずれも約8割で最も高く、次いで「共に支え合う地域社会づくりの推進」が8割弱であった。

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

③-9 危機への備え・対応力を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
危機管理・防災対策に関する分野	400	54.8	20.8	1.5	1.0	8.8	13.3
危機に対する体制・都市基盤の強化	400	63.0	20.3	1.8	0.5	8.8	5.8
総合的な治水・雨水対策の推進	400	66.5	17.8	2.5	0.5	7.3	5.5
消防・救急体制の充実	400	69.3	18.0	1.3	0.5	5.5	5.5

危機への備え・対応力を高めるについて、【重要(計)】は「消防・救急体制の充実」が9割弱と最も高く、次いで「総合的な治水・雨水対策の推進」が8割半ばであった。

③-10 日常生活の安心感を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
日常生活の安全・安心に関する分野	400	50.5	21.8	1.0	0.8	5.5	20.5
防犯対策の充実	400	60.3	27.3	2.0	0.3	4.0	6.3
交通安全対策の充実	400	62.0	26.0	2.0	0.5	4.8	4.8
消費生活の向上	400	50.5	33.3	3.5	0.8	6.8	5.3
食品の安全性の向上	400	57.8	28.3	2.8	0.5	6.0	4.8
生活衛生環境の向上	400	45.3	34.8	7.5	1.0	6.8	4.8

日常生活の安心感を高めるについて、【重要(計)】は「防犯対策の充実」と「交通安全対策の充実」がいずれも9割弱であった。

③-11 市民が主役のまちづくりを推進する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
市民主役のまちづくりに関する分野	400	30.3	33.5	7.0	1.3	10.3	17.8
協働によるまちづくりの推進	400	26.5	41.5	9.8	3.0	13.3	6.0
地域主体のまちづくりの促進	400	30.8	41.5	8.8	3.0	10.5	5.5
市民の市政への参画促進	400	30.0	40.0	7.8	2.0	14.5	5.8

市民が主役のまちづくりを推進するについて、【重要(計)】は「地域主体のまちづくりの促進」が7割強で最も高く、次いで「市民の市政への参画促進」が約7割であった。

③-12 相互理解の促進による共生社会を形成する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
市民の相互理解と共生に関する分野	400	26.3	31.3	5.5	1.0	16.5	19.5
かけがえのない個人の尊重	400	51.5	26.5	4.3	1.8	11.0	5.0
男女共同参画の推進	400	44.3	30.8	6.5	2.0	11.8	4.8
多文化共生の推進	400	33.8	36.3	9.3	1.5	14.0	5.3

相互理解の促進による共生社会を形成するについて、【重要(計)】は「かけがえのない個人の尊重」が8割弱で最も高く、次いで「男女共同参画の推進」が7割半ばであった。

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

④-13 都市ブランドの確立と更なる魅力を創出する (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域資源の活用・創出に関する分野	409	29.1	31.3	10.8	2.9	12.5	13.4
都市ブランド戦略の推進	409	28.9	30.1	12.7	2.7	18.3	7.3
移住・定住の促進	409	20.5	37.2	13.4	2.2	20.3	6.4
都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ	409	27.1	33.5	11.7	2.9	17.8	6.8
観光地・大谷の地域活性化の推進	409	27.9	34.0	15.9	3.7	13.0	5.6

都市ブランドの確立と更なる魅力を創出するについて、【重要(計)】は「観光地・大谷の地域活性化の推進」が6割強で最も高く、次いで「都市ブランド戦略の推進」と「都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ」がいずれも約6割であった。

④-14 個性豊かな観光と交流を創出する (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
観光や交流創出に関する分野	409	24.2	28.9	12.5	1.5	16.4	16.6
戦略的観光の推進	409	29.3	30.3	9.8	3.2	22.0	5.4
おもてなしの充実	409	27.1	36.4	9.8	2.0	19.1	5.6

個性豊かな観光と交流を創出するについて、【重要(計)】は「おもてなしの充実」が6割半ばで最も高く、次いで「戦略的観光の推進」が約6割であった。

④-15 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
文化振興に関する分野	409	22.0	30.1	10.5	2.4	19.6	15.4
文化活動の充実	409	28.4	37.7	8.6	1.7	17.6	6.1
文化の創造・継承、保存・活用	409	25.7	33.7	12.7	3.2	19.3	5.4

暮らしに息づく文化の創造・活用を推進するについて、【重要(計)】は「文化活動の充実」が6割半ばで最も高く、次いで「文化の創造・継承、保存・活用」が約6割であった。

⑤政策の柱V：「産業・環境」

⑤-16 地域産業の創造性・発展性を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域産業に関する分野	378	37.6	24.9	4.0	0.3	20.4	13.0
地域特性を活かした産業集積の促進	378	37.6	29.1	4.2	1.3	22.2	5.6
新規開業・新事業創出の促進	378	34.1	26.5	7.4	2.9	23.5	5.6
就労・雇用対策の充実	378	50.8	23.0	2.9	0.8	16.1	6.3

地域産業の創造性・発展性を高めるについて、【重要(計)】は「就労・雇用対策の充実」が7割半ばで最も高く、次いで「地域特性を活かした産業集積の促進」が7割弱であった。

⑤-17 商工・サービス業の活力を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
商業・サービス業・工業に関する分野	378	37.6	24.1	2.1	1.9	16.4	18.0
魅力ある商業の振興	378	52.6	22.0	4.0	1.3	14.6	5.6
安定した経営基盤の確立	378	40.7	24.3	4.5	1.9	23.3	5.3
中小企業の経営・技術革新の促進	378	42.1	24.6	4.0	1.9	22.0	5.6
流通機能の充実	378	46.6	25.4	4.5	1.1	16.7	5.8

商工・サービス業の活力を高めるについて、【重要(計)】は「魅力ある商業の振興」が7割半ばと最も高く、次いで「流通機能の充実」が7割強であった。

⑤-18 農林業の生産力・販売力・地域力を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
農林業に関する分野	378	38.1	21.4	3.2	1.1	21.4	14.8
農林業を支える担い手の確保・育成	378	50.0	19.6	4.2	0.8	19.3	6.1
農林業経営を支える生産体制の強化	378	46.0	20.4	5.3	1.1	20.9	6.3
生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化	378	44.7	22.8	3.2	1.1	22.2	6.1
環境と調和した農林業の推進	378	45.0	22.0	4.0	1.1	22.0	6.1

農林業の生産力・販売力・地域力を高めるについて、【重要(計)】は「農林業を支える担い手の確保・育成」が約7割で最も高く、次いで「生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化」と「環境と調和した農林業の推進」がいずれも7割弱であった。

⑤-19 環境への負荷を低減する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
環境にやさしい社会に関する分野	394	34.5	30.5	3.0	0.3	15.7	16.0
環境保全行動の推進	394	35.8	37.1	7.6	1.3	13.5	4.8
地球温暖化対策の推進	394	48.2	28.2	4.1	3.8	10.9	4.8
ごみの発生抑制，資源の循環利用の推進	394	56.6	29.7	2.5	0.5	6.6	4.1
廃棄物の適正処理の推進	394	58.9	27.7	1.0	0.0	7.4	5.1
良好な生活環境の確保	394	59.9	24.6	1.0	0.3	10.2	4.1
生物多様性の保全	394	39.6	34.8	5.6	0.3	15.0	4.8

環境への負荷を低減するについて、【重要(計)】は「廃棄物の適正処理の推進」が9割弱と最も高く、次いで「ごみの発生抑制，資源の循環利用の推進」と「良好な生活環境の確保」がいずれも8割半ばであった。

⑥政策の柱Ⅵ：「都市空間・交通」

⑥-20 暮らしやすく魅力のある都市空間を形成する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
都市空間形成に関する分野	394	39.3	25.4	5.6	1.0	12.7	16.0
地域特性に応じた土地利用の推進	394	33.8	31.7	6.6	1.0	21.3	5.6
地域特性を生かした魅力ある拠点の形成	394	33.8	29.7	12.9	3.6	15.7	4.3
地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成	394	38.3	35.8	5.6	1.0	14.5	4.8
空き家・空き地対策の推進	394	48.0	31.7	5.3	0.5	10.2	4.3
都市景観の保全・創出	394	33.5	38.8	9.1	1.8	12.2	4.6

暮らしやすく魅力のある都市空間を形成するについて、【重要(計)】は「空き家・空き地対策の推進」が約8割で最も高く、次いで「地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成」が7割半ばであった。

⑥-21 快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
住環境・自然環境に関する分野	394	34.5	33.0	3.8	0.5	11.9	16.2
安心して快適な住まいづくりの促進	394	32.0	35.5	9.9	1.0	17.3	4.3
水と緑の保全・創出	394	42.6	37.8	3.8	0.8	10.9	4.1

快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出するについて、【重要(計)】は「水と緑の保全・創出」が約8割で、「安心して快適な住まいづくりの促進」が7割弱であった。

⑥-22 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
交通に関する分野	378	47.4	18.8	5.8	1.6	7.7	18.8
公共交通ネットワークの充実	378	42.1	23.5	12.7	10.3	5.8	5.6
道路ネットワークの充実	378	47.9	27.2	7.7	3.7	8.7	4.8
自転車利用環境の充実	378	33.3	32.3	11.9	7.7	10.1	4.8

誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築するについて、【重要(計)】は「道路ネットワークの充実」が7割半ばと最も高く、次いで「公共交通ネットワークの充実」と「自転車利用環境の充実」がいずれも6割半ばであった。

⑥-23 質の高い上下水道サービスを提供する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
上下水道に関する分野	394	54.8	19.3	1.8	0.3	7.1	16.8
安定した上下水道事業の推進	394	67.5	20.8	0.5	0.3	6.1	4.8
顧客に信頼される経営の推進	394	43.1	28.9	5.6	0.5	17.3	4.6

質の高い上下水道サービスを提供するについて、【重要(計)】は「安定した上下水道事業の推進」が9割弱で、「顧客に信頼される経営の推進」が7割強であった。

■各政策の柱を支える行政経営基盤

24 強固な行政経営基盤を確立する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
行政経営に関する分野	409	35.9	20.3	4.2	1.2	22.5	15.9
効果的で効率的な行政経営システムの確立	409	40.3	24.4	3.4	0.7	25.2	5.9
地区行政の推進	409	40.8	29.8	2.9	0.7	20.0	5.6
行政の組織力の向上	409	40.3	29.3	5.1	0.5	19.1	5.6
財政基盤の確立	409	48.2	19.1	2.9	0.2	24.2	5.4
情報化の推進	409	44.5	26.9	7.3	1.5	14.4	5.4

強固な行政経営基盤を確立するについて、【重要(計)】は「地区行政の推進」と「行政の組織力の向上」と「情報化の推進」がいずれも約7割で最も高く、次いで「財政基盤の確立」が7割弱であった。

4. 各施策についての満足度

(1) 宇都宮市が実施している取組（24 基本施策 85 施策）の満足度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

①-1 全ての子ども・若者を健やかに育成する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
児童福祉・青少年育成に関する分野	380	5.3	33.7	14.5	3.2	27.4	16.1
子ども・若者の健全育成環境の充実	380	3.9	25.5	15.3	3.9	44.5	6.8
子どもを守り育てる支援の充実	380	4.5	24.5	15.3	5.3	44.2	6.3
結婚の希望をかなえる支援の拡充	380	2.4	17.6	12.4	6.6	54.5	6.6
安心して妊娠・出産できる環境の充実	380	7.4	23.4	12.6	5.3	44.5	6.8
子育て支援の充実	380	7.1	23.4	13.2	6.8	43.4	6.1

全ての子ども・若者を健やかに育成するについて、【満足】と【やや満足】を合わせた【満足(計)】(以下【満足(計)】とする)は「子ども・若者の健全育成環境の充実」と「子どもを守り育てる支援の充実」と「安心して妊娠・出産できる環境の充実」と「子育て支援の充実」がいずれも約3割で最も高く、次いで「結婚の希望をかなえる支援の拡充」が約2割であった。

①-2 確かな自信と志を育む学校教育を推進する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
学校教育に関する分野	380	4.5	24.7	12.1	6.1	34.7	17.9
成長の基盤となる知・徳・体の育成	380	5.3	26.6	15.3	4.5	42.6	5.8
未来を生き抜く力の育成	380	3.4	18.4	18.7	7.6	46.1	5.8
地域とともにある学校づくりの推進	380	4.5	21.8	12.4	5.3	48.7	7.4
教育環境の充実	380	5.0	25.3	15.5	5.3	41.1	7.9
多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	380	3.7	17.9	13.7	8.7	49.2	6.8
教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	380	3.9	14.5	15.0	12.9	46.8	6.8
幼児教育の推進	380	6.3	20.5	12.1	5.3	48.7	7.1
高校、高等教育の充実・支援	380	4.7	17.6	12.4	7.1	51.3	6.8

確かな自信と志を育む学校教育を推進するについて、【満足(計)】は「成長の基盤となる知・徳・体の育成」が3割強で最も高く、次いで「教育環境の充実」が約3割であった。

①-3 生涯にわたる学習活動を促進する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
生涯学習に関する分野	380	3.2	13.7	10.5	5.3	44.7	22.6
自己を磨き社会を支える学習の推進	380	3.9	20.0	13.4	4.5	51.6	6.6
学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	380	4.2	21.3	12.6	5.3	50.3	6.3
学んだ成果を生かした活動の推進	380	2.1	15.3	12.1	4.5	60.0	6.1

生涯にわたる学習活動を促進するについて、【満足(計)】は「自己を磨き社会を支える学習の推進」と「学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実」がいずれも2割半ばと最も高く、次いで「学んだ成果を生かした活動の推進」が2割弱であった。

①-4 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
スポーツ振興に関する分野	358	5.3	23.7	20.1	6.4	34.1	10.3
ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	358	3.9	22.9	19.8	5.9	40.5	7.0
スポーツ活動環境の充実	358	5.6	22.3	20.1	6.7	39.4	5.9
スポーツを支える人材の育成、団体の活性化	358	4.2	21.8	17.3	7.8	43.0	5.9

誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現するについて、【満足(計)】は「ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進」と「スポーツ活動環境の充実」がいずれも3割弱と最も高く、次いで「スポーツを支える人材の育成、団体の活性化」が2割半ばであった。

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

②-5 健康づくりと地域医療を充実する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
保健・医療サービスに関する分野	358	7.5	30.7	19.8	7.8	20.7	13.4
健康づくりの推進	358	5.9	31.0	20.1	7.3	29.9	5.9
地域医療体制の充実	358	5.3	28.8	19.8	8.1	31.3	6.7

健康づくりと地域医療を充実するについて、【満足(計)】は「健康づくりの推進」が4割弱で、「地域医療体制の充実」が3割半ばであった。

②-6 高齢期の生活を充実する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
高齢者福祉に関する分野	358	4.2	19.8	20.1	8.9	36.9	10.1
支え合いによる高齢者の日常生活の充実	358	3.9	22.1	20.4	7.0	41.6	5.0
高齢者の生きがいがづくりの推進	358	5.6	21.2	19.8	5.3	43.3	4.7
地域包括ケアシステムの構築・推進	358	4.7	21.2	18.2	8.4	42.5	5.0

高齢期の生活を充実するについて、【満足(計)】は「高齢者の生きがいがづくりの推進」が3割弱と最も高く、次いで「支え合いによる高齢者の日常生活の充実」と「地域包括ケアシステムの構築・推進」がいずれも2割半ばであった。

②-7 障がいのある人の生活を充実する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
障がい者福祉に関する分野	358	3.6	11.7	15.9	4.2	54.5	10.1
障がい者の社会的自立の促進	358	2.8	15.1	14.8	6.4	56.1	4.7
障がい者の地域生活支援の充実	358	2.5	13.7	14.5	5.6	58.4	5.3

障がいのある人の生活を充実するについて、【満足(計)】は「障がい者の社会的自立の促進」が2割弱と最も高く、次いで「障がい者の地域生活支援の充実」が1割半ばであった。

②-8 身近な地域の福祉力を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
都市の福祉基盤に関する分野	358	3.6	15.4	17.0	4.7	45.3	14.0
福祉のこころをはぐくむ人づくりの推進	358	3.9	14.8	17.6	7.0	51.7	5.0
安心して暮らせる福祉基盤の充実	358	4.7	16.2	18.2	7.5	48.6	4.7
共に支え合う地域社会づくりの推進	358	4.5	15.6	17.3	5.9	52.0	4.7

身近な地域の福祉力を高めるについて、【満足(計)】はいずれも約2割であった。

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

③-9 危機への備え・対応力を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
危機管理・防災対策に関する分野	400	4.8	29.0	22.0	5.5	24.5	14.3
危機に対する体制・都市基盤の強化	400	5.0	30.3	23.8	5.0	29.8	6.3
総合的な治水・雨水対策の推進	400	6.8	28.3	28.8	6.0	24.3	6.0
消防・救急体制の充実	400	13.5	36.8	14.0	2.5	27.8	5.5

危機への備え・対応力を高めるについて、【満足(計)】は「消防・救急体制の充実」が約5割で最も高く、次いで「危機に対する体制・都市基盤の強化」と「総合的な治水・雨水対策の推進」がいずれも3割半ばであった。

③-10 日常生活の安心感を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
日常生活の安全・安心に関する分野	400	6.8	36.5	16.0	2.8	15.5	22.5
防犯対策の充実	400	6.8	37.5	25.0	5.8	19.3	5.8
交通安全対策の充実	400	6.8	30.0	31.3	13.8	13.5	4.8
消費生活の向上	400	5.3	34.3	19.3	4.8	31.8	4.8
食品の安全性の向上	400	9.8	36.3	17.0	2.5	29.5	5.0
生活衛生環境の向上	400	7.5	34.3	18.5	7.5	27.3	5.0

日常生活の安心感を高めるについて、【満足(計)】は「防犯対策の充実」と「食品の安全性の向上」がいずれも4割半ばで最も高く、次いで「生活衛生環境の向上」が4割強であった。

③-11 市民が主役のまちづくりを推進する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
市民主役のまちづくりに関する分野	400	4.5	24.3	14.0	6.8	30.0	20.5
協働によるまちづくりの推進	400	5.3	29.0	16.0	5.0	37.8	7.0
地域主体のまちづくりの促進	400	7.0	30.8	19.8	6.0	31.0	5.5
市民の市政への参画促進	400	4.5	24.0	19.5	9.5	36.8	5.8

市民が主役のまちづくりを推進するについて、【満足(計)】は「地域主体のまちづくりの促進」が4割弱で最も高く、次いで「協働によるまちづくりの推進」が3割半ばであった。

③-12 相互理解の促進による共生社会を形成する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
市民の相互理解と共生に関する分野	400	4.3	22.0	13.0	6.8	30.5	23.5
かけがえのない個人の尊重	400	7.3	26.0	17.3	4.5	39.5	5.5
男女共同参画の推進	400	6.5	24.0	20.8	7.0	36.3	5.5
多文化共生の推進	400	6.0	26.0	16.8	3.3	42.8	5.3

相互理解の促進による共生社会を形成するについて、【満足(計)】は「かけがえのない個人の尊重」と「多文化共生の推進」がいずれも3割強で最も高く、次いで「男女共同参画の推進」が約3割であった。

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

④-13 都市ブランドの確立と更なる魅力を創出する (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域資源の活用・創出に関する分野	409	2.7	23.0	27.9	11.7	19.3	15.4
都市ブランド戦略の推進	409	2.4	20.0	28.1	12.5	28.9	8.1
移住・定住の促進	409	2.9	21.3	19.1	7.8	41.8	7.1
都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ	409	3.4	30.8	18.3	11.0	29.3	7.1
観光地・大谷の地域活性化の推進	409	7.1	34.0	17.6	7.8	26.7	6.8

都市ブランドの確立と更なる魅力を創出するについて、【満足(計)】は「観光地・大谷の地域活性化の推進」が約4割で最も高く、次いで「都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ」が3割半ばであった。

④-14 個性豊かな観光と交流を創出する (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
観光や交流創出に関する分野	409	2.7	16.6	25.7	13.0	25.2	16.9
戦略的観光の推進	409	2.9	17.6	24.2	14.4	34.2	6.6
おもてなしの充実	409	2.7	19.3	24.2	12.0	35.2	6.6

個性豊かな観光と交流を創出するについて、【満足(計)】は「おもてなしの充実」が2割強で最も高く、次いで「戦略的観光の推進」が約2割であった。

④-15 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
文化振興に関する分野	409	2.2	19.6	20.5	9.8	31.5	16.4
文化活動の充実	409	4.4	27.4	19.6	9.5	31.8	7.3
文化の創造・継承、保存・活用	409	3.2	21.3	20.5	10.3	38.1	6.6

暮らしに息づく文化の創造・活用を推進するについて、【満足(計)】は「文化活動の充実」が3割強で、「文化の創造・継承、保存・活用」が2割半ばであった。

⑤政策の柱V：「産業・環境」

⑤-16 地域産業の創造性・発展性を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域産業に関する分野	378	1.9	23.0	21.7	7.9	32.0	13.5
地域特性を活かした産業集積の促進	378	2.4	24.3	20.9	7.4	38.9	6.1
新規開業・新事業創出の促進	378	1.9	16.9	23.0	7.9	44.2	6.1
就労・雇用対策の充実	378	2.4	21.2	24.9	13.8	32.3	5.6

地域産業の創造性・発展性を高めるについて、【満足(計)】は「地域特性を活かした産業集積の促進」が3割弱で最も高く、次いで「就労・雇用対策の充実」が2割半ばであった。

⑤-17 商工・サービス業の活力を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
商業・サービス業・工業に関する分野	378	2.1	20.4	23.3	8.2	27.5	18.5
魅力ある商業の振興	378	2.1	13.8	29.9	22.2	26.2	5.8
安定した経営基盤の確立	378	1.1	17.2	22.2	7.4	46.3	5.8
中小企業の経営・技術革新の促進	378	1.3	15.9	21.4	8.5	46.6	6.3
流通機能の充実	378	3.7	29.1	18.0	6.3	37.6	5.3

商工・サービス業の活力を高めるについて、【満足(計)】は「流通機能の充実」が3割強で最も高く、次いで「安定した経営基盤の確立」が2割弱であった。

⑤-18 農林業の生産力・販売力・地域力を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
農林業に関する分野	378	2.9	18.0	20.1	4.5	37.6	16.9
農林業を支える担い手の確保・育成	378	2.6	14.6	22.5	9.3	44.4	6.6
農林業経営を支える生産体制の強化	378	3.4	14.6	16.9	7.4	50.5	7.1
生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化	378	2.9	18.5	16.9	5.0	49.5	7.1
環境と調和した農林業の推進	378	2.1	12.4	18.8	9.3	49.7	7.7

農林業の生産力・販売力・地域力を高めるについて、【満足(計)】は「生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化」が約2割で最も高く、次いで「農林業を支える担い手の確保・育成」と「農林業経営を支える生産体制の強化」が2割弱であった。

⑤-19 環境への負荷を低減する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
環境にやさしい社会に関する分野	394	3.3	28.4	18.3	5.1	27.7	17.3
環境保全行動の推進	394	5.1	30.7	17.0	5.1	36.5	5.6
地球温暖化対策の推進	394	4.6	26.6	23.6	14.7	24.4	6.1
ごみの発生抑制，資源の循環利用の推進	394	10.4	39.8	18.0	6.3	19.5	5.8
廃棄物の適正処理の推進	394	9.1	33.8	20.8	9.9	20.6	5.8
良好な生活環境の確保	394	5.6	33.8	17.0	5.8	32.0	5.8
生物多様性の保全	394	4.3	28.9	15.7	5.3	39.8	5.8

環境への負荷を低減するについて、【満足(計)】は「ごみの発生抑制，資源の循環利用の推進」が約5割で最も高く，次いで「廃棄物の適正処理の推進」が4割強であった。

⑥政策の柱VI：「都市空間・交通」

⑥-20 暮らしやすく魅力のある都市空間を形成する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
都市空間形成に関する分野	394	4.8	24.4	20.3	12.7	20.6	17.3
地域特性に応じた土地利用の推進	394	3.3	22.6	19.8	9.4	39.1	5.8
地域特性を生かした魅力ある拠点の形成	394	4.1	28.9	20.3	9.9	31.2	5.6
地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成	394	4.1	27.2	21.6	10.9	30.2	6.1
空き家・空き地対策の推進	394	2.3	14.7	28.9	20.6	28.2	5.3
都市景観の保全・創出	394	4.6	30.5	20.8	7.1	31.5	5.6

暮らしやすく魅力のある都市空間を形成するについて、【満足(計)】は「都市景観の保全・創出」が3割半ばで最も高く，次いで「地域特性を生かした魅力ある拠点の形成」が3割強であった。

⑥-21 快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
住環境・自然環境に関する分野	394	5.1	27.4	18.8	6.1	24.4	18.3
安心して快適な住まいづくりの促進	394	4.1	25.4	18.0	4.8	42.1	5.6
水と緑の保全・創出	394	6.3	34.5	19.0	5.3	29.4	5.3

快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出するについて、【満足(計)】は「水と緑の保全・創出」が約4割で、「安心して快適な住まいづくりの促進」が約3割であった。

⑥-22 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
交通に関する分野	378	2.4	14.6	24.6	28.3	10.6	19.6
公共交通ネットワークの充実	378	2.4	23.5	25.1	34.1	9.8	5.0
道路ネットワークの充実	378	3.4	24.9	27.2	20.4	18.5	5.6
自転車利用環境の充実	378	4.8	16.1	27.5	22.0	24.9	4.8

誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築するについて、【満足(計)】は「道路ネットワークの充実」が3割弱で最も高く、次いで「公共交通ネットワークの充実」が2割半ばであった。

⑥-23 質の高い上下水道サービスを提供する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
上下水道に関する分野	394	19.3	36.5	10.4	5.3	11.2	17.3
安定した上下水道事業の推進	394	18.0	46.2	10.9	4.6	15.7	4.6
顧客に信頼される経営の推進	394	7.4	29.2	15.2	3.8	40.1	4.3

質の高い上下水道サービスを提供するについて、【満足(計)】は「安定した上下水道事業の推進」が6割半ばで、「顧客に信頼される経営の推進」が4割弱であった。

■各政策の柱を支える行政経営基盤

24 強固な行政経営基盤を確立する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
行政経営に関する分野	409	2.7	14.2	19.1	15.2	32.0	16.9
効果的で効率的な行政経営システムの確立	409	3.4	16.1	17.8	16.4	39.4	6.8
地区行政の推進	409	3.7	24.7	20.8	12.0	32.0	6.8
行政の組織力の向上	409	3.2	18.6	22.7	12.7	36.4	6.4
財政基盤の確立	409	2.9	13.7	20.0	14.4	42.3	6.6
情報化の推進	409	7.8	29.1	18.6	11.5	26.4	6.6

強固な行政経営基盤を確立するについて、【満足(計)】は「情報化の推進」が4割弱で最も高く、次いで「地区行政の推進」が3割弱であった。

市政に関する世論調査報告書

—第54回 令和3年度—

発行日／令和3年12月

発行／宇都宮市総合政策部広報広聴課

〒320-8540（宇都宮市役所専用番号）

宇都宮市旭1丁目1番5号

電話 028-632-2025